

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第640集

ま ぎ ど
間木戸Ⅱ遺跡・間木戸V遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

間木戸Ⅱ遺跡・間木戸V遺跡発掘調査報告書

2015

2015

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第640集

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

間木戸Ⅱ遺跡・間木戸V遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、この地に住み生きてきた人々の痕跡であり、県民のみならず、国民的な遺産であることから、将来にわたって保存され、広く理解と活用がなされることが望れます。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団は、埋蔵文化財センター設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その記録を残し保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設事業に関連して平成25年度に発掘調査された山田町間木戸Ⅱ遺跡・間木戸V遺跡の調査成果をまとめたものです。間木戸Ⅱ遺跡では、縄文時代前期から中期の竪穴建物跡が密集して見つかったことや、多量に出土した同時期の遺物から当時の集落の一端が判明いたしました。また、7世紀末から8世紀初頭の竪穴建物跡からは、まとまった資料が出土しており該期資料を比較検討するうえで欠くことのできない一括資料を提示することができました。そして、間木戸V遺跡では、製鉄関連遺構が見つかり、本県沿岸部の製鉄史に関連する調査成果が得られました。

調査によって見つかった地域の宝は、東日本大震災で被災された山田町の皆さんによって発掘されたものです。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究など未来に希望を感じる拠り所として役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、調査を委託された国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、ご助言を賜りました山田町教育委員会、ならびに調査にご協力いただいた山田地区の方々をはじめとする関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成27年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例　　言

- 1 本書は岩手県下閉伊郡山田町に所在する間木戸II遺跡および間木戸V遺跡の発掘調査を記録した報告書である。
- 2 本遺跡の発掘調査は、三陸沿岸道路建設事業に伴い、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。本調査は、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の協議を経て、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受けた公益財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った。
- 3 岩手県遺跡台帳における各遺跡の遺跡コード・調査略号は以下のとおりである。
【間木戸II遺跡】 LG94-0007・MGDII-13
【間木戸V遺跡】 LG84-2098・MGDV-13
- 4 各遺跡の野外調査実施期間・調査面積・室内整理期間、各担当者は以下のとおりである。
【間木戸II遺跡】
〔野外調査〕 平成25年4月9日～同7月31日／1,510m²／佐藤あゆみ・佐藤剛・北村忠昭・阿部勝則
〔室内整理〕 平成25年6月17日～12月13日／金子昭彦 平成25年12月16日～平成26年3月28日／佐藤あゆみ・佐藤剛・金子昭彦・阿部勝則
【間木戸V遺跡】
〔野外調査〕 平成25年4月9日～同6月30日／1,200m²／北村忠昭・佐藤あゆみ・佐藤剛
〔室内整理〕 平成25年12月16日～平成26年3月28日／佐藤あゆみ・佐藤剛・北村忠昭
- 5 本文の執筆は、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所…Ⅰ「調査に至る経過」、金子昭彦…繩文～弥生土器、佐藤剛…土師器・須恵器、佐藤あゆみ…その他遺物・間木戸II遺跡、北村忠昭…間木戸V遺跡といったように主分担した。文責は文末に（ ）で示している。
- 6 本書中の平面座標値には、平面直角座標第X系（世界測地系）を用いた。
- 7 基準点測量は平成25年4月に実施し、これを元に設定した区画杭を調査時に使用した。
- 8 基準点測量業務は釜石測量設計株式会社に委託した。
- 9 空中写真撮影は、東邦航空株式会社に委託した。
- 10 石器図化業務の一部（剥片石器実測図作成）は株式会社ラングに委託した。
- 11 各種試料の分析・鑑定等は下記の機関・個人に委託した。
花崗岩研究会（石質鑑定）、株式会社加速器分析研究所（放射性炭素年代測定）、株式会社パリノ・サーヴェイ（黒曜石産地同定）、JFEテクノリサーチ株式会社（鉄滓等分析）、齊藤慶史氏（動物遺存体同定）。
- 12 野外調査では下記の機関・個人の協力を得た。（敬称略）
岩手県教育委員会生涯学習文化課、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、山田町教育委員会生涯学習課、宮古市教育委員会、釜石市教育委員会、公益財團法人北海道埋蔵文化財センター、齊藤慶史（青森県教育庁文化財保護課）。
- 13 これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、発掘調査概報などで公表しているが、本書と記載事項が異なる場合はすべて本書が優先する。
- 14 調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

| | |
|---------------|----|
| I 調査に至る経過 | 1 |
| II 遺跡の立地と環境 | 1 |
| 1 遺跡の位置とその環境 | 1 |
| 2 遺跡周辺の地形 | 2 |
| 3 周辺の遺跡 | 4 |
| III 野外調査と室内整理 | 7 |
| 1 野外調査 | 7 |
| (1) グリッド設定 | 7 |
| (2) 試掘・表土除去 | 7 |
| (3) 遺構検出・精査 | 7 |
| (4) 実測 | 8 |
| (5) 写真撮影 | 8 |
| 2 室内調査 | 9 |
| (1) 作業手順 | 9 |
| (2) 遺構 | 9 |
| (3) 遺物 | 9 |
| 3 凡例 | 9 |
| (1) 遺構 | 9 |
| (2) 遺物 | 10 |
| (3) 凡例図 | 10 |
| IV 間木戸Ⅱ遺跡の調査 | 11 |
| 1 概要 | 11 |
| (1) 遺構数・遺物数 | 11 |
| (2) 遺構名稱 | 11 |
| (3) 層序 | 11 |
| 2 遺構 | 15 |
| (1) 壁穴建物跡 | 15 |
| (2) 土坑 | 57 |
| (3) 焼土・炉跡 | 60 |
| (4) 集石遺構 | 65 |
| (5) 柱穴 | 70 |
| (6) 沢跡 | 70 |

| | |
|---------------|-----|
| 3 遺 物 | 73 |
| (1) 繩文～弥生土器 | 73 |
| (2) 土師器・須恵器 | 138 |
| (3) 土 製 品 | 140 |
| (4) 石 器・石 製 品 | 140 |
| (5) 鉄 製 品 | 160 |
| (6) 鉄 淚 類 | 160 |
| (7) 銭 貨 | 160 |
| (8) 動物遺存体 | 160 |
| V 間木戸V遺跡の調査 | 175 |
| 1 概 要 | 175 |
| (1) 遺構数・遺物数 | 175 |
| (2) 遺構名 称 | 175 |
| (3) 層 序 | 175 |
| 2 遺 構 | 177 |
| (1) 堅穴建物跡 | 177 |
| (2) 土 坑 | 179 |
| (3) 焼土遺構 | 183 |
| (4) 埋設土器 | 183 |
| (5) 工 房 跡 | 183 |
| (6) 炭置き場跡 | 190 |
| (7) 廃 淚 場 | 191 |
| (8) 不 明 遺 構 | 194 |
| (9) 柱 穴 | 194 |
| (10) 包 含 層 | 194 |
| 3 遺 物 | 197 |
| (1) 繩文～弥生土器 | 197 |
| (2) 土師器・須恵器 | 197 |
| (3) 土 製 品 | 198 |
| (4) 石 器 | 198 |
| (5) 鉄 製 品 | 204 |
| (6) 羽 口 | 204 |
| (7) 炉 壁 | 204 |
| (8) 鉄 淌 類 | 205 |

| | |
|------------------------------------|-----|
| VII 分析・鑑定 | 218 |
| 1 間木戸V遺跡、間木戸II遺跡における放射性炭素年代(AMS測定) | 218 |
| 2 間木戸II・V遺跡出土黒曜石の産地同定 | 224 |
| 3 間木戸II・V遺跡出土鉄滓類の成分分析 | 229 |
| 4 間木戸II遺跡出土動物遺存体の同定 | 301 |
| VIII 総括 | 304 |
| 1 繩文時代 | 304 |
| 2 古代 | 306 |
| (1) 土師器 | 306 |
| (2) 鉄製品 | 307 |
| (3) 堪穴建物跡について(26号堪穴建物跡を中心に) | 310 |
| (4) 製鉄関連遺構群について | 312 |
| 3 近隣遺跡の中における間木戸II・V遺跡 | 314 |
| 報告書抄録 | 433 |

表 目 次

| | | | |
|---------------------|-----|-----------------------|-----|
| 第1表 周辺遺跡一覧 | 6 | 第12表 新旧遺構名対応表 | 176 |
| 間木戸II遺跡 | | 第13表 繩文～弥生土器観察表 | 199 |
| 第2表 新旧遺構名対応表 | 14 | 第14表 鉄滓出土量一覧(1)(2) | 210 |
| 第3表 繩文～弥生土器観察表 | 74 | 第15表 土師器観察表 | 214 |
| 第4表 堪穴建物跡別繩文土器出土一覧表 | 162 | 第16表 土製品観察表 | 216 |
| 第5表 土師器・須恵器観察表 | 162 | 第17表 石器観察表 | 216 |
| 第6表 土製品観察表 | 163 | 第18表 鉄製品観察表 | 217 |
| 第7表 石器観察表 | 163 | 第19表 羽口観察表 | 217 |
| 第8表 石製品観察表 | 172 | 第20表 炉壁観察表 | 217 |
| 表9表 鉄製品観察表 | 172 | 総括 | |
| 第10表 銭貨観察表 | 172 | 第21表 繩文時代堪穴建物跡一覧表 | 305 |
| 第11表 鉄滓出土一覧表 | 173 | 第22表 古代の製鉄関連遺構検出遺跡一覧表 | 313 |
| 間木戸V遺跡 | | | |

図版目次

| | | | |
|---------------------|----|------------------------|----|
| 第1図 遺跡位置図・調査区と周辺の地形 | 2 | 間木戸II遺跡 | |
| 第2図 地形区分図 | 3 | 第6図 間木戸II遺跡調査区全体図・基本層序 | 12 |
| 第3図 周辺の遺跡 | 5 | 第7図 遺構配置図・北 | 13 |
| 第4図 グリッド配置図 | 8 | 第8図 遺構配置図・中央 | 13 |
| 第5図 凡例 | 10 | 第9図 遺構配置図・南 | 14 |

| | | | | | |
|------|----------------------|----|------------|-------------------|-----|
| 第10図 | 1号堅穴建物跡 | 15 | 第48図 | 7～9号焼土遺構 | 68 |
| 第11図 | 2号堅穴建物跡 | 16 | 第49図 | 11号焼土遺構、1号集石遺構 | 69 |
| 第12図 | 3号堅穴建物跡(1) | 17 | 第50図 | 柱穴 | 71 |
| 第13図 | 3号堅穴建物跡(2) | 18 | 第51図 | 沢跡 | 72 |
| 第14図 | 4号堅穴建物跡(1) | 21 | 第52図～116図 | 縄文～弥生土器(1)～(65) | 74 |
| 第15図 | 4号堅穴建物跡(2) | 22 | 第117図～120図 | 土師器、須恵器(1)～(4) | 141 |
| 第16図 | 5号堅穴建物跡 | 23 | 第121図 | 土師器、須恵器(5)、土製品 | 145 |
| 第17図 | 6号堅穴建物跡 | 24 | 第122図～132図 | 石器(1)～(11) | 149 |
| 第18図 | 7号堅穴建物跡 | 25 | 第133図 | 石製品、鉄製品、銭貨 | 161 |
| 第19図 | 8号堅穴建物跡 | 27 | | | |
| 第20図 | 9号堅穴建物跡 | 28 | | | |
| 第21図 | 10号堅穴建物跡 | 30 | | | |
| 第22図 | 11号堅穴建物跡(1) | 31 | 間木戸V遺跡 | | |
| 第23図 | 11号堅穴建物跡(2) | 33 | 第134図 | 間木戸V遺跡調査区全体図・基本層序 | 176 |
| 第24図 | 12号堅穴建物跡 | 34 | 第135図 | 1・2号堅穴建物跡 | 178 |
| 第25図 | 13号堅穴建物跡・14号堅穴建物跡(1) | 35 | 第136図 | 3号堅穴建物跡(1) | 180 |
| 第26図 | 14号堅穴建物跡(2) | 37 | 第137図 | 3号堅穴建物跡(2) | 181 |
| 第27図 | 15号堅穴建物跡 | 38 | 第138図 | 1～4号土坑 | 184 |
| 第28図 | 16号堅穴建物跡 | 39 | 第139図 | 5号土坑、1～3号焼土遺構 | 185 |
| 第29図 | 17号堅穴建物跡 | 41 | 第140図 | 4号焼土遺構、1号埋設土器 | 186 |
| 第30図 | 18号堅穴建物跡 | 42 | 第141図 | 1号工房跡(1) | 188 |
| 第31図 | 19号堅穴建物跡・20号堅穴建物跡 | 43 | 第142図 | 1号工房跡(2) | 189 |
| 第32図 | 21号堅穴建物跡 | 45 | 第143図 | 2号工房跡 | 192 |
| 第33図 | 22号堅穴建物跡・23号堅穴建物跡 | 46 | 第144図 | 1号不明遺構(1) | 193 |
| 第34図 | 24号堅穴建物跡 | 47 | 第145図 | 1号不明遺構(2)、柱穴 | 193 |
| 第35図 | 25号堅穴建物跡 | 48 | 第146図 | 1・2号炭置き場跡 | 195 |
| 第36図 | 26号堅穴建物跡(1) | 50 | 第147図 | 魔洋場・包含層 | 196 |
| 第37図 | 26号堅穴建物跡(2) | 51 | 第148図 | 縄文～弥生土器(1) | 199 |
| 第38図 | 27号堅穴建物跡 | 52 | 第149図 | 縄文～弥生土器(2) | 200 |
| 第39図 | 28号堅穴建物跡 | 53 | 第150図 | 土師器(1) | 201 |
| 第40図 | 29号堅穴建物跡 | 55 | 第151図 | 土師器(2) | 202 |
| 第41図 | 30号堅穴建物跡(1) | 56 | 第152図 | 土師器(3) | 203 |
| 第42図 | 30号堅穴建物跡(2) | 57 | 第153図 | 石器 | 206 |
| 第43図 | 1～7号土坑 | 62 | 第154図 | 土製品、鉄製品、羽口、炉壁 | 207 |
| 第44図 | 8～10・12・13号土坑 | 63 | 総括 | | |
| 第45図 | 11号土坑 | 64 | 第155図 | 土師器 | 308 |
| 第46図 | 1～4号焼土遺構 | 66 | 第156図 | 沢田II遺跡出土錫杖・鉄製品 | 309 |
| 第47図 | 5・6・10号焼土遺構 | 67 | 第157図 | 鐵礎基礎分類図 | 310 |
| | | | 第158図 | 26号堅穴建物跡出土遺物一覧 | 311 |
| | | | 第159図 | 遺構の分布範囲 | 316 |

写真図版目次

間木戸II遺跡（遺構）

| | | | | | |
|--------|------------------|-----|-------------|--------------------------------|-----|
| 写真図版1 | 航空写真 | 319 | 写真図版38 | 1号～4号焼土遺構 | 356 |
| 写真図版2 | 調査区全景・基本層序 | 320 | 写真図版39 | 5号～7号b焼土遺構 | 357 |
| 写真図版3 | 1号堅穴建物跡・28号堅穴建物跡 | 321 | 写真図版40 | 7号c～9号焼土遺構 | 358 |
| 写真図版4 | 2号堅穴建物跡 | 322 | 写真図版41 | 10号・11号焼土遺構 | 359 |
| 写真図版5 | 3号堅穴建物跡（1） | 323 | 写真図版42 | 1号集石遺構、沢跡 | 360 |
| 写真図版6 | 3号堅穴建物跡（2） | 324 | | | |
| 写真図版7 | 4号堅穴建物跡（1） | 325 | 間木戸V遺跡（遺構） | | |
| 写真図版8 | 4号堅穴建物跡（2） | 326 | 写真図版43 | 調査区全景・基本層序 | 361 |
| 写真図版9 | 5号堅穴建物跡 | 327 | 写真図版44 | 1号堅穴建物跡 | 362 |
| 写真図版10 | 6号堅穴建物跡 | 328 | 写真図版45 | 2号堅穴建物跡、1号焼土遺構 | 363 |
| 写真図版11 | 7号堅穴建物跡 | 329 | 写真図版46 | 3号堅穴建物跡（1） | 364 |
| 写真図版12 | 8号堅穴建物跡 | 330 | 写真図版47 | 3号堅穴建物跡（2）、 1号・2号土坑 | 365 |
| 写真図版13 | 9号堅穴建物跡 | 331 | 写真図版48 | 3号～5号土坑、2号焼土遺構 | 366 |
| 写真図版14 | 10号堅穴建物跡 | 332 | 写真図版49 | 3号・4号焼土遺構、1号埋設土器、 1号庵津塙、包含層 | 367 |
| 写真図版15 | 11号堅穴建物跡 | 333 | 写真図版50 | 1号工房跡（1） | 368 |
| 写真図版16 | 12号堅穴建物跡 | 334 | 写真図版51 | 1号工房跡（2） | 369 |
| 写真図版17 | 13号堅穴建物跡 | 335 | 写真図版52 | 2号工房跡（1） | 370 |
| 写真図版18 | 14号堅穴建物跡 | 336 | 写真図版53 | 2号工房跡（2）、1号炭置き場跡 | 371 |
| 写真図版19 | 15号堅穴建物跡 | 337 | 写真図版54 | 2号炭置き場跡、1号不明遺構 | 372 |
| 写真図版20 | 16号堅穴建物跡 | 338 | | | |
| 写真図版21 | 17号堅穴建物跡 | 339 | 間木戸II遺跡（遺物） | | |
| 写真図版22 | 18号堅穴建物跡 | 340 | 写真図版55～95 | 縄文～弥生土器（1）～（41） | 373 |
| 写真図版23 | 19号堅穴建物跡 | 341 | 写真図版96 | 縄文～弥生土器（42）、 土師器・須恵器（1） | 414 |
| 写真図版24 | 20号堅穴建物跡 | 342 | 写真図版97～100 | 土師器・須恵器（2）～（5） | 415 |
| 写真図版25 | 21号堅穴建物跡 | 343 | 写真図版101 | 土製品、石製品、鉄製品、錢貨 | 419 |
| 写真図版26 | 22号堅穴建物跡 | 344 | 写真図版102～108 | 石器（1）～（7） | 420 |
| 写真図版27 | 23号堅穴建物跡 | 345 | | | |
| 写真図版28 | 24号堅穴建物跡 | 346 | 間木戸V遺跡（遺物） | | |
| 写真図版29 | 25号堅穴建物跡 | 347 | 写真図版109 | 縄文土器 | 427 |
| 写真図版30 | 26号堅穴建物跡（1） | 348 | 写真図版110 | 土師器（1） | 428 |
| 写真図版31 | 26号堅穴建物跡（2） | 349 | 写真図版111 | 土師器（2） | 429 |
| 写真図版32 | 27号堅穴建物跡 | 350 | 写真図版112 | 石器 | 430 |
| 写真図版33 | 29号堅穴建物跡 | 351 | 写真図版113 | 土製品、石製品、鐵製品、羽口（1） | 431 |
| 写真図版34 | 30号堅穴建物跡 | 352 | 写真図版114 | 羽口（2）、炉壁 | 432 |
| 写真図版35 | 1号～4号土坑 | 353 | | | |
| 写真図版36 | 5号～8号土坑 | 354 | | | |
| 写真図版37 | 9号～12号土坑 | 355 | | | |

I 調査に至る経過

間木戸Ⅱ・V遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（山田～宮古南）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成24年11月9日付け国東整陸一調第1005号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年1月8日～9日にわたり試掘調査を行い、平成25年2月18日付け教生第1619号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成25年4月1日付けで公益財團法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所）

II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置とその環境（第1図）

間木戸Ⅱ遺跡・間木戸V遺跡は、岩手県の沿岸部、岩手県下閉伊郡山田町山田に所在する。山田町は、三陸海岸のほぼ中央に位置し、山田湾と船越湾を有する。遺跡が位置する山田町山田地区は、カキ・ホタテなどの養殖が盛んな山田湾に面しており、湾に注ぐ閑川周辺は、宅地や農地として利用されている。また、閑川河口付近は東日本大震災による大津波で甚大なる被害を受けた地域でもあり、河口からおよそ1km離れたJR山田線は平成26年現在復旧の目処が立っていない状況である。両遺跡は、山田町役場から北へ1.5kmの山林にある。周辺には現在、仮設住宅が建ち並ぶ。緯度・経度は、間木戸Ⅱ遺跡で緯度39度28分57.936秒・経度141度57分13.052秒、間木戸V遺跡は緯度39度29分04.977秒・経度141度57分16.670秒付近である。

調査前は両遺跡とも山林で、栗園もしくは「椎茸のはだ木」の伏せ込み作業場となっていたが、間木戸Ⅱ遺跡では、植生された杉の根が調査区を埋め尽くしている状況であった。また、遺跡北側には間木戸一里塚が所在し、西側は町道によって削平されていた。

町道は、江戸時代に主要道路として使用されていた部分であり、これに付随する間木戸一里塚は、寛永20年（1643）に、宮古大槌間で完成した9対の一里塚のひとつである。当時も周辺には民家等が少なく、今回の調査では寛永通宝が2枚出土したが江戸時代に該当する遺構は検出していない。

両遺跡とも遺物を地表面で採取でき、間木戸V遺跡周辺では、鉄滓が散見されていた。近隣の住民からは、「このあたりでは鉄滓がたくさん落ちている。」と度々耳にした。

2 遺跡周辺の地形（第2図・写真図版1）

山田町は総面積263.45km²のうち、山林が236.04km²を占める。西側には北上高地、そこからは丘陵地が連なり、リアス式海岸が太平洋に面している。山田湾に面する低地は、北上高地に連なる標高807mの山母森に水源をもつ間口川により形成された沖積平野である。河口付近で合流する間木戸川は、間口川の左支川で、この間木戸川により開析された谷部に両遺跡は所在する。周辺は、風化花崗岩層で構成された標高150m以下の小起伏山地で、間口川周辺の平野部より北側に入り込むため、両遺跡は山田湾を望むことはできない場所にある。両遺跡は、間木戸V遺跡北側の痩せ尾根から南面へ続く斜面に位置し、北側上流より南西へ流下する沢を境に、北が間木戸V遺跡、南が間木戸II遺跡に分けられる。この沢は間木戸II遺跡北西で間木戸川と合流する。間木戸II遺跡は、それらによって形成された扇状地状の緩斜面に立地する。標高は14~18mである。西側は道路により削平を受けていた。間木戸V遺跡は、北側は尾根から続く急斜面、中央付近から南側は沢により形成された段丘状の緩斜面に立地し、中央付近は調査区を横断する作業道によって削平を受けていた。標高は、23~30mである。間口川周辺の平野部よりおよそ12~27m標高が高い。より標高の高い間木戸V遺跡では、尾根の先端部で風化した花崗岩が露頭している部分もあり、表土を数cm掘るとマサ土化した土壤が確認でき表土の発達が乏しい。この風化花崗岩には鉄を作るのに良質な砂鉄が多く含まれている。



第1図 遺跡位置図・調査区と周辺の地形



第2図 地形区分図

3 周辺の遺跡（第3図・第1表）

山田町では491の遺跡が岩手県遺跡台帳に登録されている（平成24年12月現在）。町内の遺跡は低地部に確認されることは少なく、小起伏山地もしくはその縁辺に確認されているものが多い。そのうち、本遺跡周辺の遺跡を抜き出した107遺跡について、第3図および、第1表に記した。その中から縄文時代、古代、製鉄関連の遺跡について概要を述べることにする。

縄文時代に該当する遺跡は沢田I、大畠I遺跡等があげられる。沢田I遺跡は、縄文時代早期から平安時代の遺構が重複する複合遺跡である。沢田I遺跡から出土した早期の土器片は、現在のところこの時期に人々が山田町へ住み始めた証拠となっている。遺跡の主体となる時期は縄文時代前期と中期で、前期の遺構の埋土に十和田中擅火山灰が堆積する大木2a式以前の堅穴建物跡や、前期に帰属するロングハウスなどの大形建物跡が複数検出され、中期末葉まで堅穴建物跡がみられることから集落の継続が確認されている。大畠I遺跡では、大木10式を主体とした集落が確認され、石窯炉・土器埋設炉・複式炉等様々な形態の炉をもつ堅穴建物跡や多数の土坑について報告されている。

古代に該当する遺跡についてであるが、房の沢IV遺跡、大畠II遺跡等があげられる。房の沢IV遺跡は、間木戸II遺跡から直線距離で600mに位置し、平成8・9年度（第1～3次調査）に調査が行われ、7世紀から8世紀にかけて継続して造られた古墳群が検出されている。古墳は山田湾を望める尾根の斜面地に造営され、埋葬主体部からは、鐵鋤・蕨手刀・錫製鏡などが出土している。とりわけ土器と一緒に埋葬している例が多い特徴的である。同時期に属する集落が周辺でまだ確認されていないが、今回の間木戸II遺跡で検出された堅穴建物跡が該当する可能性がある。大畠II遺跡は、重複しない平安時代の堅穴建物跡5棟が検出されている。出土している赤焼き土器の壺の特徴から10世紀前半に位置付けており、近接して検出された鍛冶路炉や工房跡と併せ、10世紀の鉄生産に従事した人々が住んでいた集落として報告されている。

古代製鉄関連の遺跡では、後山I、上村遺跡等があげられる。山田町は本県の中でも製鉄関連遺構の検出が特に多い地域である。平安時代後半の製鉄関連遺構が調査された後山I遺跡では、時期差が認められる7棟の工房跡、製鉄炉を含む鉄生産炉が29基、15基の炭窯も近接して検出されている。また、鍛冶工房を再利用したと考えられる堅穴建物跡のカマドには、芯材に鉄滓が設置されていた。上村遺跡では、奈良時代に帰属する製鉄炉8基、鍛冶炉2基、堅穴建物跡1棟が検出された。鉗子など鍛冶工程で使われていた道具類のほか、約2.5トンの鉄滓が出土している。両遺跡とも、丘陵地の南向き斜面で鉄生産遺構が検出され、原料である砂鉄を採取できる風化花崗岩層に立地している。加えて、山林に囲まれており燃料となる木炭の原料である木材を容易に入手できる環境にあった。山田町内で確認されている製鉄関連遺跡は、概ねこのような立地状況にあてはまる。

参考文献

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

1994『上村遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第202集。

1995『大畠I・II遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第218集

1997『沢田II遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第268集

1998『房の沢IV遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第287集。

2000『沢田I遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集

2001『沢田I遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第342集。

山田町教育委員会2002『細浦IV・後山I遺跡発掘調査報告書』山田町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第9集。



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺遺跡一覧

種類：散=散布地、鐵=製鐵跡、集=集落跡、城=城垣跡
時期：繩=繩文、弥=弥生、古=古代、中=中世、近=近世、不=不明

III 野外調査と室内整理

1 野外調査

(1) グリッド設定(第4図)

検出遺構と出土遺物の詳細な記録に座標値を使用するため、両遺跡を網羅するグリッドを設定した。X=-56600、Y=96300を原点とし、南東に向かい100 m × 100 mの大グリッドを設定した。さらにその正方形の各辺を25等分して、4 × 4 mの小グリッドとした。よって、グリッドの表示は、「II A 25y」のようになっている。

また、便宜上、平面図の作成で小グリッドを4つに分け2 × 2 mのグリッドも使用している。現場調査時には使用していない呼称であるが、本報告書内では「II A 25y-SE」といったような表記にしている。グリッド凡例は4図の通りである。

調査区内には、基準杭とグリッド割付用杭を業務委託により打設した。

(2) 試掘・表土除去

調査開始時、調査区域内は伐採根が密集していたため、土層の堆積状況や遺構の検出面を確認するため任意に試掘トレンチを設定し、人力で掘削を行った。

これにより間木戸II遺跡では、当初想定していた遺構の検出面より30～50cmほど上に黒褐色土が（基本層序Ⅲb層）堆積すること、そこから縄文土器が多く出土することがわかった。この黒褐色土は、調査区域全体に厚く堆積していたが、その細分が困難であったため、遺構検出面を再検討することとなった。

バックホーとキャリアダンプを使っての表土除去は、調査区域南部から行った。表土除去中も遺物が多量に出土する状況に反して、それに伴う遺構プランは全く見えてこず、終に調査区域中央付近で、これまでと異なる古代の遺物が伴う方形プランを確認できた。

間木戸V遺跡も、バックホーを使い標高の高い北側急斜面地から表土除去を行った。急斜面地は表土直下でマサ土（地山）が検出されたが、中腹からは、マサ土より上位の暗褐色土（基本層序Ⅲ層）で遺構が検出された。

(3) 遺構検出・精査

遺構検出は、表土除去の後、鋤簾（じょれん）等を用いて行った。縄文時代の遺構が存在するとと思われる区域は、全て黒褐色土（基本層序Ⅲb層）に覆われていた。真っ黒な土は縄文の遺物包含層であり、平面的に遺構のプランを把握するには時間と労力を要すると判断し、古代の遺構精査に着手するのと併行して、設定したグリッドに準じ包含層の掘り下げと検出を進めた。そのため、平面的に検出できた遺構は少なく、平面が壊された状態になったものが多い。

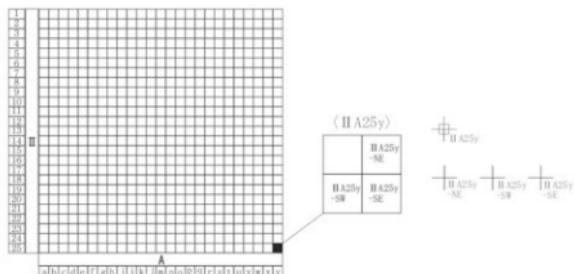
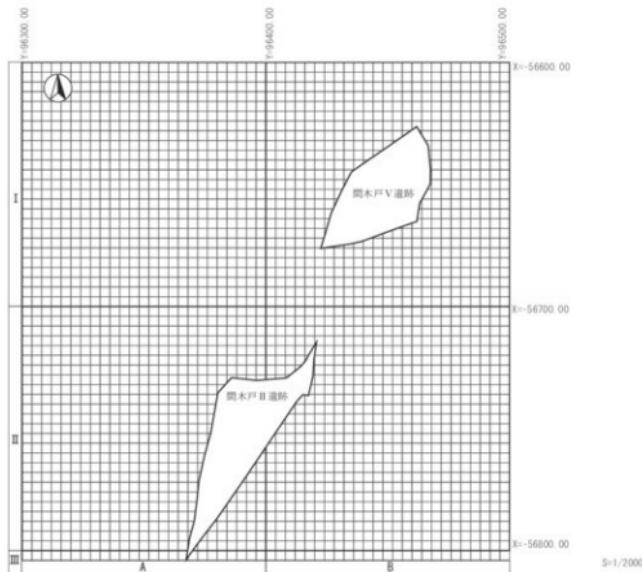
その作業を進めてプランを把握できたものについては、以下のような精査方法をとった。遺構の規模に応じて2分法・4分法を使い分け、土層断面を観察しながら埋土を掘り進めた。遺構の重複が認められた場合、平面観察やサブトレンチで新旧関係の把握に努めた。遺物は、包含層掘り下げ時にはグリッド名、遺構と判断した時点で遺構名を付しそれぞれ出土層位を記録し取り上げた。

(4) 実測

遺構の平面図は、電子平板を使用し、デジタルデータとして記録した。断面図は水平に設定した水糸を基準に遺構の種類や規模などを考慮し20分の1、10分の1などの縮尺で手実測・作図した。遺物出土状況等の微細図は、写真撮影後、画像補正を行いデジタル作図した。

(5) 写真撮影

遺跡・遺構の記録写真には、デジタル一眼レフカメラを基本に、 $6 \times 7\text{cm}$ 判カメラ（モノクロ）と、 $6 \times 9\text{cm}$ 判カメラ（モノクロ）も併用し撮影した。その際に、所定の撮影カードを用い記入と写し込み



第4図 グリッド配置図

を行い、写真整理に利用した。調査終了時には小型飛行機による空中写真の撮影を行った。

2 室 内 調 査

(1) 作 業 手 順

出土遺物は、野外作業と並行して調査事務所内と間木戸V遺跡内で洗浄を行い、それ以外については、6月より室内において遺物洗浄を始めた。その後、接合・復元作業・実測を行い、拓影作成・トレースの作業と併行して遺物撮影・観察表作成・図版作成を行っている。遺構は、デジタルトレースをした断面図と、現場時に電子平板を用いデータ化した平面図を用い遺構図版を作成した。それらをふまえて、原稿執筆・遺構図版作成・遺構写真図版作成を行った。

(2) 遺 構

電子平板で作図した遺構平面図と、デジタルトレースを行った遺構断面図は、デジタルデータとして描画ツールソフトを使用し編集と割付を行った。写真はデジタル一眼レフで撮影したRAWデータをピットマップ画像編集ソフトでレンズ補正後、JPEGに変換し写真図版として掲載している。なお、レンズ補正是、カメラレンズの特性で生じる歪みに対して行っている。

(3) 遺 物

出土土器は縄文土器と上師器、須恵器に選別し、袋番号で管理し重量計算ののち選別したものに注記を行った。実測は器形の復元が可能なものから順次を行い、拓本も併用している。また貼り付け等で拓本が困難なものについては、平面的な実測も行った。石器については、分類を行い遺構内出土を中心に図化の選別を行った。なお、剥片石器の図化は、(株) ラングに業務委託をした。鉄製品については、おまかなかきを除去した後、X線撮影を行い実測した。鉄製品の一部は、岩手県立博物館へ保存処理に委託した。羽口・炉壁・鉄滓は、分類を行い、それぞれ袋番号で管理し重量計測を行った。羽口と炉壁は、器形の特徴が把握できるもののみ実測し、それ以外は重量表や観察表への記載にとどめた。

3 凡 例

(1) 遺 構

- い. 遺構実測図の縮尺は、堅穴建物跡・土坑が1:50、炉跡断面・焼土遺構が1:20を基本とした。図版ごとにスケール及び縮尺を付した。
- ろ. 平面図の推定は破片線で示し、重複する遺構については切り合っているものを表示し、不透明度を下げて示した。
- は. 土層の色調観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
- に. 図中の「P」は土器、「S」は石、「I」は鉄製品、「T」はトレンチ、「BT」岩手県教育委員会生涯学習文化課が行った試掘トレンチを略号で示した。
- ほ. 図中で表現している網掛けやスクリートーンの類別は、下記の凡例図を参照していただきたい。

(2) 遺物

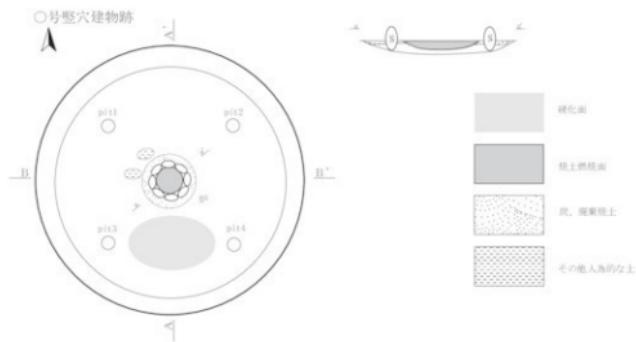
い、 遺物実測図の縮尺は、縄文土器・土師器・須恵器、礪石器、羽口、炉壁が1:3、剥片石器が2:3、土製品・石製品・鉄製品は1:2を基本とした。大きさにより異なる縮尺にしているものもあり、各図にスケールおよび縮尺を付した。

ろ、 遺物の計測位置および、スクリーントーンの主な用例は凡例図のとおりである。観察表の計測値は、残存値の場合（）・推定値の場合〔〕で表記した。

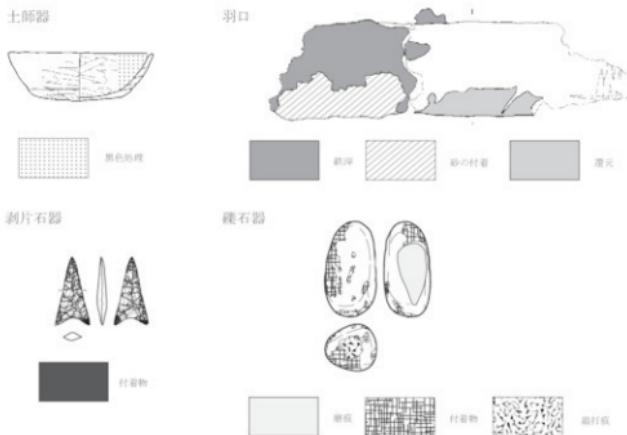
は、 本書で記載されているコンテナのサイズは、大コンテナ42×32×30cm、中コンテナ42×32×20cm、小コンテナ42×32×10cmである。

(3) 凡 例 図

- 遺構図 -



- 遺物図 -



第5図 凡例

IV 間木戸Ⅱ遺跡の調査

1 概 要

(1) 遺構数・遺物数

検出遺構は、堅穴建物跡30棟（縄文25、古代5）、焼土・炉跡11基（縄文・古代）、土坑13基（縄文）、柱穴19個（縄文・古代）、集石遺構1基（縄文）、遺物包含層1,000m²（縄文）、出土遺物は、土器（縄文・古代）大コンテナ54箱、石器（縄文・古代）大コンテナ4箱、土製品・石製品などである。遺構の位置は第6～9図の通りである。

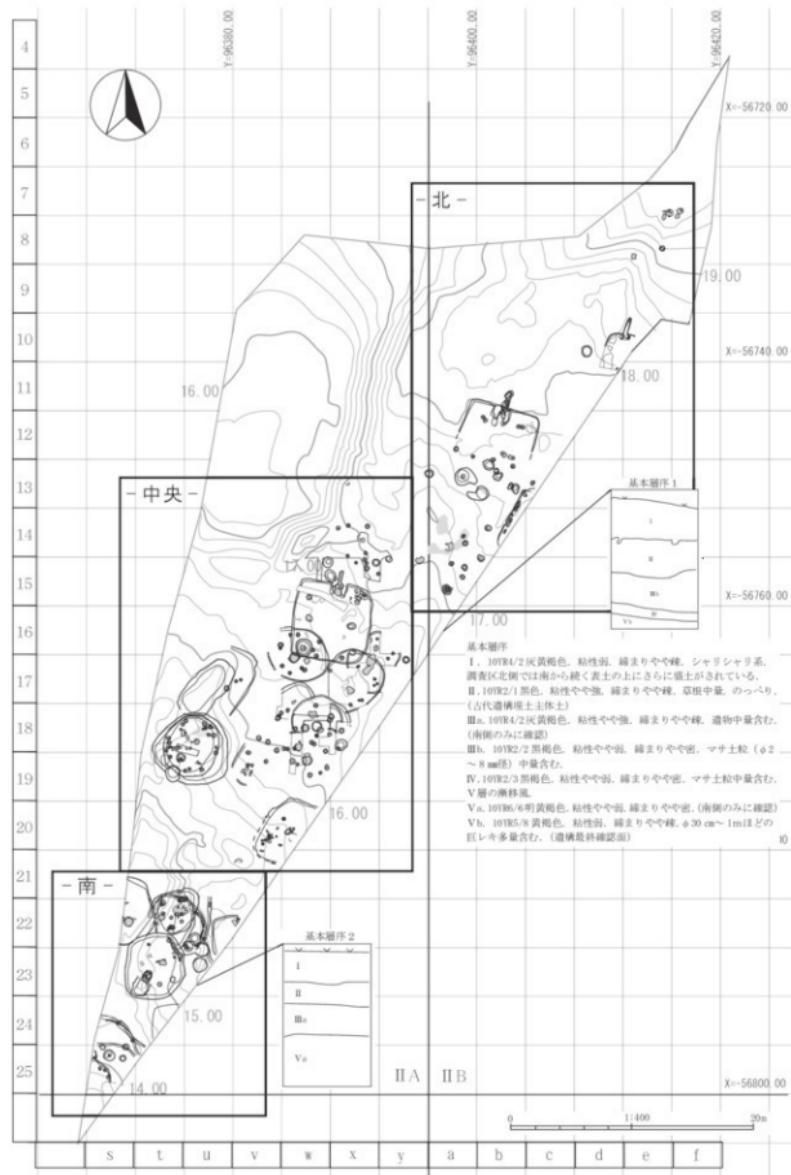
(2) 遺 構 名 称

野外調査で使用した仮名称は、報告書掲載にあたり、S I ○を○号堅穴建物跡、S K △を△号土坑といったように変更している。詳細は、第2表で対比していただきたい。

(3) 層 序

調査区域の中央部・北部と、南部では土層堆積に違いが確認できた。中央部と北部では基本層序1が該当し、南部は基本層序2が該当する。基本層序の観察団は第6図の通りである。なお、調査区を横断するように中央部で土層観察を行っているが、後述する沢跡の項目で提示する。

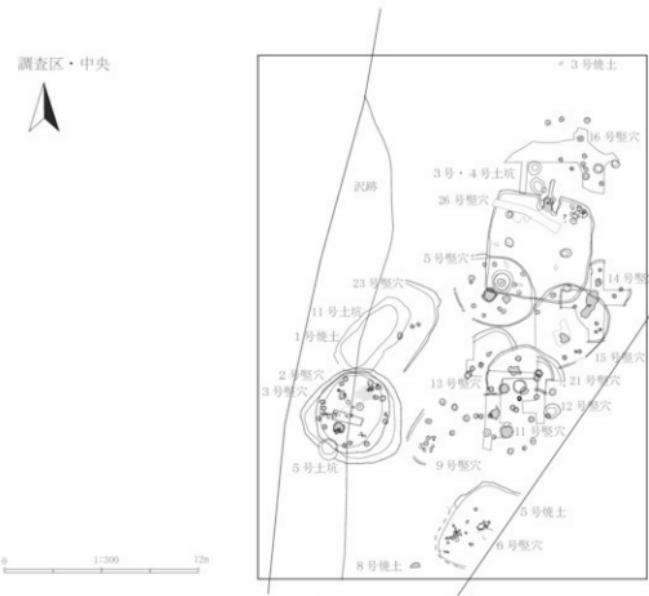
- I. 10YR4/2 灰黄褐色、粘性弱、縮まりやや疎、シャリシャリ、調査区域北部では南から続く表土の上に盛土がされている。
- II. 10YR2/1 黒色、粘性やや強、縮まりやや疎、草根中量、のっぺり、（古代遺構埋土主体）
- III a. 10YR4/2 灰黄褐色、粘性やや強、縮まりやや疎、遺物中量含む、（南部のみに確認）
- III b. 10YR2/2 黒褐色、粘性やや弱、縮まりやや密、マサ土粒（ ϕ 2～8mm径）中量含む、
- IV. 10YR2/3 黒褐色、粘性やや弱、縮まりやや密、マサ土粒中量含む、V層の漸移層、
- V a. 10YR6/6 明黄褐色、粘性やや弱、縮まりやや密、（南部のみに確認）
- V b. 10YR5/8 黄褐色、粘性弱、縮まりやや疎、 ϕ 30cm～1mほどの巨礫を多量含む、（遺構最終検出面）



第6図 間木戸II遺跡調査区全体図・基本層序

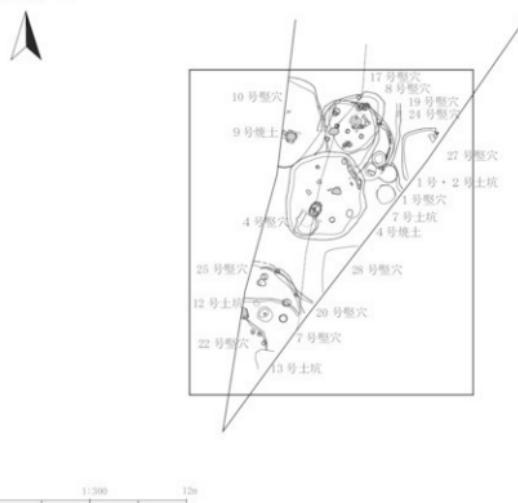


第7図 遺構配置図・北



第8図 遺構配置図・中央

調査区・南



第9図 遺構配置図・南

第2表 新旧遺構名対応表

| 報告書掲載名 | 現場使用名 | 報告書掲載名 | 現場使用名 | 報告書掲載名 | 現場使用名 |
|----------|-------|--------|-------|------------|-------|
| 1号窓穴建物跡 | SK03 | 1号土坑 | SK01 | 1号堆土遺構・印跡 | SN01 |
| 2号窓穴建物跡 | SK05 | 2号土坑 | SK02 | 2号堆土遺構・印跡 | SN02 |
| 3号窓穴建物跡 | SK07 | 3号土坑 | SK03 | 3号堆土遺構・印跡 | SN03 |
| 4号窓穴建物跡 | SK08 | 4号土坑 | SK04 | 4号堆土遺構・印跡 | SN04 |
| 5号窓穴建物跡 | SK09 | 5号土坑 | SK05 | 5号堆土遺構・印跡 | SN05 |
| 6号窓穴建物跡 | SK10 | 6号土坑 | SK06 | 6号堆土遺構・印跡 | SN06 |
| 7号窓穴建物跡 | SK11 | 7号土坑 | SK07 | 7号a堆土遺構・印跡 | SN07 |
| 8号窓穴建物跡 | SK12 | 8号土坑 | SK08 | 7号b堆土遺構・印跡 | SN08 |
| 9号窓穴建物跡 | SK13 | 9号土坑 | SK09 | 7号c堆土遺構・印跡 | SN09 |
| 10号窓穴建物跡 | SK14 | 10号土坑 | SK10 | 7号d堆土遺構・印跡 | SN10 |
| 11号窓穴建物跡 | SK16 | 11号土坑 | SK11 | 8号堆土遺構・印跡 | SN11 |
| 12号窓穴建物跡 | SK17 | 12号土坑 | SK13 | 9号堆土遺構・印跡 | SN12 |
| 13号窓穴建物跡 | SK18 | | | 10号堆土遺構・印跡 | SE25 |
| 14号窓穴建物跡 | SK19 | | | 11号堆土遺構・印跡 | SE26 |
| 15号窓穴建物跡 | SK20 | | | 1号集石遺構 | SE01 |
| 16号窓穴建物跡 | SE21 | | | | |
| 17号窓穴建物跡 | SE23 | | | | |
| 18号窓穴建物跡 | SE27 | | | | |
| 19号窓穴建物跡 | SE28 | | | | |
| 20号窓穴建物跡 | SE29 | | | | |
| 21号窓穴建物跡 | SE30 | | | | |
| 22号窓穴建物跡 | SE31 | | | | |
| 23号窓穴建物跡 | SE32 | | | | |
| 24号窓穴建物跡 | SE33 | | | | |
| 25号窓穴建物跡 | SE34 | | | | |
| 26号窓穴建物跡 | SE01 | | | | |
| 27号窓穴建物跡 | SE02 | | | | |
| 28号窓穴建物跡 | SE04 | | | | |
| 29号窓穴建物跡 | SE15 | | | | |
| 30号窓穴建物跡 | SE22 | | | | |

2 遺構

(1) 壊穴建物跡

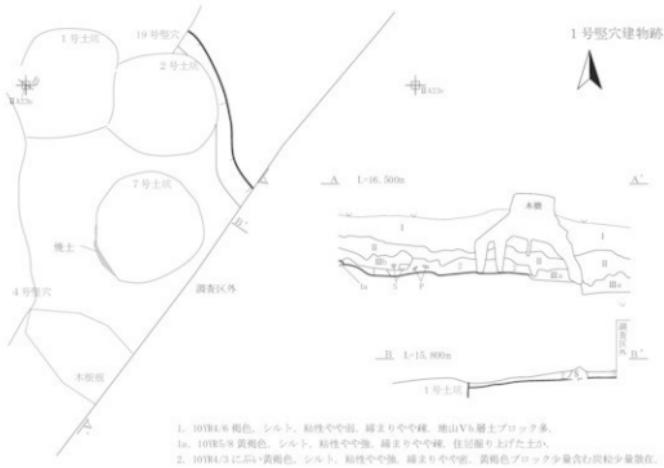
1号堅穴建物跡（第10図、写真図版3）

〔位置・検出状況〕 調査区南、II A22u付近に位置する。遺構検出作業時に木根と絡んで、大形の繩文土器片が検出された。この付近には、褐色の不整形プランが広がっており、この時点で遺構が重複していることが想定できた。そのため、掘り下げを行なながら観察したところ、重複する堅穴建物として検出した。〔規模・形状〕 重複する遺構や木根により消失している部分が多く全容は不明である。〔埋土・堆積状況〕 Vb層を掘り込んで作られている。〔壁・床面〕 緩やかに外傾する。床面は若干凹凸があるが概ね平坦である。〔炉〕 7号土坑に切られる形で、焼土範囲を検出している。〔柱穴・付属施設〕 検出されなかった。〔重複遺構〕 4号、20号堅穴、1号・2号・7号土坑に切られる。〔出土遺物〕 床面から石器S003が出土している。その他、石斧S217、敲磨器S351。〔帰属時期〕 遺構の重複関係から、縄文時代中期中葉以前に帰属すると考えられる。

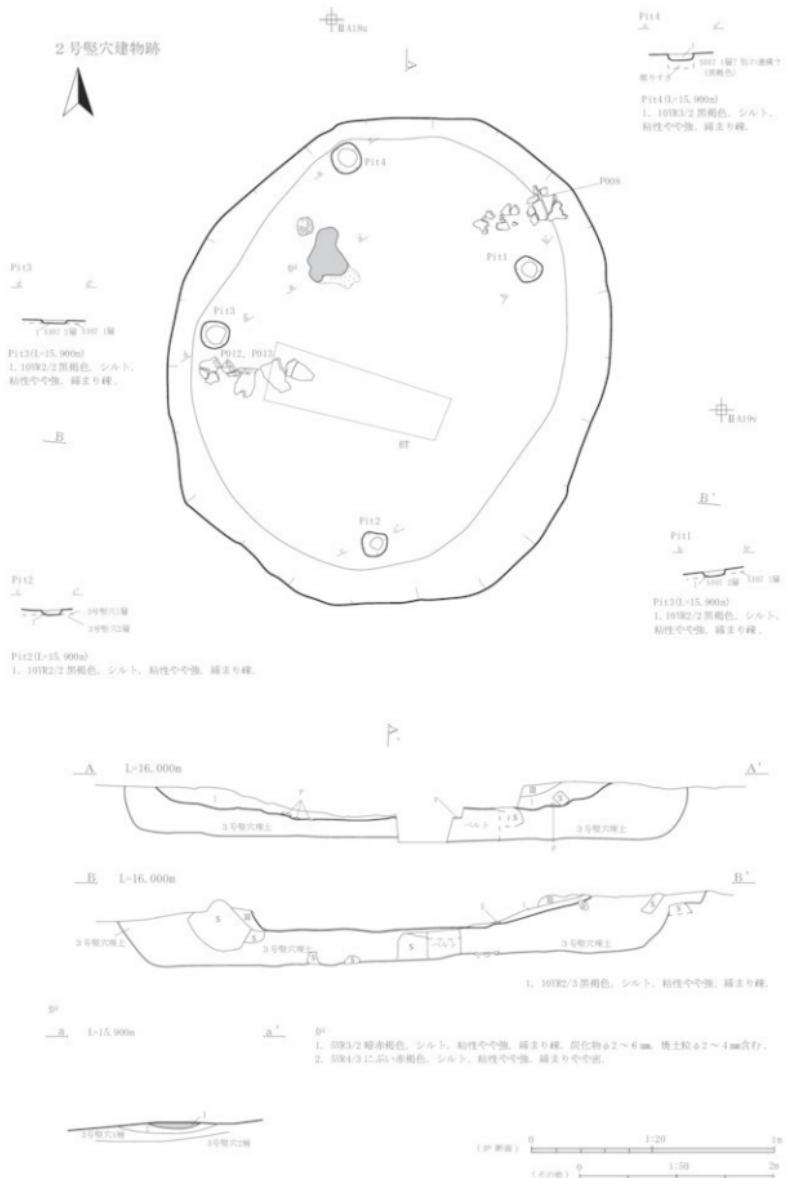
(佐藤 あゆみ)

2号堅穴建物跡（第11図、写真図版4）

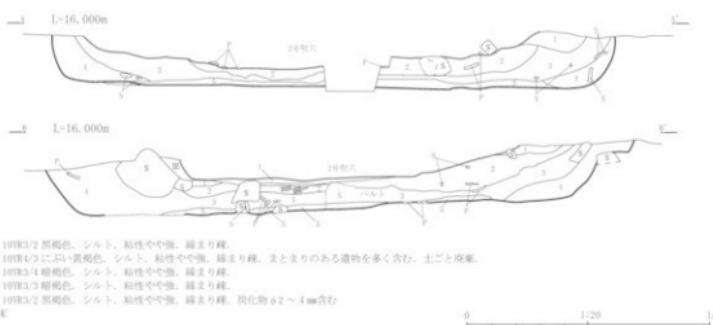
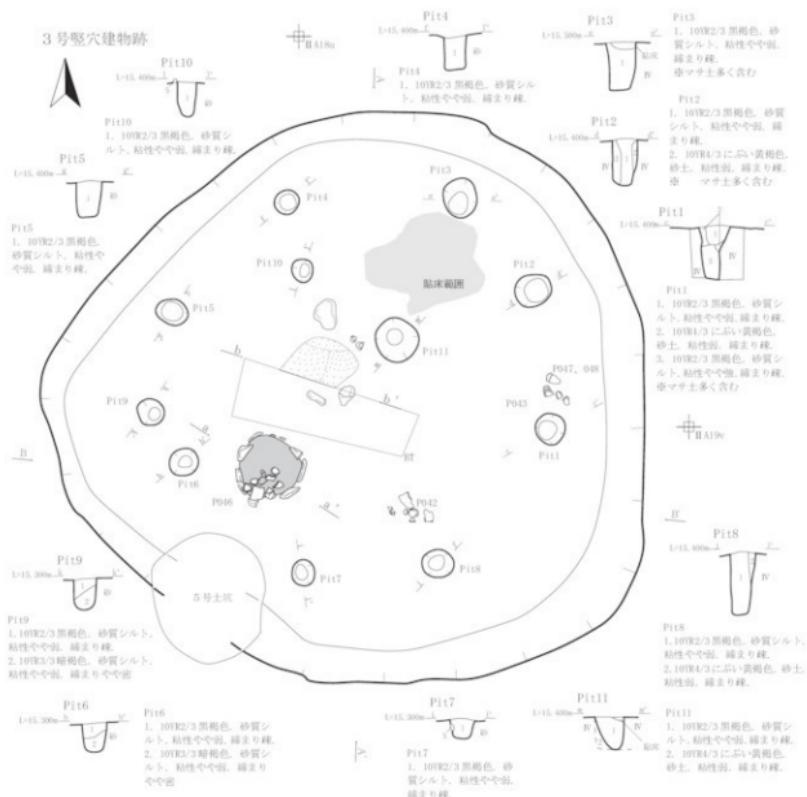
〔位置・検出状況〕 調査区中央、II A19u付近に位置する。III層下位の3号堅穴を精査中に暗褐色シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、3号堅穴の1層上面で、浅く落ち込む床面と炉、柱穴、遺物の広がりを確認した。〔規模・形状〕 5.0×4.4mで、楕円形である。〔埋土・堆積状況〕 堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。中央部分の埋土は重機による木根の抜取りの際に欠



第10図 1号堅穴建物跡



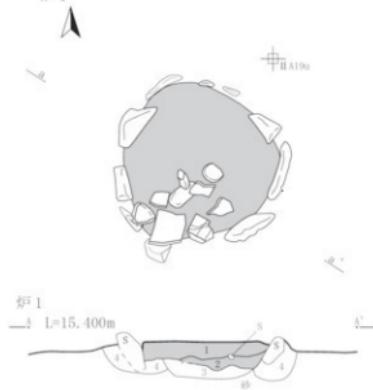
第 11 図 2号竖穴建物跡



第12図 3号竪穴建物跡(1)

2 遺構

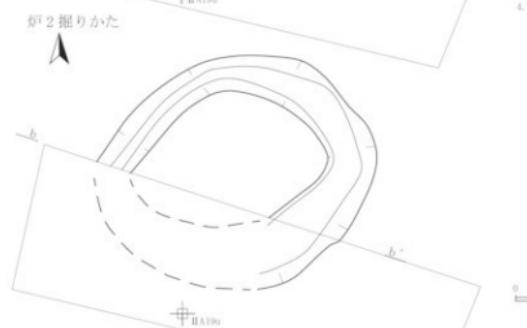
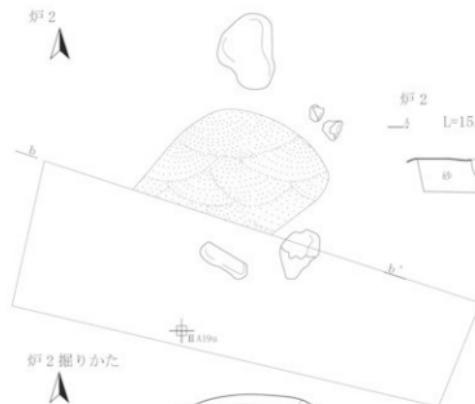
3号竪穴建物跡
炉 1



炉 1 掘りかた



炉 2
炉 2 掘りかた



1. 5W2/3 極褐色。砂質シルト、粘性やや弱、締まり硬、炭化物 $\phi 5\sim 8$ mm地土粒 $\phi 1\sim 5$ mm含む
2. 5W3/6 赤褐色。砂質シルト、粘性やや弱、締まり硬、炭化物 $\phi 2\sim 4$ mm少量含む。地土粒 $\phi 1\sim 5$ mm多く含む
3. 5W4/9 赤褐色。砂質シルト、粘性やや弱、締まり硬。
4. 10Y3/3 暗褐色。砂質シルト、粘性やや弱、締まり硬。

第13図 3号竪穴建物跡（2）

失した。床面は3号竪穴の1層上面となっており、浅く落ち込んでいることから、3号竪穴の窪みを利用した住居跡である。〔壁・床面〕壁はなだらかに立ち上がり、床面はボウル状に浅く落ち込む。〔炉〕炉1は不整形な地床炉である。中央からやや北西側に片寄っている。〔柱穴〕Pit1～4の4本柱である。Pit1～3は3号竪穴の2層を底面とし、Pit4は3号竪穴の3層を底面とする。すべて浅いものである。〔付属施設〕検出しなかった。〔重複関係〕5号土坑、3号竪穴より新しい。〔出土遺物〕床面から縄文土器P008～013、敲磨器S235が出土した。埋土下位からボタン状土製品G002、その他石匙S140、石籠S176、石核S208、石斧S227、敲磨器S236等。〔帰属時期〕床面から出土した遺物と遺構の重複関係から縄文時代中期中葉に帰属する。

(佐藤一樹)

3号竪穴建物跡（第12図・13図、写真図版5・6）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A19u付近に位置する。生文課の試掘の際に、トレンチにより暗褐色土を主体とする落ち込みと焼土（石開炉2）を検出しておらず、住居跡を想定し着手した。周囲のⅢ層下位を精査したところ、暗褐色シルトの広がりを検出した。掘り下げたところ、平坦な床面と石開炉、柱穴、遺物の広がりを確認した。〔規模・形状〕6.3×5.9mで、やや潰れた六角形である。形状は、柱穴の配置に対して南西側と北東側が張り出している。南西側の壁は砂質土のため、北東側は砂状の風化花崗岩のため、使用時または廃棄時に崩落があった可能性がある。このことから本来の形状は楕円形であった可能性がある。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。西側の半分は砂を主体とする河川堆積層を掘り込んで壁と床面を構築しているため、埋土はやや砂質が強い。〔壁・床面〕壁はやや急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。北側の一部では、暗褐色土に褐色土がブロック状に混じる貼床を検出した。〔炉〕石開炉1と2は両者とも円形の石開炉である。石開炉2は石組が抜き取られていることから、石開炉2が古く、石開炉1が新しいと考える。石開炉1の石組みは円形に溝を掘り込んだ部分に礫の長辺を下にして縦に9個配置し構築している。石組みは南側の一部で途切れているように見えるが、今回の調査におけるトレンチ調査の際に、礫を一部破損させてしまったためであり、本来は一周していた。礫はすべて扁平な中角礫で、石質は風化花崗岩が8点である。石開炉2の石組みも同様に円形の溝状に掘り込んだ部分に礫を配置し構築している。石組みは南側の1点のみ構築時の状態で残され、それ以外に残っているものは破損しており、その他は抜き取っていると考える。北側の礫は溝の中にはなく、掘り込みも見られないことから、自然の状態と考えるが、石組みの一部として利用していた可能性がある。礫はすべて扁平な中角礫で、石質はすべて風化花崗岩である。〔柱穴〕主柱穴はPit1～8・11で、Pit1～8を周囲に配置し、中央にPit11を配置する。Pit9・10は支柱穴または建替えと考える。〔付属施設〕Pit11〔重複関係〕23号竪穴と11号土坑より新しく、2号竪穴と5号土坑より古い。〔出土遺物〕床面から縄文土器P042・043・045～048、石籠S006、石斧S218・219、敲磨器S238～240等が出土している。その他石籠S007～009、石匙S119、スクレイバーS152、石籠S177、敲磨器S241～250、砥石S353、台石S368、棒状の石製品G020等。〔帰属時期〕遺構の重複関係と床面から出土した遺物から縄文時代中期中葉に帰属する。

(佐藤一樹)

4号竪穴建物跡（第14図・15図、写真図版7・8）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A23tに位置する。1号竪穴建物跡同様に、褐色シルトの広がりを確認し掘り下げを行い、石組みの炉跡を検出した。〔規模・形状〕5.9×5.2mの楕円形を呈する。床面までの残存深度は59cm前後である。〔埋土・堆積状況〕床面直上にはマサ土を含んだ灰黄褐色シル

トが厚く堆積する。東側ではこの堆積土より黒味が強くなる。炉付近では焼土粒を含むのが確認できる。東壁際には、崩落土として褐色シルトが堆積するが、北側は、重複する遺構の埋土が混じり黒褐色シルトの堆積が認められる。埋土中位～上位には多量の縄文土器を包含している。埋土中位に認められる褐色シルトは調査区南側にのみ確認できるⅢa層に類似する。〔壁・床面〕外傾気味に立ち上がる。西壁は、地山と堆積土が近似しており、床面の縮まりをたよりに掘り広げ縮まりの無くなつた部分をその範囲としている。床面は、Vb層に似るマサ土が硬く縮まり、概ね平坦である。〔炉〕検出時に確認された石組みは当初石窯炉を想定していたが、南側に広がる不明瞭なシミにサブトレンドを入れたところ、炭や焼土粒が広がる縮まりのある面を確認し前庭部をもつ複式炉と判明した。複式炉は南壁際に設けられる。床面中央側に石窯部が検出され、これに付属して南壁際に掘り窪められた前庭部を検出した。石窯部は、95×75cmのカマボコ形で、磨り石や、同様の規模の花崗岩を用い、二重の石組みが配されている。前庭部に面する部分には、30cm前後の巨礫が間仕切りとなっている。燃焼面は床面より8cm低くなり、カリカリに焼成された焼土が石組部内全体に厚く堆積していた。石組み内燃焼面の前庭部よりには、略完形の縄文土器深鉢が潰れて検出された。前庭部は床面から深さ23cmに掘り窪められ、底面には焼土や炭が散在していた。掘りかたは、石組み部全体を対象としている。複式炉のほかにも、床面で焼土範囲を2カ所検出している。いずれも掘りかたはない。〔柱穴〕壁際に4基検出した。形状から、pit1に対応する柱穴が存在した可能性があるが検出できていない。〔付属遺構〕なし。〔重複遺構〕1号・8号・10号・25号竪穴建物跡、1号土坑を切る。〔出土遺物〕床面及び炉から縄文土器P131～141、石錐S010・011、敲磨器S251・252等が出土している。その他、石錐S012～015、スクレイバーS153・168、敲磨器S253～255、砥石S354、軽石製の浮子G031等。〔帰属時期〕遺構の重複関係や堅穴の構造、床面の出土遺物から縄文時代中期中葉～後葉に帰属する。

(佐藤 あゆみ)

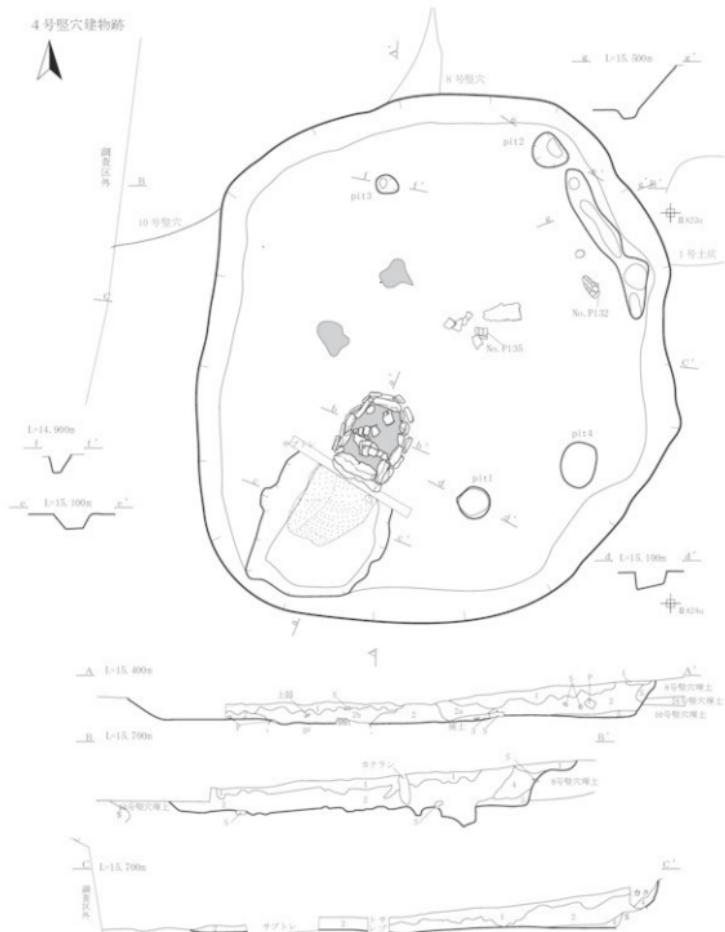
5号竪穴建物跡（第16図、写真図版9）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A17w付近に位置する。Ⅲ層下位を精査中に暗褐色シルトの落ち込みを検出した。掘り下げたところ、平坦な床面と複式炉、炉を確認した。柱穴は床面では検出できず、すべてIV層上面まで掘り下げて検出した。〔規模・形状〕5.0×4.3mで、円形である。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする〔壁・床面〕壁はやや急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。〔炉〕複式炉1は長方形の石窯炉と円形の浅い皿状の前庭部が組み合うものである。中央からやや南に片寄っている。石組みは隅丸長方形に溝を掘り込んだ部分に礫を13個配置し構築している。礫はすべて扁平な中角礫で、石質は風化花崗岩が11点、砂岩が2点である。炉1は不整形な地床炉である。複式炉1の南東側に位置する。〔柱穴〕主柱穴はPit 2・4～6・11の5本柱である。Pit 3・12は支柱穴である。Pit 1・7～10は建替えと考える。〔付属施設〕検出しなかった。〔重複関係〕なし。〔出土遺物〕炉から縄文土器P164～166、168、石錐S016・017、敲磨器S256・257等が出土している。その他、石錐S018等。〔帰属時期〕出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

6号竪穴建物跡（第17図、写真図版10）

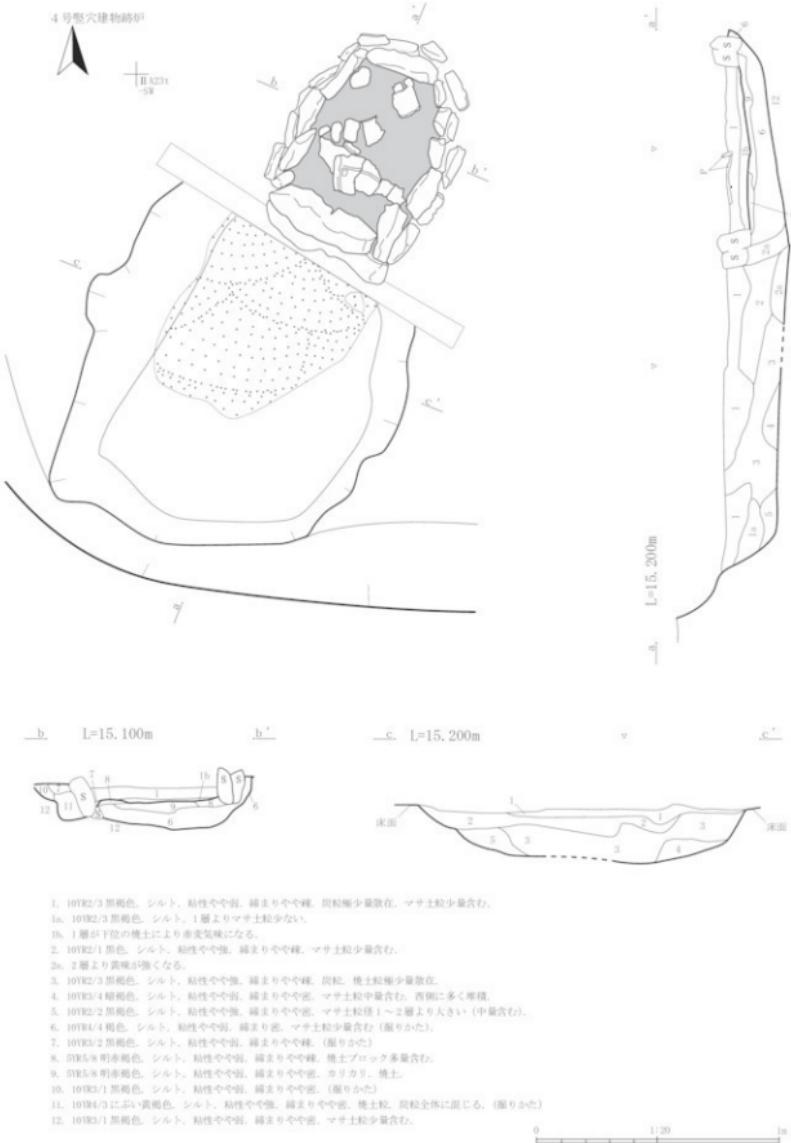
〔位置・検出状況〕調査区中央、II A20w付近に位置する。Ⅲ層下位を精査中に暗褐色シルトの落ち込みを検出した。調査区の境の壁面を精査したところ、Ⅲ層上面からの掘り込みと炉、平坦な床面を検出した。掘り下げたところ、平坦な床面と柱穴、遺物の広がりを確認した。南西側の壁は先に掘り



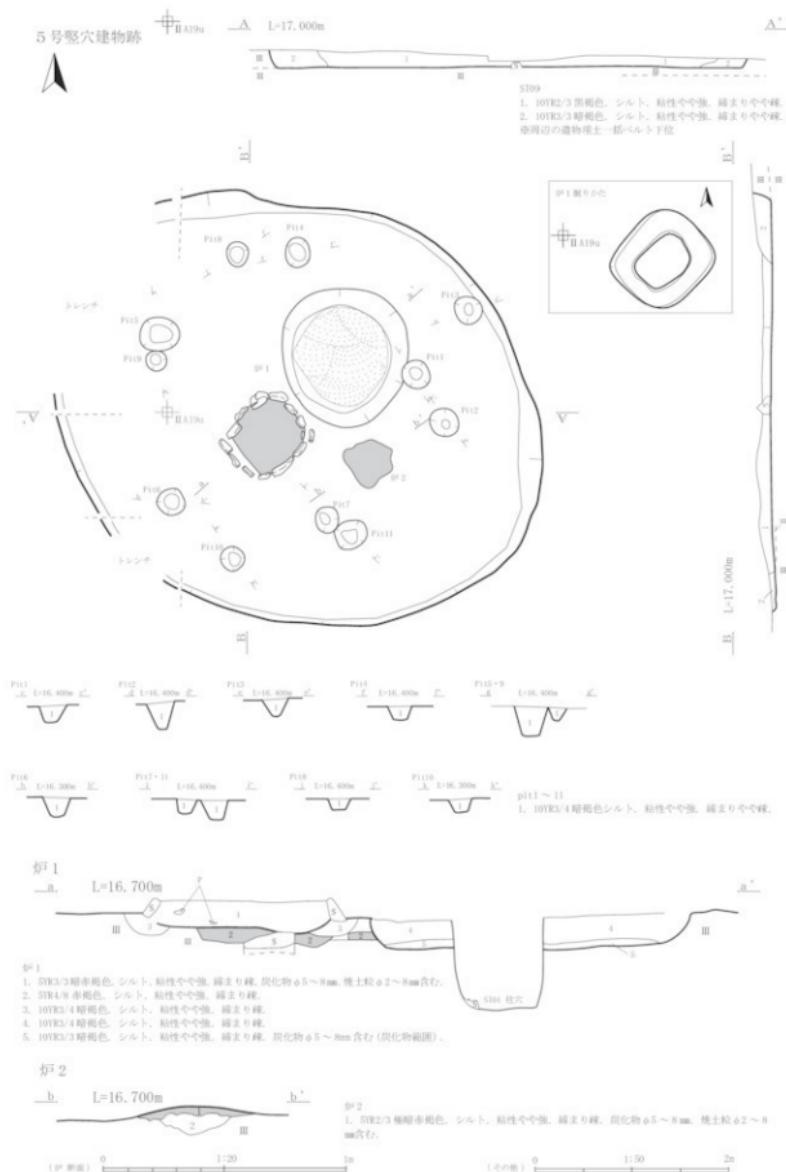
1. 10YR1/1 黒褐色。シルト、粘性やや弱、締まりやや硬。マサ土と少量含む。
2. 10YR1/2 淡黄褐色。シルト、粘性やや弱、締まりやや硬。マサ土と中量含む。遺物多量含む。
- 2a. 2層に三昧強くなる。
- 2b. 2a 層に地土粒細ク量数在する。
3. 10YR3/2 暗赤褐色。シルト。下位の地土による影響で地土混じる層。
4. 10YR4/4 褐色。砂質シルト、粘性やや弱、締まりやや硬。マサ土と中量含む。
5. 10YR2/3 黑褐色。シルト、粘性やや弱、締まりやや硬。黄褐色砂質シルト混じる。マサ土粒少量含む。

0 1:50 2m

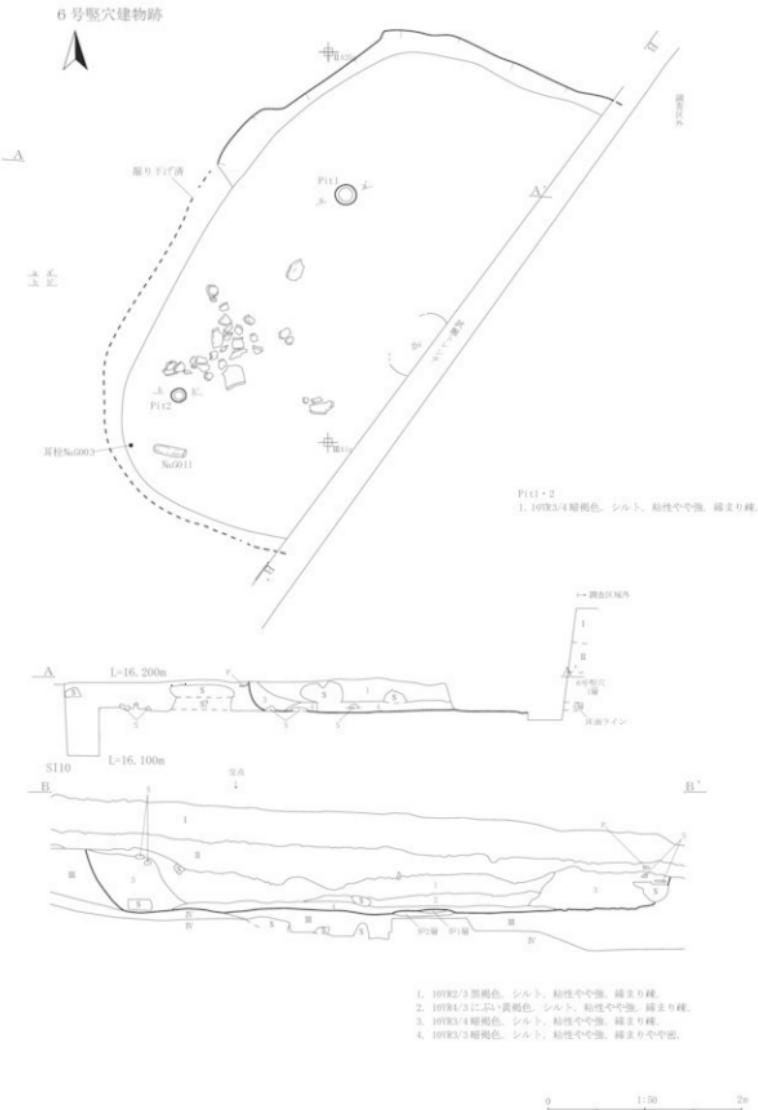
第14図 4号竪穴建物跡（1）



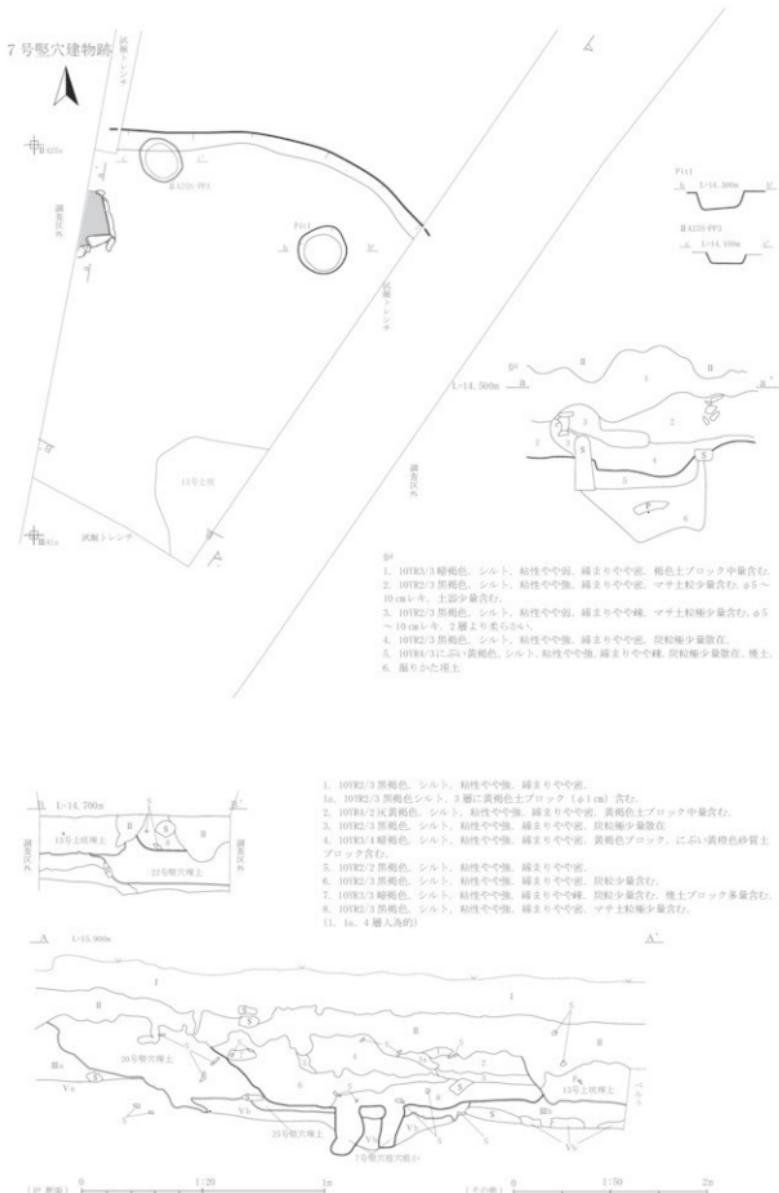
第15図 4号竖穴建物跡 (2)



第16図 5号竖穴建物跡



第17図 6号堅穴建物跡



第18図 7号窓穴建物跡

下げてしまったため、欠失してしまった。また、南西側の床面は、上部の堆積と遺物の広がりを基に確認した。〔規模・形状〕調査区外に広がるため部分的な検出であるが、5.7mの幅をもつ方形基調の遺構である。〔埋土と堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする〔壁・床面〕壁はやや急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。〔炉〕炉1は地床炉である。断面のみの検出のため形状は不明である。〔柱穴〕柱穴はPit 1・2の2本柱である。〔付属施設〕検出しなかった。〔重複関係〕なし。〔出土遺物〕床面の土器集中範囲から縄文土器P176・177、石錐S019、敲磨器S258、耳飾り土製品G003、石棒G011等が出土している。その他、石錐S020~022、石笠S178、敲磨器S259~261等。〔帰属時期〕床面から出土した遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

(佐藤一樹)

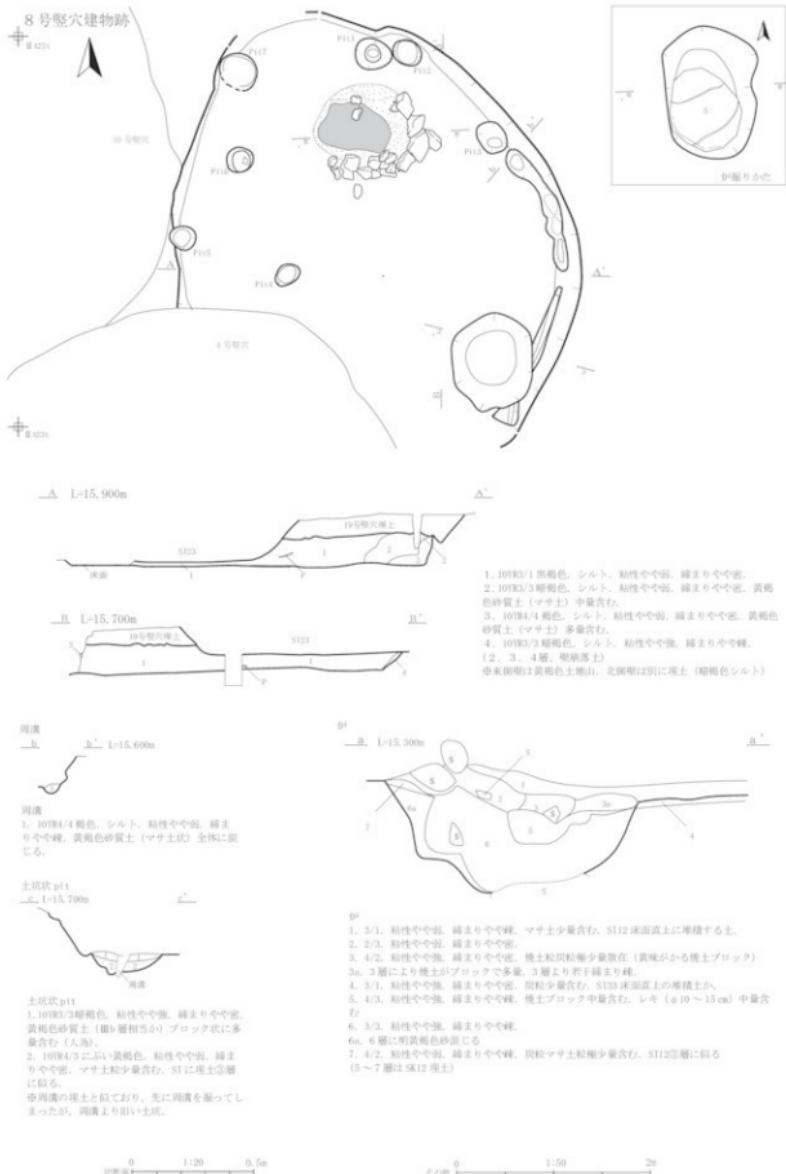
7号竪穴建物跡（第18図、写真図版11）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A25s付近に位置する。調査区南端部では、中央部とは違う様相の堆積土が広がり、大量に縄文土器が含まれているを表土掘削時に確認しており、調査区際をVb層まで掘り込み、調査区壁での土層断面において遺構の検出を行った。〔規模・形状〕東西を調査区外にかかり、南側は試掘レンチで消失しているため形状は不明である。床面までの残存深度は27cm前後である。〔埋土・堆積状況〕床面直上に堆積する黒褐色シルトは、壁際で炭粒を含む。埋土上位には、黄褐色土がブロックで含まれ人為的な様相を示す。〔壁・床面〕外傾気味に立ち上がる。床面は、重複する23号・26号竪穴建物跡の埋土とVb層が硬く締まり、平坦である。〔炉〕壁際に石窓炉が設けられているが調査区外にかかるため全体像が不明である。直線的な石組みの配置がなされており、方形になると考えられる。土坑状の掘りかたを確認している。〔柱穴〕深さ20cm、直径45cmほどの柱穴が1基検出された。その他、A断面で柱穴状の掘りこみを2カ所確認している。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕21号・23号・26号竪穴建物跡を切り、14号土坑に切られる。〔出土遺物〕埋土下位から縄文土器P216~234、敲磨器S262~264等が出土している。その他、斧状土製品G004、石錐S023~028、スクレイバース156~158、半円形石製品G015。〔帰属時期〕出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると考えられる。

(佐藤あゆみ)

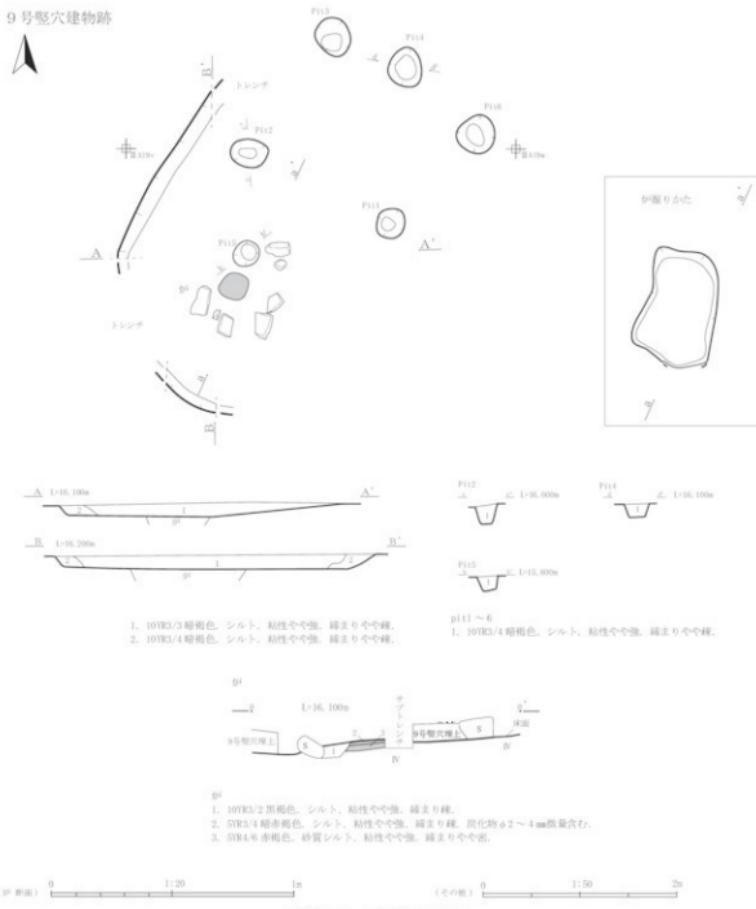
8号竪穴建物跡（第19図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A23t付近に位置する。1号竪穴建物跡同様に、褐色シルトの広がりを確認し掘り下げを行い、17号・20号竪穴建物跡精査時検出にいたった。〔規模・形状〕4.3×4.1mの稍円形を呈する。床面までの残存深度は34cm前後である。〔埋土・堆積状況〕床面直上には、黒褐色シルトが厚く堆積する。壁際には、Vb層を起源とするマサ土を多量に含む黄褐色砂質シルトが堆積し崩落土の様相を示す。上部は、17号・20号竪穴建物跡により消失している。〔壁・床面〕直立気味に外傾する。床面は、Vb層が硬く締まり、概ね平坦である。〔炉〕北側に石組みを検出した。石組みは円形であったと考えられるが、一部の礫が雑然と散らばるように検出された。焼土は燃焼面としてではなく、炭粒と混じり石組みの内外で広範囲に散在していた。このことは、炉が破壊されたことが想定される。掘りかたは、135×89cmの大形で床面からの深さは、およそ50cmを測る。底面に径90cm程の礫が露出しているが人為的なものか、Vb層に含まれる巨礫なのかは不明である。〔柱穴〕柱穴が7基検出された。〔付属施設〕西壁際に周溝状の溝を検出しているが、南・東壁際には検出できていない。この周溝には、崩落土と考えられるマサ土が堆積土全体に混じっている。これを切るように、規模が100×81cmの土坑も付属していた。床面からの深さは32cm程、埋土上位が黄褐色砂質土をブロックで含み人為的な様相である。〔重複遺構〕4号・17号・20号竪穴建物



第19図 8号竪穴建物跡

9号竪穴建物跡



第20図 9号竪穴建物跡

跡に切られる。【出土遺物】床面から縄文土器P259～261、石鏸S029～033、敲磨器S267等が出土している。その他、石鏸S034～042、石匙S120・121・141、スクレイバーS154・169、石錐S173、石鏸S180・181、敲磨器S268～271等。【帰属時期】造構の重複関係や出土遺物から縄文時代前期後葉から中期前葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

9号竪穴建物跡（第20図、写真図版13）

【位置・検出状況】調査区中央、II A19 v付近に位置する。IV層上面を精査中に石窯炉と柱穴を検出した。周間に残していた土層観察用のベルトを精査したところ、III層下位からの掘り込みと暗褐色シ

ルトの落ち込み、平坦な床面を検出した。さらに、ベルト部分のみで平坦な床面と壁面を確認した。柱穴は床面では検出できず、すべてⅣ層上面まで掘り下げて検出した。〔規模・形状〕一部の検出のみで不明であるが、楕円形または隅丸長方形の可能性がある。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。〔壁・床面〕壁はならかに立ち上がり、床面はほぼ平坦である。

〔炉〕石窯炉1は長方形の石窯炉である。柱穴の位置から推定すると長軸側に片寄っている可能性がある。また、Pit5と重複していることから、別の場所から移設してきた可能性がある。しかし、周辺では、他の炉は検出しなかった。石組みは隅丸長方形に掘り込んだ部分に礫を配置し構築している。石組みの礫は南西側の立位の1点のみ構築時の状態で残されているもの、それ以外に残っているものは外側に横倒しになっているか、破損している。掘り方も北西側では形状が広がっているところがあり、北側は抜き取っていると考える。これらのことから、石組みを抜取り後に住居を廃棄したと考える。礫はすべて扁平な中角礫で、石質は風化花崗岩が3点、砂岩が3点である。〔柱穴〕主柱穴はPit1～5またはPit1～4・6の5本柱である。Pit5は石窯炉1を完掘した後に検出したもので、石窯炉1よりも古い。石窯炉と重複しているため、建替えのあった可能性がある。〔付属施設〕検出しなかった。〔重複関係〕柱穴の配置から11号竪穴と重複関係にあった可能性が高いが、周囲を掘り下げてしまったため、不明である。〔出土遺物〕床面および炉から縄文土器P278～280、石錐S043、台石S369等が出土している。〔帰属時期〕出土遺物から縄文時代中期中葉中葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

10号竪穴建物跡（第21図、写真図版14）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A22tに位置する。1号竪穴建物跡同様に、褐色シルトの広がりを確認し掘り下げを行い、8号・17号・25号竪穴建物跡精査時沢跡の埋土とともに検出にいたった。

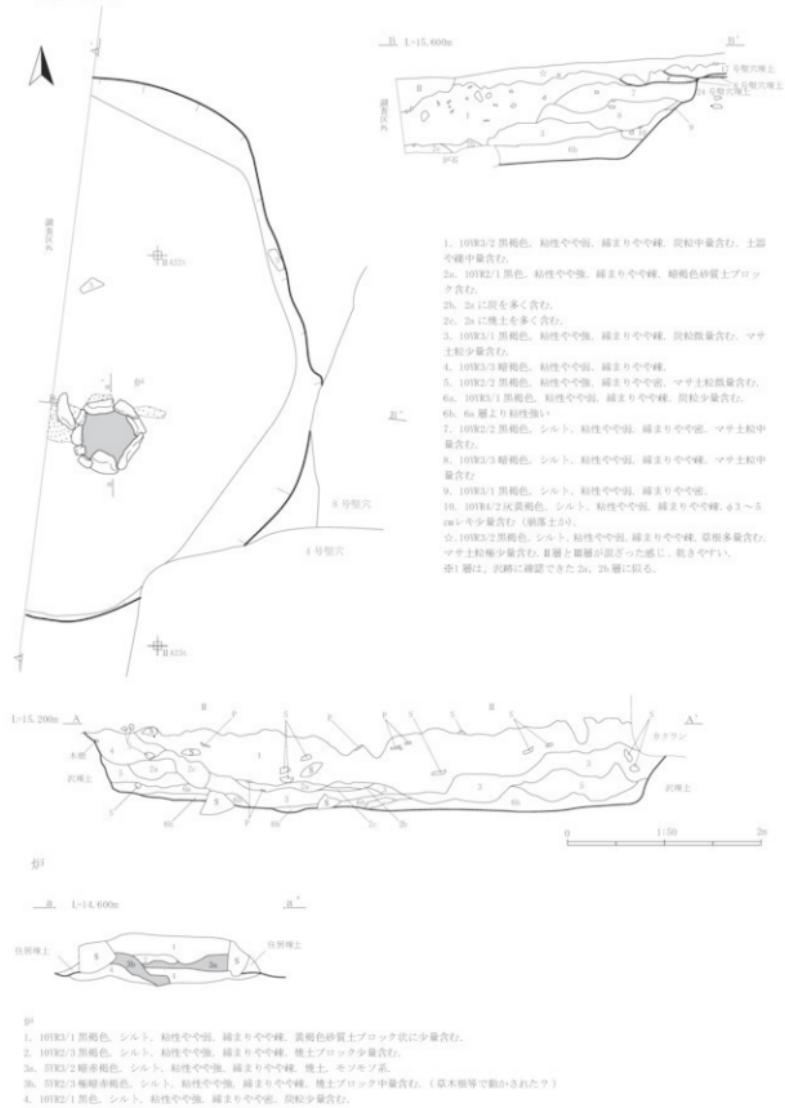
〔規模・形状〕およそ半部を調査区外にかかるが、径5.5mの円形を呈すると考えられる。床面までの残存深度は78cm前後である。〔埋土・堆積状況〕床面上には、炭粒を含む黒褐色シルトが堆積する。全体的に炭粒を含み、マサ土の混入は少ない。埋土中位には、焼土や炭が廃棄されたような様相で堆積する。埋土上位1層は、沢跡の埋土にも確認ができ、多量の縄文土器を包含している。〔壁・床面〕直立気味に外傾する。本遺構は、沢跡埋土を掘り込んでおり、床面は、粘性のある暗褐色シルトが硬く締まり平坦である。〔炉〕ほぼ中央に石窯炉を検出した。風化した花崗岩を用いた石組みは、円形に配置される。燃焼面は床面とほぼ同じ高さで、モソモソとした焼土が検出された。焼土は石組みの東側にも広がりをみせている。掘りかたは、浅く石組みの重鎮が弱い。〔柱穴〕検出されなかった。〔付属施設〕なし。〔重複構造〕8号・17号・19号竪穴建物跡、沢跡切る。〔出土遺物〕床面および炉から縄文土器P284～286等が出土している。その他石錐S044～051、石匙S122、スクレイバーS155・159、石錐S171、楔形石器S183、石斧S228、敲磨器S272～276等。〔帰属時期〕遺構の重複関係と出土遺物、AMS測定の結果から縄文時代中期前葉から中期中葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

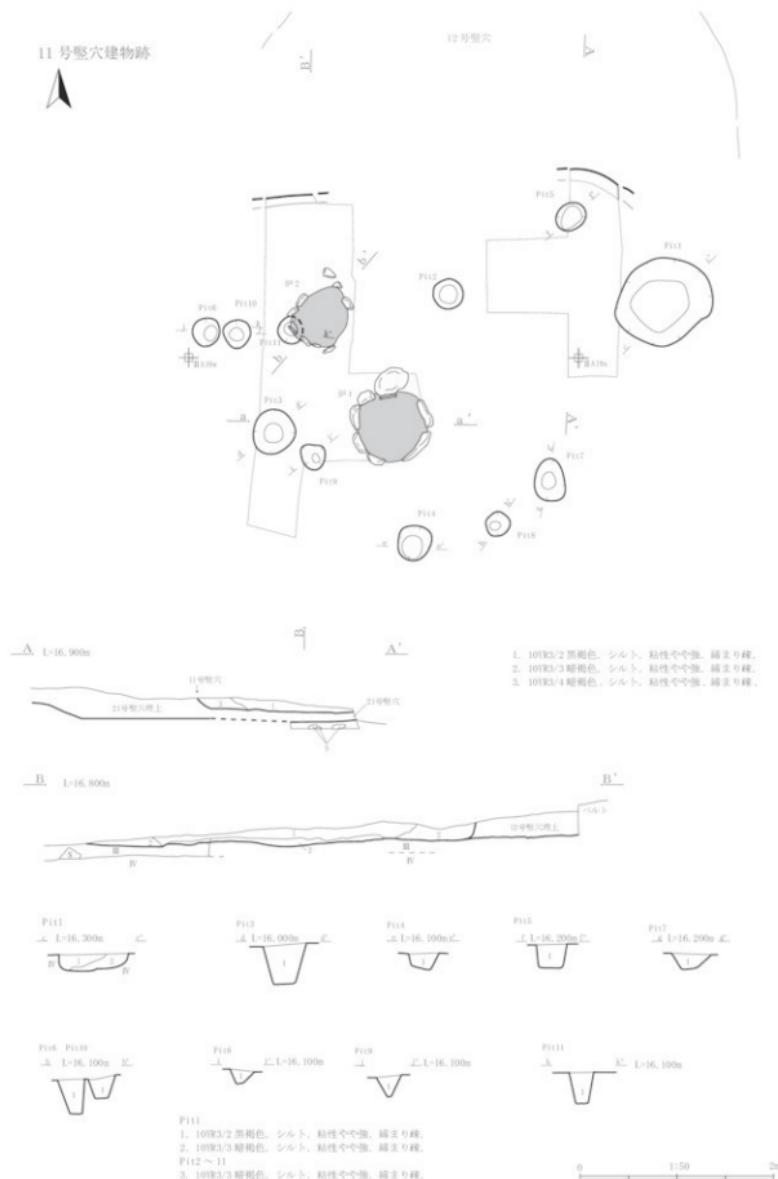
11号竪穴建物跡（第22・23図、写真図版15）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A18w付近に位置する。III層下位を精査中に石窯炉を検出した。周囲に残していた土層観察用のベルトを精査したところ、III層下位からの掘り込みと暗褐色シルトの落ち込み、平坦な床面を検出した。掘り下げたところ、ベルト部分のみで平坦な床面と壁面を確認した。柱穴は床面では検出できず、すべてⅣ層上面まで掘り下げて検出した。〔規模・形状〕一部の検出のみで不明である。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。〔壁・

10号堅穴建物跡



第21図 10号堅穴建物跡



第22図 11号竪穴建物跡 (1)

床面】壁は急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。【炉】石圓炉1は円形で、石圓炉2は方形の石圓炉である。石圓炉2は石組みの多くが抜き取られていることから、石圓炉2が古く、石圓炉1が新しい。石圓炉1の石組みは円形に溝を掘り込んだ部分に礫を7個配置し構築している。石組みは北東側の一部で途切れしており、抜き取られた可能性がある。礫はすべて扁平な中角礫で、石質は風化花崗岩が6点、砂岩が1点である。石圓炉2の石組みは長方形に溝を掘り込んだ部分に礫を配置し構築している。石組みは南西側と北西側、南東側と北東側の1点が構築時の状態で残され、その他は抜き取っていると考える。【柱穴】主柱穴はPit 2～4・7の4本柱である。Pit 5・6・8～10は支柱穴または建替えと考える。【付属施設】Pit 1は円形で浅い皿状の土坑である。埋土は自然堆積と考える。【重複関係】12号竪穴、13号竪穴より新しい。柱穴の配置から9号竪穴と重複関係にあった可能性が高いが、周囲を掘り下げてしまったため不明である。【出土遺物】床面から縄文土器P319～322・424、石鎚S052、敲磨器S277等が出土している。その他石鎚S053等。【帰属時期】床面の出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 勝)

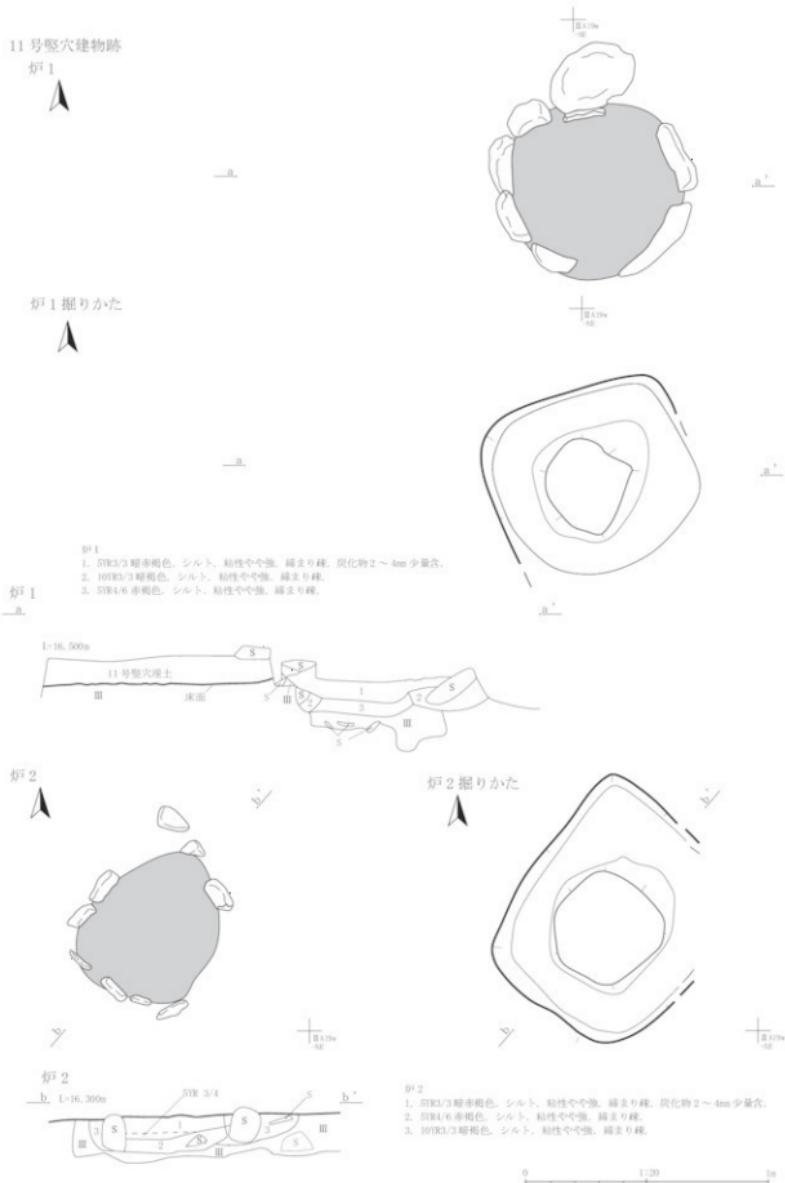
12号竪穴建物跡（第24図、写真図版16）

【位置・検出状況】調査区中央、II A18w付近に位置する。III層下位を精査中に石圓炉を検出した。周囲に残していた土層観察用のベルトを精査したところ、III層下位からの掘り込みと暗褐色シルトの落ち込み、平坦な床面を検出した。掘り下げたところ、ベルト部分と北側に掘り残していた場所で平坦な床面と壁面を確認した。柱穴は床面では検出できず、すべてIV層上面まで掘り下げて検出した。【規模・形状】一部のみの検出で不明であるが、5m前後の幅を持つ楕円形の可能性が考えられる。【埋土・堆積状況】堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。【壁・床面】壁は急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。【炉】石圓炉1は円形の石圓炉である。中央から南西側に片寄っている。石組みは円形に溝を掘り込んだ部分に礫を12個配置し構築している。礫はすべて扁平な中角礫で、石質はすべて風化花崗岩である。【柱穴】主柱穴はPit 2～7の6本柱である。Pit 8は支柱穴と考える。【付属施設】Pit 11は円形で浅い皿状の土坑である。埋土は自然堆積と考える。【重複関係】11号竪穴より古く、13号竪穴より新しい。【出土遺物】床面から縄文土器P329・330、台石S367等が出土している。その他、石鎚S054・055、石匙S142、敲磨器S278等。【帰属時期】床面の出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると考えられる。

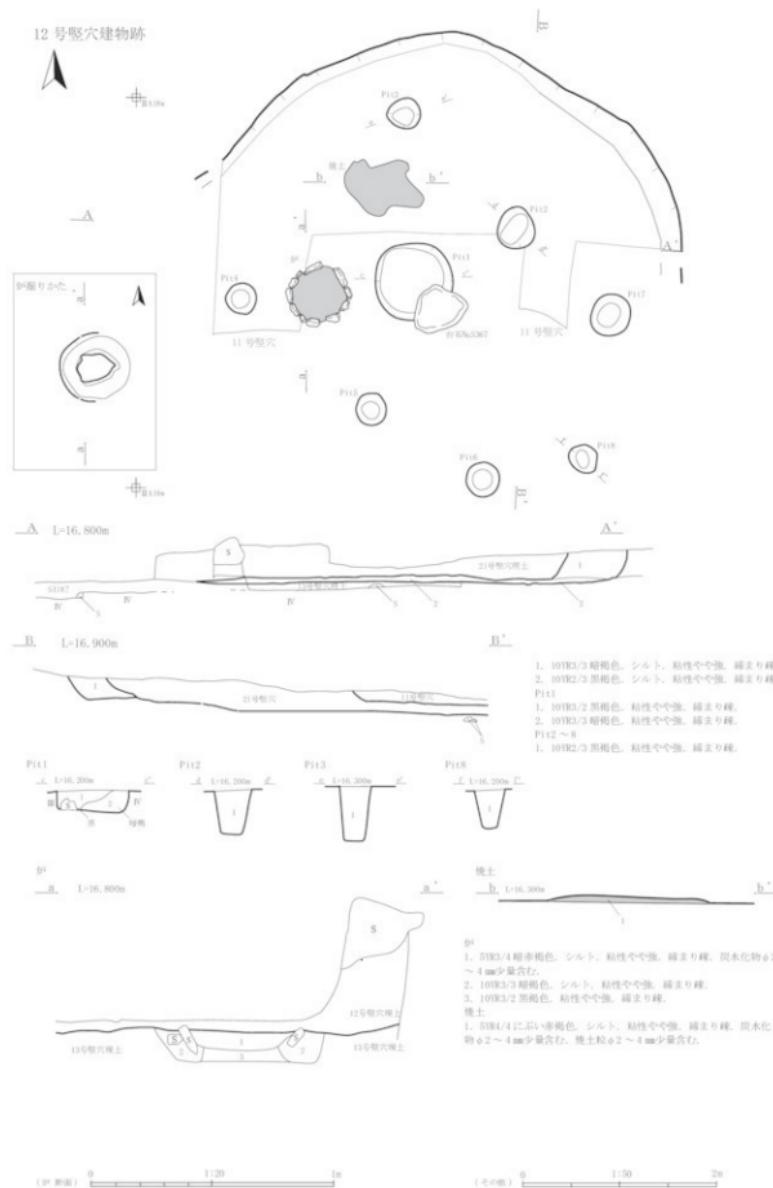
(佐藤 勝)

13号竪穴建物跡（第25図、写真図版17）

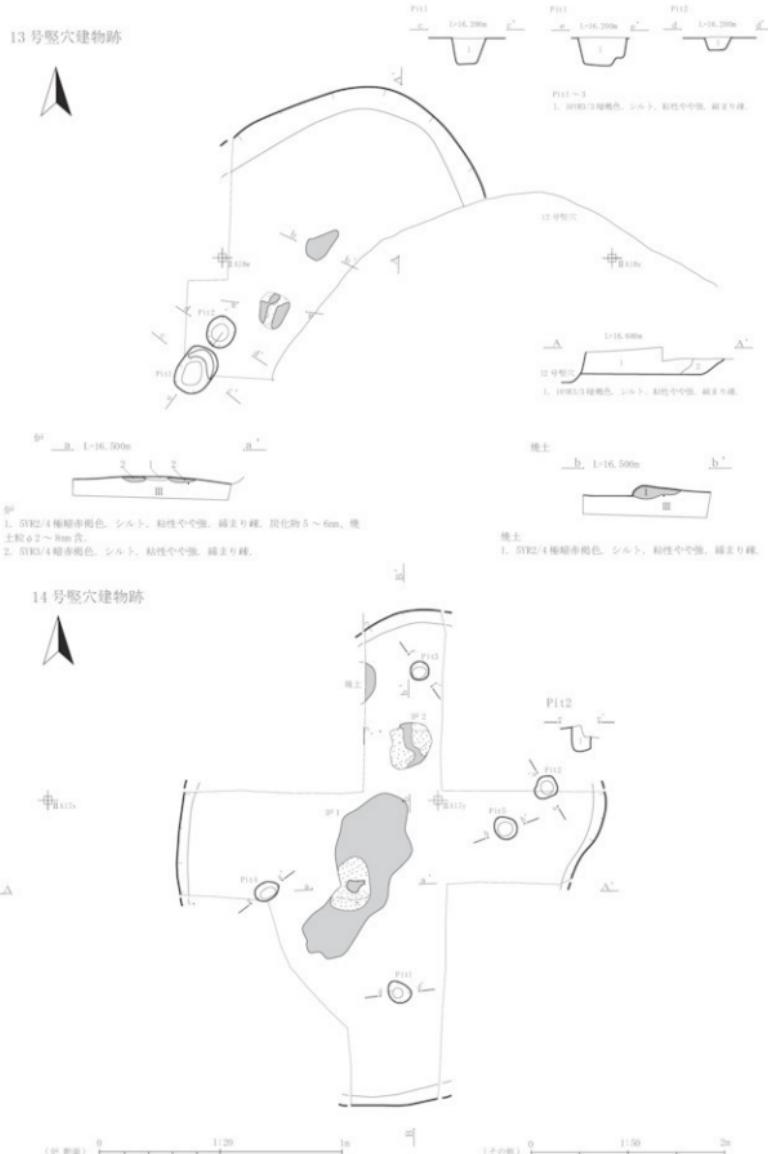
【位置・検出状況】調査区中央、II A17w付近に位置する。III層下位を精査中に地床炉を検出した。周囲に残していた土層観察用のベルトを精査したところ、III層下位からの掘り込みと暗褐色シルトの落ち込み、平坦な床面を検出した。掘り下げたところ、ベルト部分と北側に掘り残していた場所で平坦な床面と壁面を確認した。柱穴は床面では検出できず、すべてIV層上面まで掘り下げて検出した。【規模・形状】一部の検出のみで不明であるが、楕円形または隅丸長方形の可能性が高い。【埋土・堆積状況】堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。地床炉に近接する床面には、細かい炭化物と焼土粒が混じって堆積していた。焼成（燃焼？）面が見られないことから、地床炉からの灰を搔き出したものの可能性がある。【壁・床面】壁はやや急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。【炉】炉1は不整形な地床炉である。【柱穴】主柱穴はPit 1またはPit 2である。1本柱と考えるが、長軸上に組み合う2本柱を検出できなかった可能性もある。Pit 1は埋土と形状から抜き取られたと考えられるため、Pit 2は建替えである。【付属施設】検出しなかった。【重複関係】12号竪



第23図 11号堅穴建物跡 (2)



第24図 12号堅穴建物跡



第25図 13号竪穴建物跡・14号竪穴建物跡（1）

穴より古い（11号竪穴B-B'参照）。〔出土遺物〕床面から縄文土器P332等が出土している。〔帰属時期〕遺構の重複関係と床面の出土遺物から縄文時代前期に帰属すると考えられる。

(佐藤 純)

14号竪穴建物跡（第25・26図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A17y付近に位置する。III層下位を精査中に地床炉（炉1）を検出した。周間に残していた土層観察用のベルトを精査したところ、III層下位からの掘り込みと暗褐色シルトの落ち込み、平坦な床面を検出した。掘り下げたところ、ベルト部分と南西側の一部で床面を確認し、ベルト部分のみで壁面を確認した。さらに、床面で地床炉（炉2）と柱穴を検出した。〔規模・形状〕5m×4.3mで、一部の検出のみであるが、楕円形の可能性が高い。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。炉2に近接する床面には、細かい炭化物と焼土粒が混じって堆積していた。焼成（燃焼？）面が見られないことから、地床炉からの灰を掻き出したものの可能性がある。〔壁・床面〕壁はやや急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。〔炉〕炉1と炉2は両者とも不整形な地床炉である。炉1は中央に位置し、炉2は北側に片寄っている。〔柱穴〕主柱穴はPit1～4の4本柱である。Pit5は支柱穴または建替えと考える。〔付属施設〕検出しなかった。〔重複関係〕平面での観察から、15号竪穴より新しい。〔出土遺物〕床面から縄文土器P334、石錫S056等が出土している。その他、敲磨器S279等。〔帰属時期〕遺構の重複関係と床面の出土遺物から縄文時代前期中葉から後葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 純)

15号竪穴建物跡（第27図、写真図版19）

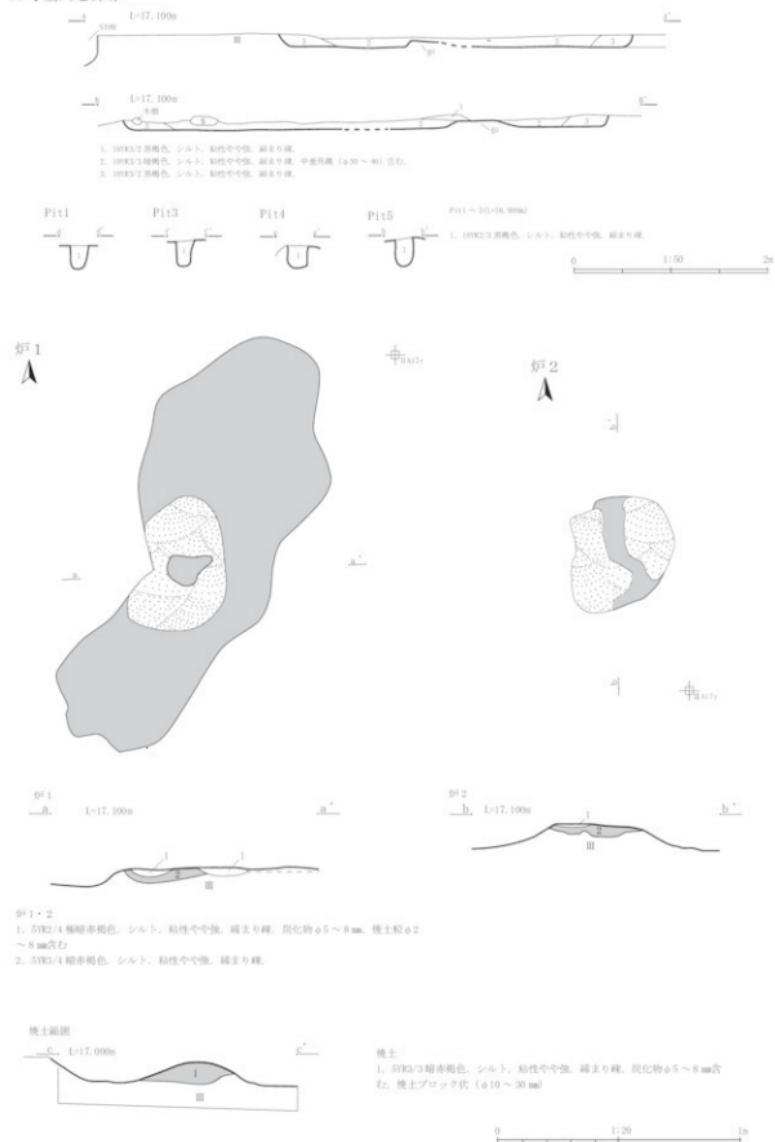
〔位置・検出状況〕調査区中央、II A17x付近に位置する。III層下位を精査中に地床炉を検出した。周間に残していた土層観察用のベルトを精査したところ、III層下位からの掘り込みと暗褐色シルトの落ち込み、平坦な床面を検出した。掘り下げたところ、ベルト部分と南西側の一部で床面を確認し、壁面を確認した。柱穴は床面では検出できず、すべてIV層上面まで掘り下げて検出した。〔規模・形状〕5.2m×4.6mで、一部の検出のみであるが、楕円形の可能性が高い。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。〔壁・床面〕壁はやや急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。〔炉〕炉は不整形な地床炉である。炉は中央からやや前側に片寄っている。〔柱穴〕主柱穴はPit1・4～6の4本柱である。Pit2・3・7は支柱穴または建替えと考える。〔付属施設〕検出しなかった。〔重複関係〕平面での観察から14号竪穴より古い。位置から9号竪穴と重複関係にあった可能性が高いが、周間の西側を掘り下げてしまつたため不明である。〔出土遺物〕縄文土器P335～337等が出土している。〔帰属時期〕遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期中葉から中期前葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 純)

16号竪穴建物跡（第28図、写真図版20）

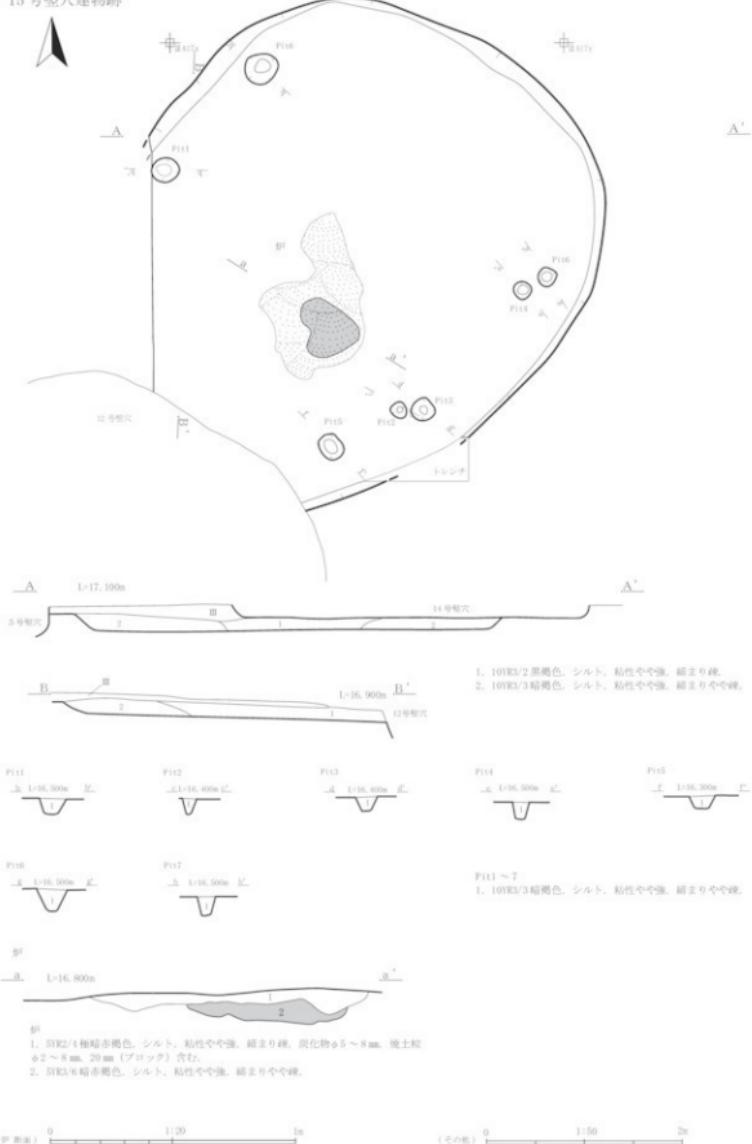
〔位置・検出状況〕II A15x付近に位置する。III層下位を精査中に地床炉（炉1）を検出した。周間に残していた土層観察用のベルトを精査したところ、III層下位からの暗褐色シルトの落ち込みと平坦な床面を検出した。掘り下げたところ、ベルト部分と北側で床面を確認した。床面では土坑（Pit1）を検出した。柱穴は床面では検出できず、すべてIV層上面まで掘り下げて検出した。先に周間を掘り下げてしまっていたことと、巨礫が点在していたため、壁は確認できなかった。〔規模・形状〕一部の検出のみで不明である。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。〔壁・床面〕床面はほぼ平坦である。〔炉〕炉1は不整形な地床炉である。炉1は主柱穴の配置

14号堅穴建物跡

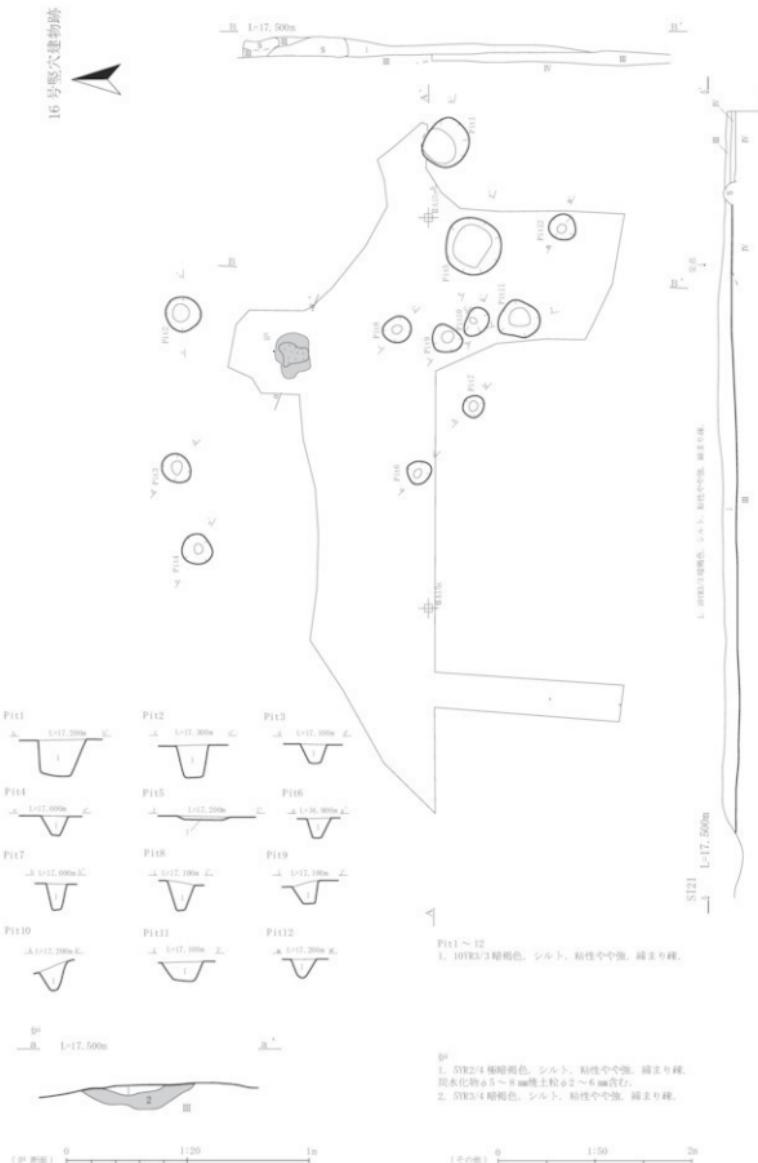


第26図 14号堅穴建物跡（2）

15号堅穴建物跡



第27図 15号堅穴建物跡



第28図 16号壁穴建物跡

に対して南東側に片寄っている。〔柱穴〕主柱穴はPit 1～4・11の5本である。Pit 11の南西側は、先にIV層まで掘り下げてしまったことと、微地形で南側に傾斜していることから、1本を検出できなかつた6本柱と考える。Pit 1・11は他と比較して大型のもので、周囲が微地形で傾斜していることから低い側に大型の柱を立てた可能性がある。南東側のPit 5の周間にPit 6～10・12が不規則にまとまって分布する。Pit 10・12は先端がやや尖るものである。〔付属施設〕Pit 5は円形で浅い皿状の土坑である。埋土は自然堆積と考える。〔重複関係〕なし。〔出土遺物〕縄文土器P338・339・562等が出土している。〔帰属時期〕出土遺物から縄文時代前期中葉から後葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 伸)

17号堅穴建物跡（第29図、写真図版21）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A22tに位置する。8号堅穴建物跡精査時に、重複する遺構の広がりを確認しサブトレンチを設定し土層断面で検出を行った。〔規模・形状〕およそ3.9×3.5mの円形を呈する。床面までの残存深度は59cm前後である。〔埋土・堆積状況〕埋土下位に厚く堆積するのは、土器を大量に包含するⅢa層に似る灰褐色シルトである。埋土上位の黒褐色シルトは草根を多量に残し、乾きやすい。〔壁・床面〕直立気味に外傾する。床面は、25号堅穴の埋土である黒褐色シルトが硬く締まり平坦である。〔炉〕北東よりに石圓炉を検出した。70×40cmほどの規模で石組は横長に配置される。石組は風化した花崗岩等を用いているが、一部抜けている部分が認められた。燃焼面は床面とほぼ同じ高さで、焼成の良い焼土が石組内に堆積していた。燃焼面上では、縄文土器深鉢の底部が出土している。掘りかたは、石組の規模とほぼ同じで、床面からの深さは12cmほどの浅鉢状のため石組みの重鎮が弱い。〔柱穴〕2個検出されたが、南側でこれらに対応する柱穴は検出されなかつた。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕8号・10号・20号堅穴建物跡、沢跡を切る。4号堅穴建物跡に切られる。〔出土遺物〕石斧S220等が出土している。〔帰属時期〕遺構の重複関係から、縄文時代中葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

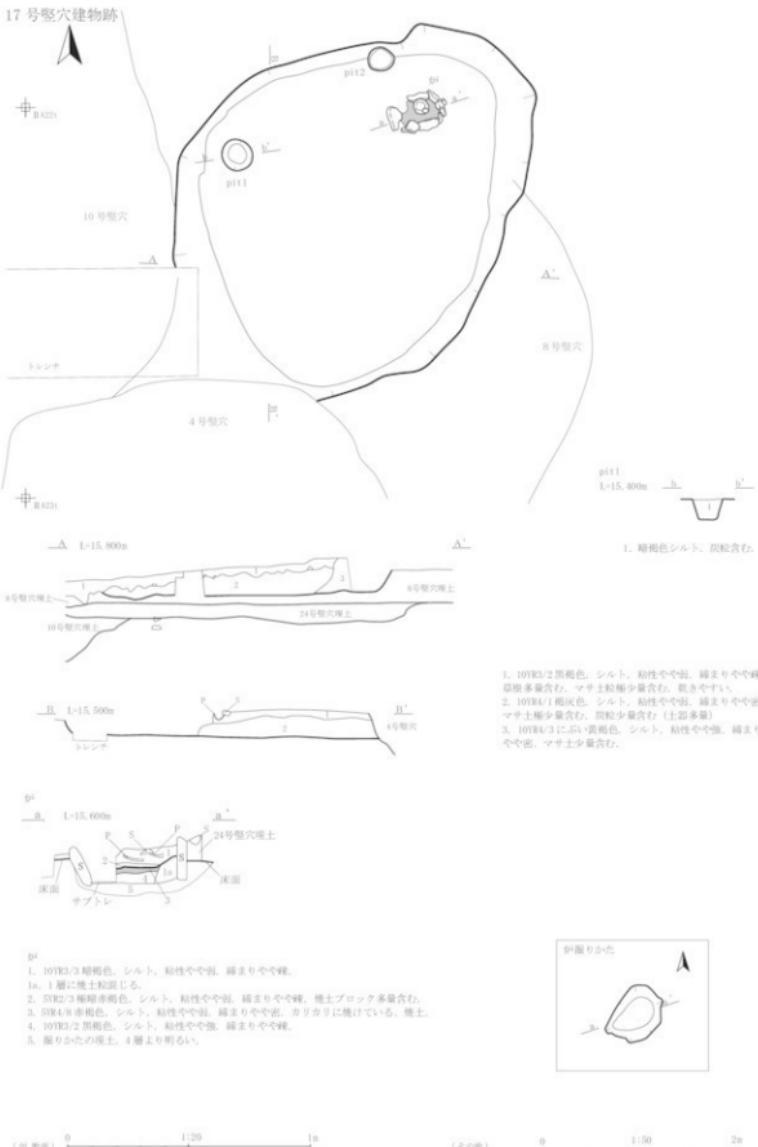
18号堅穴建物跡（第30図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕調査区北、II B13c～II B14cグリッドで、Ⅲ層下位からIV層を掘り下げ中、V層面で黒褐色土の広がりとして検出した。東側が調査区域外にかかる。遺構の多くの部分は、調査区域外の東側にあると推測される。堅穴建物跡全体の西端部のみを確認したにすぎない。〔規模・形状〕検出した範囲で、開口部4.6×0.6m以上、床面4.4×0.4m以上と推定される。確認された一辺は直線的であり、平面形は方形または長方形と推測される。残存する壁高は30cmである。〔埋土・堆積状況〕主に黒褐色土で構成される。〔壁・床面〕壁は直立して立ち上がる。床面はV層の黄褐色土層面を掘り込んでつくられており、ほぼ平坦である。西壁際の床面に不規則ながら周溝が巡るようである。周溝は上幅20～15cm、下幅10～8cm、深さ10～15cmである。〔炉〕検出した範囲では確認されなかつた。〔柱穴〕確認されていない。配置は不明である。調査区域外にあるものと推測される。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕埋土中に2号焼土遺構が形成されていた。18号堅穴建物跡の埋没後に形成された焼土である。18号堅穴建物跡（旧）→2号焼土遺構（新）の関係がある。〔出土遺物〕西壁際の埋土中より敲磨器S280～282が出土した。なお、当該遺構の検出面で周辺から縄文時代前期の土器が出土した。〔帰属時期〕遺構の形状と出土遺物から、縄文時代前期前葉から中葉と推測される。

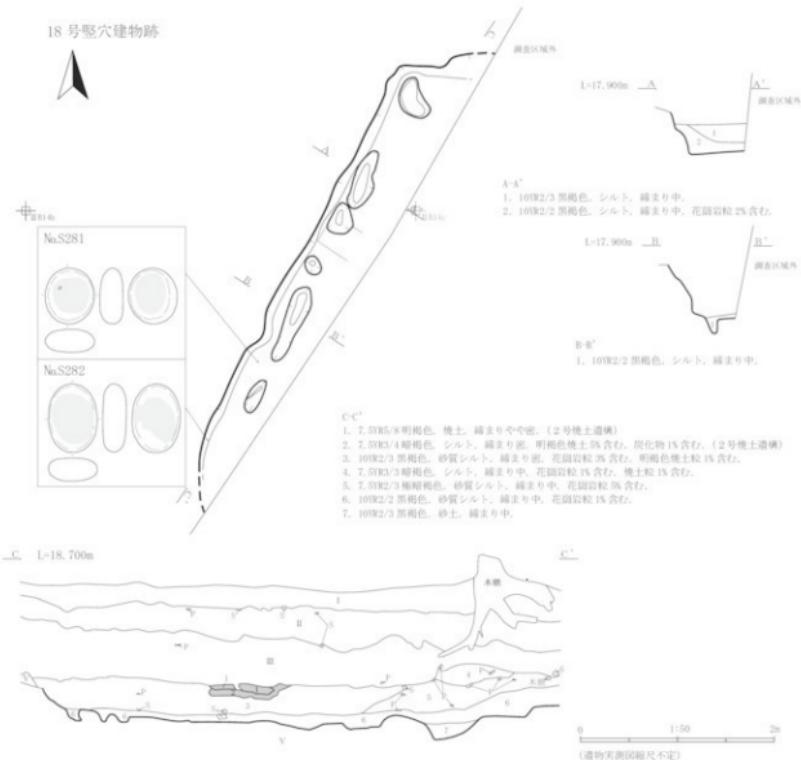
(河原 篤明)

19号堅穴建物跡（第31図、写真図版23）

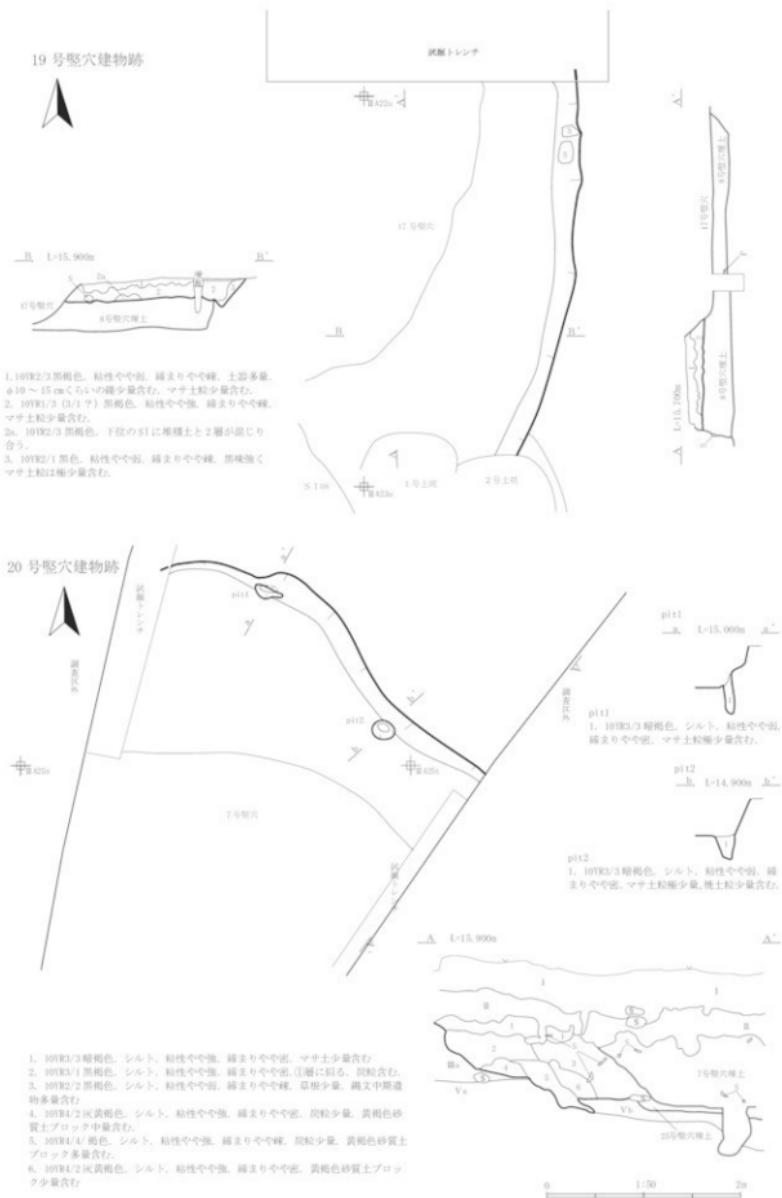
〔位置・検出状況〕調査区南、II A22uに位置する。8号堅穴建物跡精査時に、硬く締まる範囲を広



第29図 17号壁穴建物跡



第30図 18号竪穴建物跡



第31図 19号竪穴建物跡・20号竪穴建物跡

げたところ、床面の土色が大きく変化する部分を確認した。8号竪穴の埋土が硬く締まる範囲と水平に、地山のVb層に近い黄褐色シルトがしまる範囲を検出し、重複する遺構として検出した。〔規模・形状〕大半を、竪穴が重複しており全容は不明である。床面までの残存深度は33cm前後である。〔埋土・堆積状況〕埋土下位に堆積するのは、黒褐色シルトである。一部床面下の8号竪穴の埋土と混じる様相を示す。壁際の堆積土はより黒味を増す。埋土上位の黒褐色シルトには土器を多量に包含している。〔壁・床面〕外傾する。北側の壁から張り付くように礫が2個並んで出土している。床面は、硬く締まり平坦である。〔炉〕検出されなかった。重複する竪穴によって消失していると考えられる。〔柱穴〕検出されなかった。〔付属施設〕B断面において、壁際に落ち込みを確認している。しかし、平面的に床面から周溝のようなものは検出されなかった。〔重複遺構〕4号・20号竪穴建物跡、1号・2号土坑に切られる。1号竪穴建物跡を切る。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕遺構の重複関係から縄文時代中期中葉以前に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

20号竪穴建物跡（第31図、写真図版24）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A24sに位置する。7号竪穴同様に、調査区南端部では、中央部とは違う様相の堆積土が広がり、大量に縄文土器が含まれているのを表土掘削時に確認しており、調査区際をVb層まで掘り込み、調査区壁での土層断面において遺構の検出を行った。〔規模・形状〕大半を、7号竪穴に切られ全容は不明である。床面までの残存深度は49cm前後である。〔埋土・堆積状況〕埋土の主体となるのは、縄文時代中期の土器片を多量に包含する黒褐色シルトである。壁際には、明るい褐色シルトが堆積し、黄褐色砂質土がブロック状に含まれ、壁の崩落土の様相を示す。〔壁・床面〕外傾する。床面は、一部地山のVb層が硬く締まり平坦である。〔炉〕検出されなかった。重複する7号竪穴によって消失していると考えられる。〔柱穴〕壁際に2個検出した。土層断面上でも、壁際に柱穴状の掘り込みを確認している。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕7号竪穴建物跡に切られる。25号竪穴建物跡を切る。〔出土遺物〕床面から、敲磨器S285・286等が出土している。〔帰属時期〕遺構の重複関係から、縄文時代中期前葉から中葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

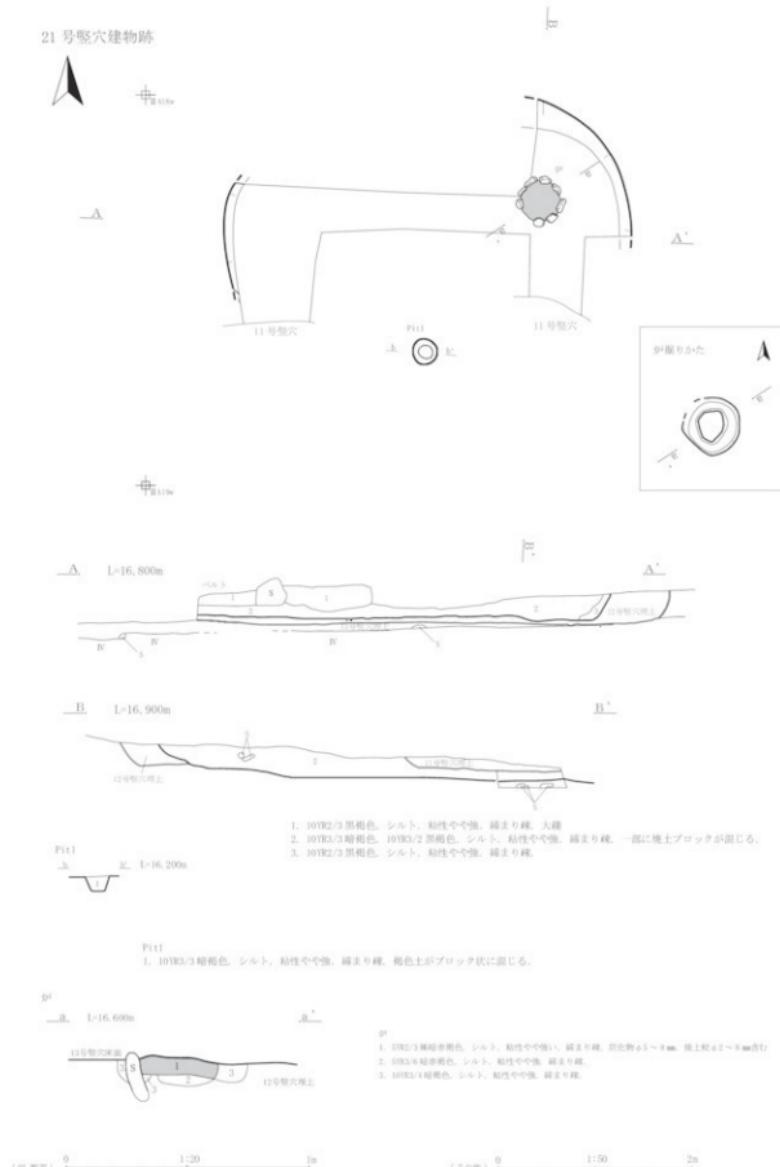
21号竪穴建物跡（第32図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A18w付近に位置する。12号竪穴の東側を精査中に石圓炉を検出した。周間に残していた土層観察用のベルトを精査したところ、Ⅲ層下位からの掘り込みと暗褐色シルトの落ち込み、平坦な床面を検出した。北西側は12号竪穴を先行して調査したため、床面を掘り抜き消失させてしまった。柱穴は床面では検出できず、すべてIV層上面まで掘り下げて検出した。〔規模・形状〕一部の検出のみで全体像は不明であるが4.2mの幅をもつ円形もしくは梢円形の遺構と考えられる。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。〔壁・床面〕床面はほぼ平坦である。〔炉〕石圓炉1は円形の石圓炉である。北東側の壁際に片寄っている。石組みは円形に溝を掘り込んだ部分に礫を8個配置し構築している。礫はすべて扁平な中角礫で、石質は風化花崗岩6点、砂岩1点等である。〔柱穴〕主柱穴はPit1の1本柱である。〔付属施設〕検出しなかった。〔重複関係〕12号竪穴より新しい。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕遺構の重複関係から縄文時代中期前葉から中葉に帰属すると考えられる。

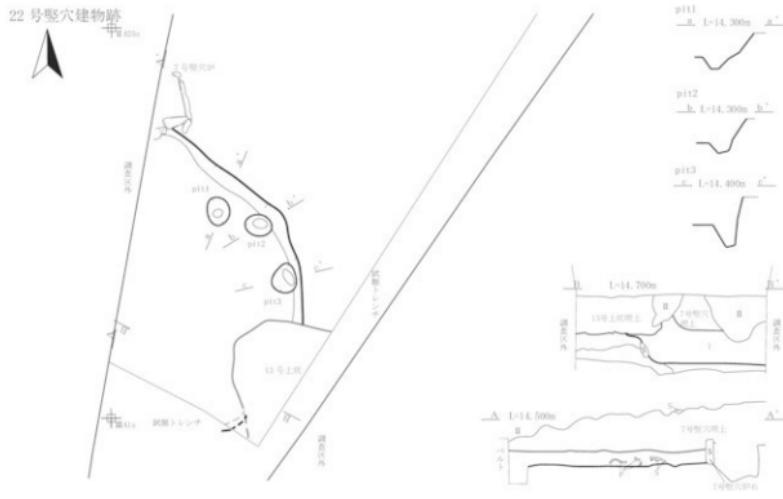
(佐藤 あゆみ)

22号竪穴建物跡（第33図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A25sに位置する。7号竪穴の床面精査時に、暗褐色の弧状プラン

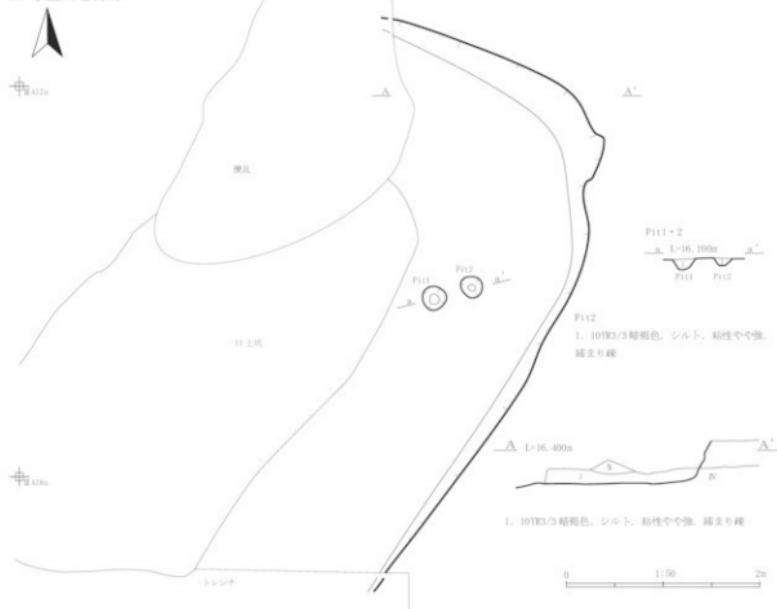


第32図 21号竪穴建物跡

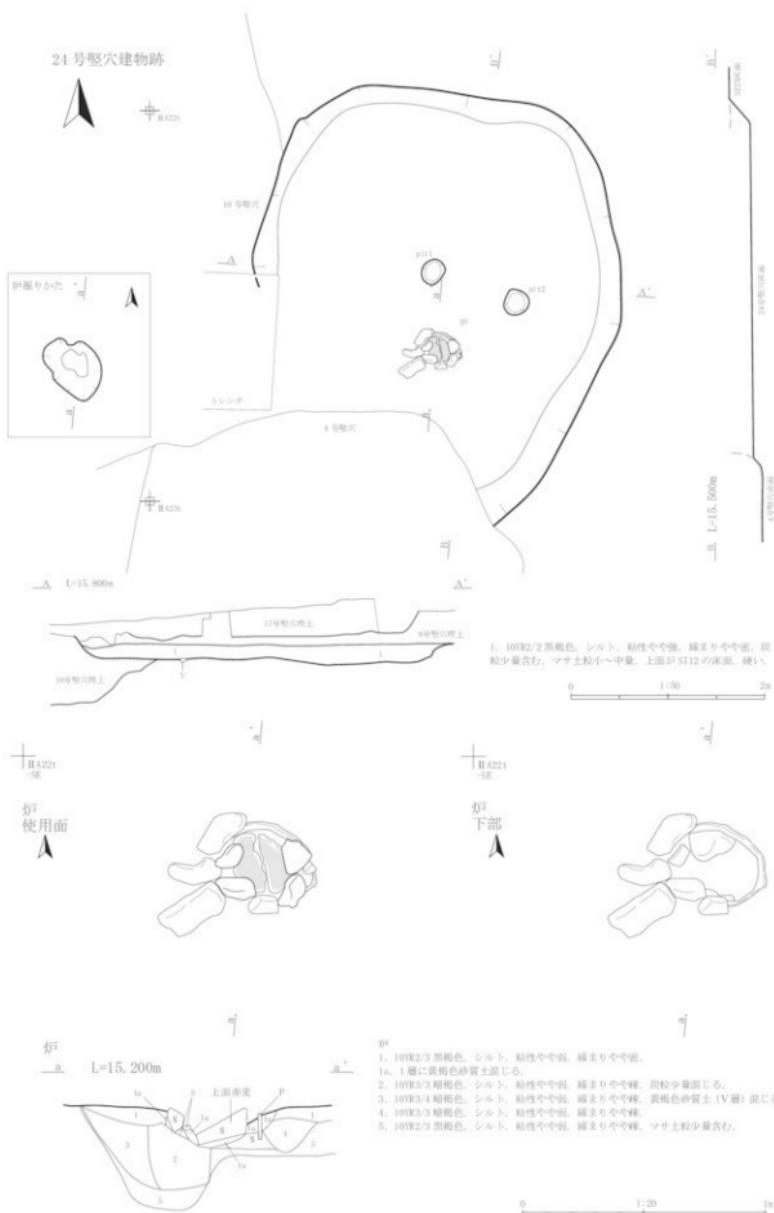


I. 10TR3/4暗褐色、シルト、粘性やや強、締まりやや硬、調査区西側部に土器・瓦中量含む、砂混じり。

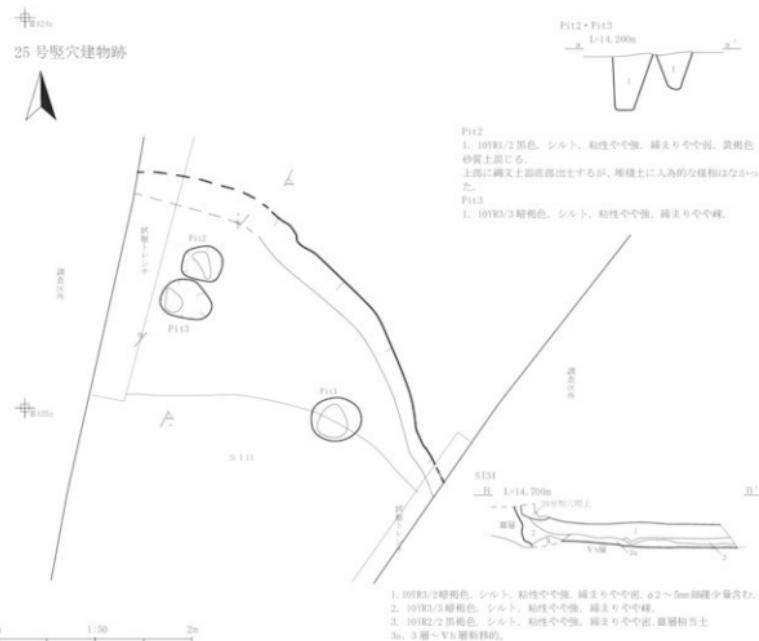
23号竪穴建物跡



第33図 22号竪穴建物跡・23号竪穴建物跡



第34図 24号窓穴建物跡



第 35 図 25 号竪穴建物跡

として検出した。〔規模・形状〕大半が調査区外にかかり全容は不明である。床面までの残存深度は 28cm 前後である。〔埋土・堆積状況〕埋土の主体となるのは、縄文時代の前期の土器片が含まれる暗褐色シルトである。〔壁・床面〕外傾する。床面は、地山の Vb 層が平坦となる。〔炉〕検出されなかつた。〔柱穴〕壁際に小柱穴を 3 個検出した。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕7 号竪穴建物跡、14 号土坑に切られる。〔出土遺物〕埋土から有孔石製品 G014 が出土している。〔帰属時期〕遺構の重複関係と出土遺物から縄文時代前期後葉から中期前葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

23 号竪穴建物跡（第 33 図、写真図版 27）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A17 v 付近に位置する。III 層下位を精査中に暗褐色シルトの落ち込みを検出した。掘り下げたところ、平坦な床面と壁を確認した。さらに床面で柱穴を検出した。

〔規模・形状〕一部の検出のみで不明であるが、11 号土坑と攪乱の西側には括がっていないため、楕円形または隅丸長方形の可能性がある。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、暗褐色シルトを主体とする。〔壁・床面〕壁はやや急角度に立ち上がり、床面はほぼ平坦である。〔炉〕検出しなかつたが、先に調査した 1 号焼土遺構は、位置とレベルを考慮し、本遺構に期属する可能性がある。〔柱穴〕主柱穴は Pit 1 または Pit 2 で、他の方は支柱穴または建替えと考える。周囲の 11 号土坑と攪乱の掘り込みのため、他の柱穴は消失している可能性がある。〔付属施設〕検出しなかつた〔重複関係〕

平面での観察から3号竪穴と11号土坑より古い。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。
〔帰属時期〕重複関係から縄文時代中期中葉以前と考えられる。

(佐藤 あゆみ)

24号竪穴建物跡（第34図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕南部、II A22tに位置する。17号竪穴同様に、8号竪穴精査時、重複する遺構の広がりを確認しサブトレーニングを設定し土層断面で検出を行った。〔規模・形状〕 4.4×3.8 mの円形を呈する。床面までの残存深度は34cm前後である。〔埋土・堆積状況〕埋土の主体となるのは、上面を8号竪穴によって削平されているため、床面直上に堆積する黒褐色シルトのみ確認できた。〔壁・床面〕緩やかに外傾する。床面は、地山のVb層が硬く締まり概ね平坦である。〔炉〕中央付近で土器埋設炉を検出した。床面精査時、不規則な配置の石組みを確認したが焼土は認められなかった為、掘り下げを行った所、綾織文が施された深鉢の体部が輪切りされたような状態で埋められていた。土器内には20~30cmほどの礫2個がすっぽりと取まり、平坦面が揃えられていた。平坦面の上に焼土の堆積は認められなかったが、赤く被熱していた。周囲の礫を抜き取り掘り下げる際には、焼土ブロックが少量堆積しているのを確認している。掘りかたは、 70×48 cmの不整形な平面形で、深さも南側が深くなる不均一な坑である。〔柱穴〕中央付近に2個検出している。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕4号・8号竪穴建物跡に切られ、10号竪穴建物跡を切る。〔出土遺物〕炉からP272、P274。埋土下位から石錐S058、059等が出土している。その他、石匙S123、スクレイバーS160等。P274は、埋設炉となっていた土器である。〔帰属時期〕遺構の重複関係と埋設炉の土器から縄文時代中期前葉に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

25号竪穴建物跡 SI34（第35図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A25sに位置する。7号竪穴同様、調査区南端部では、中央部とは違う様相の堆積土が広がり、大量に縄文土器が含まれているのを表土掘削時に確認しており、調査区際をVb層まで掘り込み、調査区壁での土層断面において遺構の検出を行った。〔規模・形状〕東西を調査区外にかかり、南側は7号竪穴で消失しているため形状は不明である。床面までの残存深度は49cm前後である。〔埋土・堆積状況〕床面直上に堆積するのは、Vb層に似る黄褐色シルトが混じった黒褐色シルトである。壁際には、締まりがやや疎い暗褐色シルトが堆積する。〔壁・床面〕壁は、直立気味に立ち上がる。床面は、Vb層が硬く締まり、平坦である。〔炉〕検出されなかった。重複する7号竪穴により消失していると考えられる。〔柱穴〕北側に2個並んで検出している。〔付属遺構〕なし。〔重複遺構〕7号・20号竪穴建物跡に切られる。〔出土遺物〕石錐S060、敲磨器S287等。〔帰属時期〕遺構の重複関係から縄文時代中期中葉以前に帰属すると考えられる。

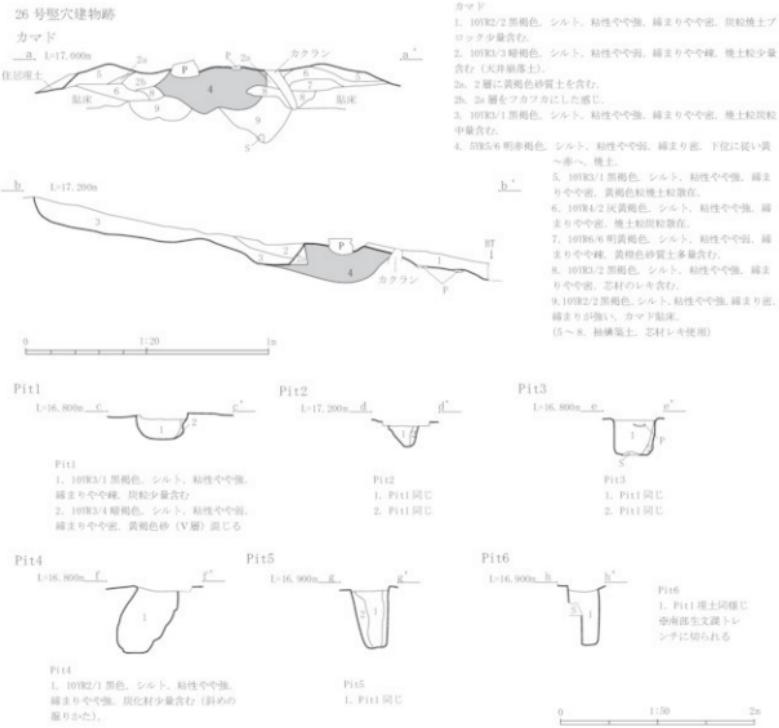
(佐藤 あゆみ)

26号竪穴建物跡（第36図・37図、写真図版30・31）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A16xに位置する。Ⅲ層上位で、Ⅲ層とは違う様相の黒色土の広がりを確認し、検出作業で方形のプランと、北側に黄褐色土ブロックを確認した。また、その際に土器が出土している。〔埋土・堆積状況〕北側の床面直上には、粘性がやや弱い黒褐色シルトが薄く堆積する。その上に炭化材が一定の塊となって検出されたが、脆い炭で材の種類は特定できていない。埋土の主体となる黒色シルトはⅡ層である。〔規模・形状〕 6.5×6.4 mの隅丸方形を呈する。〔壁・床面〕壁は、南側が消失しているが、北側で深さ約55cmを測る。床面は貼り床の黒褐色シルトの硬化が顯著で平坦である。〔カマド〕北側の壁、中央付近に検出した。カマド内には、非常に良く



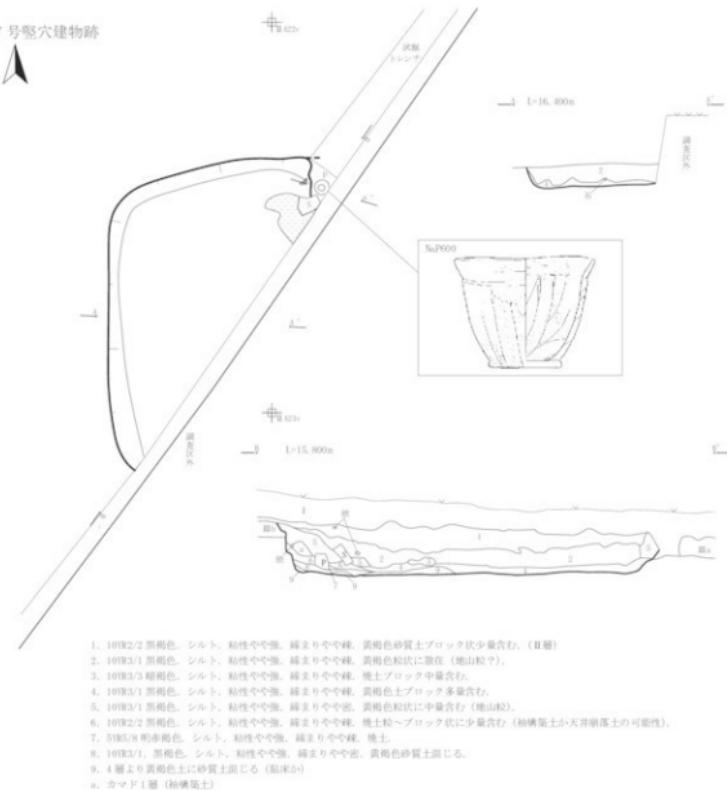
第36図 26号竪穴建物跡（1）



第37図 26号堅穴建物跡（2）

焼成された焼土が厚く堆積し、上位から下位に従い、黄色から赤色と変化する。燃焼面中央には、壺の底部が支脚として設置される。カマド袖は表面が黒褐色であるが、内部は黄褐色～灰黄褐色シルトで、Vb層と考えられる黄褐色砂質シルトが多く含む。袖の芯材には10～15cmほどの礫が複数使用される。表土除去中にカマド構築土と思われる黄褐色土ブロックや、焼土がすでに見られており、カマドの上部はほとんど削平されている。そのため、カマド袖は床面に近い部分しか残っていないため、カマドの全容は不明であり、これは、煙道部も同様で煙出し部の様相も不明である。〔柱穴〕床面精査時に主柱穴（PIT1～6）を検出し、PIT1～3・6、PIT4・5それぞれ堆積土が同じであった。直径は40～70cmほどで、深さ30～65cmを測る。〔付属施設〕北角壁際に、20～30cm大の礫が多数出土しその下に土師器甕が潰れた状態で複数出土している。その中から貝殻やウニの棘が出土している。これらの礫、土師器、貝殻はすべて混じりあって堆積しているというよりも、床面直上に土師器、その中に貝殻、その上に堆積土と共に礫が入り込んでいる状況であった。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕床面から土師器P591・597・598敲磨器S233、紡錘車G006・008、鉄鎌G032～034、カマドからP585～590等が出土している。その他石鎌S001・002、敲磨器S232・234・349、砥石S352、紡

27号壁穴建物跡



カマド(軸の一部)



第38図 27号壁穴建物跡

鍾車G007、棒状の石製品G018・019、刀子G035等。〔帰属時期〕床面の出土遺物から7世紀末～8世紀前半に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

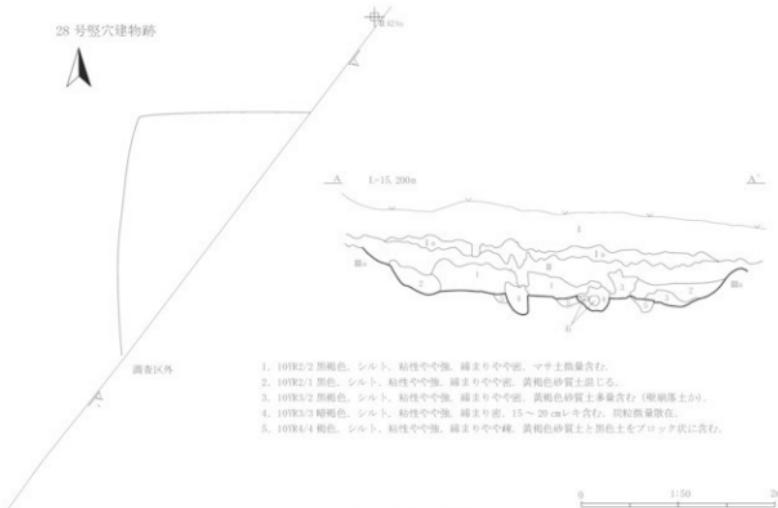
27号竪穴建物跡（第38図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A22v調査区際に位置する。当初、IIIa層下位で黒褐色の広がりを繩文の竪穴と認識したが、検出作業で方形の角を確認し、堆積土の様相から古代の竪穴として精査に着手した。〔埋土・堆積状況〕床面直上に堆積するのは、しまりがやや疊い黒褐色シルトであり、北側は黄褐色砂質土が混じる。主体となるのは、II層土でVa層を少量含む。人為的な堆積は認められない。〔規模・形状〕遺構東側は調査区の外にかかり、全容は不明であるが、カマドの位置を壁の中心として考えた場合、4×4mの方形を呈すると考えられる。残存深度は、30cm前後である。〔壁・床面〕壁は外傾気味に直立する。床面はVa層が縮まり概ね平坦である。〔カマド〕北側の壁で検出した。カマド東側および燃焼面、煙道は調査区外にかかり、左袖のみの検出である。袖内には、土師器の小甕が伏せて設置され芯材となっている。地山のVa層の上に、暗褐色～黒褐色土で構築されている。〔柱穴〕検出されなかった。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕カマド芯材としてP600が出土している。〔帰属時期〕カマド芯材の土師器から7世紀末～8世紀前半に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

28号竪穴建物跡（第39図、写真図版3）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A24t調査区際に位置する。Va層まで掘り下げを行った際に調査区壁で遺構の存在を確認した。〔埋土・堆積状況〕床面直上に堆積する黒褐色シルトは、一部で黄褐色土を含む。主体となるのは、II層土であり、この堆積状況で古代の遺構と認識した。〔規模・形状〕調査区外にかかるため全容は不明であるが、方形を呈すると考えられる。27号竪穴と角度が類似する。〔壁・床面〕断面からの観察で、壁は、外傾気味、床面は壁際が若干低くなるが概ね平坦と考え



第39図 28号竪穴建物跡

られる。〔カマド〕検出されなかった。調査区外に存在する可能性がある。〔柱穴〕検出されなかつたが、土層断面で柱穴状に落ち込む4層を確認している。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕なし。〔帰属時期〕堆積土の様相から古代に属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

29号竪穴建物跡（第40図、写真図版33）

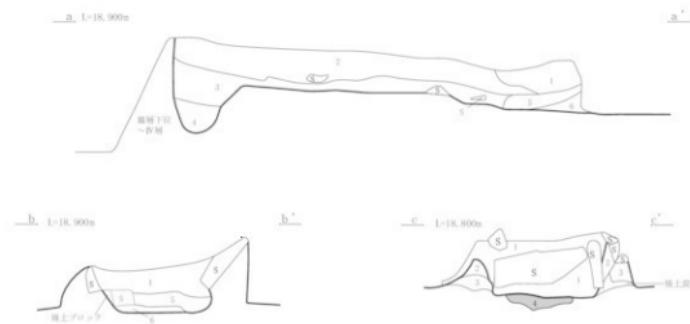
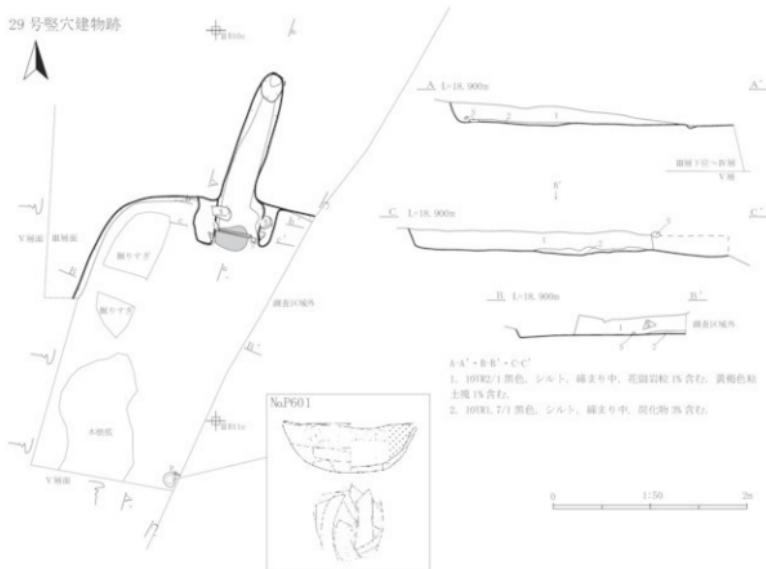
〔位置・検出状況〕調査区北、II B 10d・10eグリッドを中心とした範囲で、花崗岩粒を含み締まりの強い黒褐色土のⅢ層中で、黒色土の方形基調の広がりとして検出した。東側は調査区外にかかる。検出した範囲は、竪穴建物跡の西側と北壁に設けられたカマド及び北側にのびる煙道部分である。南西側は木根による搅乱を受けている。〔埋土・堆積状況〕主にⅡ層の締まりの弱い黒色土で構成され、下位に炭化物を含む層が薄く堆積する。煙道部分の埋土も同じである。〔規模・形状〕開口部3.2×19m以上、床面3.1×18m以上と推定される。残存する壁高は20cmである。平面形は隅丸方形を基調とするものと推測される。〔壁・床面〕壁はほぼ直立する。床はほぼ平坦である。いずれも花崗岩粒を含み、硬く締まる黒褐色土層のⅢ層を掘り込んでいる。貼床は施されていない。〔カマド〕建物の北側に設けられている。検出時点で、北側に延びる煙道と北壁に設けられたカマドの存在が推測される位置に並ぶ礫の存在と明黄褐色土の広がりを確認した。カマドは、両袖と天井部に石が組まれ、明黄褐色土と黒色土の混土を加えて構築されていた。袖部は、両袖に各3個の亜角礫が芯材として組み込まれていた。それらの礫が全体に東側に傾いているのは、重機により西側から東側に表土掘削作業を行った際に傾いたものである。天井部の石組は、燃焼部に落下した状態で検出されたと推測される。カマドの規模は80×40cm。燃焼部の規模は30×26cmを測る。燈色の焼土の厚さは最大で6cmである。煙道部の規模は、長さ140cm、幅30cm、深さ17cmである。煙道の構造は不明であるが、煙道部先端の煙出し部に向かって傾斜するように掘り込まれている。煙出し部の規模は、径30cm、深さ40cmである。〔柱穴〕検出した範囲では確認されていない。〔付属施設〕なし。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕床面から土師器・坏P601が伏せられた状態で出土した。〔帰属時期〕遺構の形状と出土遺物から、7世紀末～8世紀前半と推測される。

(阿部 摂平)

30号竪穴建物跡（第41図・42図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕調査区北、II B 12bグリッドを中心とした範囲で、Ⅲ層下位からⅣ層を掘り下げ中に土師器片などが出土したことから、遺構の存在に留意して検出作業を行ったところ、V層面で黒褐色土の方形基調の広がりを確認し、竪穴建物跡として調査した。〔規模・形状〕開口部6.0×3.0m以上、床面5.6×28m以上である。残存する北側の壁高は10cmである。南側の壁などは確認されていない。平面形は隅丸方形を基調とするものと推測される。〔埋土・堆積状況〕主に黒褐色土で構成される。〔壁・床面〕検出できた北壁及び東壁・西壁はほぼ直立する。床面はV層の黄褐色土層面を掘り込んでつくられている。貼床は確認されていない。〔カマド〕北壁のほぼ中央に設置されている。上部は削られているが、燃焼部の両側に粘土を貼りつけて構築されたカマドの袖部が確認された。一部に礫を芯材として使用している。カマドの規模は、160×150cmである。燃焼部の範囲は、40×30cmで、燈色の焼土の厚さは5cmで、V層面に形成されている。燃焼部の西側と東側に20cmほど間を空けて壇が伏せられて置かれおり、西側には壇1個（P603）、東側には壇2個（P602・604）があり、P604にP602が重ねられて伏せられた状態であった。支柱として使用されたものと推測される。他に燃焼部の直上からも土師器片が出土している。煙道部の規模は、長さ140cm、幅40～55cm、深さ10～15cmで、構造の詳細は不明である。残存する煙出部の規模は、径50cm、深さ20cmである。〔柱穴〕

29号竪穴建物跡



カマド a-a'・b-b'

1. 10YR2/2 黒褐色。砂質シルト、縋まり中、褐色土粒 1% 含む。花崗岩粒 3% 含む。
2. 10YR1/7/1 黑色。シルト、縋まりやや粗。
3. 10YR2/2 黒褐色。砂質シルト（砂 5%）。縋まり中。径 5 cm 大の花崗岩粒 3% 含む。
4. 10YR2/3 黑褐色。シルト、縋まりやや粗。
5. 10YR5/8 黄褐色。粘土、縋まり粗。黒褐色土 20% 含む。堆土ブロック 3% 含む。
6. 10YR2/2 黑褐色。シルト、縋まり中。炭化物 1% 含む。花崗岩粒 1% 含む。

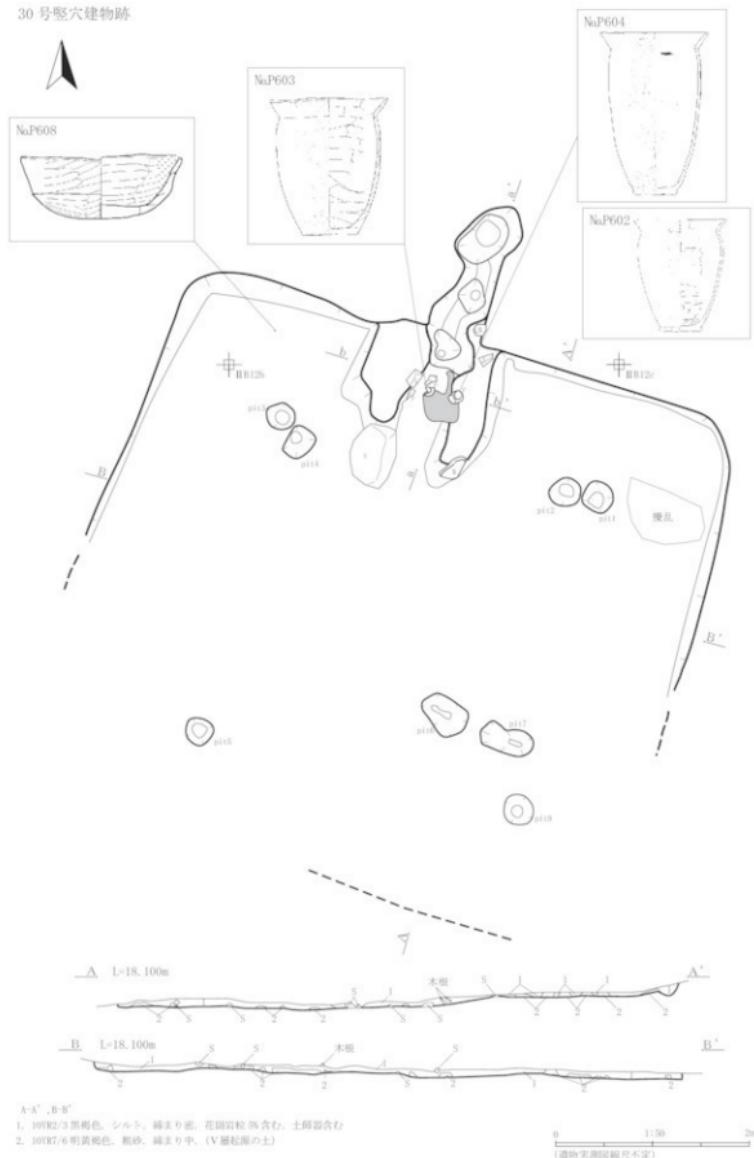
カマド c-c'

1. 10YR2/2 黑褐色。砂質シルト、縋まり中。褐色土粒 1% 含む。花崗岩粒 3% 含む。
2. 10YR1/6 明黄褐色。粘土、縋まり中。
3. 10YR1/7/1 黑色。シルト、縋まり中。
4. 5YR6/6 棕褐色。堆土、縋まりやや粗。黒褐色土 10% 含む。

0 1:20 1m
(遺物実測距離尺示)

第 40 図 29号竪穴建物跡

30号竪穴建物跡

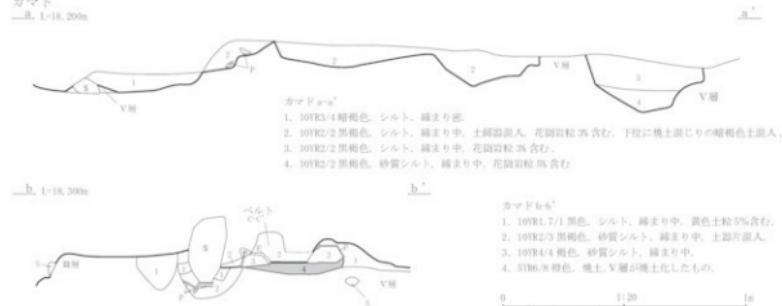


第41図 30号竪穴建物跡（1）

30号竪穴建物跡

カマド

—B, L=18, 200m



第42図 30号竪穴建物跡(2)

Pit 1～8の8個を確認した。各柱穴の埋土は竪穴建物跡と同様に黒褐色土で構成される。規模・配置から、Pit 1・3・5・8が主柱穴の可能性があるものと推測される。Pit 6・7の埋土からは土師器片が出土している。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕床面から土師器P608・609、カマドから土師器P602～607等出土している。埋土下位から紡錘車G010が出土している。〔帰属時期〕遺構の形状と出土遺物から、7世紀末～8世紀前半と推測される。

(阿部 謙樹)

(2) 土坑

1号土坑(第43図、写真図版35)

〔位置・検出状況〕調査区南、II A23u付近に位置する。重複する4号竪穴建物跡の精査時に4号竪穴建物跡の壁を切る遺構として検出した。〔規模・形状〕63.4×77.7cmの円形で、残存深度は41cmである。〔埋土・堆積状況〕底面直上には地山(Vb層)が混じる褐色シルトが堆積する。人為的な堆積は認められない。〔壁・底面〕壁は、外傾する。底面には、径40～50cmの巨礫が置かれている。〔重複遺構〕4号竪穴建物跡を切る。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕遺構の重複関係から縄文時代中期後葉以降と考えられる。

(佐藤 あゆみ)

2号土坑(第43図、写真図版35)

〔位置・検出状況〕調査区南、II A23u付近に位置する。重複する4号竪穴建物跡の精査時に4号竪穴建物跡の壁を切る遺構として検出した。〔規模・形状〕113×107cmの円形で、残存深度は38cmである。〔埋土・堆積状況〕底面直上には黒褐色シルトが堆積し、全体的に粘性が弱い。2層はIVb層に似る。〔壁・底面〕壁は、北側が若干抉れて内湾気味に立ち上がる。底面は概ね平坦である。〔重複遺構〕1号竪穴建物跡、4号竪穴建物跡に切られる。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕遺構の重複関係から縄文時代中期に属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

3号土坑(第43図、写真図版35)

〔位置・検出状況〕II A14yに位置する。III層下位を精査中に暗褐色シルトの広がりを検出した。半

裁したところ、埋土中から礫が出土し、底面と壁を確認した。4号土坑と近接する。〔規模・形状〕 $85 \times 80\text{cm}$ で、円形である。〔埋土・堆積状況〕堆積土は埋戻しで、1層は暗褐色土、2・3層は黒褐色土である。3層中の中角礫と石棒？(No.)は埋め戻しの際に同時に埋めたものと考えられる。堆積状況と礫類の出土状況は4号土坑に類似する。〔壁・底面〕壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕埋土から台石？片1点(石器No.1)、石棒G012、すり石1点、中角礫5点？が出土した。〔帰属時期〕埋土中から出土した遺物(土器片)から縄文時代中期中葉から後葉と考えられる。

(佐藤 純)

4号土坑(第43図、写真図版35)

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A14xに位置する。III層下位を精査中に暗褐色シルトの広がりを検出した。半裁したところ坑底から礫が出土し、底面と壁を確認した。3号土坑と近接する。〔規模・形状〕 $105 \times 85\text{cm}$ で、円形である。〔埋土・堆積状況〕堆積土は埋戻しで、1層は暗褐色土、2層は黒褐色土である。坑底の礫は埋め戻しの際に同時に埋めたものと考えられる。堆積状況と礫類の出土状況は3号土坑に類似する。〔壁・底面〕壁は急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕埋土中から出土した遺物(土器片)から縄文時代中期中葉から後葉と考えられる。

(佐藤 純)

5号土坑(第43図、写真図版36)

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A19tに位置する。3号竪穴建物跡の2層を精査中に暗褐色シルトの広がりを検出した。検出の際に半分ほど掘り過ぎてしまった。半裁したところ土器1個体が斜めに横倒しの状態で出土し、底面と壁を確認した。〔規模・形状〕 $130 \times 125\text{cm}$ で、半分を掘り過ぎているが、堆積状況から楕円形である。〔埋土・堆積状況〕堆積土は埋戻しで、1層は、2層はある。坑底に遺物を置き、埋め戻している。〔壁・底面〕壁はやや急角度に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。〔重複遺構〕2号竪穴建物跡より古く、3号竪穴建物跡より新しい。〔出土遺物〕坑底から大型の深鉢形P097等が出土した。大型の深鉢形土器は正立して置かれていたものが土圧により垂んだものと考えられる。〔帰属時期〕坑底から出土した遺物から縄文時代中期中葉から後葉と考えられる。

(佐藤 純)

6号土坑(第43図、写真図版36)

〔位置・検出状況〕調査区北、II B10dグリッド。III層下位からIV層面を掘り下げ中、東側をIII層下位からIV層面、西側をV層面で、黒色土の円形の広がりとして検出した。〔規模・形状〕規模は、開口部径 $90 \times 80\text{cm}$ 、底部径 $75 \times 62\text{cm}$ 、深さ 60cm である。平面形は円形を呈する。〔埋土・堆積状況〕黒色土層である。〔壁・底面〕壁は、IIIからIV層下位を掘り込んで、ほぼ直立する。底面は、V層を掘り込んで平坦につくられている。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕なし。〔帰属時期〕時期を決定できる出土遺物はない。検出面から縄文時代の可能性がある。

(阿部 雄樹)

7号土坑(第43図、写真図版36)

〔位置・検出状況〕調査区南、II A23u付近に位置する。重複する1号竪穴建物跡の床面精査時に検出した。〔規模・形状〕 $107 \times 110\text{cm}$ の円形で、残存深度は 40cm である。〔埋土・堆積状況〕主体となるのは粘性がやや強い黒褐色シルトで、壁際には、崩落土と考えられる明黄褐色土が薄く堆積する。〔壁・底面〕壁は北側が若干抉れて直立気味に立ち上がる。底面は、概ね平坦で硬く締まる。〔重複

遺構）1号竪穴建物跡を切る。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕遺構の重複関係から縄文時代中期以降に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

8号土坑（第44図、写真図版36）

〔位置・検出状況〕調査区北、II B13aグリッド。Ⅲ層下位からⅣ層面を掘り下げ中、V層面で黒色土の円形の広がりとして検出した。〔規模・形状〕規模は、開口部径150×140cm、底部径95×90cm、深さ60cm、平面形は円形を呈する。〔埋土・堆積状況〕黒色土・暗褐色土・黒褐色土で構成される。黒褐色土が主体である。当土坑の上には検出時に木根があり、埋土上位が木根による搅乱を受けている。〔壁・底面〕壁は、Vを掘り込んでほぼ直立する。底面は、V層を掘り込んでほぼ平坦につくられている。底面のはば中央に開口部径35cm、底部径10cm、深さ10cmの小穴を伴う。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕出土遺物と検出面などから、縄文時代と推測される。

(阿部 邦明)

9号土坑（第44図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕調査区北、II B13bグリッド。Ⅲ層下位からⅣ層面を掘り下げ中、V層面で黒褐色土の円形の広がりとして検出した。〔規模・形状〕規模は、開口部径110×110cm、底部径90×80cm、深さ42cm、平面形は円形を呈する。西側に張り出した部分は木根などにより搅乱を受けた痕跡である。〔埋土・堆積状況〕黒褐色土主体で構成される。〔壁・底面〕壁は、V層を掘り込んでほぼ直立する。底面は、V層を掘り込んで平坦につくられている。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕出土遺物と検出面などから、縄文時代と推測される。

(阿部 邦明)

10号土坑（第44図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕調査区北、II B15aグリッド。1号集石遺構の精査の段階で、Ⅲ層下位からⅣ層面を掘り下げ中、V層面で黒褐色土の円形の広がりとして検出した。〔規模・形状〕規模は、開口部径65×60cm、底部径40×35cm、深さ70cm、平面形は円形を呈する。〔埋土・堆積状況〕締まりの弱い黒褐色土と黄褐色土混じりの黒褐色土で構成される。黒褐色土上位に径30cm大の亜角礫1個が含まれていた。1号集石遺構を構成する礫群と当該礫との間に黒褐色土層を挟むことから、1号集石遺構と当該礫とに関連性はないものと考えられる。当該遺構の埋土の堆積状況は、全体として、柱当たりと掘り方と推測される堆積状況を呈している。〔壁・底面〕壁はV層を掘り込んでほぼ直立する。底面はV層下位の粘土層を掘り込んでほぼ平坦につくられている。〔重複遺構〕1号集石遺構の下位に位置する。10号土坑（旧）→1号集石遺構（新）の関係があるが、両者の間には黒色土の間層があり、機能した時期には隔たりがあると考えられ、直接の関連性はないと推測される。〔出土遺物〕掲載可能な遺物は出土しなかった。〔帰属時期〕出土遺物と検出面から縄文時代以降と推測される。柱穴としての性格が考えられるが、周間に対応する柱穴は確認されていない。調査区域外に関連する遺構が続く可能性がある。

(阿部 邦明)

11号土坑（第45図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A17uに位置する。Ⅲ層下位を精査中に暗褐色シルトの広がりを検出した。半裁したところ底面と壁を確認した。〔規模・形状〕5.4m×4.0mで、隅丸長方形である。〔埋土・堆積状況〕堆積土は自然堆積で、1層は黒褐色土、2層は暗褐色土である。〔壁・底面〕

面】壁は北西側ではやや急角度に立ち上がり、それ以外はなだらかに立ち上がる。底面はやや丸みがある。【重複遺構】3号竪穴建物跡より古く、23号竪穴建物跡より新しい。【出土遺物】出土しなかった。【帰属時期】重複関係から縄文時代中期中葉以前である。

(佐藤 あゆみ)

12号土坑（第44図、写真図版37）

【位置・検出状況】調査区南、II A25s付近に位置する。重複する7号竪穴建物跡床面精査時に検出した。【規模・形状】85×90cmの円形で、残存深度は底面まで43cmである。【埋土・堆積状況】埋土下位は、地山（Vb層）が混じるシルトや、縮まりの疊いサクサクした褐色シルトが堆積し人為的な様相を示す。埋土上位は、径1cm以下の細礫が混じる。【壁・底面】壁は直立気味に立ち上がる。底面は平坦で中央に副穴をもつ。副穴は径15cm、深さ20cmの規模である。【重複遺構】7号竪穴建物跡と重複するが新旧関係は不明である。【出土遺物】掲載可能な遺物は出土しなかった。【帰属時期】遺構の形状から縄文時代の陥し穴状土坑と考えられる。

(佐藤 あゆみ)

13号土坑（第44図）

【位置・検出状況】調査区南、III A1s付近に位置する。重複する7号竪穴建物跡精査時に土層観察用の調査区壁で検出した。調査区外に広がる遺構であり、遺構の種類を判断するのに困難であるが、ここでは土坑として報告する。【規模・形状】調査区外に広がるため全容は不明。【埋土・堆積状況】埋土下位は、黄褐色土を含む暗褐色土が堆積し、上位は、II層に似る黒色土が堆積する。【壁・底面】壁は直立気味に外傾する。底面は平坦でVb層があらわれる。【重複遺構】7号竪穴建物跡・22号竪穴建物跡と重複し新しい。【出土遺物】なし。【帰属時期】遺構の重複関係や埋土の様相から古代に帰属する可能性もあるが不明である。

(佐藤 あゆみ)

（3）焼土・炉跡

1号焼土遺構（第46図、写真図版38）

【位置・検出状況】調査区中央、II A17vに位置する。III層上位で焼土の広がりを検出した。【規模・形状】40×34cmの不整円形を呈する。【被熱・堆積土状況】燃焼面は良く焼けて硬い。掘りかたは認められない。【重複遺構】23号竪穴と重複するが、位置とレベルを考慮し本遺構が23号竪穴の炉として使用されていた可能性が考えられる。【出土遺物】なし。【帰属時期】検出状況から縄文時代に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

2号焼土遺構（第46図、写真図版38）

【位置・検出状況】調査区北、II B14bグリッド。III層下位からIV層中で明黄褐色の焼土の広がりとして検出した。東側が調査区域にかかるため、西側のみの検出である。【規模・形状】検出した範囲は、90×25cm以上で、調査区外に続く。不整であるが概ね円形基調と推測される。【被熱・堆積土状況】明黄褐色と褐色の焼土で、厚さ10cmほどである。被熱した面はほぼ平坦である。【重複遺構】下位に27号竪穴建物跡が位置する。2号焼土遺構は、27号竪穴建物跡の埋没後に形成された焼土遺構である。27号竪穴建物跡（旧）→2号焼土遺構（新）の関係がある。【出土遺物】掲載可能な遺物は出土しなかった。【帰属時期】時期を決定できる出土遺物はないが、検出面から縄文時代の可能性がある。

(阿部 勝則)

3号焼土遺構（第46図、写真図版38）

【位置・検出状況】調査区北、II A13 x グリッド。III層下位からIV層中で明褐色の焼土の広がりとして検出した。西側が後世の切土で切られている。周辺から縄文土器片が出土している。【規模・形状】検出した範囲は、径30×20cmである。不整であるが概ね円形基調と推測される。【被熱・堆積土状況】明褐色の焼土で、厚さ6cmほどである。被熱した面はほぼ平坦である。III層下位からIV層面に形成されている。【重複遺構】なし。【出土遺物】なし。【帰属時期】時期を決定できる出土遺物はない。検出面から縄文時代の可能性がある。

(阿部 勝則)

4号焼土遺構（第46図、写真図版38）

【位置・検出状況】調査区南、II A23tに位置する。4号竪穴精査終了後掘り下げを行い検出された。【規模・形状】57×41cmの不整円形を呈する。【被熱・堆積土状況】赤褐色の焼土は、硬さが弱い。掘りかたは認められない。【重複遺構】4号竪穴に切られる。【出土遺物】なし。【帰属時期】遺構の重複関係から縄文時代中期以前に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

5号焼土遺構（炉跡）（第47図、写真図版39）

【位置・検出状況】調査区中央、II A20w グリッド。IV層を掘り下げているなかで、IV層中で石組及び褐色の焼土の広がりを検出した。周辺から縄文土器片が出土している。【規模・形状】北側に亜角礫で組まれた石組があり、南側に焼土が広がる。石組部の範囲は、40×40cmである。径30~15cmの大の花崗岩の亜角礫5個が内側に斜位に埋め込まれている。石組内部に不明瞭ながら焼土が確認されており、石窯炉と推測される。【被熱・堆積土状況】焼土範囲は径10×28cmで、石組の南側に褐色の焼土が広がる。厚さ6cmである。被熱した面はほぼ平坦で、IV層面に形成されている。【重複遺構】なし。【出土遺物】焼土上位や周辺から出土した土器片P563等が出土している。焼土中からは焼骨片が出土した。【帰属時期】遺構の形状と出土遺物から、縄文時代中期後葉と推測される。

(阿部 勝則)

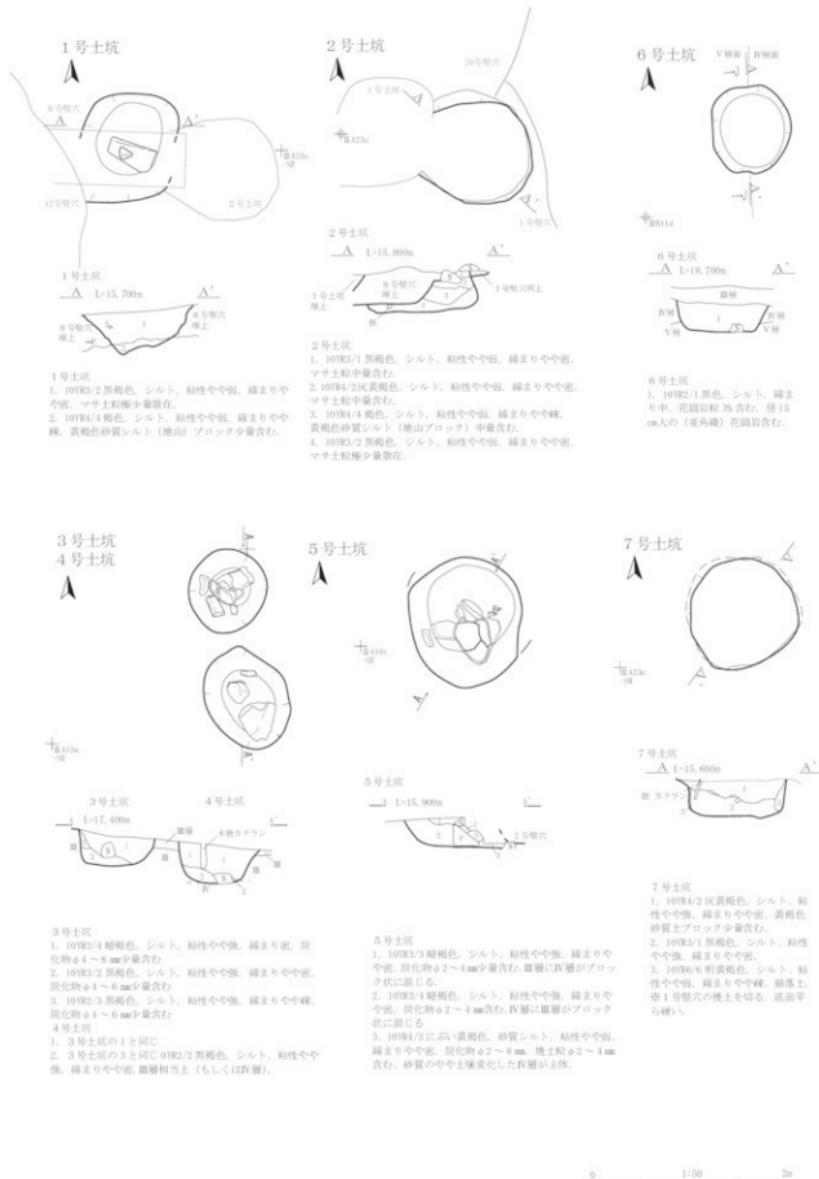
6号焼土遺構（第47図、写真図版39）

【位置・検出状況】調査区北、II B 8 f グリッド。III層下位からIV層を掘り下げているなかで、III層下位からIV層中で橙色の焼土の広がりを検出した。【規模・形状】径46~37cmの不整な形状を呈する。【被熱・堆積土状況】橙色の焼土で赤色の焼土ブロックが入る。厚さ5cmである。端部より中央部が厚くなっている。【重複遺構】なし。【出土遺物】なし。【帰属時期】遺構の検出状況から、古代の可能性がある。

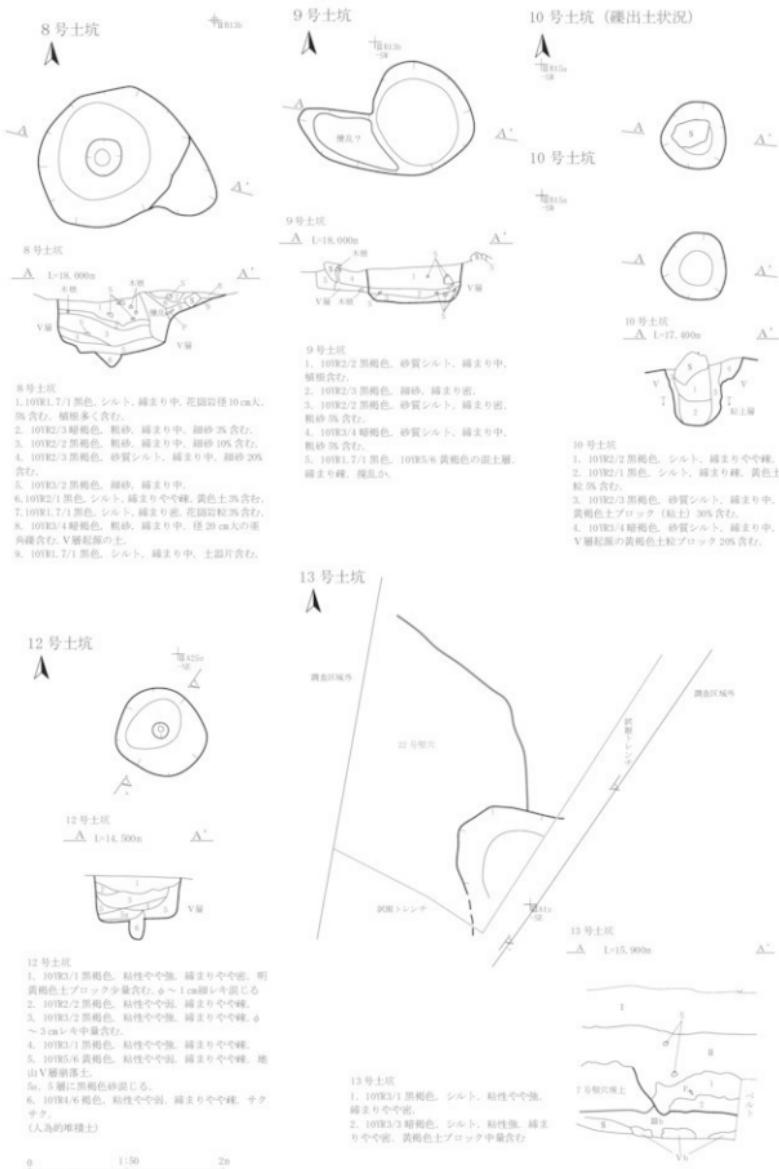
(阿部 勝則)

7号a・b・c・d焼土遺構（第48図、写真図版39）

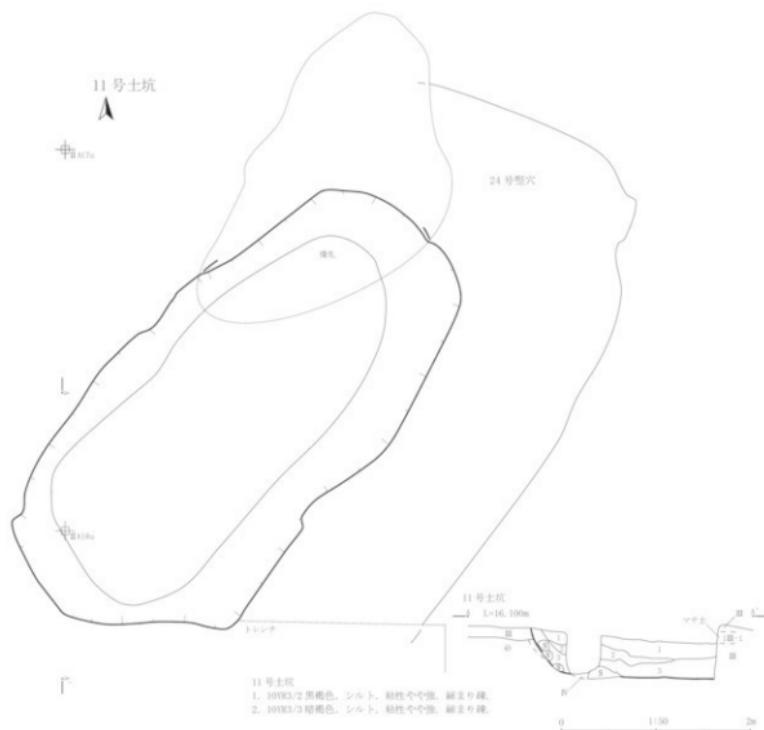
【位置・検出状況】調査区北、II B 7 e・7 f グリッドで、III層面で褐色～橙色の焼土群を検出した。径2×1.5mの範囲に4つの焼土遺構（a・b・c・d）が分布する。【規模・形状】a焼土遺構は径50×28cmの不整な長楕円形である。b焼土遺構は径63×50cmの不整な円形で、褐灰色のブロックが焼土中及び周辺に散在する。c焼土遺構は径35×33cmの不整な円形である。d焼土遺構は径50×47cmの不整な円形で、焼土直上に径10cmほどの礫が2個含まれていた。【被熱・堆積土状況】a焼土遺構は橙色の焼土で、厚さは最大で5cmである。b焼土遺構は褐色の焼土で、灰白色土が混じる。焼土の厚さは最大で8cmである。c焼土遺構は褐色の焼土で、厚さは最大で7cmである。d焼土遺構は褐色の焼



第43図 1～7号土坑



第44図 8~10・12・13号土坑



第45図 11号土坑

土で、厚さは最大で7cmである。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕d焼土遺構の焼土直上から土師器P611が出土した。〔帰属時期〕遺構の検出状況と出土遺物から、古代の可能性がある。

(河部 謙介)

8号焼土遺構（第48図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕調査区中央、II A21vに位置する。中央部の遺物包含層（III層下位～IV層）掘り下げ時に検出した。〔規模・形状〕一部を掘り下げにより消失しているため全容は不明である。〔被熱・堆積土状況〕明赤褐色の焼土は、硬さの確認できる面はない。掘りかたは認められない。被熱により黒色土が還元しているのが確認できる。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕なし。〔帰属時期〕検出状況から縄文時代に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

9号焼土遺構（第48図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕調査区南、II A22tに位置する。24号竖穴精査終了後掘り下げを行い検出した。〔規模・形状〕64×46cmの不整円形を呈する。〔被熱・堆積土状況〕明赤褐色の焼土は、キメが細かく、きれいに焼成されている。2層は掘りかたの埋土と考えられ、径0.5～1cmの細礫が含まれる。

〔重複遺構〕24号竪穴に切られる。〔出土遺物〕なし。〔帰属時期〕遺構の重複関係から縄文時代中期以前に帰属すると考えられる。

(佐藤 あゆみ)

10号焼土遺構（炉跡）（第47図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕調査区北、II A13 a グリッドを中心とした範囲で、III層面で石開炉と縄文土器片を確認したことから、竪穴建物跡の可能性があるものとして調査を行ったが、検出した段階で炉跡の周辺はすでに掘り下がっており、床面は確認できなかった。検出時、炉内に径30×20×7cmの扁平な花崗岩の礫が置かれていたが、これは、炉内が黒褐色土で埋った後に置かれたものである。〔規模・形状〕石開炉である。径70cmの円形基調で、11個の亜角礫を縦位にして、内側に向かって埋め込んで組まれている。石材は花崗岩である。〔被然・堆積土状況〕石組内は、花崗岩粒を含む黒褐色土が堆積し、明瞭な焼土は確認できていない。〔出土遺物〕炉の埋土上位からP359や炉の周辺の北側からP356・361等が出土している。〔重複遺構〕なし。〔帰属時期〕出土遺物と遺構の検出面から、縄文時代中期後葉と推測される。

(阿部 謙樹)

11号a・b焼土遺構（第49図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕調査区北、II B14 a～II B15 a グリッドで、III層下位からIV層で焼土の広がりを検出した。炉跡となる可能性を考え、調査を進めたところ、焼土遺構の周辺に硬化した床面と思われる範囲の広がりを確認したが、壁は確認できていない。掘り下げたV層面で確認された柱穴（II A 14 z - Pit 2）から縄文時代前期の土器片が出土しており、焼土遺構周辺の柱穴が当該焼土遺構に伴い、竪穴建物跡を構成していた可能性がある。〔規模・形状〕a・b焼土遺構が確認された。平面形はいずれも不整形である。a焼土遺構の規模は径60×50cmを測る。b焼土遺構の規模は径70×60cmを測る。〔重複遺構〕なし。〔被然・堆積土状況〕a焼土遺構の明赤褐色の焼土の厚さは最大で4cm。b焼土遺構の明赤褐色の焼土の厚さは最大で8cmである。〔出土遺物〕焼土の検出面と同じ層から、P364・365が出土している。〔帰属時期〕周辺から出土した遺物と遺構の検出状況から、縄文時代前期の可能性があると推測される。

(阿部 謙樹)

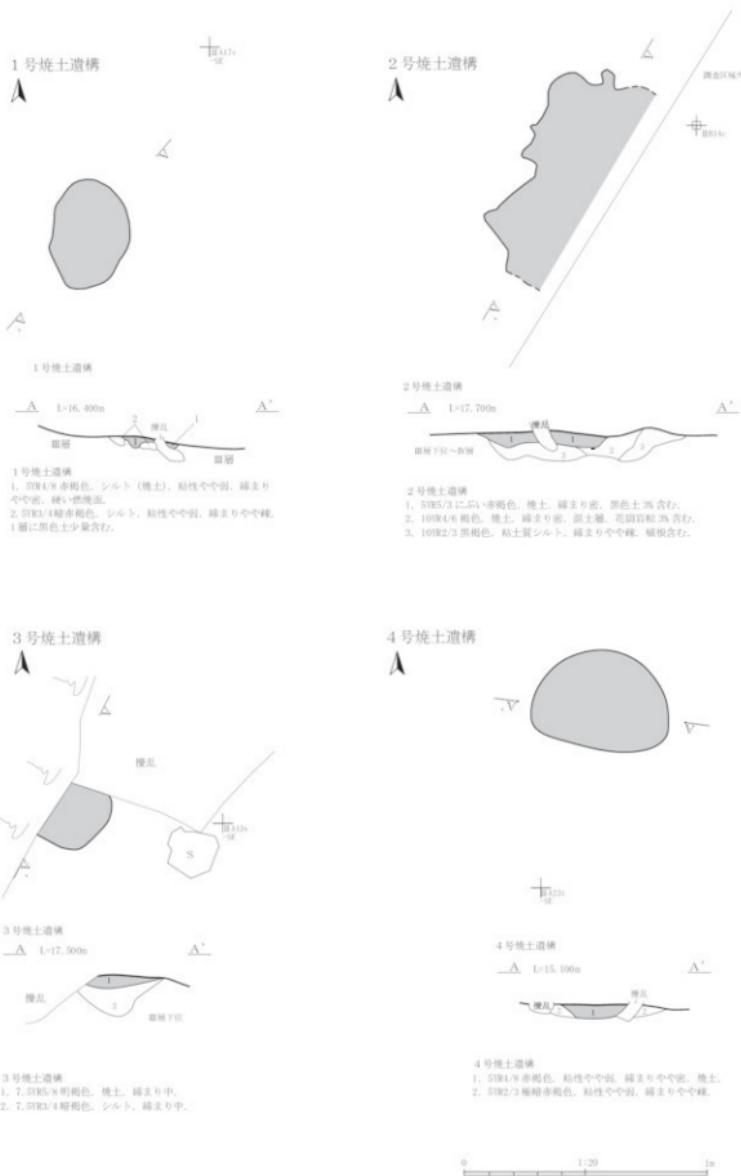
（4）集 石 遺 構

1号集石遺構（第49図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕調査区北、II B15 a グリッド。III層下位からIV層面の黒色土層を掘り下げ中に礫が集合した状態で検出された。周辺において同様の礫が集石された状態は確認されておらず、意図的に集められたものと推測された。〔規模・形状〕集石は、上下2段で確認された。上段の集石の規模は、径85×75cmの範囲に径30～40cm大の花崗岩の亜角礫20個ほどで構成される。下段の集石の規模は、径60×40cmの範囲に径20～30cm大の花崗岩の亜角礫4個ほどで構成される。〔埋土・堆積状況〕礫中及び礫の下位は主にIV層を起源とする黒褐色土が堆積する。〔その他の付属施設〕なし。〔重複遺構〕1号集石遺構の下位に10号土坑が位置する。〔出土状況〕掲載可能な遺物は出土しなかった。

〔帰属時期〕出土遺物と検出面などから、縄文時代と推測される。

(阿部 謙樹)



第46図 1~4号焼土遺構

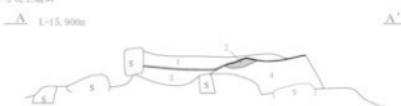
5号焼土遺構 (炉跡)



6号焼土遺構



5号焼土遺構



6号焼土遺構



5号焼土遺構

1. 10YR2.2/1 黒色。砂質シルト、縛まり中。花崗岩粒 2% 含む。
 2. 7.5YR4.6褐色。焼土、縛まり中。黒色土ブロック 2% 含む。
 3. 10YR2.2/2 黒褐色。砂質シルト、縛まり中。花崗岩粒 1% 含む。
 4. 10YR1.7/2 黒色。砂質シルト、縛まり中。
 5. 10YR1.7/3 黑褐色。シルト、縛まり中。褐化物 5% 含む。
- 歩道の内側が変化しているように見える。

6号焼土遺構

1. 7.5YR6.6褐色。焼土、縛まり中。7.5YR5.6 黄褐色 30%、5YR6.8 褐色地土ブロック 5% 含む。
2. 10YR2.3 黑褐色。シルト、縛まり中。褐化物 5% 含む。

10号焼土遺構 (炉跡)



No.361



No.356



10号焼土

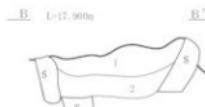


No.359



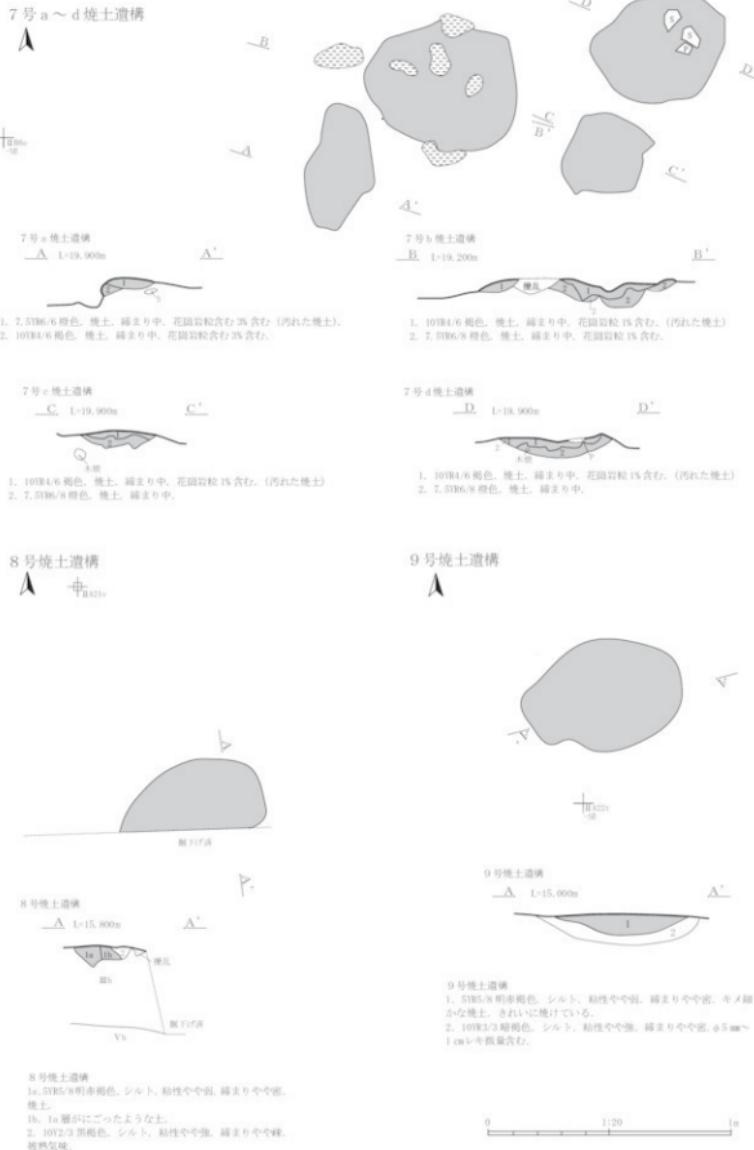
10号焼土遺構 A-A'・B-B'

1. 10YR2.3 黑褐色。シルト、縛まり中。花崗岩粒 1% 含む。
2. 10YR2.2 黑褐色。シルト、縛まりやや密。本根含む。

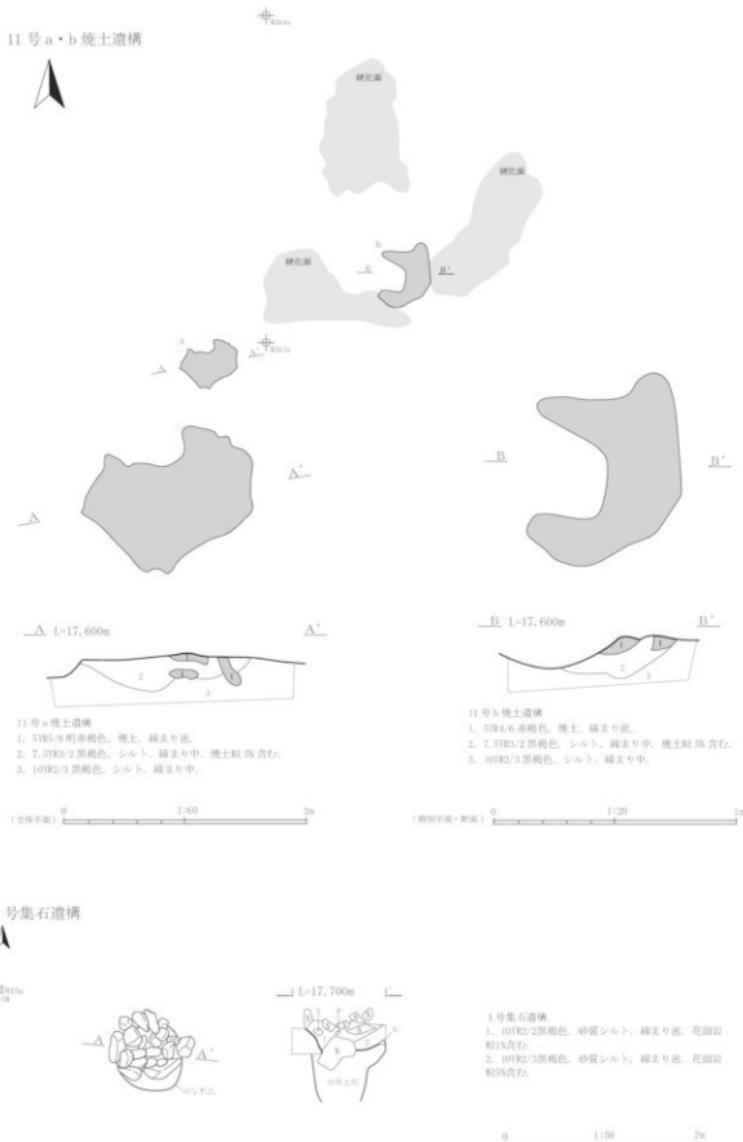


0 1/20 1m
(遺物実測面縮尺不定)

第47図 5・6・10号焼土遺構



第48図 7~9号焼土遺構



第49図 11号焼土遺構、1号集石遺構

(5) 柱 穴 (第50図)

調査区全体から検出された柱穴は19個である。その中で掘立柱建物になるものは無かった。

PP 1は、縄文時代の遺構が希薄になっている調査区北部で検出され、古代に帰属する7号a～d焼土遺構と関係する可能性がある。

PP 2～17は、調査区北～中央部で検出した。堅穴建物跡や、掘立柱建物に付随する柱穴の可能性があるが、調査区外の境に近く、明確な掘り込み等も検出しなかつたため、単独の柱穴とした。

PP18・19は、調査区南の西側で検出した。付近では、縄文と古代の遺構を検出したが、それらの堅穴建物跡に付設されたものという位置付けができなかった。

PP 2～19は、検出面から縄文時代に帰属すると考えられる。

(6) 沢 跡 (第51図、写真図版42)

縄文時代の遺物包含層であるⅢ層とⅣ層を掘り下げ、遺構最終確認面であるV層を検出していく際、調査区西際を南北に縦断するように黒色土が厚く堆積する範囲を確認した。これは、表土掘削時にはまだ確認できていないものであった。

調査区北西部では、検出面から一段下がる範囲があり、試掘トレンチによる調査を行っている。この部分は黒色土の堆積が薄く、遺構遺物は確認されなかった。また、その間に、黒色土の下に砂礫層が見られたことから間木戸川の氾濫により、本調査区内も過去に流路が形成されていたことが判明していた。

そのため、現在の地形を観察し、調査区西際は間木戸川による段丘状に形成された沢跡と判断した。また、この部分に黒色土が厚く堆積していると想定し調査を進めた。

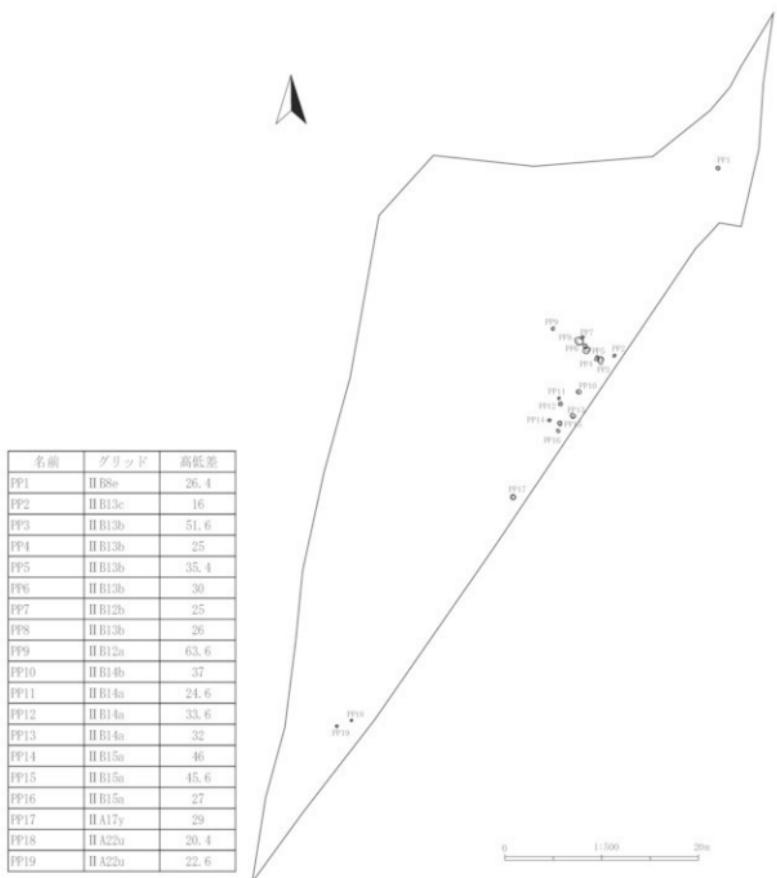
この範囲は、2・3・4・8・10・24号堅穴と重複する。調査区のはば中央を横断するように中央セクションを設定し、堆積土層断面図を作成した。断面図の1a層は、古代の遺構に確認できる主堆積土のⅡ層であり、断面の形状から調査区外にかかる遺構があった可能性が考えられる。それに切られている3a・3b層の灰黄褐色シルトは、10号堅穴の埋土でも確認しており、土器を特に多く含んでいた。この灰黄褐色シルトは、調査区内で西側の一部でしか確認できていない土であり、人為的な様相である。5・6層は炭を含む黒褐色シルトである。7・8a～c層は、Ⅲ層に相当するものであり、調査区全体に確認できる。その下は、自然堆積と考えられる粘土質シルトが確認できる。

出土遺物は、堆積土下位から、G027・028の石製品が出土している。縄文土器は、P482・484・485・493・544・545・570～574等が出土しており、いずれの層からも多量に出土している。

3a・3b層である灰黄褐色シルトからは、P482・485・570等が出土している。また、7・8a～c層からは、P572・573が出土している。土器の特徴から大木6から8b式を含む7・8a～c層、大木8a・8b式を含む3a・3b層と捉まえることができる。7・8a～c層(Ⅲ層)は、大木6・7a式期と限定することが出来ない。しかし、その上に堆積する、3a・3b層は、人為的様相の灰黄褐色シルト内から多くの大木8a・8b式の土器が出土しており、一定の期間に廃棄された堆積土と考えられる。

重複する10号堅穴の堆積土上位にも、同様の堆積が認められる。10号堅穴は縄文時代中期前葉から中葉に帰属すると考えられ、沢が埋没する途中に堅穴が構築され、その後廃絶し埋没していく過程で先述した縄文時代中期中葉の人々が、この窪地にも土器等の廃棄行為を行ったのではないかと考えられる。

(佐藤 あゆみ)



第50図 柱穴



第 51 図 沢跡

3 遺 物

(1) 繩文～弥生土器(第52～116図、写真図版55～96、観察表は図内)

大コンテナ(32×42×30cm)約54箱(接合前)出土。大部分(2/3以上)を縄文時代中期中葉大木8a～b式土器が占め、次いで縄文時代前期前葉大木1式～中期前葉大木7b式、中期後葉大木9式古期で、その他は非常に少なく数片ずつである。その他には、縄文時代早期中葉貝殻文土器(P450)、早期末表裏繩文土器があり(P439、P440)、P189は縄文時代中期初頭円筒上層a式、P519は弥生時代中期、P558は縄文時代後期初頭三十稻場式系土器と思われる。P312は縄文時代後期後葉、P396は縄文のみだが中期末大木10式、P556は後期前葉十腰内I式古期の可能性がある。P500は縄文前期末円筒下層d式の影響を受けているか。大木1～7b式では、大木7a式が比較的多く、次いで大木4～6式で、大木3、7b式は少ない。大木1～2b式では、明確に型式同定できるものは少ないが、一定量出土しているようである。大木9式古期は、大木3、7b式より少し多い程度か。4号堅穴建物跡と17号堅穴建物跡で比較的まとまって出土した。その他の土器型式については、大木7a式古期に21号堅穴建物跡等幾つかまとまった地点が認められる以外は、大木8a～b式土器に混じって出土している。

掲載基準(原則)。出土量が多く、また遺構内出土品が多くを占めるので、遺構外については、遺構内で出土していない時期・型式以外は、概ね10×10cm以上の残りの良いものしか選ばなかった。遺構内についても、床面出土やNo.遺物等出土位置が明確なものを除いて、残りの良いものしか選んでいない。676点を選別したが、遺構外251点は図化が追いつかず、149点しか掲載できなかった。

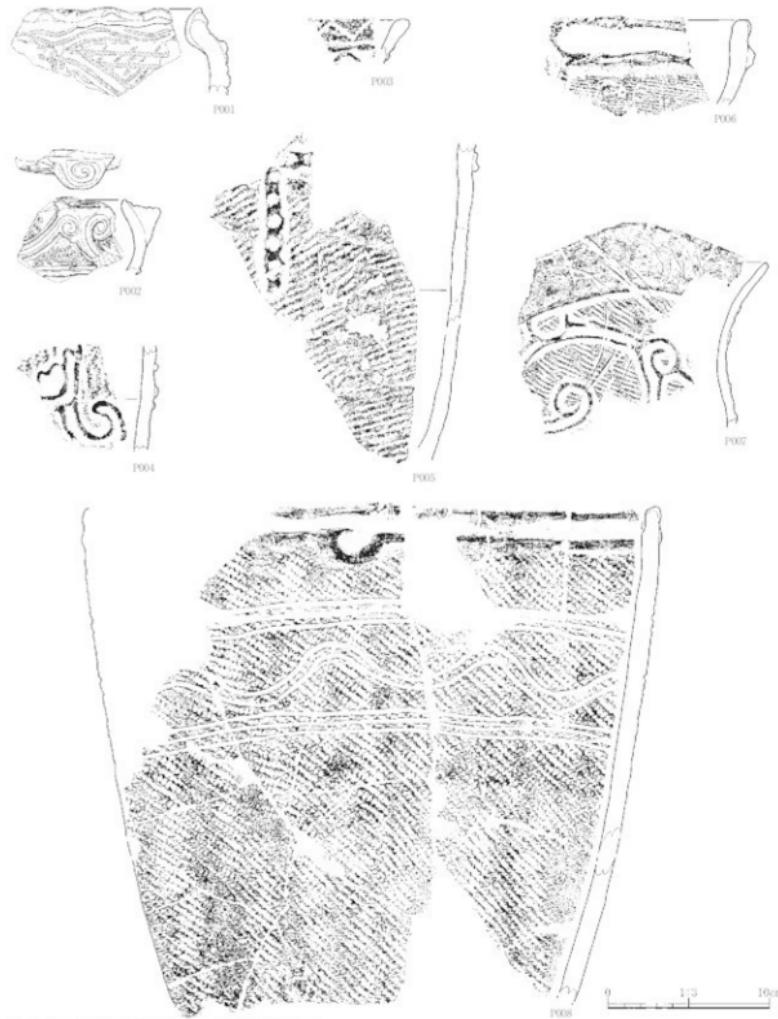
整理を通して気づいた特徴。大木8a～8b式は、縄文を胴部タテ回転するのが通常だが、口縁部は別でヨコ回転するものが多い。底面はナデ調整している。P68は、東北地方南部系の球胴鉢か。興野義一氏は「大木4式と大木5式とで大きく異なる点は、5式では体部の粘土紐貼付文が折目正しく、細かくちぎってつけられて、連続山形または鋸歯状になること」(興野 1996:p.219)と述べているが、今回調査で出土した大木5式とおぼしき土器は鋸歯状になるものがほとんどなく、大木4式との区別が難しい。大木4～5式では、外面のスヌ付着や内面のコゲ付着が顕著に見られ、内面のコゲは大木6～7a式球胴鉢の下半部にも顕著である。

個々の記載は表に記したので、ここで表の見方を補足しておく。観察表の出土位置の欄の(分数)は、出土割合を示す。“→”は調整順序を示し、矢印左側の方が前で、右側が後。以下、表の補足。P46の出土位置は、表に記したほかに、“3号堅穴建物跡西・2層”、“3号堅穴建物跡西・3層”、“3号堅穴建物跡西・埋土上位”、“3号堅穴建物跡・埋土上位”、“3号堅穴建物跡・埋土中位”がある。P51は、このほか「II A20v・IV層上位」で取り上げた破片も接合していて、その割合は、「3号堅穴」が3/6、「6号堅穴」が2/6、「II A20v」が1/6。P274は、接合して1/4周以上残存しているが、上から見ると橢円形を呈す。これが本来の形か歪んでいるのか判断がつかないので径は復元しなかった。P273とも同一個体の可能性がある。P406の出土位置は、表に記したほかに、“II A21t・II～III層”、“II A21t・III層下位”がある。P460の縦条体圧痕は、軸部分の回転圧痕が認められる。P575の突起口唇部に縄文あり、原体は単軸縦条体第1類(L)のように見えるが、Lの側面圧痕かも知れない。帶状のスヌ、コゲは、胴部中央に幅4cm程度に認められる。

参考文献 興野義一 1996 「山内清男先生供与の大木式土器写真セッテについて」『画龍天晴』山内先生 没後25年

記念論集刊行会

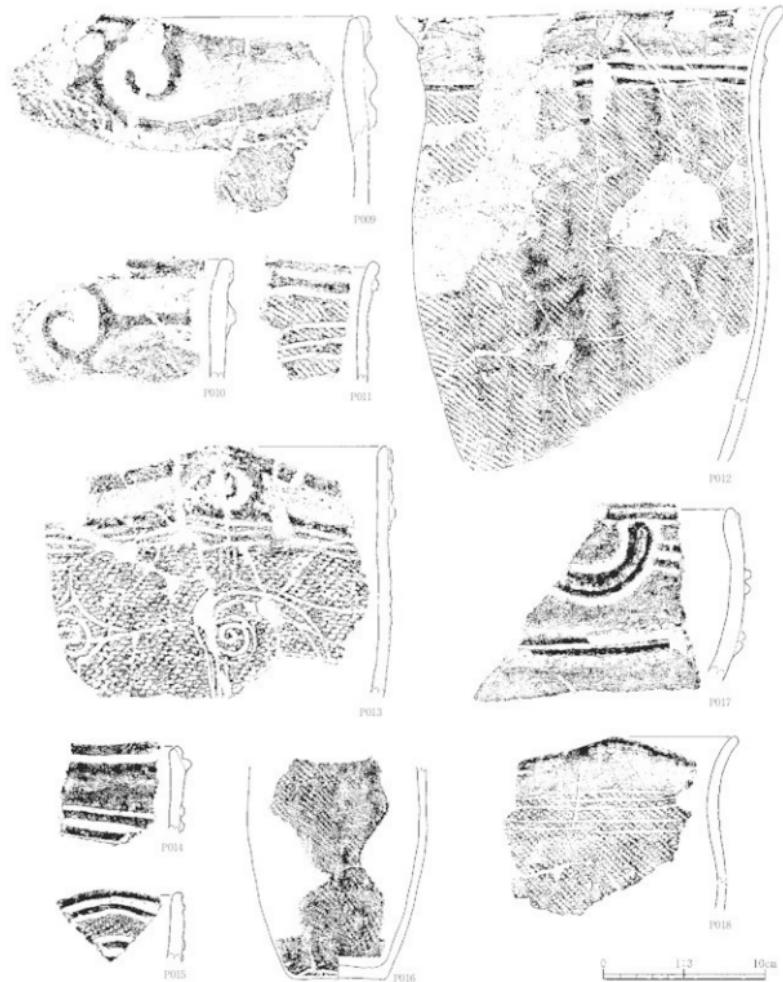
(金子 順彦)



第3表 間木戸II遺跡縄文～弥生土器観察表

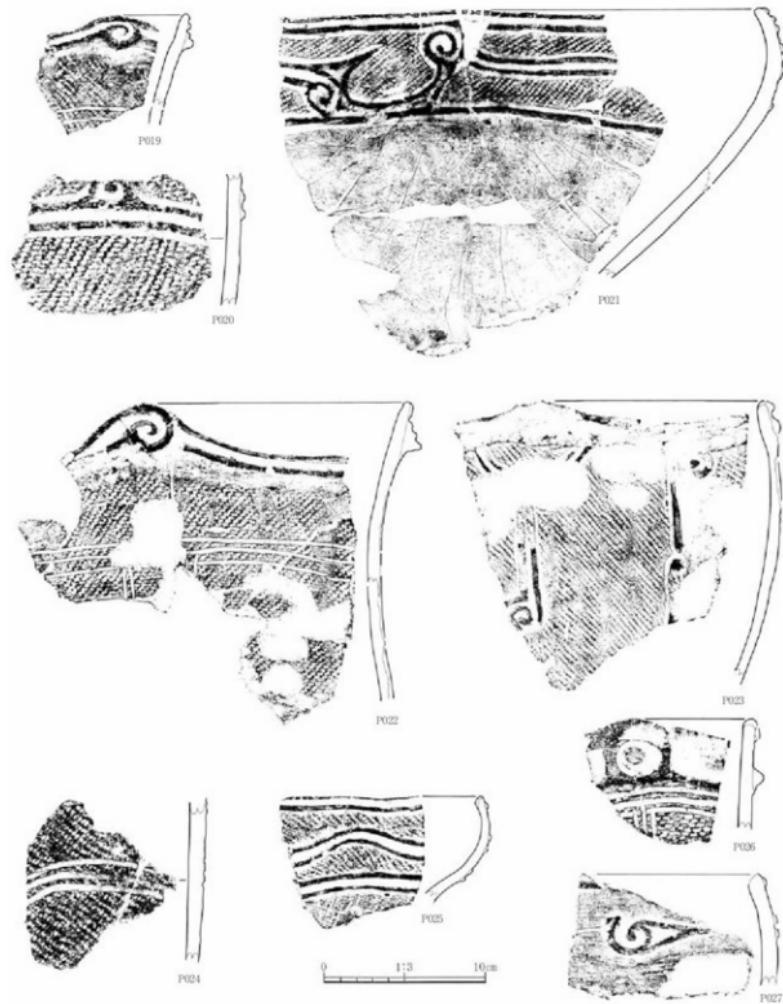
| 編號 | 出土場所・層位 | 器種・部位 | 外 壁 | 内 壁 | 備 考 | 参考文献 |
|------|-----------------------------------|--------|----------------------|--------|------------|------|
| P001 | 26号型六建物跡(木棚)・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面・底面・裏面、調査実体なし | (調査なし) | | 55 |
| P002 | 26号型六建物跡(木棚)・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面・底面・裏面 | ナデ | | 55 |
| P003 | 26号型六建物跡(木棚)・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面・底面・裏面 | ナデ | | 55 |
| P004 | 26号型六建物跡(木棚)・堆上上～中位 | UH縫合 | UH縫合・側面 | ナデ | | 55 |
| P005 | 26号型六建物跡(木棚)・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面 | ナデ | | 55 |
| P006 | 26号型六建物跡(木棚)・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面 | ナデ | | 55 |
| P007 | 26号型六建物跡(木棚)・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面 | ナデ | | 55 |
| P008 | 2号型六建物跡・堆上上位(5cm)・20号型六建物跡・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面・底面・裏面 | ナデ | 内面コブ | 55 |
| P008 | 2号型六建物跡・堆上上位(5cm)・20号型六建物跡・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面・底面・裏面 | ナデ | 内面コブ・内全面コブ | 55 |
| P008 | 2号型六建物跡・堆上上位(5cm)・20号型六建物跡・堆上上～中位 | 器体・口縁部 | UH縫合・側面・底面・裏面 | ナデ | 内面大付着 | 55 |

第52図 縄文～弥生土器(1)



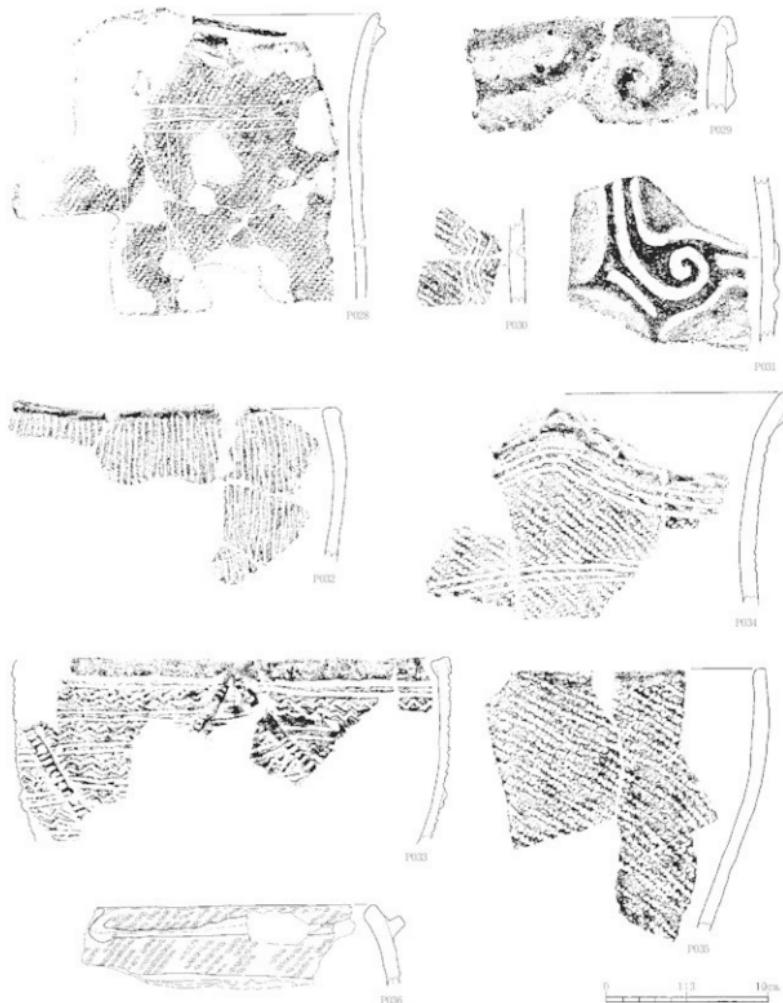
| 番号 | 出土地点・層位 | 目録・部品 | 外観 | 内面 | 備考 | 年 代 | 分 類 | |
|------|-------------------------------|-------------------------|------------|-----------------|----|-----------------|--------|----|
| P009 | 2号堅穴建物跡上222.9m | [深縫・口縫] [縫跡・内縫・外縫・肩文帯等] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫・外縫・肩文帯等] | ナゲ | 粘土石・内面火打付・10回-7 | 33 | 筒瓦 |
| P010 | 2号堅穴建物跡上222.9m | [深縫・口縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | ナゲ | 内同・縫跡? | 33 | 筒瓦 |
| P011 | 2号堅穴建物跡上222.9m | [深縫・口縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | ナゲ | 内同・縫跡? | 33 | 筒瓦 |
| P012 | 2号堅穴建物跡上223.0m | 2号堅穴建物跡西・堆土上段、3号堅穴建物跡西 | [縫跡・内縫・火照] | [縫跡・内縫・火照] | ナゲ | 内面火・下二段施灰・内コラ | 33 | 筒瓦 |
| P013 | 2号堅穴建物跡上223.0m | [深縫・口縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫・火照] | ナゲ | 内面火・下二段施灰・内コラ | 33 | 筒瓦 |
| P017 | 2号堅穴建物跡上223.0m | [縫跡・内縫・火照] | [縫跡・内縫・火照] | [縫跡・内縫・火照] | ナゲ | 内面火・下二段施灰・内コラ | 33 | 筒瓦 |
| P014 | 2号堅穴建物跡上223.0m | [深縫・口縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | 摩耗 | 内外摩耗 | 33 | 筒瓦 |
| P016 | 2号堅穴建物跡上223.0m | [深縫・口縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | ナゲ | 内同 | 33 | 筒瓦 |
| P018 | 2号堅穴建物跡上223.0m | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | ナゲ | 内面火・内面コロ印付 | 33 | 筒瓦 |
| P019 | 2号堅穴建物跡西・堆土上段 | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | ナゲ | 内面火・内面コロ印付 | 33 | 筒瓦 |
| P020 | 2号堅穴建物跡西・堆土上段(1-4)、2-A1B・方錐上段 | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | ナゲ | 内火灰・内面コロ印付 | 33 | 筒瓦 |
| P021 | 2号堅穴建物跡西・堆土上段 | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | ナゲ | 下の段(1)、粘土粒付内面 | 33 | 筒瓦 |
| P022 | 2号堅穴建物跡西・堆土上段 | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | [縫跡・内縫] | ナゲ | 内面火・内面コロ印付 | 33 | 筒瓦 |

第53図 繩文～弥生土器(2)



第54図 縄文～弥生土器（3）

| 編號 No. | 出土場所・層位 | 器形・部屋 | 寸法 縦幅×横幅・厚さ (測定値) | 外 面 | 内 面 | 備 考 | 本文 記載 | 図 版 |
|-----------|---------------|---------------|-------------------------|--------|--------|--------|----------|--------|
| P019 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 漆鉢・縦幅 | 17mm幅×18mm幅・0.5mm | 波線 | 波線 | 内面無字 | 54 | 55 |
| P020 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 漆鉢・縦幅 | 18mm幅×19mm幅・0.5mm | 波線 | 波線 | 内面無字 | 54 | 56 |
| P021 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 漆鉢 (1.5mm底) | 18mm幅×19mm幅・1.5mm | 波線 | 波線 | 内面無字 | 54 | 56 |
| P022 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 漆鉢 (1.5mm底以下) | 18mm幅×19mm幅・1.5mm | 波線 | 波線 | 内面無字 | 54 | 56 |
| P023 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 漆鉢 (1.5mm底以下) | 18mm幅×19mm幅・1.5mm | 波線 | 波線 | 内面無字 | 54 | 56 |
| P024 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 漆鉢・縦幅 | 18mm幅×19mm幅・0.5mm | 波線 | 波線 | 内面無字 | 54 | 56 |
| P025 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 漆鉢・縦幅 | 18mm幅×19mm幅・0.5mm | 波線 | 波線 | 内面無字 | 54 | 56 |
| P026 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 漆鉢・縦幅 | 18mm幅×19mm幅・0.5mm | 波線 | 波線 | 内面無字 | 54 | 56 |
| P027 | 2号堅穴建物跡西・地上上段 | 刷毛 | 縦幅 | 縦幅無字 | | | 54 | 56 |



| 品種 No. | 出土地点・層位 | 器種・部位 | 外観 | 内面 | 備考 | 参考 文献 |
|-----------|------------------------------------|--------|-----------------------------|----|-----------------|----------|
| P028 | 2号型六建物跡北・堆上上段 | 深鉢・口周部 | (口縁部・底部) 瓦窓・瓦筋、網文装饰なし(窓要なし) | 瓦孔 | 内面瓦窓・底孔 | 55 56 |
| P029 | 2号型六建物跡北・1層 | 深鉢・口周部 | 口縁部 | ナシ | 断土石・外側壁面 | 55 56 |
| P030 | 2号型六建物跡北・1層 | 深鉢・側面 | LRタテ→L字型の凹面 | ナシ | Lの部分(口・堆上接合面の跡) | 55 57 |
| P031 | 2号型六建物跡北・火燐トレンドー・堆上一級 | 深鉢・側面 | 深槽なぐつき | ナシ | ナシ | 55 57 |
| P032 | 2号型六建物跡北・火燐トレンドー・堆上一級、S.A19-1・瓦屋上段 | 深鉢・口周部 | 口縁ナグ・单筋縁1(口) ナグ | ナシ | ナシ | 55 57 |
| P033 | 2号型六建物跡北・1層 | 深鉢・口周部 | (口縁平ら・瓦筋) 瓦筋に斜目・窓・窓の沈窓 | ナシ | 内側C帯以外コヨウ着 | 55 57 |
| P034 | 2号型六建物跡北・1層 | 深鉢・口周部 | LRタテ→L字型の凹面 | ナシ | ナシ | 55 57 |
| P035 | 2号型六建物跡北・1層 | 深鉢・口周部 | LRタテ→T形のナグ | ナシ | ナシ | 55 57 |
| P036 | 2号型六建物跡北・1層 | 深鉢・口周部 | 高・窓窓・瓦筋・上部瓶面(直角)、下部タケ回転 | ナシ | ナシ | 55 57 |

第55図 繩文～弥生土器(4)



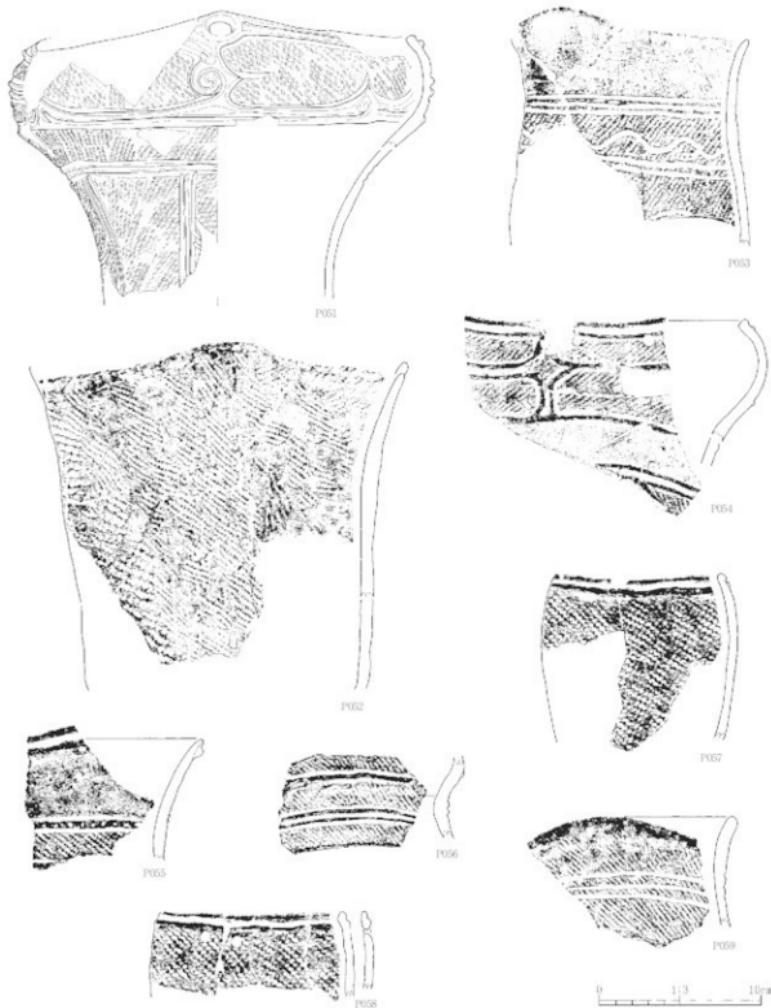
| 番號 No. | 出土地点・層位 Excavation site・Stratum | 器種・部位 Type・Part | 内・外 (内面部・底部・底部・周縁部・周縁部など) | 内・外 (内面部など) | 備考 Remarks | 年代 Period | 出 目 次 Index |
|-----------|-------------------------------------|--------------------|-------------------------------|----------------|--------------------|--------------|----------------------|
| P037 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 直線部→L字彎曲部 | ナシ | 外側大口付部 | 56 | 57 |
| P038 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 半楕円部付工具L字彎曲部 | ナシ | | 56 | 57 |
| P039 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | L字彎曲→直線部 | ナシ | | 56 | 57 |
| P040 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 丸みの付近→L字彎曲部 | ナシ | 外側大口付部 | 56 | 57 |
| P041 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 直線部→L字彎曲部 | ナシ | | 56 | 57 |
| P042 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 直線部→L字彎曲部 | ナシ | 外側大口付部 | 56 | 57 |
| P043 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 直線部→L字彎曲部 | ナシ | | 56 | 57 |
| P044 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 直線部→L字彎曲部 | ナシ | | 56 | 57 |
| P045 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 直線部→L字彎曲部 | ナシ | | 56 | 57 |
| P046 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 直線部→L字彎曲部 | ナシ | 外側大口付部 | 56 | 57 |
| P047 | II A2ta 4・第1分層 | 縫跡・口縁部 | 直線部→L字彎曲部 | ナシ | | 56 | 57 |
| P062 | II号型小建物跡・床面上部 No.1 (1/2)、第4層 | 縫跡 (底面一回) | 木棒穿孔付、ナシ、ナシ→直線部→直線ナット部 | ナシナット | | 56 | 57 |
| P063 | II号型小建物跡・床面上部 No.2 (ほとんど)、東端・中央位 | 縫跡 (1/3周程度) | 直線部付、木棒穿孔付、ナシ、ナシ→直線ナット部 | ナシナット | | 56 | 57 |
| P064 | II号型小建物跡・床面上部 | 縫跡 (1/3周程度) | 直線部付、木棒穿孔付、ナシ、ナシ→直線ナット部 | ナシナット | 外側大口付部 | 56 | 57 |
| P065 | II号型小建物跡・床面上部、床面上部 No.3、直線部、直線部、直線部 | 縫跡 (底面一回) | ナシ、ナシ→直線部付の凹部・沈み、直線ナット部 | ナシナット | 外スラッシュの側面口、粘土複合剖面層 | 56 | 57 |
| P066 | No.36-1号型小建物跡上部 No.57 (網付)・(1層1枚) | 縫跡 (口付) (1) | 木棒穿孔付、直線部、ナシ、ナシ、ナシ→直線部付の凹部、ナシ | ナシ | 外里側付・外スラッシュ、内コロナ | 56 | 58 |

第 56 図 縄文~弥生土器 (5)



| 剖面 No. | 出土地点・層位 | 器種・断面 | 内・外 縄文(縦目) | 内・外 (横目) | 備考 | 参考 図 頁 |
|-----------|---|---|--------------------------|-------------------------|-------|--------------|
| P047 | 1号型六建物跡上層 No.33888, 2号型六建物跡東・廻土中位, 廻土上位 | 鉢(直一閉) | 4底凹→R1テラ→入×乳×浅, 縞一乳筋ナビ | ナビ 内八人, 二次乳筋, 内乳以外コマ | | 58 |
| P048 | 1号型六建物跡上層 No.33889, 東・廻土中位, 南・廻土中位 | 鉢(直のル一閉) | 二底凹38°→R1テラ→乳×浅×乳筋, 縞内ナビ | ナビ 内八人, 内29° | | 58 |
| P049 | 1号型六建物跡・廻土, 東廻土中位 | 鉢(略一閉) | 二底凹38°→R2テラ→乳×浅×乳筋 | ナビ? | 外前大平行 | 58 |
| P050 | 1号型六建物跡東・廻土中位 | 深鉢(3-4周以上) 玄様4带付, 西八人, 錐部→L2テラ→ナビ, 縞内浅縞 | ナビ 外前大平行 | | | 59 |

第57図 縄文～弥生土器(6)



| 編號 No. | 出土地點・層位 Locality of find · stratum | 器種・部位 Type and part | 寸法 Dimensions | 特徴 特征 | 内面 Inner surface | 備考 Remarks | 本文 Reference | 写真 Photograph |
|-----------|---------------------------------------|------------------------|-------------------------|----------|---------------------|---------------|-----------------|------------------|
| P051 | 2号型六健物鉢東・地上部・上段、6号型六健物鉢西・地上部・中段 | 深鉢 (2.3周以上) | 外輪環2周以上・H.L. クテ→丸く浅めの凹面 | ナメ | 外面大ス、内面Gメ多 | g23 | 58 | 58 |
| P052 | 3号型六健物鉢東・地上上段 | 深鉢 (2.3周未満) | 内輪環1周・L.S. クテ、ナメ | ナメ | 外丸S、内ロゴ・縦條孔 | g24 | 58 | 58 |
| P053 | 3号型六健物鉢東・3周、地上上段 | 鉢・上革 | 二輪環・H.L. クテ→丸く浅めの凹面 | ナメ | 外面大丸口量 | g25 | 60 | 60 |
| P054 | 3号型六健物鉢東・地上上段 | 深鉢 (1.5周未満) | L.R.口縁コフ、腹クテ→腰骨になじつけ | 笠モリ? | 縫修孔 | g26 | 60 | 60 |
| P055 | 3号型六健物鉢東・地上上段 | 鉢・口・側底 | L.R. クテ→腰骨に沿う深い凹面 | ナメ | 外面大丸口量 | g27 | 60 | 60 |
| P056 | 3号型六健物鉢東・地上上段 | 深鉢・底部 | L.R. クテ→腰骨に沿う深い凹面 | ナメ | 外面大ス、内ロゴ | g28 | 60 | 60 |
| P057 | 3号型六健物鉢東・地上上段 | 鉢 (1.3周未満) | L.R. クテ | 笠モリ? | 外面大丸口量、二次焼成 | g29 | 60 | 60 |
| P058 | 3号型六健物鉢西・地上上段 | 鉢・口 (1.3周未満) | L.R. クテ→凹い凹面 | 笠モリ? | 外面大丸口量、縫修孔 | g30 | 60 | 60 |
| P059 | 3号型六健物鉢東・地上中段 | 深鉢・底部 | 内輪環1周・L.R. クテ→凹い凹面 | 笠モリ? | 外面大丸口量 | g31 | 60 | 60 |

第 58 図 縄文～弥生土器 (7)



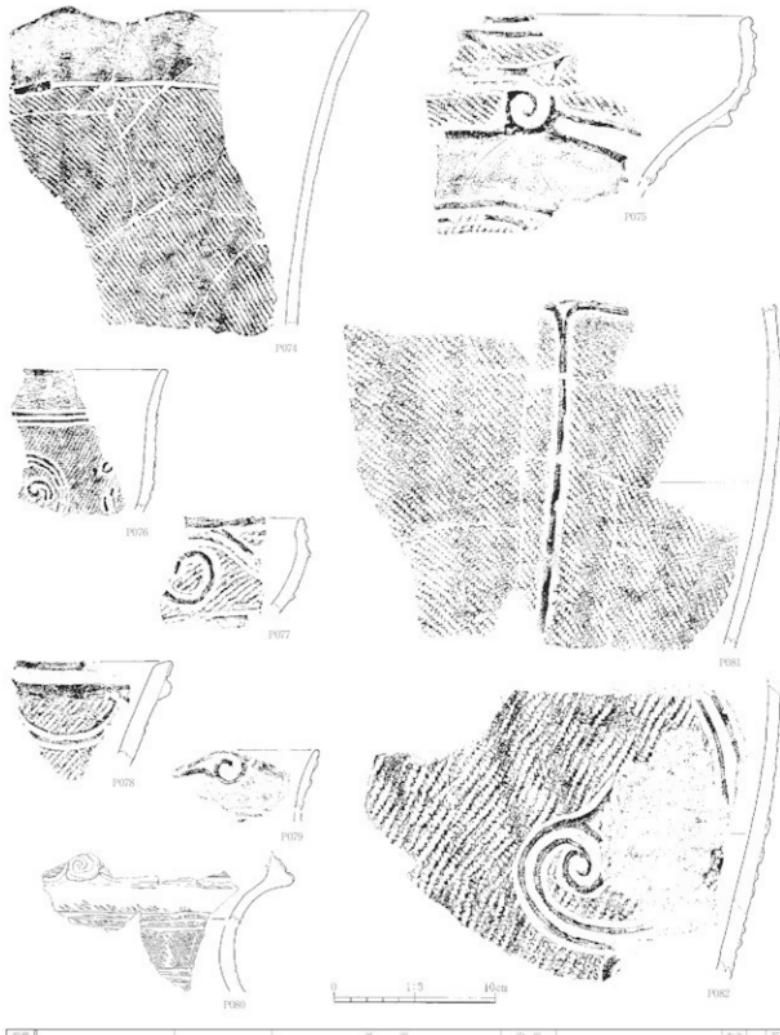
第 59 図 繩文～弥生土器 (8)

| 編號 | 出土地點・層次 | 器種・形狀 | 表面・底面 | 内面 | 備考 | 本文 記載 頁数 | 写 真 頁数 |
|------|---------------------------------|------------|---------------------------|------|----------------|----------------|--------------|
| P060 | 1号墳六建物跡裏・理土上段、中段、底・理土上段 | 鉢(1-3周目以下) | 口縁部・側面/底面、側面部全体 | 調整なし | 内面入り寸量 | 39 | 60 |
| P061 | 1号墳六建物跡裏・理土中段 | 鉢(1-3周目裏) | 口縁部・LR フラット・内縁部・底面、浅い底脚 | 笠形? | 内面入り寸量 | 39 | 60 |
| P062 | 1号墳六建物跡裏・陶土、2号墳六建物跡裏・理土中位置(3-4) | 深鉢(2-3周目裏) | RL フラット・長い縦帶・縦溝・アーチ・底面網代表 | 子鉢 | 内スヌ、二度燒成、底下部コゲ | 39 | 60 |
| P063 | 1号墳六建物跡裏・理土中段(1-2周)、2 ALB、2 層下段 | 深鉢(1-4周) | RL・絞部 | 子鉢 | 内二次燒成、スヌ、内コゲ多 | 39 | 60 |
| P064 | 1号墳六建物跡裏・理土上段 | 鉢底(1-5周以下) | RL フラット・側部口沿浅い底脚 | 子鉢 | 内黒斑・内焼付 | 39 | 60 |



| 編號 No. | 出土地點・層位 Site of Discovery / Stratigraphic Level | 器種・部位 Type / Part | 内・面 (縄目跡 / 刷毛 / 織目 / 織文網跡など) (Cord-marked / Brushed / Weaving / Weaving, Weaving Mesh Trace etc.) | 内・面 (縄目跡) | 備考 Remarks | 本文 文献 Reference Page No. |
|-----------|--|----------------------|---|--------------|------------------|--------------------------------------|
| P065 | 2号型六建物跡東・地上中位 | 漆跡(1.5cm以下) | LR+テクスチャ等 | テクスチャ | 外周大付着 | 60 61 |
| P066 | 2号型六建物跡東・地上中位 | 漆跡 | ヨコから立条状竹削り工具による刻痕 | 漆剥 | 内外壁剥離のみ | 60 61 |
| P067 | 2号型六建物跡東・2階・地上中位 | 漆剥・口縁部 | 貼付上、下から剥離 | テクスチャ | 60 61 | |
| P068 | 2号型六建物跡東・地上中位 | 漆剥跡・口縁部 | 内側肥厚・細かい剥離、沈澱 | テクスチャ | 内部ツブリ | 60 61 |
| P069 | 2号型六建物跡東・地上中位 | 漆・口縁部 | 漆剥・LRテクスチャ→丸く浅い凹窪 | LRテクスチャ | 外周大付着 | 60 61 |
| P070 | 2号型六建物跡東・地上中位 | 漆跡 | 変形・LR+テクスチャ | テクスチャ | 内外やや變形 | 60 61 |
| P071 | 2号型六建物跡東・2階 | 漆跡 | LR+ヨコに走るテクスチャ | LRテクスチャ | 60 61 | |
| P072 | 2号型六建物跡東・地上中位 | 漆剥跡・漆剥 | LR+剥離テクスチャ | テクスチャ | 60 61 | |
| P073 | 2号型六建物跡東西・2階・3階 | 漆剥(底のみ一例) | 漆剥・LR+ヨコに走る凹窪、底部・底剥離 | テクスチャ | 外周大付着、下二次地底、内底ヨコ | 60 61 |

第 60 図 縄文～弥生土器 (9)



| 編號 No. | 出土位置・層位 Locality / Layer | 器種・部位 Type / Part | 外観 [縹緥なび] / [繊細なび] | 内観 [縹緥なび] / [繊細なび] | 備考 Remarks | 本文 記載 頁数 Page No. | 写真 頁数 Page No. |
|-----------|-----------------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------|-------------------------------|-------------------------|
| P074 | 3号型六連物腰舟・2層 | 漆鉢 (1.5 口周溝) | 淡漠 U縫跡・LRテラ・円形丸足・底上部 | ナゲ | 外面丸入。内面ガタ・下腹D1、底面 | 61 | 61 |
| P075 | 3号型六連物腰舟・2層 | 漆鉢・1口周溝 | BLテラ・W縫跡・沿分テラ・脚 BLテラ | ナゲ | 外面丸入。内面ガタ | 61 | 61 |
| P076 | 3号型六連物腰舟・2層 | 鉢・口・脚部 | BLテラ・脚 BLテラ・内面丸入・底面 | ナゲ | 外面丸付蓋 | 61 | 61 |
| P077 | 3号型六連物腰舟・2層 | 漆鉢 | BLテラ・W縫跡 | ナゲ | 外面丸付蓋 | 61 | 61 |
| P078 | 3号型六連物腰舟・2層 | 漆鉢 | BLテラ・W縫跡 | ナゲ | 外面丸付蓋 | 61 | 61 |
| P079 | 3号型六連物腰舟・2層 | 漆鉢・口周溝 | BLテラ・W縫跡 | ナゲ | 外面丸付蓋 | 61 | 61 |
| P080 | 3号型六連物腰舟・2層 | 漆鉢・口周溝 | BLテラ・W縫跡 | ナゲ | 外面丸付蓋 | 61 | 61 |
| P081 | 3号型六連物腰舟・2層 | 漆鉢 (1.1 口周溝) | BLテラ・W縫跡 | ナゲ | 外面丸付蓋 | 61 | 61 |
| P082 | 3号型六連物腰舟・2層 | 漆鉢 (1.3 口周溝) | BLテラ・W縫跡 | ナゲ | 外面丸付蓋 | 61 | 62 |

第 61 図 繪文～弥生土器 (10)



| 器種 No. | 出土場所・層位 | 器種・形態 | 内・外 縫隙部 / 槌目 / 瓶部 / 頭部 / 腹部 / 肩部 / 鋸歯形突起など | 内・外 縫隙部など | 備 考 | 本文 記載 頁 | 写 真 頁 |
|---|---|----------------|---|--------------|--------|---------------|-------------|
| PO83 2号型六連物語西・頭 | II A2b-1-3層、Po-1層(?) 2号型の遺物群 | 深鉢(1.3周) | 丸く深めの浅鉢・短い側脚(LE, RE) タテ | タテ 内底凹 | | 62 | 62 |
| PO84 2号型六連物語西・288 | 林(2.3周4.6周) | 丸且ミタテ→楕円浅鉢 | ミタテ 外側凹入付縫 | | | 62 | 62 |
| PO85 2号型六連物語西・288 | 林(2.3周4.6周) | 圓、タテ・ナメ→丸く浅い浅鉢 | ナメ丁寧 内側上底ヨギ、裏側全面から削離 | | | 62 | 62 |
| PO86 2号型六連物語西・288 | 深鉢(1.3周) | | ナメ | | | 62 | 62 |
| PO87 2号型六連物語西・288 | 口縫隙部 | | ナメ | | | 62 | 62 |
| PO88 2号型六連物語西・288 | 深鉢(1.3周) | 圓、タテ・深帯になでつけ | ナメ 外底スリ付縫 | | | 62 | 62 |
| PO89 2号型六連物語西・288(1.9c), II A19, a-普屋上世-方縫 | 深鉢(1.4周以下) 水呑目花押印(1)・半輪印(6)(3) タテ・普屋上世印 | タテ | タテ 内底スリ付縫 | | | 62 | 62 |

第62図 縄文～弥生土器(11)



| 編號 No. | 出土地点・種別 | 器種・形狀 | 外　面 | 内　面 | 施　工 | 本数 件数 |
|-----------|------------|--------|-----------------------|--------|--------|----------|
| P090 | 2号墳六建物跡西・中 | 深鉢・口縁部 | (口縁部・底部・底盤・底面、底支脚等など) | (内壁など) | 内削大付量 | 63 62 |
| P091 | 2号墳六建物跡西・中 | 深鉢・口縁部 | 口縫部・口縁部・底盤 | 子鉢 | PCT施工跡 | 63 62 |
| P092 | 2号墳六建物跡西・中 | 深鉢・口縁部 | 口縫部 | 子鉢 | 内削痕 | 63 62 |
| P093 | 2号墳六建物跡西・中 | 深鉢・口縁部 | 大口縫・口縁部・底盤 | 子鉢 | 内削痕 | 63 62 |
| P094 | 2号墳六建物跡西・中 | 深鉢・口縫部 | カマドの内壁等・口縫・口縫口 | 内削 | 内削大付量 | 63 63 |

第 63 図 繪文～弥生土器 (12)



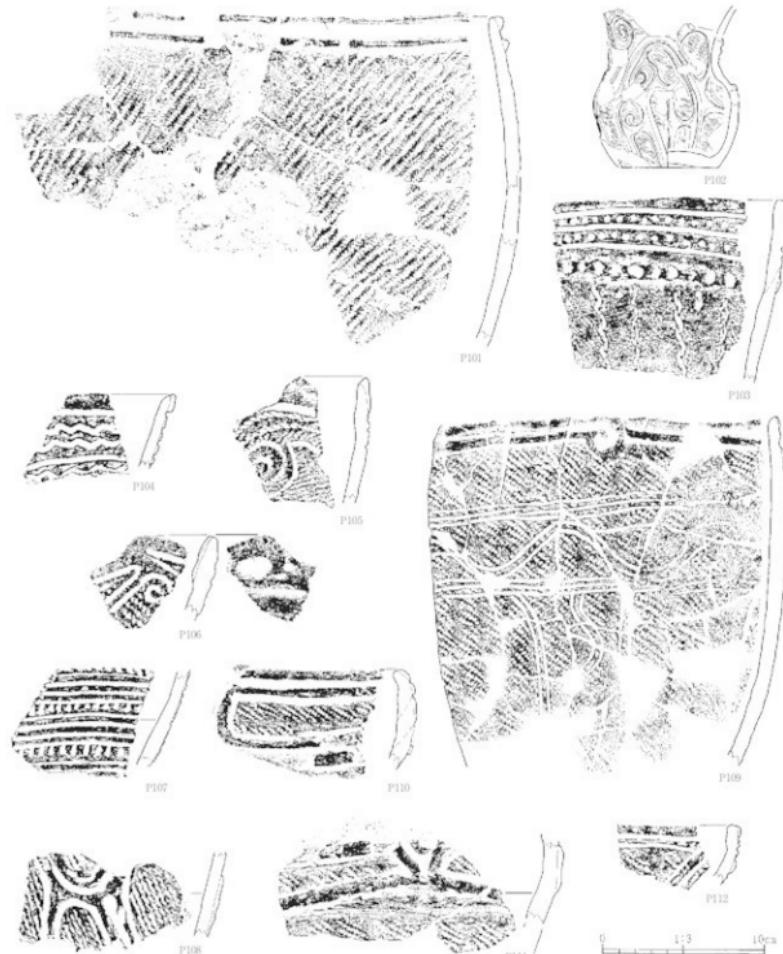
| 編號 No. | 出土地點・層位 Locality of find · stratum | 器種・部位 Type of vessel · part | 外　面 Outer surface | 内　面 (調査なし) (not examined) | 備　考 Remarks | 本文 Reference | 図 Fig. | 写真 Photograph |
|-----------|---------------------------------------|--------------------------------|---------------------------|---------------------------------|----------------|-----------------|-----------|------------------|
| P095 | 2号墳六建物跡・2階 | 鉢 (底丸) | 二重底・支脚2種・茎部・底面・縫合痕等なし | 口付なし | 内側黒漆? | 内側大刀付漆 | 61 | 63 |
| P096 | 2号墳六建物跡西・廐土上 | 深鉢 (口付) 周末面 | LR、口縁3D、底子ロイド・縫合に沿う丸く長い浅縫 | ナリ (上端半分) | 内火A、二次焼成 | 61 | 61 | |

第 64 図 繩文～弥生土器 (13)



| 形種 No. | 出土地点・層位 | 器種・部位 | 内・外 面 | 内・外 面 | 本数 記載 | 参考 文献 |
|-----------|-----------------------------|-----------|-----------------------|----------|--------------|-----------------|
| P095 | 3号堅穴建物跡西・堆土上段、5号土坑上部No.1地底 | 縦縫・周縫 | (口縫沿・側面・底部・底面・網文模様など) | (網状など) | ナド | 外土スヌ、下二次地底、内コゼ? |
| P096 | 3号堅穴建物跡西・堆土上段 | 縦縫・周縫 | LR、上ヨリロ、ドクテー底部・底面ナド | ナド | 65 | 65 |
| P097 | 3号堅穴建物跡東・堆土上段 | 縦縫・周縫 | BLテテ→四帯等分ツヅ | ナド | 内面コゼ行差 | 65 |
| P098 | 3号堅穴建物跡東・堆土上段、3号堅穴建物跡南・堆土上段 | 縫(2.3周米溝) | BLテテ→底・底面、底面→底面ナド | ナド | 外二次地底?、内底コゼ? | 65 |
| P099 | 3号堅穴建物跡南・堆土上段 | 縫(1.2周米溝) | 底凹口縫・底・底面、ヨコ→縫間に解けい底縫 | ナド | 外面スヌ、内面コゼ行差 | 65 |

第65図 織文～弥生土器(14)



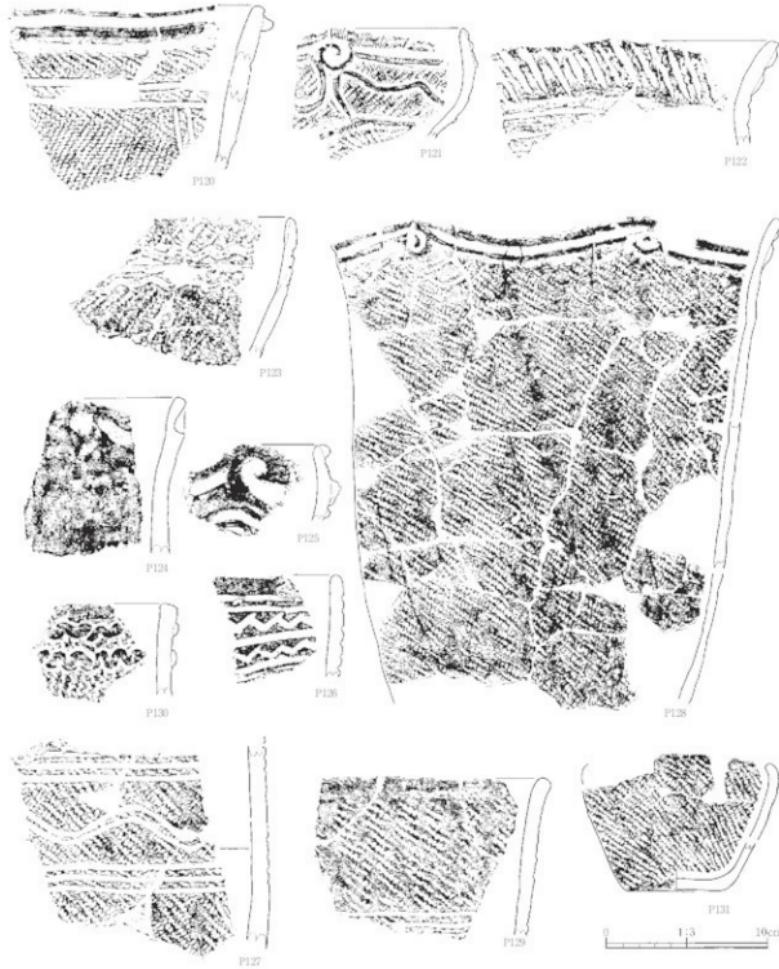
| 番号 No. | 出土地點・層位 Excavation site and stratum | 器種・部位 Type and part | 内・外 Inner and outer surfaces | 装飾等 Decorations, etc. | 備考 Remarks | 参考 Reference |
|-----------|--|------------------------|---------------------------------|--------------------------|---------------|------------------|
| P101 | 2号型六建物跡南・屋上部 | 深鉢 (14周以上) | 口縁部 / 脇部・底部 / 周縁部、縞文解体など | ナシ | 外側大A、内側 | 66 64 |
| P102 | 2号型六建物跡南・屋上中位 | 鉢 (34周以上) | LRナラ+縞文に沿った波線 / 底縁ナラ | ナシ | | 66 63 |
| P103 | 2号型六建物跡南・屋上中位 | 深鉢 | 竹管状工具による軽突・凹・縞文の中心押付・LR+縞文ナラ | ナシ | | 66 63 |
| P104 | 2号型六建物跡南・屋上中位 | 深鉢 | 口縁部 | 人面の丸文 | ナシ | 外側大A打痕 |
| P105 | 2号型六建物跡南・屋上中位 | 深鉢 | 口縁部 | LRナラ+LR 縞文直糸 | ナシ | 66 63 |
| P106 | 2号型六建物跡南・屋上中位 | 深鉢 | 口縁部 | 内側足跡・足跡の沈殿 | ナシ | 内側摩耗 |
| P107 | 2号型六建物跡南・屋上中位 | 深鉢 | 口縁部 | 上から約1割・凹・波線 | ナシ | 上の脚印、粘土接合面剥離・凹ロゴ |
| P108 | 2号型六建物跡南・屋上中位 | 深鉢 | 口縁部 | LRナラ+縞文に沿った波線 | ナシ | 66 63 |
| P109 | 2号型六建物跡南・2層 | 深鉢 (約一回) | LRナラの縞文解体直糸・LRナラ+凹・波線 | ナシ | 外側大A、二次焼成 | 66 64 |
| P110 | 2号型六建物跡南・2層 | 深鉢 | 口縁部 | LRナラ+縞文に沿った波線 | ナシ | 外側大A打痕 |
| P111 | 2号型六建物跡南・2層 | 深鉢 | 底部? | LRナラ+縞文等でけい | ナシ | 66 65 |
| P112 | 2号型六建物跡南・2層 | 深鉢 | 口縁部 | CBナラ+LR ロゴ+波線 | ナシ | 66 65 |

第66図 縞文~弥生土器 (15)



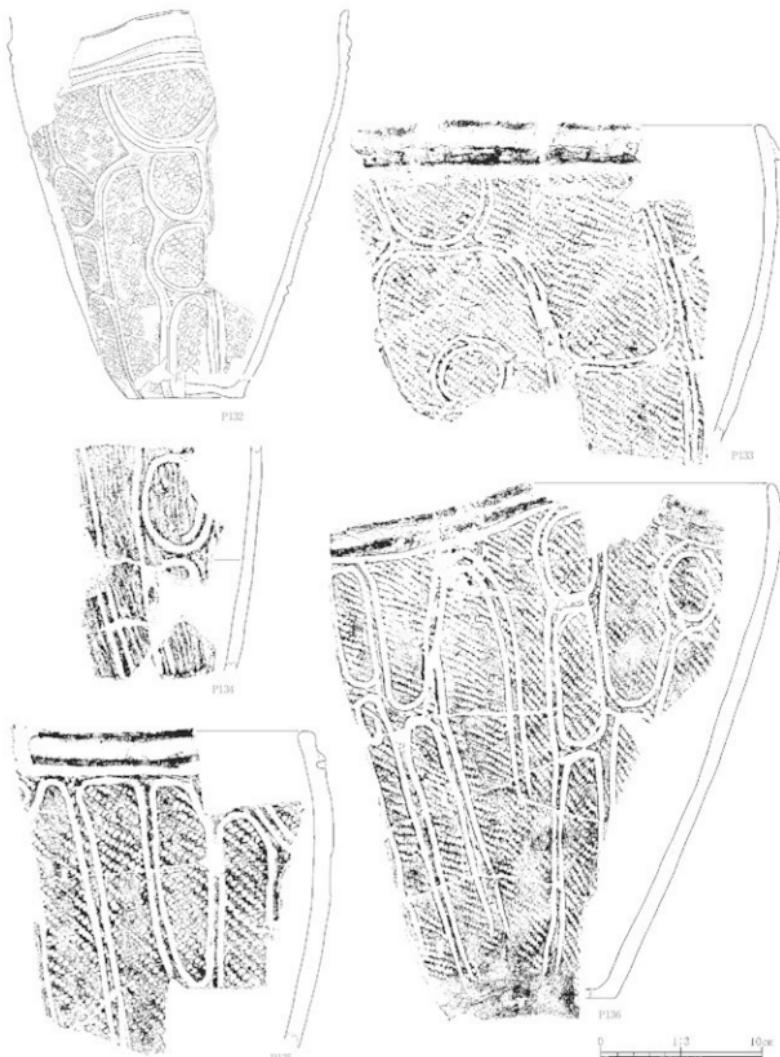
| 編號 No. | 出土場所・層位 Locality of find · stratum | 器種・部狀 Type and shape | 外 壁 (縹緲・網目・波浪・直面・綱文等全体性) | 内 壁 (渦巻など) | 備 考 備考 | 本邦 出典 Ref. | 著 者 Author |
|-----------|---------------------------------------|-------------------------|-----------------------------|---------------|----------------|------------------|------------------|
| P113 | 1号堅六健物跡面・堆土上段 | 縹・網目 | RL クリ→浅い波紋 | ナゲ | 外曲スヌ多、内曲コマ、網目 | 67 | 65 |
| P114 | 1号堅六健物跡面・堆土上段 | 縹緲 (1.5周未溝) | RL クリ→浅い波紋 | ナゲ | 外曲スヌ多 | 67 | 65 |
| P115 | 1号堅六健物跡面・堆土上段 | 縹緲 (口縁一列) | 波状・L型・口縁ヨロ、縹クリ→渦巻などつけ。波う波織 | ナゲ | 外口スヌ、二三次施。内コマ多 | 67 | 65 |
| P116 | 1号堅六健物跡面・堆土上段 | 縹緲 (1.5周以上) | 波状・L型→渦巻などつけ。口縁ナゲ | ナゲ | 外堅波?・内スヌ、二三次施 | 67 | 66 |
| P117 | 1号堅六健物跡面・堆土上段 | 縹緲 (1.5周未溝) | 波状・L型→渦巻などつけ。RL クリ→浅い波紋 | ナゲ | 内曲コマコロ | 67 | 66 |
| P118 | 1号堅六健物跡面・堆土上段 | 縹緲 (1周以上) | 波状・L型→渦巻などつけ。波うナゲ | ナゲ | 外曲スヌ付着、下辺二次施 | 67 | 66 |
| P119 | 1号堅六健物跡面・堆土上段 | 縹緲 (1周以上) | RL クリ | ナゲ | | 67 | 66 |

第 67 図 縹文～弥生土器 (16)



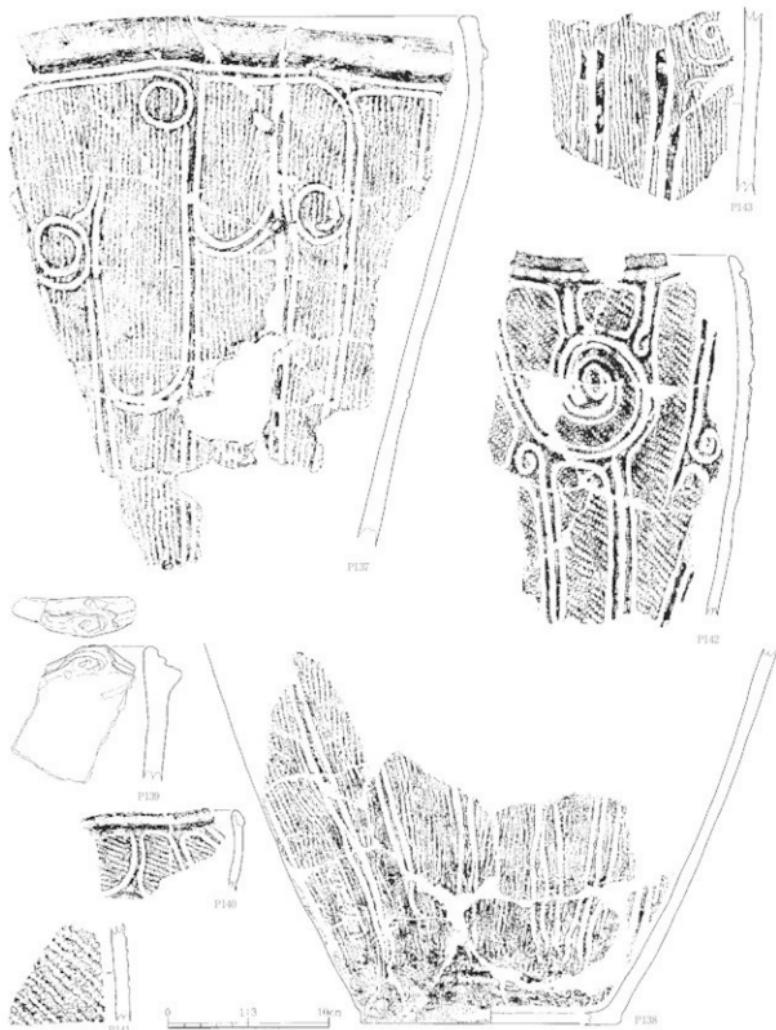
| 編號 No. | 出土地點・層位 Locality of Discovery · Stratigraphic Level | 器種・性状 Type and Condition | 外 壓 External Pressure | 内 壓 Internal Pressure (調査なし) (Surveyed) | 備 考 Remarks | 本上 Top 上部 Upper Part | 中 Middle 中部 Middle Part | 下 Bottom 下部 Lower Part |
|-----------|--|-----------------------------|--------------------------|---|----------------|-------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| P120 | 2号型六建物跡北・屋上上位 | 漆器・口沿部 | 口沿部・脚部 / 断面、調査無地など | ナガ光沢 | 68 66 | | | |
| P121 | 2号型六建物跡北・屋上上位 | 漆器・口沿部 | LR・口沿コラム・脚ナタ・丸く凹・浅縫 | ナガ光沢 | 68 66 | | | |
| P122 | 2号型六建物跡北・屋上上位 | 漆器・口沿部 | LR・口沿コラム・脚ナタ・縫合などつけ | ナゲ 内面スス、内面コゲ | 68 66 | | | |
| P123 | 2号型六建物跡東・2層、3号型小建物跡北・屋上上位(3/5) | 漆器・口沿部 | 丸く深い浅縫・軽くしまくれ地 | ナゲ 内面黒斑? | 68 66 | | | |
| P124 | 2号型六建物跡北・屋上中位 | 漆器・口沿部 | LR・コヨー半円管竹管或工具による汎縫 | ナゲ | 68 66 | | | |
| P125 | 2号型六建物跡北・屋上中位 | 漆器・口沿部 | 突起下深い内側斜面 / 縫合ナゲ | ナゲ 内面スス付臺 | 68 66 | | | |
| P126 | 2号型六建物跡北・屋上中位 | 漆器・口沿部 | 突起・深く凹縫 | ナゲ | 68 66 | | | |
| P127 | 2号型六建物跡北・屋上中位 | 漆器・口沿部 | 突起・深めの凹縫 | ナゲ | 68 66 | | | |
| P128 | 2号型六建物跡北・屋上中位 | 漆器・例底 | LR・ナタ・浅い浅縫 | ナゲ 内面スス付臺 | 68 66 | | | |
| P129 | 2号型六建物跡北・1層、3号型六建物跡北・2層 | 漆器・口沿部 | 突起・縫合不規・LR・ナタ | ナゲ 内面スス付臺、二次焼成 | 68 66 | | | |
| P130 | 2号型六建物跡北・2層 | 漆器・口沿部 | LR・ナタ・浅く凹縫、口縫ナゲ | ナゲ | 68 66 | | | |
| P131 | 2号型六建物跡北・2層 | 漆器・口沿部 | 口縫ナタ・脚ナタ・縫合 | ナゲ | 68 66 | | | |
| P132 | 1号型六建物跡北・1層 | 漆器・底のみ一回 | LR・ナタ・底ナゲ | ナゲ | 68 67 | | | |

第 68 図 繪文～弥生土器 (17)



| 番号 No. | 出土地点・層位 Locality and stratum | 器種・形狀 Type and shape | 内・外 Interior and exterior | 内・外 Interior and exterior | 備考 Remarks | 参考 Reference |
|-----------|---------------------------------|-------------------------|------------------------------|------------------------------|---------------|-----------------|
| P132 | 1号墳六連物語 p1 | 漆鉢(底のみ一列) 漆鉢(底のみ朱色) | (内)漆底・側面・底面 / 陶面・陶文(複数なし) | (内)漆なし | | |
| P133 | 1号墳六連物語 p2 | 漆鉢(1.5寸周未満) | (内)テラ・底面 | (内)漆なし。内面コブ | | 69 67 |
| P134 | 1号墳六連物語 p3 | 漆鉢(1号墳六連物語・埋土上部②左) | 漆鉢・側部 单眼鏡(1.5寸) | (内)漆なし・外黒膜?・外スル付着 | | 69 67 |
| P135 | 1号墳六連物語 p2.5 | 漆鉢(底上上・中位、北東・埋土上一級) | 漆鉢・口縁部 | (内)テラ・底面・内面底付着 | | 69 67 |
| P136 | 1号墳六連物語 p2.5 | 漆鉢(1.5寸周未満) | 漆鉢口縁(1.5寸テラ・底面・口縁・底面・側面) | (内)漆なし | | 69 67 |

第69図 繪文～弥生土器 (18)



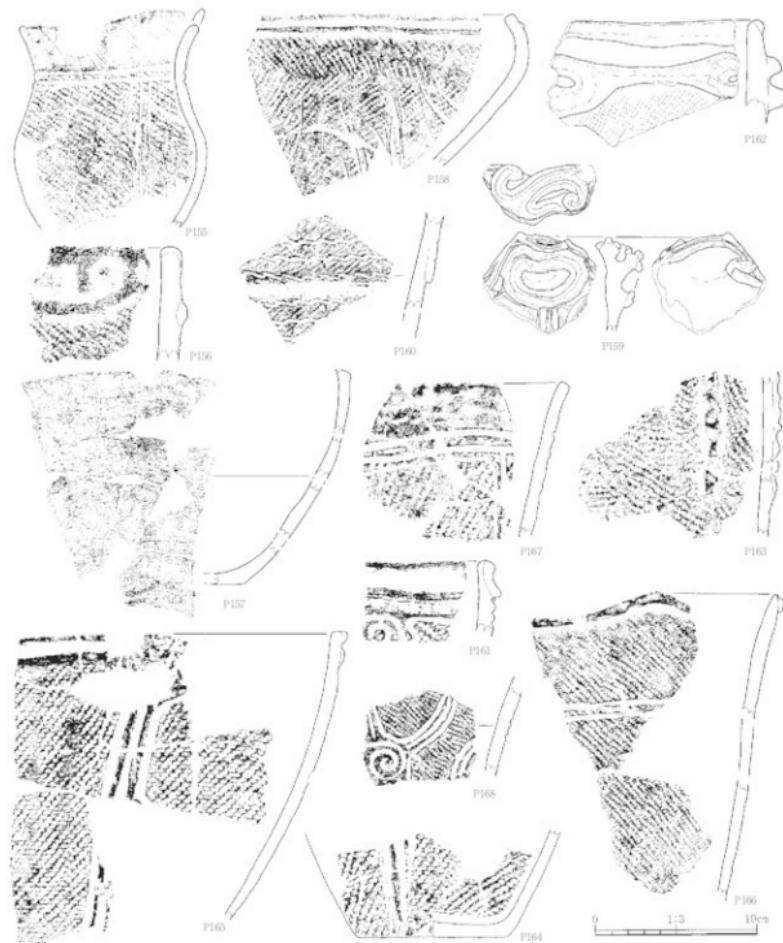
| 編號 | 出土施点・断片 | 器種・部位 | 馬・鹿 江戸尾・廻尾・鹿尾・鹿頭・鹿丈尾全体の 半輪底1(左) テテ→左の(右)→右の(左) | 内 装 (調査なし) | 備 考 | 本文 記載 | 写 真 | |
|------|---------------------|------------|--|---------------|-------|----------|-----|----|
| P137 | 1号型六建物底1・地上面 | 深鉢(1升同本面) | 半輪底1(左) テテ→左の(右)→右の(左) | ナシ | | 70 | 68 | |
| P138 | 1号型六建物底1・地上面・残土上・中空 | 深鉢(1升2同本面) | 半輪底1(左) テテ→左の(右)→右の(左) | ナシ | | 70 | 68 | |
| P139 | 1号型六建物底1・中空部・残土上・残 | 深鉢・口縁部 | ナシ | ナシ? | | 70 | 68 | |
| P140 | 1号型六建物底1・中空部・残土上・残 | 深鉢・口縁部 | LRテテ→左の(右) | ナシ | 馬頭大付垂 | 70 | 68 | |
| P141 | 1号型六建物底1・残土上 | 深鉢・側底 | LRテテ | ナシ | 馬頭大付垂 | 70 | 68 | |
| P142 | 1号型六建物底1・トス1・残土上・中空 | 深鉢(1升3同本面) | LRテテ→左の(右)テテ→左の(右) | 横合小刻 | ナシ | 馬頭大・内面コブ | 70 | 68 |
| P143 | 1号型建物底1・トス1・残土上・中空 | 深鉢・側底 | 半輪底1(右) テテ→左の(右) | ナシ | 馬頭大付垂 | 70 | 68 | |

第 70 図 繩文～弥生土器 (19)



| 編號 No. | 出土地点・層位 Locality of find · stratum | 器種・部位 Type and part of vessel | 外観 External view | 内面 (断面等) (Cross-section etc.) | 備考 Remarks | 本文 正稿 Original manuscript | 図 Fig. Figure | 写真 Phot. Photograph |
|-----------|---------------------------------------|----------------------------------|-----------------------|-------------------------------------|---------------|---------------------------------|---------------------|---------------------------|
| P144 | 1号型六建物跡・堆土一級 | 深鉢・口縁部 | (口縁部／側面／底面／直面、縫文装饰なし) | | | | 71 68 | |
| P145 | 1号型六建物跡・堆土、堆土上部(1/27) | 深鉢・直縁部 | (底部(?)直縁) | | | | 71 69 | |
| P146 | 1号型六建物跡南・堆土上～中位、堆土下部 | 鉢(?)口縁部(4段) | (底地模?)直縁) | 縫文装饰の底面 | ナゲ | | 71 69 | |
| P147 | 1号型六建物跡南・堆土上～中位 | 深鉢・口縁部 | 底地模 | ナゲ(?)直縁 | ナゲ | | 71 69 | |
| P148 | 1号型六建物跡南・堆土上～中位 | 深鉢・口縁部 | 底地模 | ナゲ(?)直縁 | ナゲ | | 71 69 | |
| P149 | 1号型六建物跡南・堆土上～中位 | 深鉢・口縁部 | 底地模 | ナゲ(?)直縁 | ナゲ | | 71 69 | |
| P150 | 1号型六建物跡南・堆土上～中位 | 深鉢・口縁部 | 底地模 | ナゲ(?)直縁 | ナゲ | | 71 69 | |
| P151 | 1号型六建物跡南・堆土上位 | 深鉢(1.5周未満) | 底 | ナゲ | | | 71 68 | |
| P152 | 1号型六建物跡北・堆土上～中位 | 深鉢(1周未満) | 底 | ナゲ(?)直縁 | ナゲ | | 71 68 | |
| P153 | 1号型六建物跡北・堆土上～中位、2A2b～2B層上位 | 深鉢(1.5周未満) | 底 | ナゲ(?)直縁 | ナゲ | | 71 69 | |
| P154 | 1号型六建物跡北・堆土上～中位 | 深鉢・口縁部 | 底 | ナゲ(?)直縁 | ナゲ | | 71 69 | |
| P155 | 1号型六建物跡北・堆土上～中位 | 深鉢・口縁部 | 底 | ナゲ(?)直縁 | ナゲ | | 71 69 | |

第 71 図 繩文～弥生土器 (20)



| 編號 | 出土場所・層位 | 器種・部位 | 内 容 | 備 考 | 本文 記載 | 図 記載 |
|------|--------------------------|-----------|--|-------|-------------------|---------|
| P155 | 4号型六種物南北・西側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | (口幅部・側面・底面・表面・裏面・側面切端など) 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | レリフ? | 馬上スル。二二次焼成、内全面コゲ? | 72 63 |
| P156 | 4号型六種物南北・西側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P157 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P158 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P159 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P160 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P161 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P162 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P163 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P164 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P165 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P166 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P167 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P168 | 4号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.2周木漏) | 直径約19mm・口リテラル・底面・口縁部・口縁部 | リメラル? | 外曲スル | 72 69 |
| P169 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P170 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P171 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P172 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P173 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P174 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P175 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P176 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P177 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |
| P178 | 5号型六種物南北・東側に毛刷の可能性・埋土上一層 | 棒(1.5周木漏) | (口幅部・側面・底面・裏面・側面切端など) 直径約19mm | リメラル? | 外曲スル | 72 20 |

第 72 図 細文～弥生土器 (21)



| 編號 | 出土場所・層位 | 器種・部位 | 内・外面 (江綱部・腹部・底部・底面・縁文部等) | 内・外面 (縫隙等) | 備考 | 参考 文献 | 回 | 百分 率 |
|------|-------------------------------|-------------|-------------------------------|---------------|------------------|----------|----|---------|
| P169 | 5号型六建物跡 pit-2層 | 深鉢・脚部 | SLRテク→浅めの洗刷 | ナゲ | 内面スル付着 | 73 | 20 | |
| P170 | 5号型六建物跡・堆土上段 | 深鉢・(1.5周未溝) | SLRテク→大口の洗刷 | ナゲ | 内面剥落 | 73 | 20 | |
| P171 | 5号型六建物跡・堆土上位 | 深鉢・脚部 | SLRテク→吸盤上ナガ→部分浅い洗刷 | ナゲ | 内面全面剥落、内面剥落 | 73 | 20 | |
| P172 | 5号型六建物跡・堆土上位 | 深鉢・脚部 | SLRテク→吸盤上ナガ→LE脚部付近 | ナゲ | 内面全面剥落、内面剥落 | 73 | 20 | |
| P173 | 5号型六建物跡・堆土上位、黒色土焼出0058 | 深鉢・脚部 | SLRテク→吸盤上→部分深い剥刷 | ナゲ | 馬上スル、内アコゼ | 73 | 20 | |
| P174 | 5号型六建物跡・堆土上・中位、Ⅱ A15w・葉層下位 | 深鉢・(1.5周未溝) | SLRテク→吸盤上/底部の洗刷 | ナゲ | 馬上スル、内アコゼ | 73 | 20 | |
| P175 | 5号型六建物跡・堆土上位 | 鉢・底面一帯 | SLRテク→ナメリ/底面ナゲ | ナゲ | 馬上スル、内アコゼ | 73 | 20 | |
| P176 | 5号型六建物跡上部集中Ⅰ層 No.1, 2, 4, 6周側 | 深鉢・一部欠損 | 先端テク→ナメリ/SLR・口縁凹凸、要注PP+ナゲ(丁寧) | ナゲ下部 | 馬上スル、二重剥離、内面全面剥離 | 73 | 20 | |

第73図 織文～弥生土器(22)



第74図 織文～弥生土器 (23)

| 番号 | 出土点・層位 | 器種・部位 | 内面・背面 | 参考 | 参考文献 |
|------|----------------------------------|--------------------|----------------------------|--------|-------|
| P177 | 6号型六建物複合施設No.1(2室、堆上)1層 | 縄跡(1:1 黒朱漆) 口縁部 | 口縁部 / 腹部・底部・肩部、縄文複合化? | (調査なし) | 21 20 |
| P178 | 6号型六建物複合施設p1-1-5層 | 縄跡 | 口縁部 | 外表面落 | 21 20 |
| P179 | 6号型六建物複合施設中1層(Ⅱ A20)・基層下段(15/16) | 縄跡(1:1 黒朱漆) | 口縁部(1:1 黒) →太口底・底脚、口縁ナメ | 外表面大付着 | 21 20 |
| P180 | 6号型六建物複合施設中 | 縄跡(1:1 黒朱漆) | 口縁部 | 外表面大付着 | 21 20 |
| P181 | 6号型六建物複合施設中1 | 縄跡 | 口縁部 | 外表面大付着 | 21 20 |
| P182 | 6号型六建物複合施設上段上1 | 縄跡 | 口縁部 | 外表面大付着 | 21 20 |
| P183 | 6号型六建物複合施設上1 | 縄跡 | 腹部 | 外表面大付着 | 21 20 |
| P184 | 6号型六建物複合施設上1 | 縄跡 | 腹部 | 外表面大付着 | 21 20 |
| P185 | 6号型六建物複合施設上段上1 | 縄跡(1:3 黒朱漆) | 口縁部 | 外表面大付着 | 21 20 |
| P186 | 6号型六建物複合施設上段上1 | 縄跡 | 口縁部 | 外表面大付着 | 21 20 |
| P187 | 6号型六建物複合施設上段上1 | 縄跡 | 腹部 | 外表面大付着 | 21 20 |
| P188 | 6号型六建物複合施設上段上1 | 縄跡(1:3 黒朱漆) | 口縁部 | 外表面大付着 | 21 20 |



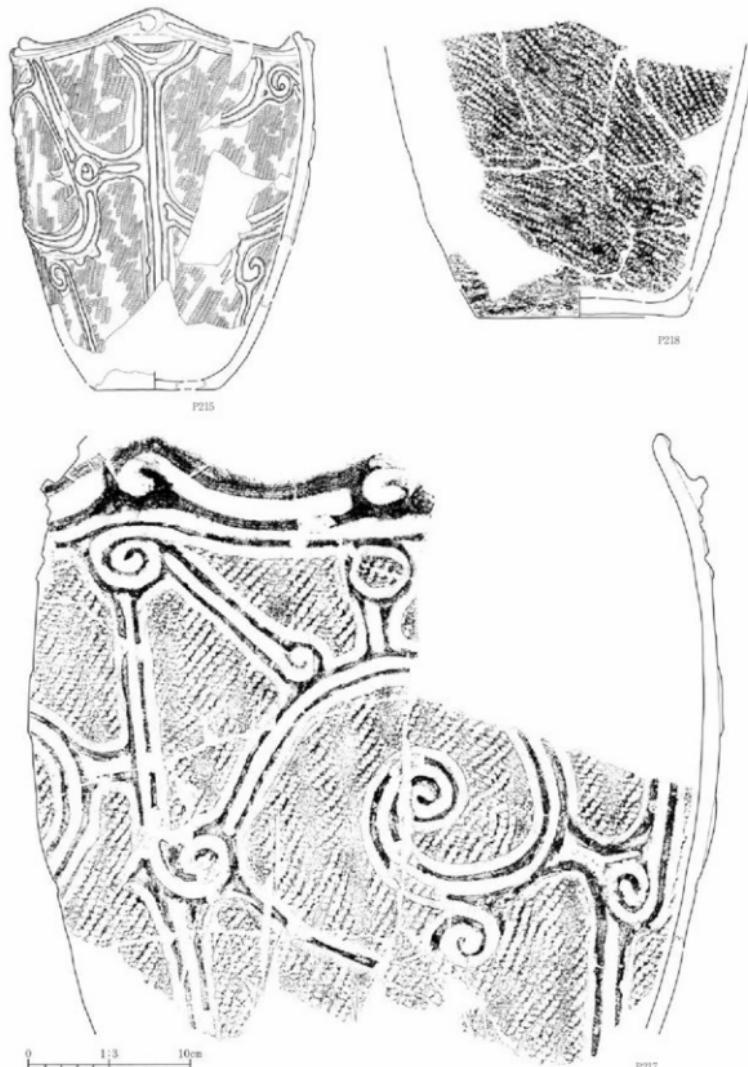
| 編號 | 出土地点・層位 | 器種・部位 | 馬・鹿 （主な骨部・頭骨・四肢骨・頭蓋骨等） | 内・外 側壁等 | 備 考 | 本文 記載 | 図 版 |
|------|--|------------|---------------------------|-----------------|-----|----------|--------|
| P187 | 6号型大遺物群・堆土中段(1/3)、E A20v 瓦屋(2号型)・焼物柱(?) | 漆器(2号筒形漆器) | 鹿・テラ・馬の角・鹿の頭 | ナゲ 内面大丸、内面コゲ | | 75 | 71 |
| P188 | 6号型大遺物群・堆土中段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ 玉の縫合口、粘土層分界面 | | 75 | 71 |
| P189 | 6号型大遺物群・堆土中段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P190 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(2号筒形漆器) | 鹿・テラ・馬の角・鹿の頭 | ナゲ 内面大丸、内面コゲ | | 75 | 71 |
| P191 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P192 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P193 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P194 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P195 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P196 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P197 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P198 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P199 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P200 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P201 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P202 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P203 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| P204 | 6号型大遺物群・堆土一段 | 漆器(1号罐) | 鹿・テラ | ナゲ | | 75 | 71 |
| | | | | 0 1 cm 10 cm | | | |

第 75 図 繩文～弥生土器 (24)



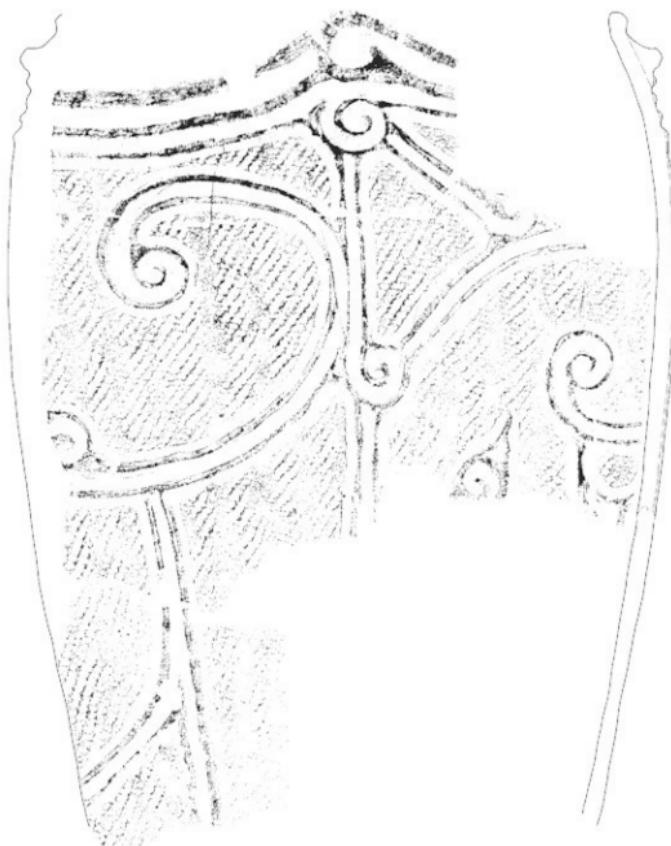
| 番号 No. | 出土地点・層段 Site・Stratum | 器種・部位 Type・Part | （横断面／断面）・底・口 Cross-section / Section - Base - Neck | 内側 Inner side | 参考 Reference | 本文記載 Text reference | 図 Figure | 写真 Photograph |
|-----------|---------------------------------|---|--|------------------|--|------------------------|-------------|------------------|
| P205 | II A10・20y・瓦屋上位, II A20y・蓋縛付・瓦屋 | 壺形鉢・口縦底 Flask-shaped bowl - Oral longitudinal base | 高・底付・結束軸縛 (HL, LR) + 結束茎と L テテ High - Base - Joint axis binding (HL, LR) + Joint stem and L-shaped protrusion | ナゲテ Nagete | 内側ヨコ付台・20y時・側体 Inner side horizontal base - 20y - Side body | 26 72 | | |
| P206 | II A10・瓦屋上位, II A20y・瓦屋上位 | 壺形鉢・口縦底 Flask-shaped bowl - Oral longitudinal base | | | 20y時・側体 20y - Side body | 26 72 | | |
| P207 | 6号型六建物跡北・39y | 鉢 (1/2周未溝) Bowl (1/2周未溝) | 1/2周鉢の底面形状 - LRテテ Shape of the bottom surface of a 1/2周 bowl - LR-shaped protrusion | ナゲテ Nagete | 内面入人仕事 Inner surface entrance | 26 72 | | |
| P208 | 6号型六建物跡北・39y | 口縦底 Oral longitudinal base | LRテテ・底付 LR-shaped protrusion - Base | ナゲ Nagete | 内面入人仕事 Inner surface entrance | 26 72 | | |
| P209 | 6号型六建物跡北・39y | 壺形鉢 Flask-shaped bowl | LRヨコ付台 LR horizontal base | ナゲ Nagete | | 26 72 | | |
| P210 | 6号型六建物跡北・39y | 壺形鉢 Flask-shaped bowl | LRヨコ付台で底付 Base付 - LR horizontal base | ナゲテ Nagete | | 26 72 | | |
| P211 | 6号型六建物跡北・39y | 壺形鉢 Flask-shaped bowl | 1/2周ヨコ付台の底面 Bottom surface of a 1/2周 horizontal base | ナゲテ Nagete | 内面入人仕事 Inner surface entrance | 26 72 | | |
| P212 | 6号型六建物跡北・39y | 壺形鉢 Flask-shaped bowl | 1/2周ヨコ付台 1/2周 horizontal base | ナゲ Nagete | 内面入人仕事 Inner surface entrance | 26 72 | | |
| P213 | 6号型六建物跡北・39y | 壺形鉢 Flask-shaped bowl | 1/2周ヨコ付台 1/2周 horizontal base | ナゲ Nagete | 内面入人仕事 Inner surface entrance | 26 72 | | |
| P214 | 6号型六建物跡北・39y | 壺形鉢 Flask-shaped bowl | 1/2周ヨコ付台 1/2周 horizontal base | ナゲ Nagete | 内面入人仕事 Inner surface entrance | 26 72 | | |
| P215 | 6号型六建物跡北・39y | 壺形鉢 Flask-shaped bowl | 1/2周ヨコ付台 1/2周 horizontal base | ナゲ Nagete | 内面入人仕事 Inner surface entrance | 26 72 | | |

第 76 図 繩文～弥生土器 (25)



第 77 図 繩文～弥生土器 (26)

| 測量 No. | 出土場所・層位 | 器種・部位 | 内・外 (縄文など) | 内・外 (縄文など) | 本支 記載 | 同 考典 |
|-----------|---------------|----------|-------------------------|---------------|-----------------|---------|
| P215 | 25号墳六連物群・堆上土位 | 深鉢(一層火照) | 口縁部・側面・底面・底面・縄文(束縛など) | 口縁部・側面(縄文など) | 未だ | 27 23 |
| P217 | 25号墳六連物群・堆上土位 | 深鉢(口直)4個 | 未記 | 未記 | No216.2同・一個体 | 27 25 |
| P218 | 7号墳六連物群・堆上土位 | 深鉢(直輪)4個 | L8.テテ。ナナニ。波曲網代表?→底面・面ナリ | 底面 | 内二次焼成、内面コロナ(アレ) | 27 23 |



P216

0 1:2 10cm

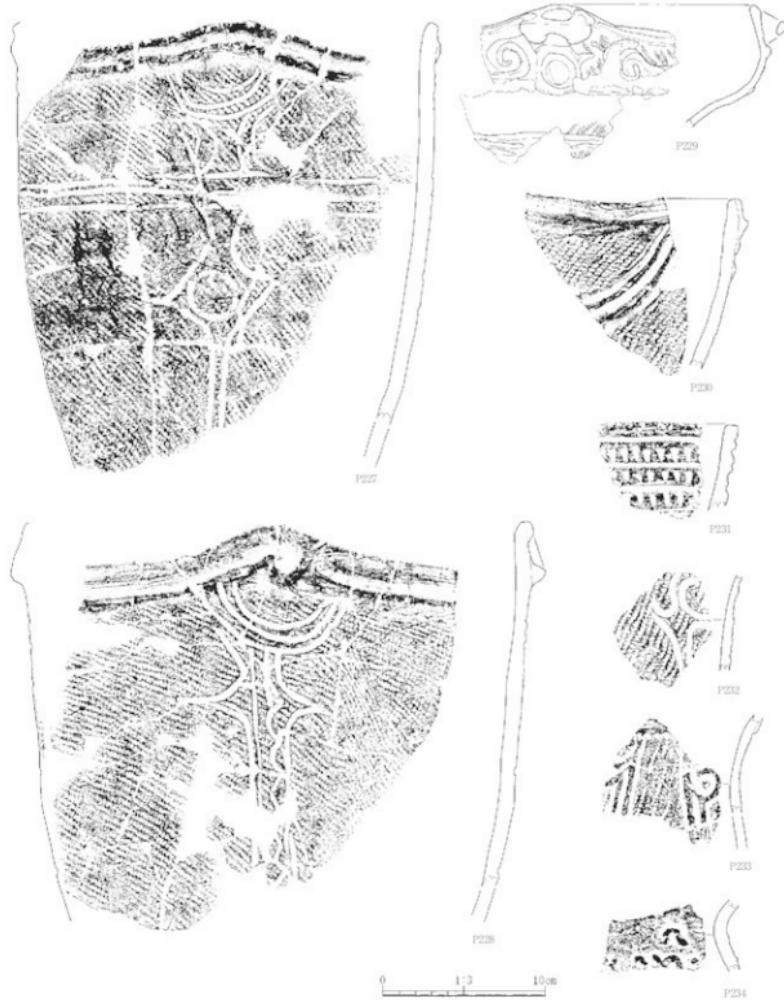
| 施設 No. | 出土地名・層位 | 器種・部位 | 寸幅記・測定 部別・既測、調査、調査兼併など) | 内・外 (調査など) | 備 考 | 本文 記載 頁 | 写 真 |
|-----------|------------|------------|----------------------------------|---------------|---------------------|---------------|--------|
| P216 | 丁子塚古墳・堆土下位 | 深鉢(1/2周未満) | 10.0cm (既) タテ×横幅(1/2周)10.0cm (既) | ナゲ丁字 | 柴松光洋・井川洋・No.217 之同一 | 78 | 71 |

第 78 図 縄文～弥生土器 (27)



| 同種 No. | 出土場所・層位 | 器種・形狀 | 外 周 | 内 壁 | 備 考 | 参考 記号 | 写 真 |
|-----------|-------------------------------------|--------|-----------------------------|---------------------|-----|----------|-----|
| P219 | 7号室六連物跡東・壁上下段 | 深鉢口付圓筒 | 口縁部・側面・底部・底面、綺麗な模様 | 内縁 (調整なし) | ナシ | 29 | 23 |
| P220 | 7号室六連物跡東(2段)・北東・壁上1段、Ⅱ A26a 層(・最弱化) | 鉢・丸盤 | 内縁二種・底付テラコ・火炎部分に古い模様 | ナシ | 29 | 23 | |
| P221 | 7号室六連物跡東・壁上1段 | 鉢・口縁部 | 2底付・L底テラコ・火炎・口縁(・模様なし)・底面ナシ | ナシ | 29 | 23 | |
| P222 | 7号室六連物跡東・壁上1段 | 深鉢・側面 | 口・アーチ模様などなし・沿うたぐいの凹溝、斜窓 | ナシ | 29 | 23 | |
| P223 | 7号室六連物跡西・壁上1段 | 深鉢口付圓筒 | 口・アーチ模様などなし・沿うたぐいの凹溝 | ナシ | 29 | 23 | |
| P224 | 7号室六連物跡西・壁上1段 | 深鉢・側面 | 口付テラコ・底面などなし・沿うたぐいの凹溝 | ナシ | 29 | 23 | |
| P225 | 7号室六連物跡西・壁上1段、Ⅱ A26c ~ e・裏・瓦層 | 深鉢口付圓筒 | 口・アーチ模様などなし・沿うたぐいの凹溝 | ナシ丁寧 内底底? | 29 | 23 | |
| P226 | 7号室六連物跡西・壁上1段、7号室六連物跡西・壁上中~下段 | 深鉢口付圓筒 | 口付(・L底付?)・古い模様・沿うたぐい | ナシ 内底底板、裏面・225同一個体? | 29 | 23 | |

第79図 繪文～弥生土器 (28)



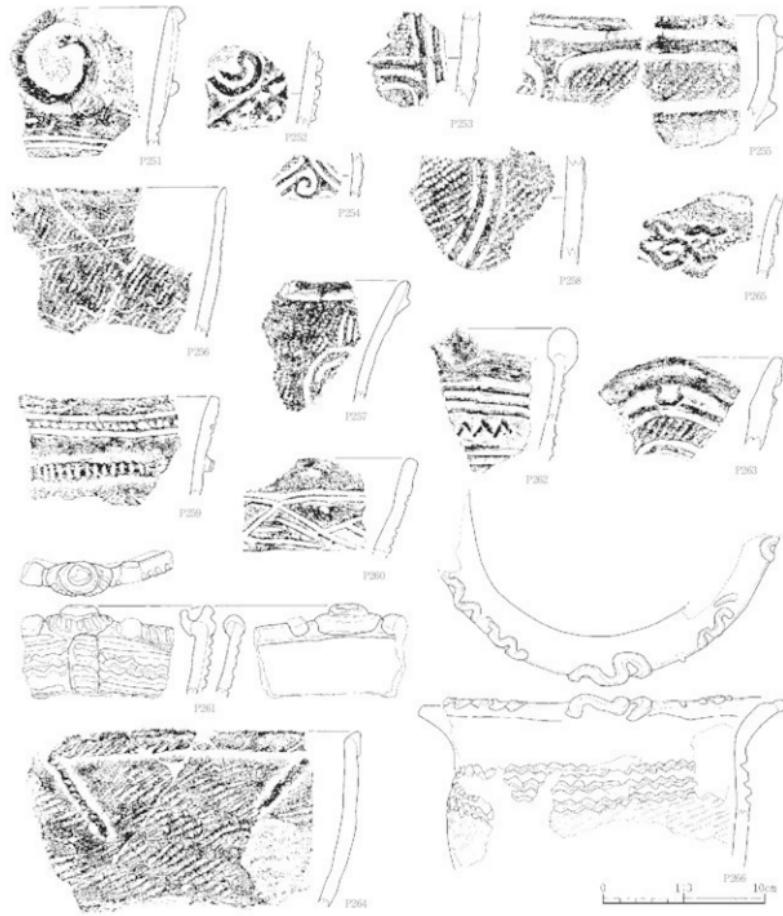
| 編號 No. | 出土施設・層位 | 器種・部缺 | 出 所 | 内 部 | 備 考 | 本 文 記載 | 回 数 | 年 代 |
|-----------|---------------|-------------|---------------------------|-----------|----------------|--------------|--------|--------|
| P227 | 7号堅六連物跡西・堆土下段 | 縄縫 (1/3周以上) | 直角口縫・LR タテ→人穴(火成縫、縄文束体なし) | ナシ | 内外壁共 | 80 | 25 | 古 |
| P228 | 7号堅六連物跡西・堆土下段 | 縄縫 (1/3周以上) | LR直角口・LR タテ→人穴(火成縫) | ナシ | | 80 | 26 | 古 |
| P229 | 7号堅六連物跡西・堆土下段 | 縄縫 (1/3周以上) | 直角口縫・LR タテ→人穴(火成縫) | ナシ | | 80 | 27 | 古 |
| P230 | 7号堅六連物跡西・堆土下段 | 縄縫 (1/3周以上) | LR タテ→縫帯にちりひれ(火成縫) | エタキ? | 第二次焼成で壁長、内面コケ多 | 80 | 23 | 古 |
| P231 | 7号堅六連物跡西・堆土下段 | 縄縫 (1/3周以上) | 直角口縫 | ナシ | | 80 | 23 | 古 |
| P232 | 7号堅六連物跡西・堆土下段 | 縄縫 (1/3周以上) | LR タテ→人穴(火成縫) | ナシ | 外面大穴付 | 80 | 24 | 古 |
| P233 | 7号堅六連物跡西・堆土下段 | 縄縫 (1/3周以上) | LR タテ→人穴(火成縫) | ナシ | 内外壁共 | 80 | 24 | 古 |
| P234 | 7号堅六連物跡西・堆土下段 | 縄縫 (1/3周以上) | ナシ | 外面大穴、内面コケ | | 80 | 24 | 古 |

第 80 図 縄文～弥生土器 (29)



| 品番 | 出土地点・層位 | 器種・部段 | 寸法(幅×奥行) | 材質 | 特徴 | 目録 | 備考 | 本版 記載 頁数 | 図 版 |
|------|-------------------|-------|------------------|----|----------------|------|----|----------------|--------|
| P235 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | | P235 | | 81 | 71 |
| P236 | 7号型六邊形漆器底面・堆上中～下段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 外側大穴付蓋 | P236 | | 81 | 71 |
| P237 | 7号型六邊形漆器底面・堆上中～下段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 外側大穴付蓋？ | P237 | | 81 | 71 |
| P238 | 7号型六邊形漆器底面・堆上中～下段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 内面コマ付蓋 | P238 | | 81 | 71 |
| P239 | 7号型六邊形漆器底面・堆上中～下段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 内面コマ付蓋 | P239 | | 81 | 71 |
| P240 | 7号型六邊形漆器底面・堆上中～下段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 内面コマ付蓋 | P240 | | 81 | 71 |
| P241 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 内面厚底 | P241 | | 81 | 71 |
| P242 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 外側孔・下脚孔上部合面部剥離 | P242 | | 81 | 71 |
| P243 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 内面厚底 | P243 | | 81 | 71 |
| P244 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P244 | | 81 | 71 |
| P245 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P245 | | 81 | 71 |
| P246 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P246 | | 81 | 71 |
| P247 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P247 | | 81 | 71 |
| P248 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P248 | | 81 | 71 |
| P249 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P249 | | 81 | 71 |
| P250 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P250 | | 81 | 71 |
| P251 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P251 | | 81 | 71 |
| P252 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P252 | | 81 | 71 |
| P253 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P253 | | 81 | 71 |
| P254 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P254 | | 81 | 71 |
| P255 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P255 | | 81 | 71 |
| P256 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P256 | | 81 | 71 |
| P257 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P257 | | 81 | 71 |
| P258 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P258 | | 81 | 71 |
| P259 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P259 | | 81 | 71 |
| P260 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P260 | | 81 | 71 |
| P261 | 7号型六邊形漆器底面・堆上上～中段 | 漆器・底部 | 普通：H.2.2×D.1.5cm | ナメ | 下の脚口・粘土層合面部剥離 | P261 | | 81 | 71 |

第 81 図 繩文~弥生土器 (30)



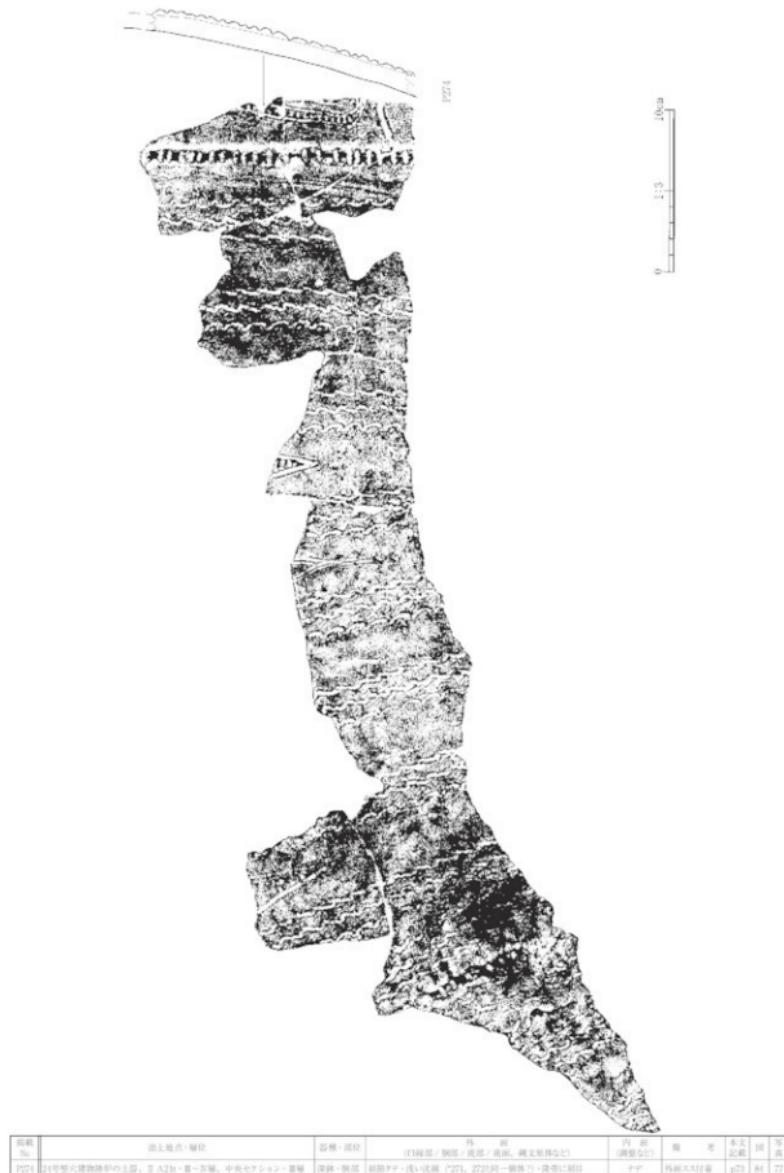
| 編號 | 出土場所・層段 | 器種・部段 | 名　称 | 内　面 (裏面) | 備　考 | 本工数 |
|------|------------------|--------|-----------------------------|-------------|--------------|-------|
| P251 | 7号型六建物跡北西・地上上-中段 | 深鉢・口縁部 | 三足鉢・側面/底面/側面・圓文底全体 | ナゲ | 下の割れ口、斜上部分削離 | 82 23 |
| P252 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | 高脚杯 | ナゲ | 斜上部分削入 | 82 23 |
| P253 | 7号型六建物跡北西・地上上-中段 | 深鉢・側面 | 波線なごり口 | ナゲ | | 82 23 |
| P254 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P255 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P256 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P257 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P258 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P259 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P260 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P261 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P262 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P263 | 7号型六建物跡北東・地上上-中段 | 深鉢・側面 | SLヨコノ縫合口(口ナゲ) | ナゲ | | 82 23 |
| P264 | 7号型六建物跡・床面 | 口縁部 | 口縁子・手直し世帯口(口内丸刷)・新変・高い壁面・斜口 | ナゲ | 内面入刀削 | 82 26 |
| P265 | 7号型六建物跡・床面 | 口縁部 | 口縁子・手直し世帯口(口内丸刷) | ナゲ | 下の割れ口、斜上部分削離 | 82 26 |
| P266 | 7号型六建物跡・床面 | 口縁部 | 口縁子・手直し世帯口(口内丸刷) | ナゲ | 内面入刀削 | 82 26 |
| P267 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | (口の割れ口、斜上部分削離) | ナゲ? | 内八大多、内2ドロ目量 | 82 26 |
| P268 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | 内面削離・丸い突起・ソース状凹凸 | ナゲ | | 82 26 |
| P269 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P270 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P271 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P272 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P273 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P274 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P275 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P276 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P277 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |
| P278 | 8号型六建物跡・階上-中段 | 深鉢・口縁部 | SLヨコノ縫合口(口内丸刷) | ナゲ | | 82 26 |

第 82 図 繪文～弥生土器 (31)



| 器種 No. | 出土点・層位 | 器種・部位 | 外 面 | 内 面 | 備 考 | 本文 記載 | 写 真 |
|-----------|-------------------------------|-----------------------|----------------------|--------|----------------|----------|--------|
| P267 | 8号型六連物語・理土上位 | 縫口縁部・側面・底面、側面、側面底部(?) | 内面底・側面・底面、側面、側面底部(?) | ナシ | 83 26 | | |
| P268 | 8号型六連物語・理土上・中位 | 縫口(1/4周未溝) | 内面底・側面・底面、側面、側面底部(?) | ナシ | 83 26 | | |
| P269 | 8号型六連物語・理土上・中位(4/5) | 縫口、アーチ状成形 | 内面底・側面・底面、側面、側面底部(?) | ナシ | 83 26 | | |
| P270 | 8号型六連物語・理土上・中位 | 縫口・側面 | 内面底・側面・底面、側面、側面底部(?) | ナシ | 83 26 | | |
| P271 | 8号型六連物語・理土上・中位、II A2b-1・茎・腹輪輪 | 縫口(1/5周未溝) | 内面底・側面・底面、側面、側面底部(?) | ナシ | ZT2, 271と同一個体? | 83 26 | |
| P272 | 14号型六連物語・中、II A2b-1・茎・腹輪輪 | 縫口(1/5周未溝) | 内面底・側面・底面、側面、側面底部(?) | ナシ | 内丸太多、内凹水滴ツヅ | 83 27 | |
| P273 | 8号型六連物語・瓶、瓶口縁上・中央セクション・茎輪 | 縫口縁 | 内面底・側面・底面、側面、側面底部(?) | ナシ | | 83 26 | |

第83図 繪文～弥生土器（32）

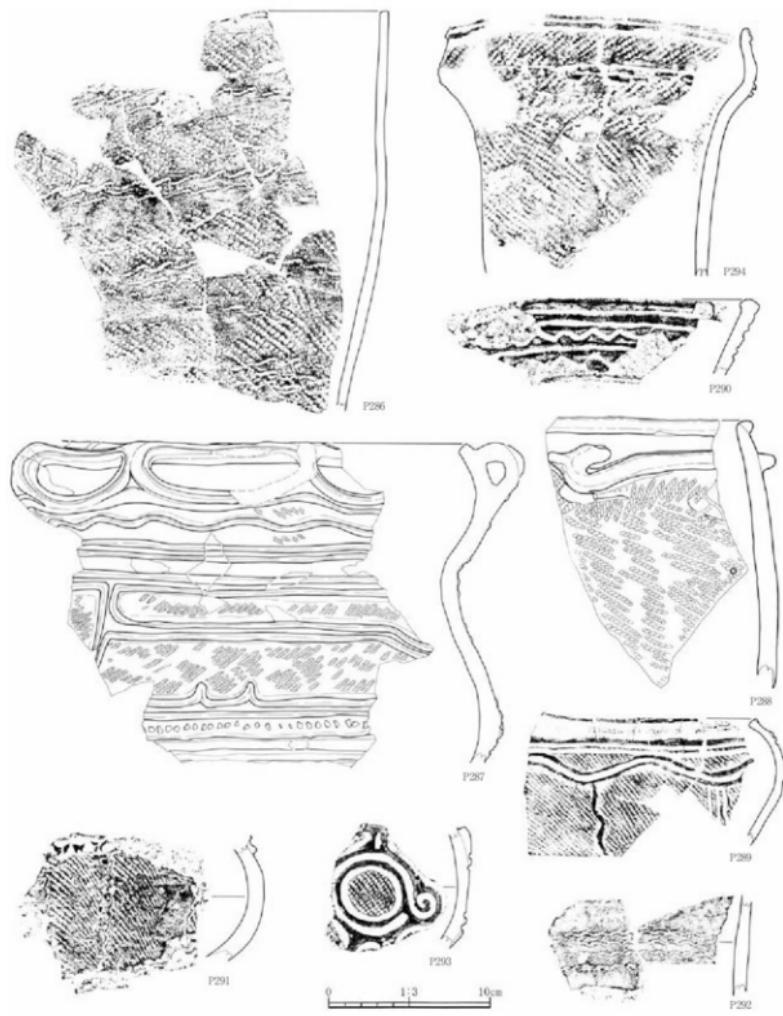


第 84 図 繩文～弥生土器 (33)



| 番号 | 出土場所・層位 | 基種・断面 | 馬・頭 | 内・側 | 内・側 調査など | 種 類 | 年 代 | 文 様 | % R |
|------|---|------------|-------------------------------|-----|-------------------|--------|--------|--------|--------|
| P275 | 10号墳六建物跡左側面右、壁上・中位 | 漆鉢・口部 | LH1(一輪目)→頭部上半真竹竹工による充実 | ナゲ | 内凹型 | ナゲ | 85 | 27 | |
| P276 | (1)10号墳六建物跡左側面右、壁上・中位 (2)10号墳六建物跡右側面右、壁上・中位 (3)10号墳六建物跡右側面右、壁上・中位 | 漆鉢(1.3周未溝) | (底状斜面-LH1)→頭部D、腹部ナゲ→ナゲ、太口浅い浅縁 | ナゲ | ナゲで繩文大分派え-272と同一? | ナゲ | 85 | 27 | |
| P277 | 10号墳六建物跡右側面左上、17号墳六建物跡右側面左上・中位 19号墳六建物跡右側面左上 | 漆鉢(底-側) | LHナゲ(側面凹面)→底部-亂毛のナゲ | ナゲ | 内凹ナゲ-276と同じ体? | ナゲ | 85 | 28 | |
| P278 | 10号墳六建物跡右側面右、底面 | 漆鉢・口部 | LHナゲ→底面 | ナゲ | 内凹入式口着 | ナゲ | 85 | 27 | |
| P279 | 10号墳六建物跡右側面右、底面 | 漆鉢・口部 | 尖起 | ナゲ | 内凹入式口着 | ナゲ | 85 | 27 | |
| P280 | 10号墳六建物跡右側面右、底面 | 漆鉢 | LHナゲ→底面 | ナゲ | 内凹入式口着 | ナゲ | 85 | 27 | |
| P281 | 10号墳六建物跡右側面右、底面 | 漆鉢 | LHナゲ→底面(口に1人ひの)→浅縁 | ナゲ | 内凹型のひ | ナゲ | 85 | 27 | |
| P282 | 10号墳六建物跡右側面右、底面 | 漆鉢 | LHナゲ(1周未溝)→頭部D | ナゲ | 内凹多、二次施底、内コサートル底 | ナゲ | 85 | 27 | |
| P283 | 10号墳六建物跡右側面右、底面 | 漆鉢 | LHナゲ | ナゲ | 内凹入式口着 | ナゲ | 85 | 27 | |

第 85 図 繩文～弥生土器 (34)



| 通考 No. | 出土場所・層位 | 器種・部位 | 内・外 面 | 内・外 (調整なし) | 備考 | 参考 文献 | 図 版 |
|-----------|-----------------------|--|-----------------------|---------------|-----------------|----------|--------|
| P296 | 10号墳六連御鉢・床面 | 漆鉢 (1.5周未満) 直径×底径23 | (口縁部・側面・底面・裏面、調査用体など) | ナマ | 外底全面火入、内ドコマ | 86 28 | |
| P297 | 10号墳六連御鉢・壁上上～中位 | 漆鉢 (1.5周未満) (口縁部充脛部・底・口縁23 (子守穴入り)、側ケテ・底・側面) | ナマ | | | 86 28 | |
| P298 | 10号墳六連御鉢・壁上上～中位 | 漆鉢 (1.5周未満) | ナマ | | | 86 27 | |
| P299 | 10号墳六連御鉢・壁上上～中位 | 漆 (1.5周未満) LJRケテ・ノンヘイ付柱、底・側面 | ナマナリ | 内口縁ケテ・ノンヘイ付柱 | | 86 27 | |
| P290 | 10号墳六連御鉢・壁上上～中位 | 漆鉢 (1.5周未満) | ナマ火入 | 外底全面火入付柱 | | 86 28 | |
| P291 | 10号墳六連御鉢・壁上上～中位 | 漆鉢 (1.5周未満) | ナマ火入・ノンヘイ付柱・LJR・底部ケテ | ナマ | 外上火入、二二次焼成 | 86 28 | |
| P292 | 10号墳六連御鉢・壁上上～中位 | 漆鉢・側面 | LJR・底径23 | ナマ | 外上火入、三次焼成、内全面コマ | 86 28 | |
| P293 | 10号墳六連御鉢・壁上上～中位 | 漆鉢・側面 | LJR・ナマ漆面に沿て凹・凸線 | ナマナリ | 外底火入付柱 | 86 28 | |
| P294 | 10号墳六連御鉢側面(西側)・壁上上～中位 | 漆鉢 (直幅一帯) カメの跡跡・LJR・口・側ケテ (一帯未端回転) | ナマ | 外底火入付柱 | | 86 28 | |

第 86 図 繩文～弥生土器 (35)



| 編號 No. | 出土地點・層位 Locality of find · stratum | 器種・部位 Type and part | 外 壁 Exterior wall | 内 壁 Interior wall | 備 考 Remarks | 本 号 No. | 写 真 Photograph |
|-----------|---------------------------------------|------------------------|----------------------|----------------------|----------------|------------|-------------------|
| P295 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫・横縫 | 近二大輪底・直縫 | 直縫・圓文形体空口 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P296 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P297 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P298 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P300 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P301 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P302 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P303 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P304 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P305 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P306 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P307 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P308 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 28 |
| P309 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫・横縫 | 縫合部・横縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P310 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P311 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P312 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P313 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P314 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P315 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P316 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P317 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |
| P318 | 10号堅六連物語器皿区西壁・堆土上～中位 | 縦縫 | 縦縫 | 縫合部・横縫 | 内二次輪底・内底付・直縫 | 87 | 29 |

第 87 図 繩文～弥生土器 (36)



| 編號 No. | 出土位置・層位 Locality・Stratum | 器種・部位 Type・Part | 内・外 Interior・Exterior | 内・外 Interior・Exterior | 備考 Remarks | 寸 Size | 図 Fig. |
|-----------|-----------------------------|--------------------|---------------------------|--------------------------|---------------|-----------|-----------|
| P309 | 10号室六連御陣東・埋土下段 | 漆鉢・口縁部 | (内)縁部・無底・直筒形・深さ、縄文全体(?) | (外)縁部(?) | 調査なし | 無 | 29 |
| P310 | 10号室六連御陣北・埋土上・中段 | 鉢(1/2周4瓣) | (内面)縁部無し・口輪ノリ・内縁・外縁 | ナゲ | 外丸多・内圓全面ツヅ | 無 | 29 |
| P311 | 10号室六連御陣北・埋土上・中段 | 漆鉢・口縁部 | LE30・口縁部 | ナゲ | 無 | 無 | 29 |
| P312 | 10号室六連御陣北・埋土上・中段 | 漆鉢・口縁部 | LE30・口縁部 | ナゲ | 外丸大口直・内圓ツヅ・付蓋 | 無 | 29 |
| P313 | 10号室六連御陣北・埋土上・中段 | 漆鉢(1/2周未満) | LE30・縁部(?)・下の部分(?)、粘土層分界面 | ナゲ | 動土縫・外丸・内ツヅ | 無 | 29 |
| P314 | 10号室六連御陣北・埋土上・中段 | 鉢(1/2周未満) | 内面ノリ・外縁付・底、ヨコマツノリ・外縁付 | ナゲ | 外丸多・内圓全面ツヅ | 無 | 29 |
| P315 | 10号室六連御陣北・埋土上・中段 | 漆鉢(1/2周未満) | LE30・縁部(?) | ナゲ | 外圓大口直・内圓ツヅ・付蓋 | 無 | 29 |
| P316 | 11号室六連御陣東・埋土下段 | 漆鉢・口縁部 | 内面ノリ・外縁付・底、ヨコマツノリ・外縁付 | ナゲ | 外圓大口直・内圓全面ツヅ | 無 | 29 |
| P317 | 11号室六連御陣東・埋土下段 | 漆鉢・口縁部 | 内面ノリ・外縁付・底、ヨコマツノリ・外縁付 | ナゲ | 外圓大口直・内圓全面ツヅ | 無 | 29 |
| P318 | 11号室六連御陣東・埋土下段 | 漆鉢・口縁部 | 内面ノリ・外縁付・底、ヨコマツノリ・外縁付 | ナゲ | 外圓大口直・内圓全面ツヅ | 無 | 29 |
| P319 | 11号室六連御陣東・埋土下段 | 漆鉢・口縁部 | 内面ノリ・外縁付・底、ヨコマツノリ・外縁付 | ナゲ | 外圓大口直・内圓全面ツヅ | 無 | 29 |
| P320 | 11号室六連御陣東・埋土下段 | 漆鉢・口縁部 | 内面ノリ・外縁付・底、ヨコマツノリ・外縁付 | ナゲ | 外圓大口直・内圓全面ツヅ | 無 | 29 |
| P321 | 11号室六連御陣東・埋土下段 | 漆鉢・口縁部 | 内面ノリ・外縁付・底、ヨコマツノリ・外縁付 | ナゲ | 外圓大口直・内圓全面ツヅ | 無 | 29 |

第 88 図 繩文～弥生土器 (37)



| 編號 | 出土地・部位 | 器種・部缺 | 外・内 | 備考 |
|------|-------------------|--------|---------------------|--------|
| P322 | 11号堅穴建物跡上層 No.14周 | 壺鉢・側部 | 右側部・側部・底盤・底面、側瓦壓出など | (複数なし) |
| P323 | 11号堅穴建物跡・壁上上段 | 壺鉢・側部 | 右・左側→人形の頭部 | ナシ |
| P324 | 11号堅穴建物跡・壁上上段 | 壺鉢・側部 | ナシ | ナシ |
| P325 | 12号堅穴建物跡・壁上 | 壺鉢・口縁部 | 手前竹片付耳口による底面 | ナシ |
| P326 | 12号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・口縁部 | 右・左側→ナマコ | ナシ |
| P327 | 12号堅穴建物跡・壁上上段 | 壺鉢・口縁部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P328 | 12号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P329 | 12号堅穴建物跡上層 No.14周 | 壺鉢・側部 | 右側部・側部・底盤・底面 | ナシ |
| P330 | 12号堅穴建物跡・壁上上段 | 壺鉢・側部 | ナシ | ナシ |
| P331 | 12号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・口縁部 | 右側部・底盤 | ナシ |
| P332 | 12号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | ナシ |
| P333 | 12号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・口縁部 | ナシ | ナシ |
| P334 | 12号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | ナシ |
| P335 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・口縁部 | 右側部・左側・底盤 | ナシ |
| P336 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・口縁部 | ナシ | ナシ |
| P337 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・口縁部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P338 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P339 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P340 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・口縁部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P341 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・口縁部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P342 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P343 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P344 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P345 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P346 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P347 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P348 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P349 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P350 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P351 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P352 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P353 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P354 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P355 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P356 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P357 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P358 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P359 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |
| P360 | 13号堅穴建物跡内・下層 | 壺鉢・側部 | ナシ | 外縁大口付蓋 |

第 89 図 繩文～弥生土器 (38)

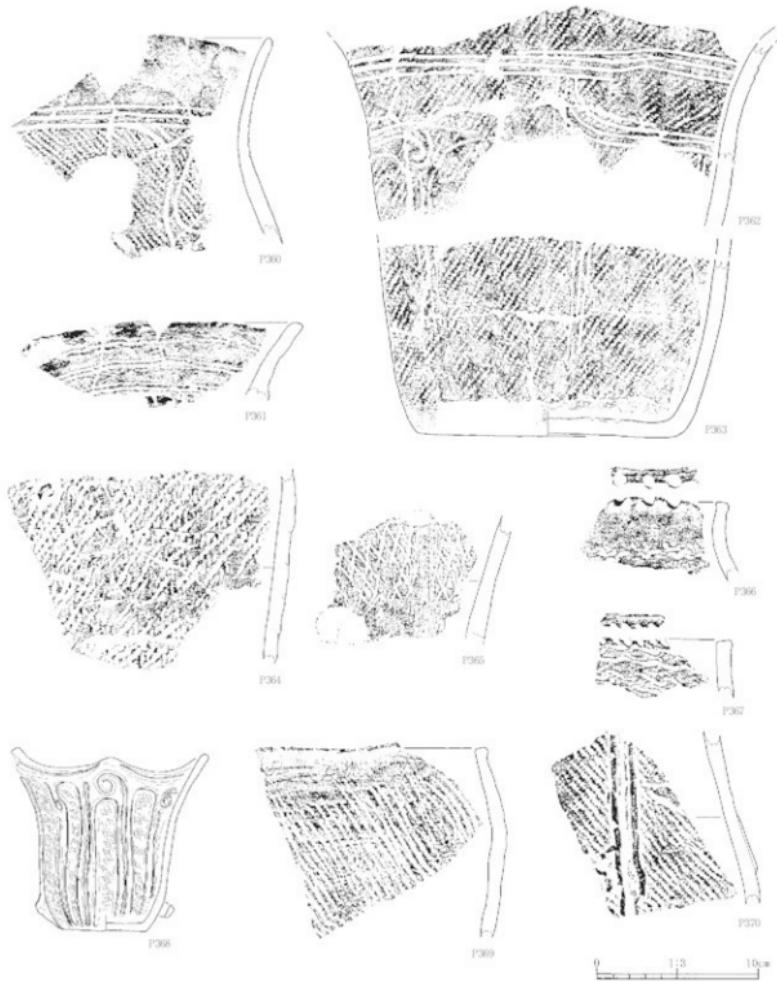


| 編號 No. | 出土地點・層位 Locality and stratum | 器種・部位 Type and part | 名・類 Name and category | 内・外 Interior and exterior | 測量 Measurement | 参考 Reference | 本文 Text | 写 Drawing |
|-----------|--|------------------------|----------------------------|------------------------------|-------------------|-----------------|------------|--------------|
| P343 | 17号型六建物跡北東・埋土上～中位。北～東 1-1号。H.23.0、D.17.0、H.17.0 | 深鉢（胸中位一例） | 二面伏丁・支撐2穿孔？・垂繩目1孔？・T字形孔の浅腹 | ナゲ 外面二次焼成？、黒漆？ | 90 80 | | | P343 |
| P344 | 17号型六建物跡、灰窓 | 深鉢 | 支繩目1孔 | ナゲ 外面三次焼成？ | 90 80 | | | P344 |
| P345 | 17号型六建物跡北、埋土上～中位 | 深鉢・口縁部 | 支繩目2孔・内側2穿孔？・L字形孔1孔・胸T字孔 | ナゲ 外面三次焼成？ | 90 80 | | | P345 |
| P346 | 17号型六建物跡北、埋土上～中位 | 深鉢 | 内側2穿孔・結縫2孔 | ナゲ 外面三次焼成？ | 90 80 | | | P346 |
| P347 | 17号型六建物跡南東・埋土上～中位 | 深鉢 | 支繩目1孔 | ナゲ 外面三次焼成？ | 90 80 | | | P347 |
| P348 | 17号型六建物跡南東・埋土上～中位 | 浅鉢（1.5周未満） | BL・口縁部2孔・胸T字孔1孔・底1孔 | ナゲ・小穴 過修毛、内火火、二次燒成、内全面コマ | 90 80 | | | P348 |
| P349 | 8号22.0・V字縫1孔 | 深鉢・口縁部 | BL・口縁部2孔・胸T字孔1孔・底1孔 | ナゲ 内火火、二次燒成、内全面コマ | 90 80 | | | P349 |
| P350 | 17号型六建物跡南東・埋土上～中位 | 深鉢 | 「T字孔」一例 | ナゲ 内火火、二次燒成、内全面コマ | 90 80 | | | P350 |
| | 17号型六建物跡北東・埋土上～中位 | 鉢（1.2周） | 垂繩目1孔 | ナゲ 底面丁寧な手 | 90 80 | | | |

第90図 繩文～弥生土器 (39)

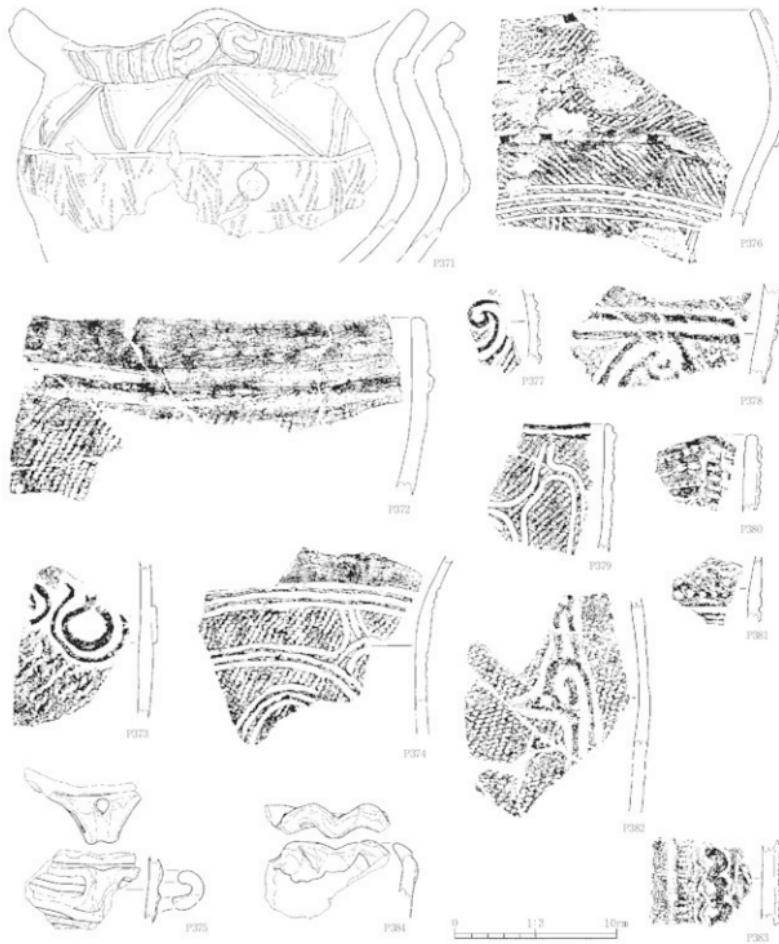


第91図 繩文～弥生土器 (40)



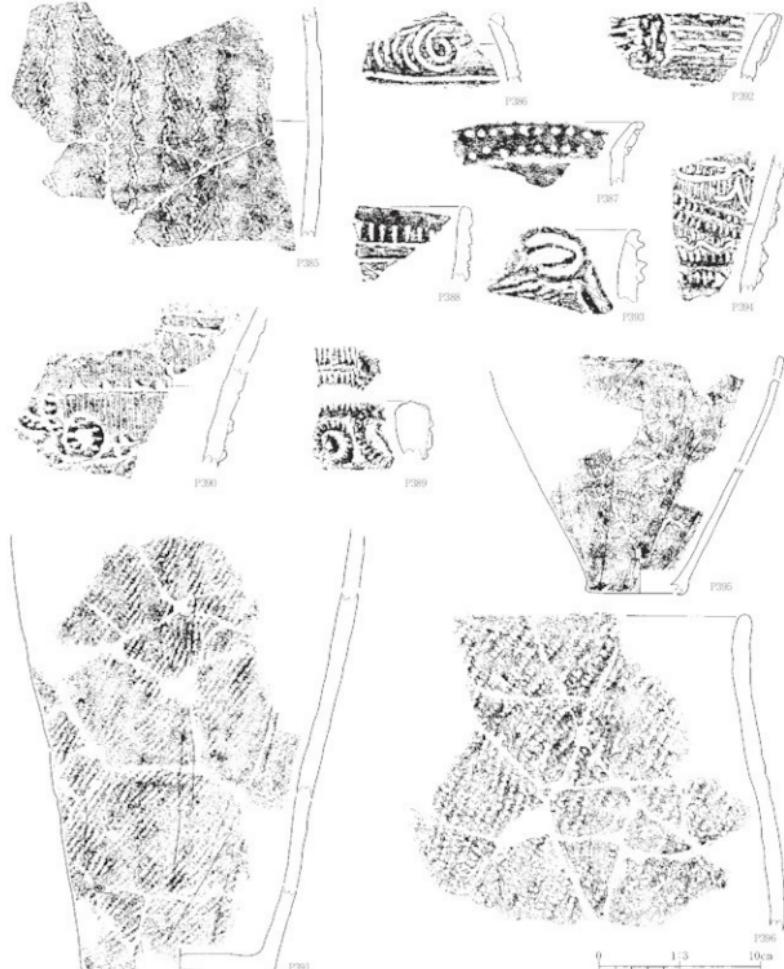
| 番号 No. | 出土場所・層位 Site of Discovery and Stratigraphic Level | 器種・部材 Type and Material | 外 周 (縦幅部・横幅部・底面・裏面、圖文施加部など) (Width of the body - Top/bottom width - Base - Back surface, decorated parts, etc.) | 内 部 (測量部位) (Measured part) | 備 考 Remarks | 参考文献 References | |
|-----------|--|----------------------------|---|----------------------------------|------------------|--------------------|----|
| P360 | 10号地土造物石河原地主上 | 深鉢 - 1周縁 | LR タテ×太(浅)・横幅(底面)・裏面、圖文施加なし | 27キリ? 外周底下、や少摩瓦 | 81 | 81 | |
| P361 | 10号地土造物上部 No2(埋上) | 深鉢 - 1周縁 | 半楕円管状(上部による底面?) | ナデ? | 81 | 81 | |
| P362 | 2号地3a・蓋屋1段・茶碗 | 深鉢(も開未溝) | 天板(手取)等・LR タテ×太(浅)・横幅・ナデ(碗足一部削去) | ナデ | No.362上同一個体?・同様? | 82 | |
| P363 | 10号地土造物・茶上(1段)・Ⅱ A13y・蓋屋下部 No2(1) | 深鉢(手取) | LR タテ×横幅・底面ナデ(上部削り)・船上複合から剥離 | ナデ | No.362上同一個体? | 82 | |
| P364 | 10号地土造物・茶上(1段) No2(埋上) | 深鉢 - 横幅 | LR タテ? (底面不規) | 底有 | ナデ | 舟輪縁底丸み・内面ナデ? | 81 |
| P365 | 11号地・土造物上部 No2(埋上) | 深鉢 - 横幅 | 半楕円BS(底面不規) | ナデ | 外弦X-下の脚口、船上複合剥離 | 81 | |
| P366 | 18号型六瓣物上部 A-A'・1層 | 深鉢 - 1周縁 | 口斜傾斜・絞唇ヨリ | ナデ? | 81 | 81 | |
| P367 | 18号型六瓣物南北手・埋上上段 | 深鉢 - 1周縁 | 脚口 - 脚根ヨリ | ナデ | 外側全面大火炎 | 81 | |
| P368 | 19号型六瓣物南北手・埋上上・中段 | 鉢 (手取なし) | 口斜・外斜熱入口斜洗浄・LR タテ×底面・底面ナデ? | 27キリ? 高・吸抜下底部最高点乳突起 | 81 | 81 | |
| P369 | 19号型六瓣物南北手・埋上上・中段 | 深鉢 - 横幅 | 口斜平ら・LR タテ? | ナデ | 外弦X-内下ナデ、脚根 | 82 | |
| P370 | 19号型六瓣物南北手・埋上上・中段 | 深鉢 - 横幅 | LR タテ×横・底面なびけ | ナデ | 外周底? | 82 | |

第 92 図 繩文～弥生土器 (41)



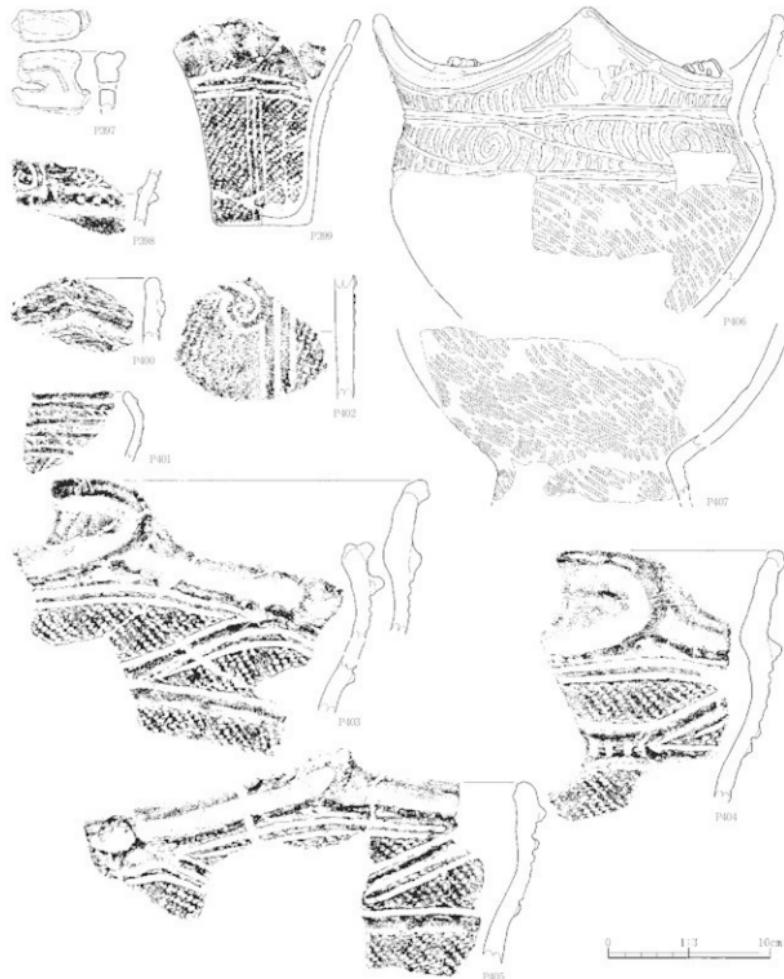
| 編號 | 出土場所・層位 | 器種・部位 | 内・外 (印文・模様・裏面・裏面・縫文等を記) | 内・外 (縫文等を記) | 備考 | 本文 出典 | 頁 数 |
|------|----------|--------|----------------------------|----------------|------------------|----------|--------|
| P371 | 20号墳六連飾縁 | 縁 | (印文) 半圓形A (復) テテル丸の波紋 | ナシ | 内下部斜面、内下コマ | 93 | 82 |
| P372 | 20号墳六連飾縁 | 底面 | 素地 | ナシ | 内面全面大粒彫 | 93 | 82 |
| P373 | 20号墳六連飾縁 | 底面 | 素地 | ナシ | 内面全面大粒彫 | 93 | 82 |
| P374 | 20号墳六連飾縁 | 底面 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面全面大粒彫 | 93 | 82 |
| P375 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 素地 | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P376 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 素地 | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P377 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P378 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P379 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P380 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P381 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P382 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P383 | 20号墳六連飾縁 | 縁上上～中位 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内上スル、下二次焼成、内全面コマ | 93 | 82 |
| P384 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P385 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P386 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P387 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P388 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P389 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P390 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P391 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P392 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |
| P393 | 21号墳六連飾縁 | 縁 | 印文 (1.5周朱墨) | ナシ | 内面斜面 | 93 | 82 |

第93図 織文～弥生土器 (42)



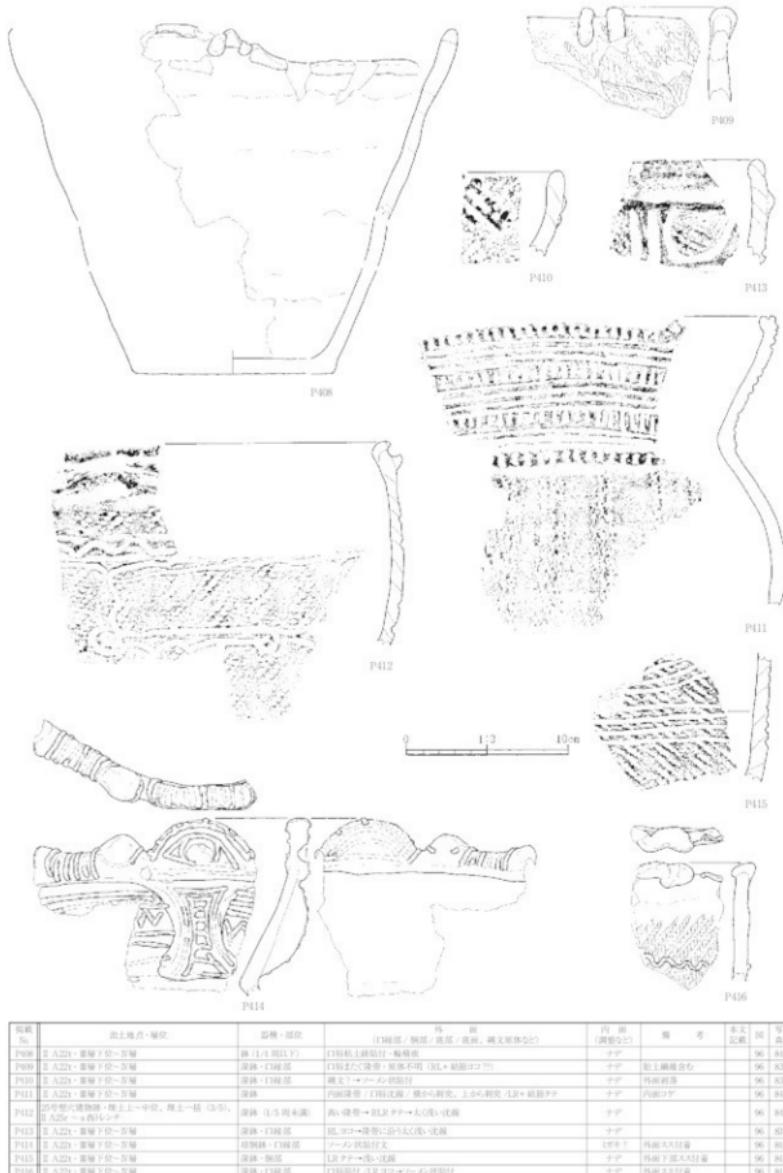
| 番号 No. | 出土地點・層位 Locality and stratum | 器種・部位 Type and part | 外観 External appearance | 内観 Internal view | 備考 Remarks | 参考文献 Reference | 図 Fig. | 写真 Photograph |
|-----------|---------------------------------|------------------------------|---------------------------|---------------------|---------------|-------------------|-----------|------------------|
| P385 | 22号墳六建物跡・堆土上段、堆上一級 (1/1) | 漆跡 (1/3 周末面) LRの前部、周×前部テテ | テテ | 外曲入人、内曲子コテ | | 91 | 82 | |
| P386 | 22号墳六建物跡・堆土上段 p2 | 漆跡・前部 | 大穴吹吹跡 | | | 91 | 82 | |
| P387 | 22号墳六建物跡・堆土上一級 | 漆跡・口縁部 | 舟貫孔上部に丸軸突 | | | 91 | 82 | |
| P388 | 22号墳六建物跡・堆土上一級 | 漆跡・口縁部 | LR手平／下から斜突 | | | 91 | 82 | |
| P389 | 22号墳六建物跡・堆土上一級 | 漆跡・突起 | 孔軸突 | | | 91 | 82 | |
| P390 | 22号墳六建物跡・堆土上一級 | 漆跡・前部 | 丁字孔二軸突 | | | 91 | 82 | |
| P391 | 8号墳六建物跡・平圧、21号墳六建物跡・北西理上土段 | 漆跡・手平 LR フラット・底面光沢 | | | | 91 | 83 | |
| P392 | 21号墳六建物跡 p10 | 漆跡・口縁部 | LR 漆面圧痕 | | | 91 | 83 | |
| P393 | 21号墳六建物跡南北西西、堆土下段 | 漆跡・口縁部 | 突起 | | | 91 | 83 | |
| P394 | 21号墳六建物跡南北・堆土下段 | 漆跡・前部 | 軸上まげ軸 | | | 91 | 83 | |
| P395 | 25号墳六建物跡・堆土上・中段 | 漆跡 (1/3 周末面) LR フラットテテ | | | | 91 | 83 | |
| P396 | 25号墳六建物跡・堆土上～中段 | 漆跡 (1/3 周末面) LR フラット | | | | 91 | 83 | |

第 94 図 繪文～弥生土器 (43)



| 番号 No. | 出土点・部位 Locality and Part | 器種・形態 Type and Morphology | 内・外 Interior and exterior | 内・外 (測定2点) (Measurement of 2 points) | 備考 Remarks | 本 記載 Description | 図 図 Fig. Fig. |
|-----------|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|--|---------------|------------------------|------------------------|
| P397 | 25号型II建物跡・壁上一中空 | 深鉢・口縁部 | 江戸期型・輪郭・底面・底面・底面、輪文等付など | ナシ | 95 83 | | |
| P398 | 25号型II建物跡・壁上一中空 | 深鉢・口縁部 | 江戸期型・輪郭・底面・底面・底面 | ナシ | 95 83 | | |
| P399 | 25号型II建物跡・壁上一中空 | 深鉢・口縁部 | 内側底付・高・底面・上部斜方・輪文等付 | ナシ | 95 83 | | |
| P400 | 25号型II建物跡・壁上一低 | 鉢(一部欠損) | 28底付、ナ・底・底・口縫、底部ナシ | ナシ | 95 83 | | |
| P401 | 25号型II建物跡・壁上一低 | 深鉢・口縁部 | 尖端・口縁面直角 | ナシ | 95 83 | | |
| P402 | 25号型II建物跡・壁上一低 | 深鉢・口縁部 | 底・口縁付、施・テ・マ・ソ・ン・状溝等なづけ | ナシ | 95 83 | | |
| P403 | 25号型II建物跡・壁上一低 | 深鉢・底面 | 底、ナ・底等なづけ、底ナシ | ナシ | 95 83 | | |
| P404 | 25号型II建物跡・壁上一低 | 深鉢(1・2周未満) | 尖端・ナ・底等直付・口縫付・「H08、405回」等 | ナシ | 95 83 | | |
| P405 | 25号型II建物跡・壁上一低 | 深鉢(1・2周未満) | 尖端・ナ・底等直付・口縫付・「H08、405回」等 | ナシ | 95 83 | | |
| P406 | 25号型II建物跡・壁上一低 | 深鉢・口縁部 | 尖端・ナ・底等直付・口縫付・「H08、405回」等 | ナシ | 95 83 | | |
| P407 | 25号型II建物跡・壁上一低 | 深鉢・口縁部 | 尖端・ナ・底等直付・口縫付・「H08、405回」等 | ナシ | 95 83 | | |
| P408 | A22C・第一・第二段付 | 深鉢(3・4周以下)・底狀付柄 | 底狀付柄・輪文等付・尖端・底面・口縫 | ナシ | 95 84 | | |
| P409 | A20C・第二段付 | 深鉢(3・4周以下)・底狀付柄 | 底・口縫・「H06回」等付・「下の部分CL」等・輪文等付 | ナシ | 95 84 | | |

第95図 繪文～弥生土器(44)

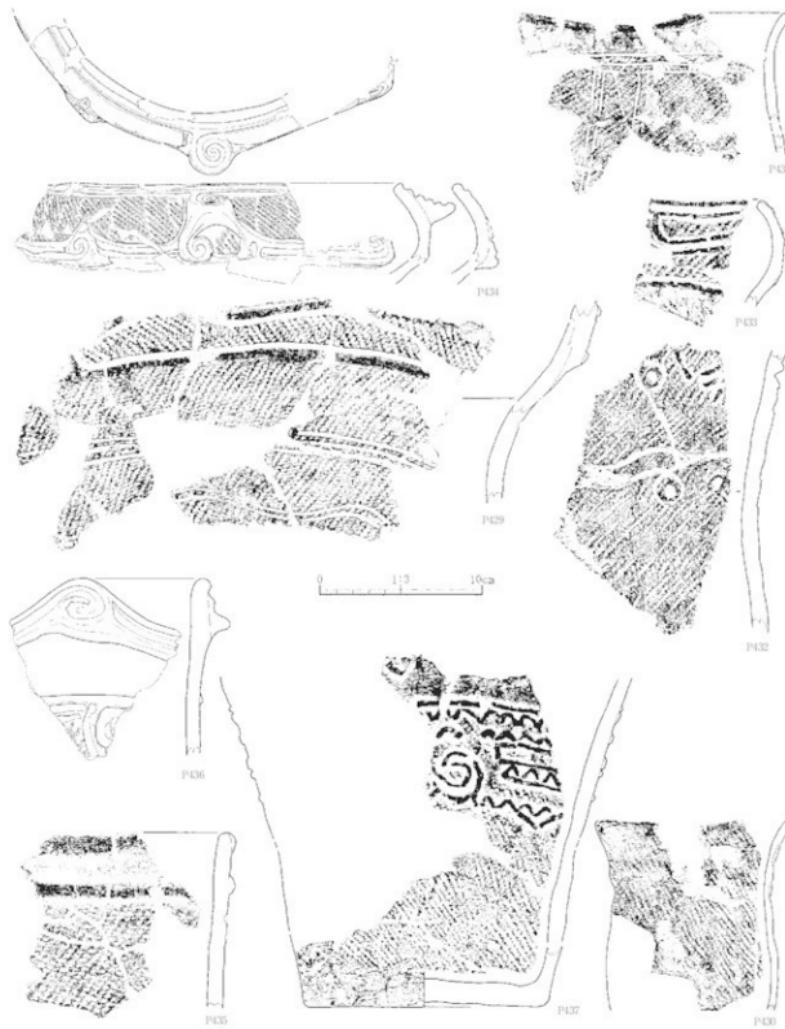


第 96 図 繩文～弥生土器 (45)



| 施號 No. | 出土地点・部位 | 器種・形状 | 外 周 (測量記) | 内 壁 (測量記) | 施 考 | 参考 文献 |
|-----------|--------------------|--------|---------------------|--------------|-----|----------|
| P417 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 縦筋2ヶ | 内面大入、内面凹凸 | ナゾ | 81 |
| P418 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 底付口・LRテクノ→縫合に沿ひ凹・浅腹 | ナゾ | 81 | |
| P419 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | LRテクノ→底付・縫合など | ナゾ | 81 | |
| P420 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 口周延と底付 | ナゾ | 81 | |
| P421 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 鉢(口周延) | LR(口周延)・ナメル底付・浅腹 | ナゾ | 81 | |
| P424 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | LR(口周延)・ナメル底付 | ナゾ | 81 | |
| P422 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 口周延 | ナゾ | 81 | |
| P423 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 口周延 | ナゾ | 81 | |
| P426 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 口周延 | ナゾ | 81 | |
| P427 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 口周延 | ナゾ | 81 | |
| P428 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | LRテクノ・内面凹凸 | ナゾ | 81 | |
| P429 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | LRテクノ→文と突起・大凹・浅腹 | ナゾ | 81 | |
| P430 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 底付口・(2/3周延) | 内面大入、内面凹凸 | ナゾ | 85 |
| P431 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 底付・LR・口周延 | 内面大入付番 | 81 | |
| P432 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | 口周延 | 内面凹凸 | 81 | |
| P433 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | LR(口周延)・内面凹凸 | 内面凹凸 | 81 | |
| P434 | II A22 - 斜壁下口 - 方盤 | 深鉢・口周延 | LR(口周延)・ナメル | ナゾ? | 81 | |

第 97 図 繩文～弥生土器 (46)

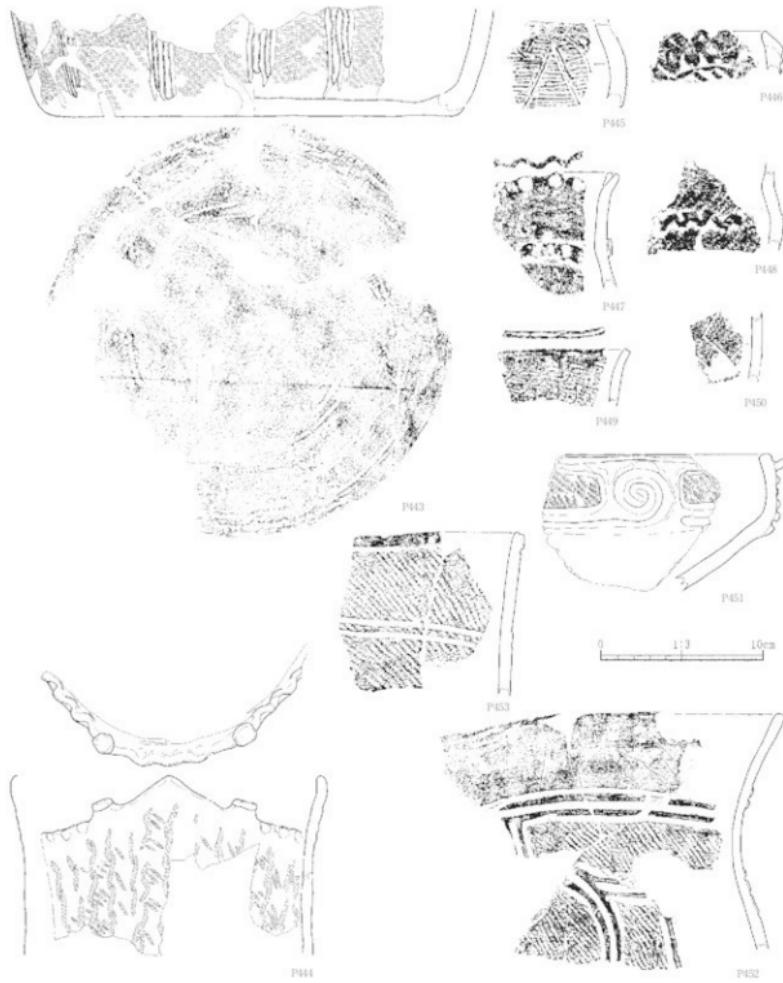


| 編號 No. | 出土地点・層位 | 器種・部位 | 鶴 | 馬 | 牛 | 猪 | 本 主 題 |
|-----------|-------------|------------|--------------------------|----------------------|--------|---------------|-------------|
| P429 | ■ AL3y・墓塚下位 | 深鉢(1/4周未満) | (口縁部・側面/底面/底面、縄文壓痕なし) | RL・口縁部、側面→(底面・底面・側面) | [縄文なし] | ササキ? | 16 写真 |
| P430 | ■ AL3y・墓塚下位 | 鉢(1/4周) | 浅鉢口縁・L型テク | | チヂ | 内丸火、二次焼成、内子コゲ | 86 85 |
| P431 | ■ AL3y・墓塚下位 | 深鉢(1/4周未満) | (底面)・RL・テク→(底面・底面) | | チヂ | | 86 85 |
| P432 | ■ AL3y・墓塚下位 | 深鉢・側部 | LRL・ヨリ→ノメ・状況付、長い沈縫、斜突 | | チヂ | 内丸火・馬のスス、西子コゲ | 86 85 |
| P433 | ■ AL3y・墓塚下位 | 深鉢・口縁部 | LR・口縁部・側面→(底面・底面) | | チヂ | 内丸コゲ? | 86 85 |
| P434 | ■ AL3y・墓塚下位 | 深鉢(1/4周以上) | LRL・テク→(大・小・中・底面・底面・ササキ) | | チヂ | 内丸コゲ付茎 | 86 85 |
| P435 | ■ AL3y・墓塚下位 | 深鉢・口縁部 | RLR・テク | | チヂ | 内前壁残、内面崩落 | 86 85 |
| P436 | ■ AL3y・墓塚下位 | 深鉢・口縁部 | RL・テク→(底面) | | チヂ | 内丸火、二次焼成、内底コゲ | 86 85 |
| P437 | ■ AL3y・墓塚下位 | 深鉢(乳輪一例) | RL・テク→(底面・底面・底面チヂ) | | チヂ | 内丸火、二次焼成、内底コゲ | 86 86 |

第98図 縄文～弥生土器 (47)

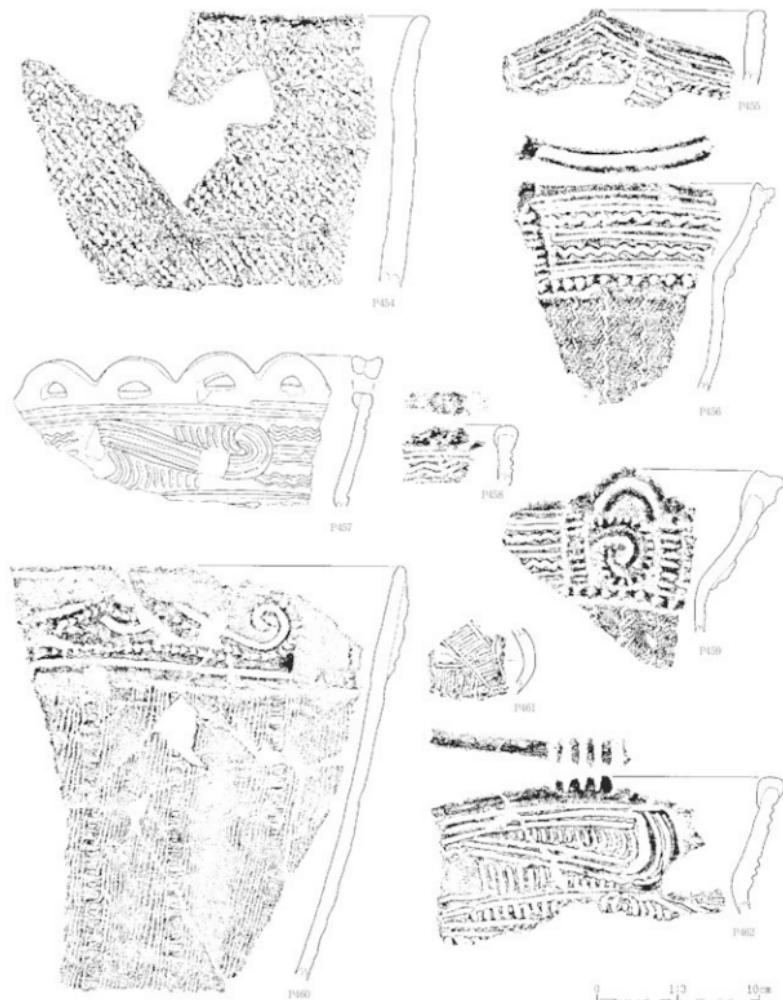


第99図 繪文～弥生土器 (48)



| 施號 No. | 出土場所・部位 | 器種・形狀 | 内　面 | 外　面 | 内　面 (複製写) | 備　考 | 参考 文献 |
|-----------|----------------------------|------------|--------------------------|-------------------------------|-----------------|-----------------|----------|
| P444 | II A16w・背壁H1上・II A11s・茎端上部 | 縁鉢・底(2/3周) | 口縁部・側面・底面・裏面、網文底面写 | L3Lテート低い壺形に合点窓・底面・裏面H1上に網の付根? | ナゾ | 1/2の割れ口、柄上接合面剥離 | 100 86 |
| P445 | II A16・茎端下段 | 縁鉢・口周未溝 | 口周未溝行手取起・L3L網目質ナコテ | ナゾ | 1/2の割れ口、柄上接合面剥離 | 100 86 | |
| P446 | II A16・茎端下段 | 縁鉢・底部 | 網・底面 | ナゾ | 1/2の割れ口、柄上接合面剥離 | 100 86 | |
| P447 | II A16y・茎端下段 | 縁鉢・底部 | 網・底面 | ナゾ | 1/2の割れ口、柄上接合面剥離 | 100 86 | |
| P448 | II A16y・茎端下段 | 縁鉢・口縁部 | 口縫内外側柱行C1網行把手・草筋網底(?)ナコテ | ナゾ | 外側大穴口蓋 | 100 86 | |
| P449 | II A16y(5号型六連脚下)・茎端下段 | 縁鉢・底部 | L3L口2・底行 | ナゾ | 外大穴、内全面コゼ | 100 86 | |
| P450 | II A16y・茎端下段 | 縁鉢・口縁部 | 口縫底面・底行H3H | ナゾ | 内全面大穴 | 100 86 | |
| P451 | II A17y・茎端上部 | 縁鉢・口周未溝 | 底面ヨコ2・窓・縫帶に層状凹凸・底面 | ナゾ? | 内全面窓 | 100 86 | |
| P452 | II A18x・茎端上部 | 縁鉢・口周未溝 | L3Lテート・窓帶に沿ナコテ | ナゾ? | 内全面窓・外大穴 | 100 86 | |
| P453 | II A18x・茎端上部 | 縁鉢・口縁部 | 底行口縫・口縫底面・L3Lテート・L3L窓 | ナゾの口 | 内全面大穴口蓋 | 100 86 | |

第100図 繩文～弥生土器(49)



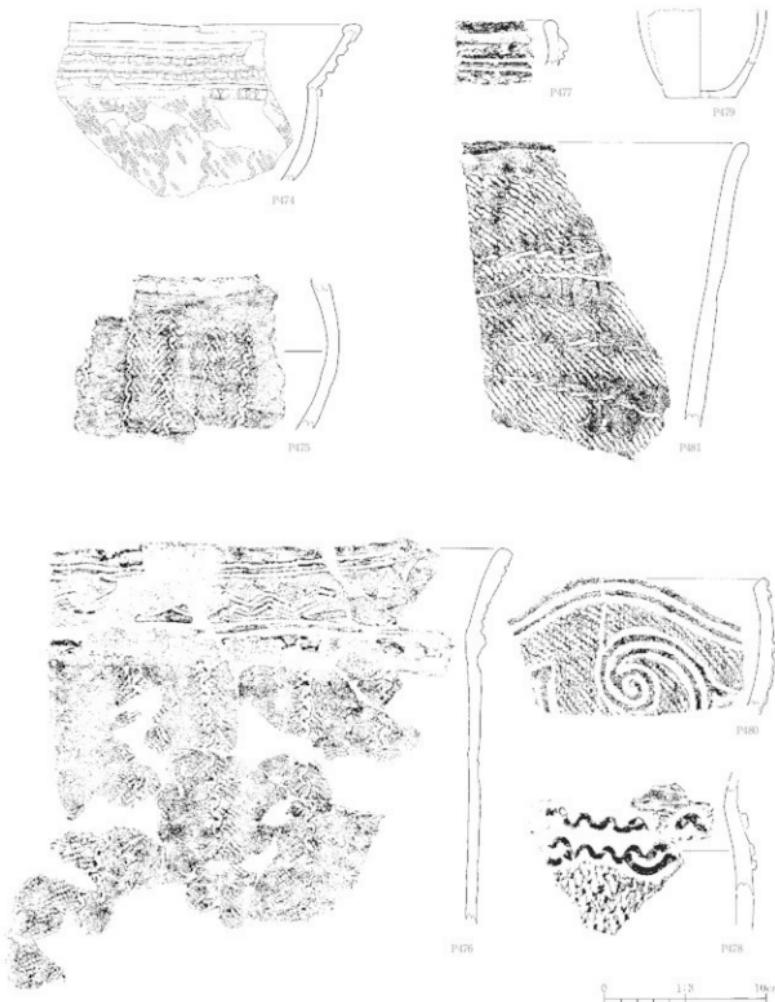
| 編號 No. | 出土場所・状態 | 器種・部品 | 外観 | 内観 (調査なし) | 備考 | 本文 記載 |
|-----------|---|------------|--------------------|--------------|--------|----------|
| P454 | II A10B - 三層子窓 - 1号、II A10b - 三層子窓 - 2号 | 深鉢(1.5側本面) | 口加厚・凹窓・直縁・直腹、圓文底全体 | ナド | | 101 87 |
| P455 | II A10B - 三層子窓 - 1号 | 追跡跡・口縁部 | 直起・半纏竹管状口部による浅腹、凹窓 | ナド | | 101 87 |
| P456 | II A10B - 三層子窓 - 2号 | 深鉢・口縁部 | 口斜直縁、直起・凹窓・追跡跡 | ナド | 外曲入式口番 | 101 87 |
| P457 | II A10B - 三層子窓 - 2号 | 深鉢(1.5側本面) | 口加厚・凹窓・直縁・直腹、圓文底全体 | ナド | | 101 87 |
| P458 | | 追跡跡 | 直起 | ナ | | |
| P459 | | 深鉢 | 口斜直縁、直起・凹窓・追跡跡 | ナド | | |
| P460 | | 深鉢(1.5側本面) | 口加厚・凹窓・直縁・直腹、圓文底全体 | ナド | | |
| P461 | | 追跡跡 | 直起 | ナ | | |
| P462 | | 深鉢 | 口斜直縁、直起・凹窓・追跡跡 | ナド | | |

第101図 繩文～弥生土器(50)



| 編號 No. | 出土場所・解説 | 器種・部位 | 外観 | 内観 (縄文部) | 備考 | 参考文献 |
|-----------|----------------------------|----------|-----------------------------|--------------------------|-----|------|
| P463 | II A19・茎葉下部(3mm) | 漆跡・口縁部 | 口縁部・側面・底面・裏面、繩文部(3mm) | ナゲ 外側大穴打痕 | 102 | 87 |
| P464 | II A19・茎葉下部(3mm) | 漆跡・口縁部 | 口縁部・側面・底面・裏面、繩文部(3mm) | ナゲ 外側大穴打痕 | 102 | 87 |
| P465 | II A19・茎葉下部(3mm) | 漆跡・側面 | 側面・底面・裏面、繩文部(3mm) | ナゲ 外側大穴打痕 | 102 | 87 |
| P466 | II A19・茎葉下部(3mm)・茎葉上部(3mm) | 漆跡・口縫合以下 | 口縫合ノーズ状突出・漆跡前縫合 | ナゲ 外大穴・下の側面口縫合、粘土層分界面 | 102 | 87 |
| P467 | II A19・茎葉下部(3mm) | 漆跡・口縫合 | 口縫合(3mm)・ナゲ・漆跡前縫合・口縫合 | ナゲ 外大穴、二次焼成、内コマ多 | 102 | 87 |
| P468 | II A19・茎葉上部 | 漆跡・口縫合 | 先端・周辺高さ1mm・半纏竹管状工具による押し出し焼成 | ナゲ 外側大穴打痕 | 102 | 87 |
| P469 | II A19・茎葉上部 | 漆跡・側面 | 側面・ナゲ・底面 | ナゲ 外大穴、内コマ | 102 | 87 |
| P470 | II A19・茎葉上部 | 漆跡・側面 | 側面・ナゲ・底面・裏面・内側・外側 | ナゲ 外側大穴打痕 | 102 | 87 |
| P471 | II A19・茎葉上部 | 漆跡・口縫合 | 口縫合平ら・机上止り | ナゲ 外側大穴打痕 | 102 | 87 |
| P472 | II A19・茎葉下部-茎葉上部(3mm) | 漆跡・側面 | LRコマノゼ・伏出し | ナゲ 外側大穴、内コマ | 102 | 87 |
| P473 | II A19・茎葉上部 | 漆跡・側面 | LRコマノゼ・伏出し | ナゲ 外側大穴、内コマ | 102 | 87 |

第102図 縄文-弥生土器(51)



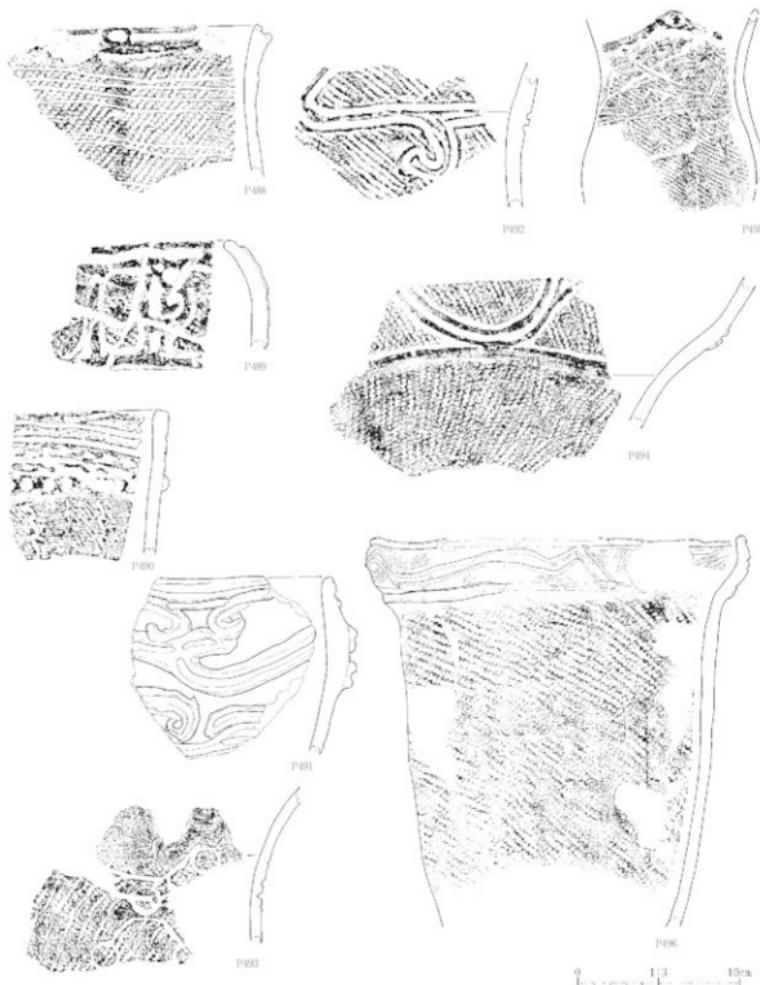
| 測定 No. | 出土場所・層位 | 器種・部原 | 外 面 | 内 面 (調整なし) | 備 考 | 本文 記載 | 国 宝 | 登 録 |
|-----------|-----------------|-----------|----------------------------|------------------|---------------|----------|--------|--------|
| P474 | 2 A10a・基層下段-1番層 | 縁鉢・口縁部 | (口縁部・側面部) 深部・底面、繩文束縫など | ナシ | 外曲スヌ付縫・内曲直縫 | 103 | 87 | |
| P475 | 2 A10a・基層下段-1番層 | 縁鉢・側面部 | 半纏竹管状工具による押し引き・LR+筋縫目テテ | ナシ | | 103 | 88 | |
| P476 | 2 A10a・基層下段-1番層 | 縁鉢・(口)周縁部 | 筋縫目テテ(LR、RL)+筋縫目テテ・邊縫直縫 | ナシ | 外曲スヌ・内曲直縫 | 103 | 88 | |
| P477 | 2 A10a・基層下段 | 縁鉢・口縁部 | 半纏竹管状工具による沈縮・筋縫目(LR、RL)テテ? | ナシ | 口内直縫・外曲前縫 | 103 | 88 | |
| P478 | 2 A20・基層黑褐色土 | 縁鉢・側面部 | 繩文?・船形(無調整) | ナシ | 内曲スヌ・内曲コゼ | 103 | 88 | |
| P479 | 2 A20・基層 | 鉢 (口)周縁部 | 繩文?・直縫(無調整) | ナシ | 内曲スヌ・内曲コゼ | 103 | 88 | |
| P480 | 2 A20・基層 | 縁鉢・口縁部 | 波状口縫・RL、PRテテ・縫帶などつけ | ナシ | 丁の割れ口・軸上縫合直縫縫 | 103 | 88 | |
| P481 | 2 A20・基層 | 縁鉢・口・側面部 | RL+縫帶コロ | ナシ | 斜上縫縫・外曲スヌ・内コゼ | 103 | 88 | |

第103図 繩文～弥生土器 (52)



| 品種 | 出土地點・層位 | 器種・部位 | 馬 鹿 牛 猪 兔 鳥 魚 蟹 貝 | 内 面 外 面 | 調 査 記 録 | 層 号 | 本 文 記 述 | 註 記 |
|------|-------------------------------|--------------------------------------|---|------------------|------------------|--------|------------------|--------|
| P482 | II A20・墓塚、中央セクション・灰青褐色土。J2跡理上 | 漆鉢(2/3 周未満) 漆口(縦縫)、側面(ナ・西)・縫合部(内・外縫) | 少少 | 内面凹窪? | | 101 | 88 | |
| P483 | II A20・墓塚 | 漆鉢(口縫部) | 少少? | | | 101 | 88 | |
| P484 | II A20・墓塚下段・中央セクション・J2跡理上 | 漆鉢(1/3周以上) 漆口(縫)・漆縫(ナ・東)・縫合部 | 少少 | 内口縫大。下二次焼成、内全面コマ | | 101 | 89 | |
| P485 | II A20・墓塚下段・中央セクション・灰青褐色土上 | 漆鉢(1/2周以上) 漆口(縫)・側面(ナ・西)・縫合部 | 少少 | 内口縫大。下二次焼成、内コマ | | 101 | 89 | |
| P486 | II A20・墓塚下段・中央セクション・灰青褐色土上 | 漆鉢(1/2周未満) 漆口(縫)・側面(ナ・西)・縫合部 | 少少 | 内口縫大。下二次焼成、内コマ | | 101 | 89 | |
| P487 | II A20・墓塚下段・中央セクション | 漆鉢(口・側面) | 少少→底部・内側の浅窪(口の側面)、軽口縫分離部 | 少少 | 内面大X、内面下コマ | | 101 | 89 |
| P488 | II A20・墓塚下段・中央セクション | 漆鉢(口・側面) | 少少→底部・内側の浅窪(口の側面)、軽口縫分離部 | 少少 | 内面大X、内面下コマ | | 101 | 89 |

第 104 図 繩文～弥生土器 (53)



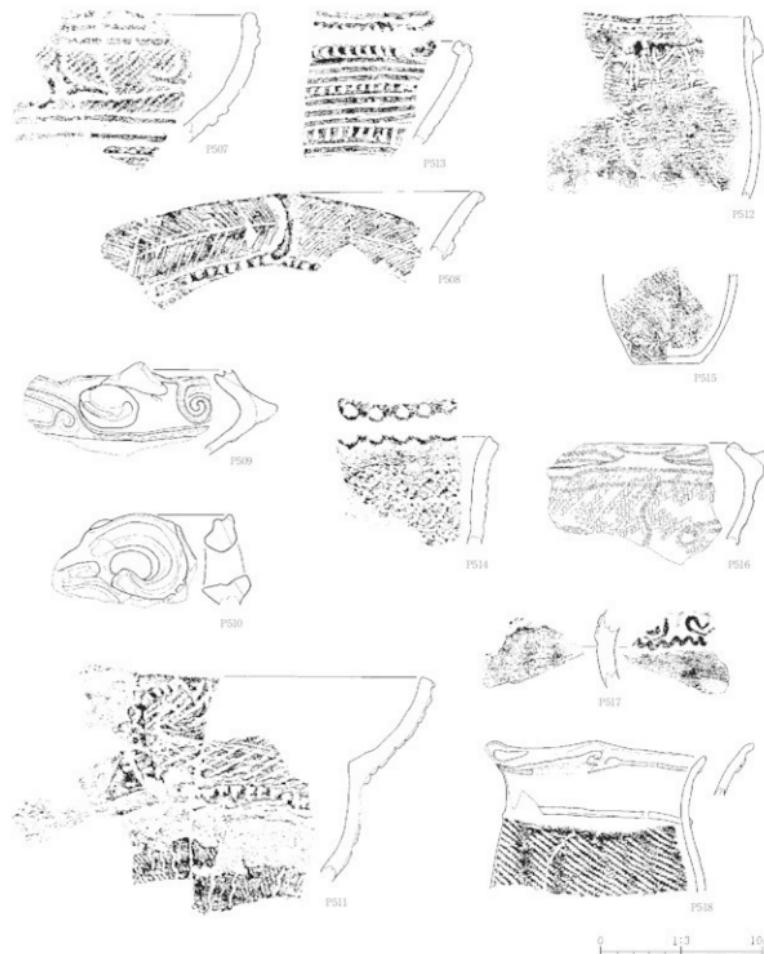
| 器種 No. | 出土場所・層位 | 着色・部位 | 外 観 | 内 観 (測定なし) | 備 考 | 本文 記載 頁 | 写 真 頁 |
|-----------|------------------------------|-------------|------------------------------|-----------------------------|-----------|---------------|----------|
| P488 | II A20・基盤下1cm・方錐 | 漆付・口縁部 | 口縁部・側面・底面・前面、斜文装饰なし | ナマ漆(?)か 外曲全面入式付蓋 | 105 89 | | |
| P490 | II A20・基盤下1cm・方錐 | 漆付・口縁部 | 口縁部・底面・側面・前面、斜文装饰なし | ナマ漆(?)か 外曲全面付蓋 | 105 89 | | |
| P490 | II A20・基盤下1cm・方錐 | 漆付・口縁部 | 口縁部・底面・側面・前面、斜文装饰なし | ナマ漆(?)か 外曲全面付蓋 | 105 89 | | |
| P491 | II A20・基盤下1cm・方錐 | 漆・口縁部 | 口縁部・底面・側面・前面、斜文装饰なし | ナマ漆(?)か 外曲全面付蓋 | 105 89 | | |
| P492 | II A20・基盤下1cm・方錐 | 漆付・側部 | LH23.0・人面・火焔・船上まといの飾 | ナマ漆(?)か 内里縫? | 105 89 | | |
| P493 | II A20・基盤下1cm・方錐、中央セクション剥離・上 | 漆付・側部 | LH23.0・前面・火焔飾の脱落 | ナマ漆(?)か 内里縫? | 105 89 | | |
| P494 | II A20・基盤下1cm・方錐 | 漆付・(1/3周未満) | LH23.0・側面・斜文装饰なし、沿口化粧 | ナマ漆(?)か 内スス・上の側面、船上全面剥離 | 105 89 | | |
| P495 | II A20・基盤下1cm・方錐、剥離 | 漆付・(1/2周以上) | 漆付側面・口縁突出部付近・LH23.0・側面・斜文装饰 | ナマ漆(?)か 内スス・上の側面、船上全面剥離 | 105 89 | | |
| P496 | II A20・基盤下1cm・方錐 | 漆付・(周満) | LH23.0・側面・斜文装饰なし、沿口化粧、隠れ全谷付近 | ナマ漆(?)か 内スス・前面、十二次地模、内コゾ | 105 89 | | |

第105図 繩文・弥生土器(54)



| 番号 No. | 出土地點・層位 Excavation site and stratum | 器種・部位 Type and part of vessel | 外 壁 Exterior wall | 内 壁 Interior wall (decoration) | 備 考 Remarks | 参考文献 Reference | 図版 Plate | 写 真 Photograph |
|-----------|--|----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|-------------------|-------------------|-------------|-------------------|
| P497 | II A20a・方盤 | 縄錐 (1.5周未満) | LR.タテ→横(矢状)・波(?)・直(?)・斜上(斜面)・網文(全体) | 無 | 丸八大人、円下脛(?) | 106 89 | P497 | |
| P498 | II A20a・方盤 | 縄錐 (1.2周以上) | LR.タテ→横(矢状)・波(?)・直(?)・斜上(斜面)・網文(全体) | ナシ | | 106 90 | P498 | |
| P499 | II A20a・方盤 | 縄錐 | LRタテ→ノンジ・波(?)など | ナシ | 内面大穴(?) | 106 89 | P499 | |
| P500 | II A20a・方盤 | 縄錐・口縁部 | 折り返し口縫・直錐(1.1L)・口縫ナナメ・脚ナナメ | ナシ | 内面全面大穴(?)・内コロ? | 106 89 | P500 | |
| P501 | II A20a・方盤 | 縄錐 (1.4周以上) | 史粉・LR.・口縫ナナメ・脚ナナメ等で(?)・折り返し口縫 | ナシ | 内面スズ、内コロ | 106 89 | P501 | |
| P502 | II A20a・方盤下部 | 縄錐・口縫部 | LR.ナナメ・コロ(?)等の内面ナナメ | ナシ | 丸八大人、内面コロ | 106 89 | P502 | |
| P503 | II A20a・方盤下部 | 縄錐・口縫部 | 口縫(?)・LR.コロ(?)・脚(?) | ナシ | 丸八大人、内面コロ(?)等 | 106 89 | P503 | |
| P504 | II A20a・方盤下部・方盤 | 縄錐・口縫部 | 波(?)・直(?)・ナナメ・脚(?) | ナシ | 丸八大人、内面全面コロ(?)に多い | 106 89 | P504 | |
| P505 | II A20a・方盤上部 | 縄錐 (1.5周以上) | 直(?)・口縫(?)・史粉(?)・脚ナナメ等で(?)・折り返し口縫 | ナシ | | 106 90 | P505 | |
| P506 | II A20a・方盤上部 | 縄錐 (1.5周以上) | 直(?)・口縫(?)・史粉(?)・脚ナナメ等で(?)・折り返し口縫 | ナシ | | 106 90 | P506 | |

第106図 縄文～弥生土器 (55)



| 施範 No. | 出土地点・層位 | 器種・部位 | 特徴 | 内 面 | 備 考 | 本 記 述 |
|-----------|-----------------|------------------|-------------------------|--------|---------------|-------------|
| | | | (縄文期・網目期・灰陶・須原・調文期等など) | (縄文期) | | |
| P507 | II A20v・須原上段 | 須原・口縁部 | LR33→縄帶なぐいの | ナゲ | 内入式、内凸摩利 | 107 89 |
| P508 | II A20v・須原下段 | 須原下段・口縁部上位 (L/2) | 須原 (L/2用以下) | ナゲ | 内入式、内凸摩利 | 107 90 |
| P509 | II A20v・須原上段 | 須原・口縁部 | 須原→口縁部 | ナゲ | 内入式、内凸摩利 | 107 89 |
| P510 | II A20v・須原 | 須原・口縁突起 | 須原→口縁突起 | ナゲ | 内入式、内凸摩利 | 107 90 |
| P511 | II A20v・須原下段・口縁 | 須原 (L/5用以下) | 縄帶な須原・下からの割れ・LR4・粘接ナフ | ナゲ丁寧 | 外凸須原 | 107 90 |
| P512 | II A20v・須原下段・口縁 | 須 (L/4用未満) | LRナフメ・手取竹管状工具・L/4用文様 | ナゲ | 内入式、二次焼成、内凸コマ | 107 90 |
| P513 | II A20v・須原下段・口縁 | 須原・口縁部 | 内凸須原・口縁部、須原・浅い洗面、深め斜尖 | ナゲ | 内凸コマ | 107 90 |
| P514 | II A20v・須原下段・口縁 | 須原・口縁部 | (口縁部) LR4・粘接ナフ | ナゲ | 内入式、内凸コマ | 107 90 |
| P515 | II A20v・須原下段・口縁 | 須 (L/4用) | LR33→縄帶なぐいの・須原 / 細面的なナゲ | ナゲ | 内入式焼成、内上コマ | 107 90 |
| P516 | II A20v・須原上段 | 須原・口縁部 | LR33→縄帶なぐいの | ナゲ | 内入式大口蓋 | 107 90 |
| P517 | II A20v・須原下段・口縁 | 内凸ノール・粘接部 | 内凸ノール・粘接部 | ナゲ | 内入式大口蓋 | 107 90 |
| P518 | II A20v・須原下段・口縁 | 須 (L/4用) | 史記?・LRナフメ・縄帶なぐいの | ナゲ | 内入式大口蓋 | 107 90 |

第107図 縄文～弥生土器 (56)



第 108 図 繩文～弥生土器 (57)

| 編號 No. | 出土地點・層位 | 器種・部位 | 外 壓 (口縁部・胴部・底部・足部・網文模様など) | 内 壓 (調査など) | 備 考 | 本文 記載 | 回 | 写 真 |
|-----------|---------------------|---------|------------------------------|---------------|----------------|----------|----|-----|
| P519 | II A20bw・基層上位 | 鉢? | 口沿部(波線) | テテ | 外面スラ・網様孔 | 108 | 90 | |
| P520 | II A20bw・基層上位 | 深鉢(口沿部) | LR TD/TD→底・足部 | ナシ | 外面スラ | 108 | 90 | |
| P521 | II A20bw・基層上位 | 鉢? | 口沿部 | ナシ | 外面スラ・内口テテ | 108 | 90 | |
| P522 | II A20bw・基層 | 鉢? | 口沿部(波線) | ナシ | 外面スラ・内口テテ | 108 | 91 | |
| P523 | II A20bw・伊勢名号櫛穴建物跡下 | 深鉢(口沿部) | LR TD・口縁波・足部・底面ナシ | ナシ | 外面スラ・内面土器口引面 | 108 | 91 | |
| P524 | II A20bw・伊勢名号櫛穴建物跡下 | 深鉢(口沿部) | 底面波 | ナシ | 外面スラ・二次焼成・内口テテ | 108 | 91 | |
| P525 | II A20bw・伊勢名号櫛穴建物跡下 | 深鉢(口沿部) | 底面波・足ナシ | ナシ | 外面スラ | 108 | 91 | |
| P526 | II A20・基層上位 | 鉢・脚部 | DL・ナラ・脚ナシ | ナシ | 外面スラ・脚付 | 108 | 91 | |



0 1:3 10cm

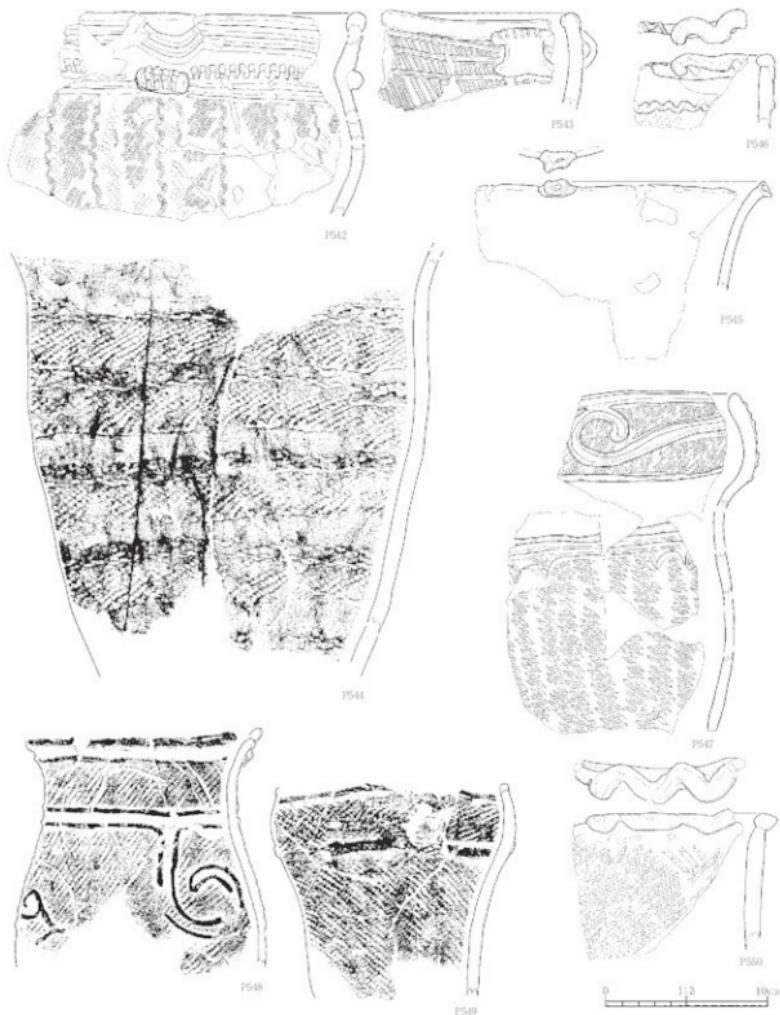
| 形態 No. | 出土地點・層位 | 器物・部位 | 外 形 | 内 部 (測量なし) | 備 考 | 全 長 | 幅 | |
|-----------|--------------------------------|------------|-------------------------------------|-------------------------------|----------------|----------------|-----|----|
| P527 | II A20a・基盤下層～中層、II A2b・II・基盤下層 | 縄跡(1/2周RL) | 口縁部・側面・底面、圓文模様なし | ナメ丁寧 | 内火入、二次焼成、内下コゾ | 109 | 91 | |
| P528 | II A2b・II・基盤下層 | 縄跡(3/4周RL) | 口縁部・側面・底面 | ナメ | 内上火入、下二次焼成、内コゾ | 109 | 92 | |
| P529 | II A2b・基盤、II・基盤下層 | 縄跡(1/2周未満) | 口縁部・側面・底面 | ナメ丁寧・口縁部外側斜め・口縁部RL+底部L3/4→丸底斜 | ナメ | 内上織痕混入、外面火入付箇所 | 109 | 92 |
| P530 | II A2b・基盤黒褐色土 | 縄跡・口縁部 | 口縁部 | ナメ | 内面火入付箇所 | 109 | 91 | |
| P531 | II A2b・基盤黒褐色土 | 縄跡・口縁部 | 口縁部(ナメなし)(基盤斜面(深さ7)→火入高・縁帶・縁帶に沿うナメ) | ナメ | ナメ | 109 | 91 | |

第 109 図 縄文～弥生土器 (58)



| 編號 No. | 出土地點・層位 Excavation site and stratum | 形質・部位 Shape and part | 鳥・頭・脚 Crown, neck, legs | 内・側 (調整なし) (Unadjusted) | 備考 Remarks | 参考記載 Reference | 図 Fig. | 写真 Photograph |
|-----------|--|--------------------------------|----------------------------|-------------------------------|---------------|-------------------|-----------|------------------|
| P532 | E-A211・最深界褐色土 | 漆鉢 (1.1周未満) 内面刷毛漆帶前落、口沿突起部分 | 子鉢 | 外上二次焼成、子鉢、内下全焼コグ | | | 110 | 91 |
| P533 | E-A211・最深界褐色土 | 漆鉢・口縁突出部 | L支ナメ | 上ヨリナメ | | | 110 | 91 |
| P534 | E-A211・最深界褐色土 | 漆鉢・口縁部 | ナメナメ | 上ヨリナメ | | | 110 | 91 |
| P535 | E-A211・最深界褐色土 | 漆鉢・口縁部 | 子鉢 | 外面上火付着 | | | 110 | 91 |
| P536 | E-A211・最深界褐色土 | 漆鉢・口縁部 | 漆付上唇要開 | 子鉢 | 外面上火付着 | | 110 | 91 |
| P537 | E-A211・最深界褐色土 | 漆鉢・口縁部 | 漆付上唇要開 | 漆付上唇要開 | | | 110 | 91 |
| P538 | E-A211・最-万葉 | 漆鉢・口縁部 | 漆付上唇要開 | ナメナメ | 外面上火付着 | | 110 | 91 |
| P539 | E-A211・最-万葉 | 漆鉢・口縁部 | 漆付上唇要開 | ナメナメ | 外面上火付着 | | 110 | 91 |
| P540 | E-A211・最-万葉 | 漆鉢・口縁部 | 漆付上唇要開 | ナメナメ | 外面上火付着 | | 110 | 91 |
| P541 | E-A211・最-万葉 | 漆鉢・口縁部 | 漆付上唇要開 | ナメナメ | 外面上火付着 | | 110 | 91 |

第 110 図 繩文～弥生器 (59)

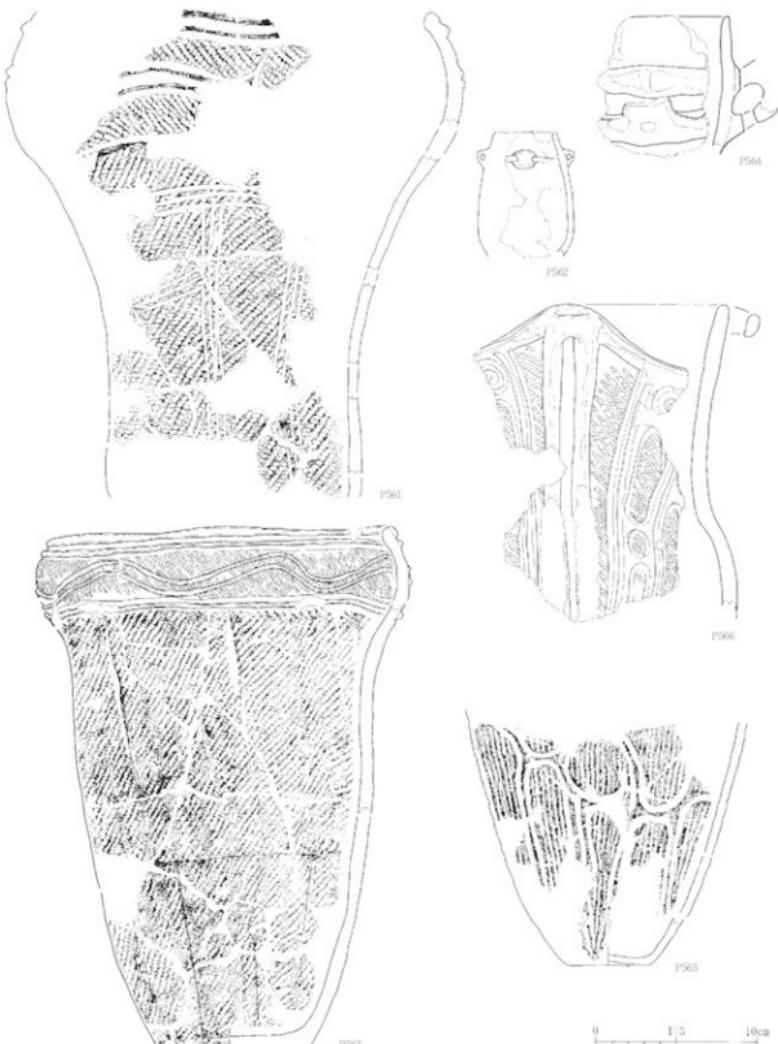


| 器種 No. | 出土地点・層位 | 器種・測定 | 内 面 | 内 面 (測量なし) | 施 考 | 本文 記述 | 写 真 |
|--|-------------|------------------------------|------------------|------------------|-------------|----------|--------|
| P542 E.A21a・壁面下段・第一層 | 追跡調(1月・開土溝) | 江綱底・無底・底厚・底深・網文地帯なし | L.R. 細縦クレ→大底(浅底) | ナシ | 外丸底、内コウリ付蓋 | H1 92 | |
| P543 E.A21b・壁面上段 | 江綱底 | 江内側帶付・半底付・底厚なし | ナシ | | | H1 90 | |
| P544 E.A21c・壁面(4号室・腰窓前)、E.A22・腰窓・口縁上段 | 江綱底 | 江内側帶付・底厚なし(上丁脚)、軸付・複合面調 | ナシ(底付付) | ナシ | 外丸底付、内コウリ付蓋 | H1 90 | |
| P545 E.A22・口縁上 | 漆林(1・周回) | 江綱底付、平ら・ナラ | ナシ | 内全幅大、内側付口沿 | | H1 92 | |
| P546 E.A22a(腰窓(4号室)・第一層) | 漆林・口縁 | 江綱底付・L.R. 30.3 →腰付 | ナシ | 丁の割け、軸上側面付調 | | H1 92 | |
| P547 E.A22c・E.・壁・第一層 | 漆林(1・周回) | 江綱底付・漆テクニク・腰付(口沿ナラ)、浅い底縁 | ナシ | 外スズ、二次底、丁の割け付調 | | H1 92 | |
| P548 E.A23a・E.・壁・第一層 | 漆(1・周) | 二底付・口縁側縁付・L.R.ナラ・漆(底・腰窓(腰窓)) | ナシ? | 外丸底、直面付調 | | H1 90 | |
| P549 E.A23c・E.・壁・V層 | 漆林(1・周回) | 太底付・腰窓側縁付・脚 | ナシ | 外丸底、二次底、内全幅コグ | | H1 90 | |
| P550 E.A23d・E.・壁・V層 | 漆林(1・周回) | 江内側帶付・底厚なし | ナシ | 丁の割け、軸上側面付調 | | H1 90 | |

第 1111 図 繩文・弥生土器 (60)

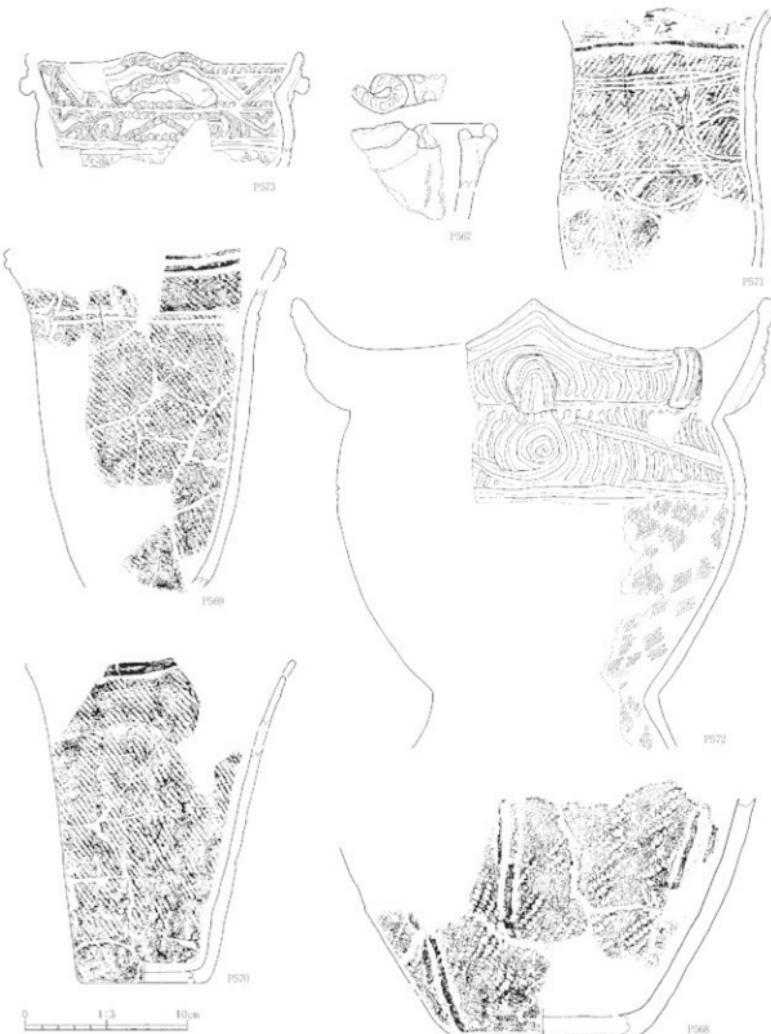


第112図 繩文～弥生土器 (61)



| 編號 No. | 出土地点・層位 Locality・Stratum | 器種・部缺 Type・Part missing | 外 壁 Outer wall (主に縹緥・網目・波浪・抽象・幾何文様など) | 内 壁 (網目など) (Hatched pattern) | 備 考 Remarks | 本邦 文献 引用 参考 References |
|-----------|--|----------------------------|--|------------------------------------|---------------------|------------------------------------|
| P561 | 2号墳穴遺物群西・堆上上段・2号墳穴遺物群 西・2層・理上中央・堆上上段 | 深鉢(網目一例) | EL2, 1RR4-2, 側タマ-2底-1底板 | ナシ | 外周部・外上大A | [13] 91 |
| P562 | 16号墳穴遺物群西・1層 | 圓錐(主に網目) 深鉢(網目一例) | 普通鉢形・深鉢 | ナシ | | [13] 93 |
| P563 | 1号地上遺構(手前)・西半壁上1層(1/8)、又 12.0m~12.5m・1号地上遺構附近 | 深鉢(網目) 縹緥(1/8) | EL1口縹緥2、側タマ-2底-1底板帶下部 | ナシ | 外上大A、十二次燒成、内底上6cm網目 | [13] 91 |
| P564 | 2.3.18m~2.5m上段 | 縹緥(1/8) | 織紋把手・直通孔 | ナシ | | [13] 93 |
| P565 | 明治上遺構附近 | 深鉢(1/2周以下) | 單頭柄1-107→大(深の浅霧・深霧ナシ) 深霧(1/2周以下) | ナシ | | [13] 91 |
| P566 | 1号地上遺構近傍(1) | 深鉢(1/2周以下) | 深霧(1/2周以下) 深霧把手(1/2周以下)・深霧(1/2周以下)・深霧・丁寧な塑形 | ナシ? | | [13] 93 |

第113図 縹文～弥生土器(62)



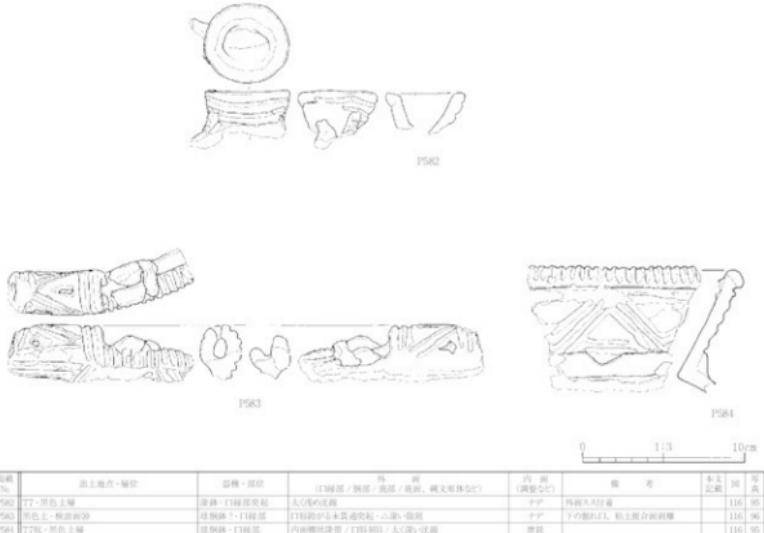
| 番号 | 出土点・層位 | 器種・部位 | 内・外 | 参考 | 本文 記載 | 写 真 |
|------|----------------------|--------|-----------------------|----|----------|--------|
| P562 | 京土上横山遺跡 | 漆耳・口沿部 | (口縁部・腹部・底部・底面・網文模様など) | ナシ | 111 | 91 |
| P566 | 京土上横山遺跡 | 漆耳・口沿部 | (口縁部・腹部・底部・底面・網文模様など) | ナシ | 111 | 95 |
| P568 | 京土上横山遺跡 | 漆耳・口沿部 | (口縁部・腹部・底部・底面・網文模様など) | ナシ | 111 | 95 |
| P569 | 京土上横山遺跡 | 漆耳・口沿部 | (口縁部・腹部・底部・底面・網文模様など) | ナシ | 111 | 95 |
| P570 | 中世セラミック・漆耳(理上・灰青褐色上) | 漆耳・口沿部 | (口縁部・腹部・底部・底面・網文模様など) | ナシ | 111 | 95 |
| P571 | 中世セラミック・漆耳(理上) | 漆耳・口沿部 | (口縁部・腹部・底部・底面・網文模様など) | ナシ | 111 | 95 |
| P572 | 中世セラミック・漆耳 | 漆耳 | (口縁部・腹部・底部・底面・網文模様など) | ナシ | 111 | 95 |
| P577 | 中世セラミック・漆耳 | 漆耳 | (口縁部・腹部・底部・底面・網文模様など) | ナシ | 111 | 95 |

第 114 図 繩文～弥生土器 (63)



| 編號 No. | 出土地點・層位 Locality of find · stratum | 器種・部段 Type · part | 外 壁 Outer wall | 内 壁 Inner wall | 標 本 Specimen | 本文 Reference | 図 Fig. | 写 真 Photograph |
|-----------|--|---|--|-------------------------|--|-----------------|-----------|-------------------|
| P574 | II A20a, v - 褐層。中央セクション - 黄褐色土上 II A20a, v - brown layer. Central section - yellowish brown soil above | 鉢 (2/3周未満) Bowl (less than 2/3 of the circumference) | 内面に上縁から斜窓・L字窓 Inner surface with upper edge to sloping window · L-shaped window | 調査者記 Surveyor's note | ナメ? 子窓 Namer? child window | 115 | 91 | |
| P575 | II号室六邊形部東上一层。10号室の連繋部、東上一半部、東上半部 Sector of hexagonal room II, 10th room connecting part, eastern half, upper half | 深鉢 (側一周) Deep bowl (around the side) | 内面に上縁から斜窓・L字窓 Inner surface with upper edge to sloping window · L-shaped window | 調査者記 Surveyor's note | ナメ? 子窓 Namer? child window | 115 | 91 | |
| P576 | 木棚2 - 表土 - 黑色細密土 Wooden shelf 2 - surface - black fine-grained soil | 深鉢 (口縁部) Deep bowl (rim area) | 内面に平行窓 Inner surface with parallel windows | ナメ? Namer? | 外底丸・二次焼成、内コマ Outer base rounded · secondary firing, inner grid | p123 | 95 | |
| P577 | 木棚3 - 表土 - 黑色細密土 Wooden shelf 3 - surface - black fine-grained soil | 深鉢 (口縁部) Deep bowl (rim area) | 内面に平行窓 Inner surface with parallel windows | ナメ? Namer? | 外底丸・骨斑点、外スル・内コマ Outer base rounded · bone spots, outer smooth · inner grid | 115 | 91 | |
| P578 | 黄褐色一層 Yellowish brown layer | 深鉢 (口縁部) Deep bowl (rim area) | 内面不規・L字窓 Inner surface irregular · L-shaped window | ナメ? Namer? | 外底丸 Outer base rounded | 115 | 96 | |
| P579 | 黄褐色一層 Yellowish brown layer | 深鉢 (口縁部) Deep bowl (rim area) | 内面ナメ化・内底斜窓 Inner surface namerized · inner bottom sloping window | ナメ? Namer? | 外底丸化・外底化粧多・内ナメ化 Outer base rounded · outer bottom decorated · inner namerized | 115 | 89 | |
| P580 | 黄褐色(南端部) - 褐層以下(暗褐色土) Yellowish brown (southern end) - brown layer below (dark brown soil) | 深鉢 (口縁部裏板) Deep bowl (inner bottom of rim area) | 内面ナメ化・内底斜窓 Inner surface namerized · inner bottom sloping window | ナメ? Namer? | 外底丸・内底コマ Outer base rounded · inner bottom grid | 115 | 91 | |
| P581 | 試標 (レンガ) - 黑色土標準面 Test specimen (brick) - black soil standard surface | 鉢 (口 3.4 ㌢) Bowl (width 3.4 cm) | 内面ナメ化 Inner surface namerized | ナメ? Namer? | 外底丸・二次焼成、内コマ Outer base rounded · secondary firing, inner grid | 115 | 95 | |

第 115 図 繩文-弥生土器 (64)



第 116 図 縄文～弥生土器 (65)

第 4 表 竪穴建物跡別縄文土器出土一覧表

| 遺 墓 名 | 同 級 N <small>o</small> | 遺 墓 名 | 同 級 N <small>o</small> |
|----------|---------------------------------------|----------|------------------------|
| 1号竪穴建物跡 | P007 | 16号竪穴建物跡 | P338.339.562 |
| 2号竪穴建物跡 | P008 ~ 032.P062.P118.P128.P561 | 17号竪穴建物跡 | P343 ~ 347.349 ~ 354 |
| 3号竪穴建物跡 | P042 ~ 117.P119 ~ 126.P129.P130.P125 | 18号竪穴建物跡 | P366.367 |
| 4号竪穴建物跡 | P127.P131 ~ 163.P276.P302.P575 | 19号竪穴建物跡 | P368 ~ 370 |
| 5号竪穴建物跡 | P164 ~ 174 | 20号竪穴建物跡 | P371 ~ 378 |
| 6号竪穴建物跡 | P216 ~ 204.P207 ~ 213.P518.P521 ~ 525 | 21号竪穴建物跡 | P379 ~ 384 |
| 7号竪穴建物跡 | P244.P216 ~ 256 | 22号竪穴建物跡 | P385 ~ 390 |
| 8号竪穴建物跡 | P259 ~ 273.P275.P277.P391.P425 | 23号竪穴建物跡 | |
| 9号竪穴建物跡 | P278 ~ 283 | 24号竪穴建物跡 | P272.274.P282 ~ 294 |
| 10号竪穴建物跡 | P284 ~ 317 | 25号竪穴建物跡 | P215.295 ~ 405.P412 |
| 11号竪穴建物跡 | P319 ~ 234.P424 | 26号竪穴建物跡 | P001 ~ 005 |
| 12号竪穴建物跡 | P325 ~ 330 | 27号竪穴建物跡 | P006 |
| 13号竪穴建物跡 | P331 ~ 333 | 28号竪穴建物跡 | |
| 14号竪穴建物跡 | P334 | 29号竪穴建物跡 | P318 |
| 15号竪穴建物跡 | P335 ~ 337 | 30号竪穴建物跡 | P340 ~ 342 |

(2) 土師器・須恵器(第 117 ~ 120図、写真図版 96 ~ 100)

土師器・須恵器は、出土遺物のうち、遺構出土資料を優先して掲載した。遺構出土資料の中では、遺構の時期決定が可能な出土状況のもので、かつ図化が可能なものを優先した。585 ~ 598・600 ~ 613は土師器、599は須恵器である。出土総量は、土師器が17,098.7g、須恵器が5,053.1gである。

1) 26号竪穴建物跡 (P585 ~ 599) 総量土師器 8,825.2g、須恵器 4,257.8g

585 ~ 589・591はカマド埋土から出土したもの。

585 ~ 589は壺で、長胴のものである。585は口縁部から底部。外面はヘラナデ後ミガキ、内面はヘラナデである。586は口縁部から胴部。外面はハケ後ミガキ、内面はハケ後ヘラナデである。587は頸部

有段のもので、口縁部から底部である。段は1段で、輪積みと一致する。外面はハケ後ミガキ、内面はハケである。588は胴部から底部。外面は内外面ともにハケである。591は頭部から底部。内外面ともにハケである。

589は鉢の口縁部である。内外面ともにミガキで、内面黒色処理である。

590は床面から出土したもの。

590は壺の口縁部から胴部である。外面はナデ後ミガキ、内面はヘラナデ後ミガキである。

591～593は埋土下位から出土したもの。

591・592は壺で、長胴のものである。591は頭部から底部。内外面ともにハケである。592は口縁部から底部。外面はハケ後ミガキ、内面はヘラナデである。

593は有段の壺の口縁から底部である。段は1段で、内面にも段があり。輪積みと一致する。内外面ともにミガキで、内面黒色処理である。

594～599は埋土中位から主体的に出土したもの。

594～596は壺で、長胴のものである。594・595は頭部有段のものである。594は完形品である。段は2段で、沈線状に見える。内外面ともにハケである。外面のハケは一部で線状の痕跡に見える部分があり、ミガキの可能性もある。595はほぼ完形品である。段は1段で、沈線状に見える。外面はハケ後ミガキ、内面はハケである。596は小型のもので、ほぼ完形品である。外面がハケ、内面はハケである。底部外面はハケ後ナデである。

597は鉢である。有段のもので、口縁部から胴部。段は1段で、輪積みと一致する。外面はハケ後ミガキ、内面はミガキで、内面黒色処理である。

598は碗である。有段のもので、口縁部から底部。段は1段で、内面にも段があり、輪積みと一致する。内外面ともにミガキで、内面黒色処理である。

599は埋土中位から出土した須恵器の中壺で、口縁部と肩部から底部である。胴部の外面は並行タタキ、内面には円窪による当て具痕がみられる。口縁部の外面はロクロナデである。

2) 27号竪穴建物跡 (P600) 総量土師器 32.1g

600はカマドの袖から出土したもの。

600は壺で、小型のものである。口縁部から底部で、ほぼ完形品である。外面はハケ後ミガキ、内面はミガキである。外面のミガキは線状の痕跡に見えるものである。

3) 29号竪穴建物跡 (P601) 総量土師器 221.1g

601は床上から出土したもの。

601は壺の口縁部から底部である。段は1段で、内面にも段があり、輪積みと一致する。外面はハケ後ミガキ、内面はミガキで、内外面黒色処理である。

4) 30号竪穴建物跡 (P602～P610) 総量土師器 3,926.6g

602～613はカマド埋土から出土したもの。

602～605は壺である。602はやや肩の張るもの、604・605は長胴のもの。602は口縁から底部。口縁は摘み上げている。二次焼成による赤化が顕著に見られる。外面はハケ後ミガキ、内面はヘラナデ後ミガキである。外面のミガキは線状の痕跡に見えるものである。603は口縁から底部。外面はハケ後ミガキ、内面はハケである。604は口縁から底部。外面はハケ後ミガキ、内面はミガキである。外面のミ

ガキは線状の痕跡に見えるものである。605は頸部有段の壺の口縁から底部である。段は1段で、輪積みと一致する。主な調整は外面がハケ後ミガキ、内面はナデ後ハケである。

606・607は壺である。606は小型のもので、口縁から底部。底部は平底で厚い。輪積みで成形している。内外面ともにミガキで内面黒色処理である。輪積みで製作している。607は有段のもので、口縁から底部。段は1段で、内面はやや段状になり輪積みと一致する。内外面ともにミガキで内面黒色処理である。

608・609は床面直上から出土したもの。

608・609は有段の壺である。段は1段で、内面は輪積みと一致する。608は口縁から底部。段はミガキにより稜線状となる。内外面ともにミガキで内面黒色処理である。609は口縁から底部。内外面ともにミガキで内面黒色処理である。

610はカマド付近の埋土下位から出土したもの。

610は壺の口縁から胴部である。外面はハケ後ミガキ、内面はナデである。

5) 7号a~d焼土遺構 (P611) 総量土師器33.4g

611は周辺の遺物包含層から出土したもの。

611は壺の底部である。外面はナデ後ハケ、内面はハケである。

他に焼土の覆土からも土師器が出土したが小片のため図化できなかった。

6) 遺物包含層 (P612・P613) 総量土師器2,373.4g、須恵器795.3g

612はⅢ層の検出面から出土したもの。

612は壺の口縁から底部である。内外面ともにミガキで内面黒色処理である。

613は出土地点が不明なものであるが、取り上げを行った同じ袋のものが30号竪穴のカマドのものと多く接合していることから、30号竪穴のカマドから出土した遺物の可能性が高い。

613は壺の口縁から底部である。内外面ともにハケ後ミガキで、内面黒色処理である。

(佐藤一綱)

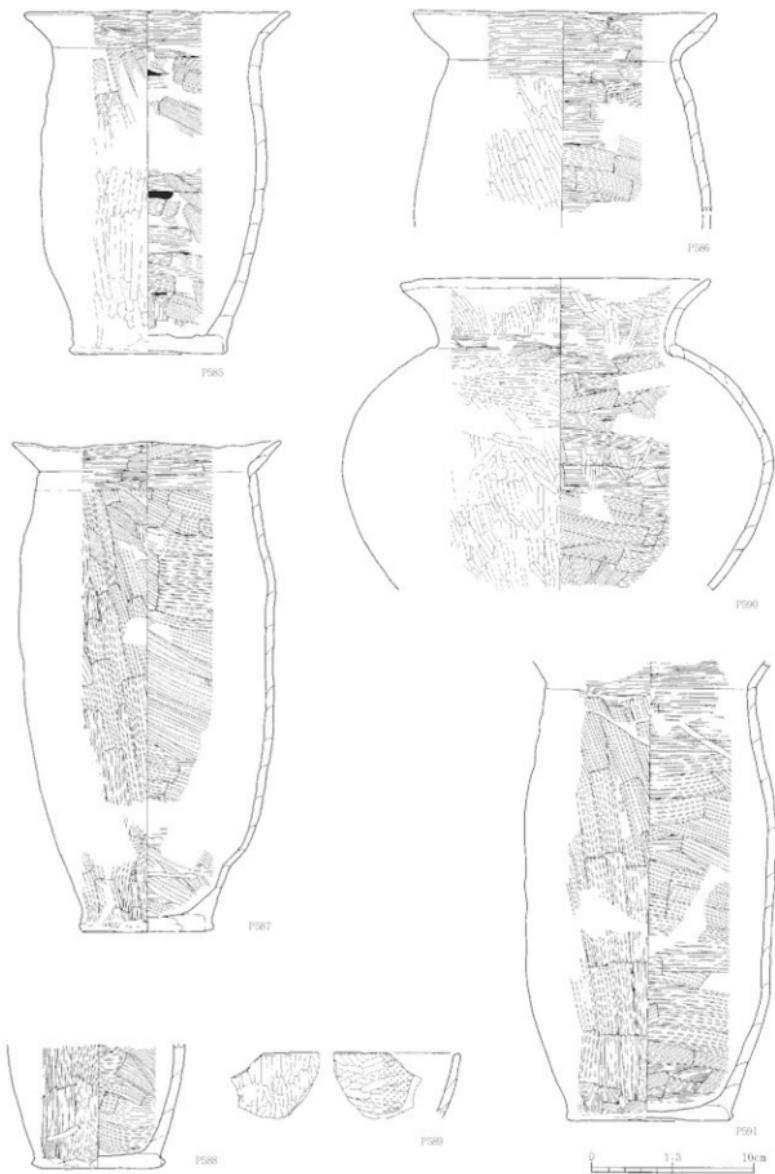
(3) 土 製 品(第121図、写真図版101)

縄文時代に属する資料としては、装飾品が出土している。G002は、ボタン状で、中央には直径15mmの穿孔が見られる。G003は、欠損しているが、管状になっているのが確認できる。G004は、中期中葉に帰属する7号竪穴建物跡から出土した斧状土製品である。G005は縄文土器片を円盤状に加工したもので、穿孔は認められない。

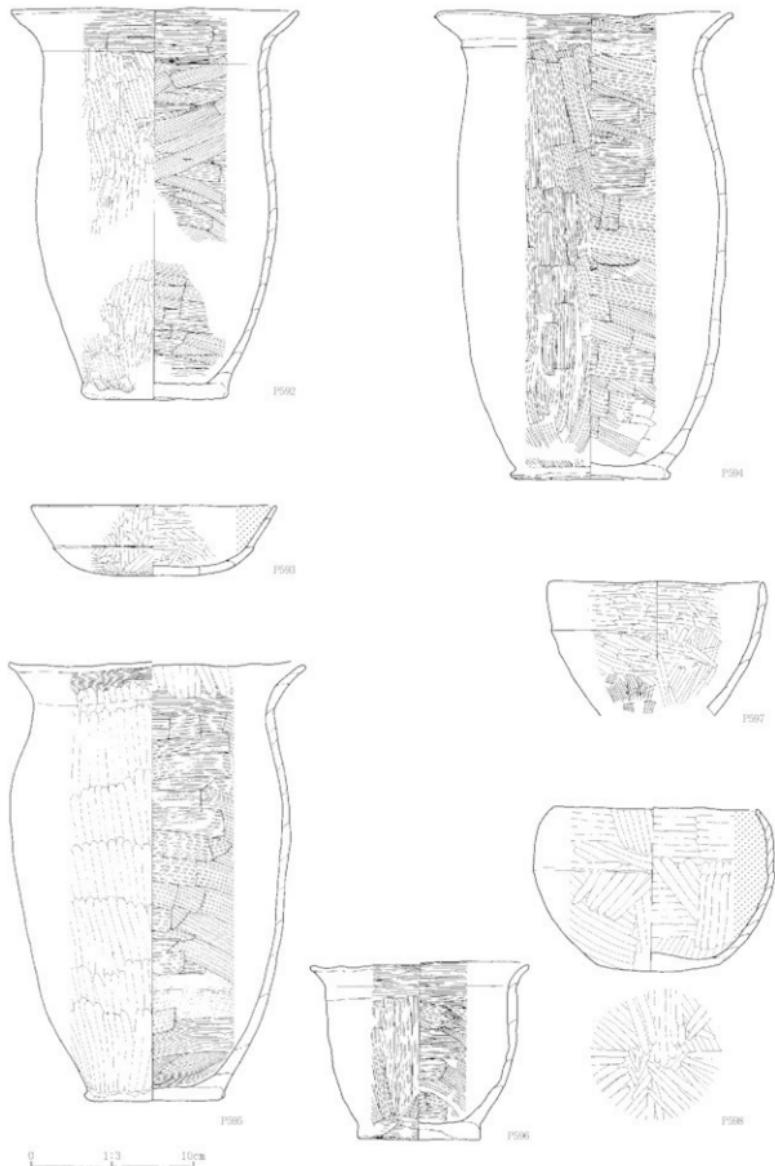
古代に属する資料は、紡錘車が4点出土した。26号竪穴建物跡から出土したG006は、全面をミガキ調整され光沢を放つ。G008も同じく26号竪穴建物跡の床面資料であるが、側面に紐状の圧痕が2カ所確認できる。制作時に使用した道具痕であろうか。G010は30号竪穴建物跡から出土した。26号竪穴建物跡から出土している紡錘車と比較すると薄手である。

(4) 石 器・石 製 品(第122~133図、写真図版101~108)

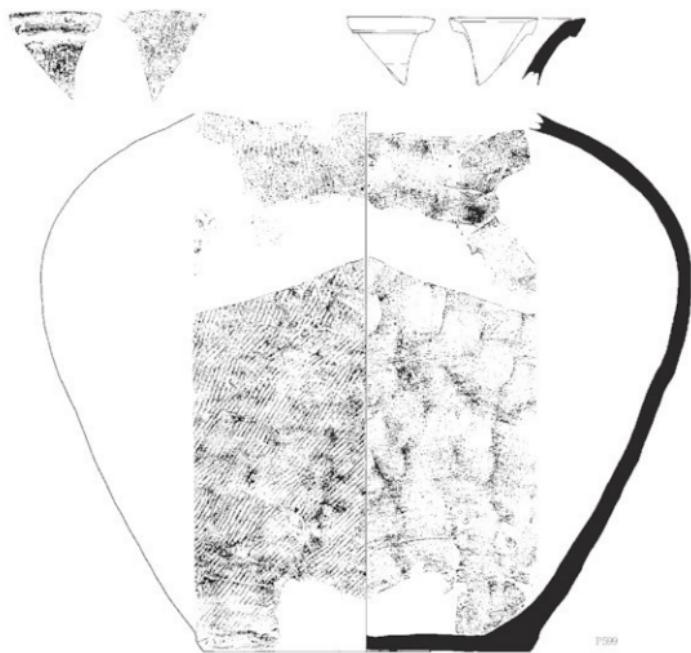
本調査で出土した石器・石製品は、種類ごとに下記の通り分類し、全て観察表に記載している。整理期間の都合上全てを図化することは困難であったため、写真にその解釈を頼るものも少なくない。なお、形状が類似するもの出土地点が同遺構のもの等は観察表のみにとどめていることをご承知願い



第117図 土師器・須恵器（1）



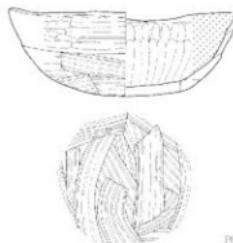
第118図 土師器・須恵器（2）



P599



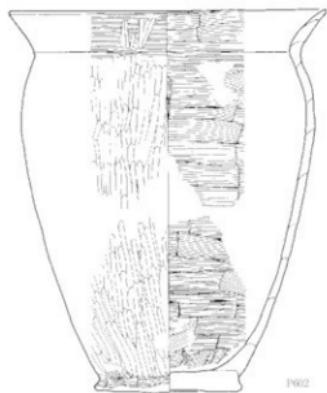
P600



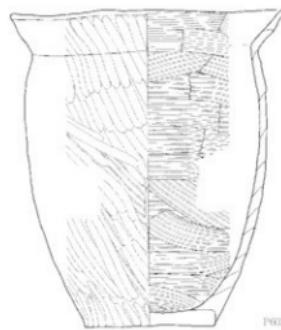
P601

0 1.3 10cm

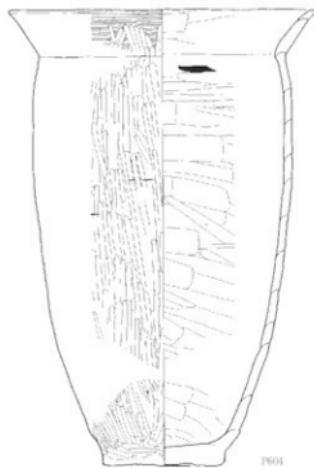
第119図 土師器・須恵器（3）



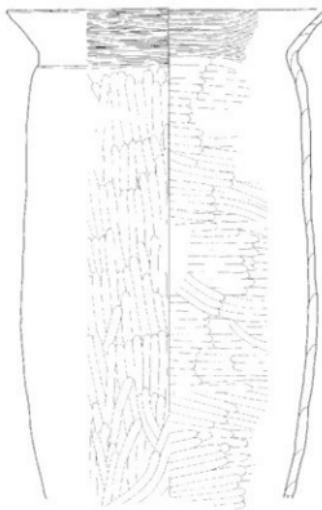
P602



P603



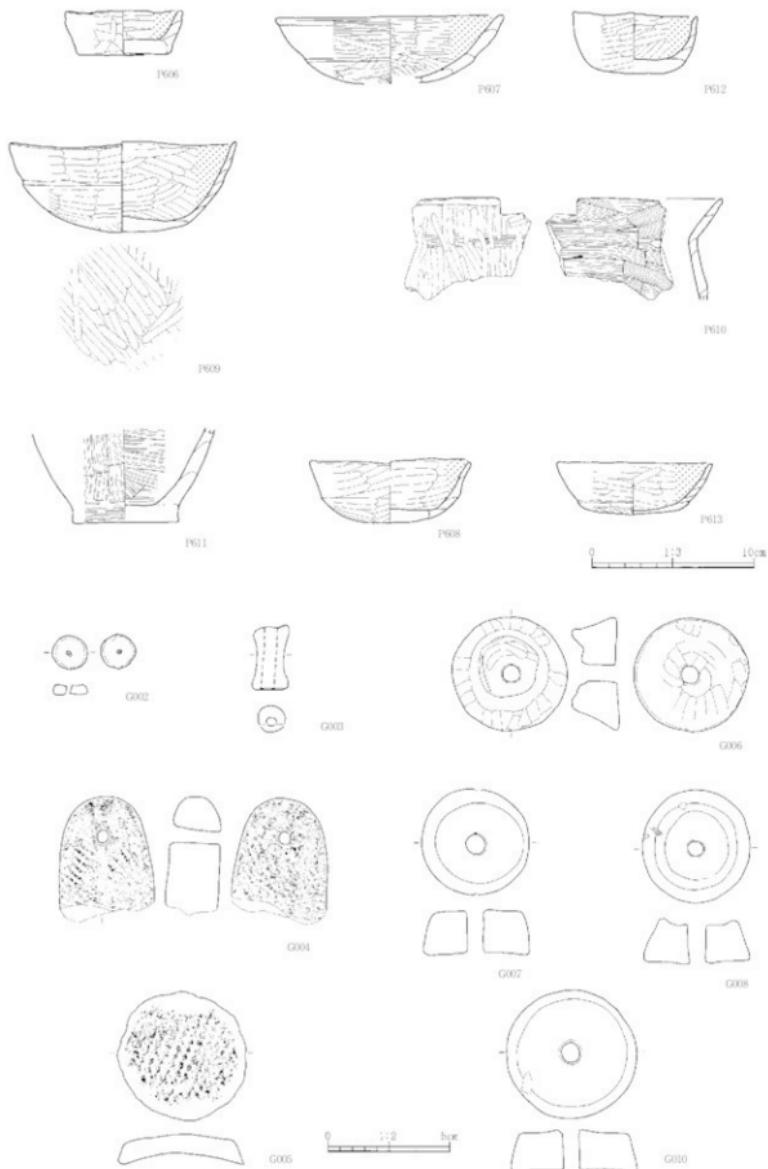
P604



P605



第 120 図 土師器・須恵器 (4)



第121図 土師器・須恵器(5)・土製品

たい。石質は代表的な資料を抜き出し、肉眼鑑定を花崗岩研究会に委託した。その他、調査者の肉眼で識別可能なものは観察表に記入している。

石鎌

118点出土。45点を図化と写真掲載、5点は写真掲載のみにした。分類・細分は以下の通り行った。

1. 無茎のもの
 - a 基部が深く抉られる
 - b 基部が平坦
2. 有茎のもの
3. 基部全体が出っ張るもの
 - a 棒状
 - b 基部が丸味をおびる（円茎）
4. 異形石鎌
5. 未成品

全体のおよそ72%が無茎である。8号竪穴建物跡から出土したS037は、先端部が小さく抉られ、基部がΩ字状に加工される。

石匙

25点出土。12点を図化と写真掲載にした。分類は以下の通り行った。つまみ部を上にした時の刃部の位置が

1. 側面に確認できるもの（縦型）
2. 下面に確認できるもの（横型）

縦型と横型に大きな偏りはない。つまみ部は全て両面調整により加工されている。S133は、大形の石匙である。つまみ部は両面から加工されているが、刃部は片面のみの調整である。

尖頭器

8点出土し、5点を図化と写真掲載、1点を写真掲載のみとした。

全体的に細かな調整が施されている。S151は、基部に丸味をもたせたつまみのような形状をしている。山形県押出遺跡で出土した押出ポイントと類似するものと考えられる。先端は欠損している。

スクレイパー

19点出土し、4点図化と写真掲載、2点は写真掲載のみにした。分類は以下の通り行った。

1. 搾器 刃部が局部的にのみ作り出され、急な角度に調整されたもの。皮なめしに使えそうなもの。
2. 削器 刃部が連続的に作り出され、直線的に調整されたもの。物を切ったり、削ったり出来そうなもの。

S158は、搔器で、下部にのみ加工調整が確認できる。親指と人差し指に収まるサイズである。

石錐

5点出土し、2点図化と写真掲載、3点は写真掲載のみにした。

綫長の一部を加工し、その断面が菱形になるものである。石鎌と区別が困難なものがあるが前述の点を選別の基準とした。

S172は、つまみあり。寸胴である剥片の一端を加工調整して錐部を作り出している。

石鎌

7点出土し、3点図化と写真掲載、2点を写真掲載のみとした。

刃部が丸いもの、直線的なもので厚みがある。スクレイパーよりずっしりするもの。

S177は、梢円形気味の形で両面加工が施される。

楔形石器

1点出土し、写真掲載のみとした。

S183は、両側縁に階段状剥離が認められる。

不定形剥片石器

微細加工のある剥片（UF）は13点、加工痕のある剥片（RF）は11点出土しており、5点写真掲載のみとした。

石核

9点出土し、2点を写真掲載のみにした。

全て、北上山地中生代前期の頁岩である。青灰色を呈するこれらは、本調査で出土している石鎌にも、同じ石質のものが散見でき、この場で製作されていたことが考えられる。

石斧

15点出土し、8点図化と写真掲載、7点写真掲載のみとした。

磨製11点と打製3点である。S231は小形で盤状であるが、使用痕は認められず実用性を目的としていないと考えられる。

敲磨器

120点出土し33点図化と写真掲載をした、分類／細分は以下の通り行った。

はじめに、形状で3分類し

1. 円形
2. カマボコ形・断面が多角形
3. 棒状

次に、痕跡別で細分した。

- a. 磨った範囲が表面もしくは裏面にあるもの。
- b. 磨った範囲が表裏両面もしくは、2面以上あるもの。
- c. 磨った範囲が側面にあるもの。(特殊磨り石)
- d. 敲石。敲打痕があるもの。
- e. 凹石。凹みがあるもの。

痕跡が複合的に観察できるものは、「1 ad」といったように表記している。

側面を使用する、いわゆる特殊磨り石が全体のおよそ37%を占める。特殊磨り石の中には、下部を平らに打ち割っているものがあり、大人の掌におさまる大きさである。また、2号竪穴建物跡床面資料のS235のように側面を平らに作り出し、使用しているものがある。特殊磨り石と捉まえて資料を観察したとき、この2点が認められる蓋然性が高く、側面で磨るという利用方法に固執している様子がうかがえる。

砥石

3点出土し、1点図化と写真掲載、1点を写真掲載のみとした。

S352は古代の竪穴26号竪穴建物跡埋土下位から出土した砂岩製の砥石である。長方形の板状で片面のみが平滑となっている。一方S354は、縄文の竪穴4号竪穴建物跡から出土した砥石である。同じく砂岩製で自然礫の形状が生かされ使用痕が数状の溝としてあらわれている。

台石

15点出土し、3点写真掲載のみにした。

石棒

3点出土し、2点を図化と写真掲載、1点を写真掲載のみとした。

G011は、6号竪穴建物跡床面から出土した大形の石棒である。表面中央部が凹み、研磨痕が顕著である。下部は平らに打ち割られ整形が施される。裏面は自然面を残し、側面の研磨も荒々しい。

有孔石製品

1点出土し写真掲載のみとした。

G014、砂岩製の自然礫を使用した有孔石製品が22号竪穴建物跡から出土している。正面からの穿孔による貫通と見られ、裏面の孔は小さい。その他の加工は認められない。

円形・半円形石製品

3点出土し、全点写真掲載のみとした。

7号竪穴建物跡埋土下位から出土しているG015は、円形状に縁辺を加工してから、半円形になるよう打ち割ったものと考えられる。G016は、礫の丸味部分を活かし一部打ち割っている縁が連続する。

棒状石製品

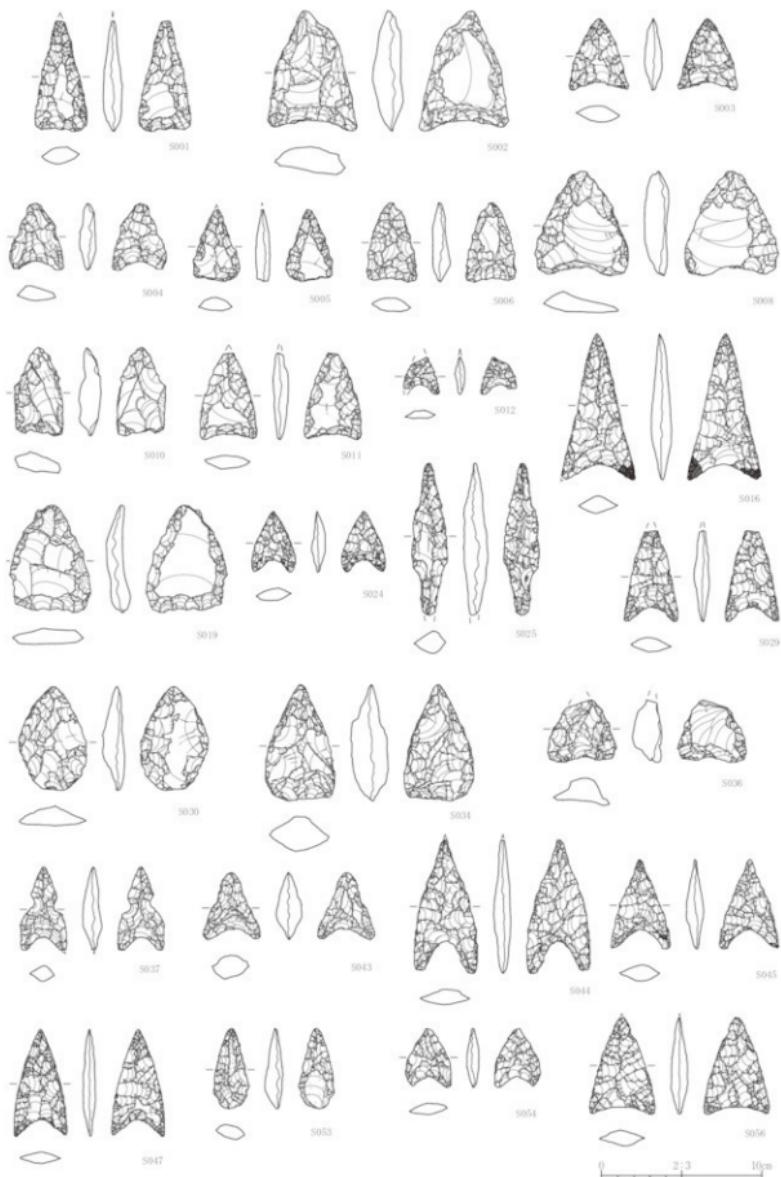
3点出土し、全点写真掲載のみとした。

G020は、3号竪穴建物跡から出土した頁岩の棒状の石製品で全面に削痕が認められる。26号竪穴建物跡埋土下位から出土したG018は、断面が台形で平滑面が確認でき、砥石の可能性もある資料である。

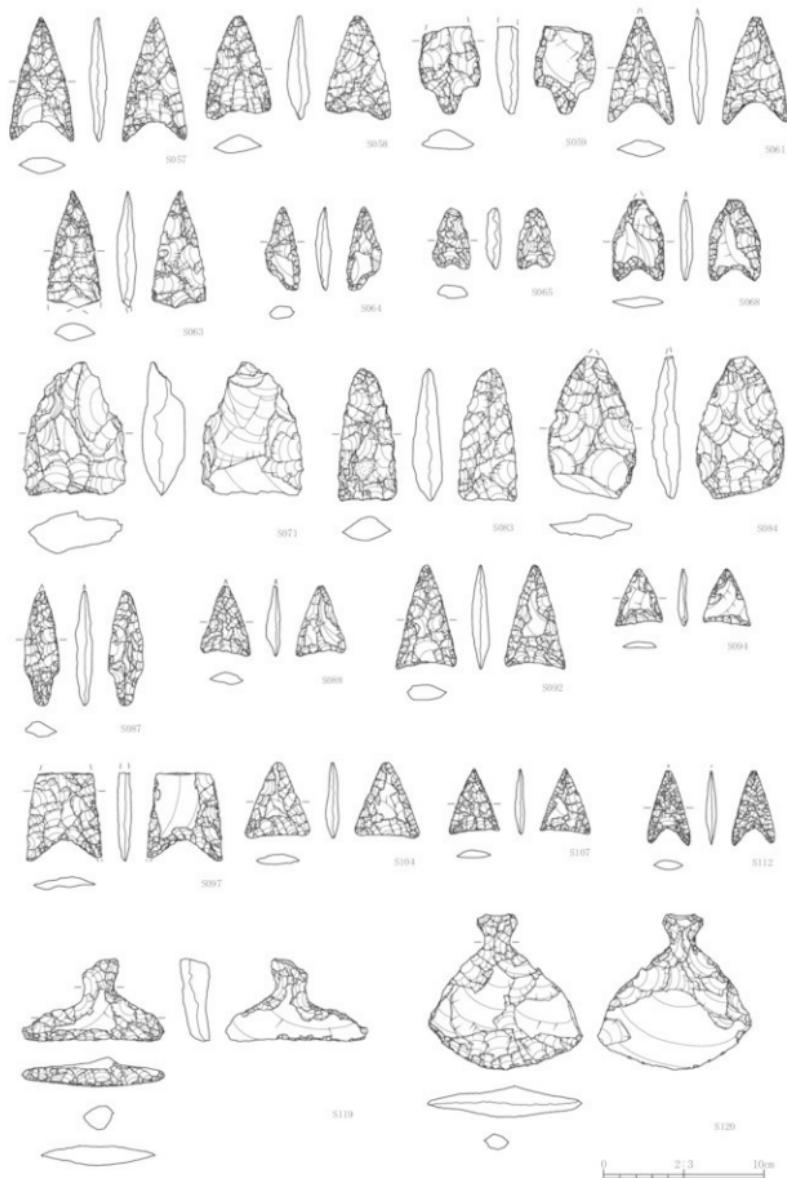
玦状耳飾り

2点出土し、全点図化と写真掲載をした。

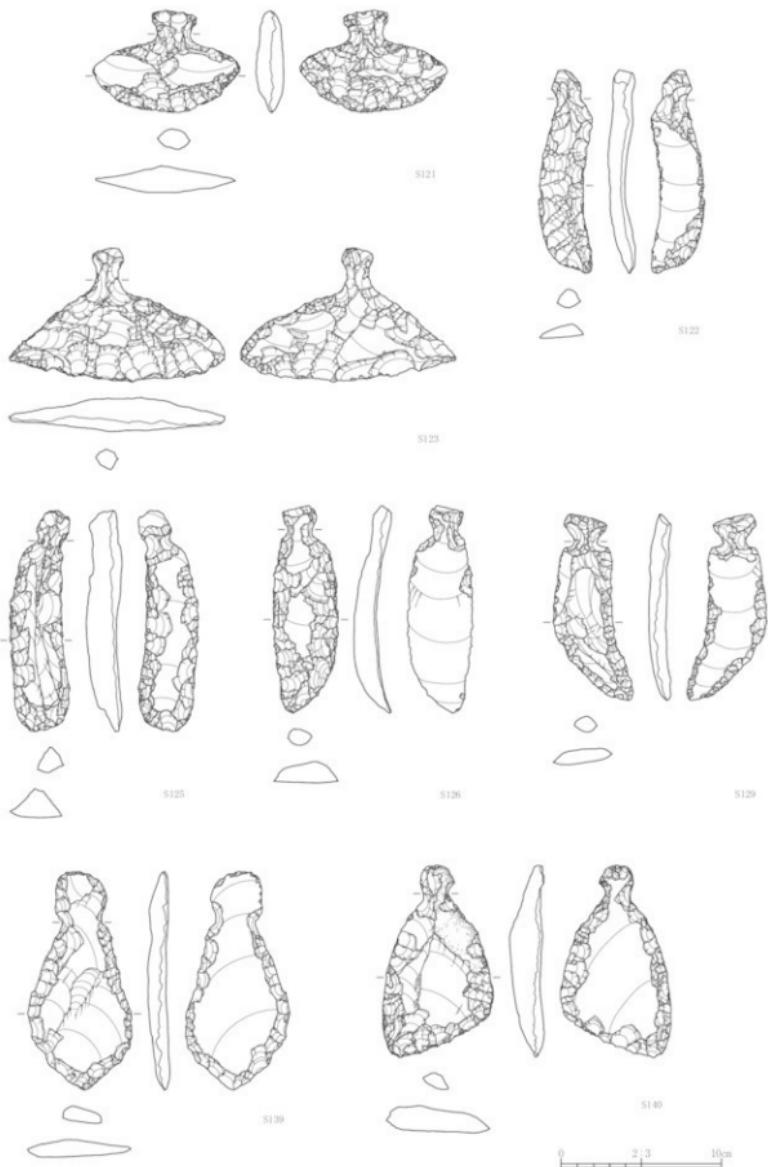
いずれも欠損している。G027は、沢跡から出土した蛇紋岩製の玦状耳飾りである。孔が1カ所認め



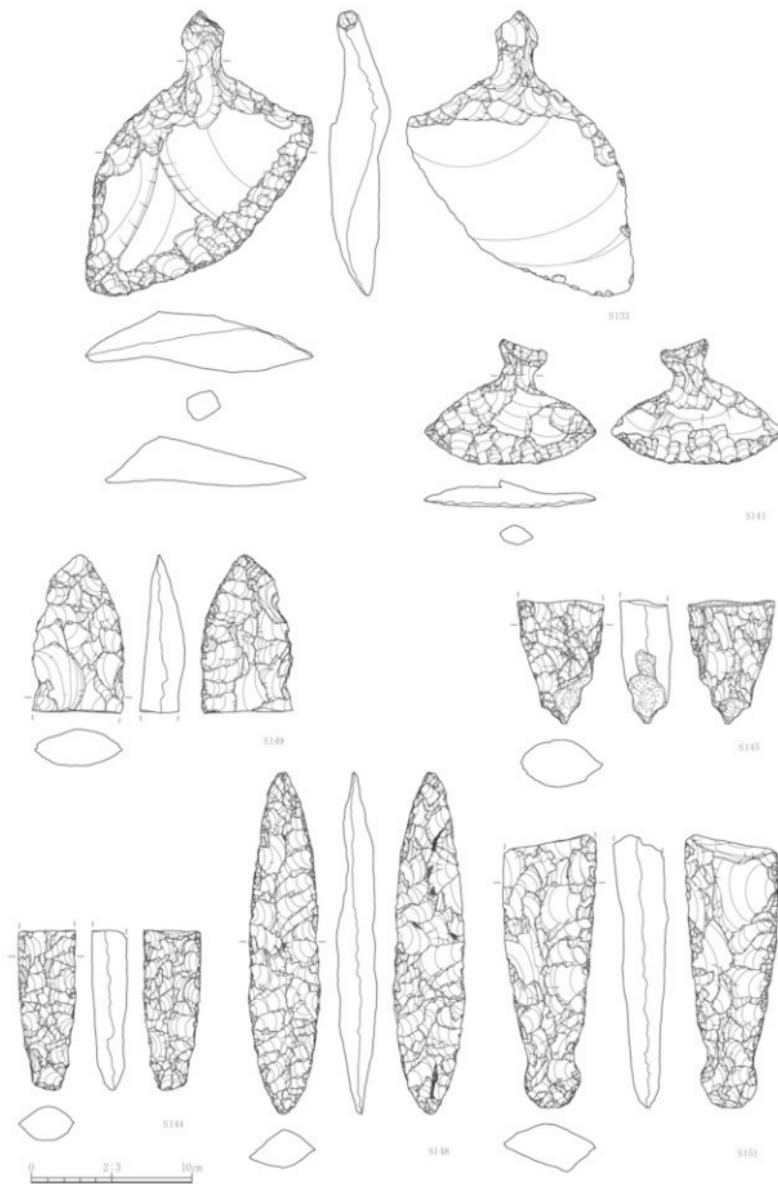
第122図 石器(1)



第123図 石器（2）



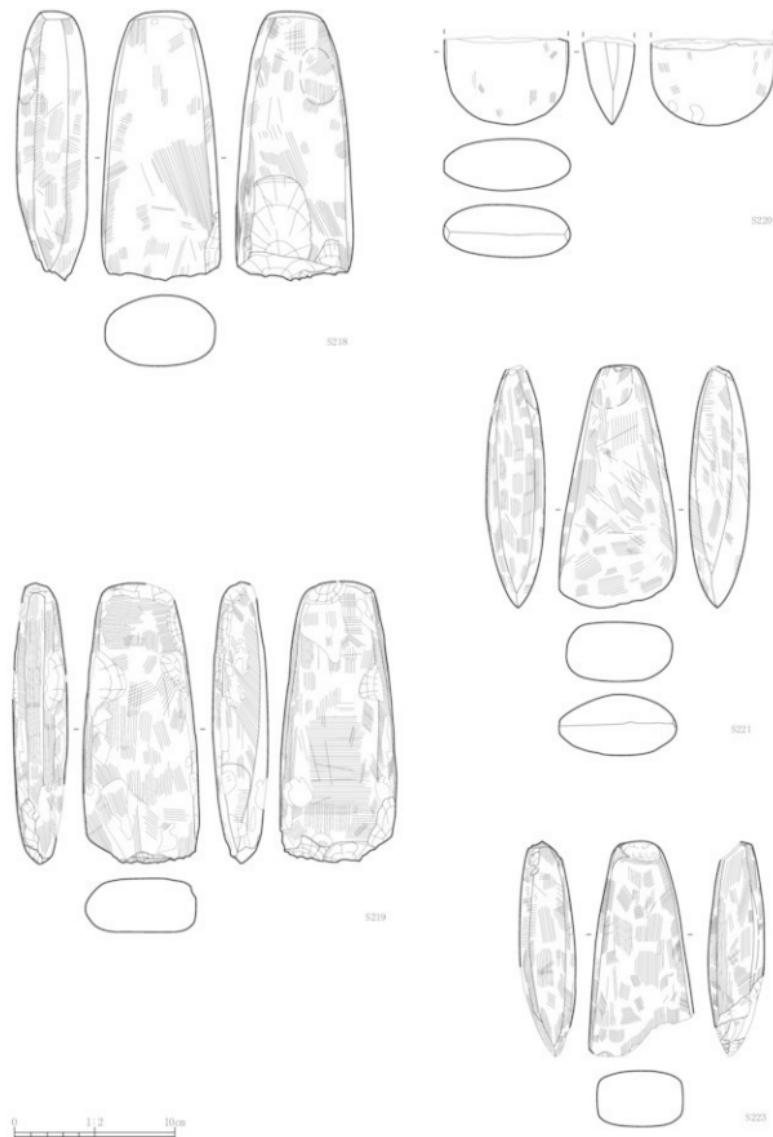
第124図 石器(3)



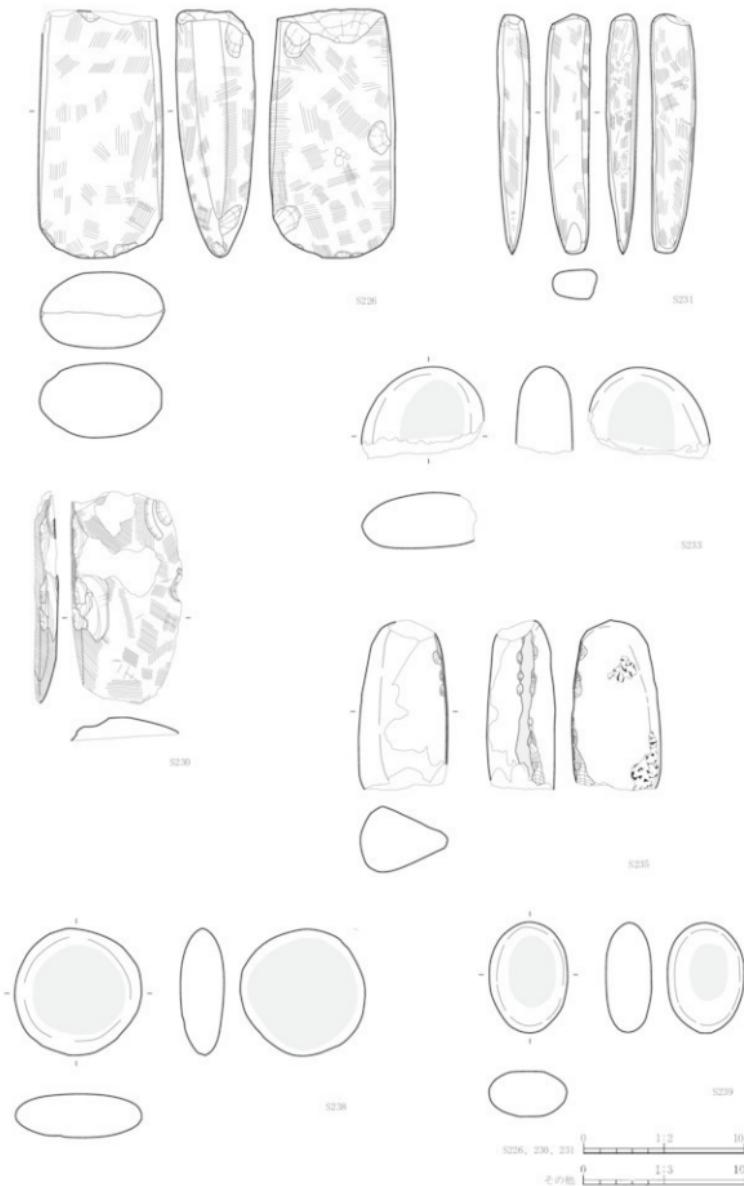
第125図 石器(4)



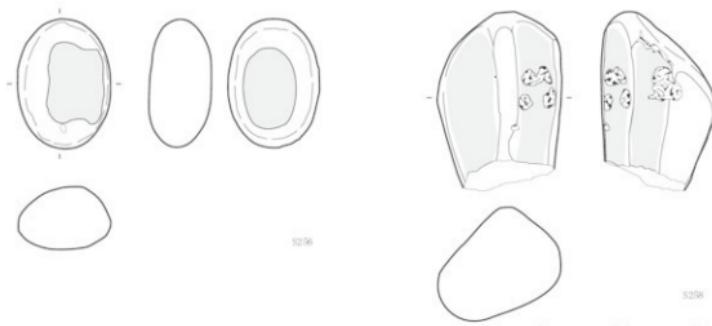
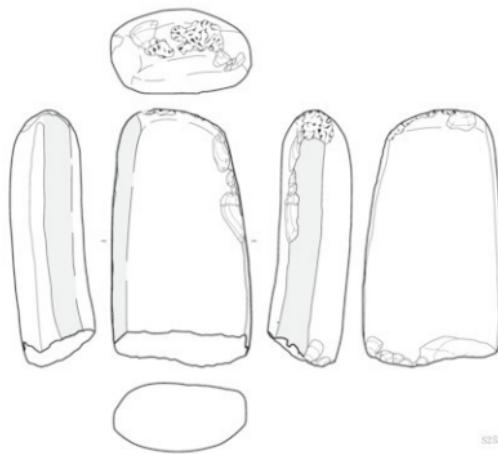
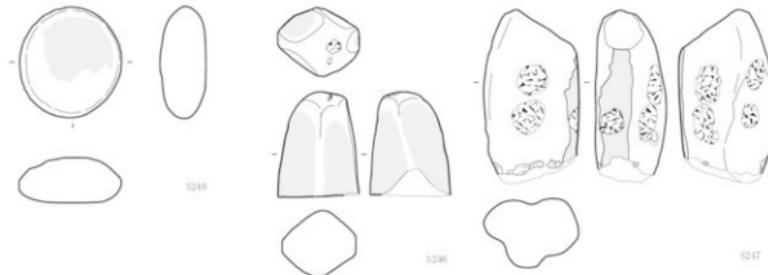
第126図 石器(5)



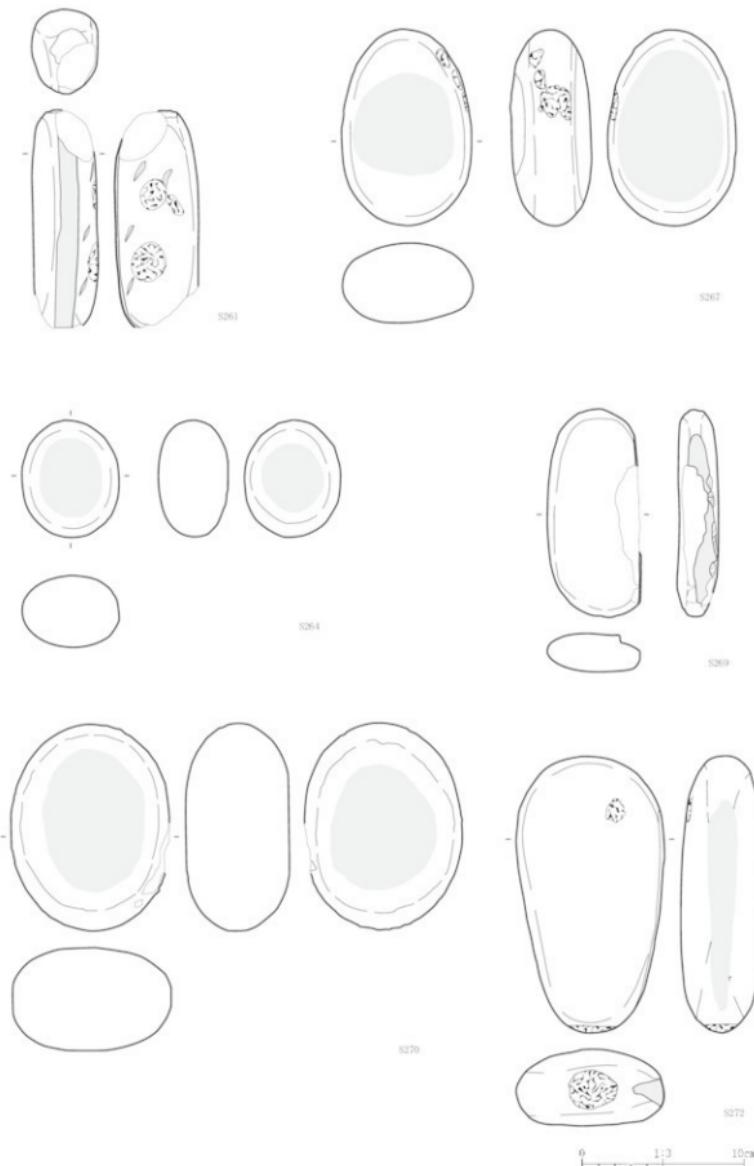
第127図 石器(6)



第128図 石器 (7)



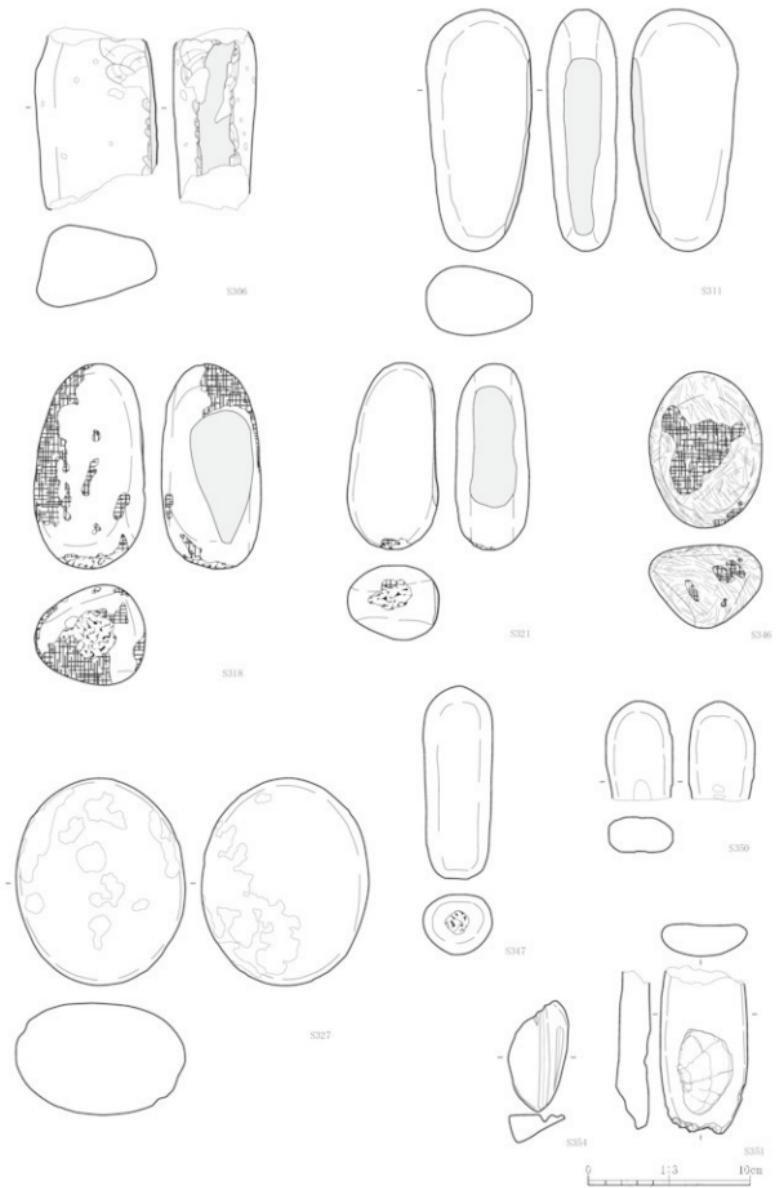
第129図 石器(8)



第130図 石器 (9)



第131図 石器 (10)



第132図 石器 (11)

られ、両面からの穿孔による貫通と考えられる。G030は頁岩製である。

その他石製品

3点出土し、全点図化と写真掲載をした。

G029は華奢な作りの輪と考えられるが、半部欠損しており全容が不明である。また、これに関しては鑑定の結果、石質が不明とのことで、石ではない可能性も考えられる。G029は、欠損部分が多いが頁岩の垂飾りと思われる。1個の孔は、両面から石錐のようなもので穿孔したと思われる痕跡が認められる。G031は、近隣での採取が不可能な軽石製の石製品である。中央上部に穿孔が認めら浮子と考えられる。軽石のため非常に軽く脆い。

(5) 鉄 製 品(第133図、写真図版101)

G032～G034、G038は鉄鎌で、G032は、茎部が欠けているがほぼ完形のものである。鎌身部が正三角形に近い形状である。G033は、茎部が欠けているがほぼ完形のものである。鎌身部が正三角形に近い形状であるが、G032に比して小さい。G034は頭部と茎部からなる柄部のみである。G035は刀子の柄部。G037は鉄鐸である。斜めの合わせ目が確認できる。鉄板の両端を合わせる方法ではなく、丸めて閉じ合わせたものと考えられる。舌は無い。(詳細は後述のVII総括)

(6) 鉄 淚 類

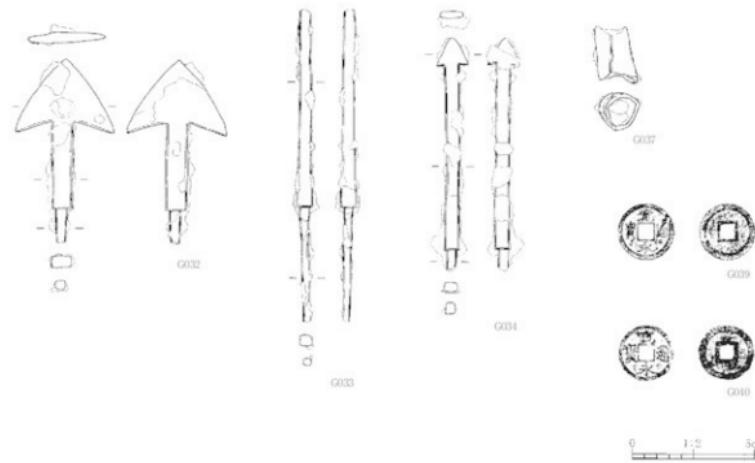
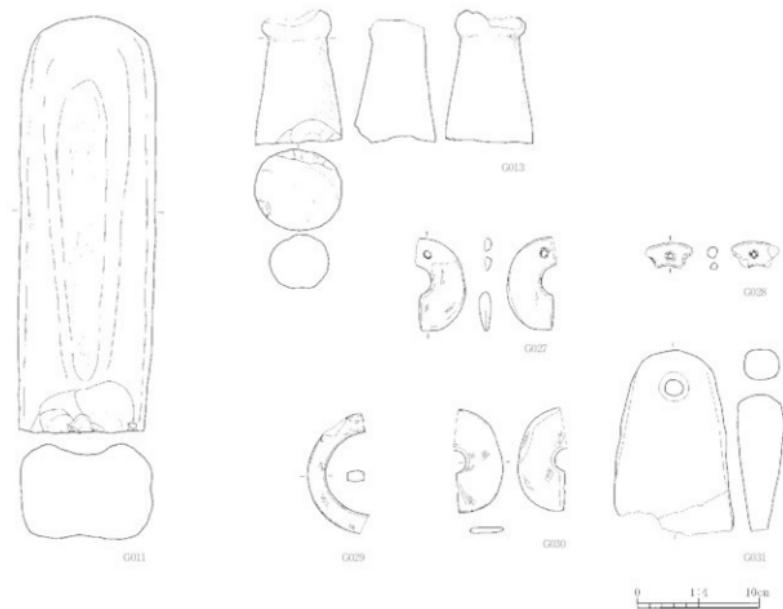
分類方法や分類基準等については、後述の「間木戸V遺跡 3 遺物 (8) 鉄滓類」で記されている手順にならった。調査区域内から総重量3598.4gの鉄滓が出土している。本調査では、製鉄に関する遺構が検出されておらず、ほとんどが遺構外からの出土である。遺構内からの出土資料は26号堅穴建物跡や30号堅穴建物跡などであり古代の堅穴からの出土である。総重量の約3分の1を占めたのは、磁着反応の弱い流動滓(A-2) 1184.0gであった。

(7) 銭 貨(第133図、写真図版101)

寛永通宝が遺構外から2点出土した。2点のうち、G040は「寶」の字の特徴から古寛永通宝である。2点とも裏面は無刻である。

(8) 動 物 遺 存 体

26号堅穴建物跡床面および、北東壁際から出土した壺の内部から貝類やウニの棘が出土した。なお、青森県教育委員会斎藤靖史氏に分析・鑑定を賜った。(VI-4)



第133図 石製品・鉄製品・錢貨

間木戸口遺跡土師器・須恵器観察表

第6表 間木戸II遺跡土製品観察表

| 発掘番号 | 名称 | 出土地点 | 層位 | 分類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 備考 | 測量面積 | 回 | 写真 |
|------|------|-------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------------|------|-----|-----|
| G001 | 2-01 | 26号型火薬鉢(木枠) | 井戸上部 | 出土 | 21 | 06 | 04 | 31 | 上部の剥げ付き。 | 1.2 | 121 | 101 |
| G002 | 2-02 | 2号型火薬鉢(木枠) | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 14 | 14 | 04 | 01 | 中央部に穿孔。 | 1.2 | 121 | 101 |
| G003 | 2-03 | 6号型火薬鉢 | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 26 | 15 | 05 | 38 | 上部欠損。貫通 | 1.2 | 121 | 101 |
| G004 | 2-04 | 7号型火薬鉢 | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 39 | 21 | 05 | 469 | 下部欠損。 | 1.2 | 121 | 101 |
| G005 | 2-05 | 11号型火薬鉢 | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 53 | 52 | 08 | 268 | L.R. 0.2 | 1.2 | 121 | 101 |
| G006 | 2-06 | 16号型火薬鉢 | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 47 | 47 | 19 | 369 | 芯、裏面にガラス面。剥離する。 | 1.2 | 121 | 101 |
| G007 | 2-07 | 26号型火薬鉢 | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 44 | 45 | 18 | 358 | 芯、裏面にガラス面。剥離する。 | 1.2 | 121 | 101 |
| G008 | 2-08 | 32号型火薬鉢 | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 46 | 44 | 19 | 367 | 芯、裏面にガラス面。 | 1.2 | 121 | 101 |
| G009 | 2-09 | 40号型火薬鉢 | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 53 | 53 | 11 | 561 | 芯、裏面にガラス面。 | 1.2 | 121 | 101 |
| G010 | 2-10 | 30号型火薬鉢 | 井戸上部 | 井戸壁付近 | 53 | 53 | 11 | 561 | 芯、裏面にガラス面。 | 1.2 | 121 | 101 |

第7表 間木戸II遺跡石器観察表

| 発掘番号 | 名前 | 出土地点 | 層位 | 分類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 備考 | 測量面積 | 回 | 写真 | | |
|------|-------|-----------|------|----|-------|-------|-------|-------|----|------|-------------|-----|-----|-----|
| S001 | 2-001 | 26号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 3.4 | 1.6 | 0.6 | 25 | 直筒 | 1.2 | 123 | 002 | |
| S002 | 2-002 | 26号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 3.7 | 2.7 | 0.9 | 82 | 直筒 | 2.3 | 123 | 002 | |
| S003 | 2-003 | 1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 2.2 | 1.8 | 0.5 | 15 | 往古器 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S004 | 2-004 | H. A. 35 | 井戸上部 | Ib | 先端 | 2.0 | 1.7 | 0.5 | 14 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S005 | 2-005 | H. A. 35S | 井戸上部 | Ib | 先端 | 2.2 | 1.4 | 0.4 | 12 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S006 | 2-006 | 3.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ib | 先端 | 2.4 | 1.5 | 0.5 | 18 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S007 | 2-007 | 3.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | (3.1) | 1.8 | 0.3 | 21 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S008 | 2-008 | 3.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 3.2 | 2.9 | 0.8 | 21 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S009 | 2-009 | 3.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 2.3 | 1.6 | 0.4 | 1 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S010 | 2-010 | 3.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 2.7 | 1.5 | 0.7 | 21 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S011 | 2-011 | 1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 2.6 | 1.7 | 0.7 | 2 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S012 | 2-012 | 1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 1.1 | 1.1 | 0.3 | 02 | 直筒 G | 今川氏家 No. 1 | 2.3 | 123 | 002 |
| S013 | 2-013 | 1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | (2) | 1.6 | 0.4 | 1 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S014 | 2-014 | 4.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | 5 | 先端 | 3.1 | 2.5 | 1.4 | 85 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S015 | 2-015 | 4.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | 5 | 先端 | 2.6 | 1.7 | 0.2 | 12 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S016 | 2-016 | 5.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 4.5 | 2.2 | 0.6 | 34 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S017 | 2-017 | 5.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | (1.5) | 1.6 | 0.2 | 05 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S018 | 2-018 | 5.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | 5 | 先端 | 3.9 | 1.7 | 0.5 | 48 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S019 | 2-019 | 6.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ib | 先端 | 3.3 | 2.5 | 0.7 | 49 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S020 | 2-020 | 6.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 3.4 | 2 | 0.7 | 76 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S021 | 2-021 | 6.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 2.5 | 1.6 | 0.6 | 17 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S022 | 2-022 | 7.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ib | 先端 | 2.3 | 1.5 | 0.3 | 12 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S023 | 2-023 | 7.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 3.9 | 1.3 | 0.5 | 17 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S024 | 2-024 | 7.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 4.7 | 1.1 | 0.7 | 26 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S025 | 2-025 | 7.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 1.7 | 0.2 | 0.3 | 04 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S026 | 2-026 | 7.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 1.6 | 1.3 | 0.2 | 04 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S027 | 2-027 | 7.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 2 | 2 | 0.7 | 26 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S028 | 2-028 | 7.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 2.5 | 1.6 | 0.6 | 17 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S029 | 2-029 | 7.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | Ia | 先端 | 2.2 | 1.6 | 0.5 | 36 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S030 | 2-030 | 8.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | 3b | 先端 | 3.2 | 21 | 0.7 | 15 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S031 | 2-031 | 8.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | 3b | 先端 | 1.5 | 1.2 | 0.1 | 02 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S032 | 2-032 | 8.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | 5 | 先端 | 3.7 | 22 | 0.7 | 61 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |
| S033 | 2-033 | 8.1号六瓣花瓶 | 井戸上部 | 1b | 先端 | (2.6) | 2.3 | 0.5 | 42 | 直筒 | 北上山地 60年代以前 | 2.3 | 123 | 002 |

| 指標番号 | 品種名 | 原产地 | 分類 | 外觀 | 高さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (g) | 石質 | 葉形 | 葉面 | 葉緑素 | 固 | 液 | |
|------|-------|-------------|----|----|---------|--------|---------|--------|-----|------------|------------|------------|------|------|------|
| S034 | 2-029 | 8. 里芋穴子物語正西 | 里芋 | 里芋 | 3.6 | 21 | 1.1 | 72 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S035 | 2-030 | 8. 里芋穴子物語正西 | 里芋 | 里芋 | 3.2 | 19 | 0.7 | 31 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S036 | 2-030 | 8. 里芋穴子物語正西 | 里芋 | 里芋 | 3.9 | 21 | 0.9 | 26 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S037 | 2-031 | 8. 里芋穴子物語正西 | 里芋 | 里芋 | 4 | 14 | 0.6 | 1.3 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S038 | 2-032 | 8. 里芋穴子物語正西 | 里芋 | 里芋 | 2.5 | 1.7 | 0.8 | 26 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S039 | 2-033 | 8. 里芋穴子物語正西 | 里芋 | 里芋 | 2.9 | 1.5 | 0.4 | 1.5 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S040 | 2-034 | 8. 里芋穴子物語東 | 里芋 | 里芋 | 3.1 | 1.7 | 0.4 | 1.9 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S041 | 2-035 | 8. 里芋穴子物語東 | 里芋 | 里芋 | 3.0 | 1.3 | 0.5 | 15 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S042 | 2-036 | 8. 里芋穴子物語東 | 里芋 | 里芋 | 3.4 | 2 | 1 | 44 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S043 | 2-037 | 9. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.9 | 1.7 | 0.8 | 16 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S044 | 2-038 | 10. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.1 | 4.1 | 1.9 | 0.5 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S045 | 2-039 | 10. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.2 | 2.7 | 1.8 | 0.5 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S046 | 2-040 | 10. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.2 | 0.9 | 0.5 | 1.1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S047 | 2-041 | 10. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.3 | 1.6 | 0.4 | 15 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S048 | 2-042 | 10. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 5 | 1.9 | 1.1 | 0.4 | 1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | |
| S049 | 2-043 | 10. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 5 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | |
| S050 | 2-042 | 10. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 5 | 2.7 | 0.3 | 24 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S051 | 2-043 | 11. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 30 | 3.8 | 4.4 | 22 | 1.1 | 11.4 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 |
| S052 | 2-044 | 11. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 30 | 2.6 | 0.8 | 26 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S053 | 2-044 | 11. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 30 | 2.4 | 1.1 | 0.5 | 1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | |
| S054 | 2-045 | 12. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 1.9 | 2 | 1.8 | 0.4 | 0.8 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | |
| S055 | 2-045 | 12. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 2 | 3.8 | 0.6 | 1.3 | 0.4 | 1.2 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 |
| S056 | 2-046 | 14. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 1 | 1.3 | 0.5 | 1.2 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S057 | 2-047 | 14. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.0 | 3.0 | 0.5 | 1.6 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S058 | 2-048 | 24. 里芋穴子物語西 | 里芋 | 里芋 | 3.6 | 3.8 | 1.9 | 0.5 | 2.5 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | |
| S059 | 2-049 | 24. 里芋穴子物語西 | 里芋 | 里芋 | 3.2 | 20 | 0.7 | 2.9 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S060 | 2-050 | 25. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 2 | 1.9 | 0.7 | 3.3 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S061 | 2-050 | 25. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 1.6 | 1.6 | 0.4 | 0.9 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S062 | 2-051 | 2. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 1 | 2.2 | 1.8 | 0.5 | 2.2 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | |
| S063 | 2-051 | 2. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 1 | 2.2 | 1.8 | 0.5 | 1.8 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | |
| S064 | 2-052 | 5. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.6 | 1.6 | 0.6 | 2.7 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S065 | 2-053 | 1. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.6 | 1.1 | 0.5 | 0.9 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S066 | 2-054 | 1. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 1.9 | 1.9 | 1.1 | 0.4 | 0.9 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | |
| S067 | 2-054 | 1. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.0 | 1.5 | 0.5 | 1.9 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S068 | 2-055 | 1. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.6 | 1.8 | 0.2 | 2.1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S069 | 2-056 | 1. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 2.5 | 1.6 | 0.4 | 2.1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S070 | 2-056 | 1. 里芋穴子物語 | 里芋 | 里芋 | 3.2 | 2.3 | 0.9 | 64 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S071 | 2-057 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 2.9 | 2.6 | 0.3 | 1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S072 | 2-057 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 3.4 | 31 | 1.3 | 14 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S073 | 2-057 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 3 | 22 | 1 | 6 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S074 | 2-057 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 3.6 | 3 | 0.6 | 9.5 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S075 | 2-062 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 2.5 | 1.6 | 0.4 | 2.1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S076 | 2-064 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 3.3 | 1.8 | 0.4 | 3.1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S077 | 2-065 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 3.4 | 2.3 | 0.8 | 9.1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S078 | 2-066 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 1.6 | 1.3 | 0.3 | 1.1 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S079 | 2-067 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 2.6 | 1.5 | 0.4 | 1.2 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S080 | 2-068 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 2.3 | 1.8 | 0.6 | 2.4 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S081 | 2-069 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 2.5 | 1.7 | 0.4 | 1.3 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |
| S082 | 2-070 | 2. 里芋セシウム | 里芋 | 里芋 | 2 | 1.8 | 0.4 | 1.4 | 自 | 北山山地 中生代以前 | 2.3 | 1.23 | 1.02 | | |

| 地番番号 | 位置 | 標高(m) | 傾斜 | 欠陥 | 全幅(cm) | 幅(cm) | 底(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 产地 | 備考 | 地質記述 | 固.等 |
|------|-----------------------|-------|------|----|--------|-------|-------|--------|-------|-----|----|---------------------|------|-----|
| S883 | II A15y | 3.60 | 3.60 | 無 | 1b | 空 | 4.1 | 1.8 | 0.9 | 5.7 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S984 | II A15x | 3.67 | 3.67 | 無 | 3b | 空 | 4.4 | 2.7 | 0.9 | 8.1 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S985 | II A16w | 3.73 | 3.73 | 無 | 1a | 空 | 2.3 | 1.6 | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S986 | II A16w | 3.74 | 3.74 | 無 | 1a | 空 | 2.4 | 1.6 | 0.4 | 1.8 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S987 | II A17w | 3.74 | 3.74 | 無 | 2 | 空 | 3.5 | 1.1 | 0.5 | 1.6 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S988 | II A17x | 3.75 | 3.75 | 無 | 1b | 空 | 2.1 | 1.5 | 0.4 | 1.1 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S989 | II A18w | 3.76 | 3.76 | 無 | 1b | 空 | 2.4 | 1.9 | 0.4 | 1.7 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 特異な形 | |
| S990 | II A18w | 3.76 | 3.76 | 無 | 1a | 片麻岩 | 3.2 | 2.1 | 0.5 | 2.6 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S991 | II A18w | 3.76 | 3.76 | 無 | 1a | 空 | 3.5 | 1.9 | 0.6 | 3.9 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S992 | II A18w | 3.76 | 3.76 | 無 | 1b | 空 | 3.2 | 1.8 | 0.5 | 2.2 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S993 | II A18w | 3.78 | 3.78 | 無 | 1a | 片麻岩 | 2.9 | 1.6 | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S994 | II A19w | 3.79 | 3.79 | 無 | 1b | 空 | 1.7 | 1.4 | 0.3 | 0.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S995 | II A19w | 3.80 | 3.80 | 無 | 1a | 空 | 2.0 | 1.6 | 0.6 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S996 | II A20w | 3.81 | 3.81 | 無 | 1a | 片麻岩 | 2.3 | 1.5 | 0.3 | 0.9 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S997 | II A20w | 3.82 | 3.82 | 無 | 1a | 空 | 2.3 | 2.3 | 0.4 | 2.4 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S998 | II A20w | 3.82 | 3.82 | 無 | 2 | 空 | 2.3 | 1.3 | 0.5 | 1.6 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S999 | II A20w | 3.82 | 3.82 | 無 | 1a | 空 | 3.1 | 0.3 | 0.9 | 1.6 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S999 | II A20w - 2b | 3.82 | 3.82 | 無 | 1a | 片麻岩 | 3.4 | 1.6 | 0.3 | 1.8 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S991 | II A21w | 3.82 | 3.82 | 無 | 3b | 空 | 3.5 | 2.5 | 0.5 | 5.4 | 白質 | 北山地塊、60年代以前、基部丸み、表面 | 2.3 | 124 |
| S992 | II A21w | 3.85 | 3.85 | 無 | 1a | 空 | 3.1 | 2.1 | 0.4 | 1.8 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S993 | II A21w | 3.86 | 3.86 | 無 | 1a | 空 | 2.1 | 1.9 | 0.3 | 0.9 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S994 | II A21w | 3.87 | 3.87 | 無 | 1b | 空 | 2.1 | 2.0 | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S995 | II A21w | 3.87 | 3.87 | 無 | 1b | 空 | 1.9 | 1.6 | 0.3 | 0.6 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S996 | II A22w | 3.87 | 3.87 | 無 | 3b | 空 | 2.8 | 1.6 | 0.6 | 2 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S997 | II A22w | 3.87 | 3.87 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.5 | 0.3 | 1.4 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S998 | II A23w (両面打削) | 3.88 | 3.88 | 無 | 1a | 空 | 1.7 | 1.4 | 0.3 | 1.4 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S999 | II A23w | 3.88 | 3.88 | 無 | 1b | 空 | 2.4 | 1.8 | 0.3 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S999 | II A23w | 3.89 | 3.89 | 無 | 1b | 空 | 2.3 | 1.7 | 0.6 | 2.3 | 白質 | 石器類、黑色骨物 | 2.3 | 124 |
| S100 | II A24w | 3.89 | 3.89 | 無 | 3b | 空 | 1.7 | 1.4 | 0.4 | 1.9 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S101 | II A24w | 3.90 | 3.90 | 無 | 1a | 空 | 2.1 | 1.9 | 0.3 | 0.9 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S102 | II A24w | 3.90 | 3.90 | 無 | 1a | 空 | 2.1 | 1.9 | 0.3 | 0.9 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S103 | II A24w | 3.90 | 3.90 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 0.9 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S104 | II A24w | 3.90 | 3.90 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 0.9 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S105 | II A24w | 3.90 | 3.90 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 0.9 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S106 | II A24w | 3.90 | 3.90 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 0.9 | 白質 | 北山地塊、60年代以前 | 2.3 | 124 |
| S107 | II A24w | 3.90 | 3.90 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.5 | 0.3 | 1.4 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S108 | II A25w | 3.92 | 3.92 | 無 | 1a | 空 | 1.7 | 1.4 | 0.3 | 1.4 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S109 | II A26w | 3.98 | 3.98 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 1.8 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S110 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 1.8 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S111 | II A26w - 25a (西トランク) | 3.99 | 3.99 | 無 | 1b | 空 | 2.0 | 1.6 | 0.3 | 1.9 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S112 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | 1a | 空 | 2.2 | 1.3 | 0.3 | 0.6 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S113 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | 1a | 空 | 2.3 | 1.7 | 0.6 | 2.7 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S114 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | 1a | 空 | 3.2 | 2.8 | 0.5 | 2 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S115 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | 1b | 空 | 3.0 | 1.8 | 0.3 | 2 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S116 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | 1b | 空 | 1.6 | 0.3 | 1.9 | 1.1 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S117 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | 1a | 空 | 3.1 | 2 | 0.4 | 1.9 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S118 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | 1a | 空 | 3.1 | 1.8 | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S119 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S120 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S121 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S122 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S123 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S124 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S125 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S126 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |
| S127 | II A26w | 3.99 | 3.99 | 無 | — | 空 | (2.1) | (1.8) | 0.4 | 1.5 | 白質 | | 2.3 | 124 |

2 開木日石鉱脈表

| 地番番号 | 位置 | 標高(m) | 傾斜 | 欠陥 | 全幅(cm) | 幅(cm) | 底(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 产地 | 備考 | 地質記述 | 固.等 |
|-------|---------|-------|------|----|--------|-------|-------|--------|-------|----|----|-----|------|-----|
| SS119 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 2.5 | 4.4 | 0.9 | 54 | 白質 | | 2.3 | 123 | |
| S120 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 4.8 | 4.7 | 0.9 | 137 | 白質 | | 2.3 | 123 | |
| S121 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 4.3 | 4.0 | 0.9 | 84 | 白質 | | 2.3 | 123 | |
| S122 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 6.2 | 1.6 | 0.8 | 6 | 白質 | | 2.3 | 123 | |
| S123 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 4.1 | 6.6 | 1.0 | 166 | 白質 | | 2.3 | 123 | |
| S124 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 0.8 | 0.8 | 2 | 16 | 白質 | | 2.3 | 123 | |
| S125 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 6.8 | 1.9 | 1.1 | 107 | 白質 | | 2.3 | 123 | |
| S126 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 6.0 | 2.0 | 1.1 | 104 | 白質 | | 2.3 | 123 | |
| S127 | II A26w | 3.90 | 3.90 | 無 | 3.60 | 3.1 | 3.4 | 0.6 | 54 | 白質 | | 2.3 | 123 | |

| 流域区分 | 流域名 | 出土地点 | 地盤 | 水理 | 全幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 |
|------|-------|---------------|------------|----|---------|-----|-----|-----|------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| S128 | 5.640 | II A36a | 美土~高木十林橋西面 | 完 | 河底凹面 | 5.6 | 2.4 | 0.5 | 6.4 | 河底 | | | | | | | | |
| S129 | 5.641 | II A32e | 高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 5.7 | 2.4 | 0.7 | 6 | 河底 | | | | | | | | |
| S130 | 5.642 | II A36c | 高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 2.5 | 2.2 | 0.4 | 2.2 | 河底 | | | | | | | | |
| S132 | 5.644 | II A36c | 高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 2.5 | 4.1 | 0.6 | 5.7 | 河底 | | | | | | | | |
| S133 | 5.645 | II A32e | 高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 8.7 | 7.0 | 1.6 | 9.8 | 河底 | | | | | | | | |
| S134 | 5.646 | II A32e | 高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 5.3 | 3.5 | 0.9 | 10.2 | 河底 | | | | | | | | |
| S135 | 5.647 | II A36c ~ 24e | 高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 3.2 | 2.4 | 0.8 | 6.3 | 河底 | | | | | | | | |
| S136 | 5.648 | II A34a | 高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 4.0 | 2.5 | 0.7 | 8.1 | 河底 | | | | | | | | |
| S137 | 5.649 | II B14a | 高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 0.8 | 2.0 | 0.9 | 4.9 | 河底 | | | | | | | | |
| S128 | 5.650 | 周辺地区 | 美土~高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 6.7 | 2.3 | 0.7 | 8.7 | 河底 | | | | | | | | |
| S129 | 5.651 | 周辺地区 | 美土~高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 6.7 | 3.2 | 0.7 | 11.7 | 河底 | | | | | | | | |
| S140 | 5.652 | 周辺地区 | 美土~高木十林橋北面 | 完 | 河底~河底凹面 | 5.6 | 3.4 | 1.1 | 10.5 | 河底 | | | | | | | | |
| S141 | 5.653 | 8.129 | 久留野排水渠北側 | 完 | 河底~河底凹面 | 3.8 | 5.3 | 0.8 | 6.6 | 河底 | | | | | | | | |
| S142 | 5.655 | II A36c | 周辺地区 | 完 | 河底~河底凹面 | 5 | 3.2 | 0.4 | 6.6 | 河底 | | | | | | | | |
| S143 | 5.656 | II A36c | 周辺地区 | 完 | 河底~河底凹面 | 4.3 | 3.8 | 0.3 | 5.3 | 河底~河底 | | | | | | | | |

3 開木戸川判器調査表

| 流域区分 | 流域名 | 出土地点 | 地盤 | 水理 | 全幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 |
|------|-------|---------|---------|------|----|------|-----|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| S144 | 5.651 | II A36c | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 先端 | 4.9 | 1.8 | 1.1 | 10.8 | 河底 | | | | | | | | |
| S145 | 5.652 | II A36c | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 先端 | 3.9 | 2.7 | 1.6 | 15.9 | 河底 | | | | | | | | |
| S146 | 5.653 | II A32e | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 先端 | 4.2 | 2.9 | 1.3 | 13.4 | 河底 | | | | | | | | |
| S147 | 5.654 | II A32e | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 先端 | 3.3 | 2.8 | 0.9 | 7.9 | 河底 | | | | | | | | |
| S148 | 5.655 | II A36c | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 先端 | 10.5 | 2.2 | 2.7 | 25.7 | 河底 | | | | | | | | |
| S149 | 5.656 | II A36c | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 先端 | 4.9 | 2.8 | 1.4 | 16.5 | 河底 | | | | | | | | |
| S150 | 5.657 | II A36c | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 先端 | 8.0 | 3.1 | 1.4 | 41.4 | 河底 | | | | | | | | |
| S151 | 5.658 | II A36c | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 先端 | 8.4 | 2.9 | 1.7 | 35.7 | 河底 | | | | | | | | |

4 開木戸川スクレイバー調査表

| 流域区分 | 流域名 | 出土地点 | 地盤 | 全幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 | 河幅 |
|------|-------|---------|------------|------|----|-------|-----|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| S152 | 5.652 | II A36c | 高木十林橋北面 | 河底凹面 | 1 | 0.6 | 0.6 | 1.2 | 22.6 | 河底 | | | | | | | | |
| S153 | 5.653 | II A32e | 4.1号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 3.4 | 2.3 | 1.5 | 31.6 | 河底 | | | | | | | | |
| S154 | 5.654 | II A32e | 4.1号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 3.4 | 2.3 | 1.5 | 31.8 | 河底 | | | | | | | | |
| S155 | 5.655 | II A32e | 3.8号穴排水管北側 | 河底上位 | 1 | 3.7 | 3.2 | 2.2 | 68.5 | 河底 | | | | | | | | |
| S156 | 5.656 | II A32e | 3.8号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 8.4 | 3.9 | 0.7 | 28.1 | 河底 | | | | | | | | |
| S157 | 5.657 | II A32e | 7.9号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 5.4 | 3.6 | 1 | 19.1 | 河底 | | | | | | | | |
| S158 | 5.658 | II A32e | 7.9号穴排水管北側 | 河底上位 | 1 | 5.0 | 2.3 | 0.9 | 7 | 河底 | | | | | | | | |
| S159 | 5.659 | II A32e | 10号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 3 | 0.3 | 0.3 | 2.2 | 河底 | | | | | | | | |
| S160 | 5.660 | II A32e | 24号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 3.6 | 2.2 | 1.4 | 6.1 | 河底 | | | | | | | | |
| S161 | 5.661 | II A32e | 3.0号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 4.1 | 1.9 | 0.6 | 5.8 | 河底 | | | | | | | | |
| S162 | 5.662 | II A32e | 3.0号穴排水管北側 | 河底上位 | 1 | 3.9 | 2.3 | 0.9 | 17.6 | 河底 | | | | | | | | |
| S163 | 5.663 | II A32e | 3.0号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 5.5 | 3.2 | 1.5 | 26.7 | 河底 | | | | | | | | |
| S164 | 5.664 | II A32e | 3.0号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 5.1 | 4.5 | 0.8 | 16.6 | 河底 | | | | | | | | |
| S165 | 5.665 | II A32e | 3.0号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 3.2 | 3.3 | 1.1 | 11.7 | 河底 | | | | | | | | |
| S166 | 5.666 | II A32e | 3.0号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 4.4 | 3.3 | 0.7 | 8.9 | 河底 | | | | | | | | |
| S167 | 5.667 | II A32e | 3.0号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | 4.5 | 4.8 | 0.9 | 20.4 | 河底 | | | | | | | | |
| S168 | 5.668 | II A32e | 4.1号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | (3.9) | 2.9 | 0.7 | 10.2 | 河底 | | | | | | | | |
| S169 | 5.669 | II A32e | 4.1号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | (2.1) | 2.1 | 0.5 | 3.2 | 河底 | | | | | | | | |
| S170 | 5.670 | II A32e | 3.0号穴排水管北側 | 河底上位 | 2 | (3.5) | 2.6 | 0.6 | 6.4 | 河底 | | | | | | | | |

5 間木戸Ⅰ石器調査表

| 採取番号 | 位置 | 出土地点 | 層位 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 備考 | 採取場所 | 写 |
|------|--------|------------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|------|-----|
| S171 | △ 0.01 | 10号六連物語 | 層上・中位 | 4.5 | 1.7 | 1.3 | 75 | 白質 | | 2.3 | 136 |
| S172 | △ 0.02 | △ A10a | 層上・中位 | 2.5 | 1.6 | 0.9 | 21 | 白質 | つぶす | 2.3 | 136 |
| S173 | △ 0.03 | 10号六連物語 | 層上・中位 | 2.4 | 1.3 | 0.3 | 1.2 | 白質 | 磨り跡有 | 2.3 | 104 |
| S174 | △ 0.04 | △ A20y... | 層上・中位 | 3.1 | 1.3 | 0.5 | 1.9 | 白質 | 磨り跡有 | 2.3 | 104 |
| S175 | △ 0.05 | △ A25a-221 | 層上・中位 | 3.8 | 1.4 | 0.4 | 2.3 | 白質 | | 2.3 | 104 |

6 間木戸Ⅰ石器調査表

| 採取番号 | 位置 | 出土地点 | 層位 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 備考 | 採取場所 | 写 |
|------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|------|------|-----|
| S176 | △ 0.01 | 2号六連物語 | 層上・中位 | 4.9 | 4.9 | 1.8 | 32.9 | ホーリッシュ | | 2.3 | 126 |
| S177 | △ 0.02 | 3号六連物語 | 層上・中位 | 8.3 | 3.1 | 1.6 | 32.7 | 白質 | | 2.3 | 126 |
| S178 | △ 0.03 | 6号六連物語 | 層上・中位 | 5.2 | 3.1 | 1.6 | 21.1 | 白質 | | 2.3 | 126 |
| S179 | △ 0.04 | △ A19a | 層上・中位 | 6.2 | 3.6 | 1 | 26.6 | 白質 | 前面丸心 | 2.3 | 104 |
| S180 | △ 0.05 | 8号六連物語 | 層上・中位 | 0.3 | 2 | 1.3 | 16 | 白質 | 前面丸心 | 2.3 | 104 |
| S181 | △ 0.06 | 8号六連物語 | 層上・中位 | 6.4 | 4.5 | 1.4 | 41.6 | 白質 | 前面丸心 | 2.3 | 104 |
| S182 | △ 0.07 | △ A21e | 層上・中位 | 4.8 | 2.5 | 0.9 | 13.8 | 白質 | 前面丸心 | 2.3 | 104 |

7 間木戸Ⅱ形石器調査表

| 採取番号 | 位置 | 出土地点 | 層位 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 備考 | 採取場所 | 写 |
|------|--------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|------|-----|
| S263 | △ 0.01 | 10号六連物語 | 層上・中位 | 2.1 | 2.6 | 0.8 | 71 | 白質 | 無色白物 | 2.3 | 104 |

8 間木戸Ⅱ不定形石器調査表

| 採取番号 | 位置 | 出土地点 | 層位 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 備考 | 採取場所 | 写 |
|------|--------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|----|----|------|-----|
| S284 | △ 0.01 | 3号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S285 | △ 0.02 | 4号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S286 | △ 0.03 | 8号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S287 | △ 0.04 | 12号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S288 | △ 0.05 | 12号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S289 | △ 0.06 | 12号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S290 | △ 0.07 | △ A21e | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S291 | △ 0.08 | 8号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S292 | △ 0.09 | 3号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S293 | △ 0.10 | 4号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S294 | △ 0.11 | 4号六連物語 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S295 | △ 0.12 | 半尖形石器 | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S296 | △ 0.13 | △ A19b | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S297 | △ 0.14 | △ A21e | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S298 | △ 0.15 | △ A19b | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S299 | △ 0.16 | △ A20y... | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S300 | △ 0.17 | △ A16w | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S301 | △ 0.18 | △ A16y | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S302 | △ 0.19 | △ A16z | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S303 | △ 0.20 | △ A19b | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S304 | △ 0.21 | △ A19b | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S305 | △ 0.22 | △ A19b | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S306 | △ 0.23 | △ A20y... | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |
| S307 | △ 0.24 | △ A25a | 層上・中位 | 1.7 | 0.7 | 0.4 | 4.4 | 白質 | | 2.3 | 104 |

9 開木戸Ⅰ石核觀察表

| 規範番号 | 位置番号 | 地質上位 | 層位 | 長 (cm) | 幅 (cm) | 厚 (cm) | 重量 (kg) | 石質 | 产地 | 鉱脈風化 | 國 |
|------|-------|---------|---------|--------|--------|--------|---------|----|------|-------|-----|
| S208 | R.001 | 2号裂隙帶 | 層土+位 | 66 | 7 | 15 | 75.8 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |
| S210 | R.002 | 中央砂ショコ | 泥炭層 | 34 | 46 | 16 | 23 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |
| S211 | R.003 | II A17x | 灰土-黑色土層 | 23 | 39 | 28 | 27.9 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |
| S212 | R.004 | II A18x | 灰土-黑色土層 | 64 | 55 | 21 | 87.9 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |
| S213 | R.005 | II B11x | 黑鐵子? | 62 | 53 | 25 | 195.4 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |
| S214 | R.006 | II A15x | 瓦礫以 | 64 | 55 | 22 | 226.5 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |
| S215 | R.007 | II A21x | 瓦礫-黑鐵子? | 39 | 27 | 3 | 41.1 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |
| S216 | R.008 | II A25x | 瓦礫-黑鐵子? | 42 | 56 | 27 | 90.9 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |
| S217 | R.009 | II A19x | 瓦礫? | 52 | 81 | 48 | 366.2 | 頁岩 | 北上山地 | 中+外風化 | 2.3 |

10 開木戸Ⅱ石冷觀察表

| 規範番号 | 位置番号 | 地質上位 | 層位 | 分類 | 種 | 名 | 長 (cm) | 幅 (cm) | 厚 (cm) | 重量 (kg) | 石質 | 产地 | 鉱脈風化 | 國 | |
|------|------|----------|----------------|------|---|------|--------|--------|--------|---------|----------|------|--------|--------|-----|
| S228 | A001 | 6.8x | 1号裂隙帶 | 層土+粘 | 1 | 1.1x | 10.4 | 14 | 3 | 17.9 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S229 | A002 | 6.8x | 2号裂隙帶 (G2N6.1) | 泥炭 | 1 | 1.1x | 11 | 48 | 29 | 259 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S230 | A003 | 6.8x | 3号裂隙帶 (G2N6.2) | 泥炭 | 1 | 1.1x | 11.5 | 43 | 22 | 295 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S231 | A004 | 6.8x | 17号裂隙帶物 | 層土+粘 | 1 | 1.1x | (3.6) | 51 | 21 | 54.1 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S231 | A006 | 6.8x | II A16x | 瓦 | 1 | 1.1x | 9.9 | 48 | 24 | 179.8 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S232 | A006 | 6.8x | II A21x | 瓦 | 1 | 1.1x | (7.8) | 51 | 25 | 162.7 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S233 | A007 | 6.8x | II A25x (混合X瓦) | 瓦 | 1 | 1.1x | 8.8 | 42 | 23 | 125 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S234 | A008 | 6.8x | II A30x | 瓦 | 1 | 1.1x | 8.5 | 44 | 24 | 133 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S235 | A009 | 6.8x | 71 | 黑色土 | 1 | 1.1x | (10.0) | 116 | 140 | 130 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S236 | A010 | 6.8x | II A19x (混合物) | 瓦 | 1 | 1.1x | 7.3 | 51 | 31 | 285.9 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S237 | A011 | 6.8x | 2号裂隙帶物 | 層土+瓦 | 1 | 1.1x | 7.3 | 21 | 21 | 85.5 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S238 | A012 | 6.8x | 10号裂隙帶物 | 瓦 | 1 | 1.1x | 5.2 | 36 | 11 | 21.7 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S239 | A013 | 6.8x | II A18x | 瓦 | 1 | 1.1x | 8.1 | 72 | 24 | 198.2 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S240 | A014 | 6.8x | II A25x (II) | 瓦 | 1 | 1.1x | 8.7 | 46 | 99 | 46 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S241 | A015 | 6.8x | II A15x | 瓦 | 1 | 1.1x | 9.8 | 19 | 14 | 411 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.2 | |
| S232 | B001 | 3.25号裂隙帶 | 層土+黑 | 層土+瓦 | 1 | 1.1x | 1b | 81 | 76 | 2.6 | 35.9 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S233 | B002 | 3.26号裂隙帶 | 角 | 層土+黑 | 1 | 1.1x | 1b | 91 | 92 | 3.7 | 251.6 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S234 | B003 | 3.26号裂隙帶 | 之角 | 層土+黑 | 1 | 1.1x | 1b | 91 | 92 | 3.7 | 272.5 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S235 | B004 | 3.27号裂隙帶 | 之角 | 層土+黑 | 3 | 1.1x | 2c | 76.0 | 56 | 4.3 | 309.1 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S236 | B005 | 3.27号裂隙帶 | 角 | 層土+黑 | 2 | 1.1x | 2c | 76.0 | 57 | 6.3 | 345.7 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S237 | B006 | 3.27号裂隙帶 | 瓦 | 層土+黑 | 2 | 1.1x | 1be | 81 | 6 | 47 | 364.6 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S238 | B007 | 3.27号裂隙帶 | 瓦 | 層土+黑 | 2 | 1.1x | 1be | 118 | 6 | 42 | 363.5 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S239 | B008 | 3.25号裂隙帶 | 瓦 | 層土+黑 | 1 | 1.1x | 1bd | 69 | 48 | 2.8 | 135.2 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S240 | B009 | 3.27号裂隙帶 | 瓦 | 層土+黑 | 1 | 1.1x | 1a | 69 | 63 | 2.8 | 175.2 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S241 | B010 | 3.27号裂隙帶 | 角 | 層土+黑 | 1 | 1.1x | 1b | 162 | 135 | 8.9 | 269.11.3 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S242 | B011 | 3.27号裂隙帶 | 之角 | 層土+黑 | 2 | 1.1x | 1b | 151 | 82 | 6.1 | 131.41 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S243 | B012 | 3.27号裂隙帶 | 黑 | 層土+黑 | 2 | 1.1x | 2c | 184.1 | 43 | 6.8 | 350.2 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S244 | B013 | 3.27号裂隙帶 | 黑 | 層土+黑 | 3 | 1.1x | 2c | 155 | 22 | 4.1 | 85 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |

11 開木戸Ⅱ最強器觀察表

| 規範番号 | 位置番号 | 地質上位 | 層位 | 形狀 | 數 | 分類 | 長 (cm) | 幅 (cm) | 厚 (cm) | 重量 (kg) | 石質 | 产地 | 鉱脈風化 | 國 | |
|------|------|----------|------|----|---|------|--------|--------|--------|---------|----------|----|------|--------|-----|
| S232 | B001 | 3.25号裂隙帶 | 層土+黑 | 圓 | 1 | 1.1x | 1b | 81 | 76 | 2.6 | 35.9 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S233 | B002 | 3.26号裂隙帶 | 之角 | 圓 | 1 | 1.1x | 1b | 91 | 92 | 3.7 | 251.6 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S234 | B003 | 3.26号裂隙帶 | 之角 | 圓 | 1 | 1.1x | 1b | 91 | 92 | 3.7 | 272.5 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S235 | B004 | 3.27号裂隙帶 | 角 | 圓 | 3 | 1.1x | 2c | 76.0 | 56 | 4.3 | 309.1 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S236 | B005 | 3.27号裂隙帶 | 瓦 | 圓 | 2 | 1.1x | 2c | 76.0 | 57 | 6.3 | 345.7 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S237 | B006 | 3.27号裂隙帶 | 瓦 | 圓 | 2 | 1.1x | 1be | 81 | 6 | 47 | 364.6 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S238 | B007 | 3.25号裂隙帶 | 瓦 | 圓 | 1 | 1.1x | 1bd | 69 | 48 | 2.8 | 135.2 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S239 | B009 | 3.27号裂隙帶 | 瓦 | 圓 | 1 | 1.1x | 1a | 69 | 63 | 2.8 | 175.2 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S240 | B010 | 3.27号裂隙帶 | 之角 | 圓 | 1 | 1.1x | 1b | 162 | 135 | 8.9 | 269.11.3 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S241 | B011 | 3.27号裂隙帶 | 之角 | 圓 | 2 | 1.1x | 1b | 151 | 82 | 6.1 | 131.41 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S242 | B012 | 3.27号裂隙帶 | 黑 | 圓 | 2 | 1.1x | 2c | 184.1 | 43 | 6.8 | 350.2 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |
| S243 | B013 | 3.27号裂隙帶 | 黑 | 圓 | 3 | 1.1x | 2c | 155 | 22 | 4.1 | 85 | 砂岩 | 北上山地 | 中+外白堊紀 | 1.3 |

| 遺物番号 | 出土場所 | 層位 | 柱 | 縦 | 横 | 標号 | 分類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 位置 | 備考 | | |
|------|----------------|-----|---|---|---|----|------|-------|-------|--------|-------|--------|------------|-------|-----|
| S206 | B01.3.扇骨穴遺跡地-北 | 3.9 | 3 | 3 | 3 | 3 | 多面 | 3bd | 65.5 | 51 | 4.1 | 190.3 | 赤土(?)焼付灰陶片 | | |
| S207 | B01.3.扇骨穴遺跡地-北 | 3.9 | 3 | 3 | 3 | 3 | 輪 | 3cr | 11.8 | 6 | 3.2 | 356.5 | 赤土(?)焼付灰陶片 | | |
| S208 | B01.3.扇骨穴遺跡地-北 | 3.9 | 1 | 1 | 1 | 1 | 一 | — | — | — | — | 13.3 | 13.3 | | |
| S209 | B01.3.扇骨穴遺跡地-北 | 3.9 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1a | 6.4 | 5.4 | 4.1 | 226.6 | 瓦陶片 | | |
| S210 | B01.3.扇骨穴遺跡地-北 | 3.9 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2c | 36.2 | 6.9 | 4.3 | 556.8 | 瓦陶片 | | |
| S211 | B01.3.扇骨穴遺跡地-北 | 3.9 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2c | 36.2 | 6.9 | 4.3 | 556.8 | 瓦陶片 | | |
| S212 | B01.4.扇骨穴遺跡地-東 | 4.0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 扇骨矢三 | 2cr | 11.4 | 65 | 7.7 | 842.8 | 瓦陶片 | | |
| S213 | B02.4.扇骨穴遺跡地-東 | 4.0 | 3 | 3 | 3 | 3 | 扇骨矢二 | 2cr | 2d | 16 | 87 | 5.3 | 197.6 | 瓦陶片 | |
| S214 | B02.4.扇骨穴遺跡地-東 | 4.0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 直矢 | 1ae | 75 | 57 | 3 | 208.6 | 瓦陶片 | | |
| S215 | B02.4.扇骨穴遺跡地-東 | 4.0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 直矢 | 1ae | 99 | 301 | 4 | 475.6 | 瓦陶片 | | |
| S216 | B02.4.扇骨穴遺跡地-東 | 4.0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 直矢 | 1ae | 99 | 199 | 5.2 | 68 | 瓦陶片 | | |
| S217 | B02.4.扇骨穴遺跡地-東 | 4.0 | 2 | 2 | 2 | 2 | 直矢 | 1ae | 8 | 43 | 2.6 | 2026.7 | 瓦陶片 | | |
| S218 | B03.6.扇骨穴遺跡地-北 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1a | 11.3 | 6.3 | 4.3 | 690.4 | 瓦陶片 | | |
| S219 | B02.6.扇骨穴遺跡地-北 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2cr | 11.1 | 77 | 7 | 684.9 | 瓦陶片 | | |
| S220 | B03.6.扇骨穴遺跡地-北 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2cr | 2d | 36 | 94.1 | 6.5 | 43 | 560.7 | 瓦陶片 |
| S221 | B02.6.扇骨穴遺跡地-北 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2cr | 61 | 55 | 8 | 475.6 | 瓦陶片 | | |
| S222 | B02.6.扇骨穴遺跡地-北 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 3cr | 12.5 | 41 | 4.2 | 432.9 | 瓦陶片 | | |
| S223 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1a | 7.4 | 5.5 | 3.2 | 188.4 | 瓦陶片 | | |
| S224 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1a | 77 | 6.3 | 3.3 | 226.6 | 瓦陶片 | | |
| S225 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1be | 7.3 | 6 | 4.4 | 298.1 | 瓦陶片 | | |
| S226 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1be | 7.3 | 6 | 4.4 | 298.1 | 瓦陶片 | | |
| S227 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 68.2 | 28 | 5.3 | 415.6 | 瓦陶片 | |
| S228 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 72.7 | 28 | 5.3 | 171.8 | 瓦陶片 | |
| S229 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 122 | 8 | 5 | 724.1 | 瓦陶片 | | |
| S230 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2c | 102 | 44 | 7.1 | 436.9 | 瓦陶片 | | |
| S231 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2c | 159 | 58 | 3.6 | 315.8 | 瓦陶片 | | |
| S232 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 129 | 58 | 4.4 | 120.7 | 瓦陶片 | | |
| S233 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1be | — | — | — | — | 瓦陶片 | | |
| S234 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S235 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2c | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | | |
| S236 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1be | 103 | 74 | 39 | 494.4 | 瓦陶片 | | |
| S237 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1be | 140 | 92 | 4.8 | 236.6 | 瓦陶片 | | |
| S238 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 83 | 54 | 4.6 | 294.4 | 瓦陶片 | | |
| S239 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 57 | 79 | 4.6 | 247.6 | 瓦陶片 | | |
| S240 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 69 | 57 | 4.2 | 264.5 | 瓦陶片 | | |
| S241 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 131 | 73 | 4.1 | 651.1 | 瓦陶片 | | |
| S242 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2c | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | | |
| S243 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2c | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | | |
| S244 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 89 | 73 | 4.9 | 534.2 | 瓦陶片 | | |
| S245 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S246 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S247 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S248 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S249 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 131 | 73 | 4.1 | 651.1 | 瓦陶片 | | |
| S250 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S251 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S252 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S253 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S254 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S255 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S256 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S257 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S258 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S259 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S260 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S261 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S262 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S263 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S264 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S265 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S266 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S267 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S268 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S269 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S270 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S271 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S272 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S273 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S274 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S275 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S276 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S277 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S278 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S279 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S280 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S281 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S282 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S283 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S284 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S285 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S286 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S287 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S288 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S289 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S290 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S291 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S292 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S293 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S294 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S295 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S296 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S297 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S298 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S299 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S300 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S301 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 127 | 9 | 4.4 | 810.8 | 瓦陶片 | | |
| S302 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 96 | 76 | 2.7 | 315.7 | 瓦陶片 | | |
| S303 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1b | 74 | 73 | 5.7 | 464.2 | 瓦陶片 | | |
| S304 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 172 | 53 | 3.8 | 1262.7 | 瓦陶片 | |
| S305 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 2 | 2d | 177 | 67 | 7.6 | 1362.7 | 瓦陶片 | |
| S306 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 直 | 1bd | 104 | 91 | 4.3 | 670.4 | 瓦陶片 | | |
| S307 | B03.7.扇骨穴遺跡地-西 | 4.0 | 1 | | | | | | | | | | | | |

| 標識番号/貯畜名 | 頭上部点 | 頭 | | 眼 | | 耳根 | | 耳根 | | 耳根 | | 嘴 | |
|----------|------------------|----|----------|----|-------|-----|------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|
| | | 頭長 | 頭幅 | 眼長 | 眼幅 | 耳根長 | 耳根幅 | 耳根長 | 耳根幅 | 耳根長 | 耳根幅 | 耳根長 | 耳根幅 |
| S295 | B064 A15a | 3 | 扁平次 | 2c | (63) | 24 | 8 | 186.1 | | | | | |
| S296 | B065 A15w | 3 | 扁平次 | 2c | 101 | 22 | 82 | 314.3 | | | | | |
| S297 | B066 A15t | 3 | 扁平次 | 2c | 111.2 | 38 | 75 | 467.1 | | | | | |
| S298 | B067 頭上 | 3 | 扁平次 | 2d | 127 | 75 | 57 | 83.5 | | | | | |
| S299 | B068 A15s | 3 | 扁平次 | 1 | [7] | 81 | 58 | 37 | 262.6 | | | | |
| S300 | B069 A15w | 3 | 扁平次 | 2 | [7] | 94 | 66 | 67 | 547.1 | | | | |
| S301 | B070 A20v | 3 | 扁平次 | 1 | [7] | 72 | 47 | 31 | 175.6 | | | | |
| S302 | B071 A20s | 3 | 扁平次~ | 2c | 134.1 | 46 | 6 | 206.8 | | | | | |
| S303 | B072 A20s | 3 | 扁平次~ | 2c | 129 | 63 | 52 | 143.1 | | | | | |
| S304 | B073 A20v | 3 | 扁平次 | 1 | [7] | 64 | 56 | 42 | 805.2 | | | | |
| S305 | B074 A20v | 3 | 扁平次 | 1 | [7] | 94 | 53 | 10 | 52 | | | | |
| S306 | B075 A21t | 3 | 扁平次 | 2c | 112 | 71 | 53 | 90.7 | | | | | |
| S307 | B076 A20s | 3 | 扁平次 | 2c | 96 | 53 | 53 | 165.7 | | | | | |
| S308 | B077 A20s | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 108 | 85 | 12 | 53.8 | | | | |
| S309 | B078 A20s | 3 | 扁平次 | 2c | 150 | 48 | 28 | 340 | | | | | |
| S310 | B079 A18s | 3 | 扁平次 | 2c | 177 | 33 | 45 | 187.7 | | | | | |
| S311 | B080 A18w | 3 | 扁平次 | 2c | 15 | 66 | 43 | 80.9 | | | | | |
| S312 | B081 A21t | 3 | 扁平次~ | 2c | 117 | 48 | 67 | 458.7 | | | | | |
| S313 | B082 A21t | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 95 | 79 | 35 | 450.9 | | | | |
| S314 | B083 A21t | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 94 | 87 | 61 | 93.1 | | | | |
| S315 | B084 A18s | 3 | 扁平次 | 2c | 171 | 26 | 51 | 177.3 | | | | | |
| S316 | B085 A18s | 3 | 扁平次 | 2c | 154 | 63 | 81 | 168.2 | | | | | |
| S317 | B086 A18s | 3 | 扁平次 | 1 | [7] | 81 | 63 | 5 | 362.0 | | | | |
| S318 | B087 A18s | 3 | 扁平次~ | 2c | 128 | 69 | 62 | 146.6 | | | | | |
| S319 | B088 A18s | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 92 | 84 | 51 | 600.9 | | | | |
| S320 | B089 A18y | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 129 | 57 | 57 | 170.7 | | | | |
| S321 | B090 A18y | 2 | 椭 | 2c | 105 | 4.8 | 47 | 45.4 | | | | | |
| S322 | B091 A18y | 3 | 扁平次~ | 2c | 116 | 4.7 | 54 | 40.6 | | | | | |
| S323 | B092 A18s | 3 | 扁平次~ | 2c | 105 | 51 | 26 | 45.1 | | | | | |
| S324 | B093 A18s | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 90 | 91 | 62 | 85.5 | | | | |
| S325 | B094 T1 | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 89 | 79 | 55 | 69.6 | | | | |
| S326 | B095 63 | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 153 | 128 | 57 | 100.9 | | | | |
| S327 | B096 47 | 3 | 扁平次~ | 2 | [7] | 129 | 105 | 7 | 140.3 | | | | |
| S328 | B097 A17u | 3 | 扁平次 | 1 | [7] | 117 | 83 | 61 | 896.8 | | | | |
| S329 | B098 A18s 頭後部 | 3 | 扁平次 | 2c | 125 | 37 | 66 | 260.8 | | | | | |
| S330 | B099 A18s 頭後部 | 3 | 扁平次 | 2c | 128 | 54 | 75 | 454.7 | | | | | |
| S331 | B100 A18t | 3 | 扁平次 | 1 | [7] | 10 | 65 | 4 | 400.9 | | | | |
| S332 | B101 A18s | 3 | 扁平次 | 2c | 198 | 85 | 33 | 499.9 | | | | | |
| S333 | B102 頭後側面 | 3 | 扁平次~(褐色) | 1 | [7] | 146 | 11.7 | 85 | 43 | 690.6 | | | |
| S334 | B103 頭後側面 | 3 | 扁平次~(褐色) | 2 | [7] | 126 | 75 | 7 | 25.5 | | | | |
| S335 | B104 頭後側面 | 3 | 扁平次~(褐色) | 1 | [7] | 107 | 88 | 48 | 608.8 | | | | |
| S336 | B105 32a | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 89 | 73 | — | — | | | | |
| S337 | B106 H11u | 3 | 扁平次~ | 2 | [7] | 81 | 6 | 63 | 366.1 | | | | |
| S338 | B107 H11u | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 84 | 29 | 64 | 197.6 | | | | |
| S339 | B108 頭後側面 | 3 | 扁平次~ | 2b | 179 | 63 | 47 | 302.1 | | | | | |
| S340 | B109 A18s/21t | 3 | 扁平次~ | 2c | 101 | 64 | 6 | 365.3 | | | | | |
| S341 | B110 T1 | 3 | 扁平次~ | 2c | 177 | 41 | 54 | 427.5 | | | | | |
| S342 | B111 頭後~ | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 81 | 75 | 75 | 726.4 | | | | |
| S343 | B112 頭後~ | 3 | 扁平次~ | 1 | [7] | 83 | 69 | 57 | 499.7 | | | | |

| 遺跡番号/位置 | 出土場所 | 層位 | 柱径 | 高さ | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 発見場所 | 備考 |
|------------------|--------|---------|----|-----|-------|--------|-------|------|------|------|
| S345 E114 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 1 [田] 三 | 1b | 67 | 47 | 34 | 1533 | | 北上山地 | 北上山地 |
| S346 E115 4号穴-柱 | 4号穴-柱 | 1 [田] 三 | 1b | 97 | 7 | 52 | 4417 | 花崗岩 | 北上山地 | 北上山地 |
| S347 E123 5号穴-柱 | 5号穴-柱 | 2c | 34 | 12 | 43 | 37 | 2679 | 花崗岩 | 北上山地 | 北上山地 |
| S348 C002 6号穴-柱 | 6号穴-柱 | 2c | 34 | 125 | 52 | 41 | 4361 | 花崗岩 | 北上山地 | 北上山地 |
| S349 D001 36号穴-柱 | 36号穴-柱 | 1 | 62 | 41 | 22 | 876 | | 花崗岩 | 北上山地 | 北上山地 |
| S350 F002 11号穴-柱 | 11号穴-柱 | 1 | 62 | 34 | 34 | 1799 | 花崗岩 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S351 A001 1号穴-柱 | 1号穴-柱 | 1 | 62 | 34 | 34 | 1799 | 花崗岩 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |

12 間木戸Ⅱ石柱觀察表

| 測量番号/柱番号 | 柱生産地 | 柱径(cm) | 高さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 発見場所 | 備考 | 発見場所 | 備考 |
|------------------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|------|------|------|------|------|
| S352 E001 26号穴-柱 | 26号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S353 E002 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 81 | 68 | 31 | 26 | 2811 | 砂岩 | 金谷山地 | 片面平滑 | 1-3 | 1-3 |
| S354 E003 4号穴-柱 | 4号穴-柱 | 81 | 59 | 31 | 26 | 2811 | 砂岩 | 金谷山地 | 片面平滑 | 1-3 | 1-3 |
| S355 E004 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 69 | 37 | 17 | 33 | 2811 | 砂岩 | 金谷山地 | 片面平滑 | 1-3 | 1-3 |
| S356 E005 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S357 E006 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 2種 | 57 | 57 | 3339 | 砂岩 | 北上山地 | 片面平滑 | 1-3 | 1-3 | 1-3 |
| S358 E007 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 2種 | 57 | 57 | 3339 | 砂岩 | 北上山地 | 片面平滑 | 1-3 | 1-3 | 1-3 |
| S359 E008 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 2種 | 57 | 57 | 3339 | 砂岩 | 北上山地 | 片面平滑 | 1-3 | 1-3 | 1-3 |
| E009 E009 5号穴-柱 | 5号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| E010 E010 7号穴-柱 | 7号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| E011 E011 7号穴-柱 | 7号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S362 E012 7号穴-柱 | 7号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S363 E013 8号穴-柱 | 8号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S364 E014 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 1種 | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S365 E015 9号穴-柱 | 9号穴-柱 | 2種 | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S366 E016 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 1種 | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| E017 E017 12号穴-柱 | 12号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S368 E018 3号穴-柱 | 3号穴-柱 | 2種 | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |
| S369 E019 9号穴-柱 | 9号穴-柱 | — | — | — | — | — | | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 | 北上山地 |

13 間木戸Ⅱ台石觀察表

第8表 石製品觀察表

| 規範番号 | 名前 | 出土地点 | 層位 | 種類 | 形状・長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 产地 | 推測地図 | 備考 | |
|------|---------------------|------|------|----|-----------|-------|--------|-------|------|------------|-------------------|----------------|-------------|
| G011 | 石製穴切物 | 土面 | 層位未定 | 石器 | 10cm | 11 | 7.8 | 5660 | 砂岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 下部平らに打ち削っている | 1.4 133 101 | |
| G012 | 2013.3.1土壤 (6番No.2) | 土面 | 層位未定 | 石器 | (28.0) | 11.9 | 10.9 | 5280 | 花崗岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 下部(6番No.2) | 1.4 133 101 | |
| G013 | Z01A (6番No.1) | 土面 | 層位未定 | 石器 | (10.7) | 7.2 | 6.6 | 548 | 砂岩 | 津上山地 宮古層 | 津上山地 宮古層 6番生地 | 1.4 133 101 | |
| G014 | Z005 (22番穴切物) | 土面 | 層位未定 | 石器 | 6.6 | 6.5 | 2.5 | 469 | 砂岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 平らに打ち削っている | 1.4 133 101 | |
| G015 | Z002 (7番穴切物) 西 | 土面 | 層位未定 | 石器 | 9.2 | 17.8 | 3.8 | 758.1 | 頁岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 平らに打ち削っている | 1.4 133 101 | |
| G016 | 2008.11.13 | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | 10.2 | 8.6 | 2.5 | 350.7 | チャイト | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 平らに打ち削っている | 1.4 133 101 | |
| G017 | 2010.1.15 AMe | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | 8.4 | 7 | 1.6 | 171 | 花崗岩 | 津上山地 宮古層 | 津上山地 宮古層 中生代地層 | 津上山地 宮古層 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G018 | Z015 (36番穴切物) 東 | 土面 | 層位未定 | 石器 | (11.1) | 3.6 | 3.1 | 259.2 | 花崗岩 | 津上山地 宮古層 | 津上山地 宮古層 中生代地層 | 津上山地 宮古層 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G019 | Z015 (36番穴切物) 東 | 土面 | 層位未定 | 石器 | 13.1 | 4.5 | 3 | 306.6 | 花崗岩 | 津上山地 宮古層 | 津上山地 宮古層 中生代地層 | 津上山地 宮古層 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G020 | Z015 (36番穴切物) 東 | 土面 | 層位未定 | 石器 | 20.1 | 12 | 13.7 | 3176 | 頁岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 平らに打ち削っている | 1.4 133 101 | |
| G021 | 2003.8.16穴切物 | 西 | 層位未定 | 石器 | 7.2 | 3.8 | 2.8 | 25.7 | 斜G | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 平らに打ち削っている | 1.4 133 101 | |
| G022 | 2004.10.15穴切物 | 東 | 層位未定 | 石器 | (4.7) | 5.3 | 2.9 | 1209 | 花崗岩 | 津上山地 宮古層 | 津上山地 宮古層 中生代地層 | 津上山地 宮古層 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G023 | 2005.3.15穴切物 | 東 | 層位未定 | 石器 | (2.9) | — | — | — | — | — | — | — | 1.4 133 101 |
| G024 | Z011 (22番) | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | (21.3) | 6.2 | 8.8 | 722 | 花崗岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G025 | Z007 (圓形)-15 | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | (0.8) | 4.8 | 2.5 | 186.6 | 花崗岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G026 | Z009 (圓形)-15 | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | 15 | 10.5 | 8 | 221.3 | 花崗岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G027 | Z009 (圓形)-15 | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | (0.9) | 1.9 | 0.5 | 52.7 | 花崗岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G028 | Z009 (圓形)-15 | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | (4.9) | 2.1 | 0.4 | 4 | 斜G | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G029 | Z010 (22番) | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | (1.0) | 1.9 | 0.4 | 4 | 斜G | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G030 | 英.004 | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | (4.3) | 2.0 | 0.2 | 4 | 頁岩 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 1.4 133 101 |
| G031 | 英.006 (15番穴切物) | 層位未定 | 層位未定 | 石器 | (7.6) | 4.9 | 1.9 | 73 | 斜G | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 津上山地 中生代地層 | 1.4 133 101 |

第9表 鉄製品觀察表

| 規範番号 | 種類 | 出土場所 | 層位 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 产地 | 推測地図 | 備考 | | |
|------|------------|------|------|--------|-------|-------|-------|-----|------|------|------|-------------|-------------|
| G032 | 直01 26番穴切物 | 床面 | 層位未定 | (7.6) | 4 | 0.7 | 18.2 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 | |
| G033 | 直02 26番穴切物 | 床面 | 層位未定 | (12.8) | 0.7 | 0.6 | 9.3 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 | |
| G034 | 直03 26番穴切物 | 床面 | 層位未定 | (9.6) | 1.3 | 0.5 | 9.5 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 | |
| G035 | 直04 26番穴切物 | 床面 | 層位未定 | — | 4.9 | 0.7 | 0.5 | 148 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 |
| G036 | 直05 26番穴切物 | 床面 | 層位未定 | 14.3 | 1.8 | 1.1 | 60.1 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 | |
| G037 | 直06 26番穴切物 | 床面 | 層位未定 | 2.5 | 1.5 | 1.0 | 6.9 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 | |
| G038 | 直09 11Alv | 層位未定 | 層位未定 | — | 4.5 | 0.5 | 3.9 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 | |

第10表 鉄製品觀察表

| 規範番号 | 種類 | 出土場所 | 層位 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 产地 | 推測地図 | 備考 | |
|------|---------|---------|----|-------|-------|-------|-------|----|------|------|------|-------------|
| G039 | 直01 寶永通 | II Al3a | 直G | 24 | 2.4 | 0.1 | 23 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 |
| G040 | 直02 寶永通 | II B1a | 直G | 23 | 2.3 | 0.1 | 25 | 直G | 直上山地 | 直上山地 | 直上山地 | 1.4 133 101 |

第11表 銀漬出土一覧表

| 番号 | 品名 | Pt% | A | B | C | D | E | F | G | H |
|----|------|-----|------|-------|---|---|---|---|---|---|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 26 | 銀穴銀物 | 1 | | | | | | | | |
| 27 | 銀穴銀物 | 2 | | | | | | | | |
| 28 | 銀穴銀物 | 3 | | | | | | | | |
| 29 | 銀穴銀物 | 4 | | | | | | | | |
| 30 | 銀穴銀物 | 5 | | | | | | | | |
| 31 | 銀穴銀物 | 6 | | | | | | | | |
| 32 | 銀穴銀物 | 7 | | | | | | | | |
| 33 | 銀穴銀物 | 8 | | | | | | | | |
| 34 | 銀穴銀物 | 9 | | | | | | | | |
| 74 | 銀土器 | 10 | | | | | | | | |
| 74 | 銀土器 | 11 | | | | | | | | |
| 74 | 銀土器 | 12 | | | | | | | | |
| 76 | 銀土器 | 13 | | | | | | | | |
| 77 | 銀土器 | 14 | | | | | | | | |
| 78 | 銀土器 | 15 | | | | | | | | |
| 8 | 銀土器 | 16 | | | | | | | | |
| 8 | 銀土器 | 17 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 18 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 19 | 1129 | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 20 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 21 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 22 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 23 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 24 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 25 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 26 | 26.5 | 126.5 | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 27 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 28 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 29 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 30 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 31 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 32 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 33 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 34 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 35 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 36 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 37 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 38 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 39 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 40 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 41 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 42 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 43 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 44 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 45 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 46 | | | | | | | | |
| 12 | 銀土器 | 47 | | | | | | | | |

V 間木戸V遺跡の調査

1 概 要

(1) 遺構数・遺物数

間木戸V遺跡は沢を挟んで間木戸II遺跡の北側に隣接する遺跡である。確認された遺構は縄文時代の堅穴建物跡2棟、焼土遺構1基、埋設土器1基、古代の堅穴建物跡1棟、土坑3基、焼土遺構3基、工房跡2基、製鉄炉5基、炭置き場跡2基、柱穴2個、排溝場1箇所、包含層1箇所、時代不明の土坑2基、不明遺構1基、柱穴6個、遺物は縄文土器大コンテナ1箱、石鎌、敲磨器等の石器25点、土師器大コンテナ1と1/3箱、土製紡錘車2点、鉄錐等の鉄製品4点、羽口中コンテナ1箱、炉壁中コンテナ2箱、鉄滓中コンテナ33.5箱である。

基本的な調査方法は間木戸II遺跡と同じであるので、第III章を参照して頂きたい。

(2) 遺構名 称(第12表)

野外調査で使用した仮名称は、報告書掲載にあたり、S I ○を○号堅穴建物跡、SK△を△号土坑といったように変更している。詳細は、第12表で対比していただきたい。

(3) 層 序(第134図)

層序は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が行った試掘の際の層序観察を基本としながら、以下の通り分層した。

I層：10YR3/2黒褐色シルト層。粘性無し、締まりやや無し。表土層。暗褐色シルトがブロック状(7~10%)で混入する。植物の根の影響が大きい。層高が地点によって異なるが最大で60cmである。

II層：10YR2/1~2/2黒~黒褐色シルト層。粘性無し、締まり中。風化した花崗岩を起源とする堆積層である。北側の斜面ではしまりがある。主に古代以降の遺物を包含する。層高は10~20cmである。

III層：10YR3/3暗褐色シルト層。粘性無し、締まりやや有り。

IIIa層：10YR3/3~4/3暗褐~にぶい黄褐色砂層。粘性・締まり無し。調査区の南半(標高24.5m周辺)で確認される。

IIIb層：10YR3/3暗褐色砂層。粘性・締まり無し。炭化物を多く含む。調査区の南半(標高24.5m周辺)で確認される。

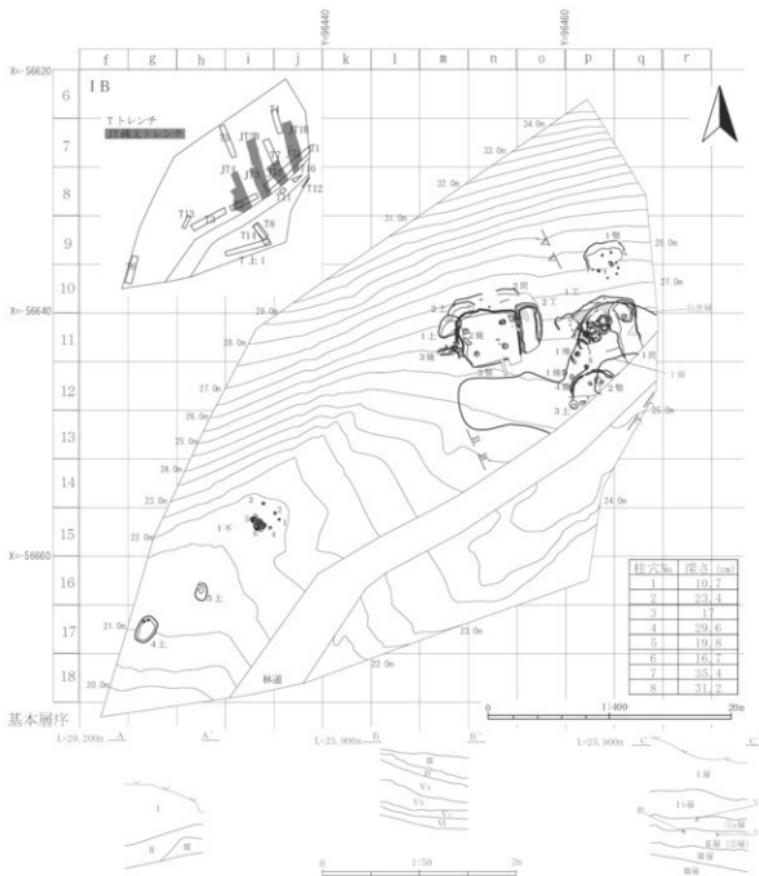
IV層：10YR2/3黒褐色シルト層。粘性無し、締まりやや有り。

V層：10YR3/4~4/4暗褐~褐色シルト層。粘性無し、締まりやや有り。花崗岩を多く含む。場所によっては人頭大の礫を含む。

Vb層：10YR2/3黒褐色シルト層。粘性無し、締まりやや有り。拳大の礫を含む。花崗岩粒はV層よりも多い。

Vc層：10YR3/3暗褐色シルト層。粘性無し、締まりやや有り。花崗岩粒を含む。漸移層。

VI層：10YR4/6~5/6褐~黄褐色シルト層。粘性無し、締まり有り。地山層。



第 134 図 間木戸 V 遺跡調査区全体図・基本層序

第 12 表 新旧遺構名対応表

| 報告書掲載名 | 現場使用名 | 報告書掲載名 | 現場使用名 | 報告書掲載名 | 現場使用名 |
|---------|-------|--------|--------|---------|-------|
| 1号堅穴建物跡 | SI05 | 1号焼土造構 | SN07 | 3号製鉄炉 | 炉 6 |
| 2号堅穴建物跡 | SI07 | 2号焼土造構 | SN02 | 2号工房跡 | SI06 |
| 3号堅穴建物跡 | SI01 | 3号焼土造構 | SN04 | 4号製鉄炉 | 炉 1 |
| 1号土坑 | SK03 | 4号焼土造構 | SN05 | 5号製鉄炉 | 炉 2 |
| 2号土坑 | SK06 | 1号埋設土器 | 1号埋設土器 | 1号炭置き場跡 | SI02 |
| 3号土坑 | SK07 | 1号工房跡 | SI03 | 2号炭置き場跡 | SK04 |
| 4号土坑 | SK01 | 1号製鉄炉 | 炉 3 | 1号排滓場 | 排滓場 |
| 5号土坑 | SK02 | 2号製鉄炉 | 炉 2 | 1号不明遺構 | SX01 |

2 遺構

(1) 壊穴建物跡

1号壊穴建物跡（第135図、写真図版44）

【位置・検出状況】IB9p付近、調査区北東側の斜面裾周辺に位置する。当初、本遺構周辺で縄文土器がまとまって確認され、遺構の存在を想定していたが、プランが確認できなかった。その後、Ⅲ層上面まで面的に掘り下げを行ったところ、一部に規則的な配置となる礫を確認した。そのため、ベルトを設定して掘り下げを行い、石窯炉を検出した。さらに、壊穴の存在を想定してセクションを観察したところ、斜面上方で平坦な面と壁が立ち上がったため、壊穴建物跡と判断した。【規模・形状】斜面下方が残存していないため、詳細な規模は不明であるが、柱穴の配置と残存する壁から判断すると、4m前後の円形もしくは隅丸方形を呈するものと考えられる。【埋土・堆積状況】地山ブロックを含む黒褐色砂質シルトの単層である。【壁・床面】残存する床面は概ね平坦である。特別に硬化している部分は確認できなかった。壁は外傾気味に立ち上がる。【炉】本来の遺構の中央部分と考えられる位置に石窯炉を検出した。西側半分は試掘の際に掘り上げてしまっており、残存していない。残存する範囲から判断すると、炉の規模は長辺約50cm、短辺約40cmで、焼成深度は最大で8cmである。【柱穴】炉を中心に本遺構に伴うと考えられる柱穴を8個検出した。いずれも堆積土はⅢ層土に相当する黒褐色シルトの単層である。炉を中心にP1～P4・P6・P7が六角形に配置されており、これらが主柱穴の可能性が想定される。【付属施設】なし。【重複遺構】なし。【出土遺物】炉周辺から土器片が出土しているが、掲載可能なものはなかった。【帰属時期】出土遺物から縄文時代中期に帰属する可能性が高いが、遺構の残存状態・遺物量の少なさから断定はできない。

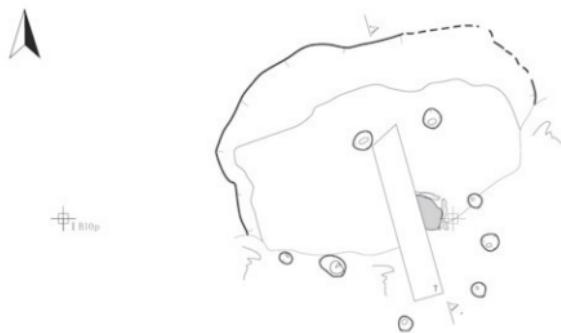
2号壊穴建物跡（第135図、写真図版45）

【位置・検出状況】IB12p付近、調査区東側の林道に面した比較的平坦な部分に位置する。南東側は林道構築により消失している。VI層上面で、暗褐色シルトのプランを検出した。【規模・形状】南半分が残存していないため、詳細な規模は不明であるが、残存する部分から判断すると、4m前後の円形を呈するものと考えられる。【埋土・堆積状況】V層起源の暗褐色シルトを主体とする。壁際から周溝にかけては同じV層起源の褐色シルト層が遺構のプラン外より一連で堆積しており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。【壁・床面】残存する床面は概ね平坦である。特別に硬化している部分は確認できなかった。壁は外傾気味に立ち上がる。【炉】現在の作業道内に構築されていたと考えられるが、床面より深く掘削が及んでおり、確認できなかった。【柱穴】本遺構に伴うと考えられる柱穴を3個検出した。いずれも堆積土はV層起源の暗褐色シルトの単層である。南側を大きく壊されているため、配置は不明である。【付属施設】なし。【重複遺構】同時期の遺構との重複関係はない。【出土遺物】埋土から大木8b～9式期と考えられる土器片が出土していたが、掲載はしていない。【帰属時期】出土遺物から縄文時代中期後葉の大木8b～9式期に帰属する。

3号壊穴建物跡（第136・137図、写真図版46・47）

【位置・検出状況】IB11n付近、調査区北側の斜面裾周辺に位置する。Ⅲ層上面で黒褐色シルトの明瞭なプランを検出した。当初から本遺構とSN03（現場遺構名）は一体のものと想定して調査を行っていたが、壊穴部の床面で、燃焼部が確認できなかったため、一度別遺構とした。しかし、SN

1号竪穴建物跡



1号竪穴建物跡

 Δ L-28, 30m

2号竪穴建物跡



2号竪穴建物跡

 Δ L-25, 40m

1号竪穴建物跡

1. 10102/3 黒褐色。砂質シルト。粘性なし。締まりややあり。地山層よりは締まりない。花崗岩粒 20~25%。黄褐色土ブロック 5% 含む。
2. 10106/4 に5% 黄褐色。粘性なし。締まりややあり。花崗岩粒 3~5% 炭化物 1~2% 含む。

2号竪穴建物跡

1. 10103/4 鮎褐色。シルト。粘性なし。締まりややなし。黄褐色土ブロック 3% 含む。花崗岩粒 1% 含む。
2. 10104/4 鮎褐色。シルト。粘性なし。締まりややなし。花崗岩粒 3~5%。黄褐色土ブロック 7% 含む。

0 1:50 2m

第 135 図 1・2号竪穴建物跡

03の焼成面が本遺構の張り出し部分の底面に沿って確認されたため、本遺構のカマドと判断した。

〔規模・形状〕斜面裾にあるため、斜面下方の形状が判然としないことと、斜面上方にテラス状の張り出しが確認できるが、その張り出しが北側でしか確認できないことのため、張り出しを含めた正確な規模は不明であるが、堅穴部下部の規模は、東西522cm、南北464cm、張り出しを含めた確認できた規模は東西約580cm、南北約600cm、深さは最大で104cmである。〔埋土・堆積状況〕10層に細分した。残存状態の良好な北側壁付近や張り出し部分にはⅢ層起源と考えられる堆積土が見られるが、大部分は黒色～黒褐色シルトを主体とする堆積土である。堅穴部下部（6～10層）の堆積は花崗岩粒を含む黒色シルトと黒褐色シルトがほぼ交互に厚さ10～15cmでレンズ状もしくは三角形状に堆積しており、自然堆積の可能性が高いと考えられるが、上部（5層）の堆積は鉄滓や礫を含み、重複する2号炭置き場跡と同時に埋まっており、人為堆積の可能性を否定できない。〔壁・床面〕床面は概ね平坦である。特に硬化している部分は確認できなかった。壁は、カマドのある西壁以外の下部は直立気味に立ち上がり、張り出しまで緩やかになり、最後は外傾気味に立ち上がる。〔カマド〕西壁の中央南寄りに確認した。床面では燃焼部・袖が確認できず、カマドを持たない堅穴と考えていたが、西壁に隣接して直線上に配置される礫と焼土層を確認していた。この部分にベルトを設定して掘り下げを行ったところ、堅穴部内側のプランと接する部分に床面とはほぼ同レベルの焼成面が確認できたため、本遺構のカマドと判断した。焼成深度は最大で6cmである。燃焼部からW8.5°～Sの方向に浅い煙道が約1.5m伸びており、にぶい褐色～明褐色の汚れた焼土層で埋没している。煙道部の北壁には部分的に細長い礫が配置されており、カマド構築に伴う礫と考えられる。検出時に確認された礫は、煙道部を構築していたこれらの礫の一部と考えられる。燃焼部の両脇には浅黄褐色の範囲が確認でき、袖の一部と考えられる。この他に明瞭な袖は確認できなかった。〔柱穴〕方形に配置される主柱穴と考えられる柱穴を4個検出した。いずれも黒褐色シルトを主体とする堆積土の単層である。〔付属施設〕施設ではないが、Pit4の東側に礫が集中する部分を確認した。褐色シルトを主体とした裏込めが確認できたが、詳細な機能は不明である。〔重複遺構〕1号土坑、2号土坑、2号焼土遺構、3号焼土遺構、2号炭置き場跡と重複し、本遺構が最も古い。ただし、2号炭置き場跡とは同時に存在した可能性がある。〔出土遺物〕縄文土器VP001～005、土師器VP030～038、石鎚VS008・010、敲磨器類VS016～019、台石VS024、刀VG005、座金VG006、鉄滓類等が出土している。〔帰属時期〕出土遺物から8世紀代に帰属するものと考えられる。

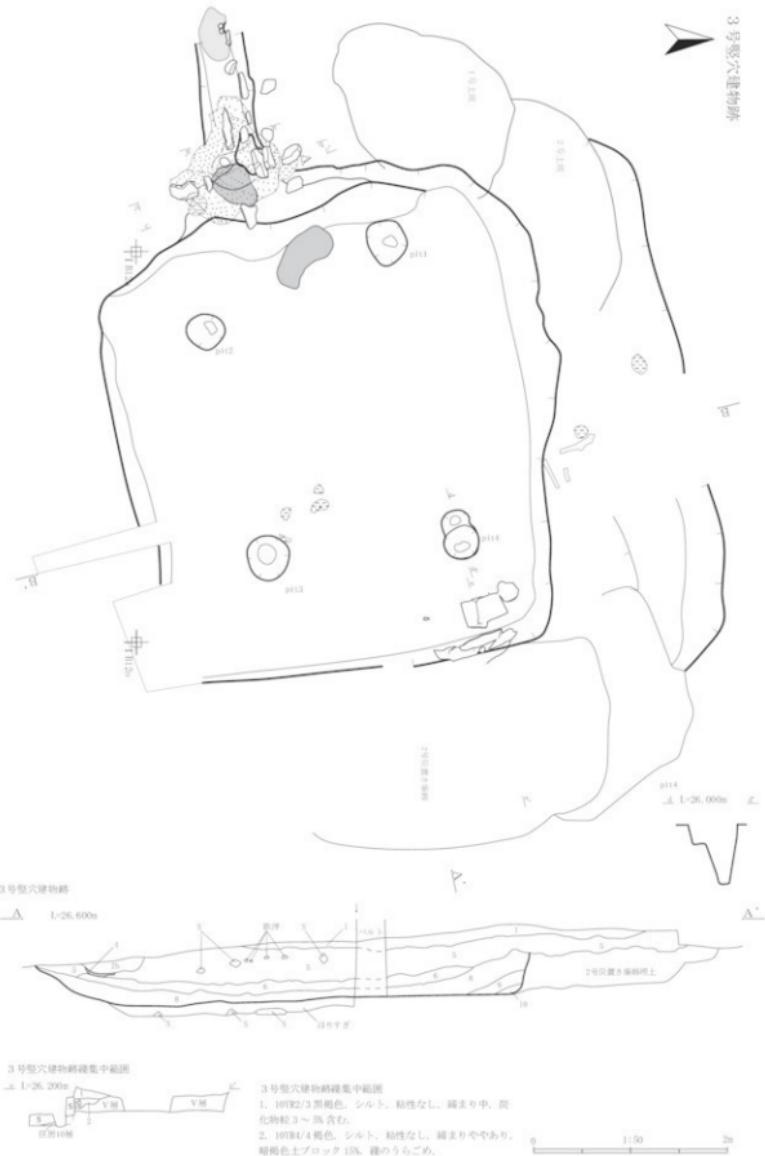
（2）土 坑

1号土坑（第138図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕I B11m、調査区北側の斜面裾周辺に位置し、Ⅲ層上面で炭化物主体の黒色土のプランを検出した。〔規模・形状〕218×152cmの不整椭円形を呈する。南東側は斜面下方にあたり、削平もしくは崩落している可能性が考えられる。深さは最大で40cmである。〔埋土・堆積状況〕3層に分層した。中間部に鉄滓を含む黒褐色シルト層があるため、3層に分層したが、全体的に炭化物主体の人為堆積土と考えられる。〔壁・底面〕底面は概ね平坦で、壁は底面からなだらかに立ち上がる。〔重複遺構〕3号堅穴建物跡、2号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。〔出土遺物〕土器類は伴わず、堆積土から鉄滓類が出土している。〔帰属時期〕堆積土の様相から古代に帰属する可能性が高い。

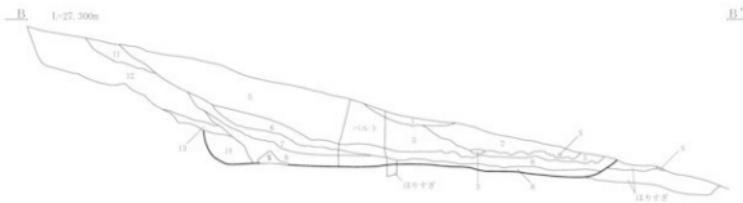
2号土坑（第138図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕I B10m付近、調査区北側の斜面裾周辺に位置する。1号土坑の精査終了後、3



第136図 3号竖穴建物跡 (1)

3号竪穴建物跡



3号竪穴建物跡 A-A'・B-B'

- 10YR3/1 黒褐色。シルト。粘性なし。縛まり中。花崗岩小粒3～5%含む。植物根の影響大。
- 10YR3/2 黒褐色。シルト。粘性なし。縛まり中。花崗岩小粒5～7%。灰白色土ブロック7%含む。
- 10YR2/2 黒褐色。シルト。粘性なし。縛まり中。花崗岩小粒1～2%含む。
- 10YR3/6 黄褐色。シルト。粘性なし。縛まりややあり。ブロックで埋められる。
- 7.5YR4/6 黄褐色。シルト。粘性なし。縛まり中。花崗岩小粒3～5%。非常にうすくあまり強く焼けていない。(2号堆土層)
- 10YR2/2 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まり中ややなし。花崗岩小粒3～5%。黒色土ブロック7%。暗褐色土ブロック2～3%。灰白色土含む。
- 10YR2/1 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まり中ややなし。花崗岩小粒1～2%。灰白色土含む。
- 10YR2/2 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まりややなし。花崗岩小粒10～15%含む。
- 10YR2/2.5 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まりややなし。花崗岩小粒10～15%。重角レキ中量(人頭大)を含む。
9. 10YR2/1 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まりややなし。砂粒1～2%含む。東壁端のみに見られる。
10. 10YR2/2 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まり中。
11. 10YR3/1 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まりややなし。花崗岩小粒7～10%含む。
12. 10YR3/2～3/3 黄褐色～褐褐色。シルト。粘性なし。縛まりややなし。層間に近いや縛まりがなくほれる。にいぶる黄褐色土ブロック5%。こぶし大の重角レキ含む。
13. 10YR2/2 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まりややなし。層化物を層間に含む。
14. 10YR2/2 黑褐色。シルト。粘性なし。縛まりややなし。新鮮な状態では褐褐色を有するが時間がたつと黒くなる。花崗岩小粒7～10%含む。

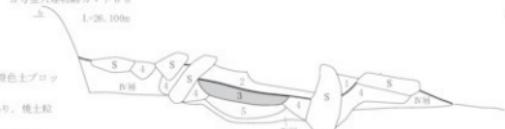
3号竪穴建物跡カマド a-a'



3号竪穴建物跡カマド a-a'

1. 7.5YR5/4～5.6にいぶる褐色～明褐色。粘性なし。縛まりややあり～中。無面にはないが、部分的に赤褐色や褐色も見られる。
2. 7.5YR3/1 黄褐色。粘性なし。縛まり中。黒褐色シルトで汚れている。

3号竪穴建物跡カマド b-b'



3号竪穴建物跡カマド b-b'

1. 10YR3/3褐褐色。シルト。粘性なし。縛まり中。淡黄褐色土ブロック1～2%含む。
2. 10YR3/6 黄褐色。シルト。粘性なし。縛まりややあり。燒土層。
- 2～3%。花崗岩粒1～2%含む。
3. 5YR6/8 棕褐色。粘性なし。縛まりあり。燒土層。花崗岩粒2～5%含む。
4. 10YR4/3～4/4にいぶる黄褐色～褐色。シルト。粘性なし。縛まりややあり。黄褐色土ブロック2～3%。石の盛りかた壌土。
5. 10YR3/3～3/4褐褐色。シルト。粘性なし。漸次に焼くしまる。

3号竪穴建物跡カマド c-c'

1. 10YR4/4淡黄褐色。粘性なし。縛まり中。土の塊?
2. 10YR5/6 黄褐色。シルト。粘性なし。縛まりあり。
3. B-B' の3層
4. 10YR3/6 褐色。シルト。粘性なし。縛まりややなし。(石の盛りかた)
5. B-B' の5層

3号竪穴建物跡カマド c-c'



(カマド断面) 0 1:20 1m

(竪穴断面) 0 1:50 2m

第137図 3号竪穴建物跡 (2)

号竪穴建物跡として精査していたが、炭化物主体の堆積土が確認された。ベルトを設定して掘り下げを行ったところ、平坦な底面と斜面上方で壁を確認したため、土坑として登録した。本遺構の南側はベルト設定以前に掘り上げてしまっており、残存していない。〔規模・形状〕前述の通り、北半しか確認できなかったため、正確な形状や規模は不明である。平面形は残存する部分から判断すると、稍円形を呈するものと考えられる。〔埋土・堆積状況〕3層に分層した。最下部には10cm程の炭化物主体の堆積土が確認でき、その上部は地山の崩落土と考えられる暗褐色シルトや黒褐色シルトで埋没している。〔壁・底面〕底面は概ね平坦である。壁は底面から外傾気味に立ち上がる。〔重複遺構〕3号竪穴建物跡、1号土坑と重複し、本遺構が3号竪穴建物跡より新しく、1号土坑より古い。〔出土遺物〕土器類は伴わず、堆積土から鉄滓類が出土している。〔帰属時期〕堆積土の様相から古代に帰属する可能性が高い。

3号土坑（第138図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕IB12p、調査区東側の林道に面した比較的平坦な部分に位置し、Ⅲ層上面で黒褐色シルトのプランを検出した。〔規模・形状〕77×66cmの楕円形状を呈する。深さは最大で15cmである。〔埋土・堆積状況〕地山ブロックを含む黒褐色シルトの單層である。層高がないため、人為か自然かの判断はできなかった。〔壁・底面〕底面は掘り鉢状を呈し、壁は底面からなだらかに立ち上がる。〔重複遺構〕同時代の遺構との重複関係はない。〔出土遺物〕なし。〔帰属時期〕検出状況から古代に帰属する可能性が高い。

4号土坑（第138図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕IB17g、調査区南西側の沢に面した緩斜面周辺に位置する。Ⅲ層上面で明瞭な黒褐色シルトのプランで検出した。〔規模・形状〕225×150cmの楕円形を呈する。深さは最大で30cmである。〔埋土・堆積状況〕2層に細分した。下部には炭化物を多量に含む黒色シルト（2層）が10cm程の厚さで堆積し、その上部に縞まりのない黒褐色シルト（1層）が堆積している。下部には少量ではあるが、鉄滓が出土している。〔壁・底面〕底面は概ね平坦で、壁は底面からなだらかに立ち上がる。南側は斜面下方にあたり、残存状態が悪く、わずかな立ち上がりしか確認できない。〔その他〕北西隅で2個の柱穴を確認した。いずれも黒褐色シルトの单層である。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕土器類は伴わず、堆積土から鉄滓類が出土している。〔帰属時期〕不明。

5号土坑（第139図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕IB16h、調査区南西側の沢に面した緩斜面周辺に位置する。Ⅲ層上面で明瞭な黒褐色シルトのプランで検出した。〔規模・形状〕139×97cmの不整楕円形を呈する。深さは最大で35cmである。〔埋土・堆積状況〕3層に細分した。Ⅱ層起源の黒色シルトもしくは黒褐色シルトを主体とする。堆積土中に礫が混入しているが、人為的な堆積は確認できなかった。〔壁・底面〕底面は掘り鉢状を呈し、壁は底面からなだらかに立ち上がる。〔重複遺構〕なし。〔出土遺物〕土器類は伴わず、堆積土から鉄滓類が出土している。〔帰属時期〕不明。

(3) 焼土遺構

1号焼土遺構（第139図、写真図版45）

【位置・検出状況】 I B12o周辺、調査区東側の林道に面した比較的平坦な部分に位置し、V層面が赤変している。【規模・形状】 47×34cmの楕円形を呈する。焼成深度は最大6cmである。【被熱・堆積状況】 暗赤褐色の焼土が確認できるが、掘り込みは認められない。【重複遺構】なし。【出土遺物】なし。【帰属時期】 検出状況から縄文時代に帰属する可能性が高い。

2号焼土遺構（第139図、写真図版48）

【位置・検出状況】 I B11m付近、調査区北側の斜面裾周辺に位置する。3号竪穴建物跡の5層中で検出した。【規模・形状】 71×38cmの不整形である。焼成深度は最大3cmである。【被熱・堆積状況】 3号竪穴建物跡の2b層直下で褐色の焼土層が確認できる。掘り込みは認められない。【重複遺構】 3号竪穴建物跡より新しい。【出土遺物】 土器類は伴わず、堆積土から鉄滓類が出土している。【帰属時期】 検出状況から古代に帰属する可能性が高い。

3号焼土遺構（第139図、写真図版49）

【位置・検出状況】 I B11m、調査区北側の斜面裾周辺に位置する。3号竪穴建物跡の煙道西端で検出した。【規模・形状】 56×30cmの楕円形状を呈する。焼成深度は最大4cmである。【被熱・堆積状況】 掘り込みがあり、地山ブロックを含むⅢ層起源の暗褐色シルトで埋没した上面が赤変しているが、不明瞭である。【重複遺構】 3号竪穴建物跡より新しい。【出土遺物】 土師器VP040が出土している。【帰属時期】 出土遺物から奈良時代に帰属する。

4号焼土遺構（第140図、写真図版49）

【位置・検出状況】 I B12p、調査区東側の林道に面した比較的平坦な部分に位置し、Ⅱ層面が赤変している。廃溝場形成時の初期段階に形成された焼土遺構である。【規模・形状】 43×31cmの菱形状を呈する。焼成深度は最大5cmである。【被熱・堆積状況】 黄橙色の焼土が確認できるが、掘り込みは認められない。【重複遺構】なし。【出土遺物】なし。【帰属時期】 検出状況から古代に帰属する可能性が高い。

(4) 埋設土器

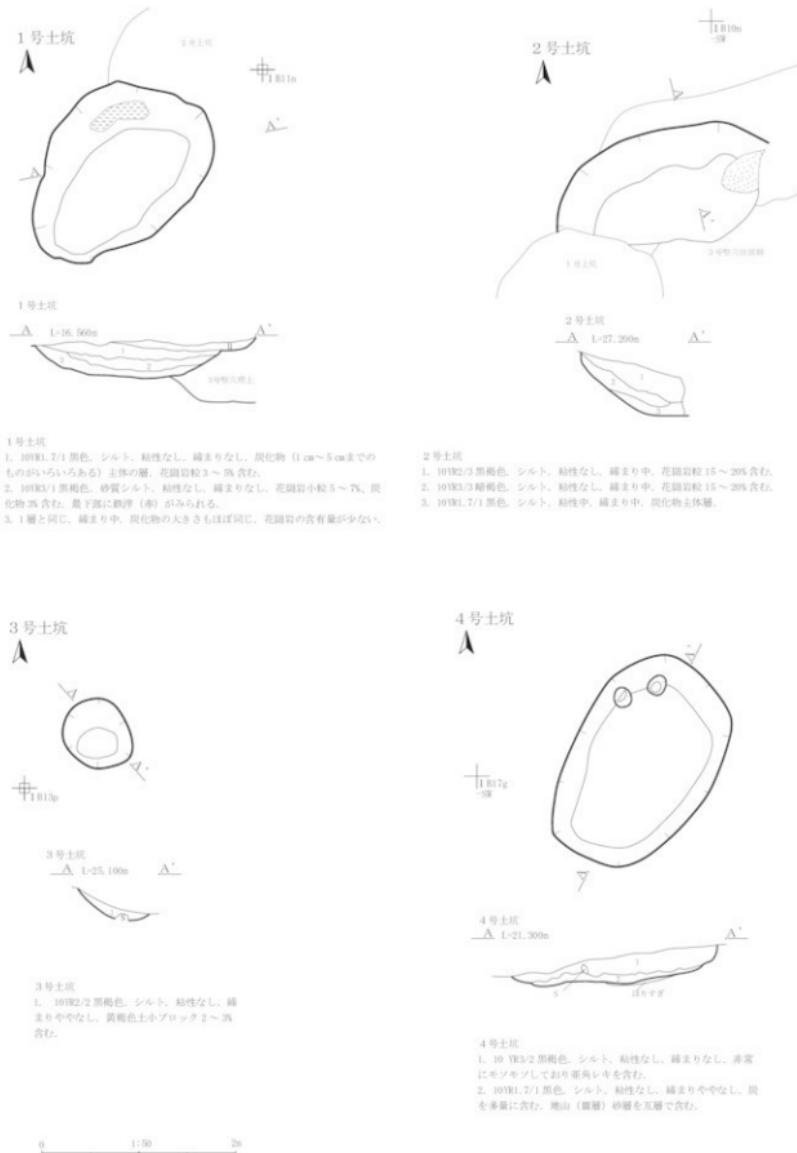
1号埋設土器（第140図、写真図版49）

【位置・検出状況】 I B12p、調査区東側の林道に面した比較的平坦な部分に位置し、V a層上面で検出した。【規模・形状】 46×43cmの円形の掘り方の中央部に小形の浅鉢を、V層起源の暗褐色シルトを掘り方埋土として埋設している。【埋土・堆積状況】 V層起源の暗褐色シルトを掘り方埋土とし、土器内部には黒褐色シルトが確認された。【重複遺構】なし。【出土遺物】 縄文土器VP027が出土している。【帰属時期】 縄文時代中期後葉に帰属する。

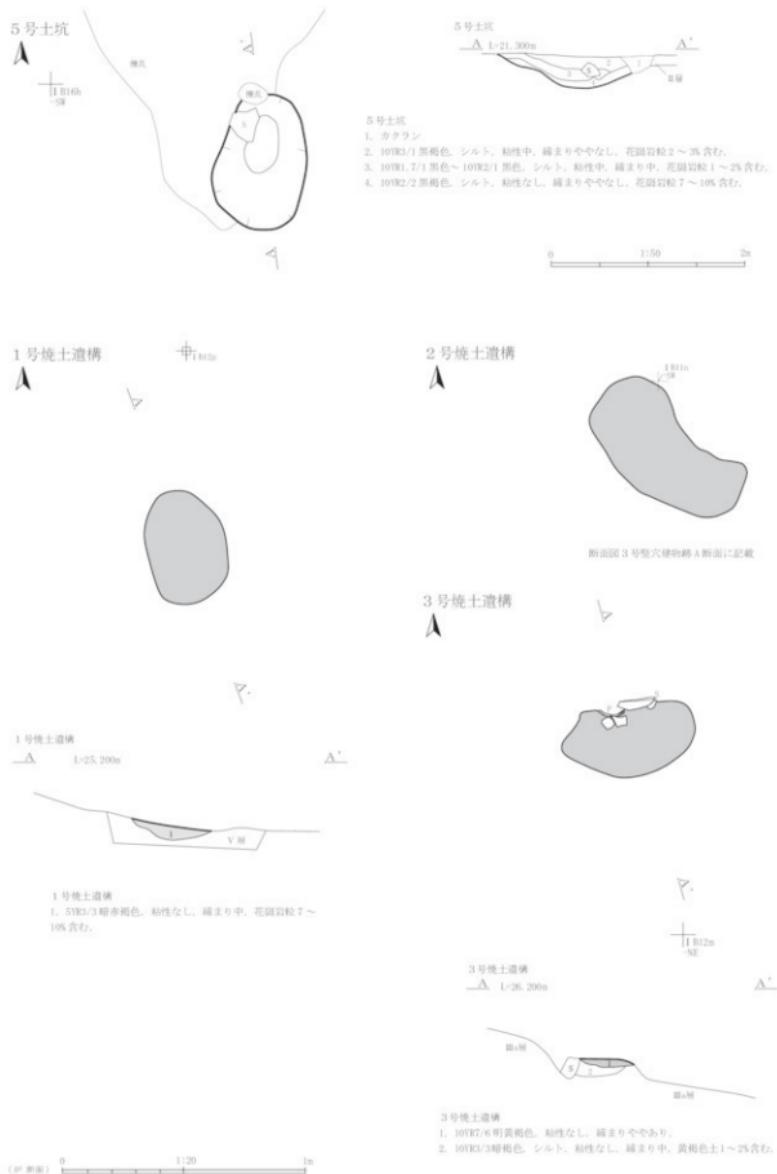
(5) 工房跡

1号工房跡（第141・142図、写真図版50・51）

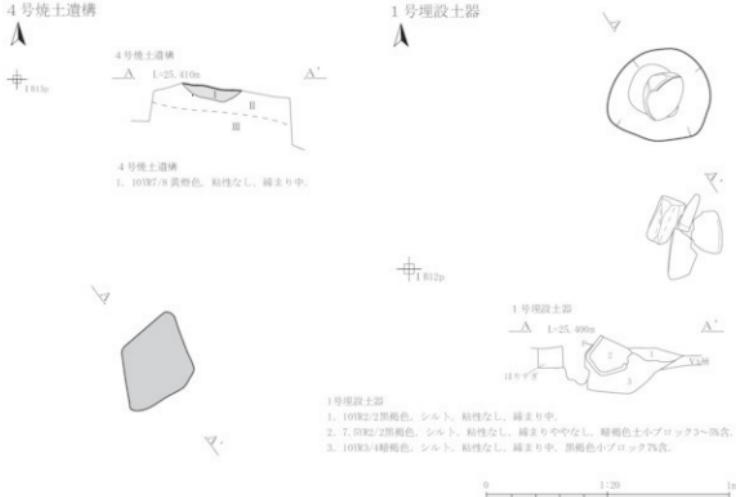
【位置・検出状況】 I B11p付近、調査区東側の林道に面した比較的平坦な部分に位置し、Ⅲ層上面



第 138 図 1 ~ 4 号土坑



第139図 5号土坑、1~3号焼土遺構



第140図 4号焼土遺構、1号埋設土器

で黒褐色シルトの明瞭なプランを検出した。斜面下方にあたる南東側は崩落や削平等により確認できなかった。本遺構は1号～3号製鉄炉、Pit 1、柱穴2個で構成される。〔規模・形状〕北西壁以外の部分では明瞭な壁を確認することができなかった。そのため、詳細な規模は不明であるが、残存する北西壁や製鉄炉、製鉄炉を被覆している炉壁混じりのブロック焼土範囲から判断すると、一辺4m前後の隅丸方形を呈するものと考えられる。〔埋土・堆積状況〕7層に細分した、黒色・黒褐色シルトを主体とする。2号製鉄炉の直上には炉構築材を含む褐色シルト層（7層）が確認できる。北西壁際には壁崩落土と考えられる黒褐色シルト層（6層）が三角形状に堆積し、その上部に黒色シルト層（5層）がほぼ水平に堆積している。この層の最上面には部分的に黄褐色粘土質シルトが薄く堆積している。また、5層上面が1号製鉄炉の構築面となっており、1号工房最新段階の作業面（床面）であったと考えられる。黒色シルト（3層）、黒褐色シルト（2層）と斜面上方から堆積した状況を呈しており、最終的には自然に埋没したものと考えられる。〔壁・床面〕床面は概ね平坦である。1号製鉄炉の北側、北隅周辺と2号製鉄炉の北西側の床面が硬化している。製鉄炉の斜面上方にあたり、フイゴが置かれた場所が想定される。壁は北西のみで確認できた。床面から直立気味に立ち上がり、上半で強く聞くように立ち上がる。〔柱穴〕本遺構に伴うと考えられる柱穴を2個検出した。2号製鉄炉を挟んで対になる位置に構築されている。Pit 3は1号製鉄炉に被覆されており、1号製鉄炉に伴う可能性は低い。また、Pit 2は3号製鉄炉と近接しており、3号製鉄炉に伴う可能性は低いと考えられる。2個とも焼土ブロックを含む黒褐色シルトの単層である。〔付属施設〕2号製鉄炉と3号製鉄炉の間に円形のPitを検出している。両遺構よりも新しいもので、1号製鉄炉に伴う可能性が高い。直径0.53mの円形基調のものである。炉とと考えて精査を行ったが、還元層や赤変層、鍛造剥片等の微細な鉄滓類が確認できなかったため、炉とは判断しなかった。色調や混入物の違いにより2層に

分層したが、炉壁や焼土ブロック、炭化物を含む黒色シルトで人為的に埋められている。〔その他〕上記の他に1号製鉄炉の北側と2号製鉄炉の北西側で床面が硬化している範囲を確認した。どちらも不整形で、前者は長辺1.37m、短辺0.66m、後者は長辺1.6m、短辺1.05mの規模で、いずれも対応する製鉄炉の長辺と硬化範囲の長辺が直交している。斜面上方の炉の背面に位置する場所にあり、フィゴが設置された場所が想定される。〔重複遺構〕2号工房跡、1号炭置き場跡と重複し、本遺構が新しい。〔出土遺物〕1号製鉄炉の炉面から鉄錠VG003、埋土から羽口VG018、Pit 1から羽口VG019・020、鉄滓類等が出土している。〔帰属時期〕出土遺物や検出状況から古代に帰属すると考えられる。

〈製鉄炉〉

1号製鉄炉（第141図、写真図版50・51）

〔位置〕1号工房跡にある3基の製鉄炉のうち、最も北東側に位置する。構築面は5層上面で3基ある製鉄炉のうち、レベル的に最も高く、最も新しい製鉄炉である。〔規模・形状〕炉の平面形は梢円形で、長辺1.32m、短辺0.75mである。炉の構築面から炉底面までの深さは18cmで、断面形は逆台形状を呈する。長辺を主軸とするとN12°Wとなる。〔埋土・堆積状況〕炉内の堆積土は大きく2層に細分でき、下部は炉壁を含む鉄滓主体の層で、上部は炭化物・鉄滓を含む焼土・炉壁の混合層で、人為堆積である。〔壁・底面〕古い製鉄炉の炉体を利用して作業床面とし、その床面を長辺1.33m、短辺0.89mの梢円形に掘り窪め、炉を構築している。底面は広範囲にわたって還元しており、炉の判断の根拠となっている。上部は部分的に赤変した炉体が残存している。〔重複遺構〕2号製鉄炉より新しい。

2号製鉄炉（第142図、写真図版51）

〔位置〕1号工房跡のはば中央に位置する。締まりのある暗褐色シルト（b断面6層）上面を構築面としている。〔規模・形状〕炉の平面形は梢円形で、長辺1.35m、短辺0.97mである。炉の構築面から炉底面までの深さは28cmで、断面形は皿状を呈する。長辺を主軸とするとN18°Wとなる。〔埋土・堆積状況〕3層に細分した。大部分は鉄滓と炉壁の混合層（3層）で、その上部に炉壁を含む黄褐色シルト層（2層）、炉壁を含む暗褐色シルト層（1層）が堆積している。全体的に混入物が多く人為堆積と考えられる。〔壁・底面〕床面を長辺1.5m、短辺0.98mの梢円形に掘り窪め、炉を構築している。底面は斜面下方に傾斜している。南側の一部で炉体の残存と考えられる部分が確認できたが、広範囲にわたって鉄滓があり、南側は不明瞭である。斜面上方にあたる北側では底面から壁面にかけて還元層、残存する炉壁、赤変した炉壁が確認できた。〔重複遺構〕3号製鉄炉より新しく、1号製鉄炉より古い。

3号製鉄炉（第142図、写真図版51）

〔位置〕1号工房跡の南西側に位置する。1号工房跡床面施設の最終確認段階で検出し、2号製鉄炉の構築面とは15cm程の高低差がある、1号工房跡で最も古い製鉄炉である。〔規模・形状〕残存状態が悪く、詳細な規模は不明であるが、確認できた範囲から判断すると、長辺1.2m前後、短辺0.7m前後の梢円形を呈するものと考えられる。確認面から炉底面までの深さは15cmである。長軸は他の2基より西に傾いている。〔埋土・堆積状況〕色調の違いにより2層に細分したが、炉体を主体とした人為的な埋め戻し土で埋没している。〔壁・底面〕3号製鉄炉も他の製鉄炉と同様に、梢円形に掘り窪

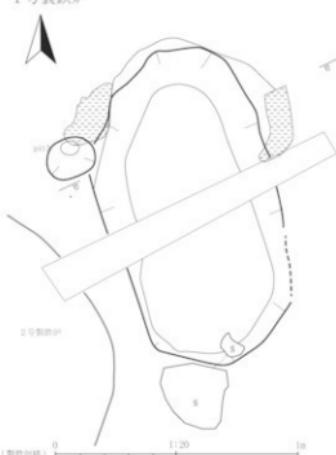
1号工房跡



1号工場跡

1. 10R2/2 黒褐色、シルト、粘性なし、縫まりややあり。風化花崗岩岩粒2～25%含む
2. 10R2/2 黒褐色、シルト、粘性なし、縫まり中。風化花崗岩小粒3～35%含む。3層との境はやや褐色化している
3. 10R2/1 黒色、シルト、粘性なし。縫まりややあり。風化花崗岩小粒3～5%含む。
4. 10R2/2.5 黒褐色、シルト、粘性なし、縫まりややなし。焼土粒1～25%含む。
5. 10R2/1 黒色、シルト、粘性なし。縫まりややあり。花崗岩小粒2～3%、焼土粒1%。
6. 10R2/3 黒褐色、シルト、粘性なし、縫まり中。花崗岩小粒2～3%、焼土粒1%。
7. 7. 10R4/6 褐色、シルト、粘性なし、縫まり中。

1号製鉄炉



1号製鉄炉

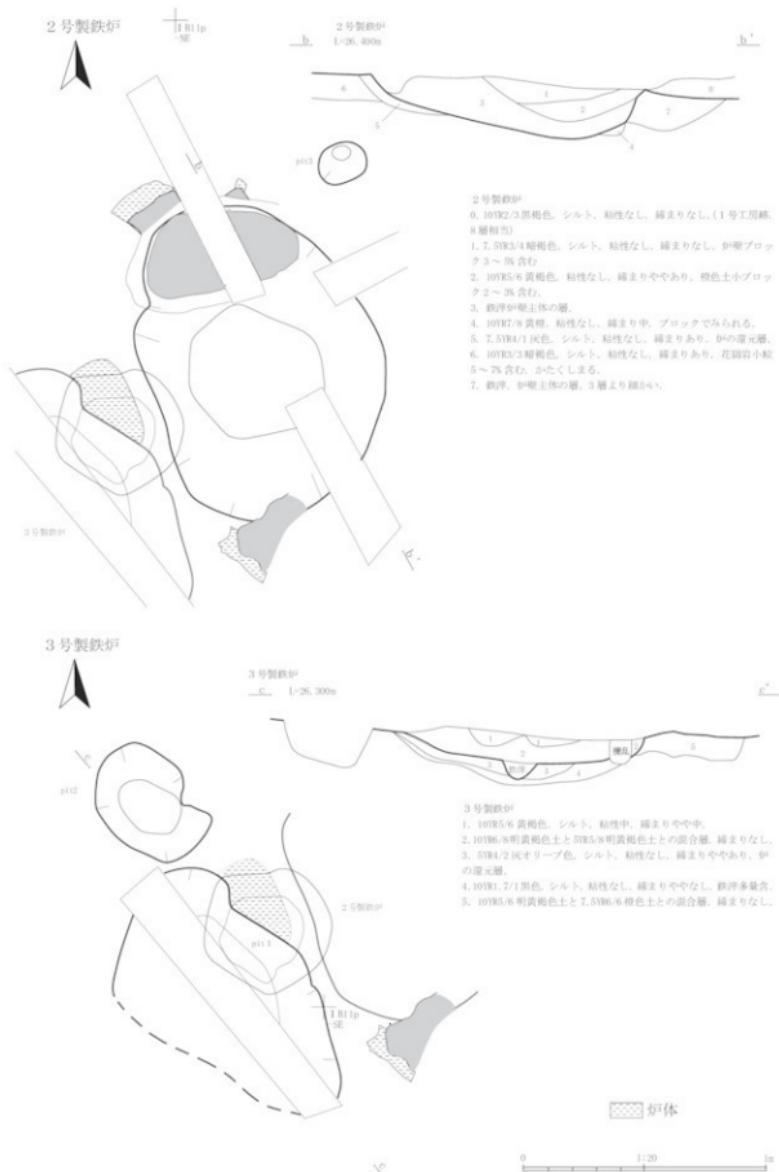


1号製鉄炉

1. 10R7/6 明黄褐色土ブロックや 5R2/8 褐色土ブロック(炉壁)の混合層。炭化物7～10%、鉄滓含む。粘性なし、縫まりあり。
2. 炉滓土体の層。炉壁等のブロックが15～20%含む。
3. 5R7/3 褐色、粘性なし、縫まりあり。炉体。
4. 7. 5T4/1灰、粘性なし、縫まりあり。
5. 10R1/2/1 黒色、粘性なし、縫まりあり。焼土ブロック2～25%含む。非常にかたくしまる。

■ 炉体

第 141 図 1号工房跡 (1)



第142図 1号工房跡(2)

め、炉を構築しているが、前述の通り詳細な規模は不明である。底面は広範囲にわたって還元している。〔重複遺構〕2号製鉄炉より古い。

2号工房跡（第143図、写真図版52・53）

〔位置・検出状況〕IB11p付近、調査区東側の林道に面した比較的平坦な部分に位置する。1号工房跡の3号製鉄炉周辺を掘り下げたところ、平坦な面とわずかに立ち上がる壁、2基の製鉄炉を確認したため、工房跡とした。1号工房跡と同様に、斜面下方にあたる南東側は確認できなかつたため、詳細な規模は不明である。残存する壁や製鉄炉の位置から判断すると4m前後と考えられる。

〔埋土・堆積状況〕色調や混入物の違いにより6層に細分した。南東側の下部に廃滓場の②層下部に相当する黒褐色～暗褐色シルト層（4層）が堆積するが、大部分は黒褐色シルト層で埋没している。堆積土にはあまり多くはないが、鉄滓や焼土ブロック、炭化物の混入が見られ、他遺構との重複を想定すると、人為堆積の可能性が高いと考えられる。〔壁・床面〕床面は概ね平坦である。壁は一部のみで確認されたこととする。〔重複遺構〕1号工房跡、1号炭置き場跡と重複し、本遺構が最も古い。また、排滓場と近接しているが、新旧関係は不明である。〔出土遺物〕縄文土器VP006・007、土師器VP039、羽口、鉄滓類等が出土している。〔帰属時期〕出土遺物や検出状況から古代に帰属すると考えられる。

（製鉄炉）

4号製鉄炉（第143図、写真図版52・53）

〔位置〕2号工房跡の南西側に位置する。全体的に残存状態が悪いため、5号製鉄炉との新旧関係は不明である。〔規模・形状〕南東側は確認できなかつたため、詳細な規模・形状は不明と言わざるをえないが、確認できた範囲から判断すると、長辺1.5m前後の楕円形基調を呈すると考えられる。確認面から炉底面までの深さは最大で33cmである。長軸方向は北北西である。〔埋土・堆積状況〕底部周辺に黒色シルト（3層）が堆積し、大部分が焼土ブロックや鉄滓・炉壁を多量に含む黒褐色シルトで埋没している。人為堆積と考えられる。〔壁・底面〕炉底は南東側に向かって傾斜し、わずかに立ち上がる。壁は北西の一部のみ確認でき、熱を受けて赤変している。〔重複遺構〕5号製鉄炉との新旧関係は不明。

5号製鉄炉（第143図、写真図版53）

〔位置〕2号工房跡の北東側に位置する。〔規模・形状〕残存状態は悪いが、確認できた規模は、北西～南東方向0.85m、北東～南西方向0.79mで、平面形は隅丸方形を呈する。確認面から炉底面までの深さは最大で10cmである。〔埋土・堆積状況〕鉄滓・焼土ブロック・炭化物を含む黒色シルトの単層である。〔壁・底面〕底面は北西側がやや窪むが南東側に向かって平坦になり、そのまま床面となつていて。北側の底面から壁面の一部が還元している。〔重複遺構〕4号製鉄炉との新旧関係は不明。

（6）炭置き場跡

1号炭置き場跡（第146図、写真図版53）

〔位置・検出状況〕IB11p付近、調査区東側の林道に面した部分に位置する。南側は林道構築時に

削平されている。Ⅲ層上面で黒褐色シルトのプランを検出した。〔規模・形状〕南側が削平されているため、詳細な規模は不明であるが、確認できた部分では長辺4.7m、短辺2.48mの不整長楕円形を呈する。確認面から底面までの最大の深さは58cmである。長辺を主軸とすると、N 15° Wである。〔埋土・堆積状況〕黒褐色シルトを主体とし、7層に細分した。最下部には黒褐色シルト（5層・6層）が堆積し、その上部に炭化物を多く含む黒色シルト層が全体的に水平に堆積している。この層より上位では黒褐色シルト主体で埋没しているが、南側（4a層）では黒みが強く、炭化物・鉄滓を含み、北側（2層）では焼土粒を含む。混入物が多く、上部は人為堆積の可能性が高いと考えられる。〔壁・底面〕底面は概ね平坦であるが、北側が浅く窪んでおり、その中央にPitを1個確認した。北壁と東壁、西壁南側は残存状態が良好で、底面から直立気味に立ち上がる。断面観察箇所の西壁は立ち上がりが不明瞭で、なだらかに立ち上がる。〔重複遺構〕1号工房跡、2号工房跡と重複し、1号工房跡より古く、2号工房跡より新しい。〔出土遺物〕羽口VG007~017、鉄滓類等が出土している。〔帰属時期〕検出状況や重複関係から古代に帰属すると考えられる。

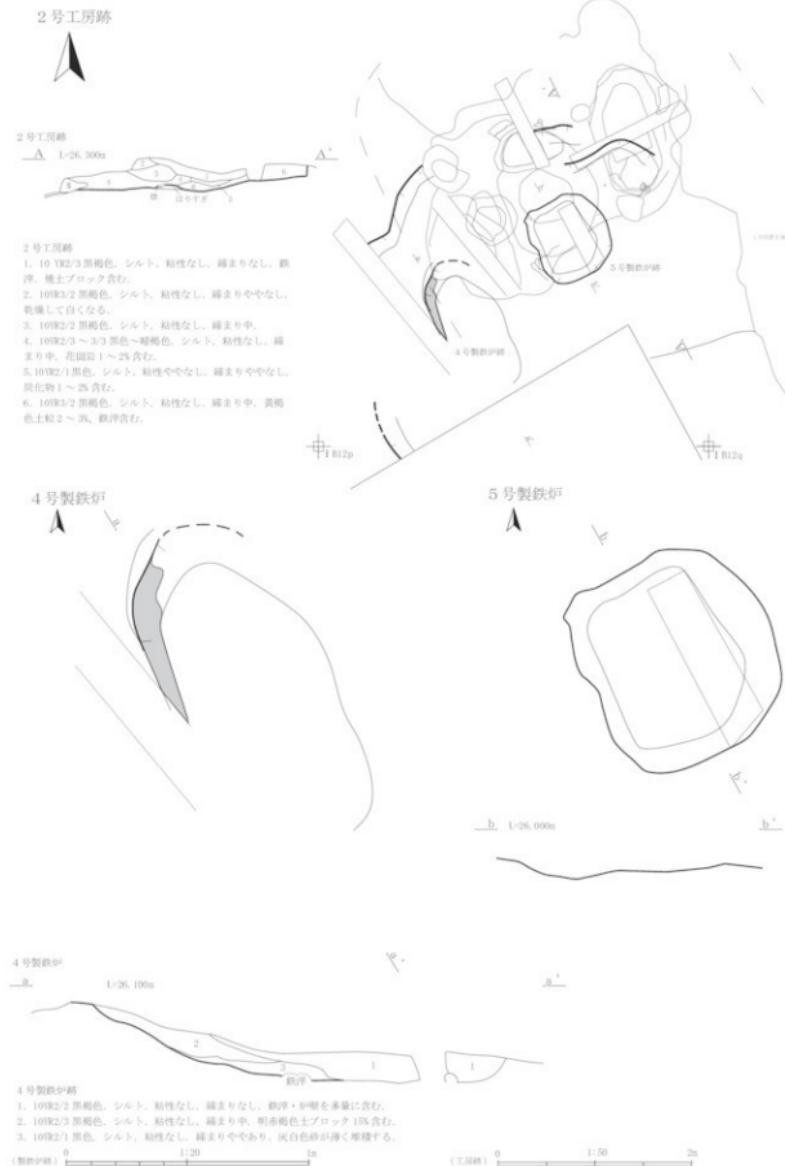
2号炭置き場跡（第146図、写真図版54）

〔位置・検出状況〕I B11o付近、調査区北側の斜面裾周辺に位置する。3号堅穴建物跡と同じ面で検出した。〔規模・形状〕確認できた規模は長辺4.08m、短辺2.02mの不整長楕円形を呈する。確認面から底面までの最大の深さは33cmである。長辺を主軸とすると、N 5° Wである。〔埋土・堆積状況〕4層に細分した。黒褐色砂もしくは黒褐色～暗褐色砂質シルトと炭化物主体層との互層で、最下部には7~8cmの炭化物主体層が水平に堆積している。〔壁・底面〕底面は南側に傾斜しているが、概ね平坦である。壁は、北側では直線的に立ち上がり、東側ではなだらかに立ち上がる。〔重複遺構〕3号堅穴建物跡と重複するが、断面観察箇所では、新旧関係を捉えられず、判断できなかった。最終的には3号堅穴建物跡ともに埋没している。〔出土遺物〕台石VS025、鉄滓類等が出土している。〔帰属時期〕検出状況や重複関係から古代に帰属し、3号堅穴建物跡と大きな時間差はないものと考えられる。

（7）廃 潤 場

1号廃潤場（第147図、写真図版49）

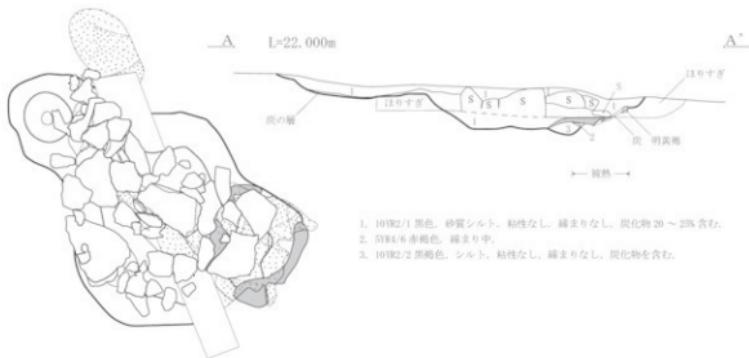
〔位置・検出状況〕I B12p付近、調査区東側の林道に面した部分に位置する。南半は林道構築時に削平を受けて消失している。工房の南側に位置し、Ⅲ層上面に形成されている。〔規模・形状〕林道構築時に削平を受けているため、正確な規模や形状は不明であるが、確認できた部分では6.2×2.35mの範囲にわたる。〔埋土・堆積状況〕3層に分層し、Ⅱ層を基本とする。鉄滓等を多く含む層は①層の下半から②層の上半である。〔重複遺構〕後述する包含層内に位置する。鉄滓と共に土師器等も出土しており、包含層との分離は困難である。そのため、鉄滓類の分布が非常に密な部分を廃潤場として認識し、廃潤場を含めた、土師器類が出土する部分を包含層と認識した。廃潤場と包含層は前述のとおり、鉄滓の出土量によるものであるため、完全に分離できるものではなく、一連の堆積過程で生じたものと捉えている。また、本来は1号工房跡や2号工房跡と重複していると考えられるが、削平や堆積土の流出により重複箇所が残存しておらず、新旧関係は不明と言わざるをえない。〔出土遺物〕土師器VP030・035・043~045・051・052・054・055・057、羽口VG021・022・024、鉄滓類等が出土している。〔帰属時期〕出土遺物や検出状況から古代に帰属すると考えられる。



第143図 2号工房跡

1号不明遺構
A

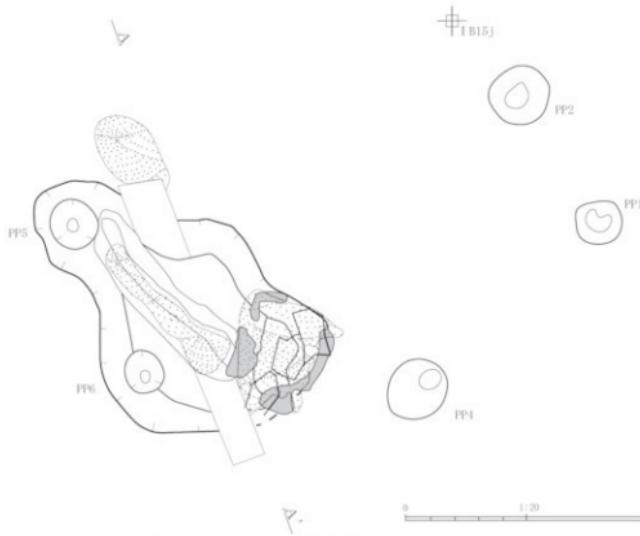
B15j



第 144 図 1号不明遺構 (1)

1号不明遺構 (縫除去後・周辺の柱穴検出)

A



第 145 図 1号不明遺構 (2)、柱穴

(8) 不明遺構

1号不明遺構（第144・145図、写真図版54）

【位置・検出状況】IB 15 i付近、調査区南西側の比較的平坦な面に位置し、Ⅲ層上面で花崗岩と炭化物が密集していることで確認した。【規模・形状】276×179cmの不整形を呈する。【埋土・堆積状況】2層に分層した。溝状に窪んだ部分では炭化物を含む黒褐色シルトが堆積し、大部分は黑色砂質シルトで埋没している。炭化物や礫の混入が見られ、人為堆積と考えられる。【壁・底面】底面中央が溝状に窪んでおり、その周囲は比較的平坦である。壁は底面からなだらかに立ち上がる。【重複遺構】なし。【出土遺物】鉄滓類等が出土している。【帰属時期】時期の特定できる遺物が伴わず、帰属時期を判断することはできなかった。

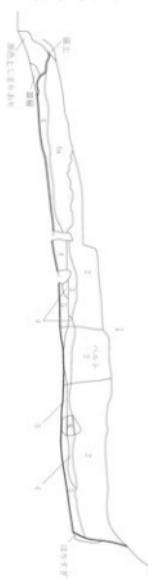
(9) 柱穴（第145図）

柱穴は8個検出した。規模等は第134図中に表で示した。PP 7・8は古代に帰属すると考えられる柱穴で、4号焼土遺構周辺で検出した。2個とも黒褐色シルトを主体としている。検出位置から4号焼土遺構に伴う柱穴の可能性が想定される。PP 1～6は1号不明遺構に隣接して円形状に配置されるように検出された。堆積土は1号不明遺構と類似する黒色土主体としており、1号不明遺構に関連する柱穴の可能性が高い。帰属する時期は1号不明遺構と同様、特定には至らなかつた。

(10) 包含層

調査区東側の中央部分、IB 11～13 l～q（林道より北側）で古代の遺物がまとまって出土しており、包含層として報告する。当初、1号・2号工房跡が確認されたIB 12・13 n o p付近は、堅穴建物跡や工房跡等の遺構が複数重複しているものと考えており、一連で堆積土の観察ができるよう、北東・南西ベルト（プランの長辺を通るベルト）とそれに直交するベルトをプラン毎に設定して、掘削を行った。また、IB 12・13 l m付近でも不整形のプランがあり、遺構の存在を想定し、十字のベルトを設定して掘削を行った。しかし、遺物は出土するものの、明瞭な遺構が確認できないため、包含層として取り上げを行った。前者は北東・南西ベルトを挟んで、南側は東から西へ①～⑦、北側は東から西へ⑧～⑭の番号を付し、包含層出土遺物として、取り上げを行った。なお、⑩は遺構が重複していることが明らかであったため、EとWに細分して取り上げた。後者は東側②を、南側を②、北側を②、西側を②として取り上げを行った。遺物出土層位は①a層・②層・②層下で、Ⅱ層に対比可能な②層からの出土が多い。1号廐津場と包含層の関係は、1号廐津場でも記載したとおりである。出土した遺物のうち、土師器V P030・035・038・039・041～058、石錘V S002～007・009、石匙V S012、スクレイバーV S014、石斧V S015、敲磨器類V S021、羽口V G023を掲載した。

1号炭置き場跡



1号炭置き場跡

1. 10YR 6/0 明黄褐色。粘性なし。縞まり中。ブロックでみられる。
2. 10YR 2/2 黒褐色。シルト。粘性なし。縞まり中。花崗岩小粒 7~10%。礫土粒 1~25% 含む。
3. 10YR 2/2 黒褐色。シルト。粘性なし。縞まりややあり。黄褐色土ブロック 3%。礫土 (少体?) ブロック 3~5%。鉄滓含む。
4. 10YR 2/1 黑色。炭化物 20~25% 含む。縞まりなし。
- 4a. 10YR 2/1.5 黑~黑褐色。シルト。粘性なし。炭化物 5~7%。鉄滓少量含む。
5. 10YR 2/3 黒褐色。シルト。粘性なし。縞まりややあり。花崗岩小粒 7~10% 含む。
6. 10YR 2/3 黒褐色。シルト。粘性なし。縞まりややなし。鉄滓含む。
7. 10YR 2/3 黒褐色。シルト。粘性なし。縞まり中。花崗岩 1~25% 含む。

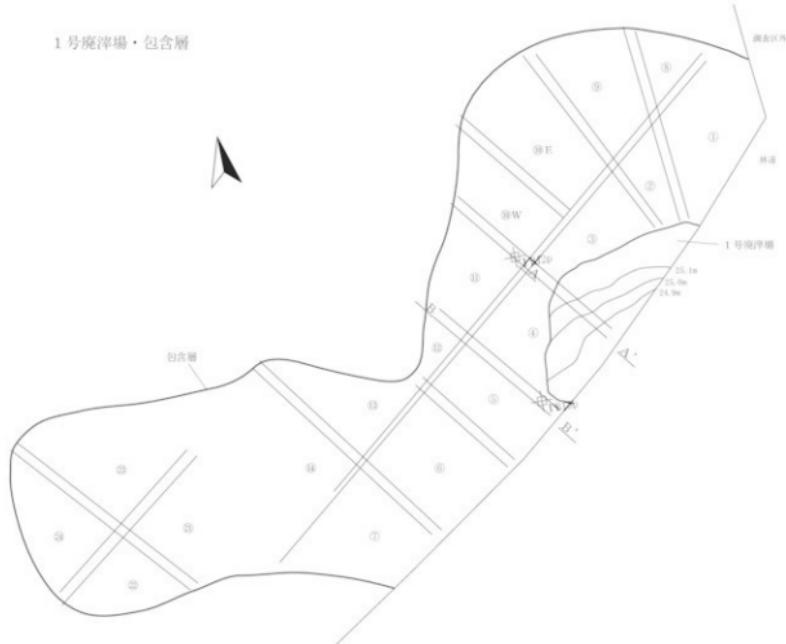
2号炭置き場跡

2号炭置き場跡



第146図 1・2号炭置き場跡

1号廢溝場・包含層



九三

- ①a層、10TBS/1～3/2 黑褐色。シルト、粘性なし。縛まり中～ややあり。羽口片、
浮石、 $\#4$ 砂岩ブロック多量含む。

②層、10TBS/1～2/2 黑褐色。シルト、粘性なし。縛まり中。 $\#4$ 砂岩ブロック 2
～3%、花崗岩粒 2～3% 含む。(Ⅲ層)

③層下、10TBS/2～2/3 黑褐色。シルト、粘性ややなし。縛まり中～ややなし。
暗褐色ブロック 10～15%、遺物少量含む。

Δ L=25, 300m



A⁺

- 包被層 B

 - ① 種 10YR3/1 ~ 1/2 黒褐色。シルト、粘性なし。縛まり中~やわらか。花園部 7~10% 軟むし。鉛鉄ほとんど含まれない。
 - ② 種 A の土が似るが 10YR2/4 が硬い。土塊片含む。

V 層 10YR3/4 ~ 4/4 褐色~黒褐色。シルト、粘性なし。縛まりややあり。花園部を多く含む。場所によっては人間の頭蓋骨。

 - ③ ~⑤ 一部には、木板の上にふき落れた赤褐色土を薄く併せて、界面が確認できない。そのため、最も詳しくして赤褐色の層の下に本層を確認できる。(「T-ROW 810」の北半では、花園部と黒褐色の層が混在し、木板も確認するにはならなかった)。
 - VI 層 10YR3/2 黒褐色。シルト、粘性なし。縛まりややあり。こぶし大の塊含む。花園部は V 層よりも多い。V 層と比べると細かい色調。

VII 層 10YR4/8 ~ 5/6 黑褐色~黄褐色。シルト、粘性なし。縛まりあり。

B. L=26,000n

(断面图) 0 1:50 2m

第 147 図 廃滓場・包含層

3 遺 物

(1) 繩文～弥生土器（第148・149図、写真図版109）

大コンテナ（32×42×30cm）約1箱（接合前）出土した。縄文時代中期後葉がほとんどを占める。大木8b式を中心にその前後を含むのは、間木戸II遺跡と同様であるが、大木8a-1式以前は出土していないようである。当該期以外では、弥生時代後期の土器が出土している（VP018、VP020、VP029）。観察表の“→”は調整順序を示し、矢印左側の方が前で、右側が後である。

(全子 順序)

(2) 土師器・須恵器（第150～152図、写真図版110・111）

土師器・須恵器は、出土遺物のうち、遺構出土資料を優先して掲載した。遺構出土資料の中では、遺構の時期決定が可能な出土状況のもので、かつ図化が可能なものを優先した。また、間木戸V遺跡の製鉄関連遺構の性格や時期を検討するため、別に丸数字の区画を設定して取り上げた包含層出土資料に関しても、可能な限り掲載した。VP001～VP028はすべて土師器である。須恵器は3号堅穴建物跡の埋土から小片が1点出土したのみである。小片のため図化できなかった。出土総量は、土師器が27,539.3g、須恵器が6gである。

1) 3号堅穴建物跡（VP001～VP009） 総量土師器3,863.5g、須恵器6g

VP001・VP002は床面直上から出土したもの。

VP001は壺の口縁部から肩部である。内外面ともにハケ後ミガキである。

VP002は壺の口縁部から底部である。外面はハケ後ミガキ、内面はミガキで内面黒色処理である。

VP003・VP004は埋土最下層から出土したもの。

VP003・VP004は壺の口縁部から底部である。VP003は外面がハケ後ミガキ、内面はミガキで黒色処理である。VP004は外面がハケ後ミガキ、内面はヘラナデ後ミガキで黒色処理である。口縁部の上面観が一部で波状に見えることから、花弁状口縁の可能性もある。

VP005・VP006は壁際の三角堆積から出土したもの。

VP005は壺の口縁部から肩部である。外面はミガキ、内面はハケ後ミガキである。口唇部は摘み上げている。

VP006は壺である。外面はミガキ、内面はハケ後ミガキである。

VP007・VP009は埋土下位から出土したもの。

VP007は壺の口縁部から底部である。外面はハケ後ミガキ、内面はミガキで黒色処理である。

VP009は壺の口縁部から肩部である。肩部は段になる。内外面ともにミガキである。内面のミガキは幅の広いものである。

VP008は埋土上位から出土したもの。

VP008是有段の壺の口縁から底部である。段は2段で、内面は輪済みと一致する。ミガキにより沈線状に見える。底部は角に厚みのある平底である。内外面ともにミガキで内面黒色処理である。

2) 2号工房跡（VP010） 土師器62.1g

VP010は2号工房跡の下から出土したもの。遺構に直接伴う資料ではなく、包含層出土資料であ

る。しかし、遺構の上限を示す可能性があり、かつ類例が少ないため掲載した。

VP010は赤彩壺の口縁部の小破片である。赤彩は縦の直線状に口縁部の内外面に施文する。内外面ともにヨコナデである。

3) 3号焼土遺構 (VP011) 総量土師器116.7g

VP011は3号焼土遺構から出土したもの。

VP011は壺の口縁部から胴部である。内外面ともにハケである。

4) 包含層 (VP012～VP029) 総量土師器22,409.1g

VP012～VP017は壺である。VP012～VP015は口縁部から胴部。VP012は口縁部が受け口状に内湾する。内外面ともにハケ後ミガキである。VP013は肩部が段になる。外面がハケ後ミガキ、内面はハケである。外面のミガキは線状の痕跡に見える。VP014は外面がハケ、内面はハケで、頸部のみその後ナデである。VP015は内外面ともにハケである。VP016・VP017は胴部から底部。VP016の外面はハケ後ミガキ、内面はハケである。VP017は内外面ともにハケである。

VP018は壺である。肩部は段になる。内外面ともにハケ後ミガキである。

VP019～VP023は壺である。VP019は口縁部から肩部と胴部から底部の同一個体。内外面ともにミガキである。VP020は口縁部から胴部。内外面ともにハケ後ミガキである。VP021は肩部から胴部。外面はミガキ、内面はヘラナデ後ミガキである。VP022は胴部。内外面ともにハケ後ミガキである。VP023は大型の底部。内外面ともにミガキである。VP024は四脚付きの小型壺である。底部外面はやや丸みがあり、そこに丸みのある脚がつく。外面はミガキ、内面はナデ後ミガキである。

VP025～VP029は壺である。VP025～VP027・VP029は有段のもの。VP025は口縁部から胴部。段は1段で、内面の段も明瞭で、輪積みと一致する。口縁はやや内湾する。内外面ともにミガキである。VP026は碗形の口縁部から底部。段は沈線で表現するもので、2条あり、輪積みと一致しない。VP027は口縁部から底部。段は1段で、輪積みと一致する。内外面ともにミガキである。VP028は底部。内外面ともにミガキである。VP029は口縁部から胴部。段は1段で、輪積みと一致する。

(佐藤 あゆみ)

(3) 土 製 品 (第154図、写真図版110・113)

紡錘車が2点出土し、全点を図化した。いずれも遺構外からの出土で欠損部が目立つ。ミガキ調整は認められない。

(佐藤 あゆみ)

(4) 石 器 (第153図、写真図版112)

本調査で出土した石器は、前述した間木戸II遺跡の分類にならい下記に記載する。

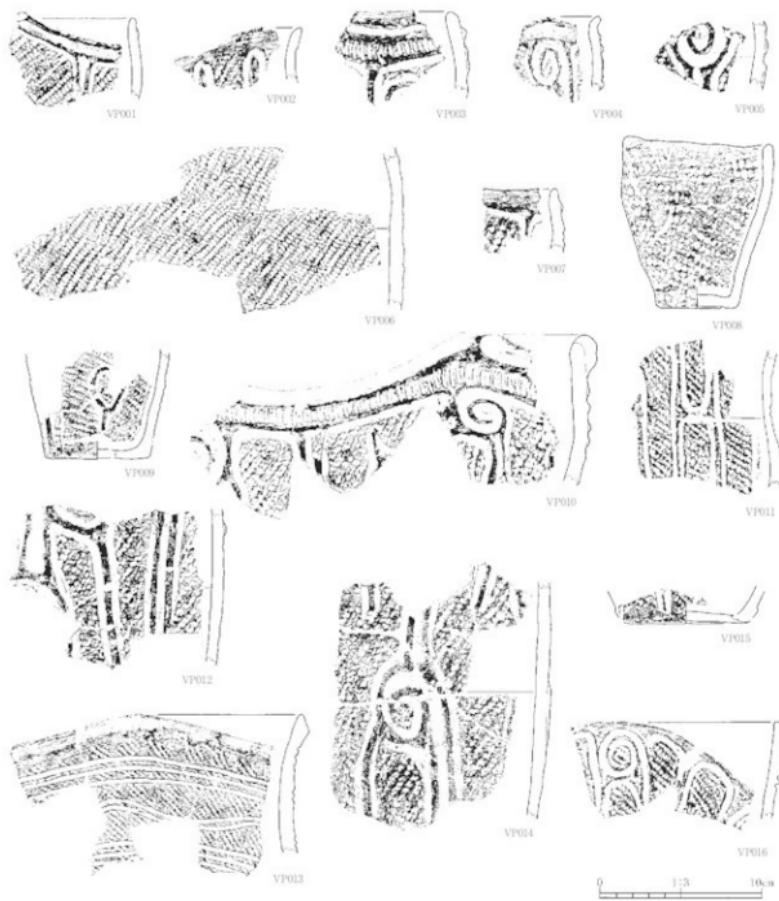
石錐

11点出土。7点を図化と写真掲載をした。

1a類は、VS001、VS002、VS004、VS005、VS008、VS009、VS011である。VS005はアスファルト様の黒色物が付着する。

1b類は、VS003、VS006、VS010である。VS006は厚みがあり石錐の可能性もある。

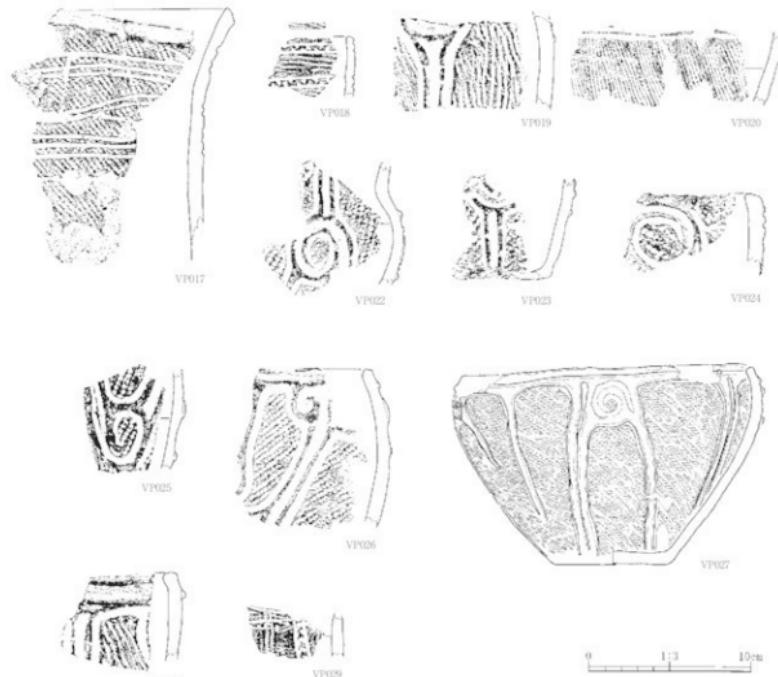
2類は、VS007のみである。



第148図 繩文～弥生土器 (1)

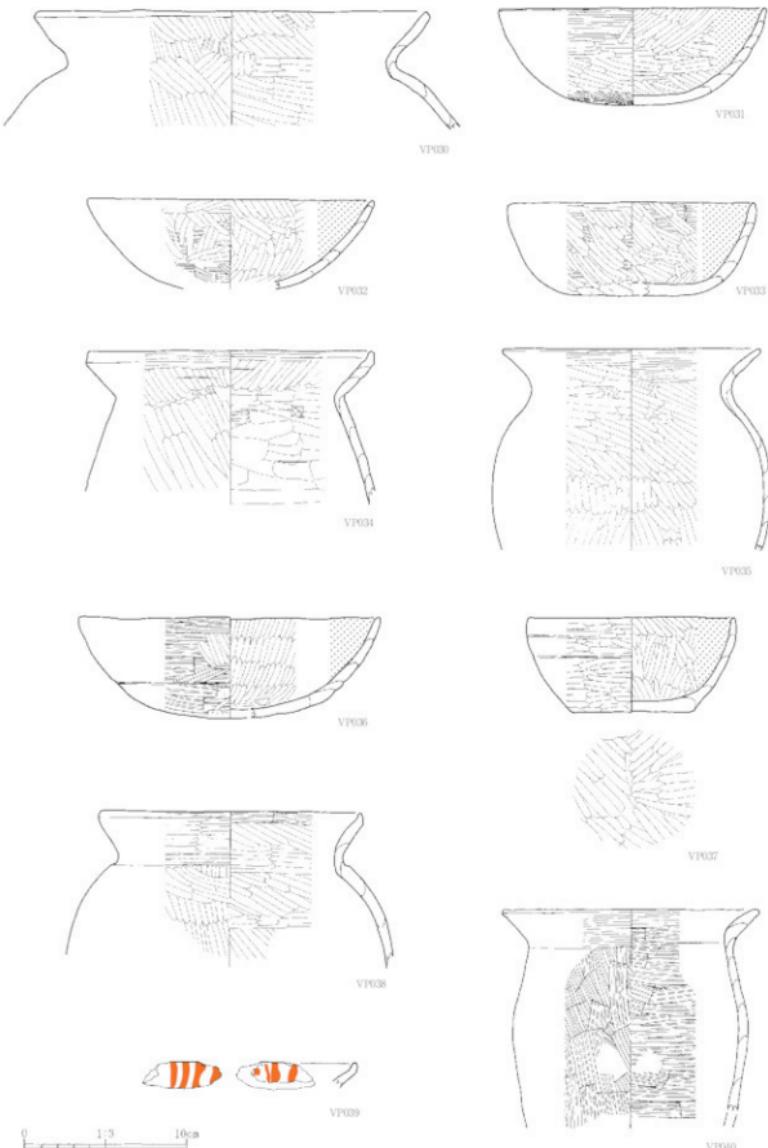
第13表 間木戸V遺跡縄文～弥生土器観察表

| 測量No. | 出土地名・層位 | 器種・部品 | 外 形 | 内 部 | 内 部 (縫合部) | 備 考 | 本文 記載 | 図 版 | 写真 |
|-------|---------------------------------------|----------------|----------------------|--------|-----------------|--------|----------|--------|----|
| V1901 | 3号壁穴柱頭部 SW 14 WE 1/4a | 縦跡・口縁部 | II:縫合部・底面・直筒・縄文装饰なし | | | | 148 | 139 | |
| V1902 | 3号壁穴柱頭部 E-C8a | 縦跡・口縁部 | II:テラ→底面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1903 | 3号壁穴柱頭部 NE | 縦跡・口縁部 | 底・横口付・縦面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1904 | 3号壁穴柱頭部 NE | 縦跡・口縁部 | II:テラ→底面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1905 | 3号壁穴柱頭部 NE | 縦跡・底面 | 底面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1906 | 1号竪穴場跡 -2号柱頭部の下、縄文レシテ1-2B、3a 2号天井跡 | 縦跡・側 (1号周未溝) | II:テラ | | | | 148 | 139 | |
| V1907 | 1号竪穴場跡 -2号柱頭部の下、縄文レシテ1-2B、3a 2号天井跡 | 縦跡・口縁部 | II:底テラ→縦面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1908 | 縄文レシテ1-2回 | 小型鉢 (断面形) | II:テラ。ナメ。底面ナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1909 | 縄文レシテ1-2回 | 小型鉢 (1/2周未溝) | II:底テラ・直筒型・口縁内凹・縄文ナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1910 | 1号、縄文レシテ3-3b | 縦跡・口縁 (1/2周未溝) | II:底テラ・直筒型・口縁内凹・縄文ナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1911 | 縄文レシテ3-4回 | 縦跡・底面 | II:底テラ・縦面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1912 | 縄文レシテ3-4回 | 縦跡・底面 | II:底テラ→縦面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1913 | 縄文レシテ3-4回 | 縦跡・底面 | II:テラ→底面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1914 | 縄文レシテ3-4回 | 底面 (1/2周未溝) | II:テラ→底・底面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1915 | 縄文レシテ3-4回 | 縦跡・口縁部 | II:テラ→底・底面に沿うナメ | | | | 148 | 139 | |
| V1916 | 縄文レシテ3-4回、Uw | 縦跡 (1/2周未溝) | II:テラ→底・底面 | | | | 148 | 139 | |

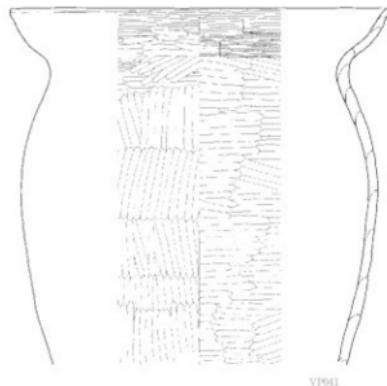


第149図 繩文～弥生土器（2）

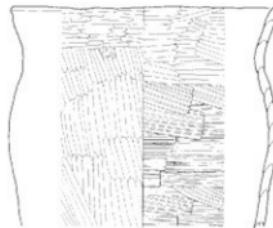
| 査定名 | 出土地点・場所 | 器種・部品 | 内・外 内縫目・側部・底足・表面・縄文模様など) | 内・外 (縫目など) | 備考 | 本文 記載 | 図 写真 |
|-------|-------------|---------|-----------------------------|---------------|--------------|----------|---------|
| VP017 | 横穴式巣状構造、(W) | 縄目・口・側部 | LHテクニクス・丸目 | ナゲ | 出土同一個体? | 119 | 100 |
| VP018 | BB 12 m | 縄目・口縫目 | LHテクニクス・丸目 | ナゲ | | 119 | 100 |
| VP019 | 遺物坑(ト) | 縄目・側部 | 直縫目(ト) テクニクス・丸目 | ナゲ | 上の側面、出土複合剖面標 | 119 | 100 |
| VP020 | 遺物坑(ト) | 底、口 | 縄目・口縫目? | LHナメテ・圓窓状孔 | | 119 | 100 |
| VP021 | 遺物坑(ト) | 縄目・口縫目 | | | 同じに複数 | | |
| VP022 | 遺物坑(ト) | 口・側部 | LHテクニクス・縫目・丸目 | ナゲ発見 | | 119 | 100 |
| VP023 | 遺物坑(ト) | 口・側部 | LHテクニクス・縫目 | ナゲ先沢 | 外底縫目による改変? | 119 | 100 |
| VP024 | (ト) | 縄目・側部 | LHテクニクス・丸目 | ナゲ | 前回大打扱着 | 119 | 100 |
| VP025 | 遺物坑(ト) | 縄目・側部 | LHテクニクス・縫目 | ナゲ | 馬入。西口 | 119 | 100 |
| VP026 | | 縄目・側部 | LHテクニクス・縫目 | ナゲ丁寧 | | 119 | 100 |
| VP027 | | | | ナゲ | | 119 | 100 |
| VP028 | | | | | | 119 | 100 |
| VP029 | | | | | | 119 | 100 |



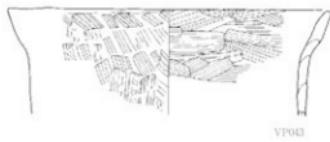
第150図 土師器(1)



VP041



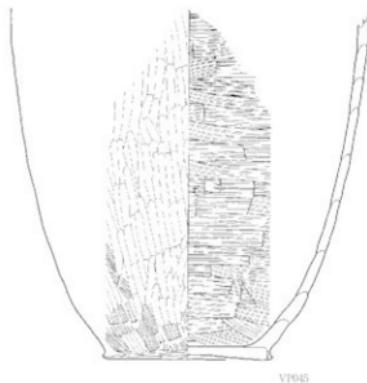
VP042



VP043



VP044



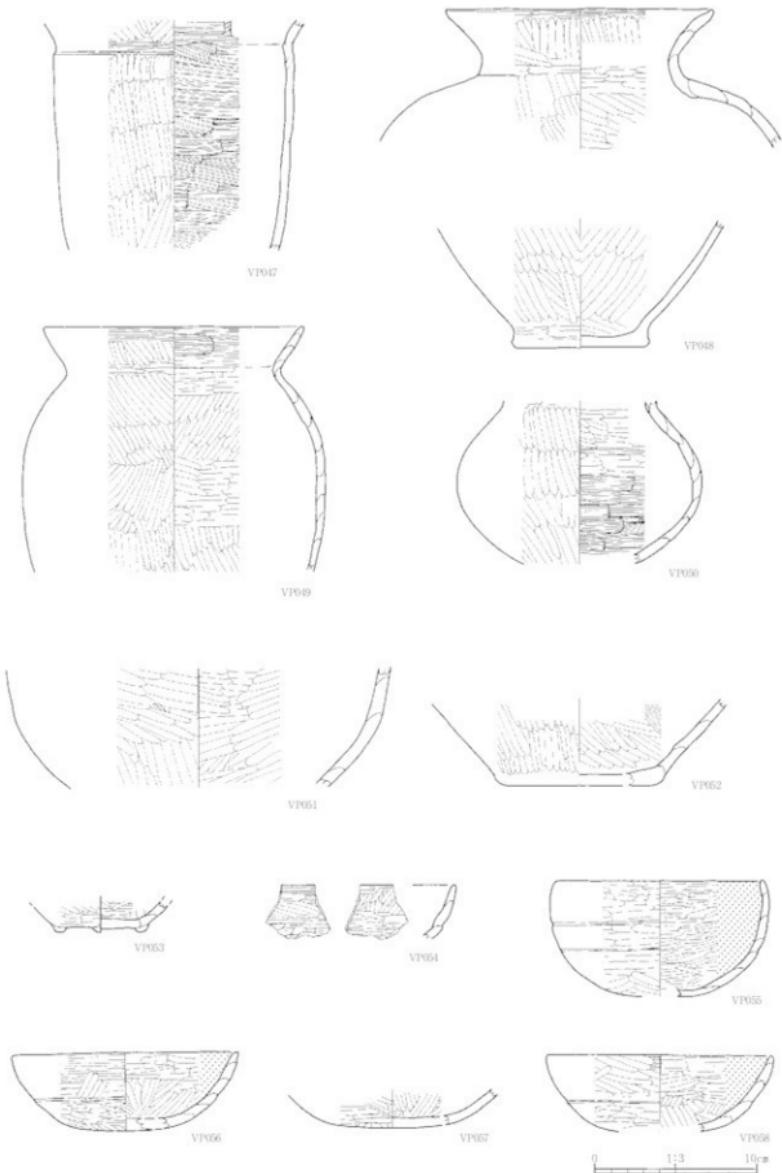
VP045



VP046

0 1:3 10cm

第 151 図 土師器 (2)



第152図 土師器(3)

石匙

1点出土。図化と写真掲載をした。

横型の頁岩製石匙である。つまみ部は両面調整、刃部は欠損している。

スクレイパー

2点出土。1点図化と写真掲載をした。

いずれも、2類の削器と考えられる。VS013は、両刃に連続的な刃部を作り出している。

石斧

1点出土。図化と写真掲載をした。

VS015は花崗閃緑岩の磨製石斧である。稜線が認められ、刃部は欠損している。

敲磨器

8点出土。1点図化と写真掲載をし、1点を写真掲載のみとした。

VS020は、掌におさまる円錐で下面が平坦になる。下面には敲打痕、裏面には黒色物の付着が認められる。

台石

2点出土。観察表の記載のみとした。

(佐藤 あゆみ)

(5) 鉄 製 品

4点出土して、3点を図化した。VG003は、鉄族の頭部のみで、1号製鉄炉の炉面から出土した。VG004は楔状鉄製品で近代のものと思われる。VG006は蕨手刀の座金部である。VG005はVG003と同じ3号堅穴建物跡から出土した鉄製品で刀片と思われる。(詳細は後述のⅦ総括)

(佐藤 あゆみ)

(6) 羽 口

中コンテナ1箱出土し、3点を図化と写真掲載をし、15点を写真掲載のみとした。全体的に欠損が多く、掲載基準は、外・内径の測定が可能か否か、羽口の制作手法が観察出来るもので判断している。内径の平均値は約3.3cm、外径は8.1cmであった。外径の大きさはその残存部によても違いがあるが、内径については、概ね3~4cmほどに統一されている。装着部は鉄滓の付着が著しいが、VG009のように、羽口が溶解して滓化しているのも見受けられた。輪側の末端部は滓の付着が認められず、ヘラ状工具痕や指の圧痕と思われる凹部、内面には芯棒の痕跡が観察された。なお、前述通り出土資料は欠損部が多かったため、装着角度の算出は統計として特徴を数字的に示すことが不可能であると判断し計測は行っていない。

(佐藤 あゆみ)

(7) 炉 壁

中コンテナ2箱出土し、5点を写真掲載のみとした。羽口同様に、全体の形状が分かる資料が少ない。VG025・VG026は、炉壁の芯棒痕と思われる痕跡が認められる。これは木舞孔と呼ばれるものと考えられる。炉体を構築する際に木舞を造りそこに材料である粘土を貼り付けていった痕跡と思われる。表面は、指の圧痕と思われる凸凹が認められる。当初は、通風口と考えたが、滓の付着部や炉壁の角の位置等から通風口では装着角度が不釣り合いと認識したものである。

炉壁の特徴は、分類中に外観を観察した内容を下記に列記する。

・1号炭置き場出土炉壁

2~5cmに砕けたものがほとんど。10YR8/6黄橙色のものは軟質で、スサ少なめ。10YR5/1褐灰色のものは、軽い。5YR6/8橙色のものは、鉄滓の付着が目立つ。いずれも細礫を多く含んでいた。熱の伝わりが場所によって違うからだろうか。

・1号工房跡出土炉壁

7.5YR8/8黄橙色のものは軟質で、スサ少なめ。5YR7/8橙色のものは1号炭置き場跡より多く見られスサが混じる。

・2号工房跡出土炉壁

炉1からは、10YR5/1褐灰色のものが目立つ。1号工房跡下として取り上げている物に5YR6/8橙色で鉄滓の付着が顕著な物多い。

・排滓場から出土した炉壁

10YR6/2灰黄褐色で脆いものが多い。

5YR6/8橙色で鉄滓の付着が顕著な物は、炉の下部に使用された炉壁と考えられる。粘土質でスサの混じりが少なく、補強の役目で貼られたものであろうか。

(佐藤 あゆみ)

(8) 鉄 淚 類

鉄滓は、鉄原料となる砂鉄の中に含まれる不純物が高温で熱せられることで熔融し、排出したもので、工房跡や廃滓場から出土している。分類については、遺跡間でのデータ比較を有効なものとするために、同じ機器で行なうことが望まれるが、当センターで使用してきたメタルチェッカー（MR-50B）がほとんど使用できない状態であるため、今回の分類では金属探知機「下地センサーEX（シンワ測定株式会社製）」と強力磁石「ハンドマグネット着脱式A-2（シンワ測定株式会社製）」を使用した。今回の調査では鍛冶炉が検出されていないことと、楕円形滓や鍛造剥片、粒状滓等鍛冶に伴う鉄滓が見られないことから、製鉄に関係する鉄滓と判断して、分類を行っている。鉄滓の分類は、まず、強力磁石を使用した磁着の有無を検査し、磁着した鉄滓を磁着遺物としてさらに金属探知機を使用した検査を行った。磁着のしない鉄滓は非磁着遺物（鉄滓C）とした。金属探知機を使用した検査は、反応により鉄塊系遺物、含鉄（大）遺物（鉄滓A）、含鉄（小）遺物（鉄滓A'）、磁化遺物（鉄滓B）とした。これらを色調や形状により以下のように分類した。

鉄塊系遺物

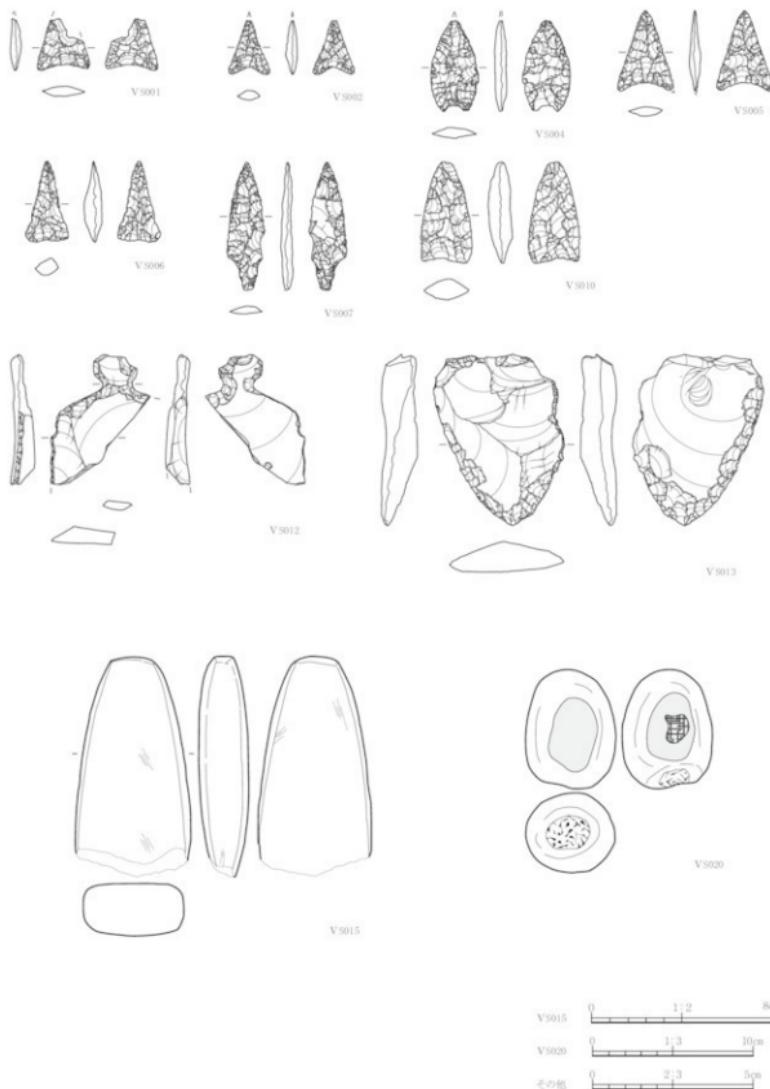
表面は鋸等によりデコボコしており、色調は赤褐色を呈する。鉄が多く残留し、磁着性が強く、金属探知機で緑色のランプが連続点灯するほどに非常に強く反応する。

流出滓A 1類

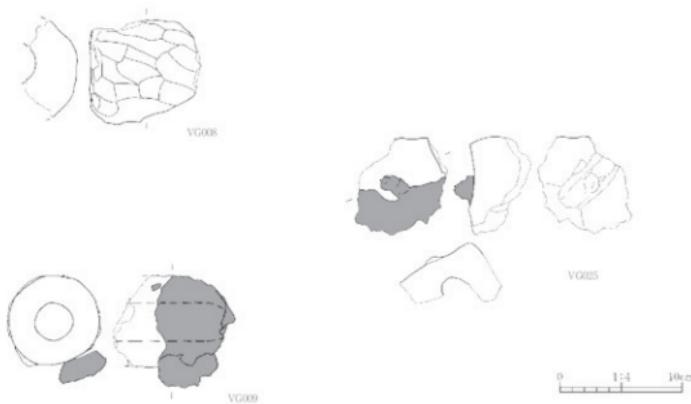
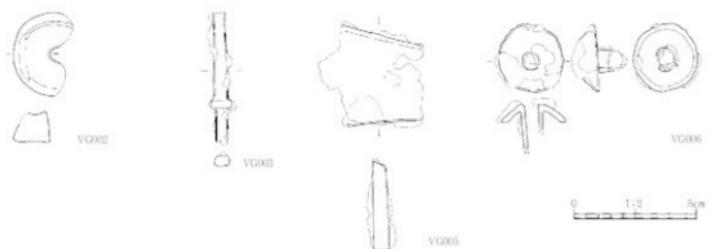
炉外へ流れ出た鉄滓が急速に冷えて固まった流動状の滓で、表面は平滑で、流れた痕跡が認められる。色調は青黒色や青灰色を呈する。磁着性が強く、金属探知機での反応は、緑色のランプが点灯したり、赤色から緑色のランプの間を行き来したりする反応を示す。

流出滓A' 1類

炉外へ流れ出た鉄滓が急速に冷えて固まった流動状の滓で、表面は平滑で、流れた痕跡が認められる。色調は青黒色や青灰色を呈する。磁着性が強いが、金属探知機にはかすかに反応し、赤ランプが1つ点灯する程度である。



第 153 図 石器



第154図 土製品、鉄製品、羽口、炉壁

流出滓B 1類

炉外へ流れ出た鉄滓が急速に冷えて固まった流動状の滓で、表面は平滑で、流れた痕跡が認められる。色調は青黒色や青灰色を呈する。磁着性が強いが、金属探知機には反応しない。

流出滓C 1類

炉外へ流れ出た鉄滓が急速に冷えて固まった流動状の滓で、表面は平滑で、流れた痕跡が認められる。色調は青黒色や青灰色を呈する。磁着性がなく、金属探知機にも反応しない。

炉内滓A 2類

炉内に生成された滓全般である。表面は気泡が弾けたようにデコボコした状態を呈しているものや、燃料の木炭等が食い込んだ状態のもの等がある。色調は全体的に赤褐色を呈する。磁着性が強く、金属探知機での反応は、緑色のランプが点灯したり、赤色から緑色のランプの間を行き来したりする反応を示す。

炉内滓A' 2類

炉内に生成された滓全般である。表面は気泡が弾けたようにデコボコした状態を呈しているものや、燃料の木炭等が食い込んだ状態のもの等がある。色調は青黒色を呈する。磁着性が強く、金属探知機での反応は、緑色のランプが点灯したり、赤色から緑色のランプの間を行き来したりする反応を示す。

炉内滓A'' 2類

炉内に生成された滓全般である。表面は気泡が弾けたようにデコボコした状態を呈しているものや、燃料の木炭等が食い込んだ状態のもの等がある。色調は全体的に赤褐色を呈する。磁着性が強いが、金属探知機にはかすかに反応し、赤ランプが1つ点灯する程度である。

炉内滓B 2類

炉内に生成された滓全般である。表面は気泡が弾けたようにデコボコした状態を呈しているものや、燃料の木炭等が食い込んだ状態のもの等がある。色調は青黒色を呈する。磁着性が強いが、金属探知機には反応しない。

炉内滓B' 2類

炉内に生成された滓全般である。表面は気泡が弾けたようにデコボコした状態を呈しているものや、燃料の木炭等が食い込んだ状態のもの等がある。色調は全体的に赤褐色を呈する。磁着性が強いが、金属探知機には反応しない。

炉内滓C 2類

炉内に生成された滓全般である。表面は気泡が弾けたようにデコボコした状態を呈しているものや、燃料の木炭等が食い込んだ状態のもの等がある。色調は全体的に赤褐色を呈する。磁着性がなく、金属探知機にも反応しない。

炉内滓C' 2類

炉内に生成された滓全般である。表面は気泡が弾けたようにデコボコした状態を呈しているものや、燃料の木炭等が食い込んだ状態のもの等がある。色調は全体的に赤褐色を呈する。磁着性がなく、金属探知機にも反応しない。

炉底滓A 3類

製鉄炉の炉底に生成された滓で、裏面に青灰色の砂が付着している。表面は平滑で青黒色を呈するものと、デコボコしており赤褐色を呈するものがある。工具で搔いたような痕跡が見られるものもある。磁着性が強いが、金属探知機にはかすかに反応し、赤ランプが1つ点灯する程度である。

炉底滓A' 3類

製鉄炉の炉底に生成された滓で、裏面に青灰色の砂が付着している。表面は平滑で青黒色を呈するものと、デコボコしており赤褐色を呈するものがある。磁着性が強いが、金属探知機にはかすかに反応し、赤ランプが1つ点灯する程度である。

炉底滓B 3類

製鉄炉の炉底に生成された滓で、裏面に青灰色の砂が付着している。表面は平滑で青黒色を呈するものと、デコボコしており赤褐色を呈するものがある。磁着性が強いが、金属探知機には反応しない。

炉底滓C 3類

製鉄炉の炉底に生成された滓で、裏面に青灰色の砂が付着している。表面は平滑で青黒色を呈するものと、デコボコしており赤褐色を呈するものがある。工具で搔いたような痕跡が見られるものもある。磁着性がなく、金属探知機にも反応しない。

炉壁付着滓A 4類

炉壁が付着した滓である。磁着性が強いが、金属探知機にはかすかに反応し、赤ランプが1つ点灯する程度である。

炉壁付着滓A' 4類

炉壁が付着した滓である。磁着性が強いが、金属探知機にはかすかに反応し、赤ランプが1つ点灯する程度である。

炉壁付着滓B 4類

炉壁が付着した滓である。磁着性が強いが、金属探知機には反応しない。

炉壁付着滓C 4類

炉壁が付着した滓である。磁着性がなく、金属探知機にも反応しない。

第14表 鉄滓出土量一覧(1)

| 鉄塊系 遺物 | 流出滓 | | | | 炉内滓 | | | | |
|--------------------|------|-------|--------|-------|----------|---------|-------|---------|--------|
| | A1 | A' 1 | B1 | C1 | A2 | A2' | A' 2 | A' 2' | B2 |
| 3号堅穴建物跡 | 3601 | 38.7 | 0.0 | 21.3 | 11653.0 | 909.9 | 0.0 | 1541 | 0.0 |
| | 18 | 0.2 | 0.0 | 0.1 | 589 | 4.6 | 0.0 | 0.8 | 0.0 |
| 3号堅穴建物跡・ 2号炭置き場 | 0.0 | 0.0 | 850 | 0.0 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 127 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 766 | 0.0 | 60 | 0.0 | 0.0 | 115 | 0.0 |
| 1号工房跡 1号製鉄炉 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2733.0 | 386.0 | 0.0 | 1589.0 | 20.2 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 16.0 | 23 | 0.0 | 9.3 | 0.1 |
| 1号工房跡 2号製鉄炉 | 0.0 | 0.0 | 1041 | 0.0 | 598.0 | 1107.7 | 0.0 | 1488.5 | 63.4 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 4.4 | 8.1 | 0.0 | 10.9 | 0.5 |
| 1号工房跡 3号製鉄炉 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 213.8 | 0.0 | 0.0 | 132.9 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 46.6 | 0.0 | 0.0 | 28.9 | 0.0 |
| 1号工房跡 4号製鉄炉以外 | 0.0 | 0.0 | 169 | 20.3 | 7736.2 | 799.4 | 54.9 | 2108.0 | 67.6 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | 331 | 3.4 | 0.2 | 9.0 | 0.3 |
| 2号工房跡 4号製鉄炉 | 0.0 | 0.0 | 71 | 1.7 | 3803.5 | 112.4 | 92.9 | 842.0 | 12.2 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 29.5 | 0.9 | 0.7 | 6.5 | 0.1 |
| 2号工房跡 5号製鉄炉 | 0.0 | 0.0 | 542 | 4.2 | 2847.9 | 56.9 | 0.0 | 1564 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 15 | 0.1 | 79.6 | 1.6 | 0.0 | 4.4 | 0.0 |
| 2号工房跡 製鉄炉以外 | 0.0 | 0.0 | 2377.0 | 472.7 | 2129.2 | 1864.7 | 91.1 | 2774.3 | 158.2 |
| | 0.0 | 0.0 | 43 | 0.9 | 39.0 | 3.4 | 0.2 | 5.1 | 0.3 |
| 1号炭置き場跡 | 0.0 | 0.0 | 415.8 | 78.4 | 35083.6 | 6603.8 | 260.8 | 2785.9 | 1297.5 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.1 | 57.1 | 10.8 | 0.4 | 4.5 | 2.1 |
| 2号炭置き場跡 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 67.1 | 284.7 | 2116.4 | 0.0 | 115.5 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 7.5 | 55.5 | 0.0 | 3.0 | 0.0 |
| 1号魔津場 | 0.0 | 0.0 | 2614.9 | 109.8 | 184100.5 | 4900.4 | 17.3 | 33524 | 274.5 |
| | 0.0 | 0.0 | 11 | 0.0 | 80.9 | 2.2 | 0.0 | 1.5 | 0.1 |
| 包含層①～⑩ | 0.0 | 180.8 | 156.9 | 0.0 | 38238.1 | 963.7 | 7.4 | 893.8 | 60.3 |
| | 0.0 | 0.4 | 0.4 | 0.0 | 86.0 | 2.2 | 0.0 | 2.0 | 0.1 |
| 包含層⑪～⑯ | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 184.5 | 36.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 83.6 | 16.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 1号土坑 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.6 | 0.0 | 28.0 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.4 | 0.0 | 57.4 | 0.0 |
| 2号土坑 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 73.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 4号土坑 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 85.2 | 0.0 | 172.7 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 185 | 0.0 | 37.4 | 0.0 |
| 5号土坑 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 18.6 | 0.0 | 10.4 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 16.5 | 0.0 | 9.2 | 0.0 |
| 2号焼土遺構 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 57.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 1号不明遺構 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 174.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 67.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 遺構外 | 0.0 | 85.4 | 533.4 | 20.9 | 43917.1 | 1416.7 | 0.0 | 1292.8 | 505.5 |
| | 0.0 | 0.2 | 1.0 | 0.0 | 85.3 | 2.8 | 0.0 | 2.5 | 1.0 |
| 排土一括 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 446.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | 3601 | 304.9 | 6365.3 | 796.4 | 35345.9 | 21381.5 | 524.4 | 17909.4 | 2459.4 |
| | 0.1 | 0.1 | 12 | 0.1 | 659 | 4.0 | 0.1 | 3.3 | 0.5 |
| | | | | | | | | | 1.1 |

上段：重量（g） 下段：遺構等毎に占める鉄滓類の比率（%）

| 炉内滓 | | | 炉底滓 | | | | 炉壁付着滓 | | | | 重量合計 |
|-------|---------|---------|--------|------|-----|---------|--------|--------|--------|---------|----------|
| B2' | C2 | C2' | A3 | A' 3 | B3 | C3 | A4 | A' 4 | B4 | C4 | |
| 0.0 | 1337.5 | 1649.7 | 0.0 | 19.6 | 0.0 | 3577.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 30.1 | 19780.8 |
| 0.0 | 6.8 | 8.3 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 18.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 100% |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 110.9 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 1.8 | 1971.5 | 495.6 | 0.0 | 0.0 | 5.1 | 9651.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 11.7 | 17032.6 |
| 0.0 | 11.6 | 2.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 56.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 100% |
| 16.4 | 2772.9 | 1776.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2840.9 | 0.0 | 205.3 | 150.4 | 2283.3 | 13647.4 |
| 0.1 | 20.3 | 13.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.8 | 0.0 | 1.5 | 1.1 | 16.7 | 100% |
| 0.0 | 31.3 | 39.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 27.8 | 459.1 |
| 0.0 | 6.8 | 8.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.1 | 100% |
| 16.2 | 4595.0 | 1559.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5295.2 | 144.9 | 282.3 | 0.0 | 87.3 | 23373.6 |
| 0.1 | 19.7 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.7 | 0.6 | 1.2 | 0.0 | 0.4 | 100% |
| 9.9 | 3537.6 | 2962.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1162.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 12898.5 |
| 0.1 | 27.4 | 23.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 9.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 1.1 | 363.9 | 47.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3576.5 |
| 0.0 | 10.2 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 250.2 | 13143.4 | 2510.8 | 488.7 | 0.0 | 0.0 | 4298.7 | 8.0 | 889.7 | 33.8 | 18666.4 | 54650.5 |
| 0.5 | 24.0 | 4.6 | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 7.9 | 0.0 | 1.6 | 0.1 | 3.4 | 100% |
| 15.2 | 6399.6 | 768.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5345.7 | 420.6 | 0.0 | 0.0 | 1610.7 | 61409.7 |
| 0.0 | 10.4 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 8.7 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 100% |
| 0.0 | 18.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1163.0 | 3813.0 |
| 0.0 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 30.5 | 100% |
| 70.6 | 11469.5 | 2266.8 | 835.8 | 5.6 | 1.9 | 6106.9 | 806.1 | 239.9 | 2403.7 | 6647.8 | 227651.1 |
| 0.0 | 5.0 | 1.0 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 2.7 | 0.4 | 0.1 | 1.1 | 2.9 | 100% |
| 24.1 | 2057.7 | 914.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 606.1 | 0.0 | 0.0 | 3.6 | 245.5 | 44456.2 |
| 0.1 | 4.6 | 2.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 100% |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 220.6 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 48.8 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 73.6 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 0.0 | 186.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 461.4 |
| 0.0 | 40.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 0.0 | 83.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 112.5 |
| 0.0 | 74.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 57.9 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 83.7 | 258.0 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 32.4 | 100% |
| 67.3 | 1120.5 | 355.6 | 181.1 | 35.3 | 0.0 | 1148.7 | 283.2 | 0.0 | 173.1 | 220.5 | 51514.3 |
| 0.1 | 2.2 | 0.7 | 0.4 | 0.1 | 0.0 | 2.2 | 0.5 | 0.0 | 0.3 | 0.4 | 100% |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 446.9 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100% |
| 472.8 | 49088.8 | 15346.1 | 1505.6 | 60.5 | 7.0 | 40040.3 | 1662.8 | 1617.2 | 2764.6 | 14278.0 | 536053.9 |
| 0.1 | 9.2 | 2.9 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 7.5 | 0.3 | 0.3 | 0.5 | 2.7 | 100% |

■は各遺構毎で最も比率の高い資料を示す

第14表 鉄滓出土量一覧(2)

| 鉄塊系 遺物 | | 流出滓 | | | | 却内滓 | | | | |
|---------------|----|-------|--------|-------|----------|--------|-------|---------|-------|--------|
| | | A1 | A' 1 | B1 | C1 | A2 | A' 2 | A' 2' | B2 | |
| 1号工房跡 | 00 | 00 | 16.9 | 20.3 | 7736.2 | 799.4 | 54.9 | 2108.0 | 67.6 | 588.6 |
| 1号工房跡 1号製鉄炉 | 00 | 00 | 0.0 | 0.0 | 2733.0 | 386.0 | 0.0 | 1589.0 | 20.2 | 166.9 |
| 1号工房跡 2号製鉄炉 | 00 | 00 | 104.1 | 0.0 | 598.0 | 1107.7 | 0.0 | 1488.5 | 63.4 | 239.8 |
| 1号工房跡 3号製鉄炉 | 00 | 00 | 0.0 | 0.0 | 213.8 | 0.0 | 0.0 | 132.9 | 0.0 | 13.7 |
| 1号工房跡 Pit1 | 00 | 00 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.7 |
| 1号工房跡 合計 | 00 | 00 | 121.0 | 20.3 | 11281.0 | 2293.1 | 54.9 | 5318.4 | 151.2 | 1010.7 |
| 1号工房跡 重量比 | 00 | 00 | 0.2 | 0.0 | 20.7 | 4.2 | 0.1 | 9.8 | 0.3 | 1.9 |
| 2号工房跡 | 00 | 00 | 2377.0 | 472.7 | 21292.6 | 1864.7 | 91.1 | 2774.3 | 158.2 | 2130.0 |
| 2号工房跡 4号製鉄炉 | 00 | 00 | 7.1 | 1.7 | 3803.5 | 112.4 | 92.9 | 842.0 | 12.2 | 354.6 |
| 2号工房跡 5号製鉄炉 | 00 | 00 | 54.2 | 4.2 | 2847.9 | 56.9 | 0.0 | 1564.0 | 0.0 | 44.9 |
| 2号工房跡 合計 | 00 | 00 | 2438.3 | 478.6 | 27944.0 | 2034.0 | 184.0 | 3772.7 | 170.4 | 2529.5 |
| 2号工房跡 重量比 | 00 | 00 | 3.4 | 0.7 | 39.3 | 2.9 | 0.3 | 5.3 | 0.2 | 3.6 |
| 1号廐滓場 ①b層 | 00 | 00 | 195.7 | 9.8 | 32720.4 | 1116.7 | 0.0 | 477.4 | 33.1 | 1370 |
| | 00 | 00 | 0.5 | 0.0 | 78.0 | 2.7 | 0.0 | 1.1 | 0.1 | 0.3 |
| 1号廐滓場 ①b～②層上部 | 00 | 00 | 1390.7 | 25.4 | 9078.4 | 992.8 | 0.0 | 790.7 | 15.9 | 173.4 |
| | 00 | 00 | 7.3 | 0.1 | 47.6 | 5.2 | 0.0 | 4.1 | 0.1 | 0.9 |
| 1号廐滓場 ②層 | 00 | 00 | 573.3 | 68.2 | 74524.6 | 1829.0 | 0.0 | 978.9 | 90.8 | 948.8 |
| | 00 | 00 | 0.7 | 0.1 | 86.6 | 2.1 | 0.0 | 1.1 | 0.1 | 1.1 |
| 1号廐滓場 ①b～②層 | 00 | 00 | 389.8 | 3.7 | 45291.4 | 493.7 | 17.3 | 719.2 | 84.8 | 136.2 |
| | 00 | 00 | 0.7 | 0.0 | 83.1 | 0.9 | 0.0 | 1.3 | 0.2 | 0.2 |
| 1号廐滓場 ②層下 | 00 | 00 | 0.0 | 0.0 | 16117.2 | 6.8 | 0.0 | 1498.0 | 0.0 | 313 |
| | 00 | 00 | 0.0 | 0.0 | 98.0 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.0 | 0.2 |
| 1号廐滓場 その他 | 00 | 00 | 65.4 | 2.7 | 6368.5 | 461.4 | 0.0 | 2364.0 | 49.9 | 0.0 |
| | 00 | 00 | 0.7 | 0.0 | 66.0 | 4.8 | 0.0 | 2.5 | 0.5 | 0.0 |
| 1号廐滓場 合計 | 00 | 00 | 2614.9 | 109.8 | 184100.5 | 4900.4 | 17.3 | 33524.0 | 274.5 | 1426.7 |
| 1号廐滓場 重量比 | 00 | 00 | 1.1 | 0.0 | 80.9 | 2.2 | 0.0 | 1.5 | 0.1 | 0.6 |
| 包含層①～⑩ ①a層 | 00 | 00 | 27.9 | 0.0 | 1853.3 | 0.0 | 0.0 | 41.9 | 0.0 | 128 |
| | 00 | 00 | 1.4 | 0.0 | 93.2 | 0.0 | 0.0 | 2.1 | 0.0 | 0.6 |
| 包含層①～⑩ ①a～②層 | 00 | 180.8 | 129.0 | 0.0 | 34080.2 | 883.2 | 7.4 | 827.4 | 60.3 | 91.2 |
| | 00 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 86.5 | 2.2 | 0.0 | 2.1 | 0.2 | 0.2 |
| 包含層①～⑩ ②層 | 00 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2304.6 | 80.5 | 0.0 | 24.5 | 0.0 | 0.0 |
| 包含層①～⑩ 合計 | 00 | 180.8 | 156.9 | 0.0 | 38238.1 | 963.7 | 7.4 | 893.8 | 60.3 | 104.0 |
| 包含層①～⑩ 重量比 | 00 | 0.4 | 0.4 | 0.0 | 86.0 | 2.2 | 0.0 | 2.0 | 0.1 | 0.2 |

上段：重量（g） 下段：遺構等毎に占める鉄滓類の比率（%）

| 炉内滓 | | | 炉底滓 | | | | 炉壁付着滓 | | | | 重量合計 |
|-------|---------|--------|-------|------|-----|---------|-------|-------|--------|--------|----------|
| B2' | C2 | C2' | A3 | A' 3 | B3 | C3 | A4 | A' 4 | B4 | C4 | |
| 16.2 | 4596.0 | 1559.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5295.2 | 144.9 | 282.3 | 0.0 | 87.3 | 23371.9 |
| 18 | 1971.5 | 495.6 | 0.0 | 0.0 | 5.1 | 9651.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 11.7 | 17032.6 |
| 16.4 | 2772.9 | 1776.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2840.9 | 0.0 | 205.3 | 150.4 | 2283.3 | 13647.4 |
| 0.0 | 31.3 | 39.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 27.8 | 459.1 |
| 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 17 |
| 34.4 | 9370.7 | 3871.0 | 0.0 | 0.0 | 5.1 | 17787.9 | 144.9 | 487.6 | 150.4 | 2410.1 | 54512.7 |
| 0.1 | 17.2 | 7.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 32.6 | 0.3 | 0.9 | 0.3 | 4.4 | 100% |
| 250.2 | 13143.4 | 2510.8 | 488.7 | 0.0 | 0.0 | 4298.7 | 8.0 | 889.7 | 33.8 | 1866.6 | 54650.5 |
| 9.9 | 3537.6 | 2962.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 11624 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 12898.5 |
| 11 | 3639 | 47.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3576.5 |
| 261.2 | 17044.9 | 5520.0 | 488.7 | 0.0 | 0.0 | 5461.1 | 8.0 | 889.7 | 33.8 | 1866.6 | 71125.5 |
| 0.4 | 24.0 | 7.8 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 7.7 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 2.6 | 100% |
| 12.1 | 2116.1 | 197.5 | 810.6 | 0.0 | 0.0 | 2223.0 | 10.0 | 65.9 | 29.6 | 1774.0 | 41928.9 |
| 0.0 | 5.0 | 0.5 | 1.9 | 0.0 | 0.0 | 5.3 | 0.0 | 0.2 | 0.1 | 4.2 | 100% |
| 12.2 | 3304.0 | 24.0 | 0.0 | 5.6 | 1.9 | 1715.3 | 55.9 | 0.0 | 0.0 | 972.2 | 19062.4 |
| 0.1 | 17.3 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 9.0 | 2.9 | 0.0 | 0.0 | 5.1 | 100% |
| 38.8 | 2613.7 | 855.2 | 25.2 | 0.0 | 0.0 | 644.6 | 199.0 | 143.4 | 15.5 | 2506.3 | 86055.3 |
| 0.0 | 3.0 | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.2 | 0.2 | 0.0 | 2.9 | 100% |
| 4.6 | 2560.1 | 983.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 109.9 | 0.0 | 9.0 | 2358.6 | 1349.8 | 54511.4 |
| 0.0 | 4.7 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 4.3 | 2.5 | 100% |
| 0.0 | 111.7 | 11.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 18.6 | 16446.4 |
| 0.0 | 0.7 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 100% |
| 2.9 | 763.9 | 195.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1414.1 | 37.2 | 21.6 | 0.0 | 26.9 | 9646.7 |
| 0.0 | 7.9 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 14.7 | 0.4 | 0.2 | 0.0 | 0.3 | 100% |
| 70.6 | 11469.5 | 2266.8 | 835.8 | 5.6 | 1.9 | 6106.9 | 806.1 | 239.9 | 2403.7 | 6647.8 | 227651.1 |
| 0.0 | 5.0 | 1.0 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 2.7 | 0.4 | 0.1 | 1.1 | 2.9 | 100% |
| 13.7 | 228 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.6 | 12.9 | 1988.9 |
| 0.7 | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 0.6 | 100% |
| 10.4 | 1903.3 | 914.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 133.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 179.0 | 39400.2 |
| 0.0 | 48 | 23 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.5 | 100% |
| 0.0 | 131.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 472.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 53.6 | 3067.1 |
| 0.0 | 4.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 15.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.7 | 100% |
| 24.1 | 2057.7 | 914.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 606.1 | 0.0 | 0.0 | 3.6 | 245.5 | 44456.2 |
| 0.1 | 4.6 | 2.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 100% |

は各遺構毎で最も比率の高い資料を示す

第15表 間木戸V遺跡土器器観察表

| 掲載No | 出土地点 | 器種 | 残存部位 | 残存率(%) | 色調 |
|-----------|---------|--|---------|--------------|-----------|
| V P 0 3 0 | 3号窓穴建物跡 | 南西床下・南西埋土・T10一括・③南2層・④南北トレンチ②層・②③層上～中位・②③トレンチ一括 | 壺 口縁～肩部 | 10 | にぶい橙、褐灰 |
| V P 0 3 1 | 3号窓穴建物跡 | 南西床下・ベルト5層・北西埋土 | 壺 口縁～底部 | 30 | にぶい黄橙 |
| V P 0 3 2 | 3号窓穴建物跡 | 北東埋土最下位・北東（2号坑置き場跡重複付近）埋土中位 | 壺 口縁～底部 | 20 | 明黄褐 |
| V P 0 3 3 | 3号窓穴建物跡 | 北東埋土最下位・北東（SK04 重複付近）埋土中位・ベルト6層・北西埋土下位・北東埋土上～中位 | 壺 口縁～底部 | 70 | にぶい黄橙 |
| V P 0 3 4 | 3号窓穴建物跡 | ベルト5、7、8、13、14層・南西埋土 | 壺 口縁～肩部 | 5 | にぶい黄橙 |
| V P 0 3 5 | 3号窓穴建物跡 | 10層・1号坑置き場跡4a～4層・T1南II層・③南西トレンチ一括・③西2層・①b～②層・③西サブトレンチ②層中～下位・④トレンチ②層・④ベルト②層・排水ベルト②層 | 壺 口縁～胴部 | 20 | にぶい橙、灰褐色 |
| V P 0 3 6 | 3号窓穴建物跡 | ベルト（中央）8層・北東埋土・北西埋土 | 壺 口縁～底部 | 20 | 明黄褐 |
| V P 0 3 7 | 3号窓穴建物跡 | ベルト5層・北東埋土 | 壺 口縁～底部 | 60 | 明褐 |
| V P 0 3 8 | 3号窓穴建物跡 | 北西埋土下位・強2層・生文課トレンチ埋め戻し土・I B14 I層・⑥⑦層下位 | 壺 口縁～肩部 | 17 | 明赤褐色、にぶい橙 |
| V P 0 3 9 | ③ | ②層 | 壺 口縁 | 小破片 | 浅黄橙 |
| V P 0 4 0 | 3号焼土遺構 | P1・P2・焼土層・II層 | 壺 口縁～胴部 | 20 | |
| V P 0 4 1 | ⑨ | ②層中～下位・②～⑤層上位 | 壺 口縁～胴部 | 50 (非接合含) | 灰黄褐 |
| V P 0 4 2 | ⑨ | ②層中位・②③層上～中位・⑨②層上位 | 壺 口縁～胴部 | 25 | 灰黄褐 |
| V P 0 4 3 | ③ | ②層・④⑤層上位・⑤・⑥間ベルト①a層・⑥⑦層中～下位・⑥トレンチ②層 | 壺 口縁～肩部 | 5 | にぶい黄橙 |
| V P 0 4 4 | ④ | ②層上位 | 壺 口縁～肩部 | 5 | 褐灰 |
| V P 0 4 5 | ④ | ②層・②層下・③層上位・⑥⑦層中～下位・⑦・⑧間ベルト②層上位・T1 I層 | 壺 胴部～底部 | 40 (非接合含) | にぶい褐 |
| V P 0 4 6 | ⑥ | ②層・③層中～下位 | 壺 胴部～底部 | 25 | 褐灰、にぶい黄橙 |
| V P 0 4 7 | ⑥ | ②層中～下位 | 壺 胴部～胴部 | 10 | にぶい黄橙、灰黄褐 |
| V P 0 4 8 | ⑩ | ②層中位・⑩②層上位 | 壺 口縁～肩部 | 30 | にぶい黄橙、灰黄褐 |
| V P 0 4 9 | ⑥ | ②層・②層中～下位・⑥・⑦間ベルト②層 | 壺 口縁～胴部 | 33 | 灰黄褐 |
| V P 0 5 0 | ⑩ | ②層上面・I B13k II～IV層 | 壺 肩～胴部 | 20 | にぶい赤褐色、褐灰 |
| V P 0 5 1 | ④ | ②層下・②層中位 | 壺 胴部 | 5 | にぶい黄褐 |
| V P 0 5 2 | ④ | ②層 | 壺 胴部～底部 | 5 | にぶい黄橙 |
| V P 0 5 3 | ⑩ | ②層上位 | 壺 底部 | 5 | 灰黄褐 |
| V P 0 5 4 | ③ | ①b～②層 | 壺 口縁～胴部 | 小破片 | にぶい黄橙 |
| V P 0 5 5 | ④ | ②層下位・②層中～下位 | 壺 口縁～底部 | 40 | 灰黄褐、にぶい黄褐 |
| V P 0 5 6 | ⑥ | ②層中～下位・⑥・⑦間ベルト②層 | 壺 口縁～底部 | 20 | にぶい黄橙、灰黄褐 |
| V P 0 5 7 | ③ | ②層・②層下位・③層中～下位・⑤・⑥間ベルト②層・⑩②層上位 | 壺 胴部～底部 | 20 | にぶい黄橙 |
| V P 0 5 8 | ⑥ | ①a～②層 | 壺 口縁～底部 | 40 | にぶい橙 |

| 調整技法 | | | 法量(cm)(復元)(残存) | | | 参考 | 図 | 写真 |
|---------------------------|------------------|---------------|----------------|--------|-------------------|--------------------|-----|-----|
| 外面 (胴部、口縁部周辺) | 内面(同) | 底部(外面部調整、特徴) | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| ハケ→ミガキ。ハケ→ミガキ | ハケ→ミガキ。ハケ→ミガキ | — | [243] | — | (7) | | 150 | 110 |
| ハケ→ミガキ、ミガキ→ヨコナデ | ミガキ、黒色処理 | ハケ、平底風丸底 | [162] | — | 59 | | 150 | 110 |
| ハケ→ミガキ、ハケ→ミガキ | ミガキ、黒色処理 | ハケ、平底風丸底 | [176] | — | 54 | | 150 | 110 |
| ハケ→ミガキ、ハケ→ヨコナデ→ミガキ | ヘラナデ→ミガキ | ハケ、平底風丸底(平坦) | 15.2 | — | 5.8 | 花弁状口縁の可能性 | 150 | 110 |
| ミガキ、ヨコナデ | ハケ→ミガキ、ヨコナデ | — | [174] | — | — | 口唇摘み上げ | 150 | 110 |
| ハケ→ミガキ。ハケ→ミガキ→ヨコナデ | ハケ→ミガキ、ハケ→ヨコナデ | — | [156] | — | (125) | | 150 | 110 |
| ハケ→ミガキ、ハケ→ミガキ→ヨコナデ | ミガキ、黒色処理 | ケズリ、平底風丸底 | [184] | — | 62 | | 150 | 110 |
| ミガキ、ミガキ | ミガキ、黒色処理 | ケズリ→ミガキ、厚角平底 | [128] | — | 58 | 沈縫状段2段 | 150 | 110 |
| ミガキ、ヨコナデ→ミガキ→ヨコナデ(口唇) | ミガキ(幅広)、ミガキ→ヨコナデ | — | [162] | — | (95) | 口唇摘み上げ 眉部段赤色意識の可能性 | 150 | 110 |
| ヨコナデ、赤彩(縦縫) | ヨコナデ、赤彩(縦縫) | — | — | — | (17) | 口唇摘み上げ 縦縫3本単位の可能性 | 150 | 110 |
| ハケ | ハケ、ハケ→ヨコナデ | — | [156] | — | (133) | | 150 | 110 |
| ハケ→ミガキ。ハケ→ヨコナデ→ミガキ | ハケ→ミガキ、ミガキ→ヨコナデ | — | [231] | — | (218) | 受け口状 | 151 | 111 |
| ハケ→ミガキ(縦状)、ヨコナデ | ハケ、ハケ→ミガキ | — | (16) | — | (134) | 眉部段(輪積み一致) | 151 | 111 |
| ハケ、ハケ→ヨコナデ(頭部) | ハケ | — | [198] | — | (65) | | 151 | 111 |
| ハケ、ヨコナデ | ハケ、ハケ→ヨコナデ | — | [136] | — | (65) | 小窓 | 151 | 111 |
| ハケ→ミガキ | ハケ | 木葉痕 | — | 104 | (21.5) | | 151 | 111 |
| ハケ | ハケ | ハケ | — | 94 | (125) | 底部外面ハケ | 151 | 111 |
| ハケ→ミガキ、ヨコナデ→ナデ→ハケ、ハケ→ヨコナデ | ナデ→ハケ、ハケ→ヨコナデ | — | — | (14.2) | 眉部段 | | 152 | 110 |
| ミガキ、ヨコナデ(口唇)→ミガキ | ミガキ、ヨコナデ(口唇)→ミガキ | 木葉痕 | [161] | 85 | (86) +(7.9) | 口唇摘み上げ | 152 | 111 |
| ハケ→ミガキ。ハケ→ミガキ→ヨコナデ | ハケ→ミガキ、ヨコナデ | — | 15.8 | — | (151) | | 152 | 110 |
| ミガキ | ヘラナデ→ミガキ | — | — | (10) | 赤色意識の可能性 | | 152 | 111 |
| ハケ→ミガキ | ハケ→ミガキ | — | — | (7.3) | | | 152 | 111 |
| ミガキ | ナデ→ミガキ | 砂痕の可能性 | — | (10.3) | (5.3) | | 152 | 111 |
| ミガキ | ミガキ | 四脚付き 丸底 | — | — | (2) | 四脚付小形壺(小窓の可能性) | 152 | 111 |
| ヨコナデ→ミガキ | ミガキ | — | — | (3.5) | 有段1段(輪積み一致、内面段明瞭) | | 152 | 111 |
| ミガキ、ハケ→ミガキ | ミガキ、黒色処理 | ケズリ、平底風丸底 | [128] | — | 7.1 | 沈縫状段2段(輪積み一致) | 152 | 111 |
| ハケ→ミガキ、ヨコナデ | ミガキ、黒色処理 | ハケ、平底風丸底 | [138] | — | 4.8 | 有段1段(輪積み一致) 内面ハジケ | 152 | 111 |
| ミガキ | ミガキ、黒色処理 | ハケ、平底風丸底(平坦) | — | — | — | | 152 | 111 |
| ミガキ、ヨコナデ→ミガキ | ミガキ、黒色処理 | ケズリ、平底風丸底(丸底) | 14 | — | 4.7 | 有段1段 | 152 | 111 |

第16表 間木戸V遺跡土製品觀察表

| 測量番号 | 仮番号 | 出土点 | 出土地点 | 層位 | 分類 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 備考 | 図 | 写 |
|-------|-------|-------|------|-----|-----|-------|-------|-------|-------|------|-----|-----|
| VG001 | V-鶴01 | T1 深掘 | (鶴) | II層 | 粘土車 | (37) | (31) | (0.9) | 8.4 | 表面剥離 | 113 | |
| VG002 | V-鶴02 | T1 深掘 | | II層 | 粘土車 | 3.4 | (24) | 1.2 | 10.5 | 半分欠損 | 114 | 113 |

第17表 間木戸V遺跡石器觀察表

| 測量番号 | 仮番号 | 出土点 | 層位 | 次鉤 | 分鉤 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 備考 | 図 | 写 | |
|-------|-------|--------|----------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|------------|-----|-----|
| VS001 | V-001 | 石塊 | 17 | 先端 | 先端 | 16 | 16 | 0.3 | 0.6 | 頁岩 | | 2.3 | 112 | |
| VS002 | V-002 | 石塊 | 3.7W | 3.7W | 3.7W | 16 | 12 | 0.3 | 0.4 | 頁岩 | | 2.3 | 112 | |
| VS003 | V-003 | 石塊 | 3.EW | 先端 | 先端 | 19 | (25) | 0.6 | 28 | 頁岩 | | | | |
| VS004 | V-004 | 石塊 | 7.NS | 7.NS | 7.NS | 16 | 15 | 0.4 | 1.4 | 頁岩 | 北上山地 中生代地層 | 2.3 | 112 | |
| VS005 | V-005 | 石塊 | 9.W | 先端 | 先端 | 26 | 17 | 0.3 | 0.8 | 頁岩 | 黑色帶白筋 | 2.3 | 112 | |
| VS006 | V-006 | 石塊 | 11 | 先端 | 先端 | 25 | 13 | 0.5 | 0.9 | 頁岩 | 黑色帶白筋 | 2.3 | 112 | |
| VS007 | V-007 | 石塊 | 13 | 先端 | 先端 | 40 | 12 | 0.4 | 1.2 | 頁岩 | 石墨化 | 2.3 | 112 | |
| VS008 | V-008 | 石塊 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 16 | 16 | 0.4 | 1.1 | 頁岩 | | | | |
| VS009 | V-009 | 石塊 | 13-14ベルト | 先端 | 先端 | 23 | 16 | 0.4 | 1.1 | 頁岩 | | | | |
| VS010 | V-010 | 石塊 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 16 | 15 | 0.3 | 1.6 | 頁岩 | 北上山地 中生代地層 | 2.3 | 112 | |
| VS011 | V-011 | 石塊 | 1H1m | 先端 | 先端 | 31 | 16 | 0.4 | 3.1 | 頁岩 | 北上山地 中生代地層 | 2.3 | 112 | |
| VS012 | V-012 | 石塊 | 18 | 先端 | 先端 | 22 | 17 | 0.3 | 1.2 | 頁岩 | 北上山地 中生代地層 | 2.3 | 112 | |
| VS013 | V-013 | アラバマイト | 1.5-1.6 | 先端 | 先端 | 49 | 30 | 0.3 | 2.9 | 頁岩 | 斜付着 | 2.3 | 112 | |
| VS014 | V-014 | アラバマイト | 1.5-1.6 | 先端 | 先端 | 53 | 40 | 0.4 | 3.0 | 頁岩 | 斜付着 | 2.3 | 112 | |
| VS015 | V-A-1 | 石斧 | 22 | 刃部 | 刃部 | 28 | 48 | 0.8 | 35 | 6.9 | 666 | 北上山地 中生代地層 | | |
| VS016 | V-B-1 | 麻布袋輪 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 90 | 47 | 2.1 | 133.4 | 花崗岩 | 中生代白堊紀 | 1.2 | 112 | |
| VS017 | V-B-2 | 麻布袋輪 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 43 | 59 | 1.6 | 98.1 | 砂岩 | 北上山地 中生代地層 | | | |
| VS018 | V-B-3 | 麻布袋輪 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 76 | (76) | 3.1 | 138.7 | 砂岩 | 北上山地 中生代地層 | | | |
| VS019 | V-B-4 | 麻布袋輪 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 53 | 5 | 2.3 | 9.6 | テクタイト | 北上山地 中生代地層 | 1.3 | 112 | |
| VS020 | V-B-5 | 麻布袋輪 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 16d | 75 | 4.8 | 3.3 | 褐色 | 北上山地 中生代地層 | | | |
| VS021 | V-B-6 | 麻布袋輪 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 1b | 74 | 5.7 | 0.9 | 333.7 | 花崗岩 | 中生代白堊紀 | 1.3 | 112 |
| VS022 | V-B-7 | 麻布袋輪 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | - | 106 | 76 | 4.1 | 494.9 | 花崗岩 | 中生代白堊紀 | | |
| VS023 | V-B-8 | 麻布袋輪 | 3.9W | 3.9W | 3.9W | 1a | 63 | 6.7 | 1.4 | 333.5 | テクタイト | 北上山地 中生代地層 | | |
| VS024 | V-B-1 | 合石 | 2 | 先端 | 先端 | 50 | 94 | 7 | 695.5 | 花崗岩 | 中生代白堊紀 | | | |
| VS025 | V-B-2 | 合石 | 2 | 先端 | 先端 | 66 | (72) | 7 | 791.2 | 花崗岩 | 北上山地 中生代地層 | | | |

第18表 間木戸V遺跡鉄製品観察表

| 鉄製品番号 | 伝統番号 | 種類 | 出土地点 | 層位 | 長(cm) | 幅(cm) | 厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|-------|------|-------|--------------|------|-------|-------|-------|-------|--------|
| VG003 | 鉄.06 | 鉄鍔マチ部 | 1号製鉄炉 | 炉面 | (5.5) | 0.6 | 0.7 | 5.6 | マチあるか? |
| VG004 | 鉄.07 | くさび? | 1 BH.1・1594T | 1-Ⅱ層 | 13.6 | 1.7 | 0.9 | 54.2 | 近世-近代 |
| VG005 | 鉄.10 | 刀 | 3号櫻穴鍛物跡 | 埋土 | (4.3) | 4.4 | 0.7 | 37.1 | 鍔手の刃身? |
| VG006 | 鉄.11 | 雁金 | 3号櫻穴鍛物跡 | 埋土 | 2.8 | 2.7 | (1.8) | 29.4 | 鍔手の金具 |

第19表 間木戸V遺跡羽口観察表

| 羽口番号 | 伝統番号 | 遺物名 | 地点 | 層位 | 肉厚部分 | 先端部分 | 先端長(cm) | 先端幅(cm) | 重量(g) | 所見 | 備考 |
|-------|------------------|------------|-------------------|-------|--------|--------|---------|---------|------------------------|---------------------------------------|-------------|
| VG007 | 14.0.1.557827543 | 1号櫻窓多量着 | 羽口1周辺 | 3層 | 体部 | (32.1) | 9 | 25 | 127.9 | 砂留多量、ガラス質少量着。軽い工具類。鍔?注灰。内面に芯棒跡。先端部少い。 | 1-3 154 113 |
| VG008 | 14.0.2.471 | 1号櫻窓多量着 SE | 1号櫻窓多量着 | 用土層 | 先端部 | (10.1) | 7.4 | 32 | 36.3 | ヘタ付。内側でけりり。根(円筒)の周囲を「輪」状の相撲巻き。 | 1-3 154 113 |
| VG009 | 14.0.3.626 | 1号櫻窓多量着 NE | 1号櫻窓多量着 S(べら)1周口2 | 4層 | 上面 | 先端部-体部 | (9.4) | (38) | 44.6 | 地掛かる長羽口。先端部多量着。先端部は直角形。 | 1-3 154 113 |
| VG010 | 14.0.4.544 | 1号櫻窓多量着 | 1号櫻窓多量着 S(べら)1周口2 | 3層 | 先端部-体部 | 7.1 | 7.4 | 22 | 30.3 | 直角付。先端部少い。鍔?注灰。 | 1-3 113 |
| VG011 | 14.0.5.467 | 1号櫻窓多量着 | 1号櫻窓多量着 E(べら)ト | 4層 | 先端部-体部 | 11.4 | 7.7 | 32 | 54.4 | 地掛かる直角付。先端部少い。鍔?注灰。 | 1-3 113 |
| VG012 | 14.0.6.308 | 1号櫻窓多量着 | 1号櫻窓多量着 E(べら)ト | 2層 | 体部 | (7.4) | (29) | 36.7 | 地掛かる直角付。ガラス質少量着。先端部少い。 | 1-3 113 | |
| VG013 | 14.0.7.547302466 | 1号櫻窓多量着 | 1号櫻窓多量着 E(べら)ト | 2-5層 | 先端部 | 13.8 | 8.3 | 41 | 35.1 | 相撲巻きを施した直角付。先端部少い。 | 1-3 113 |
| VG014 | 14.0.8.465297 | 1号櫻窓多量着 | 1号櫻窓多量着 S(べら)1周口3 | 3層 | 先端部-体部 | 10.7 | (7.1) | (32) | 17.6 | 地掛かる直角付。先端部少い。ガラス質少量着。 | 1-3 113 |
| VG015 | 14.0.9.472474 | 1号櫻窓多量着 | 1号櫻窓多量着 S(べら)1周口3 | 4層 | 先端部-体部 | 9.4 | (9.8) | (42) | 15.2 | 地掛かる直角付。先端部少い。鍔?注灰。 | 1-3 113 |
| VG016 | 14.0.302 | 1号櫻窓多量着 | 1号櫻窓多量着 E(べら)ト | 3-5層 | 先端部-体部 | 8.8 | - | (32) | 25.9 | 地掛かる直角付。一部セラミック付。先端部多量着。 | 1-3 113 |
| VG017 | 14.0.1.478322 | 1号櫻窓多量着 | S(べら)地土裏内、S(べら)周間 | 4層 | 先端部-体部 | 13.4 | 7.3 | 31 | 30.6 | 直角付。一部ガラス付。先端部少い。鍔?注灰。 | 1-3 113 |
| VG018 | 14.0.2.577 | 1号櫻窓多量着 | S(べら) E | 用土層 | 先端部-体部 | 10.5 | 8.1 | 24 | 25.3 | 直角付。先端部少い。先端部直角付。先端部多量着。 | 1-3 113 |
| VG019 | 14.0.3.487 | 1号櫻窓多量着 | S(べら) PtW | 2層 | 先端部-体部 | 12.1 | 7.8 | 23 | 26.2 | 直角付。先端部少い。少々尖る。 | 1-3 113 |
| VG020 | 14.0.4.486323 | 1号櫻窓多量着 | 1号櫻窓多量着 | 2-5層 | 先端部-体部 | 10.5 | 9.7 | 23 | 30 | 直角付。先端部少い。地掛けて直角付している。 | 1-3 114 |
| VG021 | 14.0.5.519 | 焼嘴 | 3号路合 | ①b-2層 | 先端部-体部 | 10.3 | 7.3 | 23 | 20.6 | 直角付。地掛けて直角付。先端部多量着。 | 1-3 114 |
| VG022 | 14.0.6.368 | 焼嘴 | 2-3号窓 | ①b-2層 | 先端部-体部 | 10.2 | 8.2 | 29 | 30.7 | 直角付。相対的に直角付。先端部多量着。 | 1-3 114 |
| VG023 | 14.0.7.330 | 焼嘴 | 4-5号窓 | ①a層 | 先端部-体部 | 11.5 | 7.7 | 35 | 31.7 | 直角付。先端部少い。 | 1-3 114 |
| VG024 | 14.0.8.368 | 焼嘴 | 2-3号窓 | ①b層 | 先端部-体部 | 6.2 | - | 71 | ヘタ付の直角付。V字形直角付。 | 1-3 114 | |

第20表 間木戸V遺跡炉壁觀察表

| 炉壁番号 | 遺物名 | 地点 | 層位 | 色調 | 所見 | 備考 |
|-------|--------|-------|------|-----------|--------------------------------|-------------|
| VG025 | 1号櫻窓馬蹄 | 羽口1周辺 | 3層 | SYK7.8褐色 | 鏡面。先端部直角付。芯棒?板-木脚心の頃か(還元している)。 | 1-3 154 114 |
| VG026 | 1号工房 | 2号製鉄炉 | 炉内 | SYK7.8褐色 | 鏡面。先端部直角付。芯棒?板-木脚心の頃か(還元している)。 | 1-3 114 |
| VG027 | 2号工房 | 2号工房 | 埋土-1 | 75YR7.6黄色 | 無い。細繩多量着。 | 1-3 114 |
| VG028 | 2号工房 | 2号工房 | 埋土-1 | SYK7.8褐色 | 鏡面。ガラス質直角付。先端部多量着。 | 1-4 114 |
| VG029 | 2号工房 | 2号工房 | 埋土-1 | 10YR7.4褐色 | 鏡面。ガラス質直角付。先端部多量着。 | 1-4 114 |

VI 分析・鑑定

1 間木戸V遺跡、間木戸II遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 検定対象試料

間木戸V遺跡、間木戸II遺跡は、岩手県下閉伊郡山田町山田第3地割56に所在する。検定対象試料は、間木戸V遺跡の遺構から出土した木炭等13点と、間木戸II遺跡の遺構から出土した木炭4点の合計17点である(表1)。

2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1 M) の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 検定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシェウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい (¹⁴Cが少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の历年年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が历年較正年代を表す。历年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、历年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。历年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。历年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

5 激 定 結 果

測定結果を表1、2に示す。

間本戸V遺跡出土試料の¹⁴C年代は、試料01~06のうち試料03と試料06の値が誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で一致する。他の試料の間には年代差が認められる。

历年較正年代 (1σ) は、古い方から順に試料02が縄文時代中期中葉から後葉頃、試料01が弥生時代後期頃に相当し、試料03~06が古代から中世に含まれる年代値となっている（小林2009、小林編2008、佐原2005）。

なお、試料01が含まれる1~3世紀頃の历年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線IntCalに対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある（尾崎2009、坂本2010など）。その日本版較正曲線を用いて試料01の測定結果を历年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新しくなる可能性がある。

間本戸II遺跡出土試料の¹⁴C年代は、4点のうち試料08と試料09の値が誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で一致し、試料10もかなり近い値である。これら3点と試料07の間には明瞭な年代差が認められる。

历年較正年代 (1σ) は、試料07が古代頃、試料08~10が縄文時代中期前葉から中葉頃に相当する（小林編2008、佐原2005）。

試料11~17の¹⁴C年代は、 $1120 \pm 20\text{yrBP}$ （試料15）から $910 \pm 20\text{yrBP}$ （試料11）の間にあり、特に $1120 \sim 1050\text{yrBP}$ の狭い範囲に6点が集中する。历年較正年代 (1σ) は、最も古い15が $895 \sim 969\text{cal AD}$ の間に2つの範囲、最も新しい11が $1046 \sim 1164\text{cal AD}$ の間に3つの範囲で示され、全体でおおよそ古代ないし古代から中世初頭頃に相当する（佐原2005）。

試料の炭素含有率を確認すると、本炭9点はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。試料01は、土に含まれた黒色の物質で、通常の炭化物よりもやや明るい色調を呈していた。できるだけ黒い部分を採取したが、炭素含有率が5%というかなり低い値を示してい

る。試料形態は炭化物としたが、試料中の炭素の由来について注意する必要がある。

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正値)

| 測定番号 | 試料名 | 採取場所 | 試料形態 | 処理方法 | $\delta^{13}\text{C}$ (%) (AMS) | $\delta^{13}\text{C}$ 補正あり | |
|-------------|------|--------------------------|------|------|---------------------------------|----------------------------|--------------|
| | | | | | | Libby Age (yrBP) | pMC (%) |
| IAAA-131444 | 試料01 | 間木戸V遺跡 3号焼土遺構 烧土下位 | 灰化物 | AaaA | -24.33 ± 0.63 | 1,930 ± 30 | 78.67 ± 0.25 |
| IAAA-131445 | 試料02 | 間木戸V遺跡 3号焼土建物跡 北壁 | 木炭 | AAA | -26.99 ± 0.79 | 4,100 ± 30 | 60.02 ± 0.22 |
| IAAA-131446 | 試料03 | 間木戸V遺跡 1号灰置き場跡 Nベルト4層 | 木炭 | AaaA | -24.09 ± 0.7 | 1,100 ± 30 | 87.21 ± 0.27 |
| IAAA-131447 | 試料04 | 間木戸V遺跡 1号工房跡-Pt1 3層 | 木炭 | AAA | -25.08 ± 0.77 | 910 ± 20 | 89.32 ± 0.27 |
| IAAA-131448 | 試料05 | 間木戸V遺跡 1号不明遺構 C6 | 木炭 | AAA | -27.31 ± 0.63 | 810 ± 20 | 90.37 ± 0.27 |
| IAAA-131449 | 試料06 | 間木戸V遺跡 2号工房跡 5号製鉄炉 | 木炭 | AAA | -25.9 ± 0.55 | 1,140 ± 30 | 86.72 ± 0.27 |
| IAAA-131450 | 試料07 | 間木戸II遺跡 26号堅穴建物跡西 墓土中～下位 | 木炭 | AAA | -23.5 ± 0.36 | 1,290 ± 20 | 85.22 ± 0.24 |
| IAAA-131451 | 試料08 | 間木戸II遺跡 2号堅穴建物跡部1 1層 | 木炭 | AAA | -25.6 ± 0.73 | 4,460 ± 30 | 57.42 ± 0.21 |
| IAAA-131452 | 試料09 | 間木戸II遺跡 10号堅穴建物跡炉 屋上 | 木炭 | AAA | -23.4 ± 0.97 | 4,440 ± 30 | 57.54 ± 0.22 |
| IAAA-131453 | 試料10 | 間木戸II遺跡 24号堅穴建物跡 理土中～下位 | 木炭 | AAA | -25.63 ± 0.58 | 4,560 ± 30 | 56.68 ± 0.21 |
| IAAA-131454 | 試料11 | 間木戸V遺跡 3号堅穴建物跡 墓土下部 | 灰化物 | AAA | -25.84 ± 0.58 | 910 ± 20 | 89.32 ± 0.26 |
| IAAA-133114 | 試料12 | 間木戸V遺跡 1号工房跡-Pt1 E 2層3層 | 灰化物 | AAA | -26.47 ± 0.6 | 1,050 ± 20 | 87.77 ± 0.25 |
| IAAA-133115 | 試料13 | 間木戸V遺跡 1号工房跡-Pt1 4層 | 灰化物 | AAA | -27.26 ± 0.5 | 1,080 ± 20 | 87.38 ± 0.24 |
| IAAA-133116 | 試料14 | 間木戸V遺跡 2号灰置き場跡 9層 | 灰化物 | AAA | -26.11 ± 0.36 | 1,090 ± 20 | 87.27 ± 0.24 |
| IAAA-133117 | 試料15 | 間木戸V遺跡 1号庵塚跡 ③E ②層 | 灰化物 | AAA | -25.53 ± 0.66 | 1,120 ± 20 | 87 ± 0.25 |
| IAAA-133118 | 試料16 | 間木戸V遺跡 1号庵塚跡 ③W ①b～②層 | 灰化物 | AAA | -24.19 ± 0.28 | 1,060 ± 20 | 87.68 ± 0.24 |
| IAAA-133119 | 試料17 | 間木戸V遺跡 1号庵塚跡 ③W ①b～②層 | 灰化物 | AaaA | -27.62 ± 0.29 | 1,080 ± 20 | 87.38 ± 0.22 |

[#6052.6053]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、曆年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

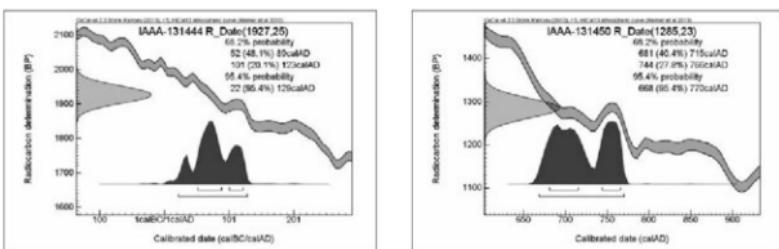
| 測定番号 | $\delta^{13}\text{C}$ 補正なし | | 曆年較正用 (yrBP) | 1 σ 曆年代範囲 | 2 σ 曆年代範囲 | |
|-------------|----------------------------|--------------|-----------------|---|--|------------------|
| | Age (yrBP) | pMC (%) | | | 1 σ 曆年代範囲 | 2 σ 曆年代範囲 |
| IAAA-131444 | 1,920 ± 20 | 78.78 ± 0.22 | 1,927 ± 25 | 52calAD - 89calAD (48.1%) 101calAD - 123calAD (20.1%) | 22calAD - 129calAD (95.4%) | |
| IAAA-131445 | 4,130 ± 30 | 59.77 ± 0.19 | 4,100 ± 28 | 2839calBC - 2815calBC (14.2%) 2675calBC - 2580calBC (54.0%) | 2861calBC - 2807calBC (22.1%) 2737calBC - 2719calBC (9.1%) 2760calBC - 2572calBC (63.6%) 2512calBC - 2505calBC (0.7%) | |
| IAAA-131446 | 1,080 ± 20 | 82.37 ± 0.24 | 1,099 ± 25 | 899calAD - 923calAD (27.7%) 947calAD - 983calAD (40.5%) | 889calAD - 996calAD (95.4%) | |
| IAAA-131447 | 910 ± 20 | 89.3 ± 0.22 | 907 ± 23 | 1046calAD - 1093calAD (40.4%) 1121calAD - 1140calAD (14.4%) 1147calAD - 1164calAD (13.5%) | 1038calAD - 1188calAD (96.4%) | |
| IAAA-131448 | 850 ± 20 | 89.94 ± 0.25 | 813 ± 24 | 1216calAD - 1257calAD (68.2%) | 1182calAD - 1267calAD (95.4%) | |
| IAAA-131449 | 1,160 ± 20 | 86.56 ± 0.25 | 1,144 ± 25 | 782calAD - 787calAD (2.2%) 872calAD - 906calAD (23.1%) 916calAD - 968calAD (4.2%) | 777calAD - 793calAD (5.8%) 802calAD - 849calAD (11.1%) 855calAD - 975calAD (78.5%) | |
| IAAA-131450 | 1,260 ± 20 | 85.48 ± 0.24 | 1,285 ± 23 | 681calAD - 715calAD (40.4%) 744calAD - 766calAD (27.8%) | 668calAD - 770calAD (95.4%) | |
| IAAA-131451 | 4,470 ± 30 | 57.35 ± 0.19 | 4,456 ± 29 | 3322calBC - 3235calBC (36.3%) 3171calBC - 3163calBC (2.7%) 3146calBC - 3084calBC (13.7%) 3065calBC - 3028calBC (15.5%) | 3336calBC - 3211calBC (46.3%) 3193calBC - 3151calBC (9.2%) 3139calBC - 3019calBC (39.9%) | |
| IAAA-131452 | 4,410 ± 30 | 57.73 ± 0.19 | 4,440 ± 30 | 3311calBC - 3295calBC (4.9%) 3286calBC - 3275calBC (3.4%) 3265calBC - 3239calBC (12.4%) 3107calBC - 3020calBC (47.5%) | 3331calBC - 3215calBC (31.9%) 3186calBC - 3156calBC (4.6%) 3127calBC - 3007calBC (52.6%) 2988calBC - 2931calBC (6.4%) | |
| IAAA-131453 | 4,570 ± 30 | 56.6 ± 0.19 | 4,561 ± 29 | 3366calBC - 3333calBC (36.4%) 3213calBC - 3189calBC (17.8%) 3154calBC - 3133calBC (14.0%) | 3487calBC - 3473calBC (2.0%) 3372calBC - 3316calBC (41.3%) 3299calBC - 3289calBC (0.4%) 3274calBC - 3266calBC (0.9%) | |

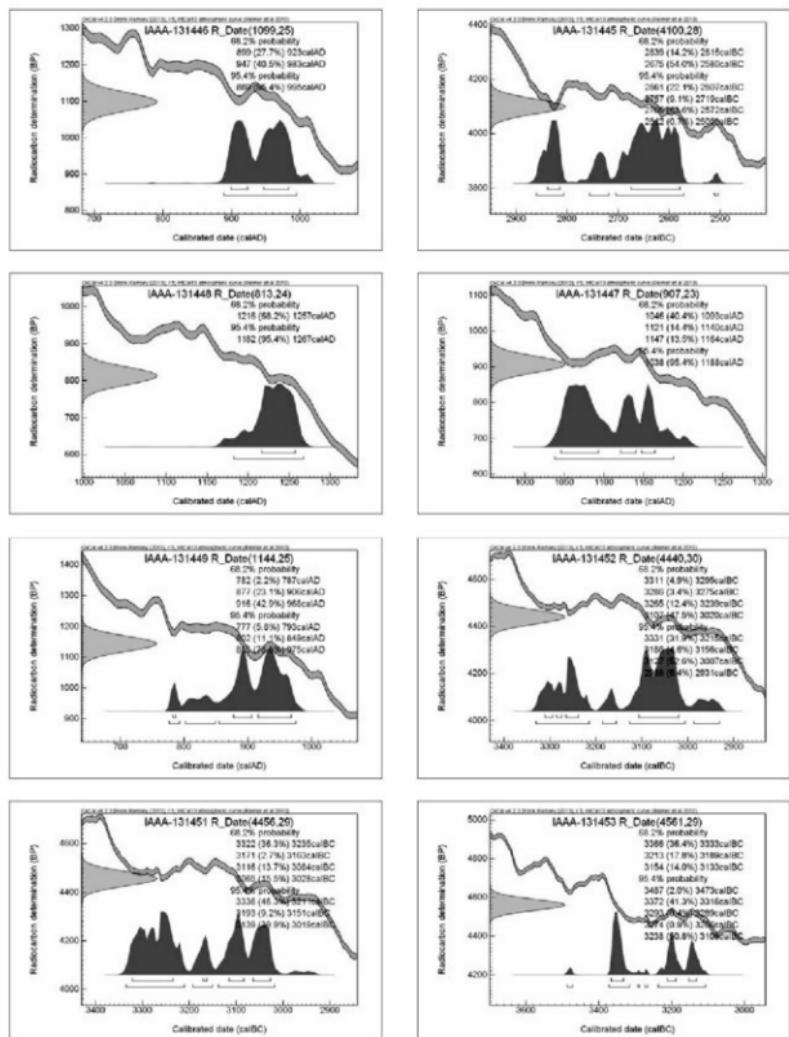
| | | | | | |
|-------------|---------------|------------------|---------------|---|--|
| IAAA-133113 | 930 ± 20 | 89.17 ± 0.23 | 907 ± 23 | 1046calAD - 1093calAD (40.4%) 1121calAD - 1140calAD (14.4%) 1147calAD - 1164calAD (13.9%) | 3238calBC - 3108calBC (50.8%) 1038calAD - 1188calAD (95.4%) |
| IAAA-133114 | 1070 ± 20 | 87.5 ± 0.22 | 1048 ± 22 | 989calAD - 1016calAD (68.2%) | 906calAD - 916calAD (2.1%) 967calAD - 1025calAD (93.3%) |
| IAAA-133115 | 1120 ± 20 | 86.98 ± 0.22 | 1083 ± 22 | 901calAD - 921calAD (20.7%) 953calAD - 993calAD (47.5%) | 896calAD - 928calAD (28.0%) 940calAD - 1016calAD (67.4%) |
| IAAA-133116 | 1110 ± 20 | 87.08 ± 0.23 | 1093 ± 22 | 901calAD - 921calAD (25.1%) 951calAD - 987calAD (43.1%) | 892calAD - 995calAD (95.4%) |
| IAAA-133117 | 1130 ± 20 | 86.91 ± 0.22 | 1118 ± 22 | 895calAD - 929calAD (35.2%) 940calAD - 990calAD (33.0%) | 886calAD - 985calAD (95.4%) |
| IAAA-133118 | 1040 ± 20 | 87.83 ± 0.23 | 1056 ± 22 | 984calAD - 1016calAD (68.2%) | 901calAD - 921calAD (6.2%) 962calAD - 1024calAD (89.2%) |
| IAAA-133119 | 1130 ± 20 | 86.91 ± 0.26 | 1083 ± 24 | 901calAD - 921calAD (20.9%) 951calAD - 993calAD (47.3%) | 895calAD - 929calAD (28.3%) 940calAD - 1016calAD (67.1%) |

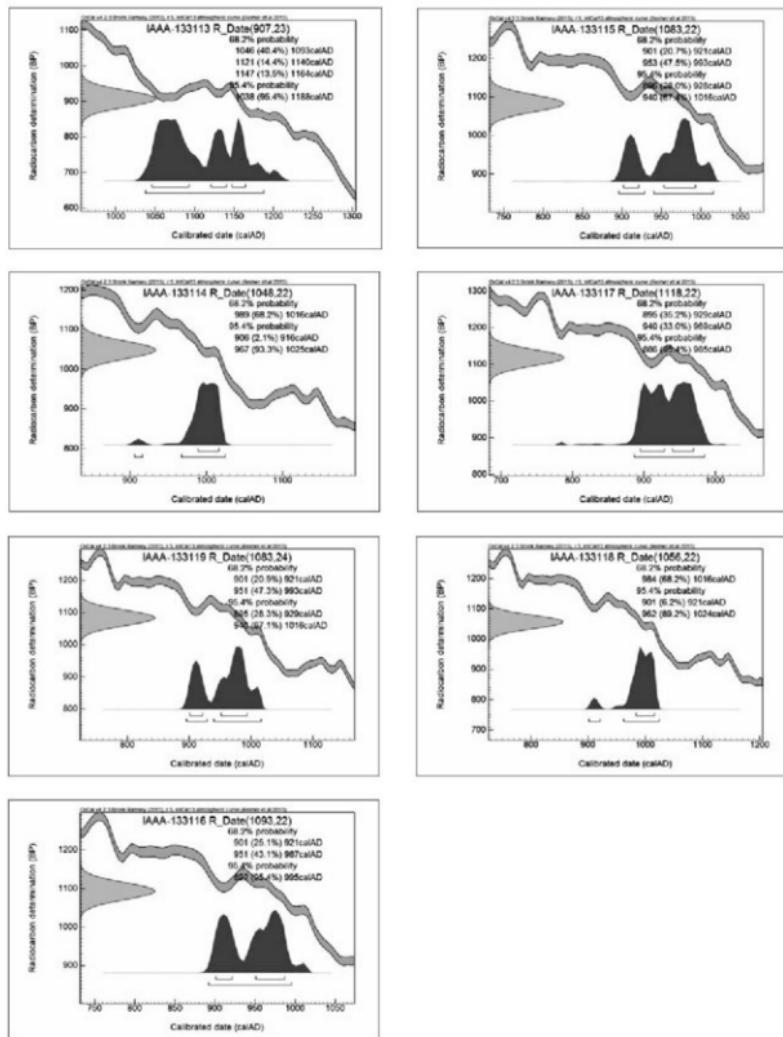
[参考値]

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337 - 360
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55 - 82
- 小林達雄編 2008 稽覧繩文土器, 稽覧繩文土器刊行委員会, アム・プロモーション
- 尾崎大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素14年代からみた弥生時代の実年代, 設楽博己, 藤尾慎一郎, 松木武彦編弥生時代の考古学1 弥生文化の輪郭, 同成社, 225 - 235
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0 - 50,000 years cal BP, Radiocarbon 55 (4), 1869 - 1887
- 佐原 滉 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分, ウェルナー・シュタインハウス監修, 奈良文化財研究所編集, 日本の考古学 上 ドイツ展記念概説, 学生社, 14 - 19
- 坂本 稔 2010 整正曲線と日本産樹木・弥生から古墳へー, 第5回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集, (株) 加速器分析研究所, 85 - 90
- Suiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19 (3), 355 - 363







[図版] 历年校正年代グラフ（参考）

2 間木戸II・V遺跡出土黒曜石の産地同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県山田町間木戸II遺跡では、縄文時代中期とされる堅穴建物跡が確認され、それらの遺構からは土器や石器などの遺物が出土している。また間木戸V遺跡では、古代の製鉄に関連する遺構や遺物が出土しているが、調査区内の黒色土層からはおそらく縄文時代とされる石器が出土している。今回の分析調査では、間木戸II遺跡の建物跡内から出土した黒曜石製石器と間木戸V遺跡の黒色土層から出土した黒曜石製石器について元素分析を行い、原産地の同定を行う。

1. 試料

試料は、間木戸II遺跡の建物跡内から出土した黒曜石製石器4点（ただし、1点は無色透明な色調を呈する外観から黒曜石ではない可能性もあるとされている）と間木戸V遺跡の②層から出土した黒曜石製石器1点の合計5点である。試料には、試料No.1～5が付されている。各試料の出土位置、出土層位などは、一覧にして表1に示す。また、試料の外観を図版1、2に示す。

2. 分析方法

(1) 試料の測定

本分析では、エネルギー分散型蛍光X線分析装置（セイコーインスツルメンツ社製SEA2110Lシリーズ卓上型蛍光X線分析計）を用いて元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素である。試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それらを産地の特定のための指標とした。ここでは、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zr、Al/K、Si/Kの値を求め、産地を区別する指標として用いる。

なお、黒曜石製造物の蛍光X線分析においては、試料の表面の風化程度、試料の厚さおよび試料の形状によって分析値に影響が及ぶ。表面が曇っているほどの風化がある場合は、カリウムの分析値が大きくなるため、Ca/K、Ti/Kの両軽元素比を除いて産地判定をする。試料の厚さが1.5mm以下の場合は、重い元素は小さく測定されるため、分析値に実験で求めた厚さ補正值を乗じて産地判定をする。厚さ0.3mm以下の試料については補正困難なため、産地判定はできない。試料の形状については、厚さの薄い部分を含んでいたり、極端な曲面しかないものなどを測定した場合に、分析値は変動し、産地判定結果は一定しない。そのような場合には、分析場所を変えて多数の分析値により産地判定をし、最

表1. 黒曜石試料一覧

| 試料No | 仮番号 | 遺跡 | 出土地点 | 層位 | 重さ(g) | 分析番号 |
|------|------|-------|-------------|-----------|-------|--------|
| 1 | ぞ011 | 間木戸II | 4号堅穴建物跡北壁付近 | 埋土中位 | 0.2 | 120570 |
| 2 | ぞ099 | 間木戸II | 8号堅穴建物跡 | 埋土中位 | 2.6 | 120571 |
| 3 | 黒2 | 間木戸II | 4号堅穴建物跡南西 | 埋土一括 | 0.9 | 120572 |
| 4 | 黒1 | 間木戸II | 9号堅穴建物跡 | 床面（石器No2） | 2.5 | 120573 |
| 5 | — | 間木戸V | 1号廐津場③W | ②層 | 0.9 | 120574 |

も多く判定された産地を選択する。

(2) 産 地 判 定

a) 黒曜石原石の分析

黒曜石の原産地は、北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に分布している。調査を終えている原産地の一部を図1に示す。これら原石について、上述した測定を行い、上記の元素比を求め、分類した。ここでは分類の単位を「群」とよび、例えはその地名を付して「和田岬第1群」などとする。現時点では、日本および近隣国(ロシア、北朝鮮、台湾など)の原石群と、原石産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると、合計331個の原石群・遺物群を得ている。産地判定は、試料の元素比とこれら331群の元素比とを比較し、必要条件と十分条件を求めて行う。

b) 産地の判定

上述した各元素比を变量とし、それらの相間を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT₂乗検定を、試料と331個の原石群・遺物群との間で行い、各群に帰属する確率を求めて産地を判定する(東村,1976;1990)。ただし、低い確率(0.1%未満)で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略する。なお本分析法では、低い確率の原産地も確認しているということが重要である。すなわち、低い確率とされた原産地の原石が使用された可能性を考える必要がないという結果でもあるからである。

次に、ホテリングのT₂乗検定の定量的な同定結果から、石材の成分組成以外の各産地特有の原石の特徴を考慮して、遺物の原石産地を判定する。石材の成分組成以外の特徴としては、肉眼観察においてキラキラ光る鉱物が多いか少ないか、また光る鉱物は輝石か雲母か、さらに表面の光沢の状況や角礫あるいは円礫の特徴が認められるなどがあげられる。

なお本分析は、遺物材料研究所の協力を得て行ったものである。

3. 結 果

各試料の元素比分析結果を表2に示し、ホテリングのT₂乗検定結果による原産地とその帰属確率および検定結果に成分組成以外の特徴などを加えて判定した産地を、表3に示す。

試料No.1は、原石群の中に帰属確率が信頼限界の0.1%を超えるものが認められず、原石産地は不明であるが、遺跡から出土した遺物で構成される遺物群のなかでみると、HY遺物群に34%の確率で帰属する。HY遺物群は、青森県日和山遺跡で使用されている産地未発見の原石で作られた遺物の成分組成で作られた遺物群で、三内丸山遺跡でもその使用が確認されている。今回の分析結果により、HY遺物群は広い範囲で使用されている黒曜石の可能性が推測された。

試料No.2については、その無色透明な色調から黒曜石ではない可能性が指摘されていたが、本分析で同時に測定した化学組成では、SiO₂の含有量が約94%と非常に高く(黒曜石は78%程度)、比重は2.648を示し、劈開面のような面も認められることから、水晶の破片であると判断される。

試料No.3～5までの3点については、岩手郡寒石町の小赤沢地区の礫層から採取される寒石群、水沢市真城の折居地区的礫層より採取された円礫からなる折居-1群、西磐井郡花泉町の払田および金沢の両地区的の礫層より採取された小円礫の原石で作られた花泉群という3群に同定された。これら3群の元素組成は相互に似ており、元素組成のみでは明確に区別することはできない。したがって、本分析結果による産地判定では、これら複数の産地を併記することとした。

表2. 黒曜石試料の元素比分析結果

| 試料No | 分析番号 | 元素比 | | | | | | | | | |
|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | | Ca/K | Ti/K | Mn/Zr | Fe/Zr | Rb/Zr | Sr/Zr | Y/Zr | Nb/Zr | Al/K | Si/K |
| 1 | 120570 | 0.221 | 0.134 | 0.054 | 1.785 | 0.445 | 0.145 | 0.520 | 0.030 | 0.022 | 0.517 |
| 2 | 120571 | 0.000 | 0.000 | 0.004 | 0.034 | 0.134 | 1.180 | 0.010 | 0.000 | 0.864 | 47.595 |
| 3 | 120572 | 0.669 | 0.207 | 0.054 | 1.821 | 0.306 | 0.439 | 0.202 | 0.039 | 0.043 | 0.598 |
| 4 | 120573 | 0.623 | 0.183 | 0.052 | 1.742 | 0.289 | 0.407 | 0.204 | 0.051 | 0.041 | 0.592 |
| 5 | 120574 | 0.674 | 0.203 | 0.050 | 1.778 | 0.305 | 0.429 | 0.197 | 0.044 | 0.041 | 0.595 |
| JG-1 | | 0.780 | 0.208 | 0.072 | 4.113 | 0.969 | 1.260 | 0.310 | 0.047 | 0.031 | 0.317 |

JG-1 : 標準試料 - Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T. & Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

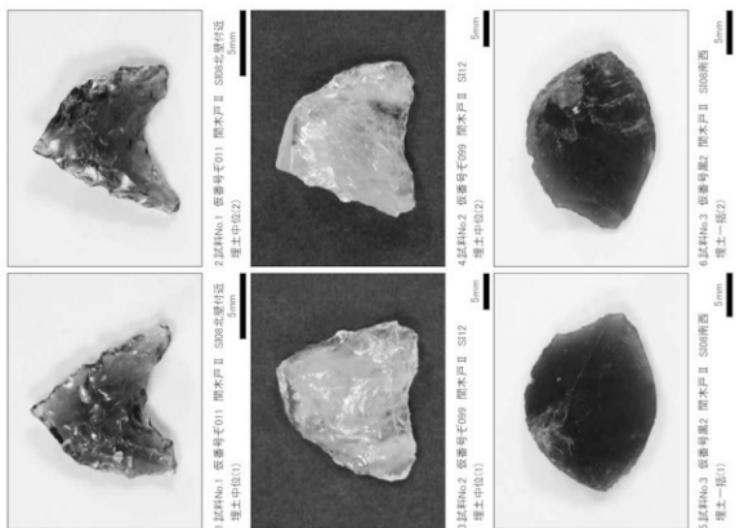
表3. 黒曜石試料の産地分析結果

| 試料No | 遺跡 | 出土地点 | 分析番号 | ホテリングのT ² 検定結果 | 判定 | 備考 |
|------|------|-------------|--------|-----------------------------|----------|---------|
| 1 | 間木戸Ⅱ | 4号堅穴建物跡北壁付近 | 120570 | HY遺物群 (34%) | HY遺物群 | |
| 2 | 間木戸Ⅱ | 8号堅穴建物跡 | 120571 | | 水晶 | 比重2.648 |
| 3 | 間木戸Ⅱ | 4号堅穴建物跡南西 | 120572 | 零石(95%), 花泉(67%), 折居-1(47%) | 零石、花泉、折居 | |
| 4 | 間木戸Ⅱ | 9号堅穴建物跡 | 120573 | 折居-1(98%), 零石(97%), 花泉(95%) | 零石、花泉、折居 | |
| 5 | 間木戸V | 1号廐塗場③W | 120574 | 零石(95%), 折居-1(89%), 花泉(77%) | 零石、花泉、折居 | |

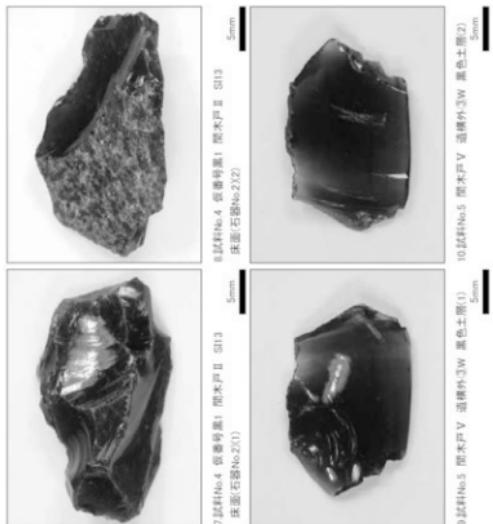
引用文献

- 東村武信, 1976. 産地推定における統計的手法 考古学と自然科学, 9, 77-90.
 東村武信, 1990. 考古学と物理化学, 学生社, 212p.

圖版1 黑曜石試料(1)



圖版2 黑曜石試料(2)



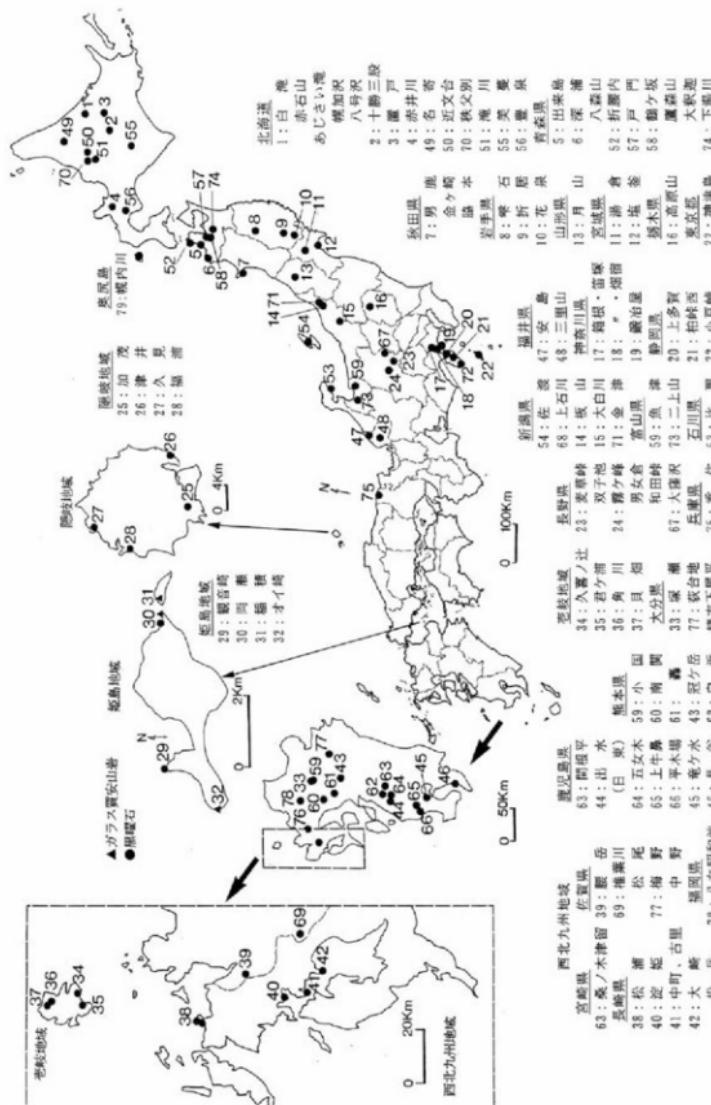


図 1. 黒曜石の原产地

3 間木戸Ⅱ・V遺跡出土鉄滓類の成分分析

JFE テクノリサーチ株式会社
ソリューション本部（千葉）
埋蔵文化財調査研究室

1. はじめに

三陸沿岸道路の建設事業に伴い、岩手県下閉伊郡山田町に所在する間木戸Ⅱ・V遺跡から出土した製鉄遺物について、学術的な記録と今後の調査のための一環として化学成分分析・顕微鏡組織観察を含む自然科学的観点での調査を依頼された。鉄滓、及び砂鉄等について化学成分分析、顕微鏡組織観察、X線回折測定等を行い、その結果にもとづき材質、始発原料、及び製造工程上の位置づけなどを中心に調査した。その結果について報告する。

2. 調査項目および試験・観察方法

(1) 調査項目

調査試料の記号、出土遺構・注記および調査項目を表1に示す。

(2) 調査方法

(i) 重量計測、外観観察および金属探知調査

試料重量の計量は電子天秤を使用して行い、少数点2位以下で四捨五入した。各種試験用試料を採取する前に、試料の外観をmm単位まであるスケールを同時に写し込みで撮影した。試料の出土位置や試料の種別等は提供された資料に準拠した。

着磁力調査については、直径30mmのリング状フェライト磁石を使用し、6mmを1単位として35cmの高さから吊した磁石が動きは始める位置を着磁度として数値で示した。遺物内の残存金属の有無は金属探知機（MC : metal checker）を用いて調査した。金属検知にあたっては参照標準として直径と高さを等しくした金属鉄円柱（1.5mm ϕ x15mmH、2.0mm ϕ x20mmH、5mm ϕ x5mmH、10mm ϕ x10mmH、16mm ϕ x16mmH、20mm ϕ x20mmH、30mm ϕ x30mmH）を使用し、これとの対比で金属鉄の大きさを判断した。

(ii) 化学成分分析

化学成分分析は鉄鋼に関するJIS分析法に準じて行っている。

- ・全鉄 (T.Fe) : 三塩化チタン還元-二クロム酸カリウム滴定法。
- ・金属鉄 (M.Fe) : 臭素メタノール分解-EDTA滴定法。
- ・酸化第一鉄 (FeO) : 二クロム酸カリウム滴定法。
- ・酸化第二鉄 (Fe₂O₃) : 計算。・化合水 (C.W.) : カールフィッシャー法。
- ・炭素 (C)、イオウ (S) : 燃焼-赤外線吸収法。
- ・ライム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化マンガン (MnO)、酸化ナトリウム (Na₂O)、珪素 (Si)、マンガン (Mn)、リン (P)、銅 (Cu)、ニッケル (Ni)、コバルト (Co)、アルミニウム (Al)、ヴァナジウム (V)、チタン (Ti) : ICP発光分光分析法。

・シリカ (SiO_2)、アルミナ (Al_2O_3)、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、二酸化チタン (TiO_2)、酸化リン (P_2O_5)、酸化カリウム (K_2O)：ガラスピード蛍光X線分析法。ただし CaO 、 MgO 、 MnO は含有量に応じてICP分析法またはガラスピード蛍光X線分析法を選択。

・酸化ナトリウム (Na_2O)：原子吸光法。

なお、鉄滓中成分は、18成分（全鉄T.Fe、金属鉄M.Fe、酸化第一鉄 FeO 、酸化第二鉄 Fe_2O_3 、シリカ SiO_2 、アルミナ Al_2O_3 、ライム CaO 、マグネシア MgO 、酸化ナトリウム Na_2O 、酸化カリウム K_2O 、二酸化チタン TiO_2 、酸化マンガン MnO 、酸化リン P_2O_5 、化合水C.W.、炭素C、ヴァナジウムV、銅Cu、ジルコニウムZr）を化学分析している。分析は各元素について分析し、酸化物に換算して表示している。

胎土成分は、17成分（全鉄T.Fe、酸化鉄 FeO 、シリカ SiO_2 、アルミナ Al_2O_3 、ライム CaO 、マグネシア MgO 、化合水C.W.、二酸化チタン TiO_2 、酸化マンガン MnO 、酸化ナトリウム Na_2O 、酸化カリウム K_2O 、炭素C、ルビジウムRb、ストロンチウムSr）を化学分析している。

鉄製品中成分の化学分析は、13成分（炭素C、シリコンSi、マンガンMn、リンP、イオウS、銅Cu、ニッケルNi、コバルトCo、アルミニウムAl、ヴァナジウムV、チタンTi、カルシウムCa、マグネシアムMg）を化学分析している。

(iii) 顕微鏡組織観察

試料の一部を切り出し樹脂に埋め込み、細かい研磨剤などで研磨（鏡面仕上げ）する。炉壁・羽口・粘土などの鉱物性試料については顕微鏡で観察しながら代表的な鉱物組織などを観察し、その特徴から材質、用途、熱履歴などを判断する。滓関連資料も炉壁・羽口などと同様の観察を行うが特徴的鉱物組織から成分的な特徴に結びつけ製・精錬工程の判別、使用原料なども検討する。金属鉄はナイタール（5%硝酸アルコール液）で腐食後、顕微鏡で観察しながら代表的な断面組織を拡大して写真撮影し、顕微鏡組織および介在物（不純物、非金属鉱物）の存在状態等から製鉄・鍛冶工程の加工状況や材質を判断する。原則として100倍および400倍で撮影を行う。必要に応じて実体顕微鏡（5倍～20倍）による観察もする。

(iv) X線回折測定

試料を粉碎して板状に成形し、X線を照射すると、試料に含まれている化合物の結晶の種類に応じて、それぞれに固有な反射（回折）された特性X線を検出（回折）できることを利用して、試料中の未知の化合物を同定することができる。多くの種類の結晶についての標準データが整備されており、ほとんどの化合物が同定される。

| 測定装置 理学電気株式会社製 ロータフレックス (RU-300型) | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 測定条件 | |
| ① 使用X線 | Cu-K α (波長 = 1.54178Å) |
| ② K β 線の除去 | グラファイト単結晶モノクロメーター |
| ③ 管電圧・管電流 | 55kV・250mA |
| ④ スキャニング・スピード | 40°/min |
| ⑤ サンプリング・インターバル | 0.020° |
| ⑥ D.S.スリット | 1° |
| ⑦ R.S.スリット | 0.15mm |
| ⑧ S.S.スリット | 1° |
| ⑨ 検出器 | シンチレーション・カウンター |

3. 調査結果および考察

分析調査結果を図表にまとめて249～253頁に示す。表1に調査試料と調査項目をまとめた。表2～7に試料の化学成分分析結果を、表8にX線回折結果を、表9に調査結果のまとめをそれぞれ示した。全試料の外観写真を256～264頁に、マクロ写真を264頁に、鉄滓等の顕微鏡組織を265～282頁に、金属組織の顕微鏡組織写真を283頁に、X線回折チャートを284～300頁にそれぞれ示す。

以下、試料の番号順に述べる。

試料 No. 1 鉄塊系遺物、着磁度：4、金属探知機反応：16mm以上

外観観察：外観写真を256頁に示す。重量87.0g、長さ61.8mm、幅39.4mm、厚さ27.8mm。X字のような形をした鉄塊系遺物で着磁度4、金属探知機反応が16mm以上を示すことから棒状の鉄塊が滓で結合したものと見られる。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈しているが局所的に内部から染み出た銹汁の暗紫色で斑模様を呈している。ゴツゴツとした凹凸のある面で小さいがぎっしりと重量感がある。上面側には粘土が付着し、下面側には3～5mmの大いな小石が付着している。滓は採取できないのでメタルを分析する。

マクロ観察：10倍の断面写真を264頁に示す。鉄塊の遺存状態は良好で白色のセメンタイト組織と黒色のパーライト組織と見られる金属組織が観察される。

顕微鏡組織：メタルの顕微鏡組織写真を283頁に示す。ほぼ全域が灰黒色のパーライト組織に白色のセメンタイトが析出した過共析鋼組織である。

化学成分：メタルの化学成分分析結果を表6～7に示す。Cは1.95%で過共析鋼組織の領域にあり顕微鏡で観察された結果と一致する。Siは0.059%、Alは0.027%、Tiは0.006%、Vは0.002%と少なく滓などの混入はほとんどない。Mnは0.002%、Cuは0.007%である。Pは0.087%、Sは0.040%である。

以上から本試料はCが1.95%の過共析鋼組織の鉄塊を含む鉄塊系遺物と見られる。

試料 No.2 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を256頁に示す。重量16.4g、長さ46.6mm、幅28.8mm、厚さ17.2mm。不齊三角形状を呈した扁平で軽量感のある鉄滓。内部から染み出た銹汁で暗紫色の斑状を呈している。上面側には3～5mmの大いな小石が付着し、木炭痕も観察される。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を265頁に示す。ウスタイト (Wustite:FeO) 組織、ファイヤライド (Fayalite:2FeO·SiO₂) 組織、及びウルボスピネル (Ulvöspinel:2FeO·TiO₂) 組織等が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ウスタイト (Wustite:FeO) 組織の回折線が中強度に、ファイヤライ

ト (Fayalite: 2FeO · SiO₂) 組織、及びウルボスピネル (Ulvospinel: 2FeO · TiO₂) 組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄51.9%に対して金属鉄は0.20%とわずかである。FeOは57.1%、Fe₂O₃は10.5%、SiO₂は19.2%、Al₂O₃は5.04%、TiO₂は2.07%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは76.1%、SiO₂は21.6%、TiO₂は2.3%となる。28頁のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではウスタイト組織とファイヤライト組織の境界領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料 No.3 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を256頁に示す。重量70.5g、長さ58.4mm、幅40.7mm、厚さ33.5mm。ずんぐりとした小山のような形状をした鉄滓。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈しているが滓は黒色。上面側は滓が溶融した滑らかな曲面で発泡出生した破孔がある。下面側は1～2mm大の気泡が点在したツブツブとした表面である。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を265頁に示す。ガラス質組織が主体でこの中に微細なメタル粒が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。クリストバライド (Quartz: SiO₂) 組織の回折線が高強度に、ファイヤライト (Fayalite: 2FeO · SiO₂) 組織、及びマグнетタイト (Magnetite: Fe₃O₄) 組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄13.0%に対して金属鉄は0.09%とわずかである。FeOは2.90%、Fe₂O₃は15.3%、SiO₂は52.6%、Al₂O₃は21.0%、TiO₂は1.59%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは25.1%、SiO₂は72.7%、TiO₂は2.2%となる。28頁のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではクリストバライド組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は炉壁付着滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した炉壁付着滓と見られる。

試料 No.4 鉄滓、着磁度：1、金属探知機反応：2mm

外観観察：外観写真を256頁に示す。重量28.5g、長さ54.2mm、幅37.7mm、厚さ26.6mm。不齊五角形状の軽量感のある鉄滓。上面側は滓であるが下面側は胎土であることから滓が付着した焼壁片と見られる。上面側は比較的平坦で1mm大の気泡が点在する厚さ5mm程度の滓が付着した面である。下面側は胎土面で亀裂が走り、表面には筋痕が点在し、6mm大の鉱物粒が散見される。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を266頁に示す。銹化鉄組織が主体で銹化で生じた粗大な気泡も多い。

X線回折：結果を表8に示す。銹化鉄に由来するマグネットタイト (Magnetite: Fe₃O₄) 組織やヘマタイト (Hematite: Fe₂O₃) の回折線が高強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄63.5%に対して金属鉄は0.22%とわずかである。FeOは21.5%、Fe₂O₃は66.6%、SiO₂は5.15%、Al₂O₃は1.35%、TiO₂は1.09%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは93.4%、SiO₂は5.5%、TiO₂は1.2%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネットタイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観

察とはほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図であるが、本試料は錆化鉄が多く含まれ鉄滓による生成工程の位置付けは困難と判断。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする錆化鉄が多い鉄滓と見られる。

試料 No. 5 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を257頁に示す。重量30.0g、長さ46.9mm、幅50.5mm、厚さ18.6mm。不齊台形状を呈した扁平で軽量感のある鉄滓。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈している。上面側は滓が流動した緩やかな凹凸面で1mm大の気泡が点在している。下面側は比較的平坦で小石や砂が一面に付着している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を266頁に示す。ガラス質組織が主体で鉄滓組織は確認されない。

X線回折：結果を表8に示す。クリストバライド（Quartz:SiO₂）組織やアノーサイト（Anorthite:CaOAl₂O₅SiO₂）の回折線が高強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄9.34%に対して金属鉄は0.07%とわずかである。FeOは5.30%、Fe₂O₃は7.40%、SiO₂は60.4%、Al₂O₃は16.6%、TiO₂は0.78%で始発原料は砂鉄である。FeO-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOは17.1%、SiO₂は81.8%、TiO₂は1.1%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではクリストバライド組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とはほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は炉壁付着滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した炉壁付着滓と見られる。

試料No.6 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を257頁に示す。重量14.6g、長さ67.1mm、幅19.2mm、厚さ10.6mm。螺旋形の棒状を呈した鉄滓。薄っすらと粘土に覆われて灰黒色を呈しているが滓は黒色。上面側には発泡で生じた1mm大の気泡が点在し、下面側には3～5mm大の小石が巻き込まれている。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を267頁に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びウルボスピネル（Ulvospinel:2FeO·TiO₂）組織がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が中強度に、ウルボスピネル（Ulvospinel:2FeO·TiO₂）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄47.1%に対して金属鉄は0.10%とわずかである。FeOは51.9%、Fe₂O₃は9.50%、SiO₂は23.0%、Al₂O₃は6.70%、TiO₂は2.10%で始発原料は砂鉄である。FeO-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOは71.0%、SiO₂は26.6%、TiO₂は2.4%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではウスタイト組織とファイアライト組織の境界領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とはほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料 No. 7 鉄滓、着磁度：2、金属探知機反応：2 mm

外観観察：外観写真を257頁に示す。重量10.4g、長さ31.6mm、幅30.0mm、厚さ16.7mm。上部に突起があ

る栗のような形をした鉄滓。上面側は中央部が凸面で鉄化で生じた鉄汁の暗紫色で覆われ、3~5mmの小石が付着している。下面側は比較的平坦で木炭痕が散見される。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を267頁に示す。鉄化鉄組織が主体で鉄化で生じた粗大な気泡も多い。鉄滓組織は観察されない。

X線回折：結果を表8に示す。鉄化鉄に由来するマグнетサイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2~3に示す。全鉄59.4%に対して金属鉄は0.17%とわずかである。FeOは23.0%、Fe₂O₃は59.1%、SiO₂は7.10%、Al₂O₃は1.84%、TiO₂は1.57%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは90.5%、SiO₂は7.8%、TiO₂は1.7%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネットサイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2~3は滓の成分の特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2~3で見ると本試料は砂鉄系製鍊滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製鍊工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.8 鉄滓、着磁度：1、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を257頁に示す。重量1434.1g、長さ222.0mm、幅91.0mm、厚さ77.5mm。短冊状を呈したずっしりと重量感のある鉄滓。下面側は胎土であることから炉壁に付着した鉄滓と見られる。上面側は炉内側で滓が流動、発泡した凹凸の激しいゴツゴツとした面を呈している。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈しているが局所的には鉄汁の暗紫色を呈している。下面側は炉壁の胎土面で亀裂が走り、5~10mm大の鉱物粒が点在している。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を268頁に示す。ガラス質組織と鉄化鉄組織が主体であるが僅かにファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ガラス質組織のクリストバライド（Quartz:SiO₂）組織の回折線が高強度に、鉄化鉄に由来するマグネットサイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が中強度に、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2~3に示す。全鉄31.2%に対して金属鉄は0.11%とわずかである。FeOは9.08%、Fe₂O₃は34.4%、SiO₂は35.1%、Al₂O₃は13.5%、TiO₂は0.95%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは54.6%、SiO₂は44.2%、TiO₂は1.2%となる。28頁のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではクリストバライド組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2~3は滓の成分の特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2~3で見ると本試料は砂鉄系製鍊滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製鍊工程で生じた鉄滓と見られる。

試料No.9 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を258頁に示す。重量57.1g、長さ77.2mm、幅37.2mm、厚さ31.0mm。不齊形状を呈した鉄滓。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈しているが滓は黒色。上面側は比較的平坦で亀裂や1mm大の気泡が点在している。下面側には木炭痕があり表面は薄っすらと粘土で覆われている。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を268頁に示す。ガラス質組織が主体であるが僅かにファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、ウルボスピネル（Ulvospinel:2FeO·TiO₂）組織等が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ガラス質組織のクリストバライド（Quartz:SiO₂）組織の回折線が高強度

度に、ファイアライト ($\text{Fayalite}:2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$) 組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄19.2%に対して金属鉄は0.08%とわずかである。 FeO は4.81%、 Fe_2O_3 は22.0%、 SiO_2 は45.9%、 Al_2O_5 は19.2%、 TiO_2 は1.33%で始発原料は砂鉄である。 $\text{FeO}-\text{SiO}_2-\text{TiO}_2$ の3成分系に換算すると FeO は36.2%、 SiO_2 は62.0%、 TiO_2 は1.8%となる。28頁の $\text{FeO}-\text{SiO}_2-\text{TiO}_2$ 系の平衡状態図ではクリストバライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生じた鉄滓と見られる。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生じた鉄滓と見られる。

試料No.10 鉄塊系遺物、着磁度：4、金属探知機反応：12mm

外観観察：外観写真を258頁に示す。重量66.8g、長さ58.9mm、幅34.4mm、厚さ22.3mm。長円上のゴツゴツとした形状でずっしりと重量感があり、着磁度4、金属探知機反応が12mmを示すことから内部に鉄塊が存在すると見られる。上面側は内部から染み出た銹汁で覆われ暗紫色を呈している。3～5mm大の小石が付着している。下面側も銹汁で覆われ、中央部には錆化で膨張して生じたと見られる20mm大の瘤がある。

マクロ観察：10倍の断面写真を264頁に示す。鉄塊の遺存状態は良好で白色のセメンタイト組織と黒色のパーライト組織と見られる金属組織が観察される。

顕微鏡組織：メタルの顕微鏡組織写真を283頁に示す。ほぼ全域が灰黒色のパーライト組織に白色のセメンタイトが析出した亜共晶鉄組織である。滓の顕微鏡組織写真を269頁に示す。錆化鉄組織が主体であるが僅かにファイアライト ($\text{Fayalite}:2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$) 組織が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。錆化鉄に由来するマグнетサイト ($\text{Magnetite}: \text{Fe}_3\text{O}_4$) 組織の回折線が中強度に、ファイアライト ($\text{Fayalite}:2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$) 組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：滓の化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄46.9%に対して金属鉄は0.98%である。 FeO は40.7%、 Fe_2O_3 は20.4%、 SiO_2 は20.9%、 Al_2O_5 は5.68%、 TiO_2 は3.06%で始発原料は砂鉄である。 $\text{FeO}-\text{SiO}_2-\text{TiO}_2$ の3成分系に換算すると FeO は71.8%、 SiO_2 は24.6%、 TiO_2 は3.6%となる。図1の $\text{FeO}-\text{SiO}_2-\text{TiO}_2$ 系の平衡状態図ではウスタイト組織とファイアライト組織の境界領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図であるが、本試料は錆化鉄が多く含まれ鉄滓による生成工程の位置付けは困難と判断。メタルの化学成分分析結果を表6～7に示す。Cは2.68%で亜共晶鉄組織の領域にあり顕微鏡で観察された結果と一致する。Siは0.003%、Alは0.002%、Tiは0.001%、Vは0.001%と少なく滓などの混入はほとんどない。Mnは<0.001%、Cuは0.003%である。Pは0.017%、Sは0.072%である。滓の化学成分分析結果を表2～3に示す。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とするCが2.68%の亜共晶鉄組織の鉄塊を含む鉄塊系遺物と見られる。

試料No.11 鉄滓、着磁度：1、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を258頁に示す。重量984.8g、長さ148.2mm、幅137.3mm、厚さ38.6mm。不齊三角形状の扁平な形狀のずっしりと重量感のある鉄滓。上面側は酸化土砂に覆われて茶褐色を呈しているが滓は黒色で滓が溶融して発泡した凹凸の激しい曲面で構成されている。下面側は平坦で亀裂が走り3～5mm大の小石が一面に付着している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を269頁に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びウルボスピネル（Ulvospinel:2FeO·TiO₂）組織がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びウルボスピネル（Ulvospinel:2FeO·TiO₂）組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄49.8%に対して金属鉄は0.10%と僅かである。FeOは55.9%、Fe₂O₃は8.9%、SiO₂は19.9%、Al₂O₃は5.21%、TiO₂は3.10%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは73.8%、SiO₂は22.7%、TiO₂は3.5%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではウスタイト組織とファイヤライト組織の境界領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.12 鉄滓、着磁度：3、金属探知機反応：8mm

外観観察：外観写真を258頁に示す。重量23.5g、長さ29.4mm、幅26.9mm、厚さ15.8mm。不齊四角形状の小さいがずつしりと重量感がある鉄滓。着磁度3、金属探知機反応が8mmを示すことから滓の中に大きな粒鉄が存在すると見られる。上面側は酸化土砂に覆われて茶褐色色を呈しているが滓は黒色。下面側は錆化で生じた錆汁の暗紫色に覆われ、錆化の膨張で生じたと見られる亀裂が走っている。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を270頁に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びマグнетタイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織がそれぞれ観察され、多くのメタルが点在している。

X線回折：結果を表8に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びマグネットタイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄57.8%に対して金属鉄は4.16%で微細なメタルが混入している。FeOは42.3%、Fe₂O₃は29.7%、SiO₂は14.3%、Al₂O₃は4.24%、TiO₂は0.79%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは82.7%、SiO₂は16.4%、TiO₂は0.9%となる。28頁のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではウスタイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.13 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を259頁に示す。重量137.8g、長さ83.3mm、幅57.7mm、厚さ45.1mm。不齊三角形状のサザエ貝のような形をした鉄滓。粘土で薄っすらと覆われ灰黒色を呈しているが滓は黒色。上面側は滓の溶融、発泡で生じた激しい凹凸面で13×17mm大の木炭痕がある。下面側は左端部がやや丸みを帯びた滓の流動面で大半は上面側と同様な発泡で生じた激しい凹凸面である。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を270頁に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が中強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄37.6%に対して金属鉄は0.07%と僅かである。FeOは21.8%、Fe₂O₃は29.4%、SiO₂は29.9%、Al₂O₃は9.86%、TiO₂は1.55%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは62.0%、SiO₂は36.2%、TiO₂は1.9%となる。28頁のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではガラス質スラグの影響でファイアライト組織とクリストバライド組織の境界領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察と一致しない。図2～3は津の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬津の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生じた鉄津と見られる。

試料No.14 鉄津、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を259頁に示す。重量98.2g、長さ83.0mm、幅52.5mm、厚さ16.6mm。不齊長方形形状を呈した比較的軽量感のある鉄津。粘土で薄っすらと覆われて灰黒色を呈しているが津は黒色である。上面側は比較的平坦で木炭痕があり上部は破面で3mm大の小石が多数付着している。下面側はゴツゴツとした形状の破孔面で構成され1mm大の気泡が点在している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を271頁に示す。ほぼ全面がファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織で、微細なウルボスピネル（Ulvöspinel:2FeO·TiO₂）組織が点在して観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が高強度に認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄37.4%に対して金属鉄は0.10と僅かである。FeOは26.2%、Fe₂O₃は24.2%、SiO₂は30.2%、Al₂O₃は10.2%、TiO₂は1.58%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは61.3%、SiO₂は36.7%、TiO₂は1.9%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではガラス質スラグの影響でクリストバライド組織の境界領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察と一致しない。図2～3は津の成分的特徴から製錬工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬津の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生じた鉄津と見られる。

試料No.15 鉄津、着磁度：4、金属探知機反応：3mm

外観観察：外観写真を259頁に示す。重量26.9g、長さ47.4mm、幅30.1mm、厚さ22.4mm。不齊菱形のような形をした鉄津。上面側はゴツゴツとした粗野な面で内部から染み出た錆汁の暗紫色で覆われている。下面側は酸化土砂に覆われた茶褐色の部分と黒色の津の部分とほぼ半々である。津側には1～3mm大の気泡が点在している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を271頁に示す。錆化鉄組織が主体で鉄津は観察されない。

X線回折：結果を表8に示す。錆化鉄に由来するマグнетайド（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄69.2%に対して金属鉄は0.18%とわずかである。FeOは49.2%、Fe₂O₃は44.0%、SiO₂は3.45%、Al₂O₃は0.74%、TiO₂は0.58%で始発原料は砂鉄と見られる。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは95.9%、SiO₂は35%、TiO₂は0.6%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネットайド組織の領域にあり平衡状態図上の位置

は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図であるが、本試料は錆化鉄が多く含まれ鉄滓による生成工程の位置付けは困難と判断。
以上から本試料は砂鉄を始発原料とする錆化鉄が多い鉄滓と見られる。

試料No.16 鉄滓、着磁度：1、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を259頁に示す。重量88.6g、長さ53.8mm、幅40.7mm、厚さ26.4mm。粘土が薄っすらと付着して灰黒色を呈した楕円形でずっしりと重量感のある鉄滓。上面側は1mm大の気泡が点在し中央部が丸みを帯びて窪んでいる。下面側は比較的平坦で1～3mm大の小石が付着している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を272頁に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、マグネットайт（Magnetite: Fe₃O₄）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が中強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びマグネットайт（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄50.3%に対して金属鉄は0.04%と僅かである。FeOは52.4%、Fe₂O₃は13.6%、SiO₂は21.6%、Al₂O₃は6.32%、TiO₂は1.15%で始発原料は砂鉄である。FeO-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは74.4%、SiO₂は24.3%、TiO₂は1.3%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイヤライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料 No.17 鉄滓、着磁度：2、金属探知機反応：3mm

外観観察：外観写真を260頁に示す。重量342g、長さ51.6mm、幅32.3mm、厚さ13.0mm。不齊三角形の小山のような形状で軽量感のある鉄滓。錆汁で覆われて暗紫色の斑模様を呈している。上面側には錆化による膨張で生じた瘤や木炭痕が観察される。下面側は中央部が窪んだ形状で3～5mm大の小石が多数巻き込まれている。底部には8×10mm大の比較的大きな木炭痕がある。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を272頁に示す。写真には記載していない錆化鉄組織に混じり凝集したウスタイト（Wustite:FeO）組織が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。錆化鉄に由来するマグネットайт（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄50.5%に対して金属鉄は0.17%と僅かである。FeOは30.5%、Fe₂O₃は38.1%、SiO₂は22.7%、Al₂O₃は1.85%、TiO₂は1.12%で始発原料は砂鉄である。FeO-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは74.2%、SiO₂は24.6%、TiO₂は1.2%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイヤライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.18 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を260頁に示す。重量244.6g、長さ115.1mm、幅74.3mm、厚さ40.5mm。不齊菱形のよ

うな形状の扁平な鉄滓。粘土で薄っすらと覆われて灰黒色を呈しているが滓は黒色。上面側は滓が流动して生じた丸みを帯びた曲面で1～5mm大の気泡が点在している。下面側は比較的平坦で小石や礫が多数巻き込まれている。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を273頁に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織、メタル粒等がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄51.9%に対して金属鉄は0.09%と僅かである。FeOは57.3%、Fe₂O₃は10.4%、SiO₂は19.9%、Al₂O₃は6.25%、TiO₂は1.15%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは76.3%、SiO₂は22.4%、TiO₂は1.3%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイヤライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.19 鉄滓、着磁度：1、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真260頁に示す。重量46.2g、長さ50.7mm、幅36.1mm、厚さ23.6mm。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈しているが滓は黒色。上面側は中央部が窪んだ形をし木炭痕が点在している。下面側は凸面で1～5mm大の小石が多数付着している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を273頁に示す。凝集したウスタイト（Wustite:FeO）組織、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及び微細なウルボスピネル（Ulvospinel:2FeO·TiO₂）組織等がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が中強度に、ウルボスピネル（Ulvospinel:2FeO·TiO₂）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄53.1%に対して金属鉄は8.68%とメタルが混入している。FeOは47.9%、Fe₂O₃は10.3%、SiO₂は20.1%、Al₂O₃は4.53%、TiO₂は1.83%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは72.6%、SiO₂は25.1%、TiO₂は2.3%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイヤライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.20 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を260頁に示す。重量120.5g、長さ70.4mm、幅55.4mm、厚さ24.7mm。ずつりと重量感のある鉄滓。上面側は粘土で薄っすらと覆われて灰黒色を呈し、ツツツとした形状の凹凸のある面と比較的平坦な褶曲面で構成され、1～5mm大の気泡が点在している。下面側は酸化土砂に覆われて茶褐色を呈し中央部がやや窪んだ形状である。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を274頁に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、ウスタイト（Wustite:FeO）組織等がそれぞれ観察される。

×線回折：結果を表8に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄47.3%に対して金属鉄は2.11%とメタルが混入している。FeOは48.4%、Fe₂O₃は10.8%、SiO₂は26.1%、Al₂O₃は6.49%、TiO₂は0.97%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは68.6%、SiO₂は30.2%、TiO₂は1.1%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイアライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製鍊滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製鍊工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.21 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を261頁に示す。重量87.0g、長さ107.3mm、幅22.0mm、厚さ19.3mm。粘土で薄っすらと覆われて灰黒色を呈したたずしりと重量感のある棒状の鉄滓。上面側は凸面で構成され5～7mm大の白色の小石が点在して付着している。下面側は中央部が線状に窪んだ形状で1mm大の気泡が点在している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を274頁に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、ウスタイト（Wustite:FeO）組織等がそれぞれ観察される。メタル粒も観察される。

×線回折：結果を表8に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄53.0%に対して金属鉄は0.28%と僅かである。FeOは60.1%、Fe₂O₃は8.6%、SiO₂は19.9%、Al₂O₃は5.35%、TiO₂は1.11%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは76.6%、SiO₂は22.2%、TiO₂は1.2%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイアライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製鍊滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製鍊工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.22 鉄滓、着磁度：1、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を261頁に示す。重量1162.4g、長さ152.9mm、幅96.5mm、厚さ48.7mm。粘土と鉛汁で覆われたたずしりと重量感のある鉄滓。上面側は滓が流動して生じた丸みのある凹凸面で1mm大の気泡が点在している。下面側は泥で覆われた平坦な面で3～5mm大の小石が一面に付着している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を275頁に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、ウスタイト（Wustite:FeO）組織等がそれぞれ観察される。

×線回折：結果を表8に示す。ファイアライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄39.3%に対して金属鉄は0.14%と僅かである。FeOは39.2%、Fe₂O₃は12.4%、SiO₂は30.4%、Al₂O₃は9.05%、TiO₂は1.20%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは62.0%、SiO₂は36.5%、TiO₂は1.4%となる。

図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイアライト組織とクリストバライト組織の境界領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の

生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.23 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を261頁に示す。重量305.3g、長さ82.2mm、幅74.7mm、厚さ26.6mm。ずつしりと重量感がある扁平な鉄滓。上面側は滓が流動した緩やかな曲面で構成される。下面側は比較的凹凸がある面で構成されており、5～7mm大の木炭痕や5～10mm大の小石が点在している。破面は2、破面で見ると緻密な組織で1mm大の気泡は観察されない。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を275頁に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、ウスタイト（Wustite:FeO）組織等がそれぞれ観察されメタル粒も多数存在する。

X線回折：結果を表8に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄49.0%に対して金属鉄は0.21%と僅かである。FeOは56.4%、Fe₂O₃は7.1%、SiO₂は22.6%、Al₂O₃は6.86%、TiO₂は1.32%で始発原料は砂鉄である。FeO-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOは72.6%、SiO₂は25.9%、TiO₂は1.5%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイヤライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製錬工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.24 鉄滓、着磁度：4、金属探知機反応：16mm

外観観察：外観写真を261頁に示す。重量922g、長さ52.2mm、幅42.8mm、厚さ33.2mm。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈したずつしりと重量感のある鉄滓。着磁度4、金属探知機反応が16mmを示していることから鉄塊に滓が付着した鉄塊系遺物と見られる。上面側は丸みのある凸面が多いことから鉄塊に滓が付着した面と見られる。下面側は鉄塊と見られ内部から染み出た錆汁で覆われている。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を276頁に示す。写真には記載していないが錆化鉄組織が多い中でファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織等がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。錆化鉄由来するマグネタイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄56.2%に対して金属鉄は0.94%である。FeOは43.5%、Fe₂O₃は30.7%、SiO₂は14.5%、Al₂O₃は4.50%、TiO₂は0.69%で始発原料は砂鉄と見られる。FeO-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOは83.0%、SiO₂は16.2%、TiO₂は0.8%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネタイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製錬工程の生成位置等を検討する図であるが、本試料は錆化鉄が多く含まれ鉄滓による生成工程の位置付けは困難と判断。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする錆化鉄が多い鉄滓と見られる。

試料No.25 鉄滓、着磁度：2、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を262頁に示す。重量58.4g、長さ54.3mm、幅49.1mm、厚さ35.0mm。中央部に突起がある不齐三角形状のすんぐりとした重量感のある鉄滓。上面側には1mm大の気泡が点在し、内部から滲み出た鉛汁で生じた暗紫色の斑模様がある。下面側は中央部が凸面で構成され1mm大の小石が付着している。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を276頁に示す。写真には記載していないが鉄化鉄組織やガラス質組織が多い中でファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及び微細なマグнетイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織等がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。クリストバライト（Quartz:SiO₂）組織、及び鉄化で生じたマグネットイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が中強度に、鉄化で生じたゲーサイト（Goethite:Fe(OOH)₃）組織やファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄28.4%に対して金属鉄は0.37%とわずかである。FeOは16.8%、Fe₂O₃は21.4%、SiO₂は40.8%、Al₂O₃は12.2%、TiO₂は0.76%で始発原料は砂鉄と見られる。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは47.9%、SiO₂は51.2%、TiO₂は1.0%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではクリストバライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生じた鉄滓と見られる。

試料No.26 鉄滓、着磁度：1、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を262頁に示す。重量17.8、長さ40.6mm、幅21.1mm、厚さ18.1mm。軽量感のある鉄滓で酸化土砂に覆われて茶褐色を呈している。上面側の下部は内部から染み出た鉛汁で暗紫色の斑状を呈し、下面側は比較的ゴツゴツとした質感。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を277頁に示す。鉄化鉄組織、凝集ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織等がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。鉄化鉄に由来するマグネットイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が中強度に、ゲーサイト（Goethite:Fe(OOH)₃）、及びファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄66.8%に対して金属鉄は0.10%と僅かである。FeOは59.4%、Fe₂O₃は29.3%、SiO₂は6.24%、Al₂O₃は1.32%、TiO₂は0.62%で始発原料は砂鉄と見られる。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは92.8%、SiO₂は6.5%、TiO₂は0.6%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネットイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図であるが、本試料は鉄化鉄が多く含まれ鉄滓による生成工程の位置付けは困難と判断。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする鉄化鉄が多い鉄滓と見られる。

試料No.27 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を262頁に示す。重量294.1g、長さ109.8mm、幅63.4mm、厚さ60.10mm。不齊長方形の形状を呈した炉壁に付着した鉄滓。酸化土砂に覆われてやや赤味を帯びた暗紫色を呈しているが滓は黒色。上面側は滓が溶融して生じた凹凸のある曲面で10mm大の破孔や3mm大の気泡が点在している。下面側は胎土で木炭痕が多数観察される。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を277頁に示す。ガラス質組織が主体であるが僅かにウスタイト（Wustite:FeO）組織が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ガラス質組織のクリストバライト（Quartz:SiO₂）組織の回折線が高強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄15.5%に対して金属鉄は0.06%とわずかである。FeOは3.95%、Fe₂O₃は17.7%、SiO₂は52.5%、Al₂O₃は18.6%、TiO₂は0.78%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは28.9%、SiO₂は70.1%、TiO₂は1.0%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではクリストバライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は津の成分の特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は炉壁付着津にあたる。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した炉壁付着津と見られる。

試料No.28 鉄津、着磁度：2、金属探知機反応：3mm

外観観察：外観写真を262頁に示す。重量53.4、長さ57.0mm、幅42.5mm、厚さ25.7mm。ゴツゴツとした岩山のような鉄津。酸化土砂と内部から染み出た鉛汁に覆われて暗赤紫色を呈しているが津は黒色。鉄津の小片が結合したと見られるようにゴツゴツとした複雑な形状を呈している。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を278頁に示す。鈎化鉄組織、凝集ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及びファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織等がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ウスタイト（Wustite:FeO）組織、及び鈎化鉄に由来するマグネタイト（Magnetite:Fe₃O₄）組織の回折線が高強度に、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織の回折線が中強度に、ゲーサイト（Goethite:Fe(OOH)₃）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄61.8%に対して金属鉄は0.20%と僅かである。FeOは45.8%、Fe₂O₃は37.2%、SiO₂は9.36%、Al₂O₃は2.71%、TiO₂は0.60%で始発原料は砂鉄と見られる。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは89.3%、SiO₂は10.1%、TiO₂は0.6%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネタイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は津の成分の特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図であるが、本試料は鈎化鉄が多く含まれ鉄津による生成工程の位置付けは困難と判断。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする鈎化鉄が多い鉄津と見られる。

試料No.29 鉄津、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を263頁に示す。重量218.2、長さ54.3mm、幅55.9mm、厚さ54.1mm。板状でずつりと重量感のある鉄津。薄っすらと酸化土砂に覆われて暗赤紫色を呈しているが津は黒色。上面側は比較的平坦で津が流動した筋状の模様が観察される。下面側は破面で、緻密な組織で小気泡はほとんどなく集合した20～30mm大の粗大な気泡が観察される。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を278頁に示す。ウスタイト（Wustite:FeO）組織、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びメタル粒等がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄49.6%に対して金属鉄は0.17%と僅かである。FeOは56.8%、Fe₂O₃は7.5%、SiO₂は22.8%、Al₂O₃は6.75%、TiO₂は1.03%で始発原料は砂鉄である。

FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは73.0%、SiO₂は25.9%、TiO₂は1.2%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイヤライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製練滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.30 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を263頁に示す。重量427.0、長さ116.6mm、幅83.5mm、厚さ26.4mm。不齊五角形状を呈した扁平でずつりと重量感のある鉄滓。酸化土砂に覆われて茶褐色を呈しているが滓は黒色。上面側は中央部が窪み、下面側は緩やかな凸面で3～5mmの大いな小石が巻き込まれている。椀形滓の破片と見られる。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を279頁に示す。ファイヤライト (Fayalite:2FeO·SiO₂) 組織、及びウスタイト (Wustite:FeO) 組織等がそれぞれ観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ファイヤライト (Fayalite:2FeO·SiO₂) 組織、及びウスタイト (Wustite:FeO) 組織の回折線が中強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄49.0%に対して金属鉄は0.10%と僅かである。FeOは53.1%、Fe₂O₃は10.9%、SiO₂は23.7%、Al₂O₃は6.77%、TiO₂は0.88%で始発原料は砂鉄と見られる。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは72.3%、SiO₂は26.8%、TiO₂は1.0%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではファイヤライト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製練滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.31 鉄塊系遺物、着磁度：2、金属探知機反応：3mm

外観観察：外観写真を263頁に示す。重量38.5、長さ51.2mm、幅32.2mm、厚さ28.9mm。不齊三角形状でゴツゴツとした小山のような鉄滓。内部から染み出た銹汁で暗紫色を呈している。上面側の上部には10×13mmの大いな木炭痕がある。鉄塊に滓が付着した鉄塊系遺物と見られる。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を279頁に示す。錆化鉄組織が主体で僅かながら、ファイヤライト (Fayalite:2FeO·SiO₂) 組織、及びウスタイト (Wustite:FeO) 組織等が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。錆化鉄に由来するマグネタイト (Magnetite: Fe₃O₄) 組織の回折線が高強度に、ウスタイト (Wustite:FeO) 組織、ファイヤライト (Fayalite:2FeO·SiO₂) 組織、及びゲーサイト (Goethite:Fe(OOH)₃) 組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄57.5%に対して金属鉄は0.18%と僅かである。FeOは18.3%、Fe₂O₃は61.6%、SiO₂は9.23%、Al₂O₃は2.68%、TiO₂は0.32%で始発原料は砂鉄か否かは判断できない。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは89.3%、SiO₂は10.3%、TiO₂は0.4%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネタイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図であるが、本試料は錆化鉄が多く含まれ鉄滓による生成工程の位置付けは困難と判断。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする錆化鉄が多い鉄滓と見られる。

試料No.32 鉄滓、着磁度：4、金属探知機反応：6～8mm

外観観察：外観写真を263頁に示す。重量128.1、長さ80.2mm、幅53.6mm、厚さ23.7mm。長円状で中央部がやや窪んだ扁平でずっしりと重量感のある鉄塊系遺物。着磁度4、金属探知機反応が6～8mmを示すことから内部に鉄塊の存在が伺われる。上面側の窪んだ部分は鋸歯で暗紫色を呈し、下面側はやや黒ずんだ澤の色彩で1mm大の気泡が点在している。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を280頁に示す。写真は記載していないが錆化鉄組織が主体でこの中に僅かながら、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織等が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。錆化鉄に由来するマグネタイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が中強度に、ウスタイト（Wustite:FeO）組織、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びゲーサイト（Goethite:Fe(OOH)₃）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄60.6%に対して金属鉄は0.22%と僅かである。FeOは53.6%、Fe₂O₃は26.3%、SiO₂は11.6%、Al₂O₃は2.50%、TiO₂は0.63%で始発原料は砂鉄か否かは判断できない。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは86.8%、SiO₂は12.5%、TiO₂は0.7%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネタイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は澤の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図であるが、本試料は錆化鉄が多く含まれ鉄滓による生成工程の位置付けは困難と判断。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする錆化鉄が多い鉄滓と見られる。

試料No.33 鉄滓、着磁度：1、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を264頁に示す。重量620.7、長さ135.4mm、幅79.6mm、厚さ47.8mm。長辺状の板状を呈したずっしりと重量感のある鉄滓。薄っすらと酸化土砂に覆われて暗赤紫色を呈しているが澤は黒色。上面側の中央部には澤が流動して生じたと見られる筋状の模様が見える。下面側には泥や小石が多数付着している。破面は2、破面で見ると緻密な組織であり小さな気泡は観察されない。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を280頁に示す。マグネタイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織、ウスタイト（Wustite:FeO）組織、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織等が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。マグネタイト（Magnetite: Fe₃O₄）組織の回折線が中強度に、ファイヤライト（Fayalite:2FeO·SiO₂）組織、及びウスタイト（Wustite:FeO）組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄53.2%に対して金属鉄は0.44%と僅かである。FeOは61.1%、Fe₂O₃は7.5%、SiO₂は19.5%、Al₂O₃は5.50%、TiO₂は1.13%で始発原料は砂鉄である。FeOn-SiO₂-TiO₂の3成分系に換算するとFeOnは76.9%、SiO₂は21.8%、TiO₂は1.3%となる。図1のFeO-SiO₂-TiO₂系の平衡状態図ではマグネタイト組織とファイヤライト組織の境界領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は澤の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製錬澤の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

試料No.34 砂鉄

外観観察：外観写真を264頁に示す。やや茶褐色を帯びた砂鉄で粒径範囲は広い。 $+1400\mu\text{m}$ が38%と多く、 $1400\sim500\mu\text{m}$ が27%、 $500\sim250\mu\text{m}$ が17%、 $-250\mu\text{m}$ は18%である。平均粒径は算術平均

で616 μm 。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を281頁に示す。粒子内には気孔や亀裂が観察される。チタン鉄鉱と磁鉄鉱とが固溶体になり格子状の微細な模様を呈するウィッドマンステッテン組織 (Widmanstatten Structure) を有する粒子も観察される。400倍の写真はウィードマンステッテン型組織が一部見られる粒子である。

化学成分：分析結果を表4～5に示した。全鉄は27.3%で、FeOは12.1%、 Fe_2O_3 は25.4%で Fe_2O_3 とFeOの比率は68:32である。代表的な不純物である SiO_2 は13.1%と多い。 TiO_2 の含有量は1.19%で低い。

試料No.35 砂鉄

外観観察：外観写真を264頁に示す。茶褐色を呈した砂鉄で磁着は半分程度。試料重量が0.3gであつたため粒度分析は実施せず。

顕微鏡組織：顕微鏡組織写真を281頁に示す。粒子内には気孔や亀裂が観察される。チタン鉄鉱と磁鉄鉱とが固溶体になり格子状の微細な模様を呈するウィッドマンステッテン組織 (Widmanstatten Structure) を有する粒子も観察される。400倍の写真はウィードマンステッテン型組織が一部見られる粒子である。

化学成分：分析結果を表4～5に示した。全鉄は19.8%で、FeOは12.1%、 Fe_2O_3 は14.7%で Fe_2O_3 とFeOの比率は55:45である。代表的な不純物である SiO_2 は11.4%と多い。 TiO_2 の含有量は1.50%で低い。

試料No.36 鉄滓、着磁度：なし、金属探知機反応：なし

外観観察：外観写真を264頁に示す。重量39.7、長さ420mm、幅31.3mm、厚さ23.8mm。薄っすらと酸化土砂に覆われて暗赤紫色を呈しているが滓は黒色。上面側中央部の凹部は破孔と見られ内部には小さな木炭痕が観察される。下面側には13×15mm大の木炭痕がある。

顕微鏡組織：顕微鏡写真を282頁に示す。マグнетタイト (Magnetite: Fe_3O_4) 組織、ウスタイト (Wustite:FeO) 組織、ファイヤライト (Fayalite: $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) 組織等が観察される。

X線回折：結果を表8に示す。ウスタイト (Wustite:FeO) 組織の回折線が中強度に、ファイヤライト (Fayalite: $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) 組織、及びマグネット (Magnetite: Fe_3O_4) 組織の回折線が弱強度にそれぞれ認められる。

化学成分：化学成分分析結果を表2～3に示す。全鉄57.4%に対して金属鉄は0.17%と僅かである。FeOは61.3%、 Fe_2O_3 は13.7%、 SiO_2 は13.8%、 Al_2O_3 は4.10%、 TiO_2 は2.43%で始発原料は砂鉄である。 $\text{FeO}-\text{SiO}_2-\text{TiO}_2$ の3成分系に換算すると FeO は82.2%、 SiO_2 は15.1%、 TiO_2 は2.7%となる。図1の $\text{FeO}-\text{SiO}_2-\text{TiO}_2$ 系の平衡状態図ではウスタイト組織の領域にあり平衡状態図上の位置は顕微鏡観察とほぼ一致する。図2～3は滓の成分的特徴から製鉄工程の生成位置等を検討する図である。図2～3で見ると本試料は砂鉄系製練滓の位置にある。

以上から本試料は砂鉄を始発原料とする製錬工程で生成した鉄滓と見られる。

4. ま と め

(1) 遺 跡 の 性 格

本調査で得られた試料は、鉄滓34試料、砂鉄2試料の合計36試料である。鉄滓の出所を製造工程別に分類した結果、不明な8試料をのぞく26試料全てが製錬工程であり、本遺跡は製鉄炉により鉄素材を生産し、消費地に近い鍛冶炉へ鉄素材を供給していたと見られる。

(2) 始発原料

本調査で得られた鉄滓4試料から、 TiO_2 鉱物のウルボスピネル組織が観察されていることや、鉄滓試料の全てから TiO_2 が 1 ~ 3 % 検出されたこと等から、本遺跡の始発原料は砂鉄と判断された。遺構内で採取された砂鉄の TiO_2 濃度が 1.19% と 1.50% であったこと等から低濃度 Ti の砂鉄が始発原料であったと考えられる。

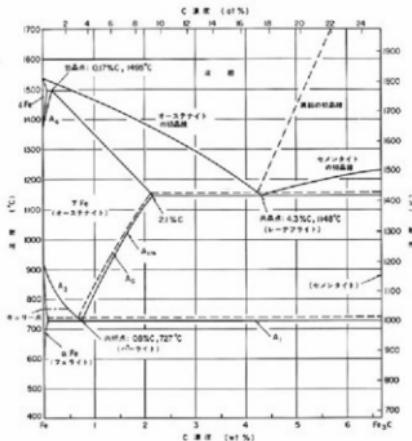
5. 参考

(1) 鉄滓の顕微鏡組織について：鉄滓を構成する化合物結晶には、一般的に表A1のような鉱物組織がある。酸化鉄 (Fe_2O_3 、 Fe_3O_4 、 FeO)、二酸化ケイ素 (シリカ: SiO_2)、アルミナ (Al_2O_3) および二酸化チタン (TiO_2) を組み合せた化合物 (固溶体) が多く、これら鉱物結晶は含有量にも依存するが、X線回折により検出され確認できる。鉄滓中の低融点化合物がガラス相 (非晶質) を形成することがあり、X線回折では検出されない。

表 A1 鉄滓の顕微鏡鉱物組織とその観察状況

| 鉱物組織名(和) | 鉱物名(英) | 化学式 | 偏光顕微鏡観察状況 |
|------------|----------------|------------------------------------|-----------------|
| ヘマタイト | Hematite | $\alpha - Fe_2O_3$ | 赤褐色～赤紫色 |
| マーゲマイト | Maghemite | $\gamma - Fe_2O_3$ | 赤紫色～黒紫色 |
| マグнетサイト | Magnetite | Fe_3O_4 | 白青色、四角または多角盤状 |
| ウスタイト | Wustite | FeO | 灰白色、繖玉状または樹枝状 |
| ファイヤライト | Fayalite | $2FeO \cdot SiO_2$ | 薄い青灰色、短冊状の長い結晶 |
| ウルボスピネル | Ulvo-spinel | $2FeO \cdot TiO_2$ | 白色、四角～角形板状結晶 |
| イルメナイト | Ilmenite | $FeO \cdot TiO_2$ | 白色、針状・棒状の長い結晶 |
| シュードブルッカイト | Pseudobrookite | $FeO \cdot 2TiO_2$ | 白色、針状の結晶 |
| ハロイサイト | Halloysite | $Al_2O_3 \cdot 2SiO_2 \cdot 2H_2O$ | X線で同定できたが組織は不明 |
| ハーキナイト | Hercynite | $FeO \cdot Al_2O_3$ | ウスタイト中に析出、ごま粒状。 |
| アカゲナイト | Akagenite | $\beta - FeOOH$ | X線で同定できたが組織は不明 |
| ゲーサイト | Goethite | $\alpha - FeOOH$ | 白～黄色、リング状が多い。 |

(2) 鉄-炭素系平衡状態図



(3) ゼーゲルコーン溶倒温度比較表

註：コーンは正確な温度を測定するものではない。

耐火度の数値を概略の温度で示す場合にのみ上の温度表が使われる。

この表はJIS R0305付表による。コーン番号=SK番号

| 温度(℃) | SK コーン番号 | 温度(℃) | SK コーン番号 | 温度(℃) | SK コーン番号 | 温度(℃) | SK コーン番号 |
|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|
| 600 | 22 | 960 | 07a | 1280 | 9 | 1650 | 29 |
| 650 | 21 | 980 | 06a | 1300 | 10 | 1670 | 30 |
| 670 | 20 | 1000 | 05a | 1320 | 11 | 1690 | 31 |
| 690 | 19 | 1020 | 04a | 1350 | 12 | 1710 | 32 |
| 710 | 18 | 1040 | 03a | 1380 | 13 | 1730 | 33 |
| 730 | 17 | 1060 | 02a | 1410 | 14 | 1750 | 34 |
| 750 | 16 | 1080 | 01a | 1435 | 15 | 1770 | 35 |
| 790 | 015a | 1100 | 1a | 1460 | 16 | 1790 | 36 |
| 815 | 014a | 1120 | 2a | 1480 | 17 | 1825 | 37 |
| 835 | 013a | 1140 | 3a | 1500 | 18 | 1850 | 38 |
| 855 | 012a | 1160 | 4a | 1520 | 19 | 1880 | 39 |
| 880 | 011a | 1180 | 5a | 1530 | 20 | 1920 | 40 |
| 900 | 010a | 1200 | 6a | 1580 | 26 | 1960 | 41 |
| 920 | 09a | 1230 | 7 | 1610 | 27 | 2000 | 42 |
| 940 | 08a | 1250 | 8 | 1630 | 28 | | |

6. 図表・写真

表1 調査試料と調査項目

| 試料番号 | 遺構名 | 出土場所 | 出土層位 | 種類 | ① 化学成分分析 | ② 顕微鏡組織観察 | ③ X線回折測定 | ④ 着磁力調査 | ⑤ 金属探知機反応 | ⑥ 外観写真 | ⑦ マクロ写真 |
|-------|-----------------|-------|---------|----|-------------|--------------|-------------|------------|--------------|-----------|------------|
| No.1 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.2 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.3 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.4 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.5 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.6 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.7 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.8 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.9 | 1号工房跡 | 1号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.10 | 1号工房跡 | 1号製鉄炉 | ベルト炉内 | 鉄滓 | ○ | 2 | ○ | 2 | ○ | ○ | ○ |
| No.11 | 1号工房跡 | 1号製鉄炉 | 炉内2 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.12 | 1号工房跡 | 3号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.13 | 1号工房跡 | 3号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.14 | 1号工房跡 | 3号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.15 | 2号工房跡 | 4号製鉄炉 | 記載なし | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.16 | 2号工房跡 | 4号製鉄炉 | 記載なし | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.17 | 2号工房跡 | 4号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.18 | 2号工房跡 | 4号製鉄炉 | 記載なし | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.19 | 2号工房跡 | 5号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.20 | 2号工房跡 | 5号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.21 | 2号工房跡 | 5号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.22 | 2号工房跡 | 5号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.23 | 1号廐塗場 | ③E | ②層下位 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.24 | 1号廐塗場 | ③EW間 | ①b層 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.25 | 1号廐塗場 | ③E | ②層下位 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.26 | 1号廐塗場 | ③W | ①b～②層上位 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.27 | 1号廐塗場 | ③W | ①b～②層上位 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.28 | 1号廐塗場 | ③W | ①b～②層 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.29 | 1号廐塗場 | ③W | ①b～②層 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.30 | 1号廐塗場 | ③W | ①b～②層 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.31 | 1号廐塗場 | ③W | ②層中位 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.32 | 1号廐塗場 | ④ | ②層中位 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.33 | 1号廐塗場 | ③W | ②層下 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.34 | 1号工房跡 | 3号製鉄炉 | 炉内 | 砂鉄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.35 | 深堀トレーンチ | 基本層序B | 砂 | 砂鉄 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| No.36 | Ⅱ道路27号 堅穴建物跡 | 北 | 埋土上～中位 | 鉄滓 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | | | | 分析数 | 37 | 37 | 33 | 36 | 36 | 2 |

表2 鉄滓の化学組成分析結果 (%)

| 試料 No. | T. Fe | M. Fe | FeO | Fe ₂ O ₃ | SiO ₂ | Al ₂ O ₃ | CaO | MgO | K ₂ O | Na ₂ O | 比率 | |
|-----------|-------|-------|------|--------------------------------|------------------|--------------------------------|------|------|------------------|-------------------|------|--------------------------------|
| | | | | | | | | | | | FeO | Fe ₂ O ₃ |
| No.2 | 51.9 | 0.2 | 57.1 | 10.5 | 19.2 | 5.04 | 2.22 | 0.57 | 0.3 | 0.45 | 84.5 | 15.5 |
| No.3 | 13 | 0.09 | 2.9 | 15.3 | 52.6 | 21 | 1.44 | 1.23 | 1.9 | 1.31 | 15.8 | 84.2 |
| No.4 | 63.5 | 0.22 | 21.5 | 66.6 | 5.15 | 1.35 | 0.71 | 0.22 | 0.06 | 0.11 | 24.4 | 75.6 |
| No.5 | 9.34 | 0.07 | 5.3 | 7.4 | 60.4 | 16.6 | 2.85 | 1.26 | 1.35 | 3.05 | 41.9 | 58.1 |
| No.6 | 47.1 | 0.1 | 51.9 | 9.5 | 23 | 6.7 | 3 | 0.67 | 0.51 | 0.73 | 84.5 | 15.5 |
| No.7 | 59.4 | 0.17 | 23 | 59.1 | 7.1 | 1.84 | 1.67 | 0.22 | 0.1 | 0.29 | 28 | 72 |
| No.8 | 31.2 | 0.11 | 9.08 | 34.4 | 35.1 | 13.5 | 0.96 | 0.75 | 1.71 | 1.05 | 20.9 | 79.1 |
| No.9 | 19.2 | 0.08 | 4.81 | 22 | 45.9 | 19.2 | 1.6 | 1.08 | 1.83 | 1.27 | 17.9 | 82.1 |
| No.10 | 46.9 | 0.98 | 40.7 | 20.4 | 20.9 | 5.68 | 3.05 | 0.58 | 0.43 | 0.48 | 66.6 | 33.4 |
| No.11 | 49.8 | 0.1 | 55.9 | 8.9 | 19.9 | 5.21 | 3.24 | 0.66 | 0.48 | 0.69 | 86.2 | 13.8 |
| No.12 | 57.8 | 4.16 | 42.3 | 29.7 | 14.3 | 4.24 | 0.81 | 0.42 | 0.43 | 0.45 | 58.8 | 41.2 |
| No.13 | 37.6 | 0.07 | 21.8 | 29.4 | 29.9 | 9.86 | 2.36 | 0.88 | 0.98 | 0.93 | 42.6 | 57.4 |
| No.14 | 37.4 | 0.1 | 26.2 | 24.2 | 30.2 | 10.2 | 2.49 | 0.9 | 1.03 | 0.98 | 52 | 48 |
| No.15 | 69.2 | 0.18 | 49.2 | 44 | 3.45 | 0.74 | 0.27 | 0.1 | 0.03 | 0.05 | 52.8 | 47.2 |
| No.16 | 50.3 | 0.04 | 52.4 | 13.6 | 21.6 | 6.32 | 1.59 | 0.61 | 0.43 | 0.6 | 79.4 | 20.6 |
| No.17 | 50.5 | 0.17 | 30.5 | 38.1 | 22.7 | 1.85 | 0.48 | 0.16 | 0.06 | 0.1 | 44.5 | 55.5 |
| No.18 | 51.9 | 0.09 | 57.3 | 10.4 | 19.9 | 6.25 | 1.6 | 0.54 | 0.58 | 0.69 | 84.6 | 15.4 |
| No.19 | 53.1 | 8.68 | 47.9 | 10.3 | 20.1 | 4.53 | 2.39 | 0.52 | 0.4 | 0.56 | 82.3 | 17.7 |
| No.20 | 47.3 | 2.11 | 48.4 | 10.8 | 26.1 | 6.49 | 1.55 | 0.83 | 0.44 | 0.53 | 81.7 | 18.3 |
| No.21 | 53 | 0.28 | 60.1 | 8.06 | 19.9 | 5.35 | 1.57 | 0.46 | 0.52 | 0.54 | 87.5 | 12.5 |
| No.22 | 39.3 | 0.14 | 39.2 | 12.4 | 30.4 | 9.05 | 2.96 | 0.4 | 1.06 | 1.67 | 75.9 | 24.1 |
| No.23 | 49 | 0.21 | 56.4 | 7.1 | 22.6 | 6.86 | 2.13 | 0.61 | 0.66 | 0.77 | 88.9 | 11.1 |
| No.24 | 56.2 | 0.94 | 43.5 | 30.7 | 14.5 | 4.5 | 0.76 | 0.37 | 0.28 | 0.39 | 58.7 | 41.3 |
| No.25 | 28.4 | 0.37 | 16.8 | 21.4 | 40.8 | 12.2 | 1.81 | 0.89 | 1.13 | 1.41 | 44 | 56 |
| No.26 | 66.8 | 0.1 | 59.4 | 29.3 | 6.24 | 1.32 | 0.17 | 0.14 | 0.06 | 0.06 | 66.9 | 33.1 |
| No.27 | 15.5 | 0.06 | 39.5 | 17.7 | 52.5 | 18.6 | 1.08 | 1.06 | 2.04 | 1.58 | 18.3 | 81.7 |
| No.28 | 61.8 | 0.2 | 45.8 | 37.2 | 9.36 | 2.71 | 0.27 | 0.24 | 0.14 | 0.07 | 55.2 | 44.8 |
| No.29 | 49.6 | 0.17 | 56.8 | 7.5 | 22.8 | 6.75 | 1.55 | 0.56 | 0.65 | 0.78 | 88.3 | 11.7 |
| No.30 | 49 | 0.1 | 53.1 | 10.9 | 23.7 | 6.77 | 1.32 | 0.55 | 0.52 | 0.68 | 83 | 17 |
| No.31 | 57.5 | 0.18 | 18.3 | 61.6 | 9.23 | 2.68 | 0.4 | 0.15 | 0.17 | 0.2 | 22.9 | 77.1 |
| No.32 | 60.6 | 0.22 | 53.6 | 26.8 | 11.6 | 2.5 | 0.24 | 0.21 | 0.06 | 0.06 | 66.7 | 33.3 |
| No.33 | 53.2 | 0.44 | 61.1 | 7.5 | 19.5 | 5.5 | 1.7 | 0.45 | 0.61 | 0.66 | 89 | 11 |
| No.36 | 57.4 | 0.17 | 61.3 | 13.7 | 13.8 | 4.1 | 1.61 | 0.46 | 0.32 | 0.33 | 81.7 | 18.3 |

表3 鉄滓の化学組成分析結果(続き) (%)

| 試料 No. | TiO ₂ | MnO | P ₂ O ₅ | C | 化合水 | V | Cu | Zr | TiO ₂ / T.Fe | MnO/ TiO ₂ | 造滓成分 |
|--------|------------------|------|-------------------------------|------|------|-------|---------|-------|-------------------------|-----------------------|------|
| No.2 | 2.07 | 0.35 | 0.79 | 0.07 | 0.95 | 0.19 | 0.002 | 0.014 | 0.04 | 0.169 | 27.8 |
| No.3 | 1.59 | 0.18 | 0.29 | 0.02 | 0.17 | 0.048 | 0.002 | 0.061 | 0.122 | 0.113 | 79.5 |
| No.4 | 1.09 | 0.28 | 0.487 | 0.07 | 2.02 | 0.18 | 0.004 | 0.058 | 0.017 | 0.257 | 7.6 |
| No.5 | 0.78 | 0.11 | 0.31 | 0.08 | 0.43 | 0.027 | < 0.001 | 0.015 | 0.084 | 0.141 | 85.5 |
| No.6 | 2.1 | 0.32 | 0.947 | 0.04 | 0.35 | 0.15 | 0.001 | 0.12 | 0.045 | 0.152 | 34.6 |
| No.7 | 1.57 | 0.31 | 0.769 | 0.23 | 3.48 | 0.15 | 0.002 | 0.009 | 0.026 | 0.197 | 11.2 |
| No.8 | 0.95 | 0.14 | 0.494 | 0.07 | 1.68 | 0.07 | 0.004 | 0.045 | 0.03 | 0.147 | 53.1 |
| No.9 | 1.33 | 0.15 | 0.48 | 0.01 | 0.19 | 0.055 | 0.002 | 0.037 | 0.069 | 0.113 | 70.9 |
| No.10 | 3.06 | 0.28 | 0.801 | 0.61 | 1.89 | 0.11 | 0.002 | 0.17 | 0.065 | 0.092 | 31.1 |
| No.11 | 3.1 | 0.34 | 0.971 | 0.01 | 0.28 | 0.22 | 0.001 | 0.17 | 0.062 | 0.11 | 30.2 |
| No.12 | 0.79 | 0.28 | 0.23 | 0.11 | 1.59 | 0.24 | 0.001 | 0.39 | 0.014 | 0.354 | 20.7 |
| No.13 | 1.55 | 0.79 | 0.323 | 0.04 | 0.74 | 0.34 | 0.001 | 1.42 | 0.041 | 0.51 | 44.9 |
| No.14 | 1.58 | 0.81 | 0.329 | 0.04 | 0.55 | 0.35 | 0.001 | 1.48 | 0.042 | 0.513 | 45.8 |
| No.15 | 0.58 | 0.35 | 0.227 | 0.07 | 0.61 | 0.18 | 0.001 | 0.075 | 0.008 | 0.603 | 4.6 |
| No.16 | 1.15 | 0.63 | 0.345 | 0.04 | 0.49 | 0.18 | 0.001 | 0.69 | 0.023 | 0.548 | 31.2 |
| No.17 | 1.12 | 0.45 | 0.383 | 0.27 | 3.46 | 0.28 | 0.001 | 0.53 | 0.022 | 0.402 | 25.4 |
| No.18 | 1.15 | 0.5 | 0.33 | 0.02 | 0.34 | 0.3 | 0.001 | 0.62 | 0.022 | 0.435 | 29.6 |
| No.19 | 1.83 | 0.3 | 0.825 | 0.1 | 1.44 | 0.18 | 0.004 | 0.11 | 0.034 | 0.164 | 28.5 |
| No.20 | 0.97 | 0.69 | 0.325 | 0.02 | 0.59 | 0.11 | 0.001 | 0.67 | 0.021 | 0.711 | 35.9 |
| No.21 | 1.11 | 0.57 | 0.356 | 0.02 | 0.39 | 0.23 | 0.001 | 0.86 | 0.021 | 0.514 | 28.3 |
| No.22 | 1.2 | 0.43 | 0.527 | 0.04 | 0.43 | 0.084 | 0.001 | 0.8 | 0.031 | 0.358 | 45.5 |
| No.23 | 1.32 | 0.55 | 0.406 | 0.02 | 0.19 | 0.23 | 0.001 | 0.48 | 0.027 | 0.417 | 33.6 |
| No.24 | 0.69 | 0.26 | 0.194 | 0.28 | 2.43 | 0.22 | 0.002 | 0.4 | 0.012 | 0.377 | 20.8 |
| No.25 | 0.76 | 0.22 | 0.302 | 0.25 | 1.57 | 0.12 | 0.001 | 0.25 | 0.027 | 0.289 | 58.2 |
| No.26 | 0.62 | 0.32 | 0.299 | 0.18 | 1.57 | 0.15 | 0.001 | 0.48 | 0.009 | 0.516 | 8 |
| No.27 | 0.78 | 0.13 | 0.173 | 0.06 | 0.22 | 0.033 | 0.001 | 0.087 | 0.05 | 0.167 | 76.9 |
| No.28 | 0.6 | 0.3 | 0.284 | 0.15 | 2.49 | 0.26 | 0.001 | 0.39 | 0.01 | 0.5 | 12.8 |
| No.29 | 1.03 | 0.49 | 0.314 | 0.07 | 0.26 | 0.23 | 0.001 | 0.76 | 0.021 | 0.476 | 33.1 |
| No.30 | 0.88 | 0.42 | 0.264 | 0.06 | 0.54 | 0.19 | 0.001 | 0.65 | 0.018 | 0.477 | 33.5 |
| No.31 | 0.32 | 0.11 | 0.154 | 1.4 | 5.05 | 0.047 | 0.001 | 0.18 | 0.006 | 0.344 | 12.8 |
| No.32 | 0.63 | 0.3 | 0.305 | 0.17 | 3.2 | 0.16 | 0.001 | 0.39 | 0.01 | 0.476 | 14.7 |
| No.33 | 1.13 | 0.57 | 0.369 | 0.03 | 0.26 | 0.22 | 0.001 | 0.81 | 0.021 | 0.504 | 28.4 |
| No.36 | 2.43 | 0.25 | 0.367 | 0.12 | 0.81 | 0.29 | 0.002 | 0.2 | 0.042 | 0.103 | 20.6 |

造滓成分 = SiO₂+ Al₂O₃+ CaO+ MgO+ Na₂O+ K₂O

表4 砂鉄の化学組成分析結果 (%)

| 試料 No. | T. Fe | M. Fe | FeO | Fe ₂ O ₃ | SiO ₂ | Al ₂ O ₃ | CaO | MgO | K ₂ O | Na ₂ O |
|--------|-------|-------|------|--------------------------------|------------------|--------------------------------|------|------|------------------|-------------------|
| No.34 | 27.3 | 0.14 | 12.1 | 25.4 | 39.4 | 13.1 | 2.34 | 1.02 | 0.89 | 1.64 |
| No.35 | 19.8 | 0.14 | 12.1 | 14.7 | 49.2 | 11.4 | 3.47 | 1.99 | 1.26 | 1.64 |

表5 砂鉄の化学組成分析結果(続き) (%)

| 試料 No. | TiO ₂ | MnO | P ₂ O ₅ | C | 化合水 | V |
|--------|------------------|------|-------------------------------|------|--------|---------|
| No.34 | 1.19 | 0.18 | 0.362 | 1.53 | 2.27 | 0.074 |
| No.35 | 1.5 | 0.16 | 0.128 | 1.53 | 2.27 - | 0.060 - |

表6 メタルの化学成分分析結果(%)

| 試料No. | C | Si | Mn | P | S | Cu | Ni | Co | Al | V |
|-------|------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| No.1 | 1.95 | 0.059 | 0.002 | 0.087 | 0.04 | 0.007 | 0.008 | 0.016 | 0.027 | 0.002 |
| No.10 | 2.68 | 0.003 | <0.001 | 0.017 | 0.072 | 0.003 | 0.005 | 0.012 | 0.002 | 0.001 |

表7 メタルの化学成分分析結果(続き)(%)

| 試料No. | Ti | Ca | Mg |
|-------|-------|-------|--------|
| No.1 | 0.006 | 0.013 | 0.003 |
| No.10 | 0.001 | 0.002 | <0.001 |

表8 X線回折測定結果

| 試料No. | 同定鉱物種と回折強度 |
|-------|------------------|
| No.2 | W 中、F 強、U 強 |
| No.3 | Q 強、F 強、M 強 |
| No.4 | M 強、H 強 |
| No.5 | Q 強、An 強 |
| No.6 | F 中、W 中、U 強 |
| No.7 | M 強、W 強 |
| No.8 | Q 強、M 中、F 強 |
| No.9 | Q 強、F 強 |
| No.10 | M 中、F 強 |
| No.11 | F 強、W 中、U 中 |
| No.12 | F 強、W 中、M 中 |
| No.13 | F 中、W 強 |
| No.14 | F 強 |
| No.15 | M 強、W 強 |
| No.16 | F 中、W 強、M 強 |
| No.17 | M 強、W 強 |
| No.18 | F 中、W 中 |
| No.19 | F 中、W 中、U 強 |
| No.20 | F 強、W 中 |
| No.21 | F 中、W 中 |
| No.22 | F 強、W 強 |
| No.23 | F 強、W 中 |
| No.24 | M 中、F 中、W 中 |
| No.25 | Q 中、M 中、Go 強、F 強 |
| No.26 | M 中、W 中、F 強、Go 強 |
| No.27 | Q 強、W 強 |
| No.28 | W 強、M 強、F 中、Go 強 |
| No.29 | F 中、W 中 |
| No.30 | F 中、W 中 |
| No.31 | M 強、W 強、F 強、Go 強 |
| No.32 | M 中、W 強、F 強、Go 強 |
| No.33 | M 中、F 強、W 強 |
| No.36 | W 中、F 強、M 強 |

鉱物記号:

W (ウスタイト : Wustite-FeO), M (マグнетাইト : Magnetite-Fe₃O₄),
 F (ファイサイト : Fayalite-FeSiO₄), Go (ゴーサイト : Goethite- α -FeOOH),
 H (ヘマタイト : Hematite-Fe₂O₃), U (ウルボスピネル : Ulvöspinel-2FeO·TiO₂),
 Il (イルメナイト : Ilmenite-Fe₂·TiO₃), Ps (シュードブルッカイト : Pseudobrookite-FeO·TiO₂),
 An (アノーライト : Anorthite-CaAl₂O₅·2SiO₄), QCh (シリカ、クリストバライド : Quartz-SiO₂),
 Fe (フェロシリマーカイト : Ferrosilimanite-Ca₂FeAl₃(Si₂Al₂O₅)·OH),
 Ag (アウガイト : Augite-Ca(Mg, Fe)SiO₃), Mu (ムライト : Mullite-3Al₂O₃·2SiO₂)

表9 個別試料のまとめ

| 試料番号 | 遺構名 | 出土場所 | 出土層位 | 種類 | 始発原料 | 鉄滓の生成工程 |
|-------|------------|-------|---------|-------|----------------------------|---------|
| No.1 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄塊系遺物 | Cが195%の鉄を含む | |
| No.2 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.3 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.4 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | - |
| No.5 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.6 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.7 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.8 | 1号工房跡 | 2号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.9 | 1号工房跡 | 1号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.10 | 1号工房跡 | 1号製鉄炉 | ベルト炉内 | 鉄塊系遺物 | 砂鉄 | - |
| No.11 | 1号工房跡 | 1号製鉄炉 | 炉内2 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.12 | 1号工房跡 | 3号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.13 | 1号工房跡 | 3号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.14 | 1号工房跡 | 3号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.15 | 2号工房跡 | 4号製鉄炉 | 記載なし | 鉄滓 | 砂鉄 | - |
| No.16 | 2号工房跡 | 4号製鉄炉 | 記載なし | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.17 | 2号工房跡 | 4号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.18 | 2号工房跡 | 4号製鉄炉 | 記載なし | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.19 | 2号工房跡 | 5号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.20 | 2号工房跡 | 5号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.21 | 2号工房跡 | 5号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.22 | 2号工房跡 | 5号製鉄炉 | 炉内 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.23 | 1号廐滓場 | ③E | ②層下位 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.24 | 1号廐滓場 | ③EW間 | ①b層 | 鉄滓 | 砂鉄 | - |
| No.25 | 1号廐滓場 | ③E | ②層下位 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.26 | 1号廐滓場 | ③W | ①b～②層上位 | 鉄滓 | 砂鉄 | - |
| No.27 | 1号廐滓場 | ③W | ①b～②層上位 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.28 | 1号廐滓場 | ③W | ①b～②層 | 鉄滓 | 砂鉄 | - |
| No.29 | 1号廐滓場 | ③W | ①b～②層 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.30 | 1号廐滓場 | ③W | ①b～②層 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.31 | 1号廐滓場 | ③W | ②層中位 | 鉄滓 | 砂鉄 | - |
| No.32 | 1号廐滓場 | ④ | ②層中位 | 鉄滓 | 砂鉄 | - |
| No.33 | 1号廐滓場 | ③W | ②層下 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |
| No.34 | 1号工房跡 | 3号製鉄炉 | 炉内 | 砂鉄 | TiO ₂ が1.19%の砂鉄 | |
| No.35 | 深堀トレンチ | 基本層序B | 砂 | 砂鉄 | TiO ₂ が1.50%の砂鉄 | |
| No.36 | 普通路2号堅穴建物跡 | 北 | 埋土～中位 | 鉄滓 | 砂鉄 | 製鍊 |

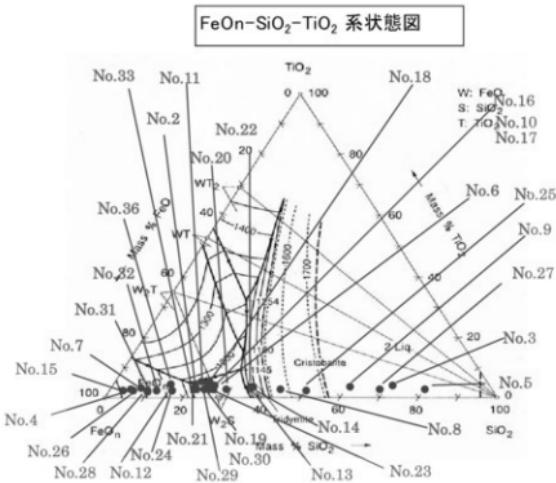
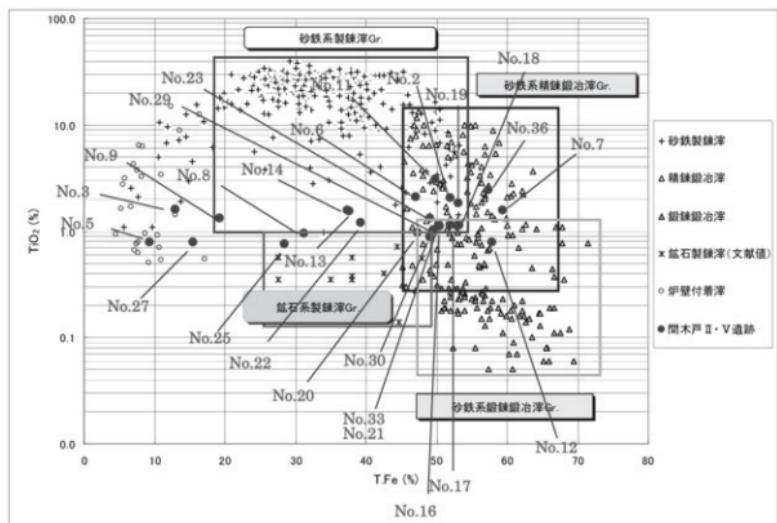
図1 間木戸 II・V 遺跡鉄滓の FeO-SiO₂-TiO₂ 系鉄滓の平衡状態図

図2 間木戸 II・V 鉄滓の製錬滓、精錬滓、及び鋼錬滓の分類

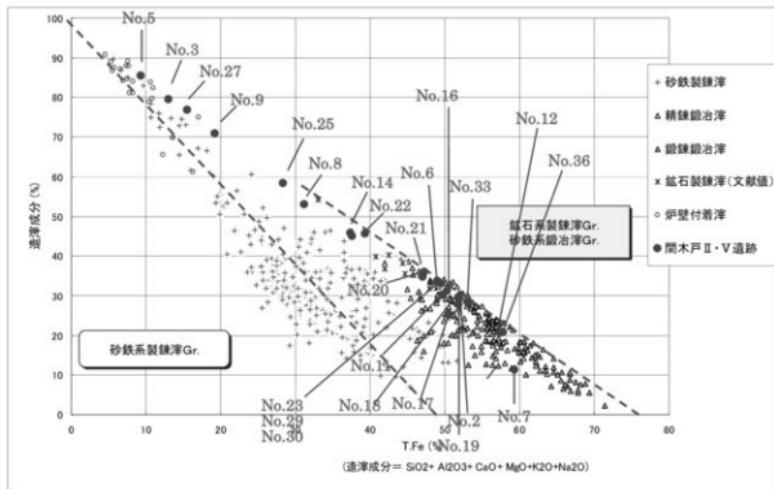
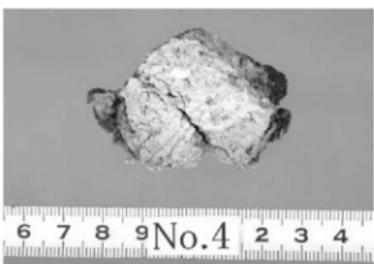
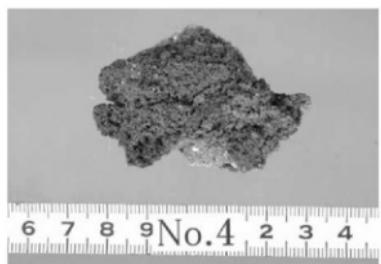
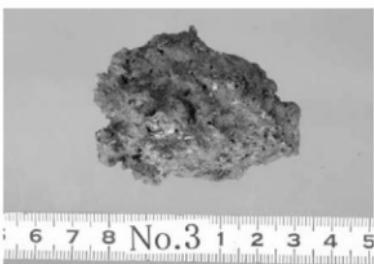
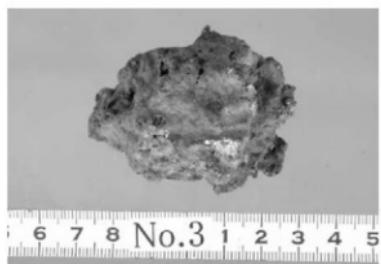
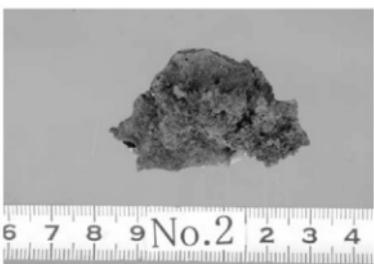
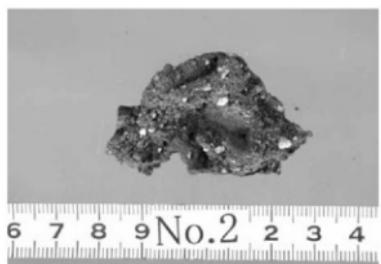
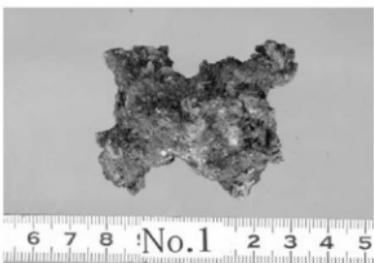
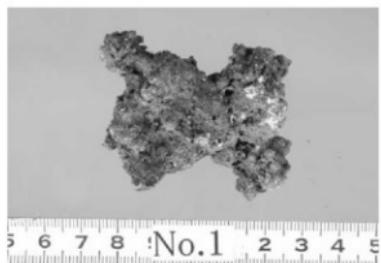
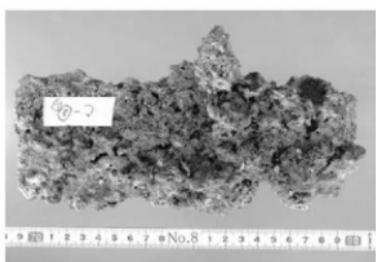
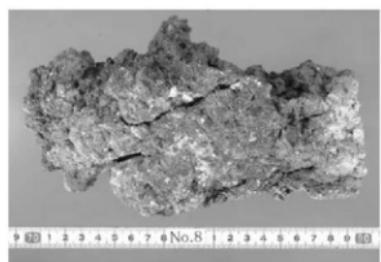
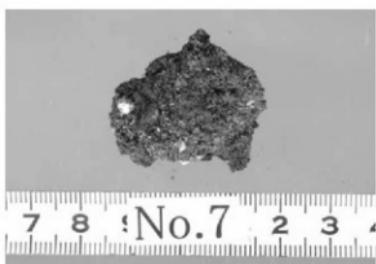
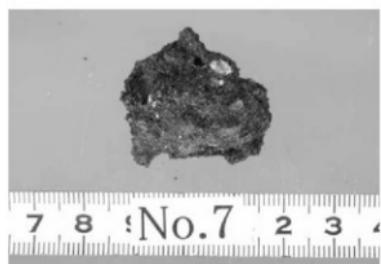
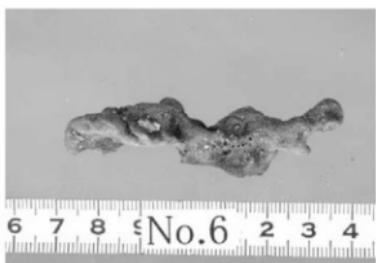
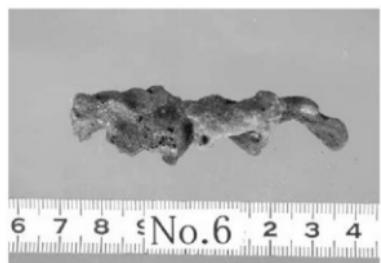
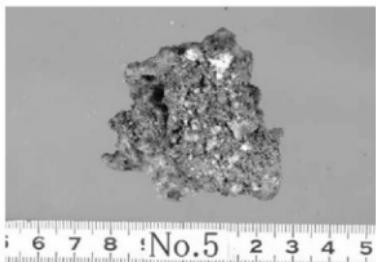
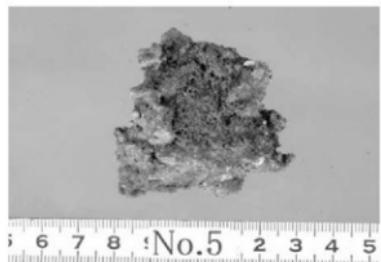


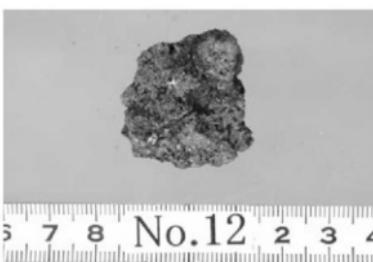
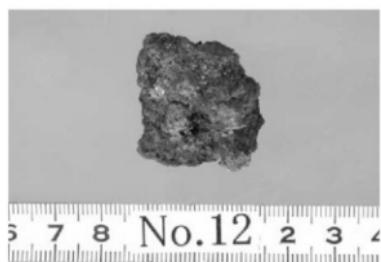
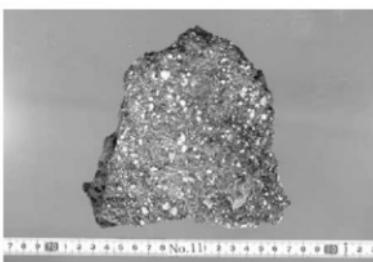
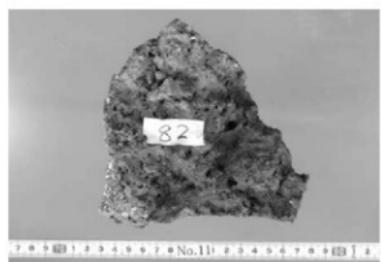
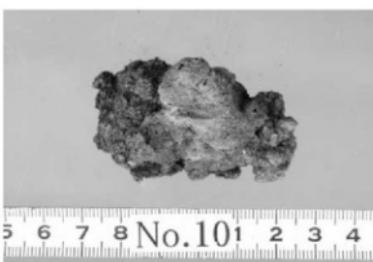
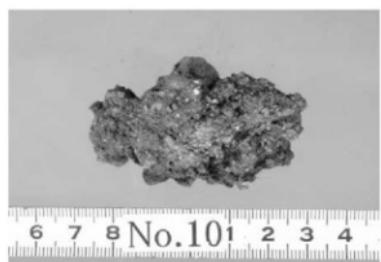
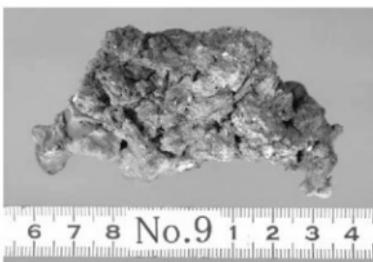
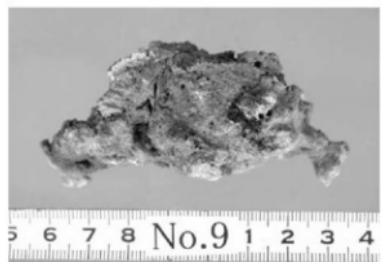
図3 間木戸Ⅱ・V鉄津の製鉄津と鋳治津の分類



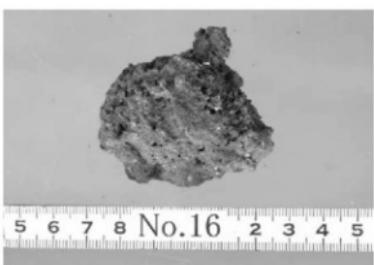
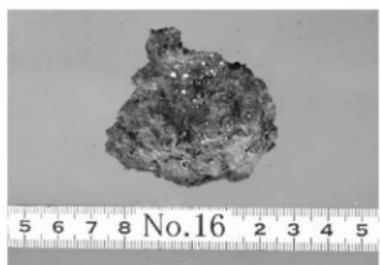
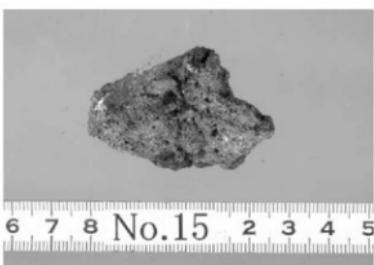
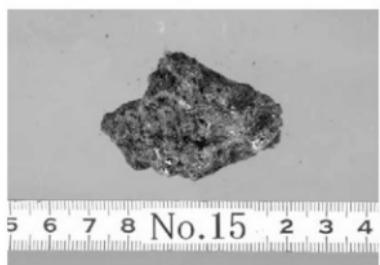
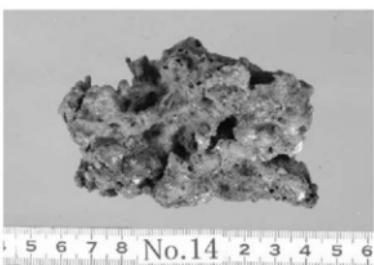
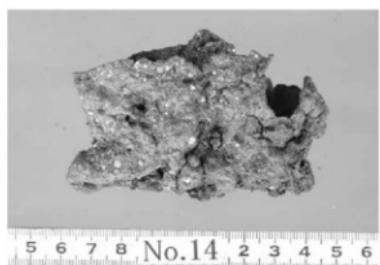
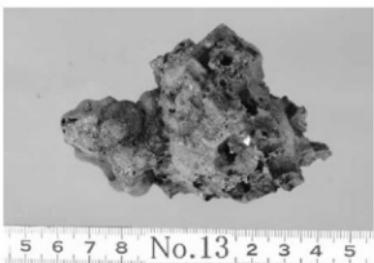
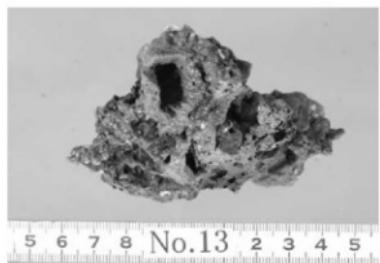
外観写真 1



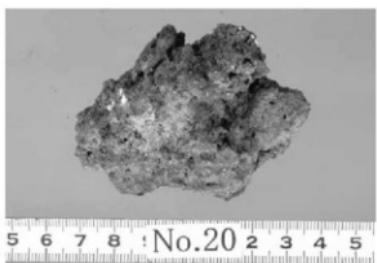
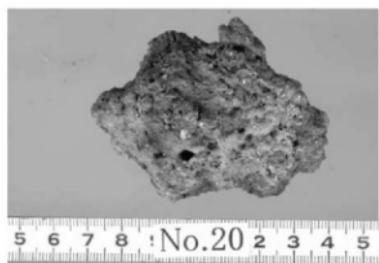
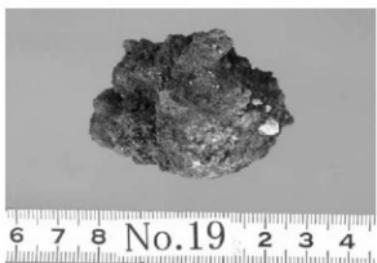
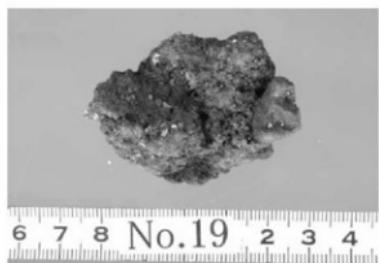
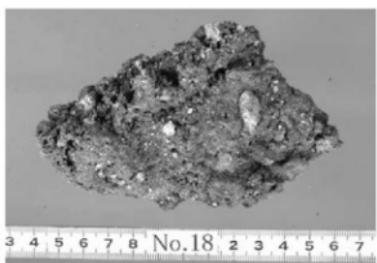
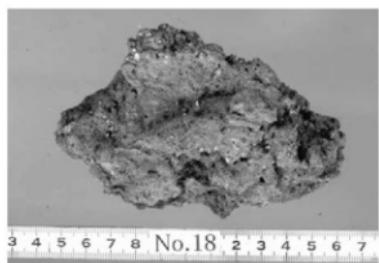
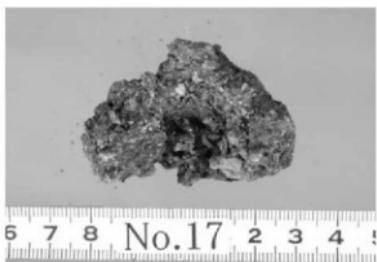
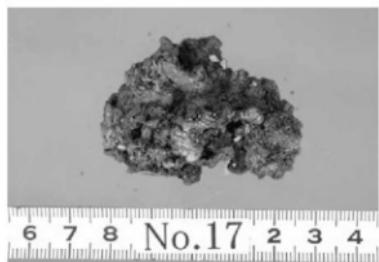
外観写真2



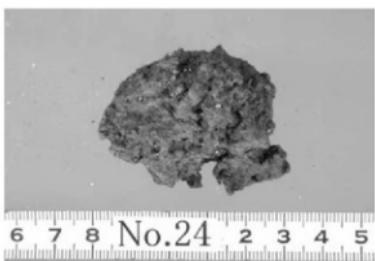
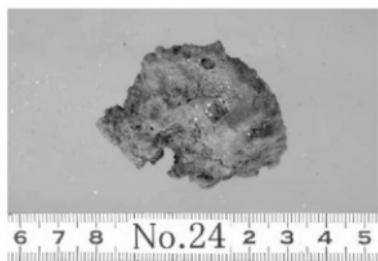
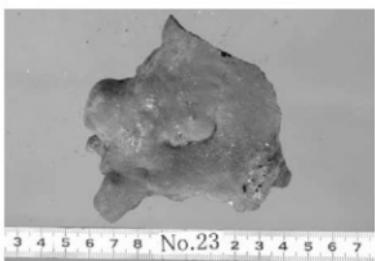
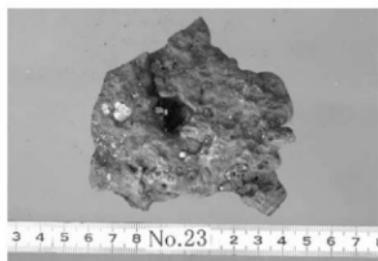
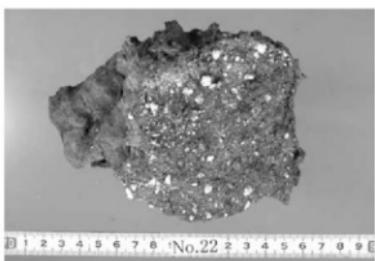
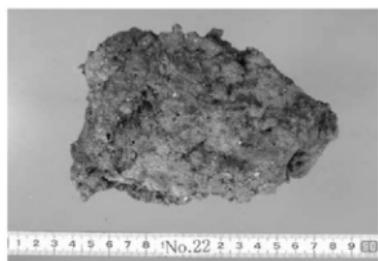
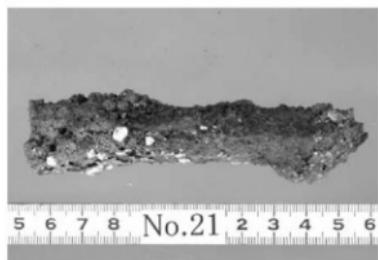
外観写真 3



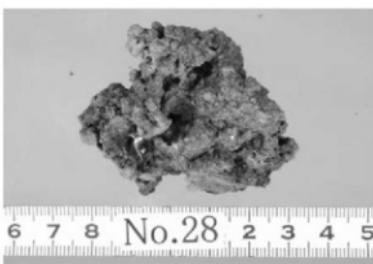
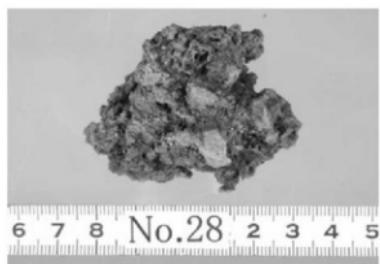
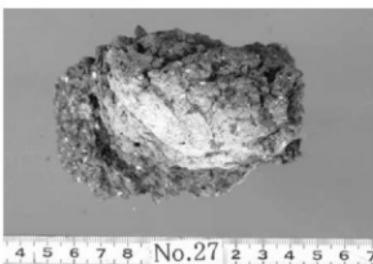
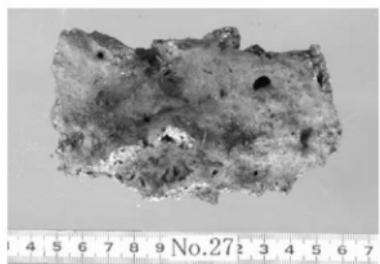
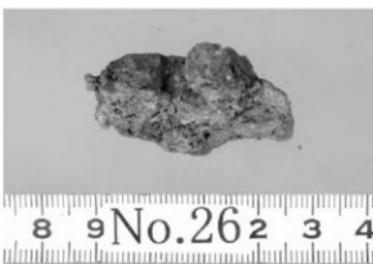
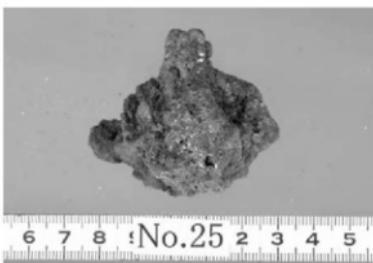
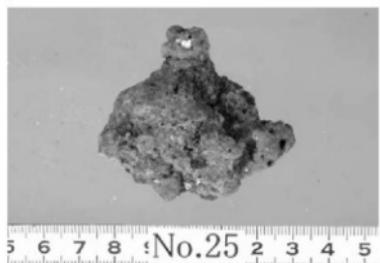
外観写真 4



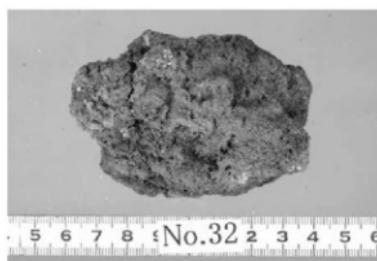
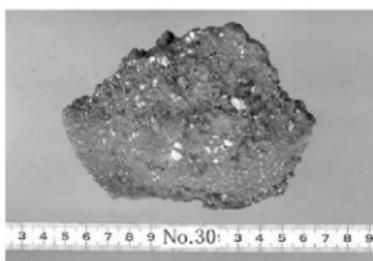
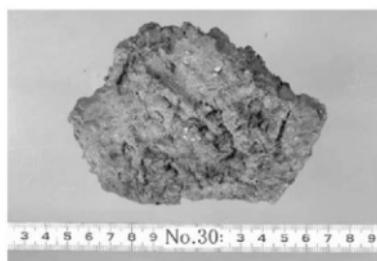
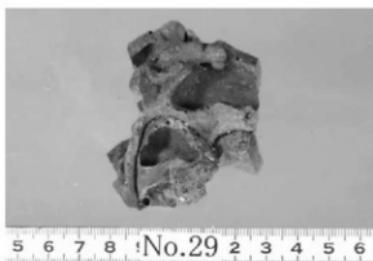
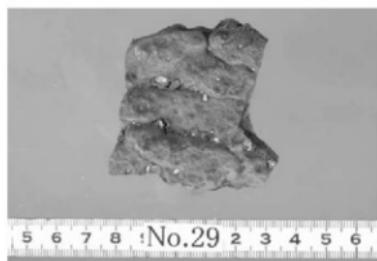
外観写真5



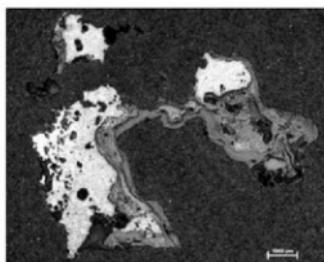
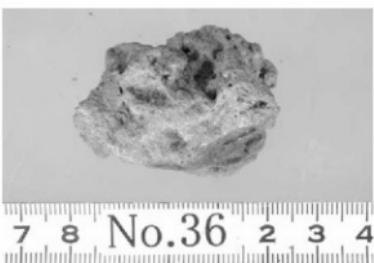
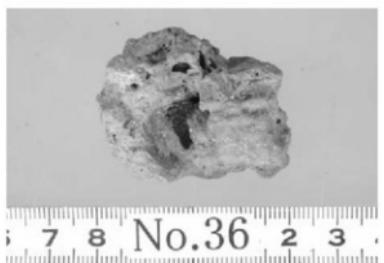
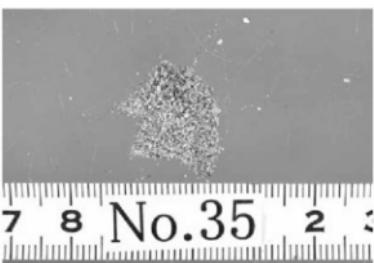
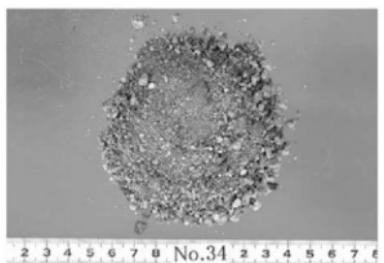
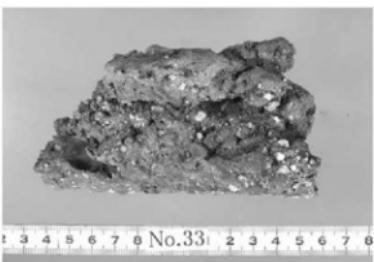
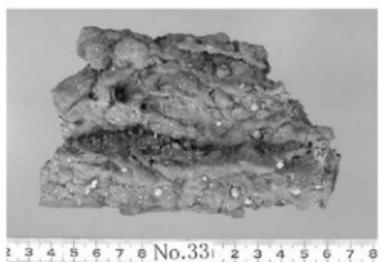
外観写真6



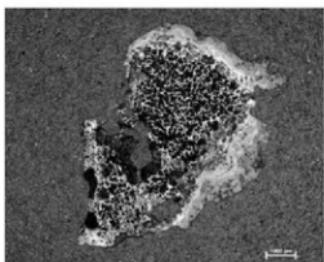
外観写真7



外観写真 8

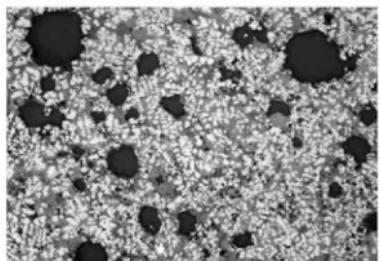


金属マクロ組織写真 No.1 × 10

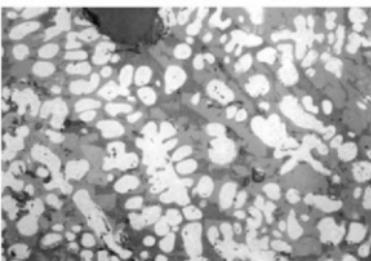


金属マクロ組織写真 No.10-2 × 10

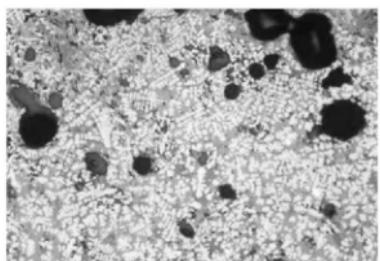
外観写真9・金属マクロ写真



鉄滓顯微鏡組織写真 No.2-1 × 100



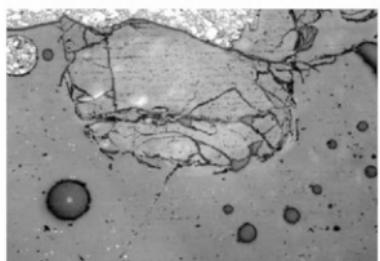
鉄滓顯微鏡組織写真 No.2-1 × 400



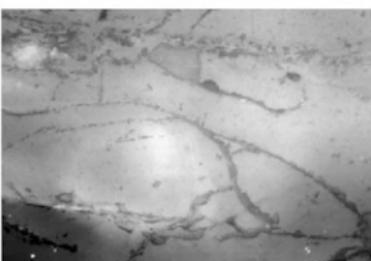
鉄滓顯微鏡組織写真 No.2-2 × 100



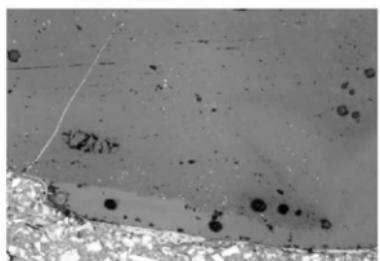
鉄滓顯微鏡組織写真 No.2-2 × 400



鉄滓顯微鏡組織写真 No.3-1 × 100



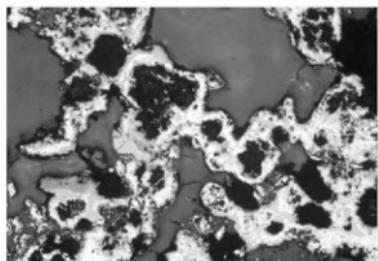
鉄滓顯微鏡組織写真 No.3-1 × 400



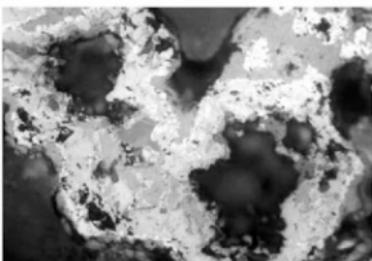
鉄滓顯微鏡組織写真 No.3-2 × 100



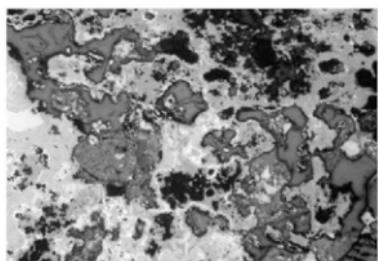
鉄滓顯微鏡組織写真 No.3-2 × 400



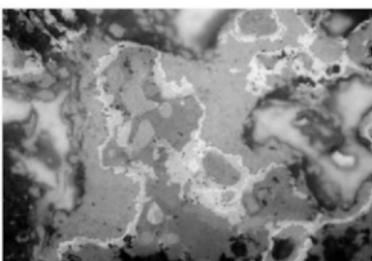
鉄滓顯微鏡組織写真 No.4-1 × 100



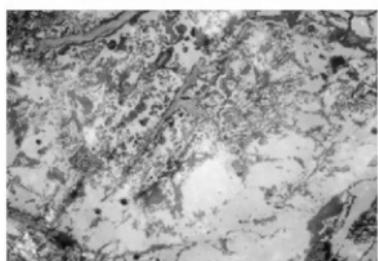
鉄滓顯微鏡組織写真 No.4-1 × 400



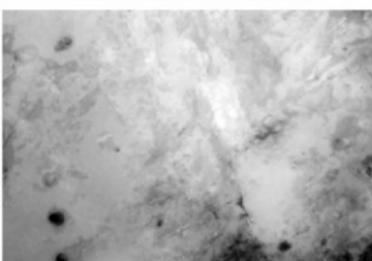
鉄滓顯微鏡組織写真 No.4-2 × 100



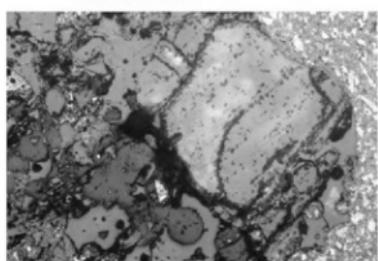
鉄滓顯微鏡組織写真 No.4-2 × 400



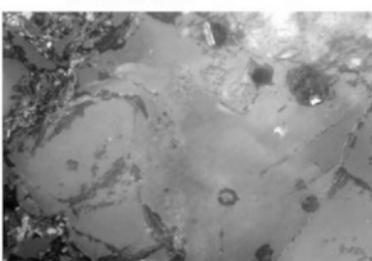
鉄滓顯微鏡組織写真 No.5-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.5-1 × 400

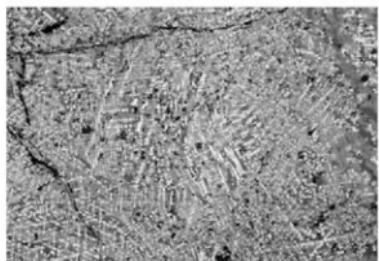


鉄滓顯微鏡組織写真 No.5-2 × 100

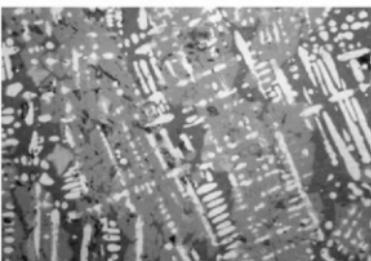


鉄滓顯微鏡組織写真 No.5-2 × 400

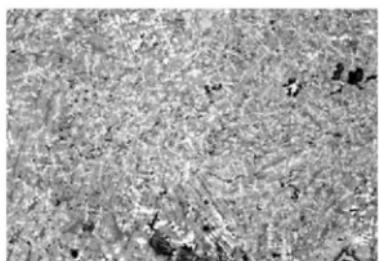
鉄滓顯微鏡組織写真 2



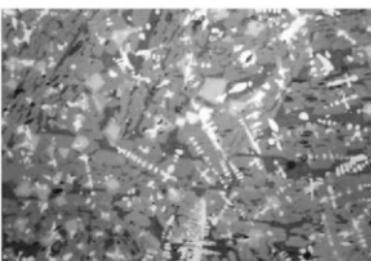
鉄滓顯微鏡組織写真 No.6-1 × 100



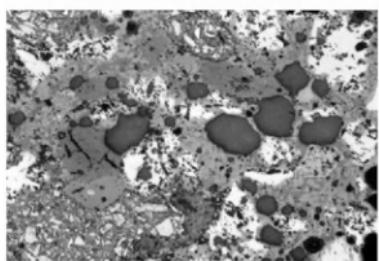
鉄滓顯微鏡組織写真 No.6-1 × 400



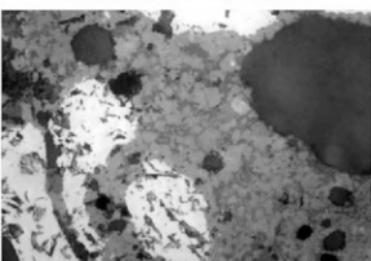
鉄滓顯微鏡組織写真 No.6-2 × 100



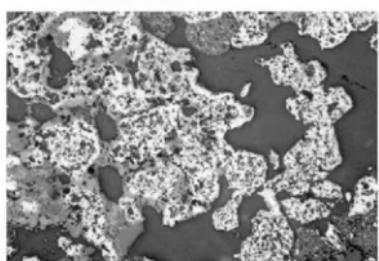
鉄滓顯微鏡組織写真 No.6-2 × 400



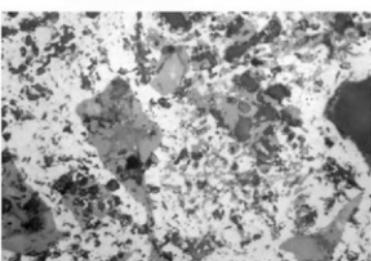
鉄滓顯微鏡組織写真 No.7-1 × 100



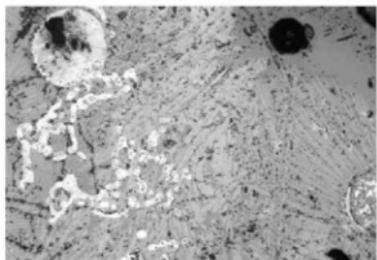
鉄滓顯微鏡組織写真 No.7-1 × 400



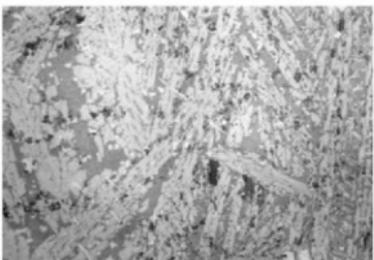
鉄滓顯微鏡組織写真 No.7-2 × 100



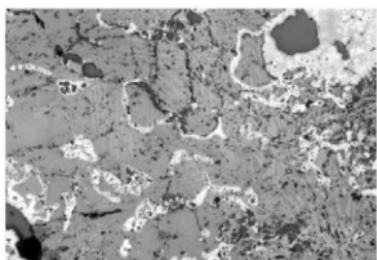
鉄滓顯微鏡組織写真 No.7-2 × 400



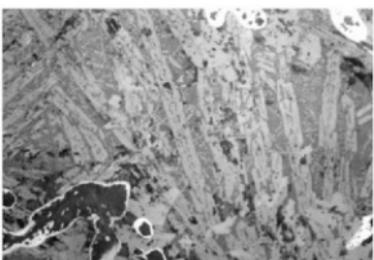
鉄滓類微鏡組織写真 No.8-1 × 100



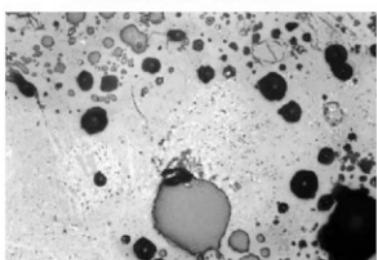
鉄滓類微鏡組織写真 No.8-1 × 400



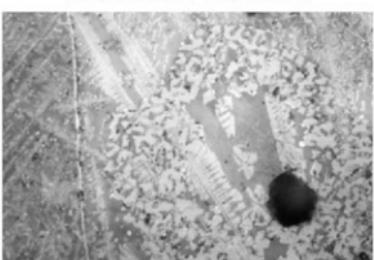
鉄滓類微鏡組織写真 No.8-2 × 100



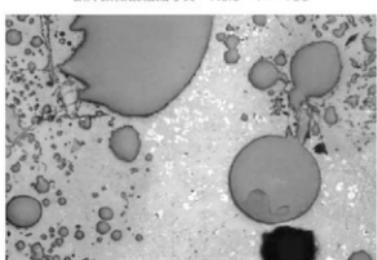
鉄滓類微鏡組織写真 No.8-2 × 400



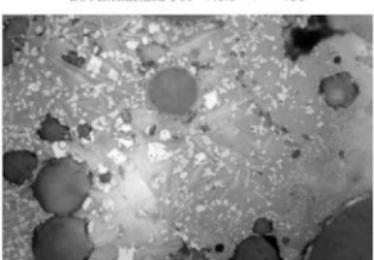
鉄滓類微鏡組織写真 No.9-1 × 100



鉄滓類微鏡組織写真 No.9-1 × 400

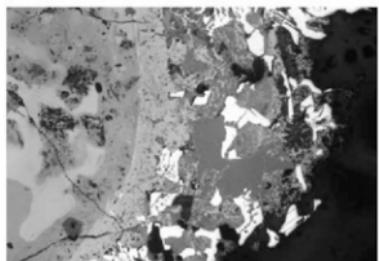


鉄滓類微鏡組織写真 No.9-2 × 100

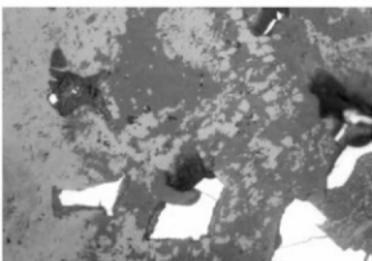


鉄滓類微鏡組織写真 No.9-2 × 400

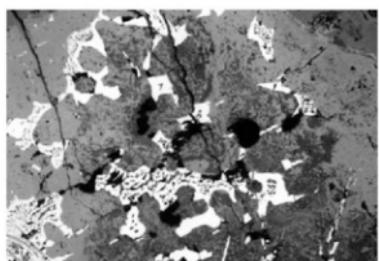
鉄滓類微鏡組織写真 4



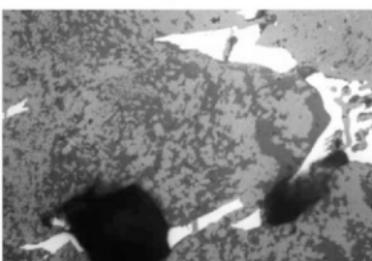
鉄滓顯微鏡組織写真 No.10-1 × 100



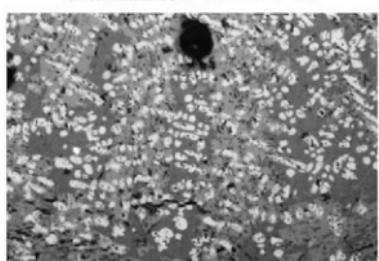
鉄滓顯微鏡組織写真 No.10-1 × 400



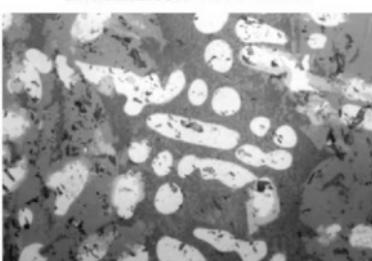
鉄滓顯微鏡組織写真 No.10-2 × 100



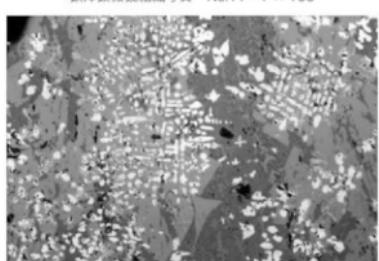
鉄滓顯微鏡組織写真 No.10-2 × 400



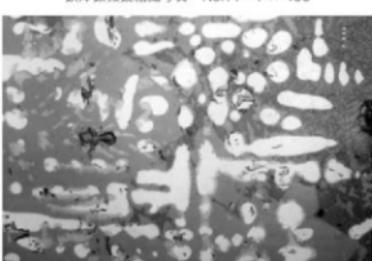
鉄滓顯微鏡組織写真 No.11-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.11-1 × 400

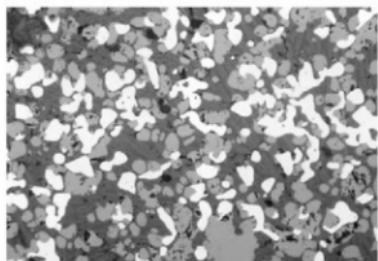


鉄滓顯微鏡組織写真 No.11-2 × 100

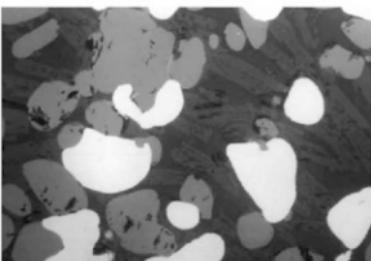


鉄滓顯微鏡組織写真 No.11-2 × 400

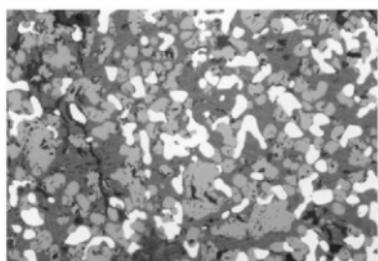
鉄滓顯微鏡組織写真 5



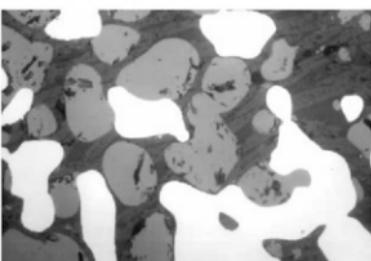
鉄滓顯微鏡組織写真 No.12-1 × 100



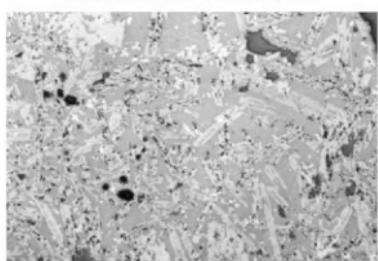
鉄滓顯微鏡組織写真 No.12-1 × 400



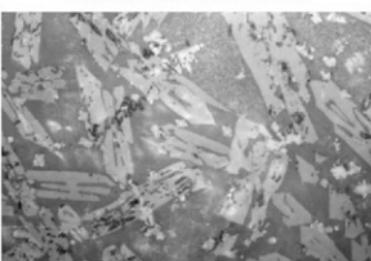
鉄滓顯微鏡組織写真 No.12-2 × 100



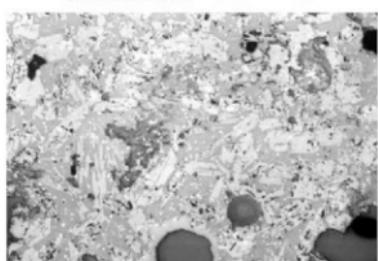
鉄滓顯微鏡組織写真 No.12-2 × 400



鉄滓顯微鏡組織写真 No.13-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.13-1 × 400

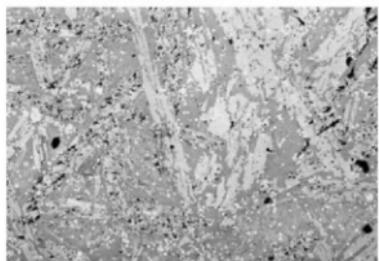


鉄滓顯微鏡組織写真 No.13-2 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.13-2 × 400

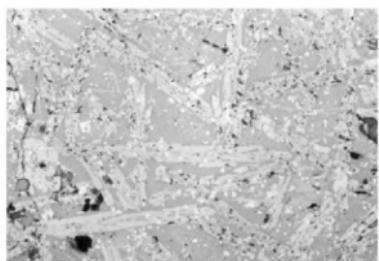
鉄滓顯微鏡組織写真 6



鉄滓顯微鏡組織写真 No.14-1 × 100



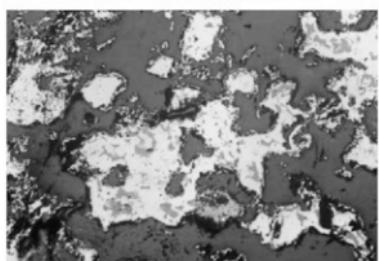
鉄滓顯微鏡組織写真 No.14-1 × 400



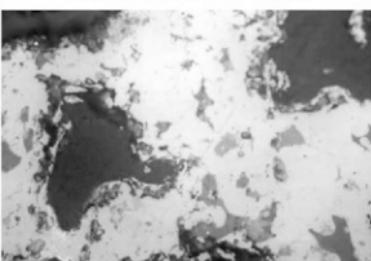
鉄滓顯微鏡組織写真 No.14-2 × 100



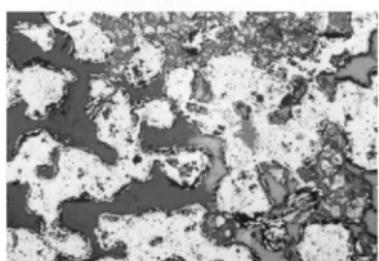
鉄滓顯微鏡組織写真 No.14-2 × 400



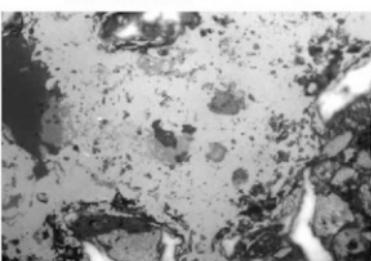
鉄滓顯微鏡組織写真 No.15-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.15-1 × 400

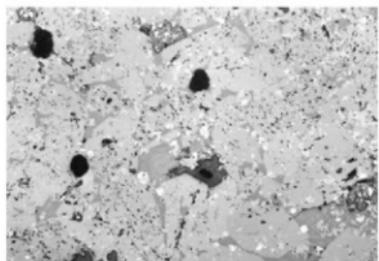


鉄滓顯微鏡組織写真 No.15-2 × 100

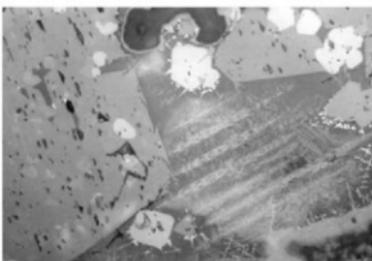


鉄滓顯微鏡組織写真 No.15-2 × 400

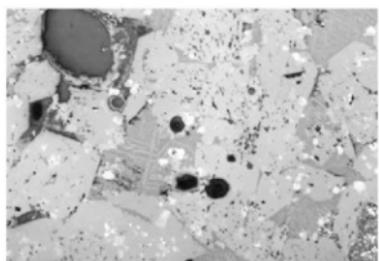
鉄滓顯微鏡組織写真 7



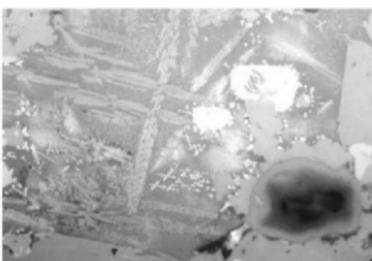
鉄滓顯微鏡組織写真 No.16-1 × 100



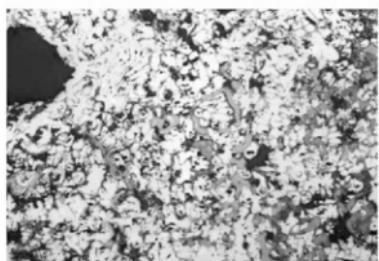
鉄滓顯微鏡組織写真 No.16-1 × 400



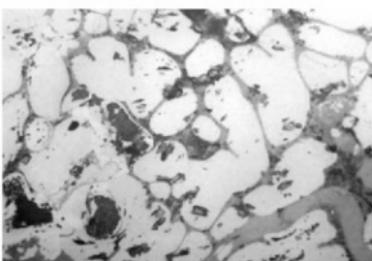
鉄滓顯微鏡組織写真 No.16-2 × 100



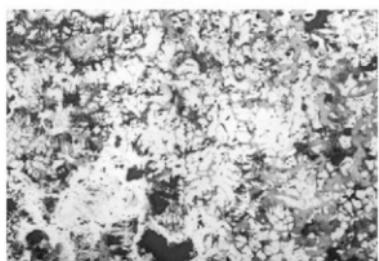
鉄滓顯微鏡組織写真 No.16-2 × 400



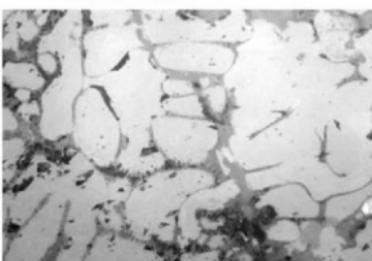
鉄滓顯微鏡組織写真 No.17-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.17-1 × 400

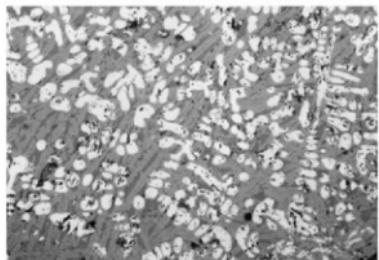


鉄滓顯微鏡組織写真 No.17-2 × 100

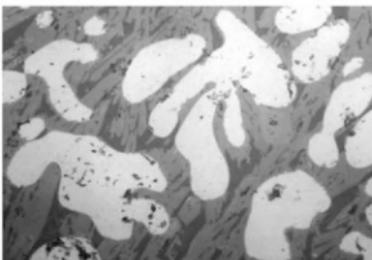


鉄滓顯微鏡組織写真 No.17-2 × 400

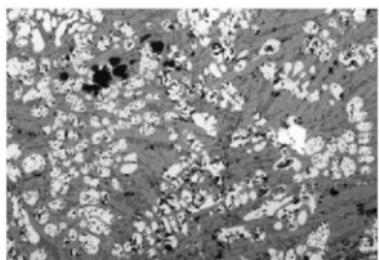
鉄滓顯微鏡組織写真 8



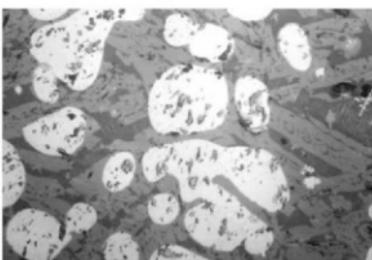
鉄滓顯微鏡組織写真 No.18-1 × 100



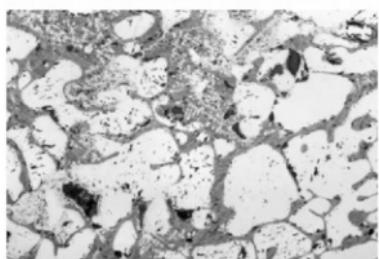
鉄滓顯微鏡組織写真 No.18-1 × 400



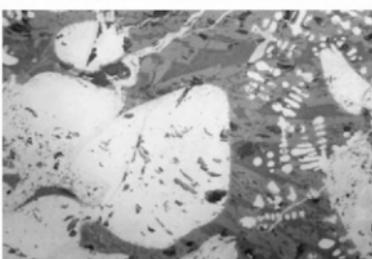
鉄滓顯微鏡組織写真 No.18-2 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.18-2 × 400



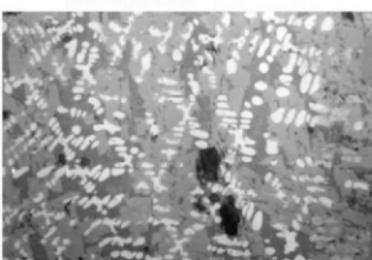
鉄滓顯微鏡組織写真 No.19-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.19-1 × 400

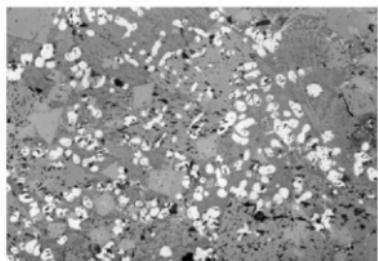


鉄滓顯微鏡組織写真 No.19-2 × 100

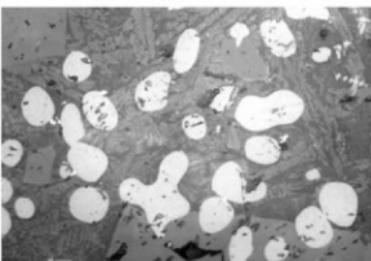


鉄滓顯微鏡組織写真 No.19-2 × 400

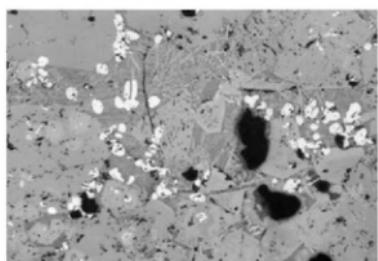
鉄滓顯微鏡組織写真 9



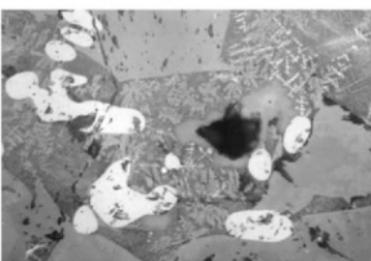
鉄滓顯微鏡組織写真 No.20-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.20-1 × 400



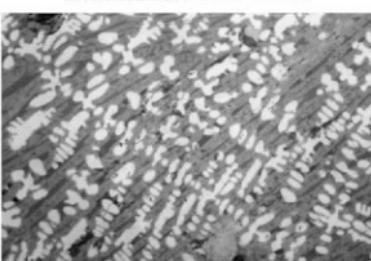
鉄滓顯微鏡組織写真 No.20-2 × 100



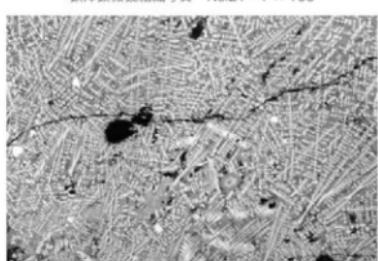
鉄滓顯微鏡組織写真 No.20-2 × 400



鉄滓顯微鏡組織写真 No.21-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.21-1 × 400

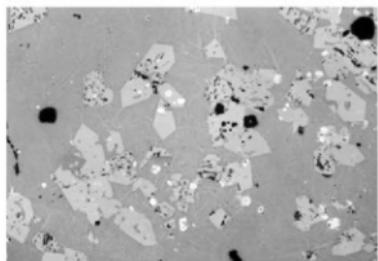


鉄滓顯微鏡組織写真 No.21-2 × 100

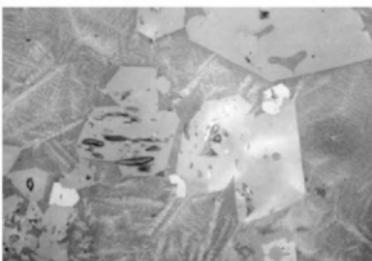


鉄滓顯微鏡組織写真 No.21-2 × 400

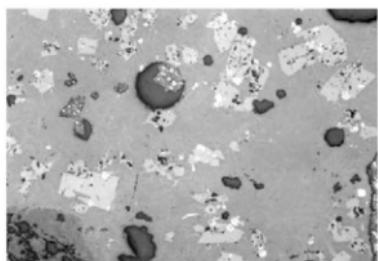
鉄滓顯微鏡組織写真 10



鉄滓顯微鏡組織写真 No.22-1 × 100



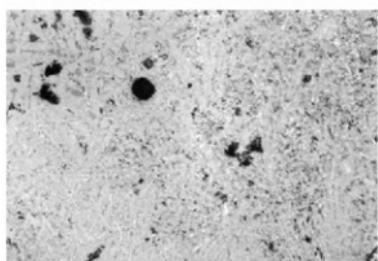
鉄滓顯微鏡組織写真 No.22-1 × 400



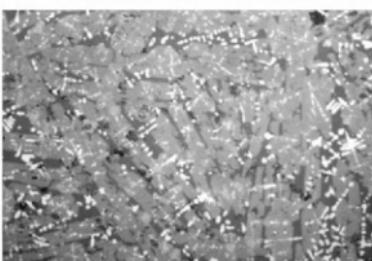
鉄滓顯微鏡組織写真 No.22-2 × 100



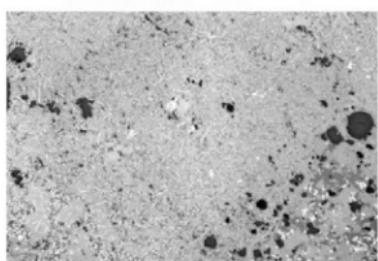
鉄滓顯微鏡組織写真 No.22-2 × 400



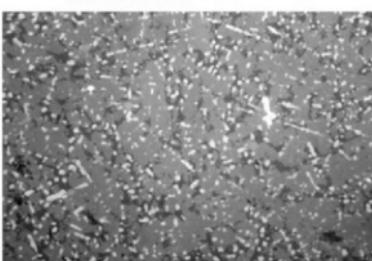
鉄滓顯微鏡組織写真 No.23-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.23-1 × 400

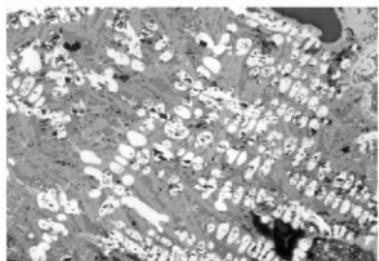


鉄滓顯微鏡組織写真 No.23-2 × 100

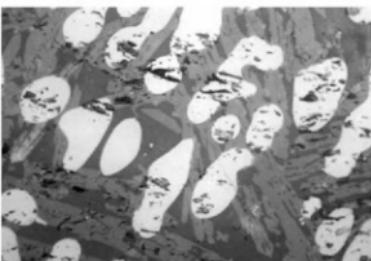


鉄滓顯微鏡組織写真 No.23-2 × 400

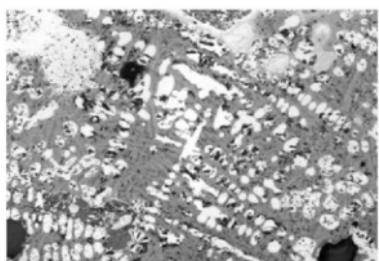
鉄滓顯微鏡組織写真 11



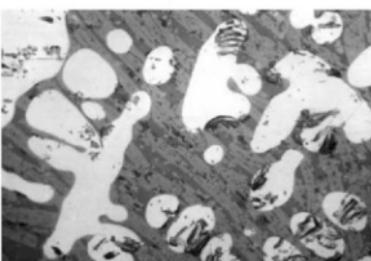
鉄滓顯微鏡組織写真 No.24-1 × 100



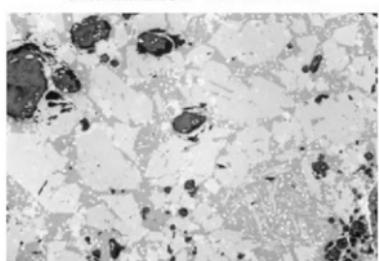
鉄滓顯微鏡組織写真 No.24-1 × 400



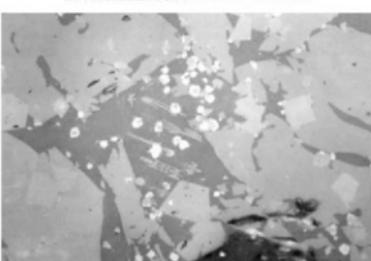
鉄滓顯微鏡組織写真 No.24-2 × 100



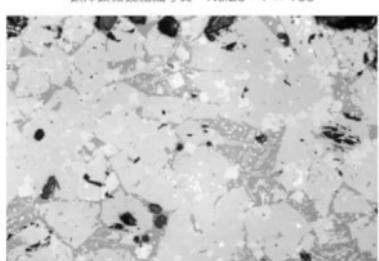
鉄滓顯微鏡組織写真 No.24-2 × 400



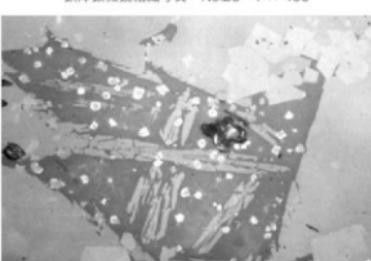
鉄滓顯微鏡組織写真 No.25-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.25-1 × 400

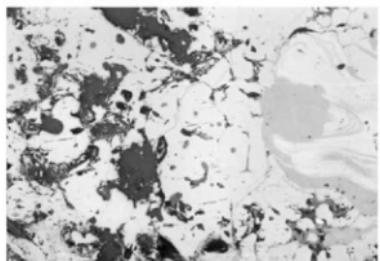


鉄滓顯微鏡組織写真 No.25-2 × 100

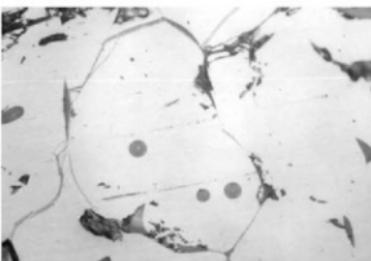


鉄滓顯微鏡組織写真 No.25-2 × 400

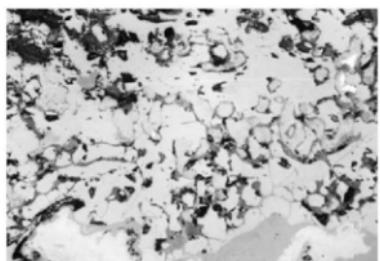
鉄滓顯微鏡組織写真 12



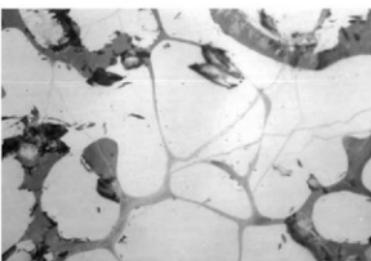
鉄滓顯微鏡組織写真 No.26-1 × 100



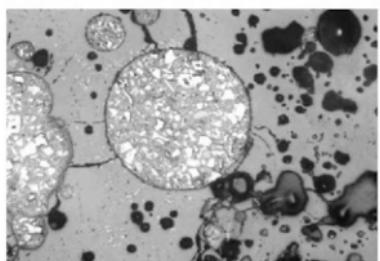
鉄滓顯微鏡組織写真 No.26-1 × 400



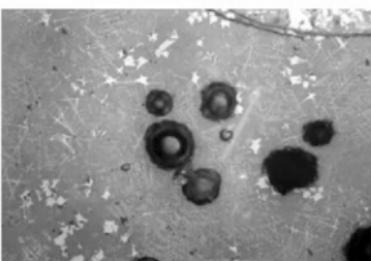
鉄滓顯微鏡組織写真 No.26-2 × 100



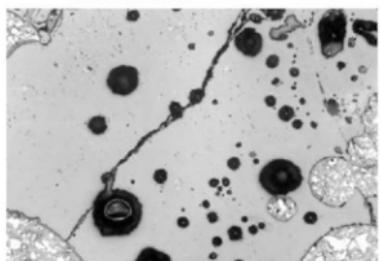
鉄滓顯微鏡組織写真 No.26-2 × 400



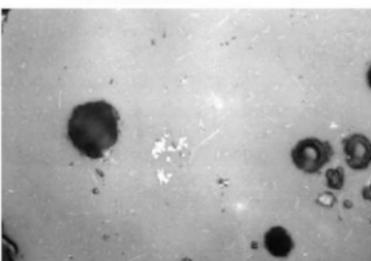
鉄滓顯微鏡組織写真 No.27-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.27-1 × 400

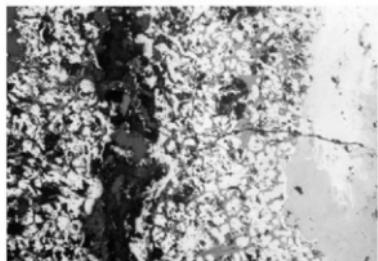


鉄滓顯微鏡組織写真 No.27-2 × 100

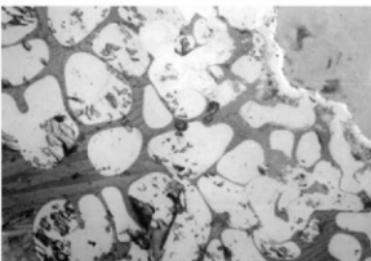


鉄滓顯微鏡組織写真 No.27-2 × 400

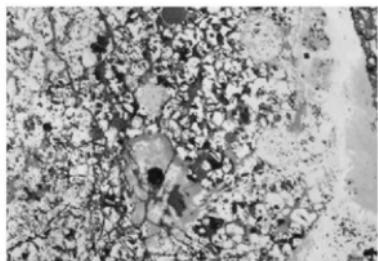
鉄滓顯微鏡組織写真 13



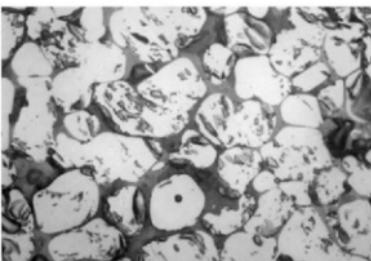
鉄滓顯微鏡組織写真 No.28-1 × 100



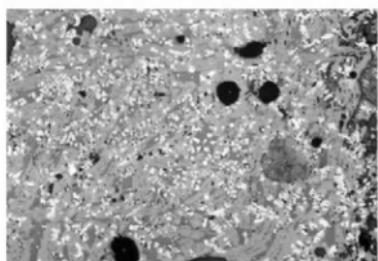
鉄滓顯微鏡組織写真 No.28-1 × 400



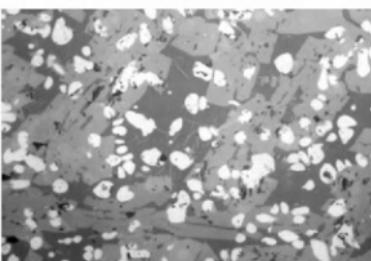
鉄滓顯微鏡組織写真 No.28-2 × 100



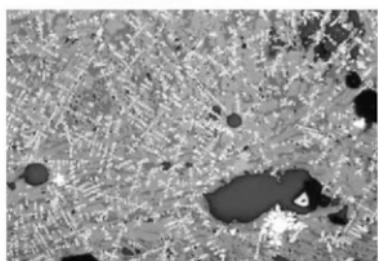
鉄滓顯微鏡組織写真 No.28-2 × 400



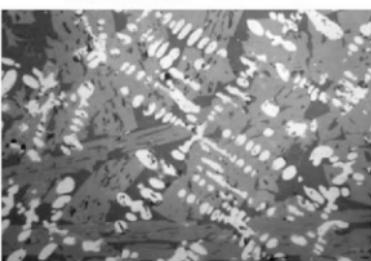
鉄滓顯微鏡組織写真 No.29-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.29-1 × 400

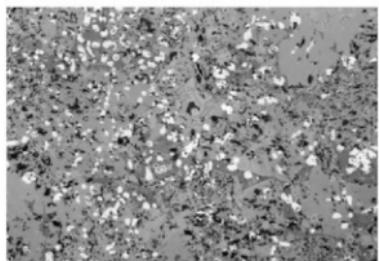


鉄滓顯微鏡組織写真 No.29-2 × 100

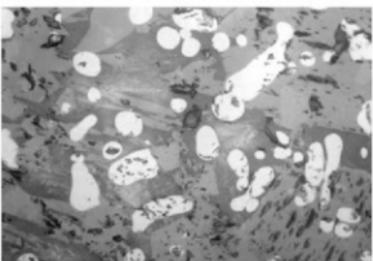


鉄滓顯微鏡組織写真 No.29-2 × 400

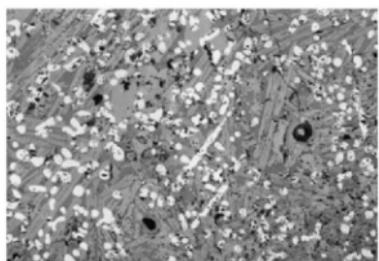
鉄滓顯微鏡組織写真 14



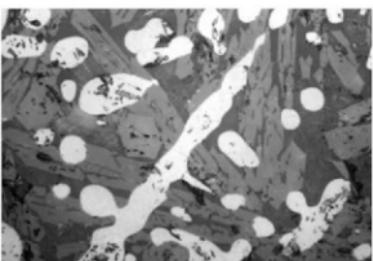
鉄滓顯微鏡組織写真 No.30-1 × 100



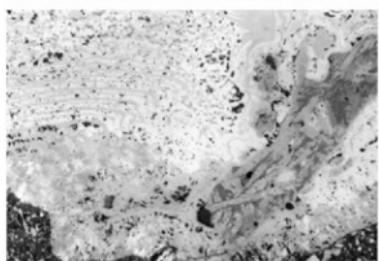
鉄滓顯微鏡組織写真 No.30-1 × 400



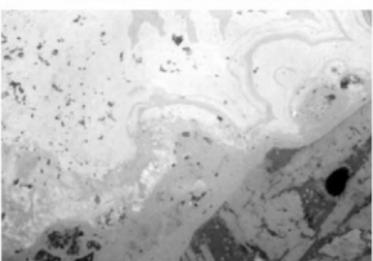
鉄滓顯微鏡組織写真 No.30-2 × 100



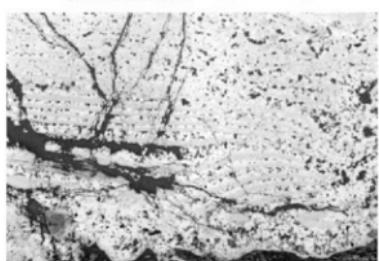
鉄滓顯微鏡組織写真 No.30-2 × 400



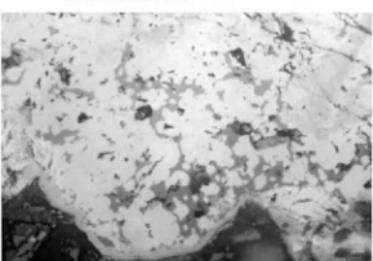
鉄滓顯微鏡組織写真 No.31-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.31-1 × 400

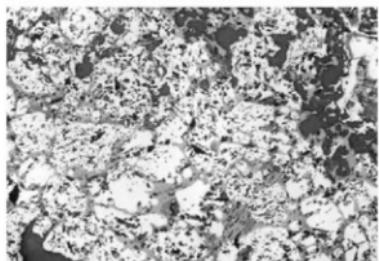


鉄滓顯微鏡組織写真 No.31-2 × 100

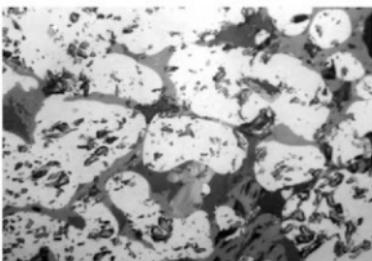


鉄滓顯微鏡組織写真 No.31-2 × 400

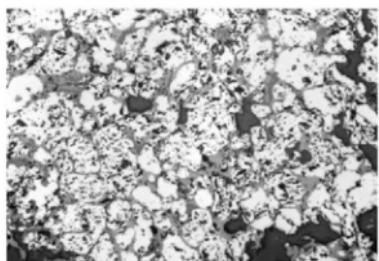
鉄滓顯微鏡組織写真 15



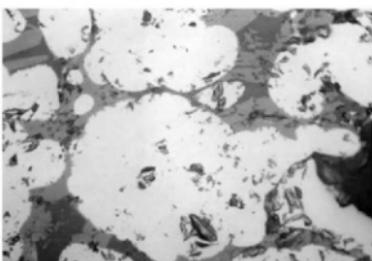
鉄滓顯微鏡組織写真 No.32-1 × 100



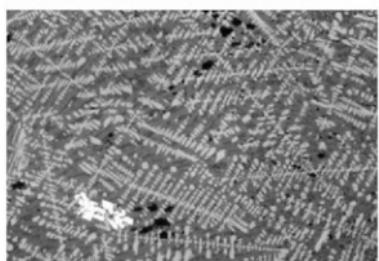
鉄滓顯微鏡組織写真 No.32-1 × 400



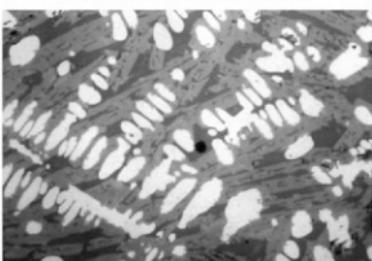
鉄滓顯微鏡組織写真 No.32-2 × 100



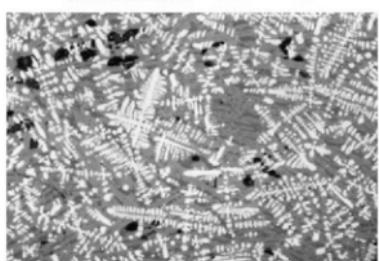
鉄滓顯微鏡組織写真 No.32-2 × 400



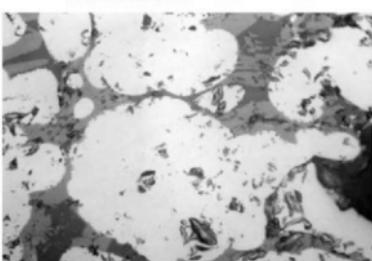
鉄滓顯微鏡組織写真 No.33-1 × 100



鉄滓顯微鏡組織写真 No.33-1 × 400

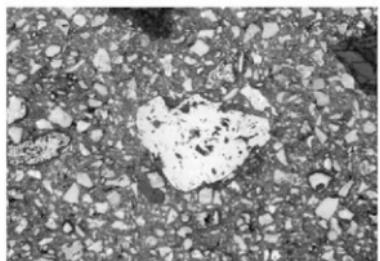


鉄滓顯微鏡組織写真 No.33-2 × 100

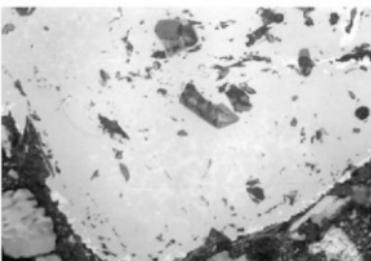


鉄滓顯微鏡組織写真 No.33-2 × 400

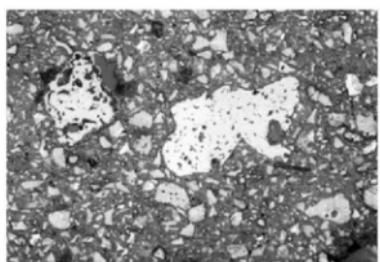
鉄滓顯微鏡組織写真 16



砂鉄顯微鏡組織写真 No.34-1 × 100



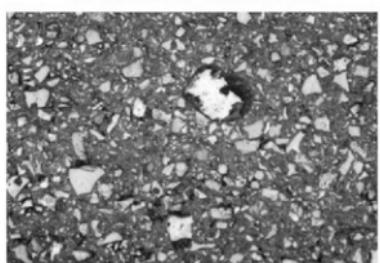
砂鉄顯微鏡組織写真 No.34-1 × 400



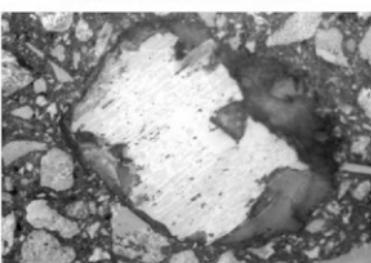
砂鉄顯微鏡組織写真 No.34-2 × 100



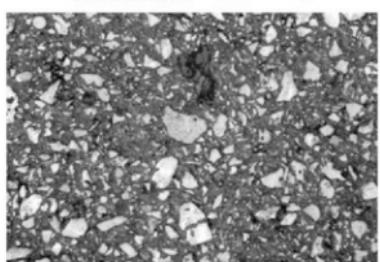
砂鉄顯微鏡組織写真 No.34-2 × 400



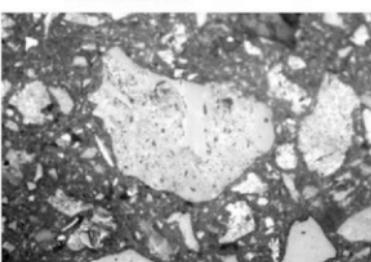
砂鉄顯微鏡組織写真 No.35-1 × 100



砂鉄顯微鏡組織写真 No.35-1 × 400

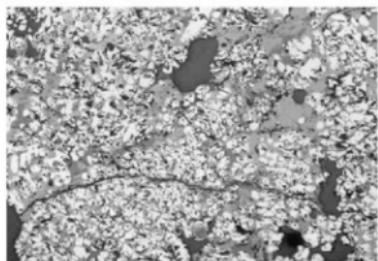


砂鉄顯微鏡組織写真 No.35-2 × 100

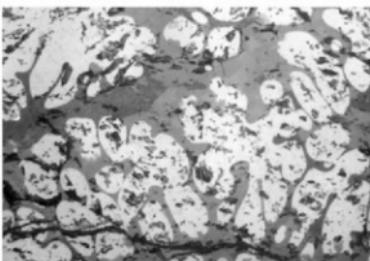


砂鉄顯微鏡組織写真 No.35-2 × 400

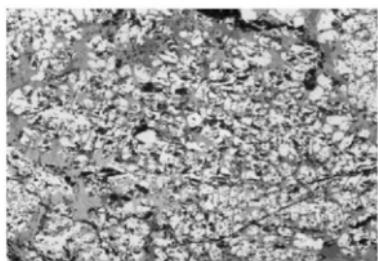
鉄滓顯微鏡組織写真 17



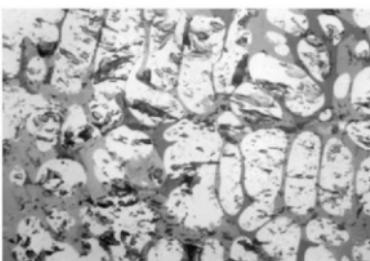
鉄滓顯微鏡組織写真 No.36-1 × 100



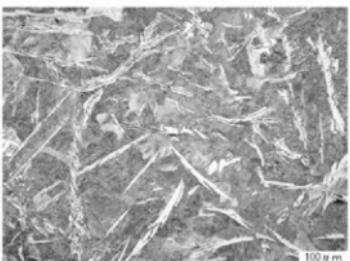
鉄滓顯微鏡組織写真 No.36-1 × 400



鉄滓顯微鏡組織写真 No.36-2 × 100



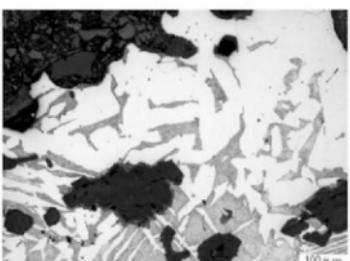
鉄滓顯微鏡組織写真 No.36-2 × 400



金属組織顕微鏡写真 No1-1_100



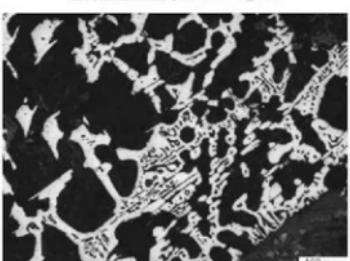
金属組織顕微鏡写真 No1-1_400



金属組織顕微鏡写真 No1-2_100



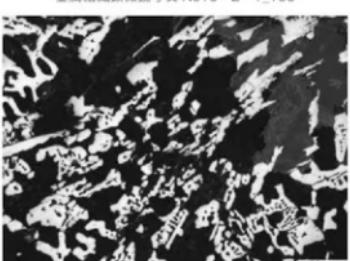
金属組織顕微鏡写真 No1-2_400



金属組織顕微鏡写真 No10-2-1_100



金属組織顕微鏡写真 No10-2-1_400

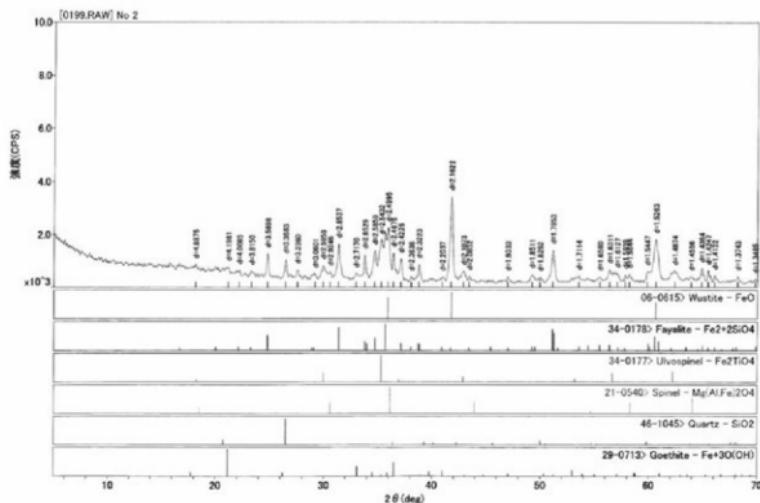


金属組織顕微鏡写真 No10-2-2_100

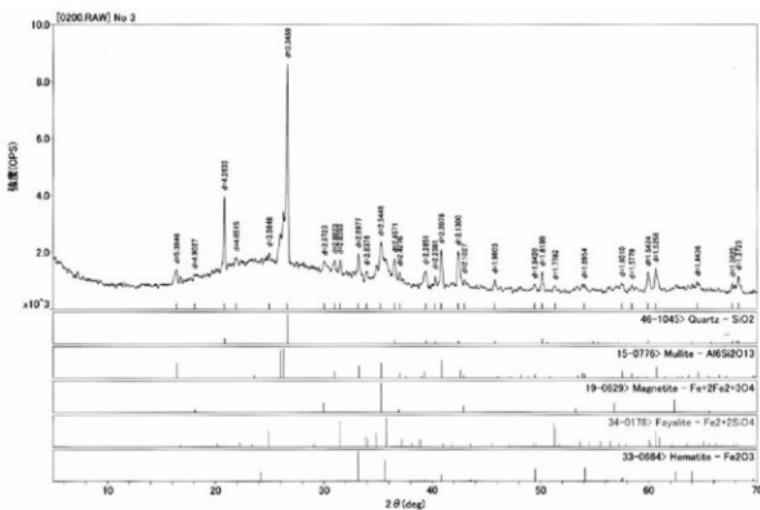


金属組織顕微鏡写真 No10-2-2_400

金属顕微鏡組織写真

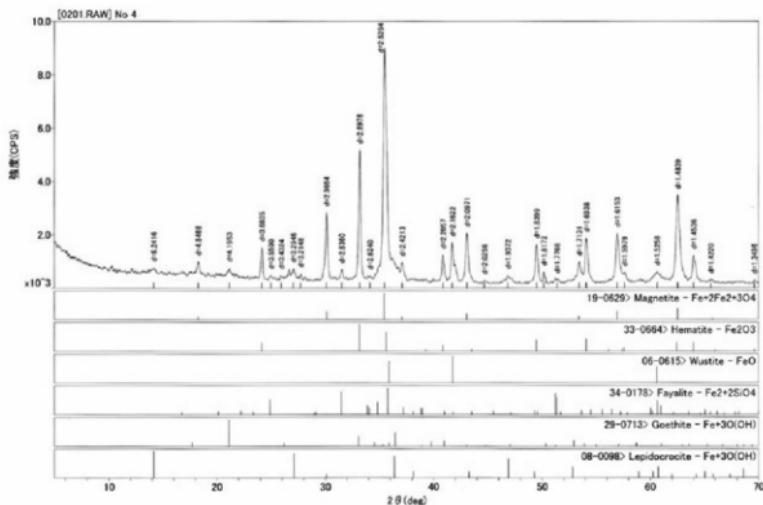


X線回析チャート 1

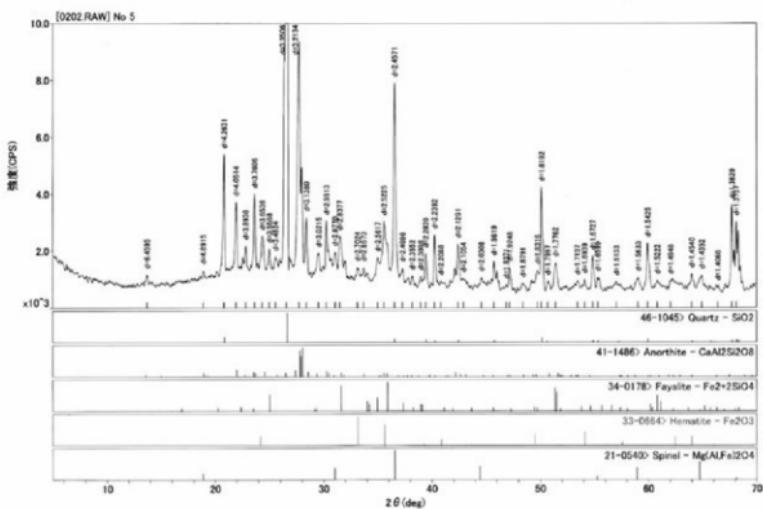


X線回析チャート 2

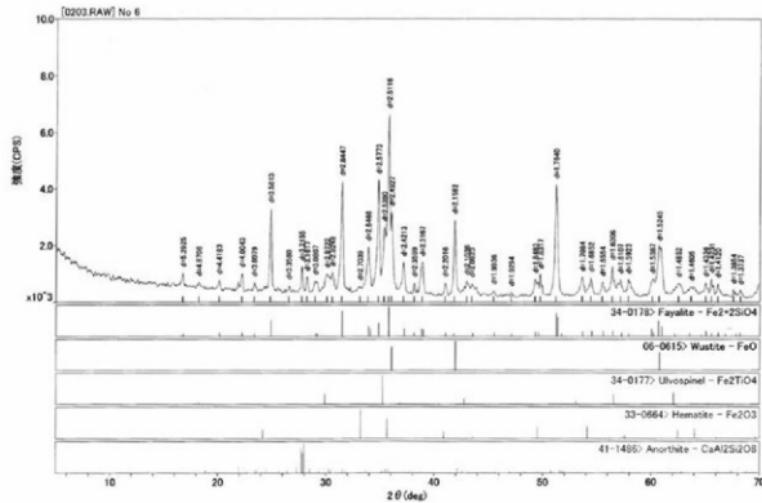
付録 1



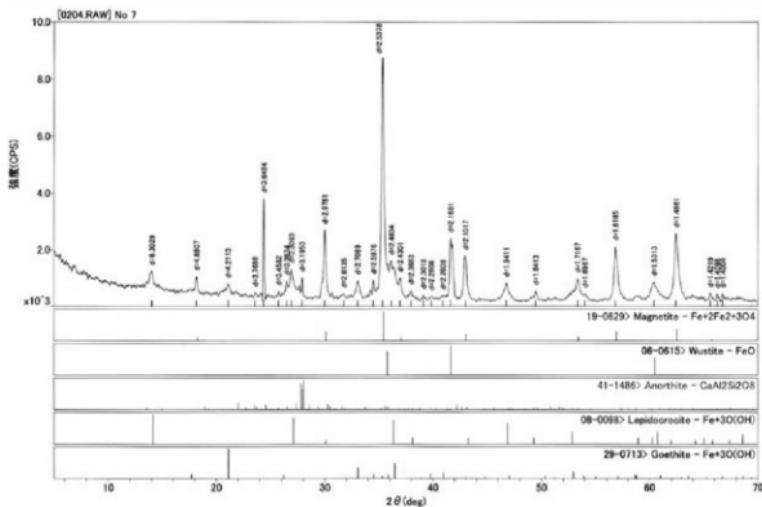
X線回析チャート 3



X線回析チャート 4

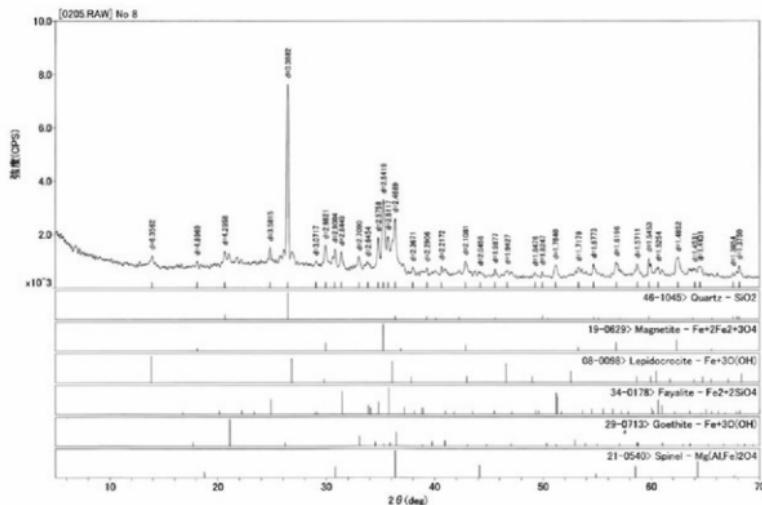


X線回析チャート 5

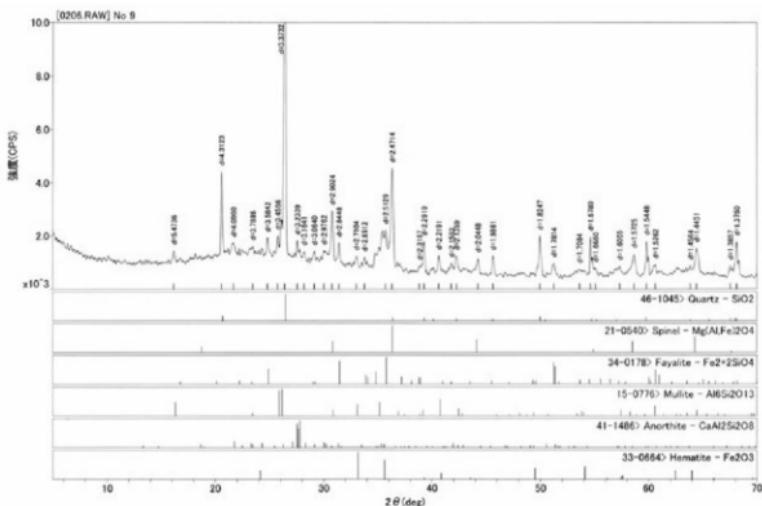


X線回析チャート 6

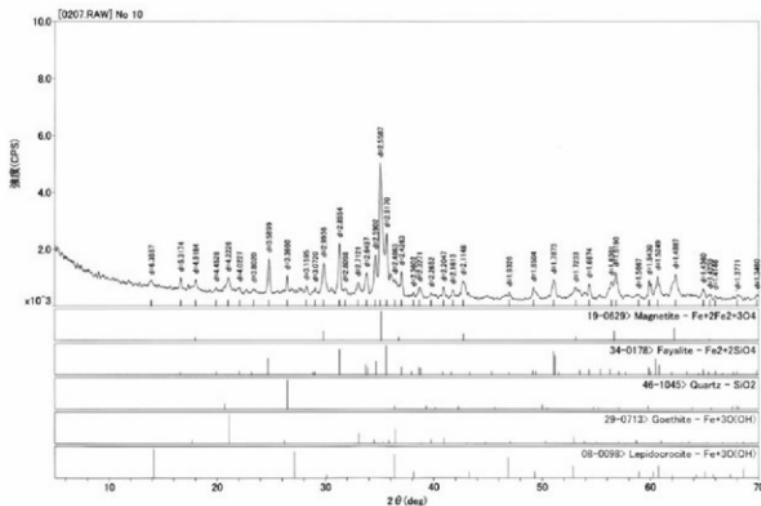
付録 3



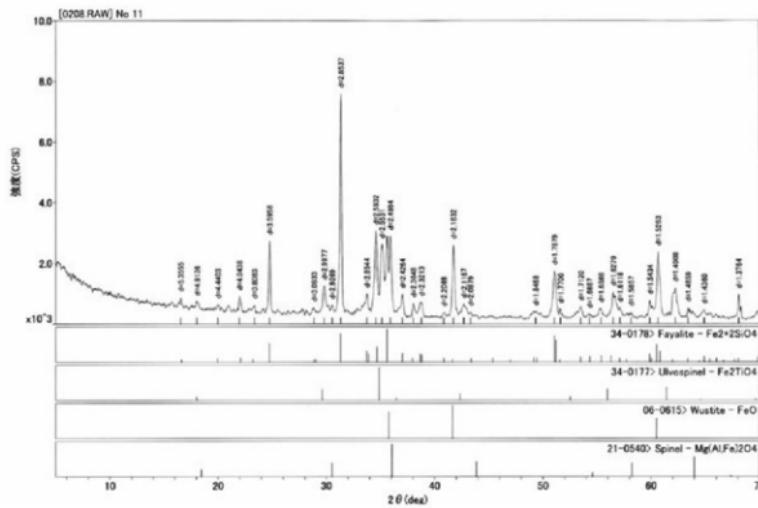
X線回析チャート 7



X線回析チャート 8

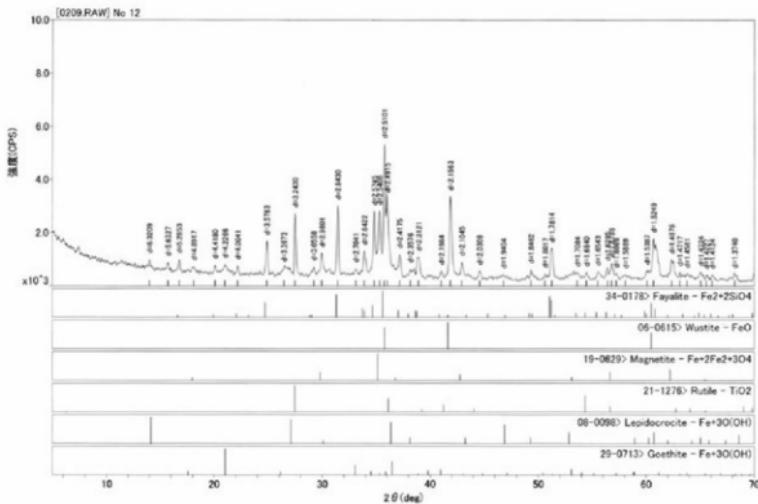


X線回析チャート 9

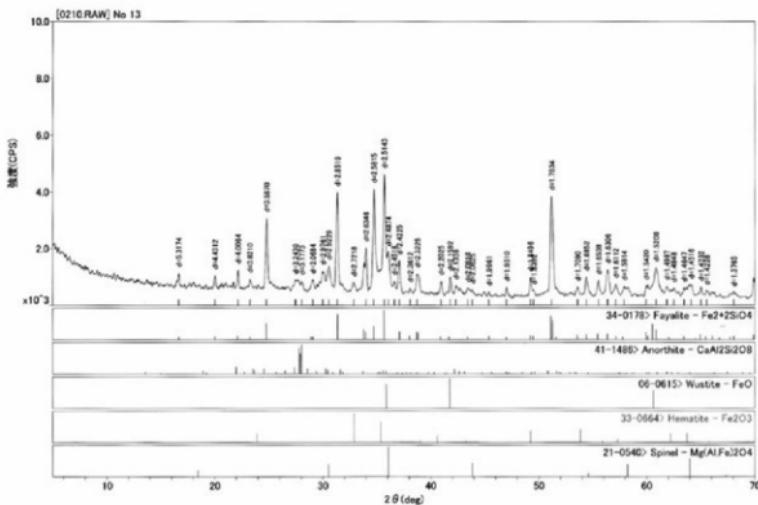


X線回析チャート 10

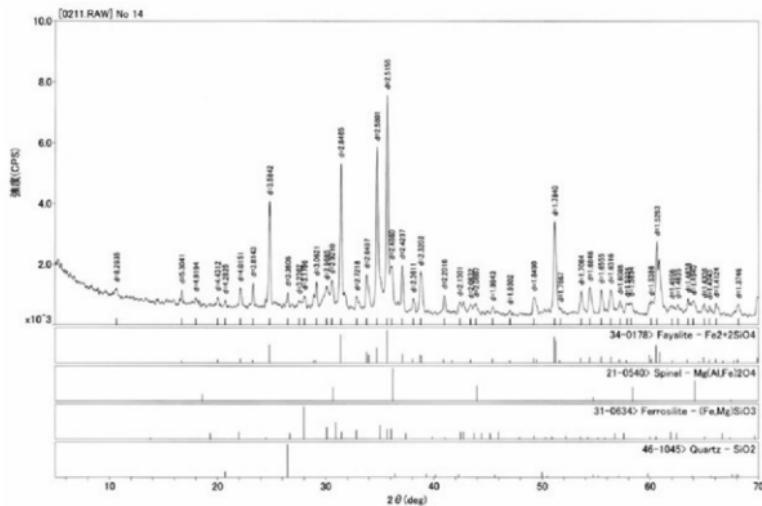
付録 5



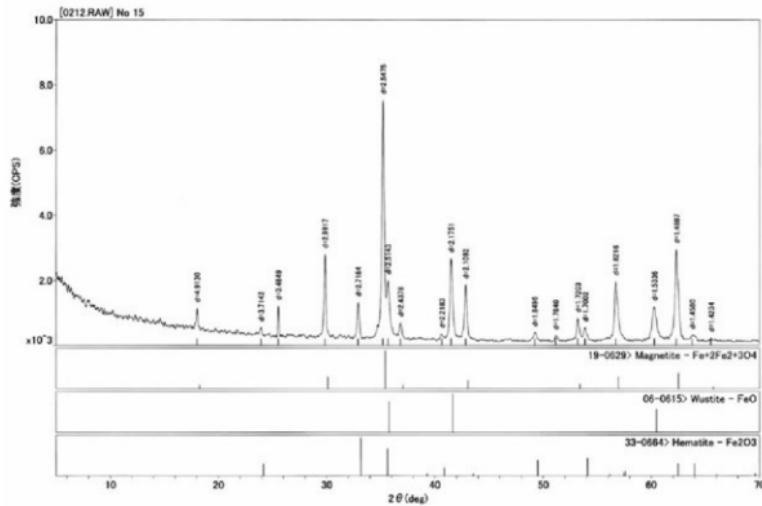
×線回析チャート 11



×線回析チャート 12

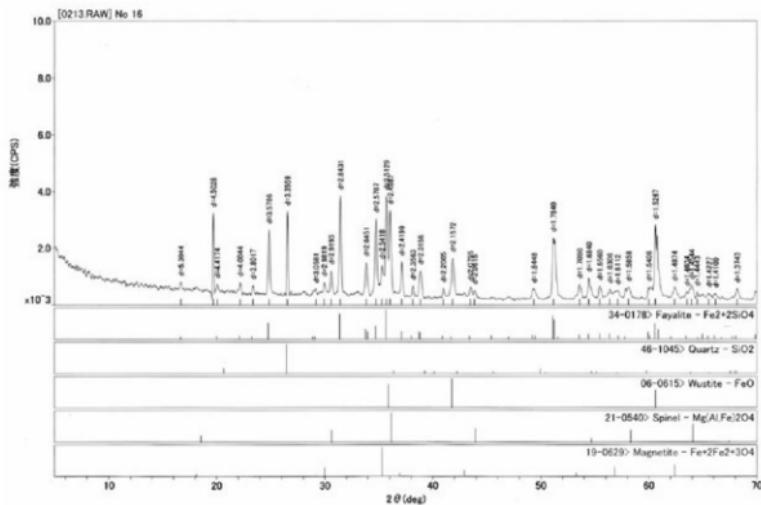


×線回析チャート 13

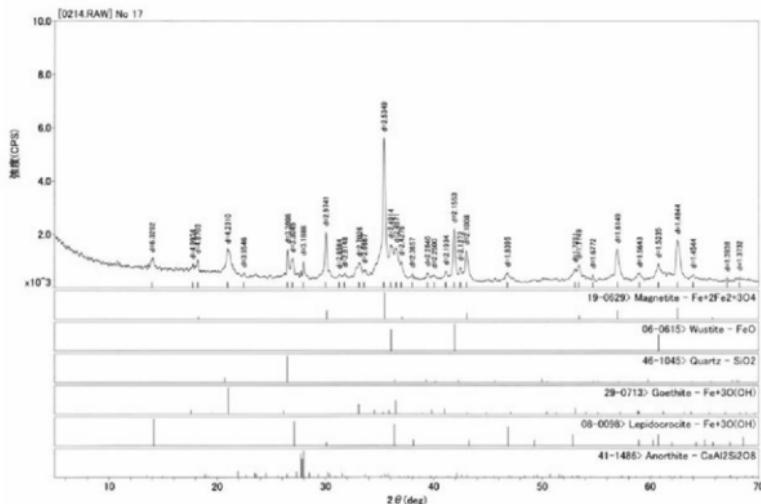


X線回析チャート 14

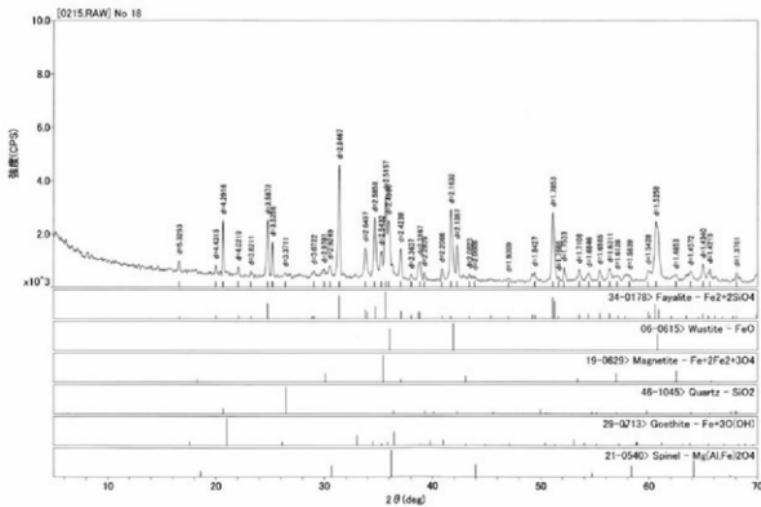
付録 7



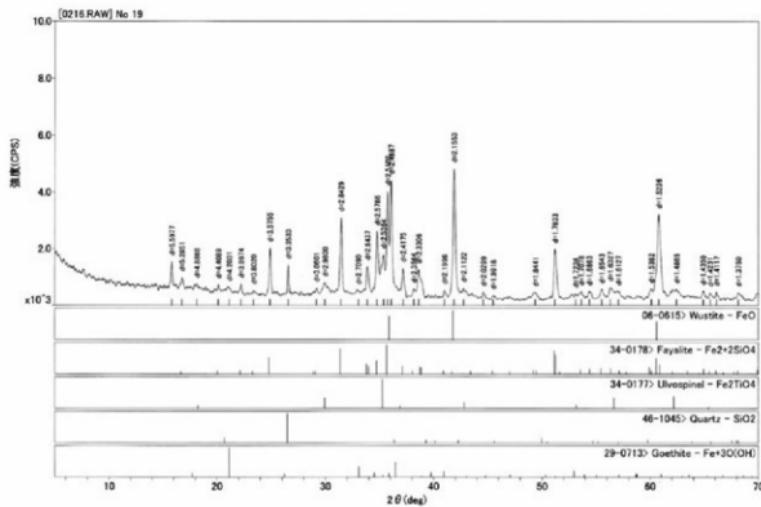
X線回析チャート 15



X線回析チャート 16

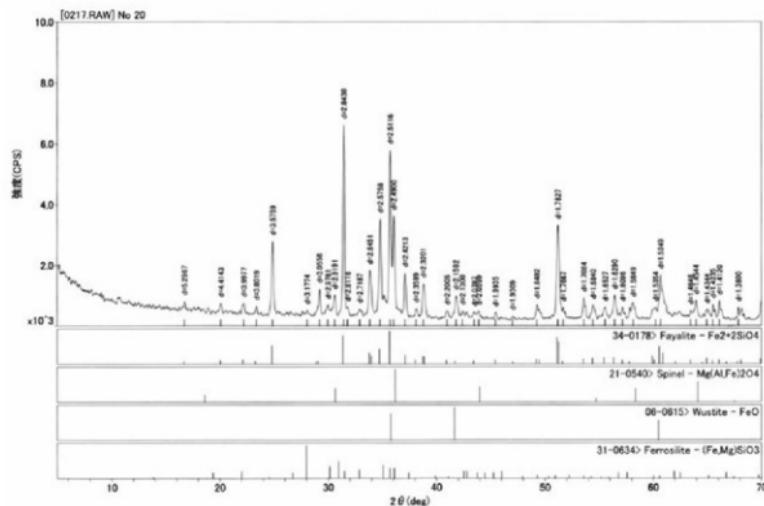


X線回析チャート 17

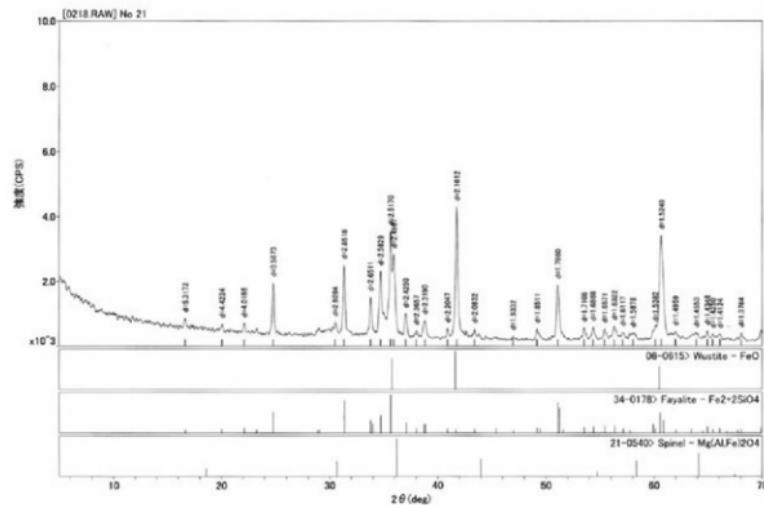


X線回析チャート 18

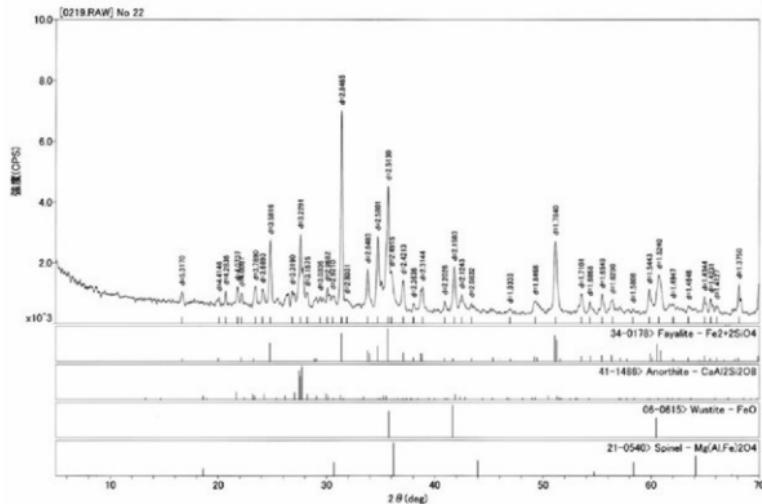
付録 9



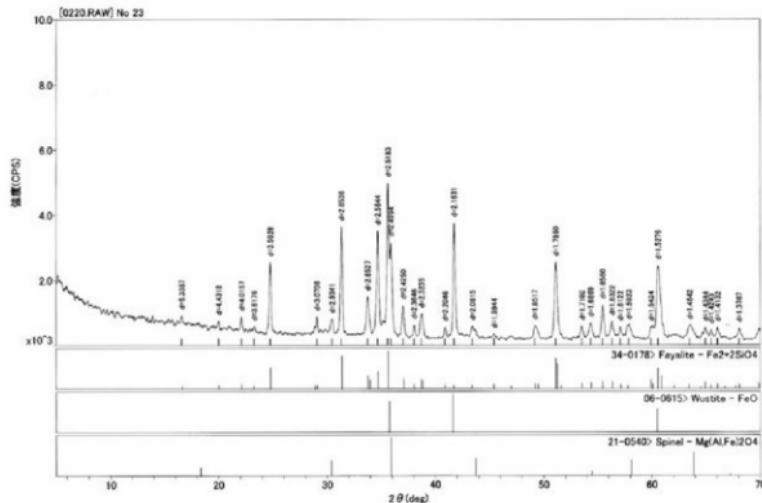
X線回析チャート 19



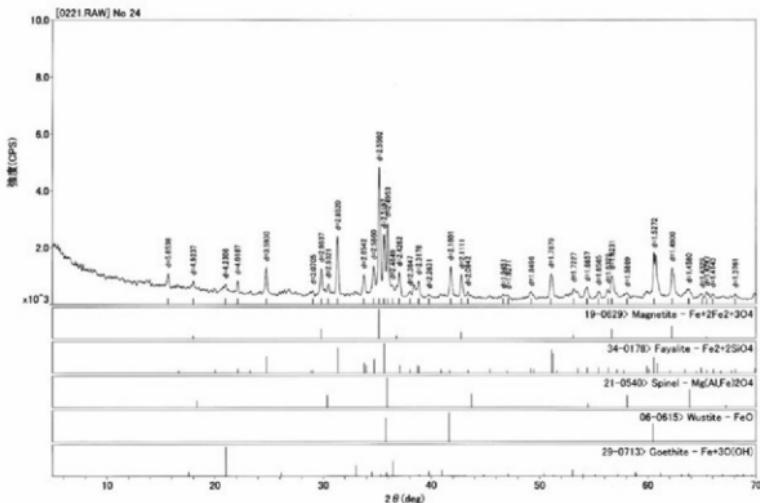
X線回析チャート 20



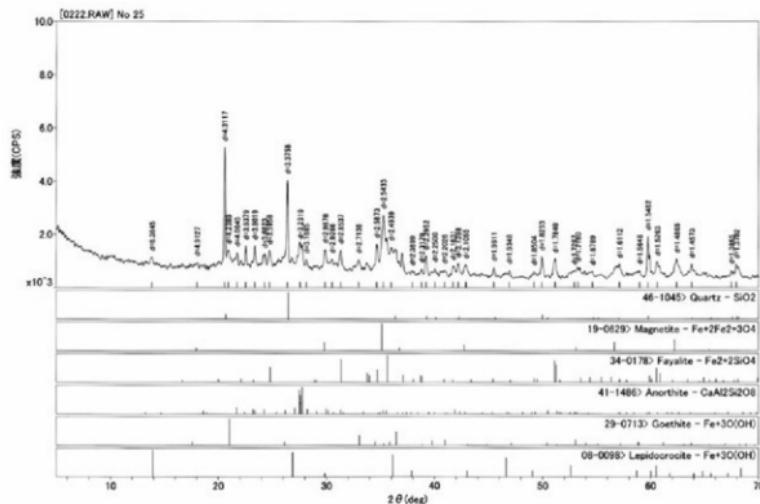
X線回析チャート 21



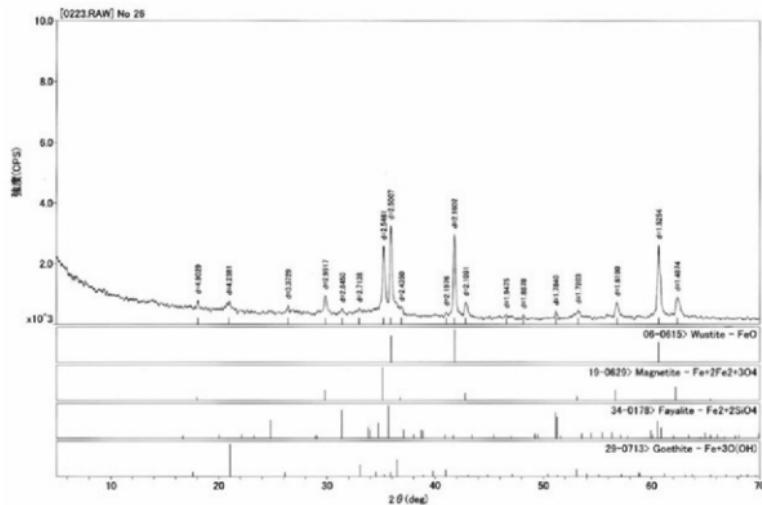
X線回析チャート 22



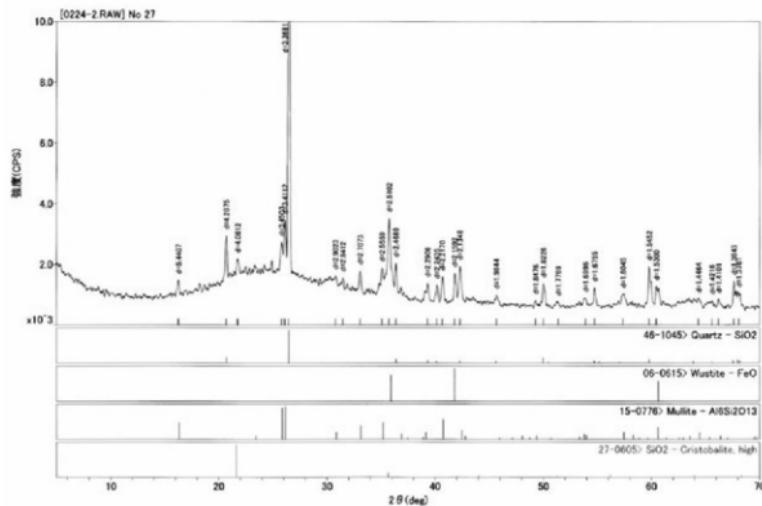
X線回析チャート 23



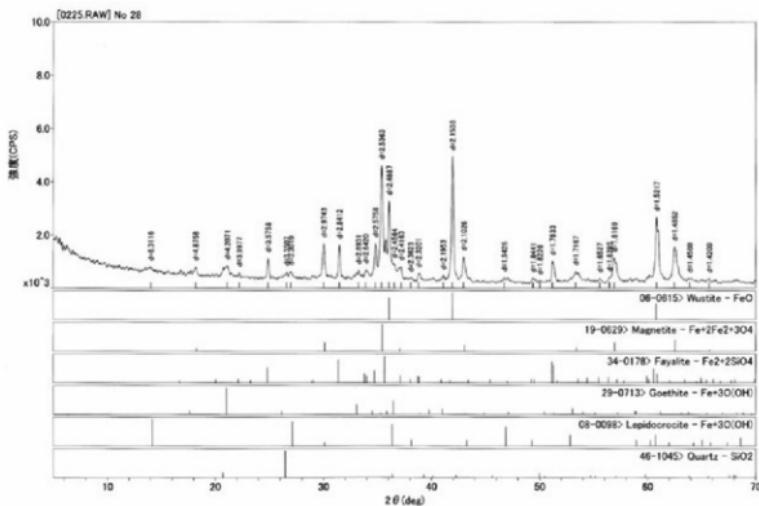
X線回析チャート 24



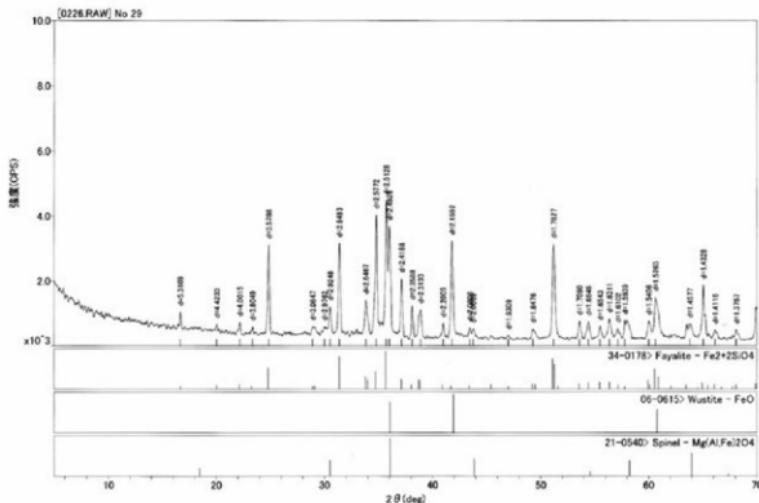
X線回析チャート 25



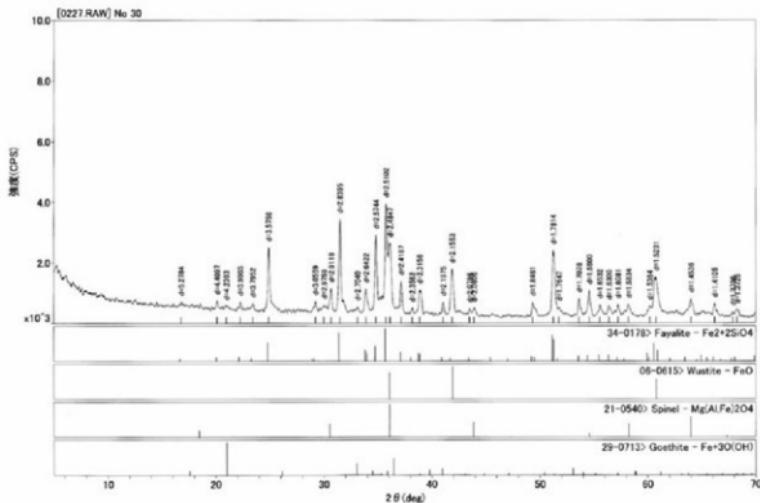
X線回析チャート 26



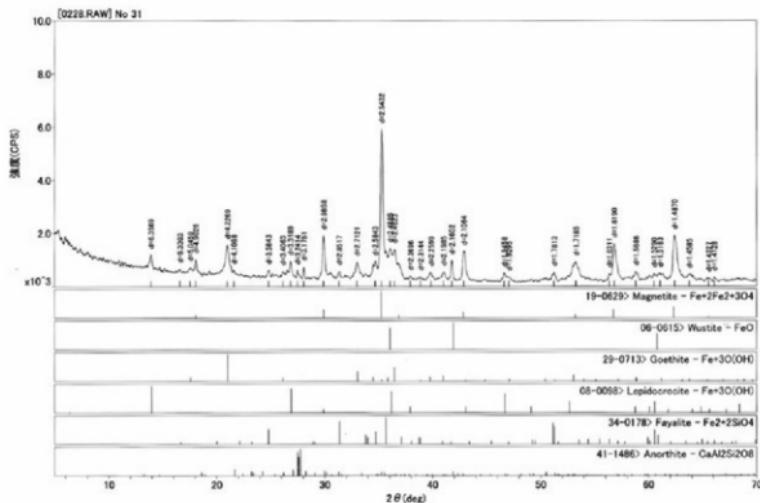
X線回析チャート 27



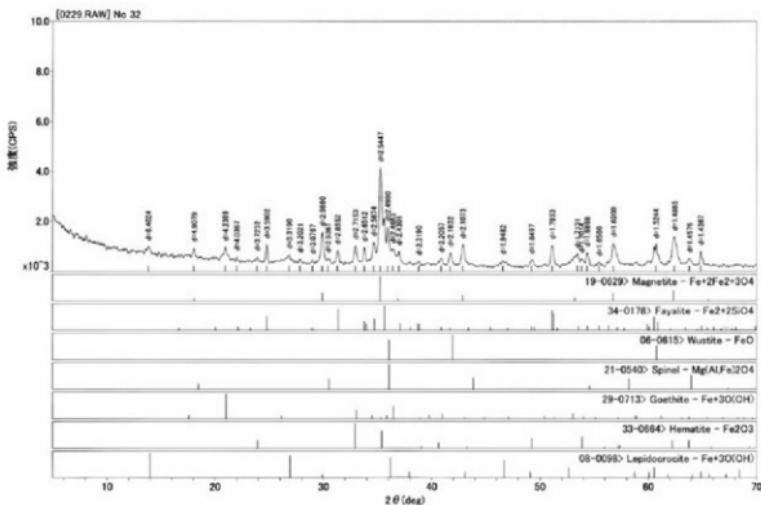
X線回析チャート 28



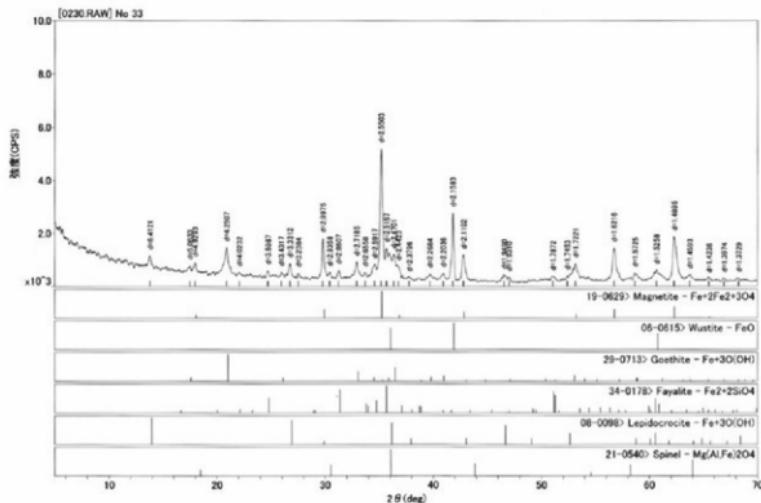
×線回析チャート29



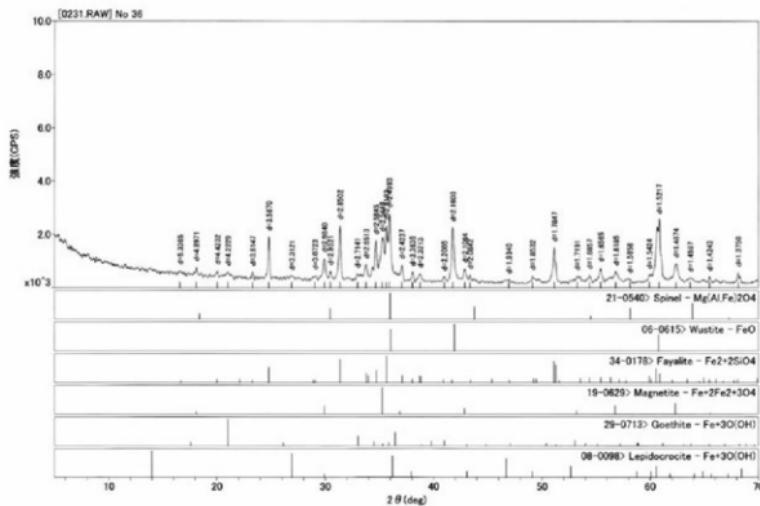
×線回析チャート 30



X線回析チャート 31



X線回析チャート 32



X線回析チャート 33

4 間木戸Ⅱ遺跡出土動物遺存体の同定

— 間木戸Ⅱ遺跡 26号堅穴建物跡から出土した動物遺存体について —

齊藤慶史（青森県教育庁文化財保護課）

はじめに

山田町間木戸Ⅱ遺跡では、26号堅穴建物跡から出土した7世紀末頃とみられる土師器壺の内部から動物遺存体が検出されている。ここでは、その内容に関する調査結果をまとめ、当遺跡における生業活動を概観する。

1. 資料回収方法

土師器壺の内部に検出された動物遺存体は、土壤ごと回収を行い、自然乾燥させた後に篩かけを実施した。使用した篩の目の開きは4mmで、篩上に分離された動物遺存体については、殻頂および1/2以上残存するもの全てを同定対象とした。一方、篩を通過した資料については、ウニの棘が多数含まれることを確認しているが、今回の分析資料に含めていない。

2. 出土動物遺存体の内容

腹足綱1種、二枚貝綱3種、蔓脚亜綱3種、海胆綱1種が確認された（表1）。河口域の潮間帯に生息する生物で占められ、貝類とウニ・フジツボで構成される。

貝類で最も多く検出されたのは二枚貝綱のイソシジミで、イガイがこれに次ぐ。これらの他にマテガイや巻貝綱のチヂミボラもみられるが、いずれもごく少量混じる程度であった（表2）。イソシジミのサイズは、殻長37.5~45.9mm、殻高28.3~33.8mmで、套線湾入が深く、近縁種のエゾイソシジミとは区別される（表5）。いずれも、山田湾奥部の関口川河口付近の干潟や岩礁で採集された可能性が高い。

ウニは、殻板の碎片、棘、歯、顎骨が出土している（表3）。現在、三陸沿岸ではエゾバフンウニ、バフンウニ、キタムラサキウニの3種がみられるが、種の特定が困難であったため、オオバフンウニ科に留めた。但し、長さ5mm以上の棘が多く、殻板大突起のサイズの特徴がキタムラサキウニに近似するものが多くみられた。

フジツボは、周殻の直径が3cmに満たないチシマフジツボやアカフジツボが多い（表4）。うま味成分を煮出すことの出来る調味食材としても知られるが、本遺跡で出土しているのは小型のサイズが多く、意図的に採集されたことを示す証拠は得られなかった。イガイの殻などに着生していたものが混入した可能性を考慮する必要がある。

おわりに

26号堅穴建物跡出土の土師器壺内部より検出された動物遺存体の内容は、魚骨や鳥獸骨が一切含まれず、貝類とウニ・フジツボを中心とするものであった。これらは、二枚貝の左右殻の数もほぼ同率で、極めて一括性の高い資料と認められるが、廃棄以前の調理・採集時にも、その組成が維持されていたのかどうかについては、より厳密な検討を加える必要がある。山田湾周辺では、沢田Ⅱ遺跡にお

いて、8世紀代の貝層が検出されており、ここでの出土貝類は、砂泥底及び干潟に生息する種が多く、岩礁性の種群がやや少ないという傾向がみられた（佐藤・熊谷1997）。本遺跡においても、イソシジミが最多であることから海岸部の状況は、ほぼ同様であったと予想される。

間木戸Ⅱ遺跡から出土した動物遺存体は、限られた分量ではあるものの、7世紀末の生業復元に資する一括性の高い貴重な資料である。今後も同時代の資料の蓄積を行い、古代三陸沿岸地域の海産物利用に関する議論が深められることを期待したい。

謝辞

本報告をまとめるにあたり、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの佐藤あゆみ氏、佐藤剛氏、中村隼人氏、宮古市教育委員会の高橋憲太郎氏には、大変お世話になりました。記して、感謝申し上げます。

引用・参考文献

奥谷喬司編 2000 「日本近海産貝類図鑑」 東海大学出版会

佐藤正彦・熊谷賢 1997 「沢田Ⅱ遺跡出土の動物遺存体」 『沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第268集

日本付着生物学会編 2006 「フジツボ類の最新学」 恒星社厚生閣

表1 間木戸Ⅱ遺跡出土動物遺存体学名表

| |
|--|
| 巻貝綱 GASTROPODA |
| チヂミボラ <i>Nucella lima</i> |
| 二枚貝綱 BIVALVIA |
| イガイ <i>Mytilus coruscus</i> |
| イソシジミ <i>Nuttallia japonica</i> |
| マテガイ <i>Solen strictus</i> |
| 蔓脚亜綱 CIRRIPEDIA |
| アカフジツボ <i>Megabalanus rosa</i> |
| チシマフジツボ <i>Semibalanus cariosus</i> |
| イワフジツボ <i>Chthamalus challengerii</i> |
| 海胆綱 ECHINOIDEA |
| オオバフンウニ科の一種 <i>Strongylocentrotidae</i> gen. et sp. indet. |
| キタムラサキウニ <i>Strongylocentrotus nudus</i> |

表3 海胆綱出土量表

| 種 | 部位 | 数 |
|-----------------------------|----|-----|
| オオバフンウニ科の一種 | 殻板 | 19 |
| オオバフンウニ科の一種 (キタムラサキウニ近似) | 殻板 | 37 |
| オオバフンウニ科の一種 | 顎骨 | 14 |
| オオバフンウニ科の一種 | 歯 | 6 |
| オオバフンウニ科の一種 | 棘 | 125 |

表5 イソシジミ計測値（mm）

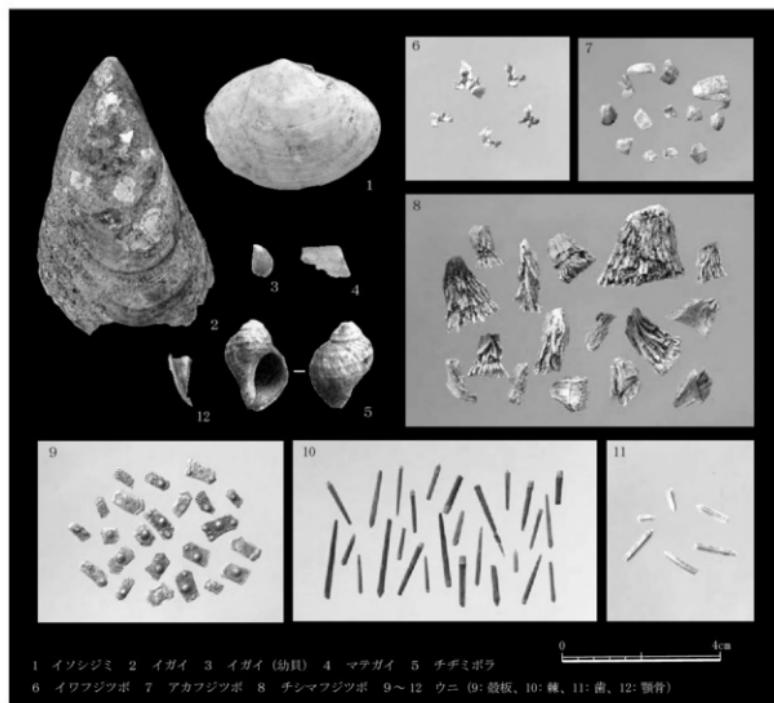
| | 0 ~ 5 | 5 ~ 10 | 10 ~ 15 | 15 ~ 20 | 20 ~ 25 | 25 ~ 30 | 30 ~ 35 | 35 ~ 40 | 40 ~ 45 | 45 ~ 50 | 50 ~ 55 |
|----|-------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 殻長 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 8 | 1 | 0 |
| 殻高 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 |

表2 巻貝・二枚貝綱出土量表

| 種 | 左右 | 数 |
|---------|----|----|
| チヂミボラ | — | 3 |
| イソシジミ | L | 33 |
| | R | 28 |
| イガイ | L | 11 |
| | R | 19 |
| イガイ（幼貝） | L | 1 |
| | R | 1 |
| マテガイ | L | 1 |
| | R | 1 |

表4 蔓脚亜綱出土量表

| 種 | 部位 | 数 |
|-------------------------|-----|----|
| チシマフジツボ | 周殻片 | 48 |
| アカフジツボ | 周殻片 | 16 |
| イワフジツボ | 周殻片 | 5 |
| 蔓脚亜綱の一種 (シロスジフジツボ近似) | 周殻片 | 6 |
| 蔓脚亜綱の一種 | 周殻片 | 21 |



1 イソシミ 2 イガイ 3 イガイ(幼貝) 4 マタガイ 5 チヂミボラ
6 イワフジツボ 7 アカフジツボ 8 チシマフジツボ 9~12 ウニ (9: 膜板、10: 縄、11: 盔、12: 頭骨)

VII 総括

本書では、間木戸Ⅱ遺跡、間木戸V遺跡の調査成果を別記載で報告してきたが、両遺跡の立地状況や遺跡の性格を鑑み、総括をまとめている。調査時は複数の重複関係により、検出遺構を総合的に検討し、その全体像を把握する作業が困難であった。室内整理の中で判明した、遺跡の様相を通観するに必要な資料の検討を下記に記載する。

1 繩文時代

出土遺物の中でも繩文土器が圧倒的な量を占めている。間木戸Ⅱ遺跡では大コンテナ54箱、間木戸V遺跡は大コンテナ1箱出土した。これまでの周辺における調査成果から、繩文時代中期後半の堅穴建物跡を多数検出しているのに反して、出土遺物数の少ない傾向が指摘されていた(岩文理2000「沢田Ⅰ遺跡」)。しかし、今回の調査では、間木戸Ⅱ遺跡で調査区全体を覆う包含層が検出され、これまでの周辺遺跡における調査例の中でも遺物出土状況が濃密であることは確然である。調査区西側では、間木戸川により形成された段丘状の低地部に大量の遺物が出土したことから、一体が捨て場として使われていたことも想定したが、土器の破片資料が多いことや、一部を除き堆積土が調査区の基本層序と類似する点等から捨て場ではなく自然堆積と判断した。

時期は一部早期の土器片も出土しているが、遺構内からの出土は概ね繩文時代中期のもので、その中でも大木8a～8b式が中心、次いで6～7b式が続く。前期の土器片も大木1式から途切れず見受けられるが、全体的に破片資料が多く土器の全体形状がわかる資料が少ない。器種は、深鉢が主で、大木6式にみられる球形深鉢も散見されるが、浅鉢と明確にわかる資料は間木戸V遺跡出土のV P027(大木8b式)のみである。

石器は、遺構内から石鎚と敲磨器類の出土が多い。石核がいずれも北上山地中生代前期の青灰色の頁岩で、同じ石質のものが石鎚等にも使用されている。また、十和田火山に由来する可能性のある軽石や、零石・折居産の黒曜石は他地域との交流を窺わせる資料である。

石製品は、玦状耳飾り(沢跡G027、II A21vのIV層G030)や、繩文時代中期中葉(大木8b式期)に帰属する6号堅穴建物跡から石棒(G011)が出土している。また、土製品も同時期の斧状土製品(G004)が中期中葉(大木8b式期)に帰属する7号堅穴建物跡から出土している。

繩文時代に帰属する遺構は、間木戸Ⅱ遺跡で堅穴建物跡25棟、土坑13基、焼土遺構10基、集石遺構1基、間木戸V遺跡で堅穴建物跡2棟、焼土遺構1基、埋設土器1基を検出した。出土した繩文土器と遺構の重複関係から推定できる堅穴建物跡の時期は第21表の通りである。概ね中期前葉から中葉に帰属される。検出した炉は、地床炉、石開炉(円形・方形・楕円形)、複式炉、土器埋設炉と様々な形態であった。地床炉は床面中央に設けられているが、石開炉は壁際に寄るものが多い。間木戸Ⅱ遺跡内で検出した堅穴建物跡には周溝や柱穴の検出が少なく、規則性は認められない。一方、間木戸V遺跡内で検出した堅穴建物跡2棟については、規則性のある柱穴や一部で周溝が認められる。同時期に存在していた集落の中で違いがあることは、両者の立地条件による可能性がある。つまり、平坦部と斜面部の違いによるものなのかということであるが、間木戸V遺跡からの検出数は2棟のみであるため今後周辺の調査に期待したい。

土坑は、フラスコ状や、陥し穴状遺構と考えられる土坑を検出した。貯蔵穴域や墓域といった機能

面でのまとめは確認できず、調査範囲外に居住域以外の集落構造が検出される可能性が考えられる。

焼土遺構・炉跡は、石圓炉についても単独で遺構名を付したものが2基ある。これは、屋外炉の存在を示すというよりは、これに伴う竪穴の壁が重複する遺構に壊され竪穴建物跡として確認することが出来なかつたものという認識である。

(佐藤 あゆみ)

第21表 縄文時代竪穴建物跡一覧表

| 遺跡 | 号 | 帰属時期 | 炉の種類 | 炉の位置 | 備考 |
|----|----------|-----------|----------|--------|----------------------|
| II | 1号竪穴建物跡 | 中期中葉以前 | 不明 | - | |
| | 2号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 地床炉 | 北西壁に寄る | AMS測定 $4,456 \pm 29$ |
| | 3号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 石圓炉（円形） | 南西壁に寄る | 古期炉（石圓） |
| | 4号竪穴建物跡 | 中期中葉～後葉古 | 複式炉 | 南西壁際 | 床面焼土2 |
| | 5号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 複式炉 | 中央 | 床面焼土1 |
| | 6号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 地床炉 | 中央 | 炉は前面のみ確認 |
| | 7号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 石圓炉（方形） | 北壁に寄る | |
| | 8号竪穴建物跡 | 前期後葉～中期前葉 | 石圓炉（楕円形） | 北壁に寄る | |
| | 9号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 石圓炉（方形） | 南西壁に寄る | |
| | 10号竪穴建物跡 | 中期前葉～中葉 | 石圓炉（円形） | 南壁に寄る | AMS測定 $4,440 \pm 30$ |
| | 11号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 石圓炉（円形） | 中央 | 古期炉（石圓） |
| | 12号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 石圓炉（円形） | 南西壁に寄る | 床面焼土1 |
| | 13号竪穴建物跡 | 前期 | 地床炉 | 中央 | 床面焼土1 |
| | 14号竪穴建物跡 | 前期中葉～中期前葉 | 地床炉 | 中央 | 床面焼土2 |
| | 15号竪穴建物跡 | 前期中葉～中期前葉 | 地床炉 | 中央 | |
| | 16号竪穴建物跡 | 前期中葉～後葉 | 地床炉 | 北に寄るか | |
| | 17号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 石圓炉（楕円形） | 北東壁に寄る | |
| | 18号竪穴建物跡 | 前期前葉～中葉 | 不明 | - | |
| | 19号竪穴建物跡 | 中期中葉以前 | 不明 | - | |
| | 20号竪穴建物跡 | 中期前葉～中葉 | 不明 | - | |
| | 21号竪穴建物跡 | 中期前葉～中葉 | 石圓炉（円形） | 北東壁に寄る | |
| | 22号竪穴建物跡 | 前期後葉～中期前葉 | 不明 | - | |
| | 23号竪穴建物跡 | 中期中葉以前 | 不明 | - | |
| | 24号竪穴建物跡 | 中期前葉 | 土器埋設炉 | 中央 | AMS測定 $4,561 \pm 29$ |
| | 25号竪穴建物跡 | 中期中葉以前 | 不明 | - | |
| V | 1号竪穴建物跡 | 中期 | 石圓炉（円形） | 中央 | |
| | 2号竪穴建物跡 | 中期中葉 | 不明 | - | |

2 古代

(1) 土師器 (第155図)

間木戸II遺跡と間木戸V遺跡では古代の遺構として、間木戸II遺跡から堅穴建物跡群、間木戸V遺跡では堅穴建物跡と製鉄工房、炭置き場という製鉄関連遺構が出土した。これらの遺構のうち、特に製鉄関連遺構については、岩手県沿岸地域の中央部において近年調査例が増加しているものの、詳細な時期を検討できる出土例に恵まれていなかった。今回の調査では所属時期の決定に普遍的に用いられる土器がまとまって出土したことから、これらの遺構群の所属時期を検討できる資料が得られた。

そのため、間木戸II遺跡と間木戸V遺跡の各遺構とそれに関連する遺物包含層から出土した土器を検討し、各遺構の所属時期を明らかにすることで、古代における人々の時期ごとの遺跡の利用状況を想定する。なお、掲載した資料は細別器種の異なるものについてはすべて、調整の異なるものについては可能な限り抽出した。

・間木戸II遺跡

30号堅穴建物跡に伴うものでは、土師器の壺、坏がある。壺は中型の肩の張るものと中型から大型の長胴のものである。肩の張るものはやや肩が張る程度で、外面調整はミガキである。長胴のものは胴部中央に最大径があり、外面調整はミガキである。坏は内面黒色処理の小型から大型の有段のものと小型の段を持たない平底のものである。有段のものは、段は1段で輪積みと一致する。小型のものは平底である。底部は厚く、角にも厚みがあることから、栗圓式の坏の底部を成形する前の状態の平底と考えられる。

26号堅穴建物跡に伴うものでは、土師器の壺、壺、坏、鉢（椀）と須恵器の壺がある。これらは床面及びカマド出土のものと埋土から出土したものであるが、埋土の厚さが10cm程度であることと、遺物のまとまりや磨滅、残存率といった出土状況において著しい違いが見られないことから、すべて遺構に伴うものと判断した。

土師器では、壺は中型から大型の長胴のものと小型の寸胴のものである。長胴のものは胴部中央に最大径があり、外面調整はミガキとハケの両者がある。壺は中型の丸みのある胴部で、口縁はやや直立気味に立ち上がった後に外傾して開く。坏は内面黒色処理の小型から大型の有段のもので、段は1段で輪積みと一致し、内面にも段が見られる。鉢は内面黒色処理で、やや丸みを持ちながら直線的に開くものと口縁部が内湾する丸みのあるものである。須恵器は中型の壺で平底である。

27号堅穴建物跡に伴うものでは土師器の壺があり、小型の寸胴のものである。

29号堅穴建物跡に伴うものでは土師器の坏があり、内面黒色処理の有段のもので、段は1段で輪積みと一致する。

SN07-10に伴うものでは近接して出土した土師器の壺があり、小型のものである。外面調整はハケである。

遺物包含層からは土師器の坏が出土した。小型の有段のもので、段は1段で輪積みと一致する。

・間木戸V遺跡

2号工房跡の下の遺物包含層からは土師器の壺の小片が出土した。壺は赤彩壺で、口縁部の内外面に縱線を3本ないし4本単位で施文している。

3号堅穴建物跡に伴うものでは、土師器の壺、壺、坏がある。これらのうち、上段が床面及び埋土最下層出土のもので遺構に伴うもので、下段が埋土から出土したものである。遺構が斜面に構築され

ていることから短期間に埋まった可能性が高く、あまり大きな時間差は想定できない。

甕は中型の長胴のもので、外面調整はミガキとハケの両者がある。頭部の屈曲が緩やかなものである。壺は中型の丸みのある胴部で、口縁はやや直立気味に立ち上がった後に外傾して開くものと頭部からだらかに外傾して開くものがある。壺は内面黒色処理の中型と大型の有段のものと中型の段のないものである。有段のもののうち、大型のものでは段は1段で輪積みと一致する。中型のものでは段は2段で沈線状のものである。中型のものは平底である。底部の外面は丁寧なミガキであり、底部は厚く、角にも厚みがあることから、栗開式の壺の底部を形成する前の状態の平底と考えられる。段のないものでは底部から口縁まで丸みを持って開くものとかなり平底に近いものがある。

遺物包含層からは甕、壺、坏、鉢（碗）が出土した。これらはすべて製鉄関連遺構よりも上位の層からまとまって出土したものであることから、製鉄関連遺構の時期的な下限を示す資料と考えられる。甕は中型の長胴のものと頭部の屈曲が緩やかなものである。外面調整はミガキとハケの両者がある。壺は中型から大型の丸みのあるものと小型のやや下膨らみになるもの、小型の四脚付きのものである。坏は内面黒色処理の中型の有段のものと大型のものである。有段のものでは段は1段で内面にも段のあるものと輪積みと一致するものである。鉢は内面黒色処理で、口縁部が内湾する丸みのあるものである。中型のものは段は2段で沈線状のものである。

・各遺跡の遺構の構築時期と遺跡の利用状況について

間木戸Ⅱ遺跡と間木戸Ⅴ遺跡から出土した土器器資料は、栗開式から国分寺下層式に位置付けられる。

間木戸Ⅱ遺跡では、30号竪穴と26号竪穴では、30号竪穴は甕にやや肩の張るものを含み、外面調整がすべてミガキであることから相対的に古い傾向があり、長胴のもののみで構成され、外面調整にミガキとハケの両者が見られる26号竪穴が新しい傾向があると考える。

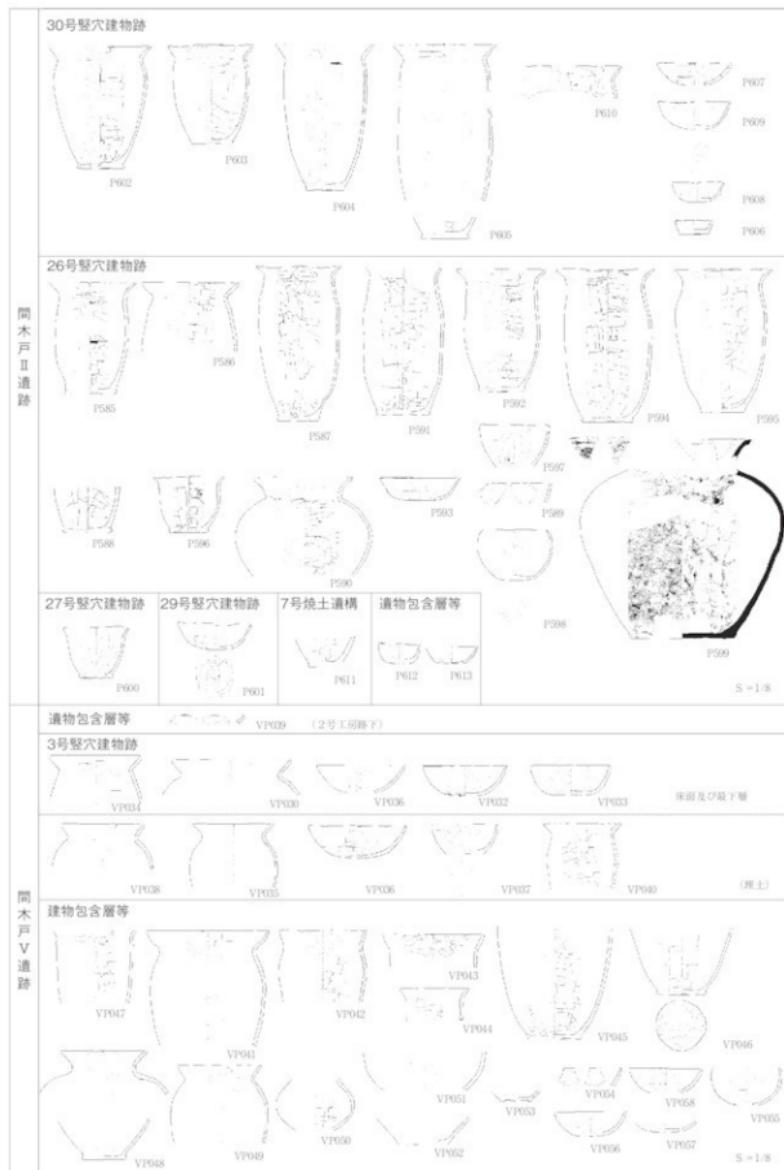
間木戸Ⅴ遺跡では、3号竪穴建物跡と製鉄関連遺構の上位の層からまとめて出土したものでは總体としての特徴は共通することから、大きな時間差は想定できない。その中で、24号壺は有段で内面にも段のあるもので相対的に古い傾向を示すものである。しかし、かなり平底に近い丸底の坏や頭部の屈曲が緩やかな甕という国分寺下層式の特徴のあるものもみられる。ただし、破片資料も含めて口クロ土器や須恵器の坏類は出土していない。

これらのことから、間木戸Ⅱ遺跡の集落は7世紀末から8世紀の前半には営まれ、それに連続して間木戸Ⅴ遺跡の利用が開始され、製鉄関連遺構は遅くとも8世紀の中葉から後半に操業を始めたものと考える。

(佐藤 瞳)

(2) 鉄 製 品

間木戸Ⅱ遺跡では、鉄鎌が4点、刀子が1点、鉄鋸が1点、間木戸Ⅴ遺跡では、鉄鎌が1点、藤手刀の破片2点が出土している。（鉄鎌の形状に関しては、第157図の分類図にある名称を使用する。）鉄族は、間木戸Ⅱ遺跡の26号竪穴建物跡床面からG032～034が出土した。G032は、茎部の下を欠損しているが、ほぼ完形と考えられる。鎌身外形は三角形を呈し平造の断面形をもつ。鎌身関部は、腸抉気味である。頭部は棒状の角闊で、断面は方形である。G033は、頭部のみでG032と同じく棒状の頭部に角闊をもつが長身である。G034は、茎部下を欠損しているがほぼ完形と考えられる。鎌身外形は、三角形を呈し平造の断面形をもつ。鎌身関部は、段のない角闊である。頭部は棒状の角闊で、断面は方形である。間木戸Ⅴ遺跡から出土したVG003は、鎌身部が欠損し茎部も下を欠損しているた



第155図 土師器

め、頭部の一部のみであるが、円形闕が確認できる。断面は長方形である。5点とも、頭部闕などの特徴から8世紀前半より古いものであると考えられ、特に間木戸V遺跡出土のVG003は、頭部の闕が間木戸II遺跡出土のものと異なり円形闕を呈するため、7世紀まで遡る可能性が考えられる。しかしながら、VG003は1号製鉄炉の炉面からの出土であり、素材として持ち込まれた可能性があり、ここでは遺構帰属時期の上限としておきたい。

このように、古代の集落から鉄鎌があとまつて確認されたわけであるが、特に1棟の堅穴建物跡から鉄鎌（G032～034）がまとめて出土した事例は少ない。近隣の遺跡の中で鉄族がまとめて出土している房の沢古墳では、古墳内から埋葬品として数点出土している。山田町内で調査された遺跡の中では大畠II遺跡の10世紀前半に帰属する堅穴建物跡から1点、沢田II遺跡の奈良時代に帰属する堅穴建物跡から1点の出土のみである。

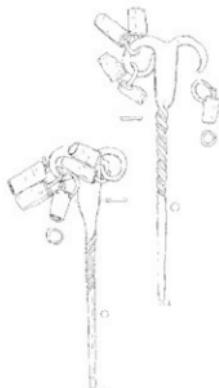
G037は、鉄鐸である。全体の形状は、若干下部が広がるが円錐にはほど遠い。近接する沢田II遺跡から出土した錫杖鉄製品に付属している鉄鐸と規模・形状ともに同様のものと考えられる（第156図）。鉄輪を通した穿孔の有無は、頭部が欠損しているため確認できない。錫杖鉄製品と鉄鐸一式は、沢田II遺跡での出土資料のように「神仏習合の要素もった雑密系の祭祀具」（井上2002）と考えられている。しかし、本資料は遺構外から単独の出土であるため、この場で本来の用途として使われていたか明確ではない。

間木戸V遺跡3号堅穴建物跡から出土したVG006は、薦手刀の座金部である。座金の表面には、菊座のようなはっきりとした模様は確認できない。VG005は、VG006と同遺構から出土した。刀身の一部と考えられるが、重量感と厚みがあり反りではなく刃部が明確でないことから、薦手刀の柄部の可能性が考えられる。薦手刀は、7世紀後半から9世紀前半まで確認され、その分類や編年がなされているが、今回の資料は、刀の全体像がわからぬため詳細な時期は不明である。しかしながら、同遺構は、共伴する土師器の特徴から8世紀代の遺構と位置づけており、間木戸V遺跡内で検出された製鉄関連遺構に連関し素材として持ち込まれた可能性を踏まえたとしても7世紀後半から8世紀代の薦手刀と考えられる。ちなみに、房の沢IV遺跡から出土した薦手刀（※1）は8世紀前葉から中葉とされている（大道1998「房の沢IV遺跡」）。

これらの鉄製品は、7世紀から8世紀代のものと考えられる。間木戸II遺跡の堅穴から出土した資料は8世紀前半以前、間木戸V遺跡から出土した資料は、鉄生産遺構の存在から素材として持ち込まれた可能性があるが、7世紀～8世紀代に帰属する資料といえる。

※1 1次調査で出土した薦手刀は、足金具等の一部のものも含め8点。その中から分類基準と比較できる4点について考察されている。

（佐藤　あゆみ）



第156図
沢田II遺跡 RA505 出土錫杖鉄製品

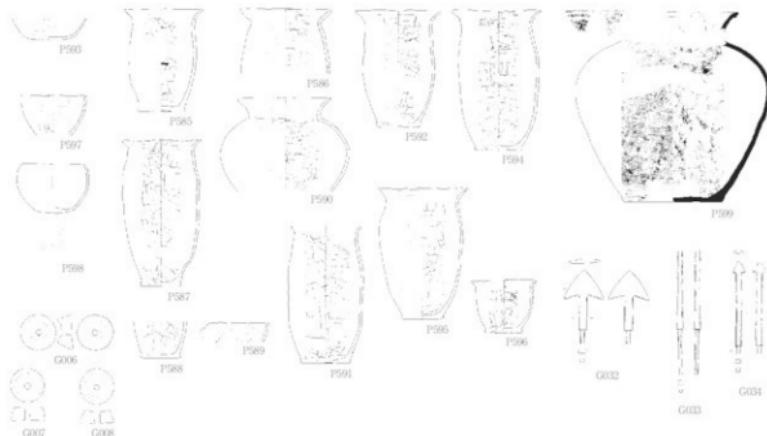
| | | | | | | | | | |
|-----|-------------|-----------------------|-------------------|--------------|-------------|-------------|-------|-----------------------|-----|
| 鐵身部 | 鍔身外形 | A.柳葉形 | B.圭頭形 | C.方頭形 | D.三角形 | E.長三角形 | F.片刃形 | G.雁股形 | その他 |
| | 頭面 | 両鍔造 片鍔造 | 三角 | 骨頭系 | 両丸造 片丸造 | 平造 | 平片刃造 | 両切刃造 片切刃造 | その他 |
| | 頭の構成部 | 角闘 ナテ闘 | 山形闘 | 無闘 | 腰抉 | 二段腰抉 | | | |
| 頭部 | 頭部形 | 棒状 振り | 別造り片闘抜 | 曲種・類部 | | | | 類部断面形 | |
| | | I a II b | | a b c | a b c | a b c | | a b c d e | |
| 茎部 | 無茎 | 角闘 | 斜め闘 | 台形闘 | 駿状闘 | 円形闘 | その他 | | 袋詰 |
| | I a II b | I a II b | | I a II b | I a II b | I a II b | | | |
| 茎部 | 茎形 | 無茎 a b | 短茎 a b c | 茎部 a b | | | | | |
| | 頭面 | a b c d e | | | | | | | |

第157図 鉄鎌基礎分類図

水野2003「古墳時代中期における鉄鎌の分類と幅年」より転載

(3) 壇穴建物跡について（26号壇穴建物跡を中心）

古代の壇穴建物跡は、間木戸II遺跡で5棟（26~30号壇穴建物跡）、間木戸V遺跡で1棟（3号壇穴建物跡）検出している。規模は、調査区外にかかるものは残存部から推定しているが、一辺3~4mの小型のもと、同じく6~6.5mの大型のもの2通りに分けられる。小型のものは、間木戸II27·28·29号壇穴建物跡、大型のものは間木戸II25·30号壇穴建物跡、間木戸V3号壇穴建物跡である。カマドは、検出できなかった28号壇穴建物跡以外は間木戸II25·26·27·29·30号が北~北東、間木



第158図 26号竖穴建物跡出土遺物一覧

戸V 3号竖穴建物跡が西に設置されていた。間木戸II遺跡の竖穴建物跡は7世紀末から8世紀前半、間木戸V遺跡の竖穴建物跡は8世紀代に帰属する。カマドの位置の違いは、時期差によるものと斜面地による立地条件の制約といった可能性が考えられる。柱穴は、検出したもので間木戸II 25号6本、30号4本、間木戸V 3号4本が主柱穴として配されていた。なお、周溝を検出した竖穴は無かった。

出土遺物について、各竖穴建物跡別に計測した土師器の重量は下記の通りである。

間木戸II - 26号竖穴8.8252g、27号竖穴32.1g、29号竖穴221.1g、30号竖穴3,926.6gg

間木戸V - 3号竖穴3,863.5g

26号竖穴建物跡からは、前項まで上述してきた通りまとまった資料が出土している。土師器の他に須恵器4,258g、鉄製品4点、土製紡錘車2点が出土している。出土遺物は、床面までの残存状況(IV-2 竖穴建物跡参照)があまり良くなかったものの床面やカマド付近から多く出土した。北東壁際からは、土師器と須恵器の甕が出土し、土師器の甕内部からイソシジミ、ウニ、フジツボ等が出土している。鉄錐3点・刀子1点は、いずれも床面からの出土である。同時期と考えられる他の間木戸II遺跡内の竖穴建物跡と比較すると、調査区外にかかるものも含め鉄製品が出土した竖穴建物跡は無い。もとより、鉄錐は、竖穴建物跡からまとめて出土する例が少ない。ここに居住していた人々だけが武具としてもしくは古墳内の埋葬品として複数の鉄錐を所有し、優越的な立場におかれていたのではないかと考える。

同じく床面からは、ほぼ完形の土製紡錘車2点を確認している。土製紡錘車は26号竖穴建物跡と規模が近似する1辺5.6mの30号竖穴で1個出土しているのみである。

第158図は、26号竖穴から出土した資料を一括で提示したものである。出土遺物の検討に加え、埋土下位から出土した炭化材を放射性炭素年代測定に出し、その結果が665年(± 23)であったことから、26号竖穴建物跡は7世紀末～8世紀前半に帰属すると判断した。一辺6.5mの規模をもつ竖穴建物跡は、近接する沢田I遺跡で数棟検出されているが、このように資料がまとまって出土していない

ことと、該期の遺構から多種多様な資料が出土したため参考例になるものとして本項でまとめた。26号竪穴建物跡の事例は今後、周辺における古代遺跡の調査成果と共に検討されるものと期待される。

(佐藤あゆみ)

(4) 製鉄関連遺構群について

今回の間木戸V遺跡の発掘調査では、製鉄に関連する遺構として、製鉄炉5基を含む工房跡2棟、炭置き場跡2基、廃滓場1箇所が確認された。これらの遺構は鉄生産に関わる遺構として一連の遺構群として存在していたものである。以下、これらの遺構を概観する。

製鉄関連遺構群が確認された部分は、北東から南西に流れる沢（小川）を挟んで急斜面が対面しており、その沢の北西側に狭い緩斜面が確認できる。斜面の一部では基盤となる花崗岩の巨礫が露出しており、花崗岩が風化して細粒化したいわゆる「マサ土」がいたるところで確認できる。また、沢筋でも容易に原料となる砂鉄の採取が可能である。原料、燃料が容易に獲得でき、水利の便も良く、遺跡周辺では比較的日照条件も良好な南東向きの緩斜面地に遺構群は立地していると言える。

工房跡は2棟あり、古い工房跡は斜面下方に構築されている2号工房跡である。2基の製鉄炉で構成されるが、近接しており、同時に存在していたとは考えにくい。1基ずつ構築され、鉄生産が終了すると、壊され、位置を少し変えて新しい製鉄炉を構築するという行為を行っていたと考えられる。鉄生産の際に大量にできる鉄滓を斜面下方へ廃棄している。1つの工房が機能を果たさなくなると、その工房を利用しつつ、斜面上方に平坦な部分を構築し、新規の工房としている。これが、新しい工房の1号工房跡である。製鉄炉3基で構成される。3基は同時に存在しておらず、1基ずつ構築され、位置を北東へ少しづつ変えながら新しい炉を構築している。また、炉を構築する床面も少しづつ嵩上げをしており、古い炉がレベル的に低く、新しい炉が高くなる。

つまり工房跡と製鉄炉の新旧関係は、

(旧)

2号工房跡

1号工房跡

(新)

4号製鉄炉・5号製鉄炉→3号製鉄炉→2号製鉄炉→1号製鉄炉

となる。このようなことから、初期段階では、沢筋に近い斜面下方に製鉄炉を含む工房を構築するが、その工房が機能しなくなると、古い工房跡を利用しながら、斜面上方へと新しい工房を構築する特徴が見られる。また、炉についても、機能しなくなった古い炉の上に炉を新しく構築するため、新しい炉ほどレベル的に高くなる傾向が見られる。

製鉄炉の形態は5号製鉄炉を除き、楕円形基調である。残存状態はいずれも良好とは言えないが、最も新しい1号製鉄炉から判断すると、 $1.5 \times 1.0m$ 前後の掘り方を持ち、 $1.3 \times 0.8m$ 前後の規模と想定される。古い段階の炉を利用していることも考えられるが、炭化物を充填するような重厚な下部構造は確認できない。1号製鉄炉と2号製鉄炉に対応するように、炉の長軸線上に硬化した範囲が確認され、フイゴが設置された場所と想定される。

工房の他に、長椭円形基調の炭置き場跡を2基確認した。2基とも類似した形状をしており、4.5~5mの規模を呈する。底面や壁面に被熱による赤色変化した部分が認められないため、炭窯とはしなかった。県内では類似する遺構例がほとんどなく、類例の増加を期待したい。

これらの製鉄関連遺構群の年代観であるが、工房や製鉄炉から年代を決定しうる遺物がほとんど出土していないため、出土遺物から直接的に遺構の年代を決定することはできなかつたが、遺構群を構成する廃滓場と関連する包含層から出土した土器類の年代観から判断すると、本遺構群は8世紀代後半に帰属する可能性が高い。なお、1号工房跡のPit 1と2号工房跡の5号製鉄炉から採取した炭化物を選び、炭素年代測定（AMS測定法）を行つた。詳細な内容は「VI 分析・鑑定」を参照して頂きたいが、1号工房跡の試料は10~12世紀代後半、2号工房跡の試料は8世紀後半の可能性を含みつつ、9~10世紀代後半のものとの結果が出ている。8世紀代後半となると、本遺跡の製鉄関連遺構群は沿岸部における初期段階のもの可能性がある。

間木戸V遺跡が所在する山田町やその周辺でも古代の製鉄関連遺構が確認されている遺跡があるので、簡単に触れておきたい。主な遺跡を第21表に示した。当然のことと考えられるが、これらの遺跡は、鉄生産の原料となる砂鉄が採取できる花崗岩地帯上に立地している。山田町の大畠II遺跡や宮古市の島田II遺跡・松山館跡は尾根上の平坦地や斜面地に占地している遺跡もあれば、沢筋や谷間の水利の便が良好な緩斜面に占地している遺跡も見られる。遺跡の周囲には燃料の材料となる樹木もあったと考えられ、鉄生産に向いた場所にあると言えよう。ただ、炉体や羽口などに利用される粘土をどこで採取しているかの問題がある。県内の遺跡の中で、粘土採掘坑のように遺構として確認できる例ではなく、採取場所、採取方法など今後の課題である。

表で示した遺跡の大半は平安時代の遺跡で、奈良時代もしくは奈良時代の可能性が高い遺跡は沢田II遺跡や上村遺跡など限られており、沿岸部における初期の製鉄がどのようなものであるか、資料数も少なく、現状では明らかになったとは言えないが、間木戸V遺跡の資料は、これらの様相を解明する上で一助となる貴重な資料と言えよう。

(北村 忠明)

第22表 古代の製鉄関連遺構検出遺跡一覧表

| 遺跡名 | 所在地 | 鉄生産関連検出遺構 | 参考文献 |
|----------|--------------|-----------------------|------|
| 沢田I遺跡 | 下閉伊郡山田町山田 | 鍛冶遺構 | * 1 |
| 沢田II遺跡 | 下閉伊郡山田町山田 | 製鉄炉、鍛冶炉、廃滓場 | * 2 |
| 沢田III遺跡 | 下閉伊郡山田町山田 | 鉄生産に関連する炉跡、炭窯跡 | * 3 |
| 大畠I遺跡 | 下閉伊郡山田町飯岡 | 工房跡、鍛冶炉、炭窯 | * 4 |
| 後山I遺跡 | 下閉伊郡山田町織笠 | 製鉄工房跡、製鉄炉、鍛冶炉、炭窯跡 | * 5 |
| 上村遺跡 | 下閉伊郡山田町織笠 | 鍛冶場跡、製鉄炉、炭窯跡、堅穴状遺構、土坑 | * 6 |
| 湊台III遺跡 | 下閉伊郡山田町織笠 | 鉄生産関連炉、堅穴状遺構 | * 7 |
| 山ノ内II遺跡 | 下閉伊郡山田町船越 | 製鉄炉、鍛冶炉、炭窯跡、廃滓場、堅穴状遺構 | * 8 |
| 山ノ内III遺跡 | 下閉伊郡山田町船越 | 製鉄炉、炭窯跡、炭置き場 | * 9 |
| 田の館跡 | 下閉伊郡山田町船越 | 製鉄炉、廃滓場、炭窯跡 | * 3 |
| 焼山遺跡 | 下閉伊郡山田町船越 | 製鉄炉、鍛冶工房跡、炭窯跡、堅穴住居跡 | * 3 |
| 弘川III遺跡 | 宮古市津魁石 | 鍛冶工房跡 | * 3 |
| 松山館跡 | 宮古市松山 | 鍛冶工房跡、鍛冶炉 | * 10 |
| 島田II遺跡 | 宮古市八木沢 | 工房跡、製鉄炉、鍛冶炉、炭窯 | * 11 |
| 青旗I遺跡 | 宮古市千德 | 堅穴遺構、製鉄炉、廃滓場 | * 12 |
| 夏本遺跡 | 上閉伊郡大槌町第24地割 | 工房跡、鍛冶炉 | * 13 |

* 1 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 「沢田I遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集

* 2 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 「沢田II遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第268集

- * 3 (公財) 岩手県文化振興事業団 2014 『平成25年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第630集
- * 4 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『大畠Ⅰ遺跡・大畠Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第218集
- * 5 山田町教育委員会 2002 『相浦Ⅵ・後山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』山田町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第9集
- * 6 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1994 『上村遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第202集
- * 7 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993 『湊谷Ⅱ遺跡・湊谷Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第186集
- * 8 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『山ノ内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第249集
- * 9 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997 『山ノ内Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第250集
- * 10 岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター / (公財) 岩手県文化振興事業団 2014 『松山船跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第625集
- * 11 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 『島田Ⅱ遺跡第2~4次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第450集
- * 12 宮古市教育委員会 1988 『青猿Ⅰ遺跡・下在家Ⅱ遺跡・千德城遺跡群(総合館) -昭和62年度発掘調査報告書-』宮古市埋蔵文化財調査報告書14
- * 13 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1989 『夏本遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第134集

3 近隣遺跡の中における間木戸Ⅱ・V遺跡

間木戸Ⅱ・V両遺跡の近隣には、同様の縄文遺跡や古代遺跡、製鉄関連遺跡が所在する。特に、間木戸遺跡の南西には沢田遺跡・房の沢遺跡が続きこれにあてはまる。これまでの調査によりこれらの遺跡では、縄文時代前期前葉から中期後葉の集落、弥生時代の集落、奈良、平安時代の集落、奈良時代の製鉄関連遺構、7・8世紀の古墳群の存在が明らかになっている。

間木戸Ⅱ・V遺跡も縄文時代中期前葉～中葉を中心とした集落、7世紀末～8世紀代の集落・8世紀代の製鉄関連遺跡であることが今回の調査で判明した。縄文時代の時期差によって居住域の変遷は認められないが、縄文時代の集落と古代の集落・製鉄関連遺構では、その占地に違いがある。(第159図)

縄文時代は、出土した土器から早期中葉の集落が付近にあったものと考慮されるが、遺跡内における集落の存在は、早くとも前期以降であると考える。一定量の土器が確認されているのは大木6式～8b式であるため、遺跡内に集落が形成されていた時期は縄文時代前期後葉～中期中葉と考える。遺跡の主体となる時期は、帰属時期の明確な堅穴建物跡が中期中葉のものが多いため、中期前葉から中葉にかけて集落の全盛期を経て大木9式への移行期である4号堅穴建物跡の廃絶で集落の終焉を迎えたものと推察される。居住域は、調査区南側で堅穴建物跡の重複が途切れることがなかった為、西を流れる間木戸川に沿って標高が低くなる南側へまだ続く可能性が高い。間木戸V遺跡に関しては、間木戸Ⅱ遺跡と同様の縄文時代中期中葉の堅穴建物跡が検出されていることから、同時期に共存した集落の居住域を地形から検討すると、沢沿いに山奥の北東へ展開している可能性がある。

古代は、7世紀末以降、平坦部のある間木戸Ⅱ遺跡に再び集落が形成され北側にカマドをもつ堅穴建物跡が建てられた。8世紀になり、間木戸V遺跡の南向き斜面地では工房が設けられ、製鉄が営まれたと考える。これらの存続時期は、7世紀末から8世紀代と推察される。古代の居住域は、間木戸Ⅱ遺跡調査区東際にかかる堅穴が多いため、山裾に向かって標高が高くなる北東側へ拡がりそうである。間木戸V遺跡の鉄生産遺構は、地表面で見られる鉄滓の存在からも、山奥の北東側でまだ検出されるであろう。今回の調査で確認された沿岸部初期に営まれた鉄作りの集落(※1)と、7世紀末から8世紀代に該当するまとまった出土資料は、古代の近隣遺跡の中で中心的である房の沢遺跡から検出された古墳の被葬者や古墳造立に関わった集落について手蔓となる可能性がある。これまで房の沢

古墳築造に関する詳細が不明であった中、沢田Ⅰ遺跡（※2）に関する見解もあったが、間木戸Ⅱ・V遺跡も加えて検討されることが期待される。

以上、両遺跡で縄文と古代の人々がどのように生活をしていたのか若干の考察を行ってきたが「局部的な発掘成果をもとに、集落の規模や形態、集落構造や住居内の住み分けなどを論じてみても、それはあまり意味をなさない」（後藤1982）ことを念頭において、近隣の遺跡についても触れておきたい。間木戸川を挟んだ対岸には間木戸Ⅰ遺跡が拡がり、その南西には沢田Ⅲ遺跡が所在する。両遺跡は今回の三陸沿岸道路建設事業関連調査が行われており、今後報告書が刊行されるものである。筆者は、両遺跡の調査に関わり、両遺跡に縄文と古代の集落が途切れることなく存在しているのを目撃したりした。そして、その検出遺構数・出土遺物量は膨大なものであった。それらは、間木戸Ⅱ・V遺跡と同時期のものが多く含まれている（※3）。縄々と構築された堅穴建物跡や貯蔵穴群等の存在は、同時に一定の期間人々が共存していた痕跡である。東北地方における縄文時代の集落規模が中期に最大となる（鈴木2009）様相が、間木戸遺跡周辺でもあてはまるすれば、この地域に住んだ当時の人々の人物像や生活環境を様々な視点から見いだすことができると思われる。

周辺では、前期から中期後葉にかけて発展した大規模な集落が中期末葉で姿を消し、その後弥生時代になるまで集落は確認されていない。本書は、ある一定の期間に、この地に集落を形成した人々の存在を顯示したにすぎない。そのため、これから周辺の遺跡の様相が解明された際、再び比較と検討が必要な遺跡であると考える。

※1 沢田Ⅱ遺跡で検出された鍛冶工房や製鉄炉について、共伴遺物や熱残留磁気による年代測定等から8世紀代と推察している。

※2 2000『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』内で、沢田Ⅰ遺跡が「古墳群を築いた集団と何らかの関連のある集落の一つだった」としている。

※3 間木戸Ⅰ遺跡、沢田Ⅲ遺跡の調査成果については報告書発刊前のため、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターホームページ上の情報と現地説明会資料等にある内容に留めている。

（佐藤あゆみ）

参考文献

- 井上雅孝2002「銅杖鉄製品の研究-北東北における古代祭祀具の一形態-」『岩手考古学第14号』
- （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 1995『大畠Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第218集
- 1997『沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第268集
- 1998『房の沢Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第287集
- 2000『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集
- 2010『金浜Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第553集
- 岩手考古学会2014『北三陸の蝦夷・蝦夷刀』岩手考古学会第46回研究大会
- 後藤和民1982『縄文文化の研究第8巻』『縄文集落の概念』
- 小林達雄編2008『絶覧縄文土器』
- 鈴木克彦2009『集落の変遷と地域性』『東北地方の縄文集落の社会組織と村落』
- 辻 秀人編 2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15年度～平成18年度科学的研究費補助金（基礎研究B）研究成果報告書 東北大学院大学文学部
- 木野敏典2003『古墳時代中期における鉄錆の分類と編年』『櫛原考古学研修所論集第14』
- 木野敏典2009『古墳時代鉄錆の変遷にみる儀仗的武装の基礎的研究』
- 八木光則2010『古代蝦夷社会の成立』



第 159 図 遺構の分布範囲

写 真 図 版



遺跡遠景 北から山田湾を俯瞰する



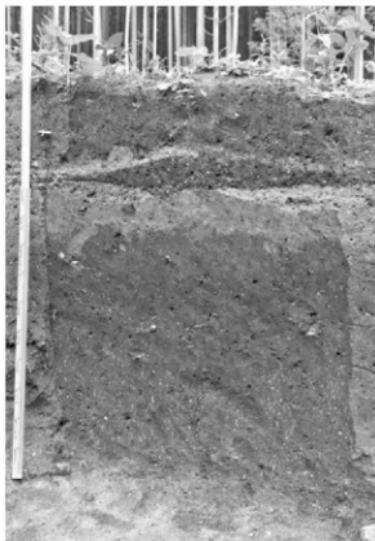
遺跡遠景南から



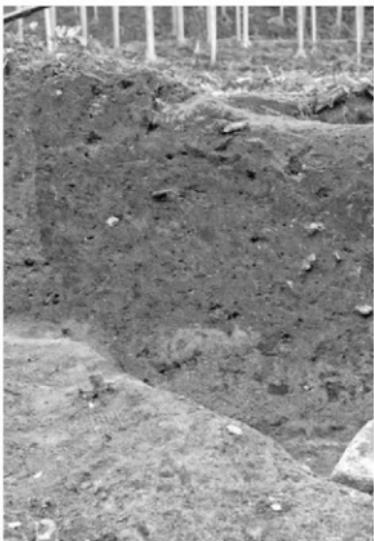
調査区直上が間木戸Ⅱ遺跡下が間木戸V遺跡



調査前の状況 北から



基本層序 A (調査区中央)



基本層序 B (調査区南側)

写真図版2 調査区全景・基本層序



全景南西→



断面西→



断面西→

写真図版 3 1号竪穴建物跡、28号竪穴建物跡



全景南西→



断面南→



炉 全景東→



出土状況東→

写真図版4 2号竪穴建物跡



全景南西→



断面南→



断面西→

写真図版5 3号竪穴建物跡（1）



炉 1 棱出東→



炉 2 断面南→



炉 1 断面南→



炉 2 全景南→



炉 1 全景南→



pit1 断面南東→



埋土中土器出土状況→



精査風景南西→

写真図版 6 3号竪穴建物跡（2）



全景南西→



C 断面南東→



A 断面南→



B 断面南東→

写真図版 7 4号竪穴建物跡（1）



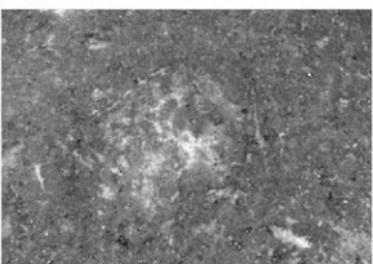
炉全景南東→



圓溝全景南東→



炉燃焼部断面南東→



燒土 1 棟出東→



前庭部断面南東→



土器出土状況北→

写真図版 8 4号竪穴建物跡（2）



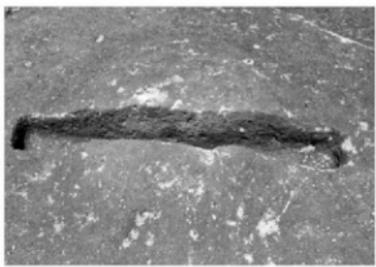
全景・遺物出土状況南東→



断面北→



複式炉断面南→



炉 1 断面南東→



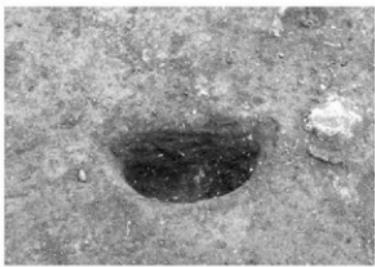
全景南西→



断面南西→



断面南東→



pit2 断面南→

写真図版 10 6号竪穴建物跡



全景南西→



A断面南東→



B断面北→



炉全景東→

写真図版 11 7号竪穴建物跡



全景北東→



断面南→



炉全景西→



周溝南→

写真図版 12 8号竪穴建物跡



全景南→



断面東→



炉断面東→



pit2断面東→

写真図版 13 9号竪穴建物跡



全景南→



断面南東→



炉全景・断面東→



作業風景南東→

写真図版 14 10号竪穴建物跡



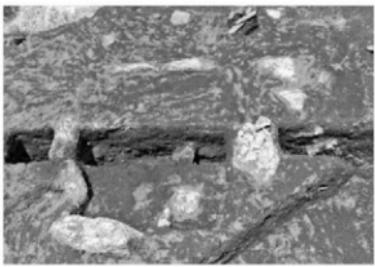
全景東→



断面南→



炉 1 全景・断面南東→



炉 2 全景・断面南東→



全景東→



断面東→



炉全景・断面南東→



Pit1 断面南→

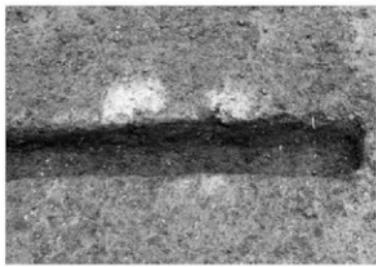
写真図版 16 12号竪穴建物跡



全景南→



断面西→

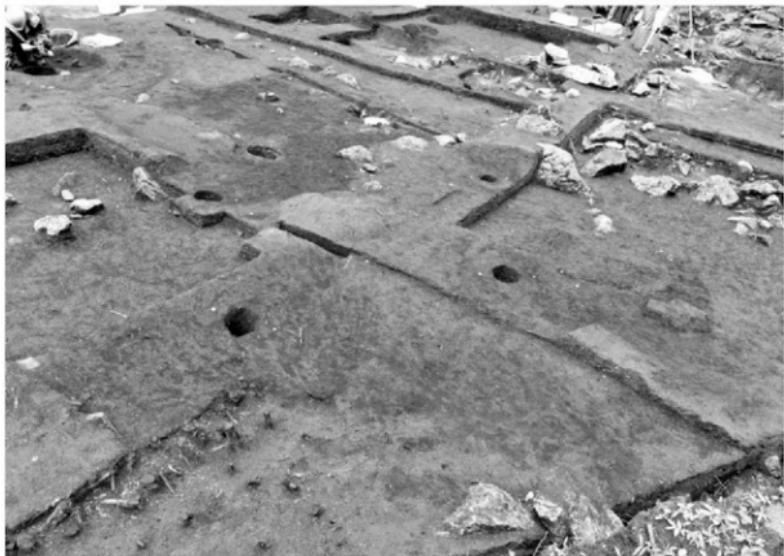


炉全景・断面南→



包含層掘下け途中北西→

写真図版 17 13号竪穴建物跡



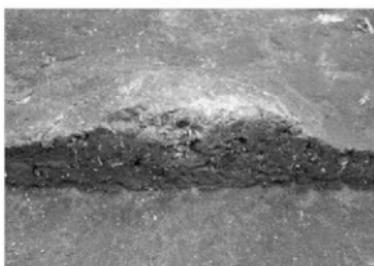
全景南東→



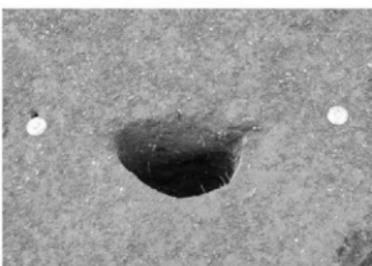
炉 1 全景・断面南東→



炉 2 全景・断面東→



焼土断面西→



pit3 断面南東→

写真図版 18 14 号竪穴建物跡



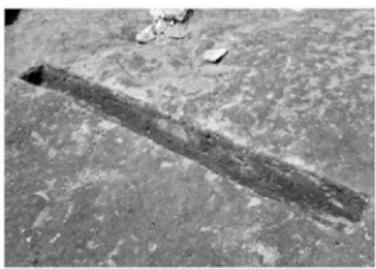
全景東→



断面南東→



南壁 S 断面南→



炉断面南東→

写真図版 19 15 号竪穴建物跡



全景南東→



A 断面南→



B 断面西→



炉断面平面南→

写真図版 20 16号竪穴建物跡



全景北東→



断面南→



炉全景南→

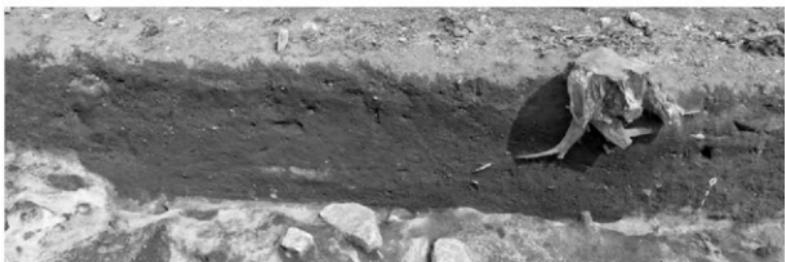


炉断面南→

写真図版 21 17号竪穴建物跡



全景北西→



C断面西→



A断面南→

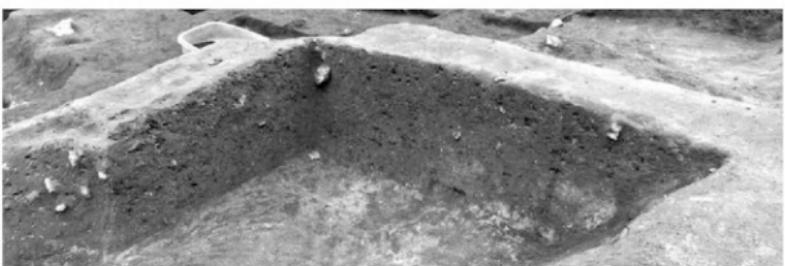


出土状況南→

写真図版 22 18号竪穴建物跡



全景北東→



断面南東→

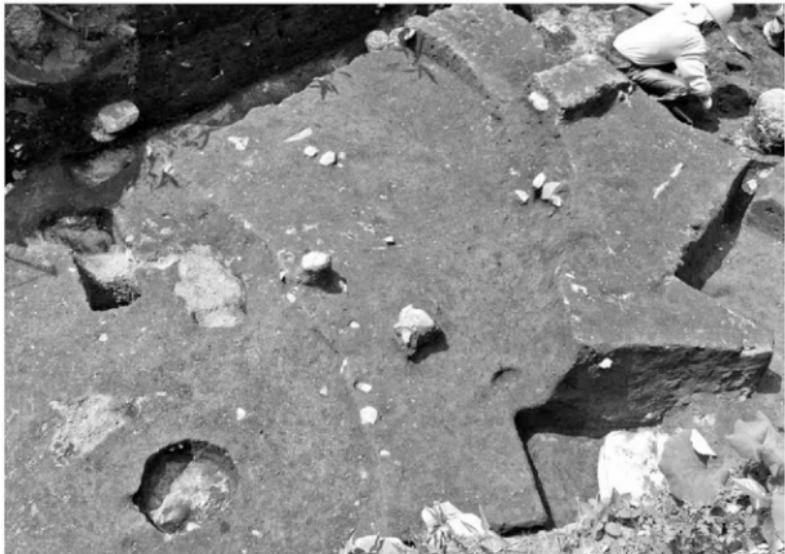


表土掘削作業南東→



作業風景

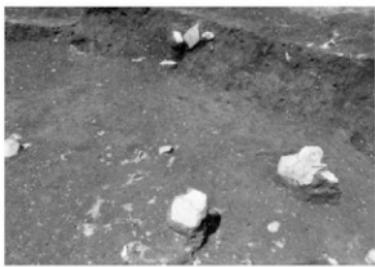
写真図版 23 19号竪穴建物跡



全景南東→



断面西→



出土状況南→



調査区南側重複する遺構南→

写真図版 24 20号竪穴建物跡



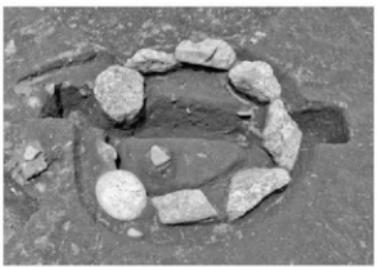
全景東→



断面西→



炉面北西→

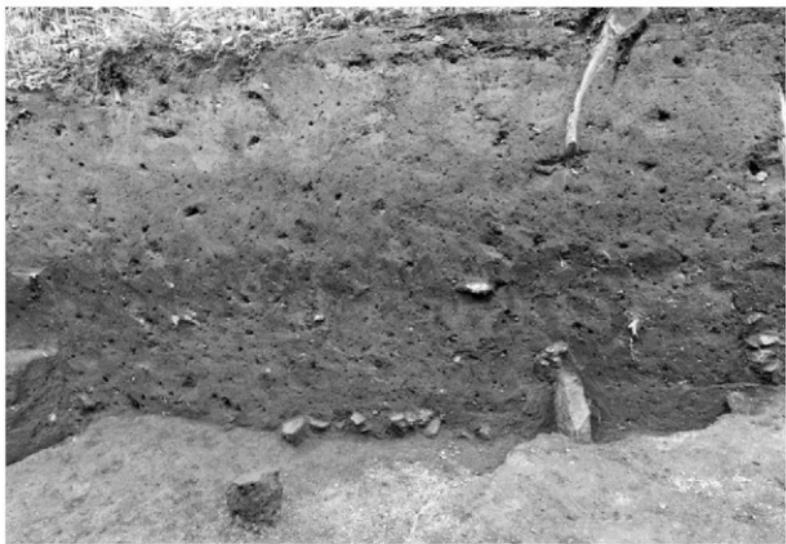


炉掘りかた南東→

写真図版 25 21号竪穴建物跡



全景南西→

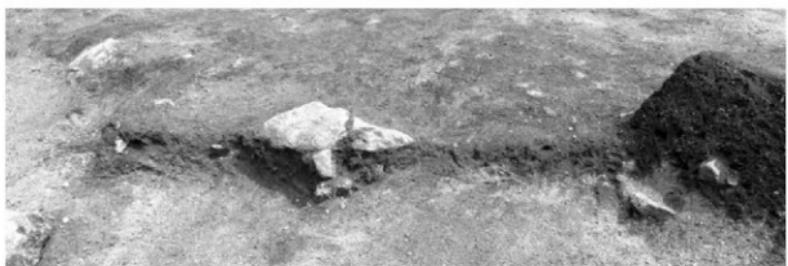


断面東→

写真図版 26 22号竪穴建物跡



全景南東→



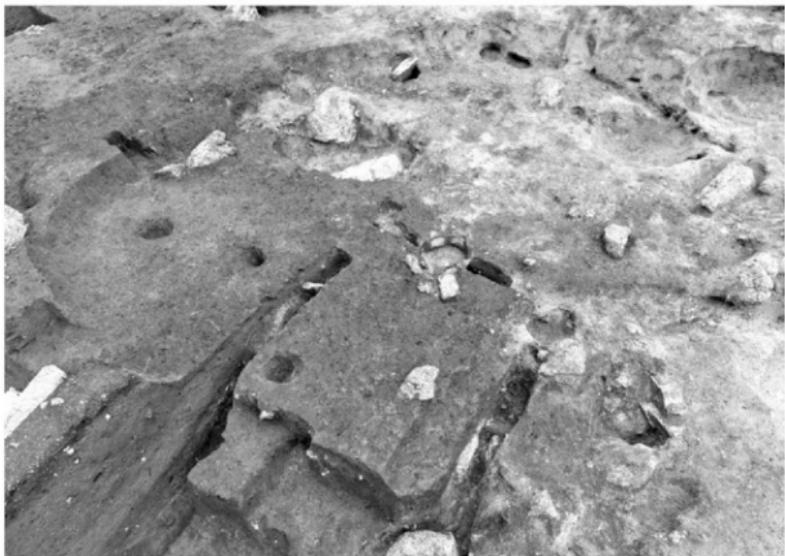
断面南→



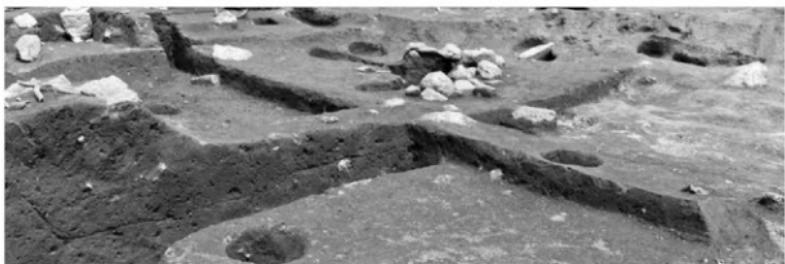
pit1・2 断面南→



電子平板を使った実測作業



全景南西→



断面南西→



炉使用時東→

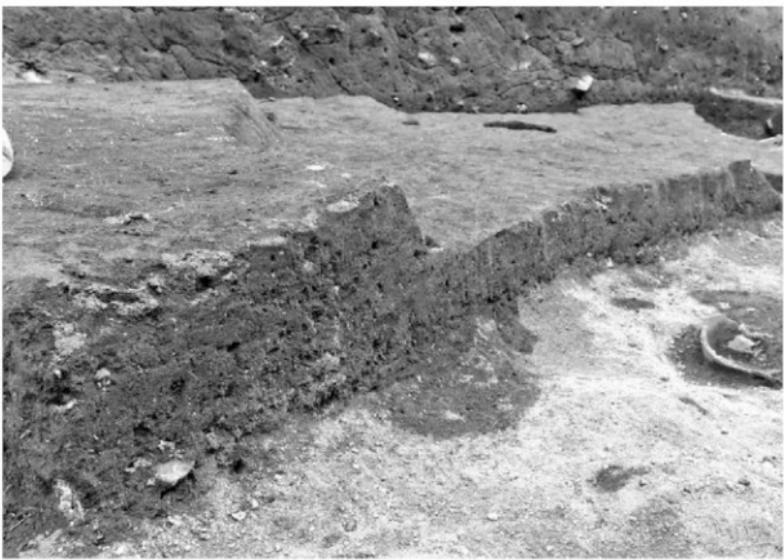


炉土器埋設部東→

写真図版 28 24号竪穴建物跡

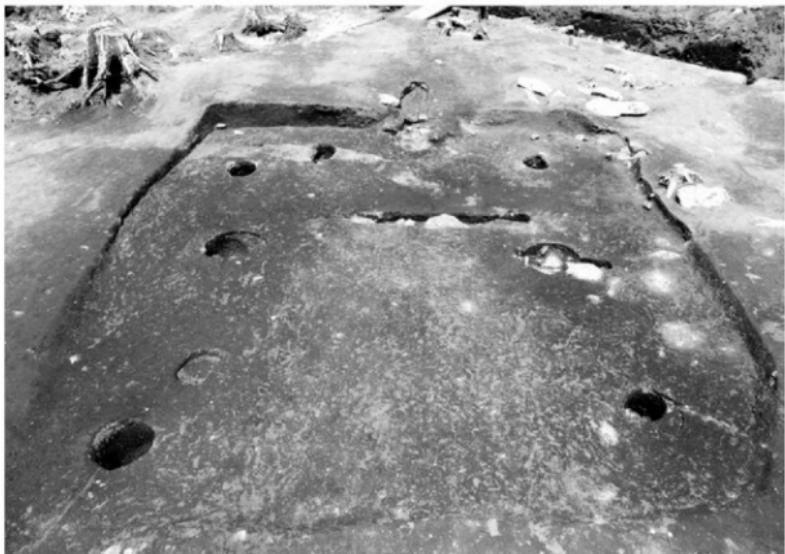


全景南→



断面北西→

写真図版 29 25号竪穴建物跡



全景南→



断面南西→



北東角出土状況南→

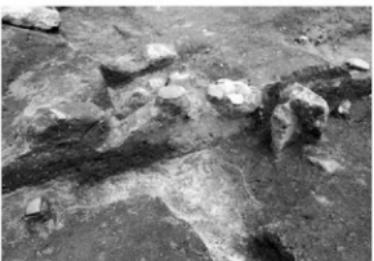


pit1 断面南→

写真図版 30 26号竪穴建物跡（1）



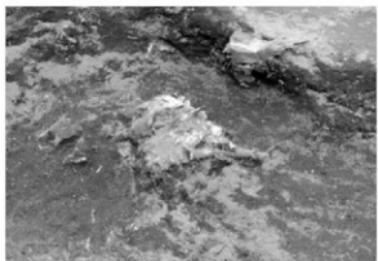
カマド全景南→



カマド抽断面南→



煙道断面北西→



貝殻出土状況西→



鏡鏡車 G008 出土状況南→



鉄劍 G032 出土状況南東→



土器出土状況精査風景南→



全景南→



断面西→



断面南→



カマド断面・袖芯材出土状況西→

写真図版 32 27号竪穴建物跡



全景南→



断面西→



カマド断面南→

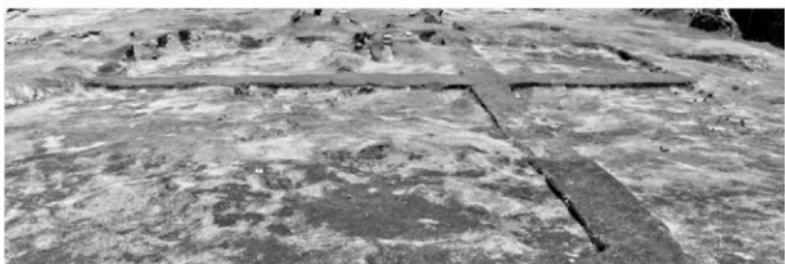


遺物出土状況西→

写真図版 33 29号竪穴建物跡



全景南→



断面南→

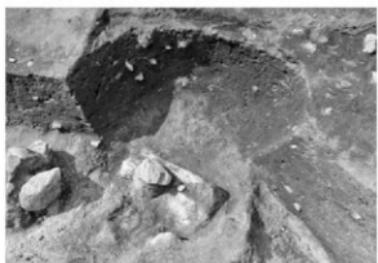


カマド全景南→



カマド断面東→

写真図版 34 30号竪穴建物跡



SK01 全景南→



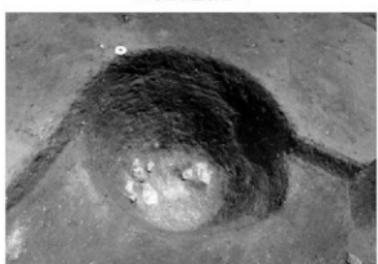
SK01 断面南→



2号土坑全景北→



2号土坑断面南→



3号土坑全景南西→



3号土坑断面西→



4号土坑全景南→



4号土坑断面西→



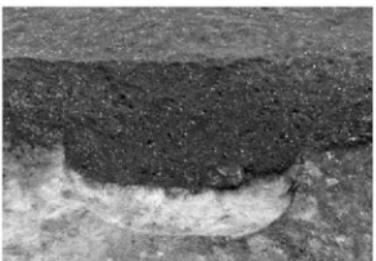
5号土坑全景東→



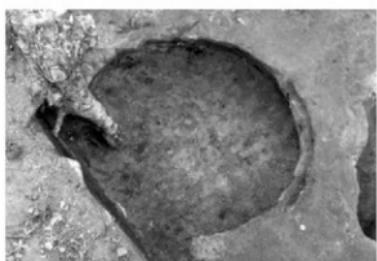
5号土坑断面南東→



6号土坑全景西→



6号土坑断面西→



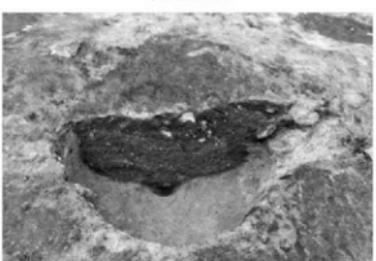
7号土坑全景東→



7号土坑断面西→

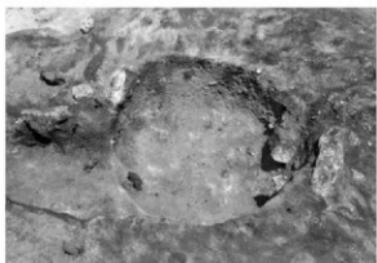


8号土坑全景東→



8号土坑断面南→

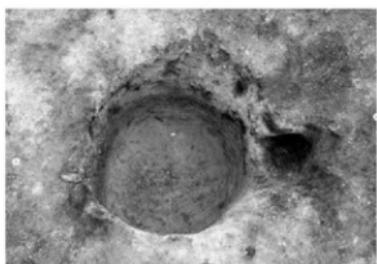
写真図版 36 5号～8号土坑



9号土坑全景南→



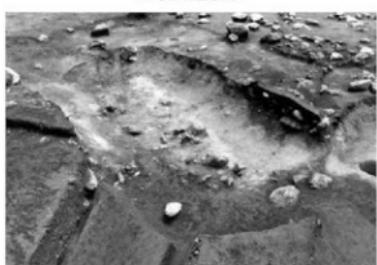
9号土坑断面南→



10号土坑全景南→



10号土坑断面南→



11号土坑全景西南→



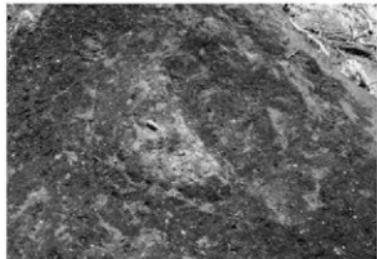
11号土坑断面西→



12号土坑全景西→



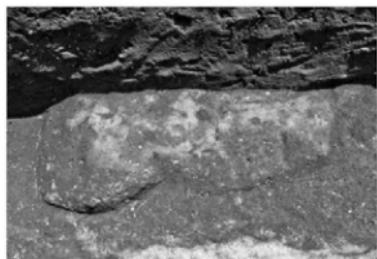
12号土坑断面西→



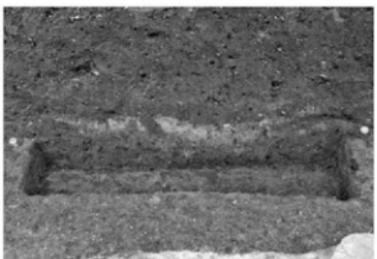
1号焼土遺構全景北→



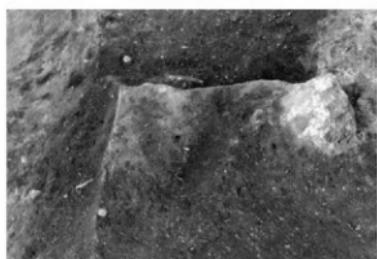
1号焼土遺構断面西→



2号焼土遺構全景西→



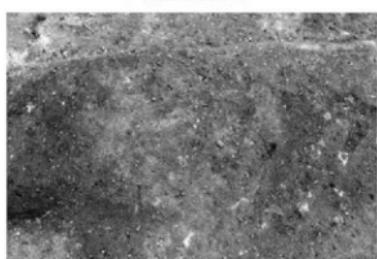
2号焼土遺構断面西→



3号焼土遺構全景南→



3号焼土遺構断面西→



4号焼土遺構全景北→



4号焼土遺構断面北→

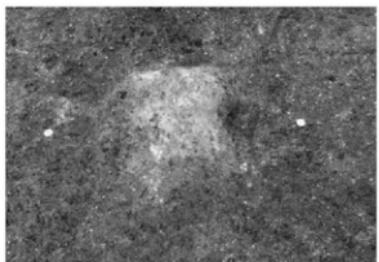
写真図版 38 1号～4号焼土遺構



5号焼土遺構全景西→



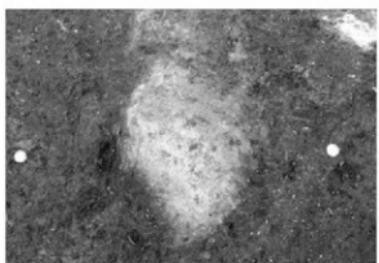
5号焼土遺構断面西→



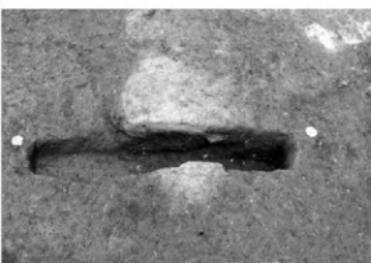
6号焼土遺構全景南→



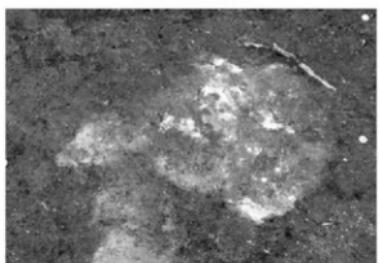
6号焼土遺構断面南→



7号a焼土遺構全景南→



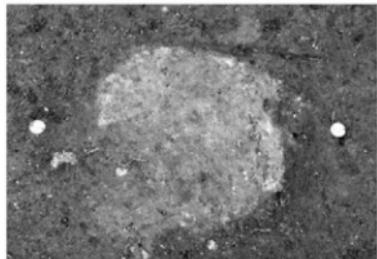
7号a焼土遺構断面南→



7号b焼土遺構全景南→



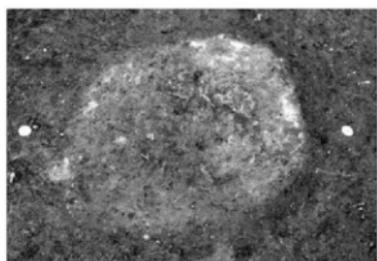
7号b焼土遺構断面南→



7号 c 焼土遺構全景南→



7号 c 焼土遺構断面南→



7号 d 焼土遺構全景南→



7号 d 焼土遺構断面南→



8号 焼土遺構全景南→



8号 焼土遺構断面西→



9号 焼土遺構全景東→

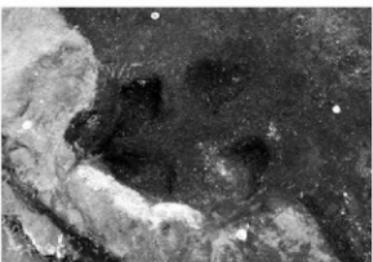


9号 焼土遺構断面北→

写真図版 40 7号 c ~ 9号 焼土遺構



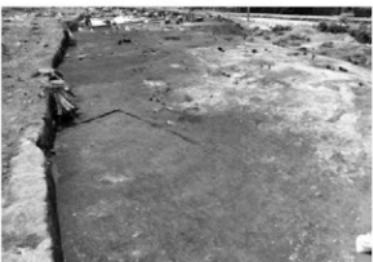
10号焼土遺構断面東→



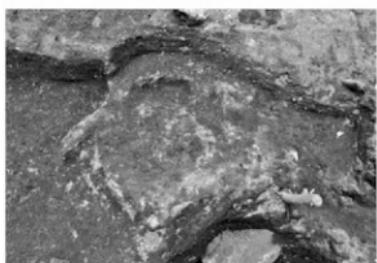
10号焼土遺構(炉跡)振りかた南→



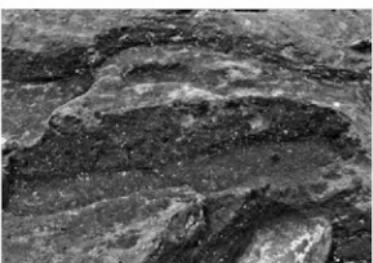
11号焼土遺構全景南西→



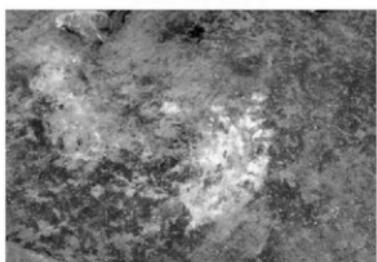
グリッドⅡ B15以北Ⅲ層検出面北→



11号a焼土遺構全景南西→



11号a焼土遺構断面南西→

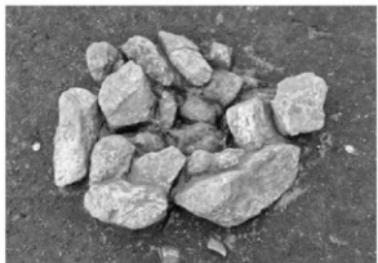


11号b焼土遺構全景南西→



11号b焼土遺構断面南→

写真図版 41 10号・11号焼土遺構



1号集石遺構全景南→



1号集石遺構横断面南→



沢跡全景南→



調査区西侧遺物包含層（沢跡）断面南西→

写真図版 42 1号集石遺構、沢跡



写真図版 43 調査区全景・基本層序



全景南→



断面西→



炉全景南→

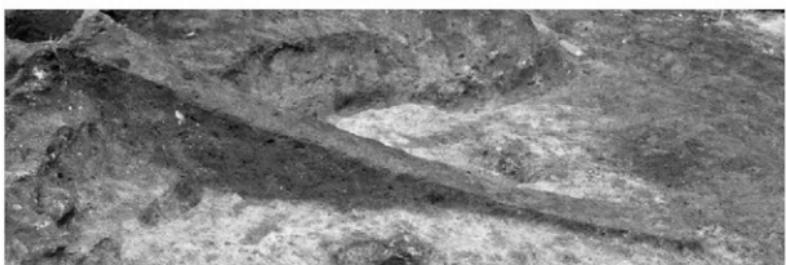


炉断面西→

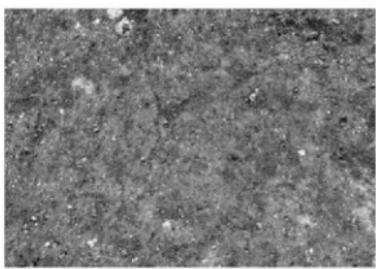
写真図版 44 1号竪穴建物跡



2号竪穴建物跡全景南→



2号竪穴建物跡断面西→



1号焼土遺構全景南→



1号焼土遺構断面西→

写真図版 45 2号竪穴建物跡、1号焼土遺構



3号竖穴建物跡全景北→



3号竖穴建物跡断面南→



3号竖穴建物跡断面西→

写真図版 46 3号竖穴建物跡 (1)



3号竪穴住居跡カマド棟出南→



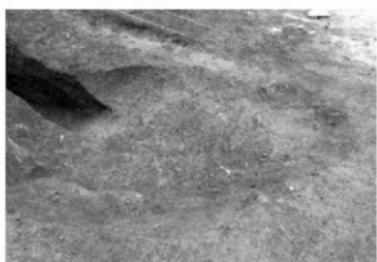
3号竪穴住居跡カマド断面 A西→



3号竪穴住居跡カマド断面 B西→



3号竪穴住居跡磚出土状況南西→



1号土坑全景北西→



1号土坑断面南→



2号土坑全景南→



2号土坑断面西→

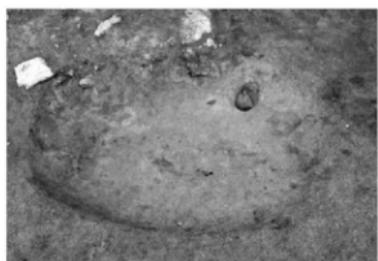
写真図版 47 3号竪穴建物跡（2）、1号・2号土坑



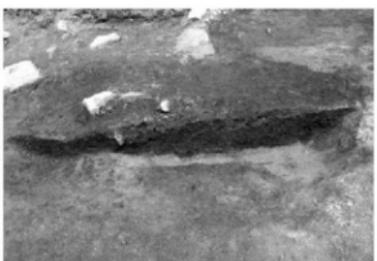
3号土坑全景南→



3号土坑断面西→



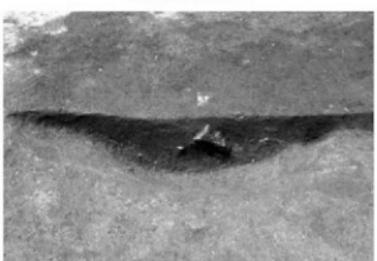
4号土坑全景南東→



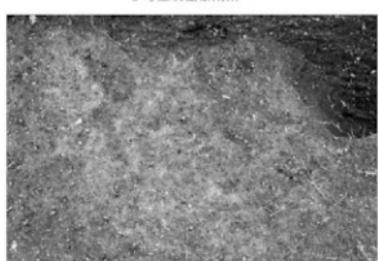
4号土坑断面南東→



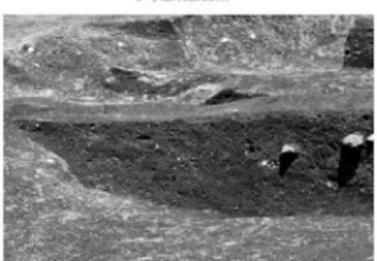
5号土坑全景南東→



5号土坑断面東→



2号焼土遺構全景南→



2号焼土遺構断面南→

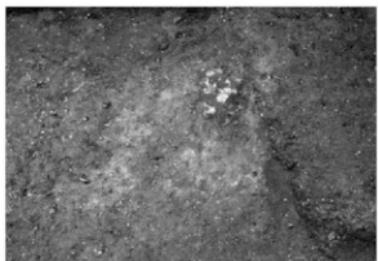
写真図版 48 3号～5号土坑、2号焼土遺構



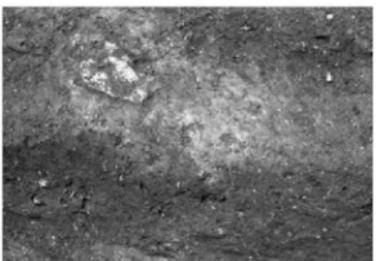
3号焼土遺構全景南→



3号焼土遺構断面西→



4号焼土遺構全景南→



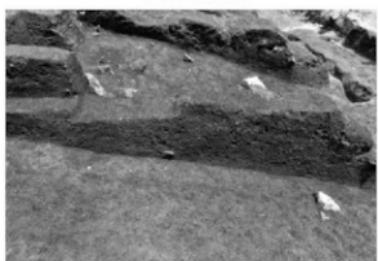
4号焼土遺構断面西→



1号埋設土器全景西→



1号埋設土器断面西→



1号廐津場断面A西→

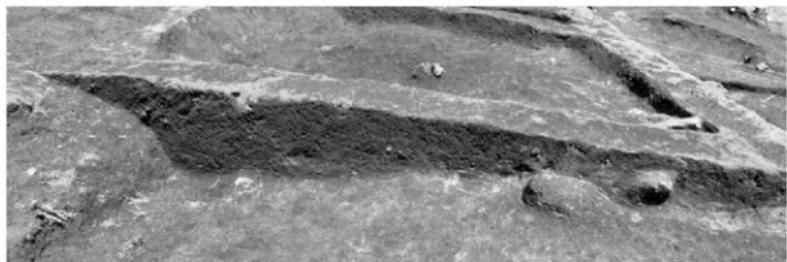


包含層断面B西→

写真図版 49 3号・4号焼土遺構、1号埋設土器、1号廐津場、包含層



1号工房跡全景南→



1号工房跡断面西→



1号製鉄炉全景北→



1号製鉄炉掘り方全景北→

写真図版 50 1号工房跡 (1)



1号製鉄炉断面北→



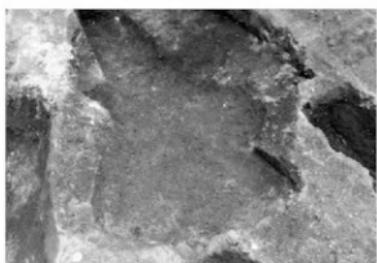
2号製鉄炉全景北西→



2号製鉄炉断面西→



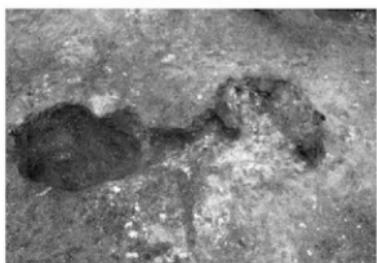
3号製鉄炉全景北→



3号製鉄炉掘り方全景北→



3号製鉄炉断面西→

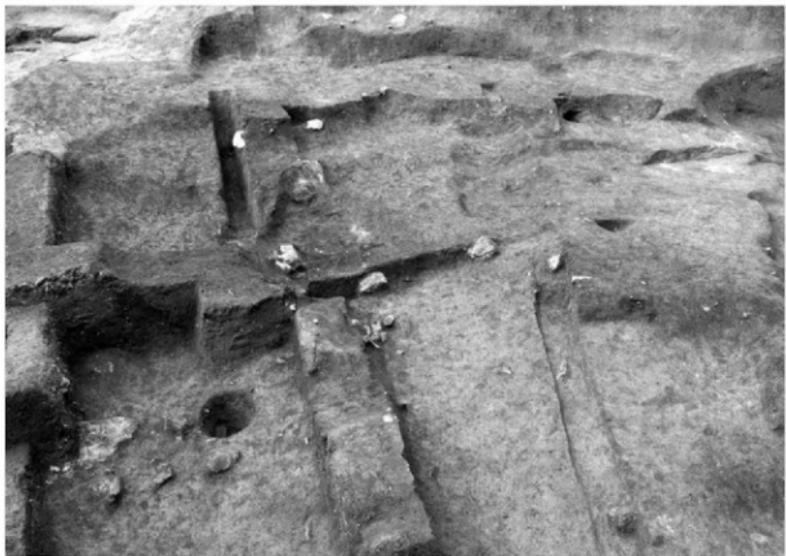


1号工房跡 Pit1 全景西→



1号工房跡 Pit1 断面西→

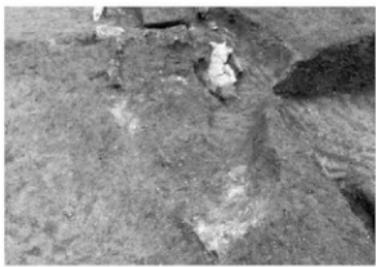
写真図版 51 1号工房跡（2）



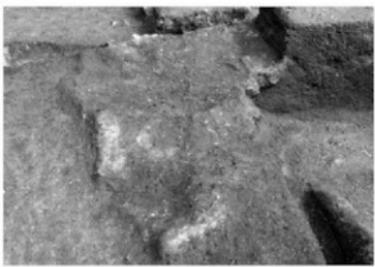
2号工房跡全景南→



2号工房跡断面東→

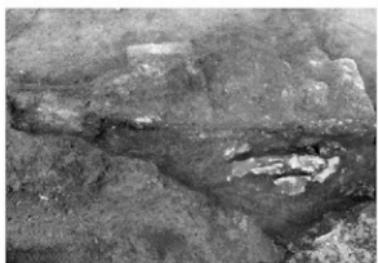


4号製鉄炉全景北→



4号製鉄炉棟出北→

写真図版 52 2号工房跡 (1)



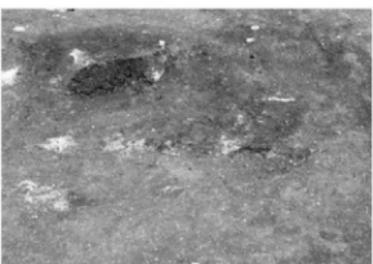
4号製鉄炉断面西→



5号製鉄炉全景北→



5号製鉄炉棟出北→



5号製鉄炉断面西→



1号炭置き場跡全景南→



1号炭置き場跡断面 SNベルト南部東→



1号炭置き場跡断面 SNベルト中央東→



1号炭置き場跡断面 SNベルト北部東→

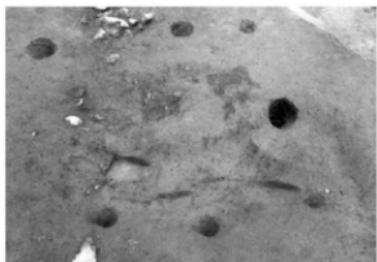
写真図版 53 2号工房跡（2）、1号炭置き場跡



2号炭置き場跡全景南→



2号炭置き場跡断面南→



1号不明遺構全景西→



1号不明遺構出土状況西→



1号不明遺構断面 (W→)



現地説明会風景



精査風景



調査前南西→

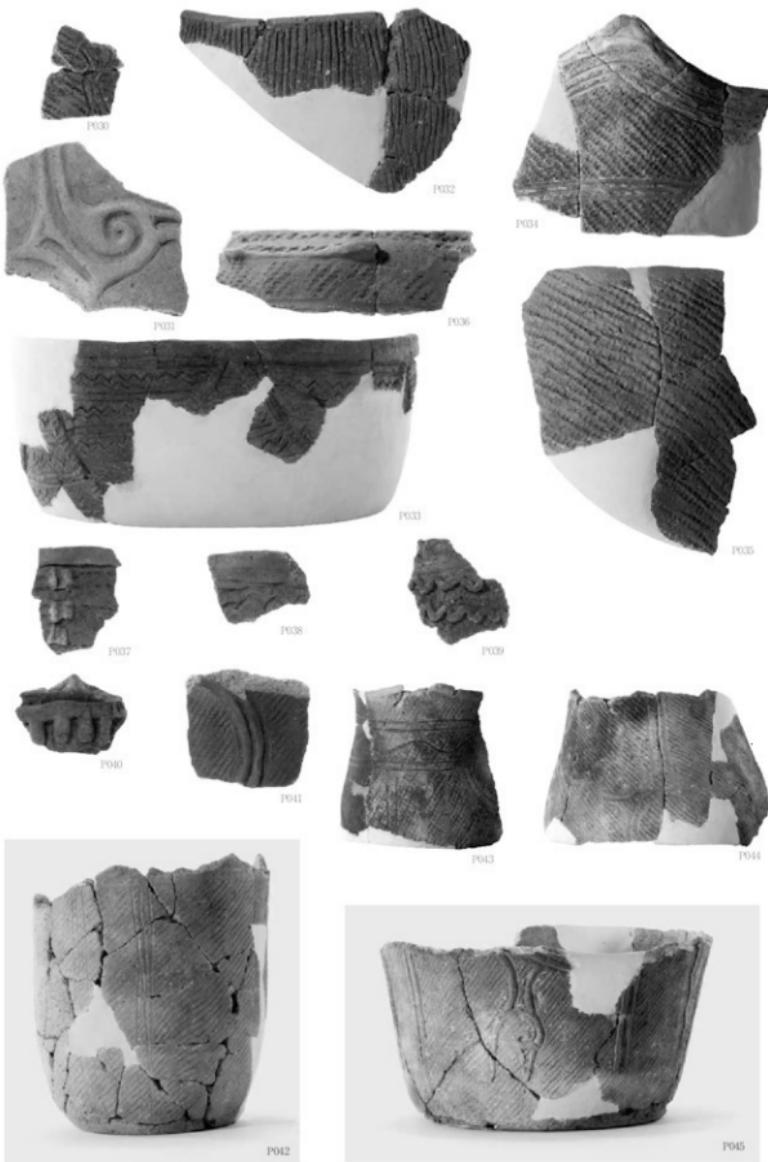
写真図版 54 2号炭置き場跡、1号不明遺構



写真図版 55 繩文～弥生土器（1）



写真図版 56 繩文～弥生土器（2）



写真図版 57 繩文～弥生土器（3）



P046



P047



P048



P049



P052



P051

写真図版 58 繩文～弥生土器（4）



P050

写真図版 59 繩文～弥生土器（5）

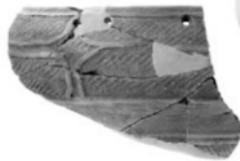


P056



P053

P056



P054

P057



P062



P055

P058



P059



P063



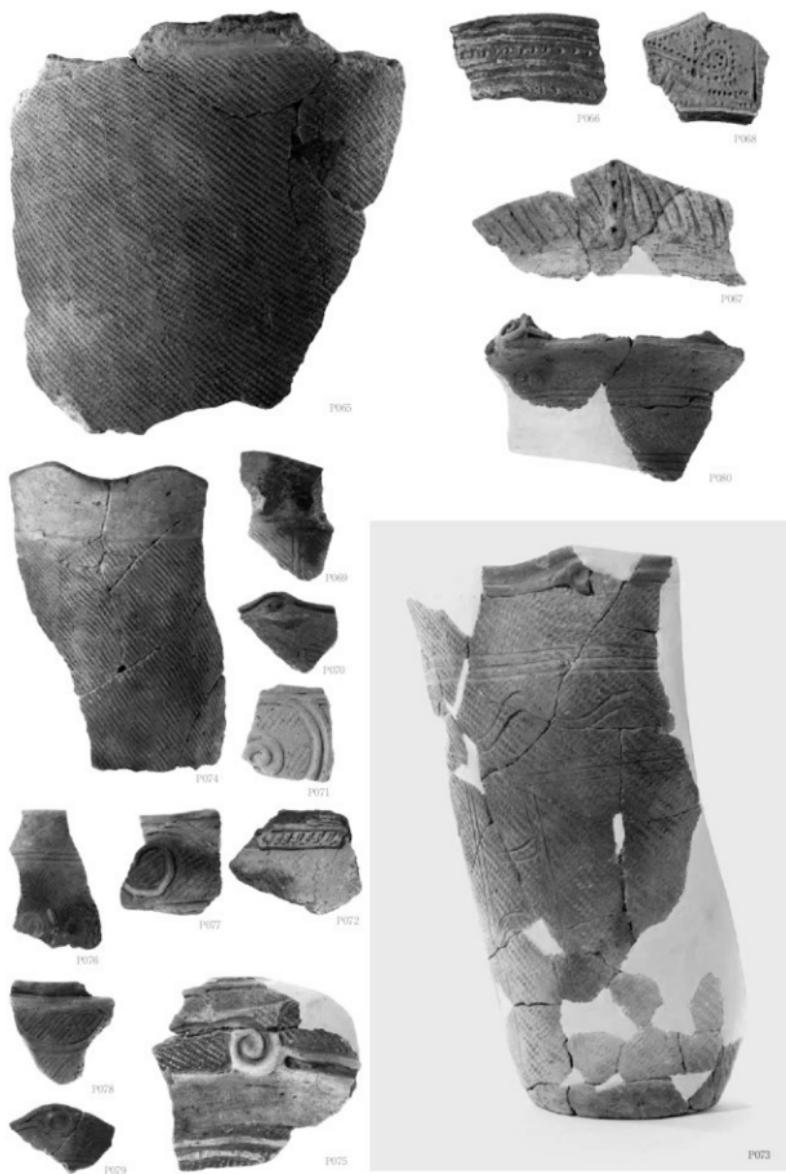
P060



P064

P061

写真図版 60 繩文～弥生土器（6）



写真図版 61 繩文～弥生土器（7）



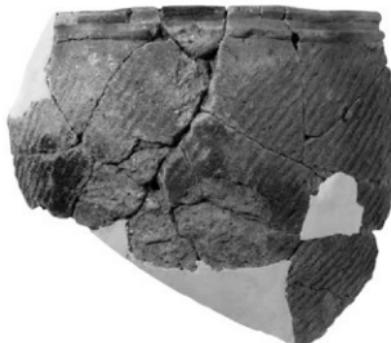
写真図版 62 繩文～弥生土器（8）



写真図版 63 繩文～弥生土器（9）



P096



P101

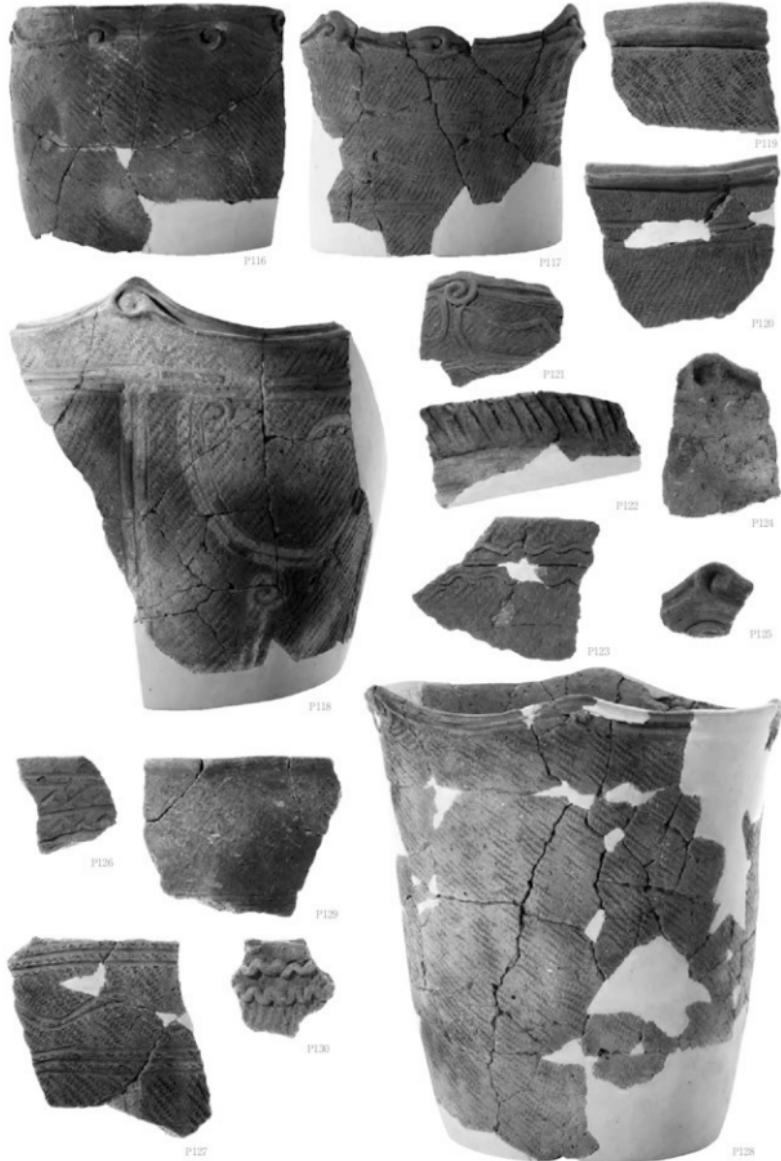


P109

写真図版 64 繩文～弥生土器 (10)



写真図版 65 繩文～弥生土器 (11)



写真図版 66 繩文～弥生土器 (12)



P131



P133



P132



P134

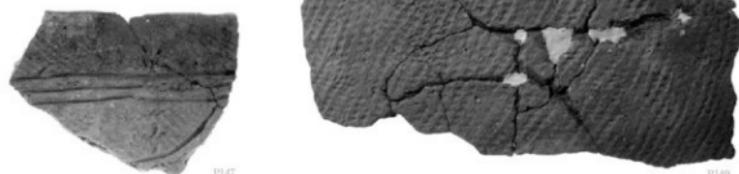


P135

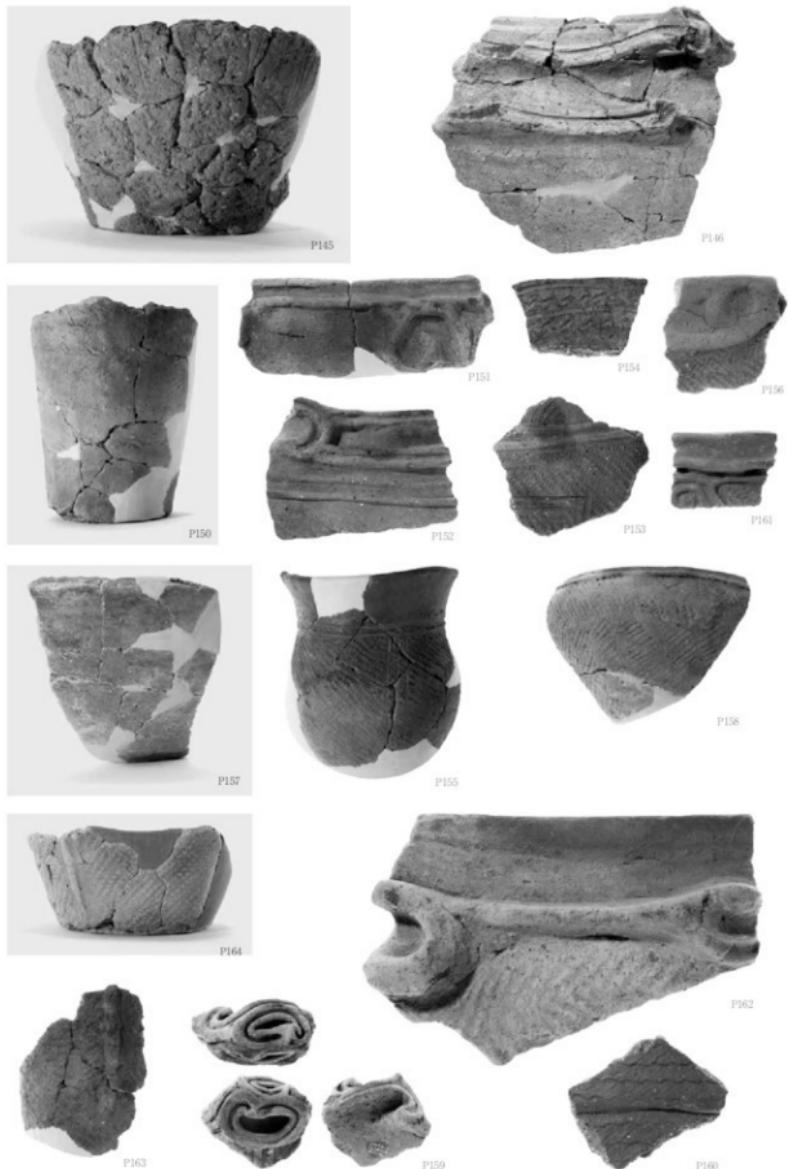


P136

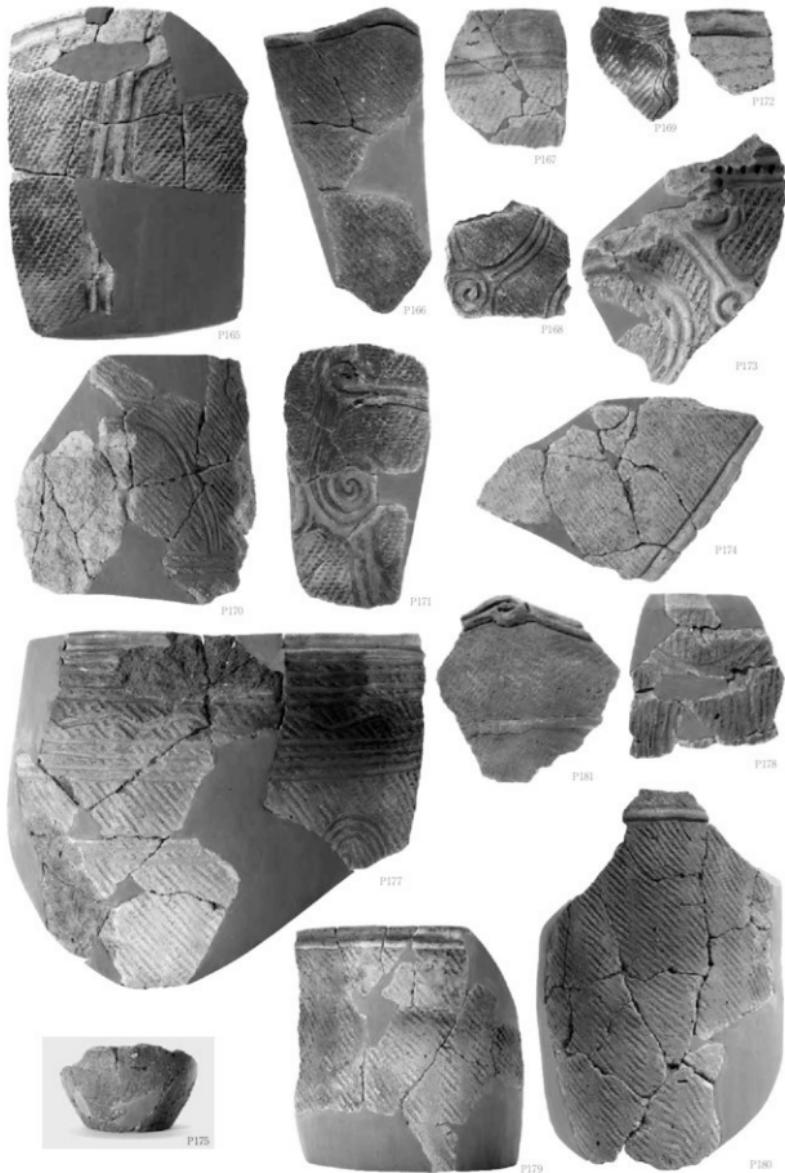
写真図版 67 繩文～弥生土器 (13)



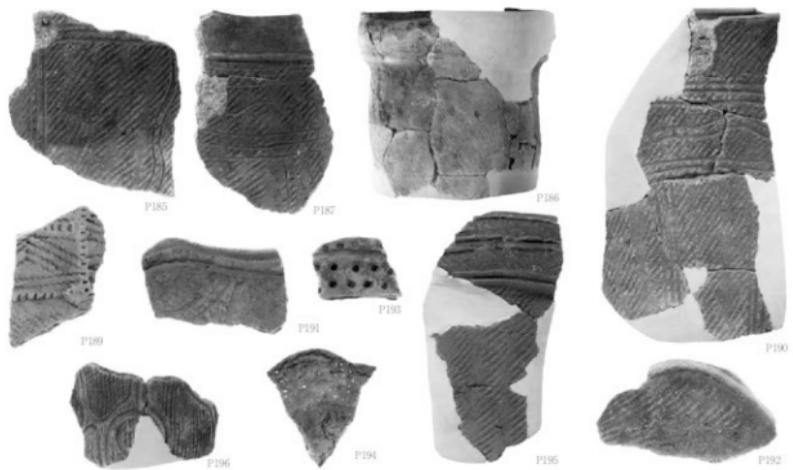
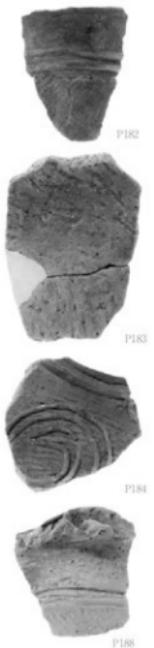
写真図版 68 繩文～弥生土器 (14)



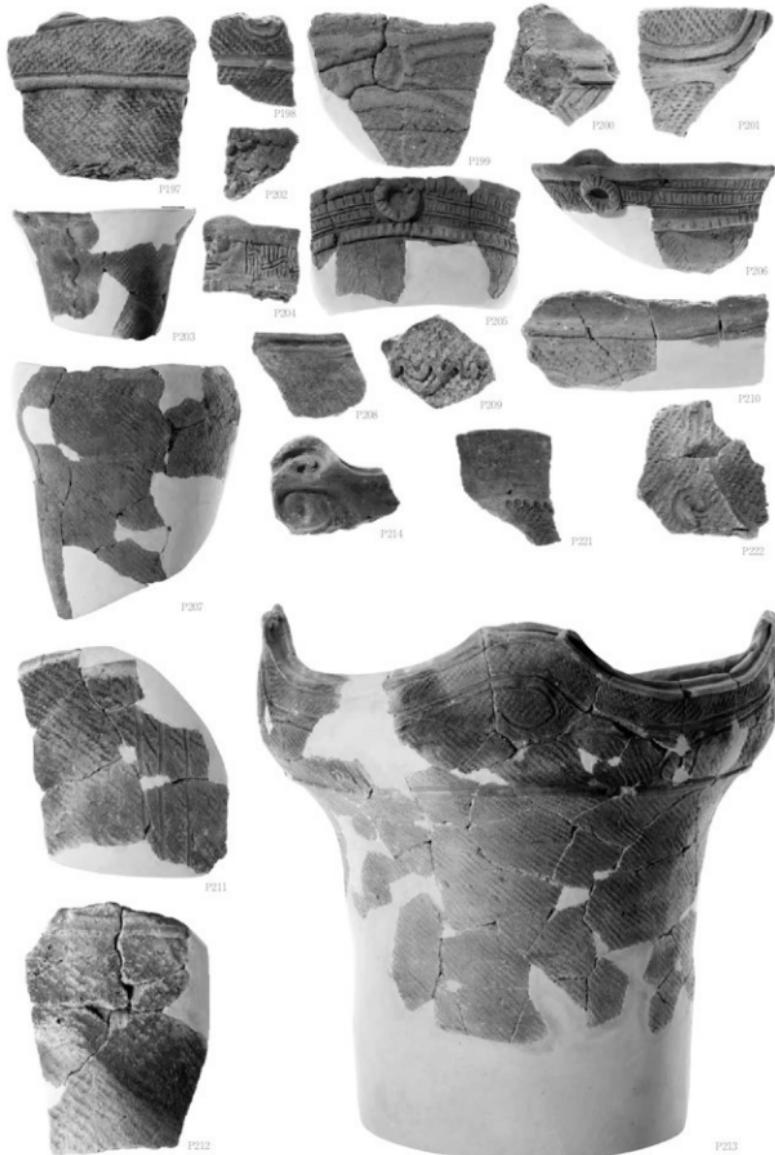
写真図版 69 繩文～弥生土器 (15)



写真図版 70 繩文～弥生土器 (16)



写真図版 71 繩文～弥生土器 (17)



写真図版 72 繩文～弥生土器 (18)



P218

P215



P221

P222



P223

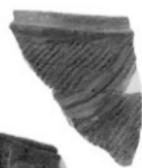
P220



P224



P229



P230



P228

写真図版 73 繩文～弥生土器 (19)



P216



P225



P231



P232



P233



P234



P236



P226



P239



P235



P237



P238



P239

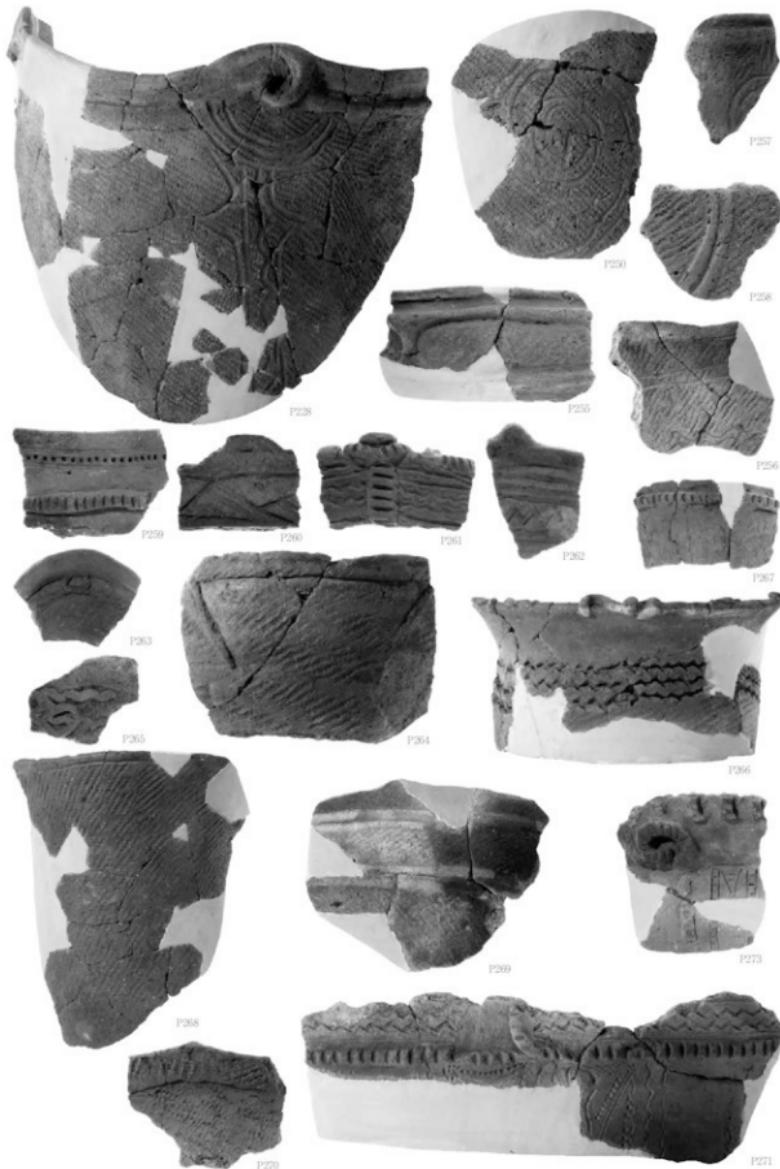


P240

写真図版 74 繩文～弥生土器 (20)



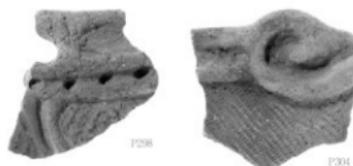
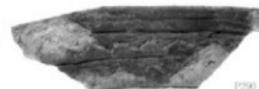
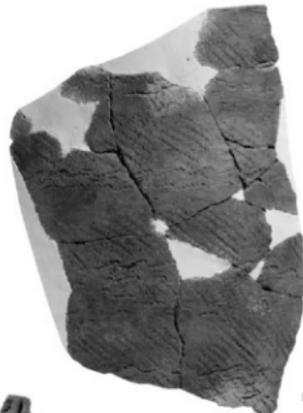
写真図版 75 繩文～弥生土器 (21)



写真図版 76 繩文～弥生土器 (22)



写真図版 77 繩文～弥生土器 (23)



写真図版 78 繩文～弥生土器 (24)



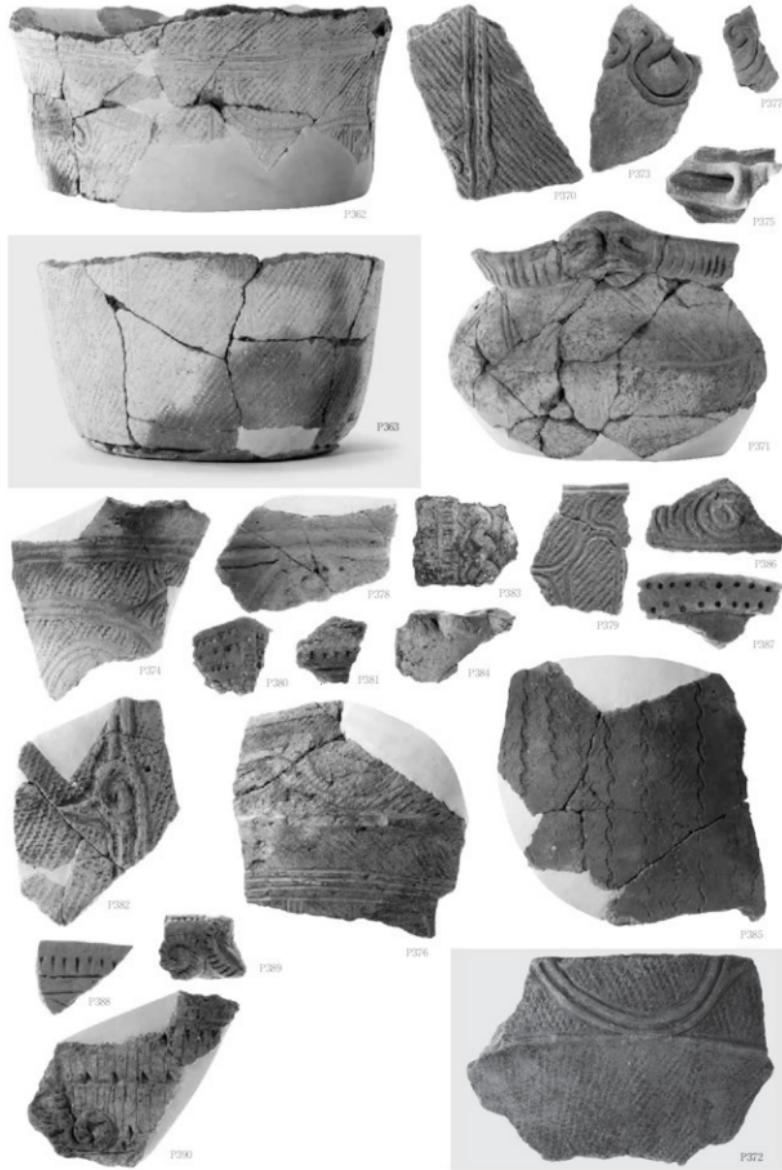
写真図版 79 繩文～弥生土器 (25)



写真図版 80 繩文～弥生土器 (26)



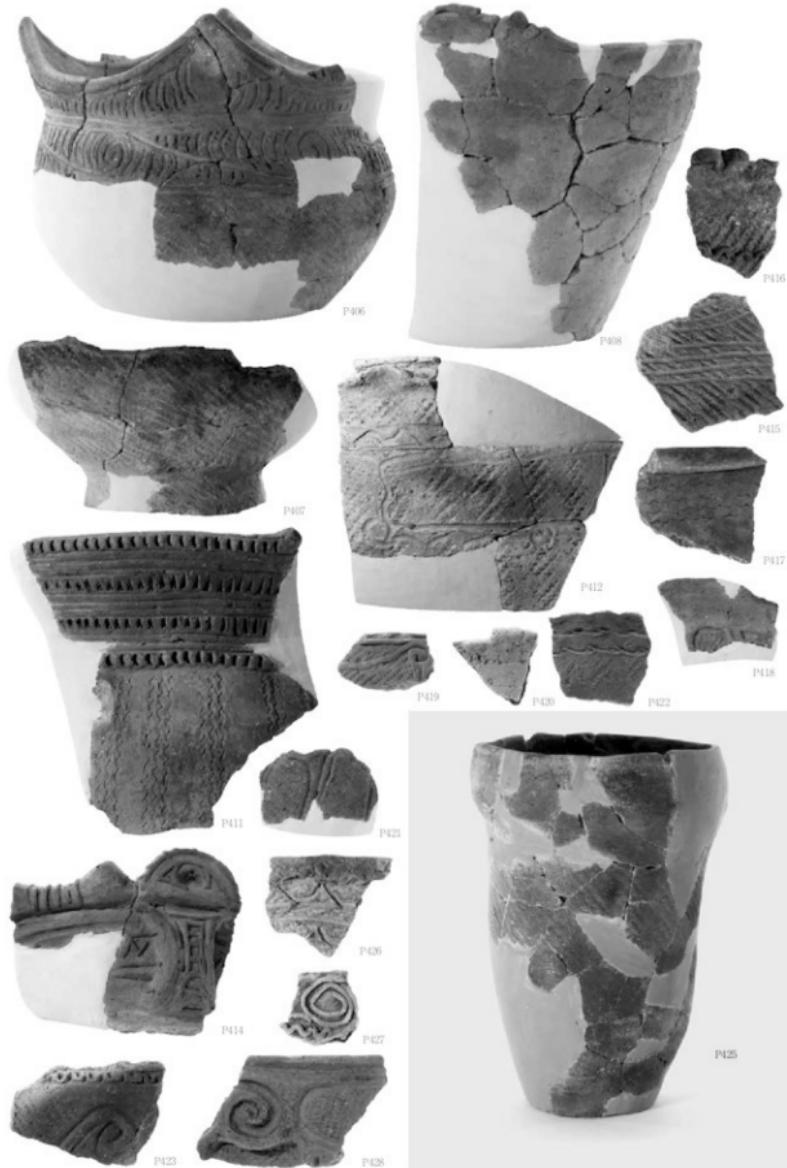
写真図版 81 繩文～弥生土器 (27)



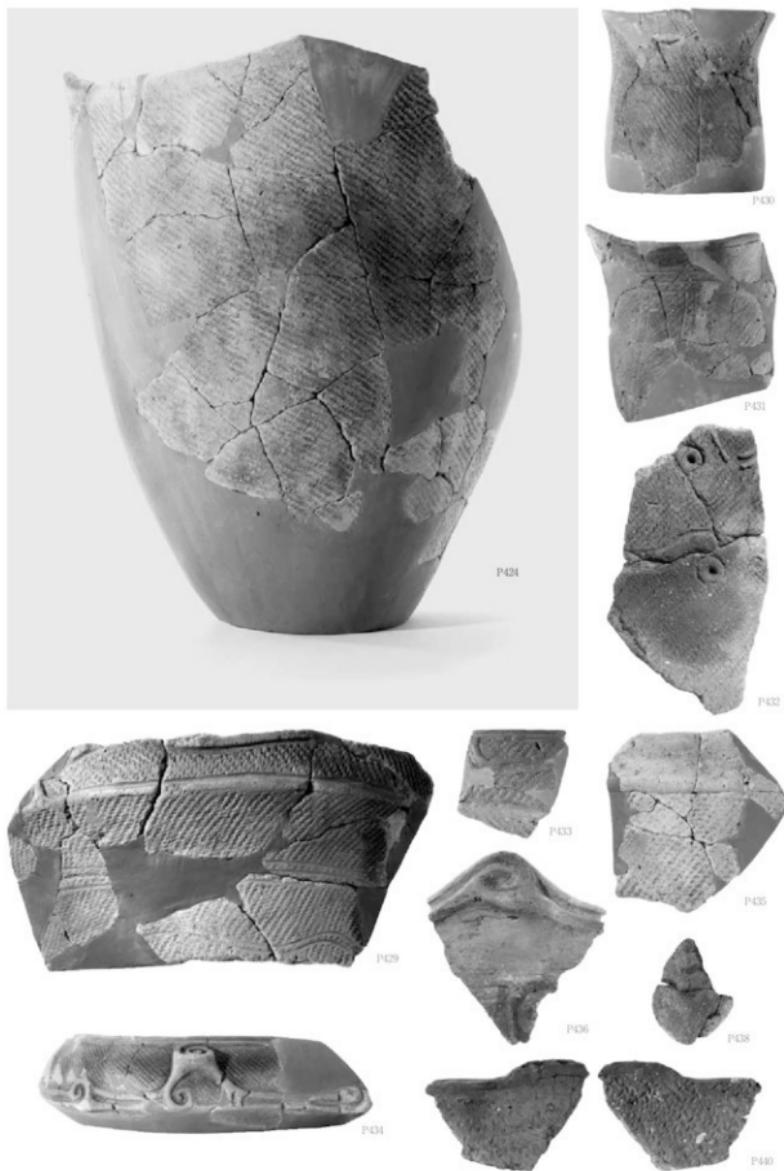
写真図版 82 繩文～弥生土器 (28)



写真図版 83 繩文～弥生土器 (29)



写真図版 84 繩文～弥生土器 (30)



写真図版 85 繩文~弥生土器 (31)



写真図版 86 繩文～弥生土器 (32)



写真図版 87 繩文～弥生土器 (33)



写真図版 88 繩文～弥生土器 (34)



写真図版 89 繩文～弥生土器 (35)



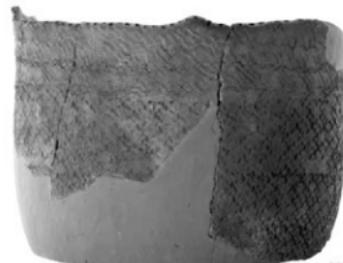
写真図版 90 繩文～弥生土器 (36)



写真図版 91 繩文～弥生土器 (37)



P528



P529



P538



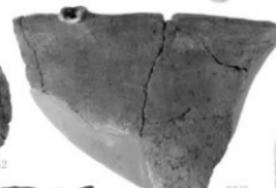
P537



P541



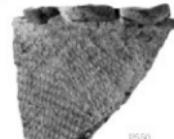
P542



P545



P543



P550



P546



P547

写真図版 92 繩文～弥生土器 (38)



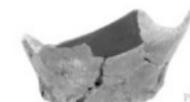
写真図版 93 縄文～弥生土器 (39)



写真図版 94 繩文～弥生土器 (40)



写真図版 95 繩文～弥生土器 (41)



写真図版 96 繩文～弥生土器（42）土師器・須恵器（1）



写真図版 97 土師器・須恵器（2）



P592



P600



P601



P595



P608



P595



P603

写真図版 98 土師器・須恵器（3）



P599



P599



P607



P610



P608



P609



P611



P612

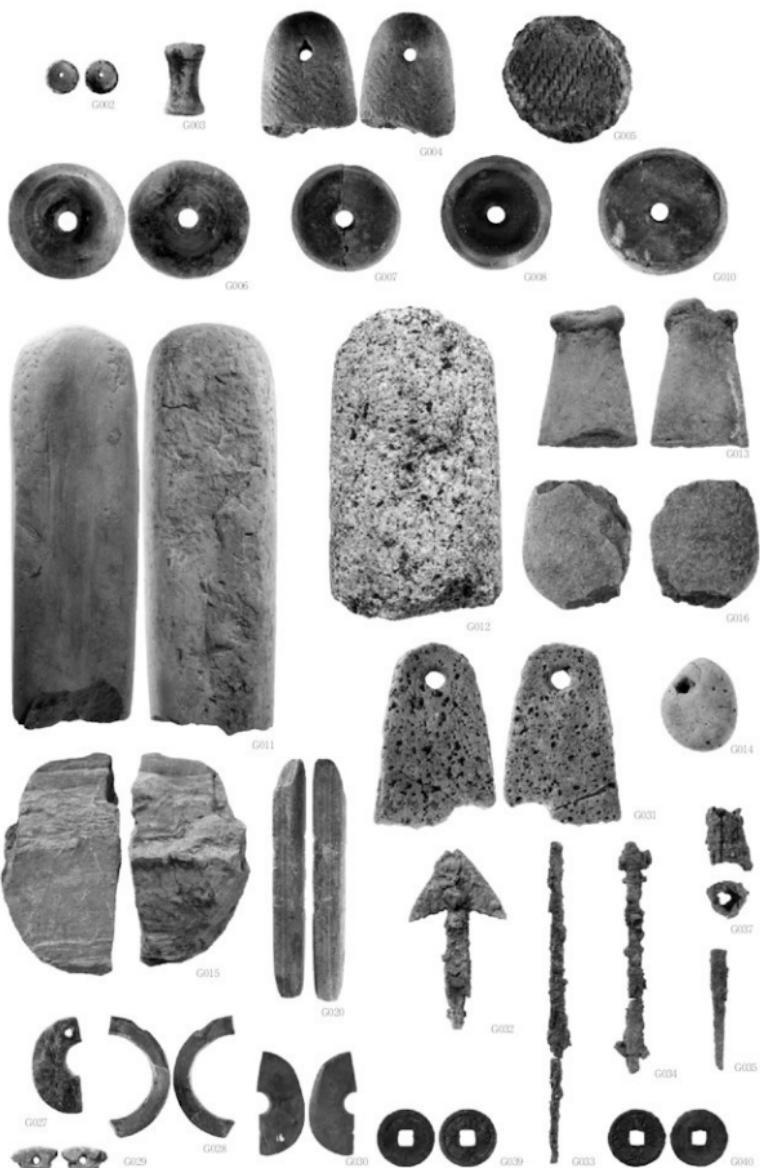


P613

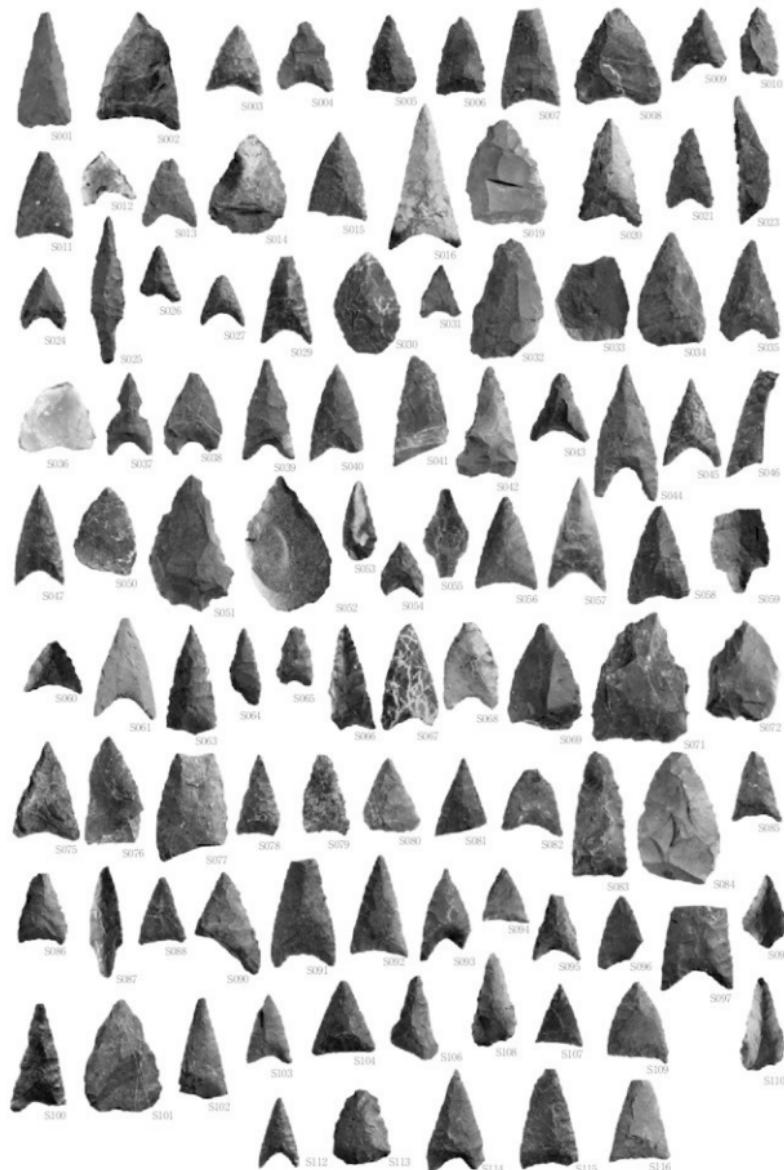
写真図版 98 土師器・須恵器 (4)



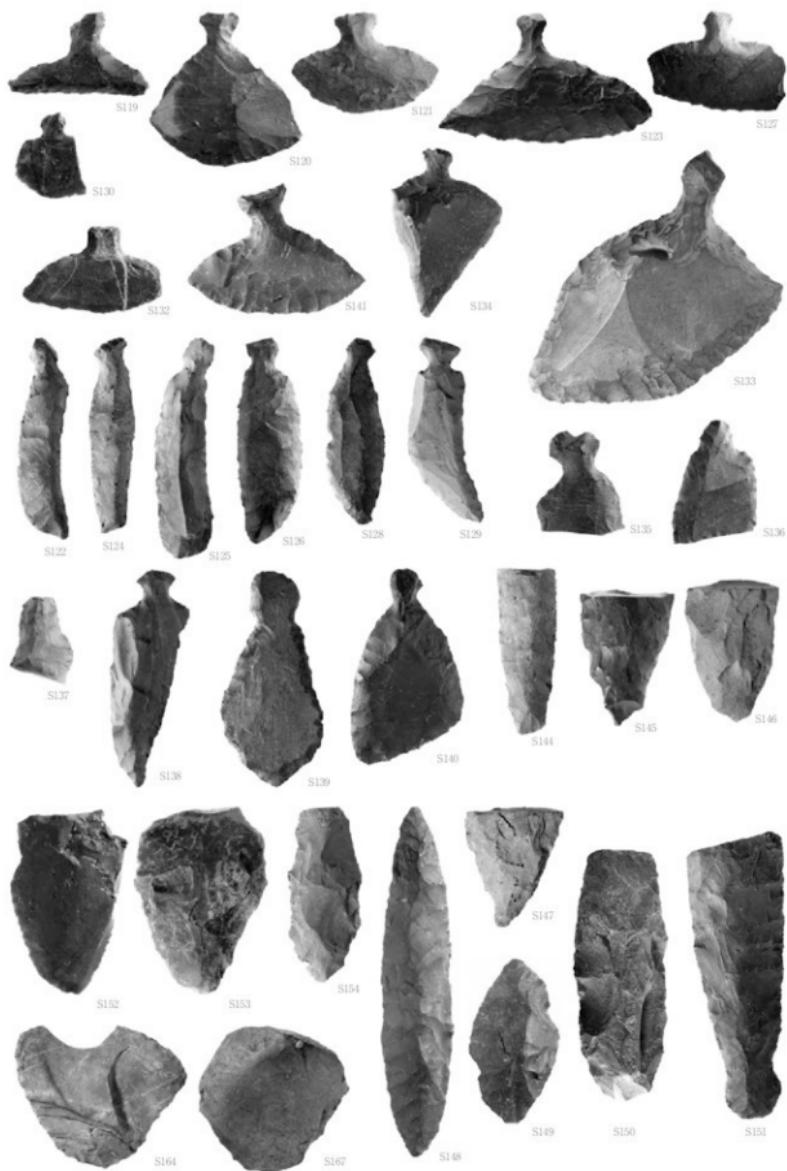
写真図版 100 土師器・須恵器（5）



写真図版 101 土製品、石製品、鉄製品、銭貨



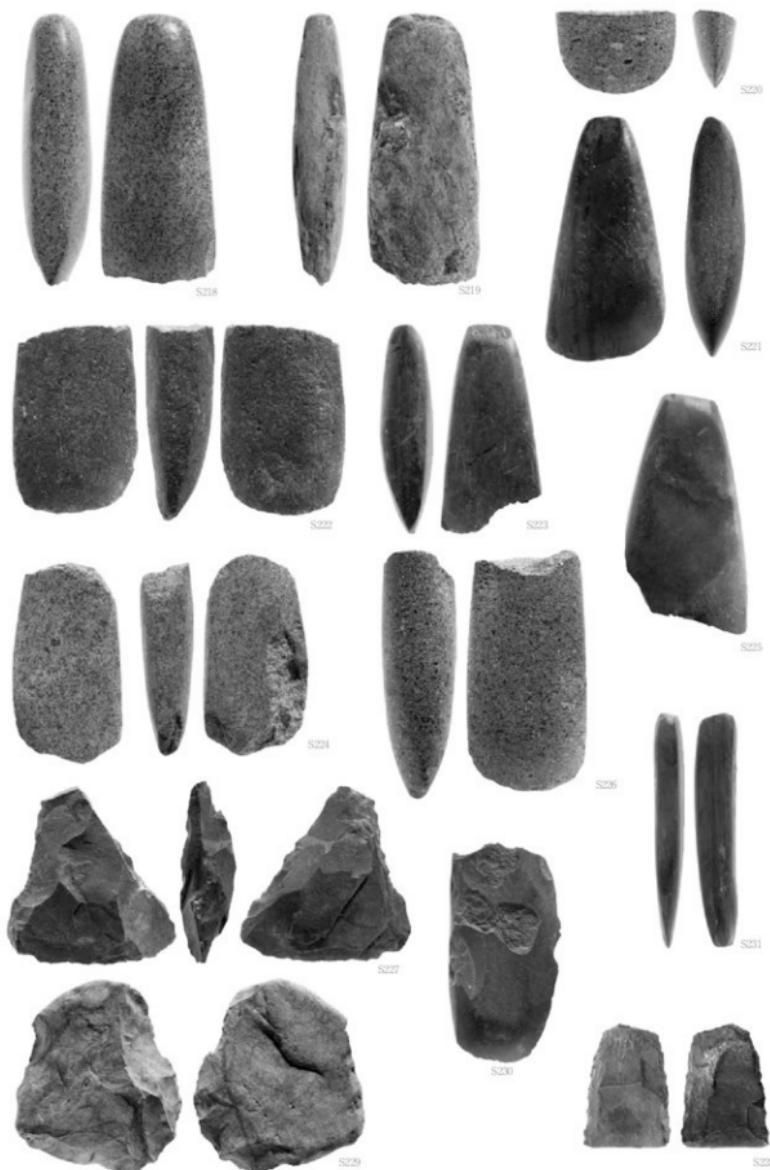
写真図版 102 石器（1）



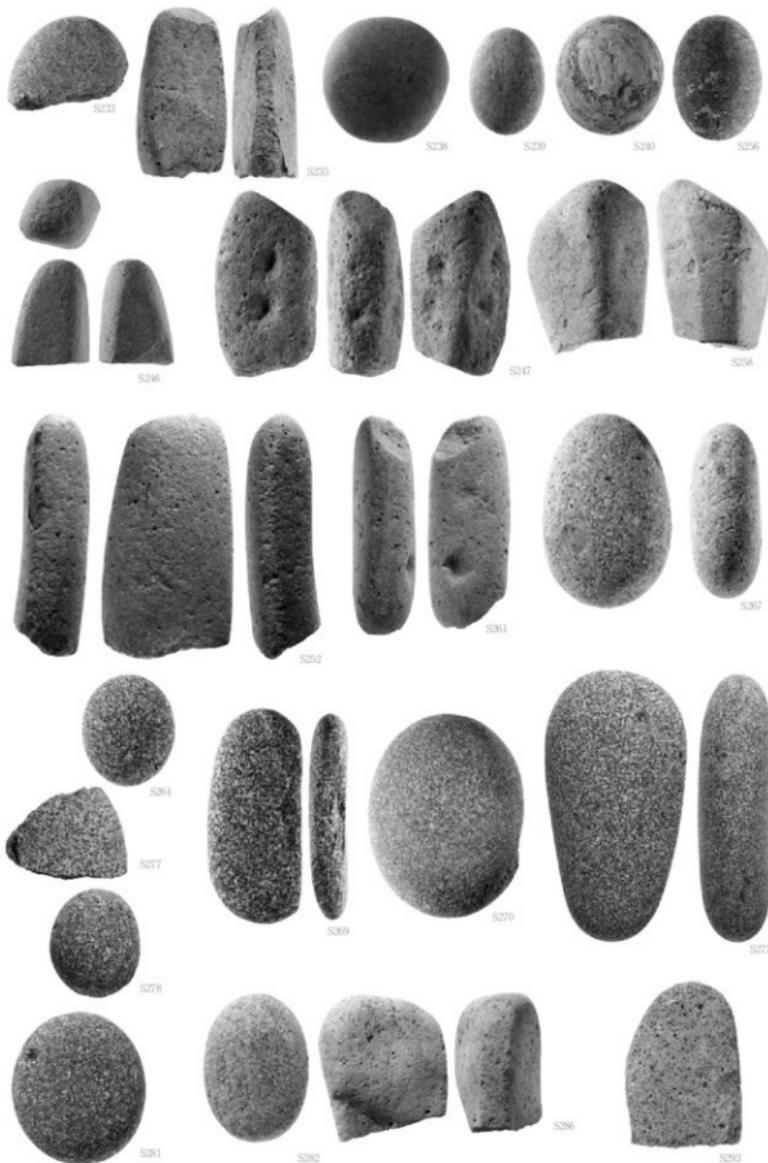
写真図版 103 石器（2）



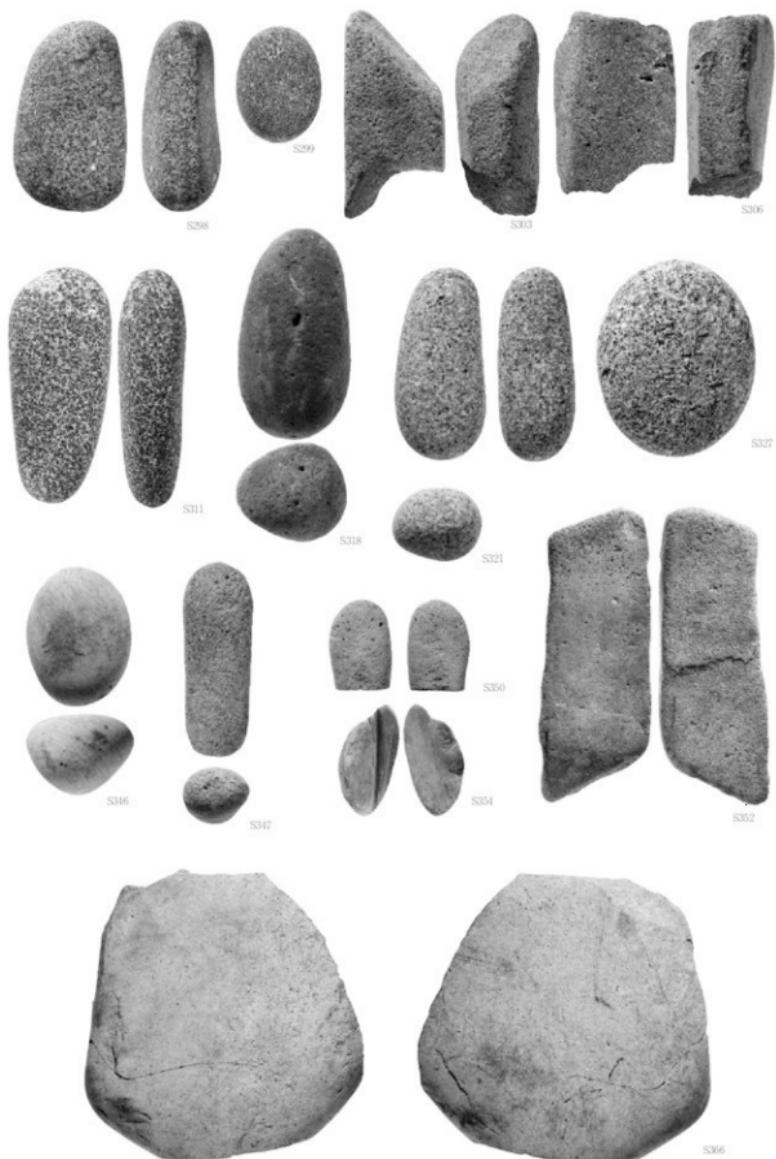
写真図版 104 石器（3）



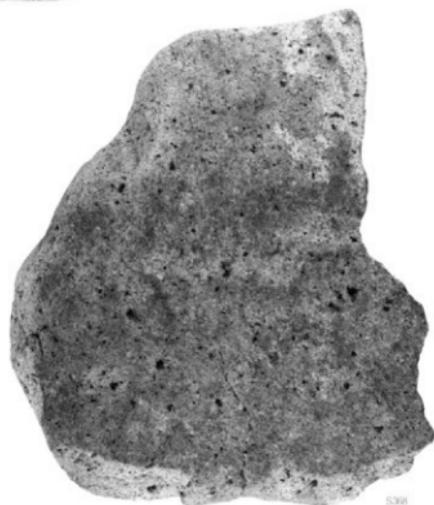
写真図版 105 石器（4）



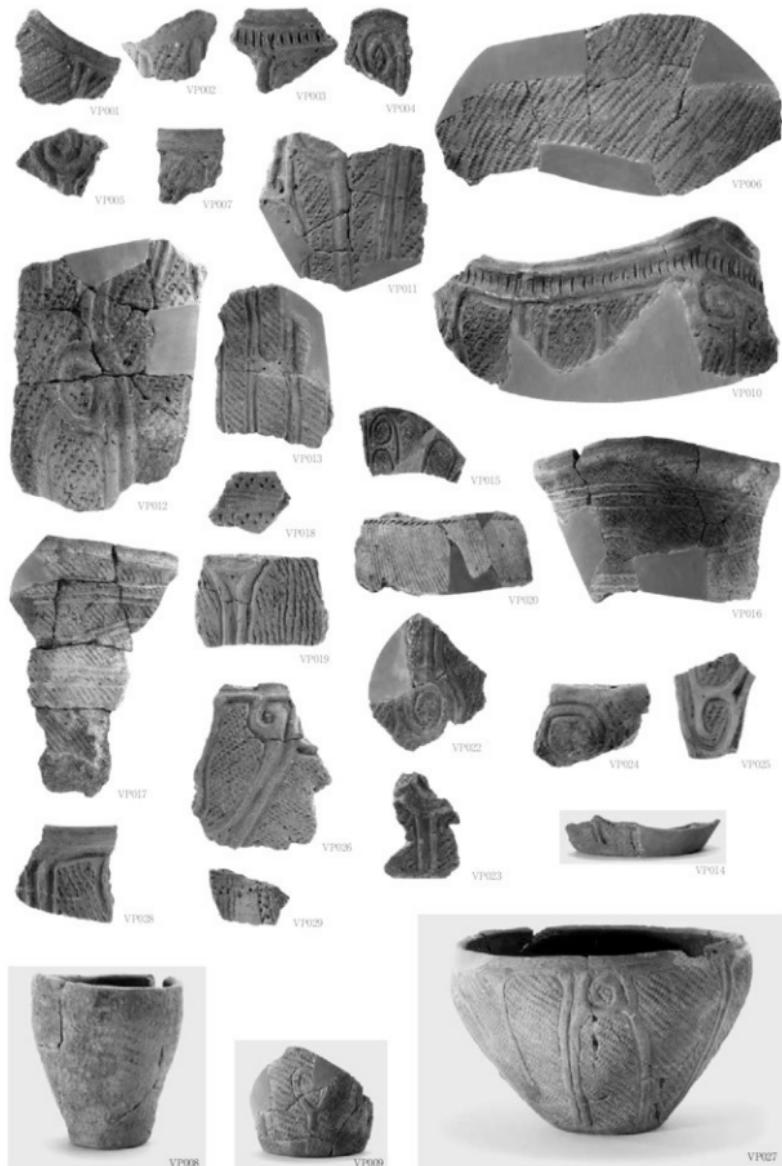
写真図版 106 石器（5）



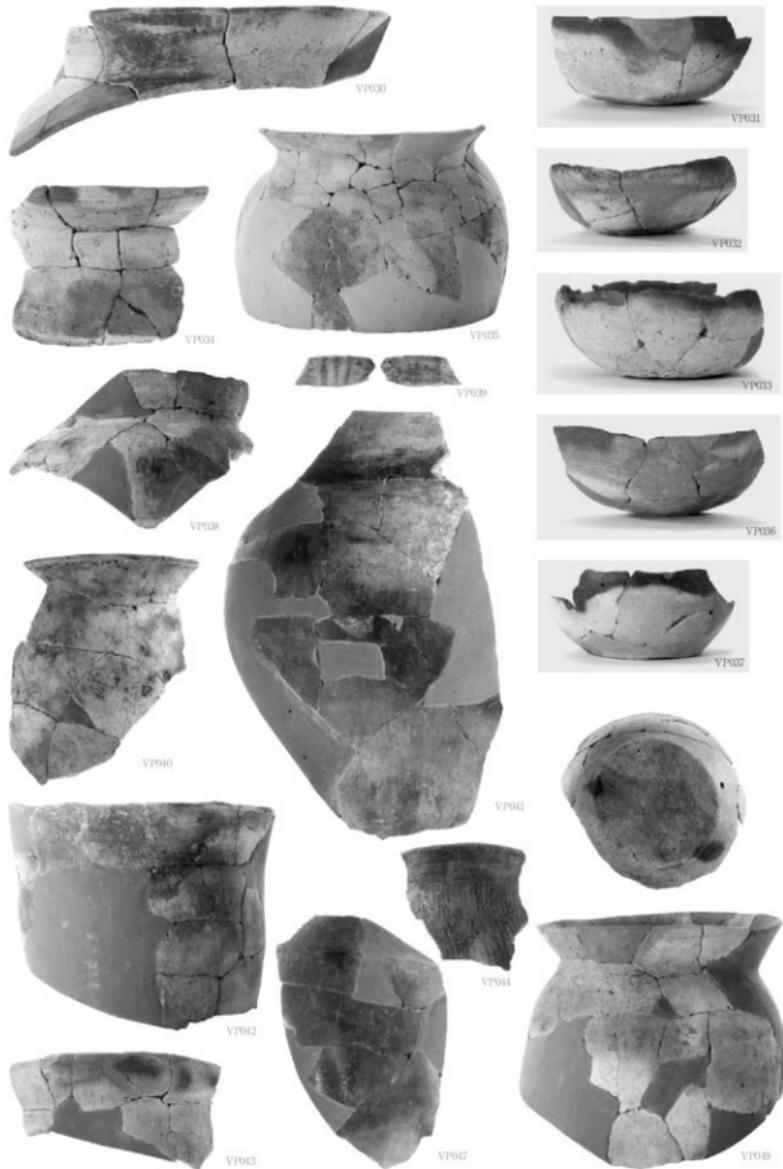
写真図版 107 石器（6）



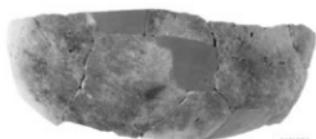
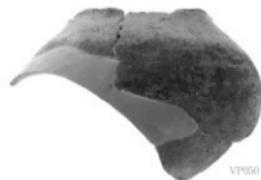
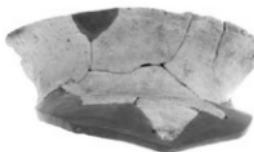
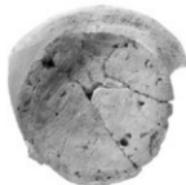
写真図版 108 石器（7）



写真図版 109 繩文土器



写真図版 110 土師器（1）



VP051



VP055

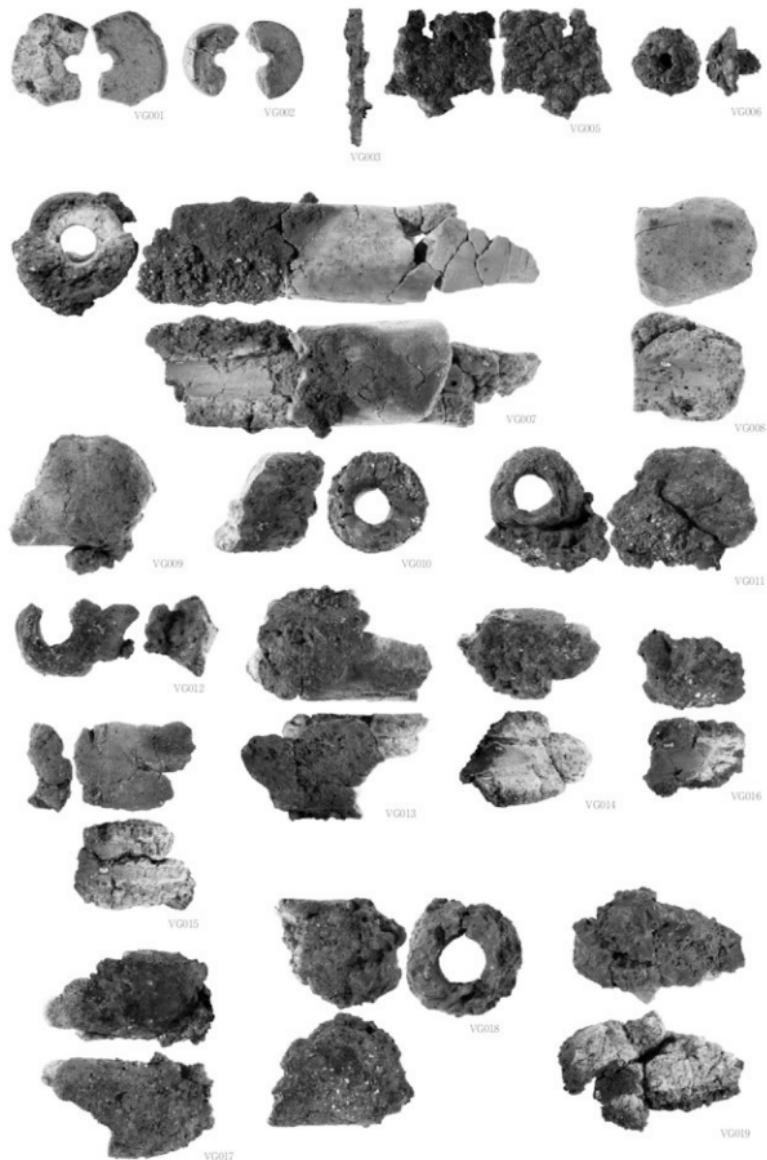


VP057

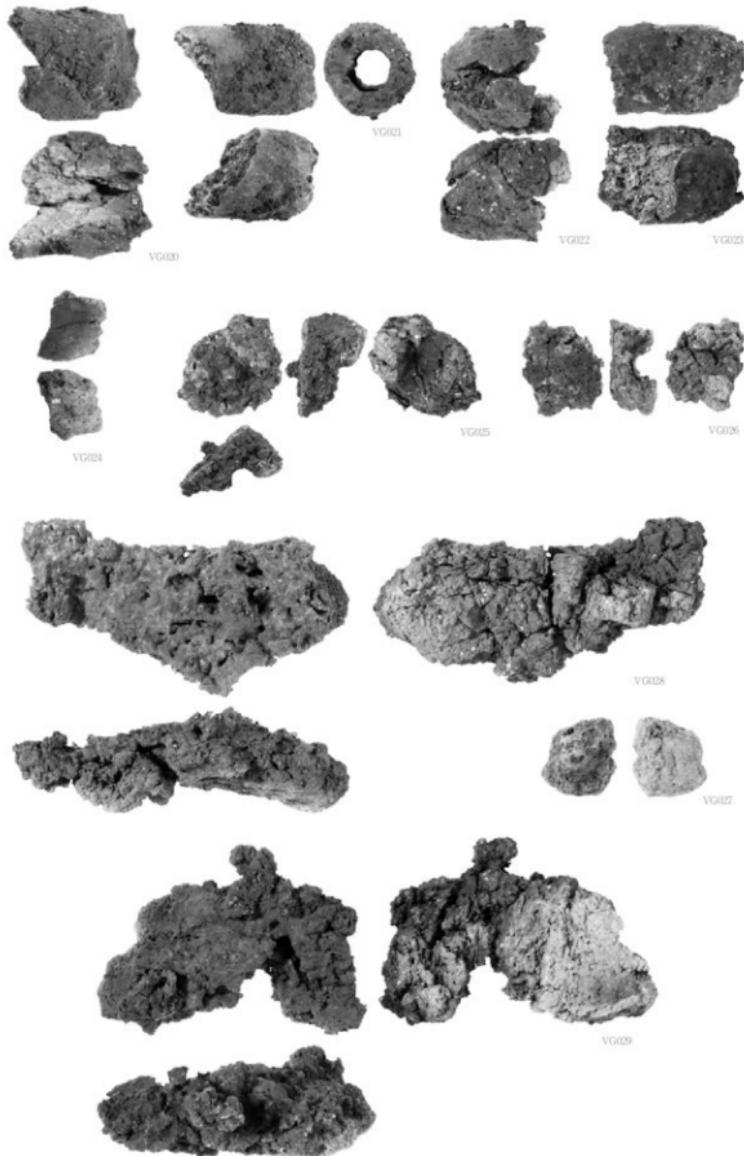
写真図版 111 土師器（2）



写真図版 112 石器



写真図版 113 土製品、鉄製品、羽口（1）



写真図版 114 羽口（2）、炉壁

報告書抄録

| ふりがな | まさどいせき・まさどいせきはくつちょうさはうこくしょ | | | | | | | |
|---------------|---|------------|---|--|------------|-------------------------------|---------------------|------------|
| 書名 | 間木戸II遺跡・間木戸V遺跡発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 副書名 | 三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第640集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 佐藤あゆみ・北村忠昭・佐藤剛・金子昭彦・阿部勝則 | | | | | | | |
| 編集機関 | (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2015年3月20日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 | 北緯 度分秒 | 東經 度分秒 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 | |
| 間木戸II遺跡 | 岩手県下閉伊郡山田町第3地割56-1ほか | 03482 | LG94-0007 | 39度28分57秒 | 141度57分13秒 | 2013.04.09 ～ 2013.07.31 | 1,510m ² | 三陸沿岸道路建設事業 |
| 間木戸V遺跡 | 岩手県下閉伊郡山田町第3地割56-2ほか | 03482 | LG84-2098 | 39度29分04秒 | 141度57分16秒 | 2013.04.09 ～ 2013.06.30 | 1,200m ² | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | | 特記事項 | |
| 間木戸II遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 | 堅穴建物跡25棟、土坑13基、焼土遺構10基 | 縄文土器、円盤状土器片、石鏃、尖頭器、石匙、石鑿、石錐、スクレイバー、石斧、石斧、石磨器、砥石、石棒、块状耳飾りほか | | | | |
| | 集落跡 | 古代 | 堅穴建物跡5棟、焼土遺構1基 | 土師器、須恵器、紡錘車、鐵鏃、鐵鏃ほか | | | | |
| 間木戸V遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 | 堅穴建物跡2棟、焼土遺構1基、埋設土器1基 | 縄文土器、石鏃、石匙、スクレイバー、石斧、石斧ほか | | | | |
| | 集落跡・生産 | 古代 | 堅穴建物跡1棟、土坑3基、焼土遺構3基、工房跡2棟、製鉄炉5基、灰置き場跡2基、柱穴2個、甕塗場1箇所 | 土師器、須恵器、紡錘車、鐵鏃、鐵手刀座金、刀片、羽口、鉢型、鐵滓ほか | | | | |
| | 不明 | 時代不明 | 土坑2基、不明遺構1基、柱穴6個 | | | | | |
| 要約 | 遺跡は、山田町の間木戸川に解析された谷部東側に位置する。間木戸II遺跡では、縄文時代前期中葉から中期後葉（中期中葉が中心）の集落遺跡であること、古代7世紀末～8世紀前半の集落であることが確認された。間木戸V遺跡では、縄文時代中期中葉の集落であること、古代8世紀の集落・生産遺跡であることが確認された。縄文時代については、間木戸II遺跡では、重複する堅穴建物跡と遺物が多量に出土し、間木戸II遺跡の東側や南側へ集落が続くと考えられる。古代は、鐵滓の散布状況や立地を鑑み鉄生産関連遺構が間木戸V遺跡の北東側へ続く可能性がある。また、それらに關係していた人々の集落は間木戸II遺跡の東側に展開されると考えられる。 | | | | | | | |

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 640 集

間木戸 II 遺跡・間木戸 V 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成 27 年 3 月 17 日

發 行 平成 27 年 3 月 20 日

編 集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地

電話 (019) 638-9001

發 行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

〒 027-0029 岩手県宮古市藤の川 4 番 1 号

電話 (0193) 71-1741

(公財) 岩手県文化振興事業団

〒 020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号

電話 (019) 654-2235

印 刷 株式会社五六堂印刷

〒 020-0021 岩手県盛岡市中央通 3-16-15

電話 (019) 654-5610

©(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2015